別紙

1-357-1

変更項目　生物・生態系（既存樹木の本数）、
日影、風環境、景観

（仮称）神宮外苑地区市街地再開発事業

変　更　届

（事業計画の変更）

令和６年９月

三　井　不　動　産　株　式　会　社

宗　教　法　人　明　治　神　宮

独立行政法人日本スポーツ振興センター

伊　藤　忠　商　事　株　式　会　社

目　次

1.　事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地 …… 1
2.　対象事業の名称及び種類 …… 1
3.　対象事業の目的及び内容 …… 1
3.1　対象事業の内容の概略 …… 1
3.2　対象事業の目的 …… 2
3.3　対象事業の内容 …… 2
4.　計画の変更について …… 24
4.1　計画の変更理由及び概要 …… 24
4.2　計画の変更内容 …… 24
5.　計画の変更に伴う予測・評価の見直し …… 36
5.1　見直し項目及びその理由 …… 36
5.2　見直しを行った予測・評価の結論 …… 40
5.3　予測・評価の見直し …… 42
5.3.1　生物・生態系 …… 42
5.3.2　日影 …… 50
5.3.3　風環境 …… 73
5.3.4　景観 …… 93
6.　環境影響評価手続等の状況 …… 111

■資料編 …… 113

1. 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

1.1 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

名　称：三井不動産株式会社
代表者：代表取締役社長　植田 俊
所在地：東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

名　称：宗教法人明治神宮
代表者：宮司　九條　道成
所在地：東京都渋谷区代々木神園町1番1号

名　称：独立行政法人日本スポーツ振興センター
代表者：理事長　芦立　訓
所在地：東京都新宿区霞ヶ丘町四丁目1番

名　称：伊藤忠商事株式会社
代表者：代表取締役　小林　文彦
所在地：東京都港区北青山二丁目5番1号

1.2 代表する事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

名　称：三井不動産株式会社
代表者：代表取締役社長　植田 俊
所在地：東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

2. 対象事業の名称及び種類

名　称：(仮称)神宮外苑地区市街地再開発事業
種　類：高層建築物の新築、自動車駐車場の設置

3. 対象事業の目的及び内容

3.1 対象事業の内容の概略

本事業は、東京都港区北青山一丁目、北青山二丁目、新宿区霞ヶ丘町の各一部に位置する計画地面積約 174,700㎡ の土地に、スポーツ施設、オフィス、商業、宿泊施設、駐車場等を主要な用途とする建築物を計画するものである。対象事業の内容の概略は、表 3.1-1 に示すとおりである。

表3.1-1　対象事業の内容の概略

項　　目	内　　容
計　画　地	東京都港区北青山一丁目、北青山二丁目、新宿区霞ヶ丘町の各一部
計画地面積	約174,700㎡
延床面積	約560,800㎡
最高高さ	約190m
主要用途	スポーツ施設、オフィス、商業、宿泊施設、駐車場等
駐車台数	約1,070台
工事予定期間	2023年～2035年（令和5年～令和17年）
供用時期	2035年（令和17年）（全体供用予定）

注1）下線部分は変更した事項を示す。
注2）今後、関係者協議等により変更になることがある。

3.2 対象事業の目的

計画地が位置する明治神宮外苑は、創建当時から国民の為のスポーツの場を提供してきた歴史がある。この歴史に加え、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会によってもたらされるレガシーを次世代に引き継ぐため、スポーツ拠点としての役割を維持しながらラグビー場・野球場等での競技の継続を図りつつ老朽化した施設を更新し、新たな時代にふさわしいスポーツ施設を途切れることなく整備する必要がある。

上記を踏まえ、東京都は、神宮外苑地区を世界に誇れるスポーツクラスターとして整備するため、長期計画に位置付け、地区一帯のまちづくりに取り組むこととした。東京都は、平成 25 年 3 月に「東京都スポーツ推進計画」を、平成 30 年 3 月に「東京都スポーツ推進総合計画」を策定するとともに、平成 25 年 6 月に「東京都都市計画神宮外苑地区地区計画」を決定し、あわせて都市計画公園の変更（公園区域の再編、立体都市公園の導入）を行った。また、平成 30 年 4 月に、「東京 2020 大会後の神宮外苑地区のまちづくり検討会」を設置し、まちづくりの方向性や公園まちづくり制度の活用要件等について検討を行った結果、平成 30 年 11 月に「東京 2020 大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」を策定した。

以上のことから、本事業は、明治神宮外苑の「スポーツ拠点」としてのブランドを次世代につなげるべく、既存のスポーツ施設の役割を尊重しつつ、時代の変化に合わせたスポーツ施設の更新と新たなアクティビティの場を形成し、一体的にスポーツとの親和性が高い地区の形成を図る。また、土地の高度利用化を促進し業務・商業等の都市機能の導入、緑の充実とオープンスペースの形成を図り、魅力ある複合市街地を実現することを目的とする。

3.3 対象事業の内容

3.3.1 位置及び概況

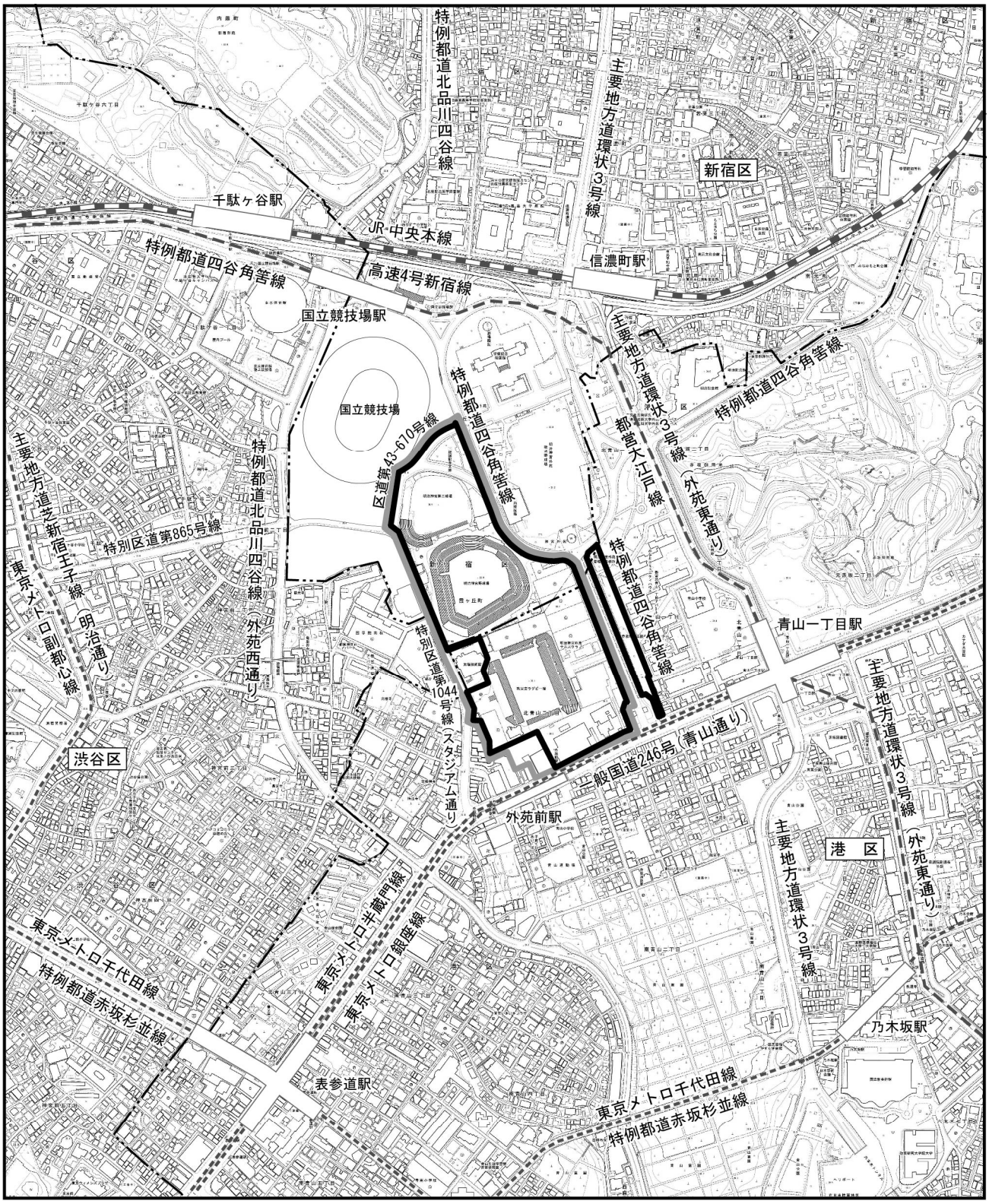
事業区域は、図 3.3-1 及び写真 3.3-1 に示すとおり、港区北青山一丁目、北青山二丁目、新宿区霞ヶ丘町の各一部に位置している。北側には区道第 43-670 号線、東側には特例都道四谷角筈線、南側には一般国道 246 号（青山通り）、西側には特別区道第 1044 号線（スタジアム通り）が通る区域である。

北側には JR 中央本線の「千駄ヶ谷駅」、「信濃町駅」及び都営大江戸線の「国立競技場駅」が位置しており、西側には東京メトロ副都心線が存在する。また、南側には東京メトロ銀座線の「外苑前駅」が位置しており、東側には都営大江戸線、東京メトロ半蔵門線、東京メトロ銀座線の「青山一丁目駅」が存在する。

事業区域内には、現在、明治神宮野球場、神宮第二球場、秩父宮ラグビー場、テニスコート、伊藤忠商事東京本社ビル等があり（図 3.3-2（p.5）参照）、用途としては、スポーツ･興行施設、公園･運動場等、事務所建築物、専用商業施設等があり、周辺には、事務所建築物、官公庁施設、教育文化施設、専用商業施設、宿泊・遊興施設、スポーツ・興行施設、独立住宅、集合住宅、倉庫・運輸関係施設、野外利用地・仮設建物、公園・運動場等、森林等がある。

周辺には、一般国道 246 号（青山通り）や一般国道 246 号（青山通り）から国立競技場まで人々を繋ぐ特別区道第 1044 号線（スタジアム通り）など、にぎわいのある通りが隣接する。

事業区域は、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第二種住居地域及び商業地域に指定されており、周辺は、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、商業地域及び近隣商業地域に指定されている。



凡　例

- 計画地
- 神宮外苑地区地区計画に定める神宮外苑地区（b区域）の範囲
- 区界

注）b区域とは、神宮外苑地区地区計画に定めた、神宮外苑地区内の緑豊かな風格ある都市景観を保全しつつ、スポーツクラスターと魅力ある複合市街地を実現することを目標に、既存スポーツ施設で現在行われている競技の継続に配慮しながら、関係者が相互に連携・協力してまちづくりを進める区域。

N

S＝1／12,000

0　100　200　300m

図 3.3-1　計画地位置図

凡　例

計画地

区界

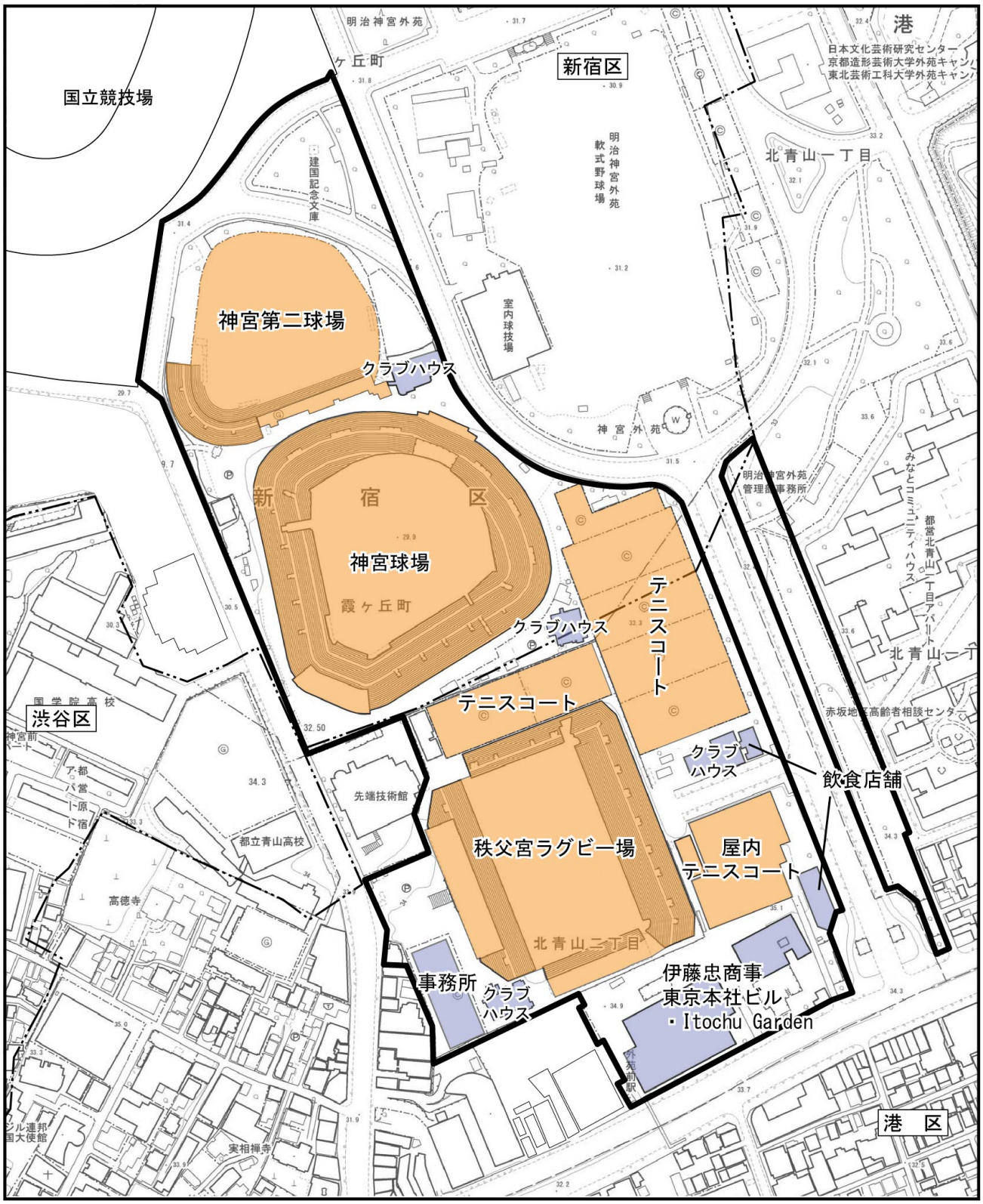
注）2017 年 4 月時点

N

S＝1／12,000

0　100　200　300m

写真 3.3-1　計画地付近の航空写真



凡　例

- 計画地
- 区界
- スポーツ施設
- スポーツ施設以外の施設

注）2021 年 7 月時点

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

図 3.3-2　現況図

3.3.2 事業の基本方針

平成30年11月に東京都が策定した「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」において、まちづくりの目標として、次の3つの拠点性を備えたまちの実現を目指すこととしている。

・将来像 1：高揚感のあるスポーツとアクティビティの拠点
・将来像 2：歴史ある個性を生かした多様なみどりと交流の拠点
・将来像 3：地域特性を生かした魅力的な文化とにぎわいの拠点

これを踏まえ、本事業の整備の基本方針は、以下に示すとおりとした。

(1) 周辺特性を踏まえた適切なゾーニング

当地区の特性であるスポーツ施設の集積及び神宮外苑いちょう並木の象徴性を活かしつつ、地区を活性化し賑わいをもたらす都市機能の導入を図る。

1) 大規模なスポーツ施設エリア

東京体育館・国立競技場から南北に連なる形で、段階建て替えにより一体的なスポーツ施設エリアを形成する。

2) 魅力ある複合市街地エリア

物販施設や業務施設、ホテル等が立地する一般国道 246 号（青山通り）及び特別区道第 1044 号線（スタジアム通り）沿道は、土地の高度利用と多様な都市機能（業務、商業、住宅、文化・交流施設等）の導入により魅力ある新しい複合市街地を形成する。

3) 緑豊かな憩いエリア

神宮外苑いちょう並木沿道は、聖徳記念絵画館を臨む神宮外苑いちょう並木のビスタを保全するとともに、既存の緑を活かした豊かな緑やアフタースポーツ等を楽しむことのできる憩いの空間を形成する。

(2) 歩行者ネットワークによる回遊性の実現

各施設は多様な特色や機能を持つ歩行者ネットワークによって連携され、公園全体としての一体感と回遊性の向上へ繋げる。

大規模スポーツ施設と地下鉄駅を往来する大量の歩行者を安全かつ円滑に処理するために、青山通りやスタジアム通りへの歩行者動線の分散化をはじめ、複数のルートを効率的に整備することとし、計画地内に新たにラグビー場棟と野球場棟を結ぶ南北の歩行者ネットワークを形成することにより、施設間連携の強化を図り、安全安心で人にやさしい動線を形成する。

また、現在、神宮外苑いちょう並木側とスタジアム通り側の繋がりが希薄なため、散策等が可能な東西の歩行者ネットワークの強化を図る。

(3) 更なる緑・広場の整備によるパブリックスペースの拡充

既存の緑を生かし、あらゆる人が気軽に使えるパブリックスペースの充実性をさらに高め、思わず立ち寄りたくなるような活気ある交流拠点を形成する。

3.3.3 事業の基本計画

(1) 事業の基本的方針

計画地は豊かな自然環境やいちょう並木のビスタを有し、様々なスポーツの拠点として親しまれ、創建 100 年に及ぶ明治神宮外苑は歴史的にも重要な場所である。事業の基本的方針としては青山二丁目交差点から聖徳記念絵画館へと続く特例都道四谷角筈線沿いの 4 列のいちょう並木(以降、4 列のいちょう並木と記載)を保全するとともに、緑豊かな風格ある景観を創出し、次の 100 年を見据えた多様な緑化を計画していく方針である。また、事業計画、及び 4 列のいちょう並木をはじめとする既存樹木の保全状況や樹林地の復元再生状況等についての情報や事業への都民参加の状況等はホームページ等において丁寧に情報公開をしていく方針である。

(2) 配置計画

計画建築物の配置計画は、図 3.3-3 に示すとおりである。計画建築物の断面図は、図 3.3-4(1)～(4)に示すとおりである。

計画建築物は、計画地の北側にラグビー場棟、中央に複合棟 A、複合棟 B、文化交流施設棟、野球場棟及び球場併設ホテル棟、南側に事務所棟を配置する計画である。主要な用途は、ラグビー場棟はラグビー場、複合棟 A はオフィス及び商業、複合棟 B は宿泊施設及びスポーツ関連施設、文化交流施設棟は公園支援施設及び商業、野球場棟及び球場併設ホテル棟は野球場及び宿泊施設、事務所棟はオフィス及び商業として計画している。また、計画地の中央に広場を配置するとともに、計画地内にある新宿区道の一部を付け替える計画である。計画地東側の緑地（図 3.3-3 及び図 3.3-8 参照）については緑豊かな空間を維持し保全に努める計画である。

また、災害時のための防災備蓄倉庫、災害用トイレを設ける計画である。

(3) 建築計画

建築計画の概要は、表 3.3-1 に示すとおりである。

計画地面積は約 174,700m^2、延床面積は約 560,800m^2、最高高さは約 190m である。

主要な用途は、スポーツ施設、オフィス、商業、宿泊施設、駐車場等である。駐車場は約 1,070 台を整備する計画である。

完成イメージを図 3.3-5 に示す。

表 3.3-1　建築計画の概要

項　　目	ラグビー場棟	複合棟A	複合棟B	文化交流施設棟	野球場棟及び球場併設ホテル棟	事務所棟
計画地面積	約174,700m^2					
延床面積	約72,500m^2	約127,300m^2	約30,300m^2	約2,000m^2	約115,700m^2	約213,000m^2
	合計　約560,800m^2					
最高高さ	約48m	約185m	約80m	約6m	約60m	約190m
主要用途	ラグビー場、文化交流施設、商業、駐車場等	オフィス、商業、駐車場等	宿泊施設、スポーツ関連施設、駐車場等	公園支援施設、商業等	野球場、宿泊施設、商業、駐車場等	オフィス、商業、駐車場等
階　　数	地上8階 地下1階	地上40階、地下2階、塔屋1階	地上18階、地下1階、塔屋1階	地上1階	地上14階、塔屋1階、地下1階	地上38階、地下5階
構　　造	RC造、S造	S造、SRC造	S造、SRC造	S造、SRC造	RC造、SRC造	S造、SRC造
駐車台数	合計　約1,070台					

注 1) 下線部分は変更した事項を示す。
注 2) 今後、関係者協議等により変更になることがある。

凡　例

- 計画地
- 区界
- ラグビー場棟敷地範囲
- 建築物
- デッキ
- 緑地

注）計画については今後変更の可能性がある。

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

図 3.3-3　配置計画図

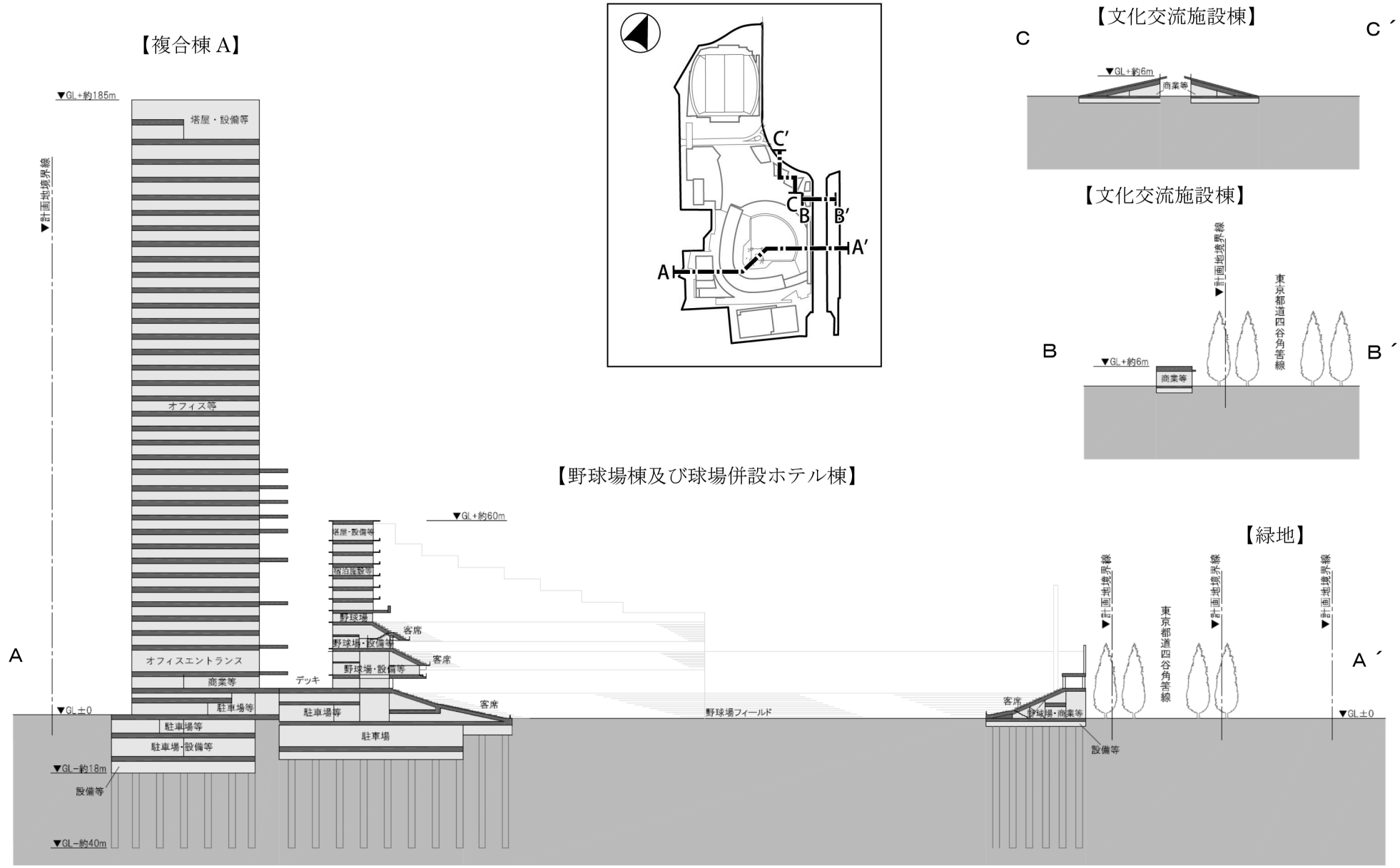
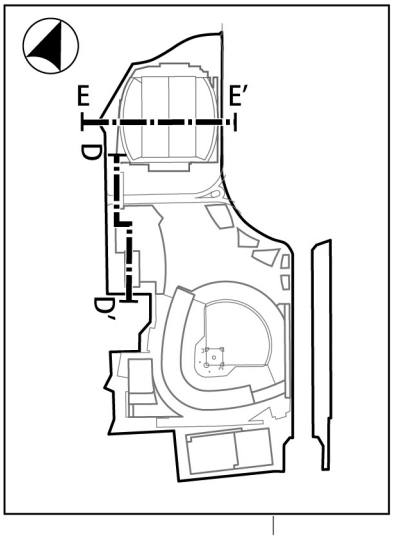


図 3.3-4(1)　断面図(A-A'、B-B'、C-C')　　S=1/1,600



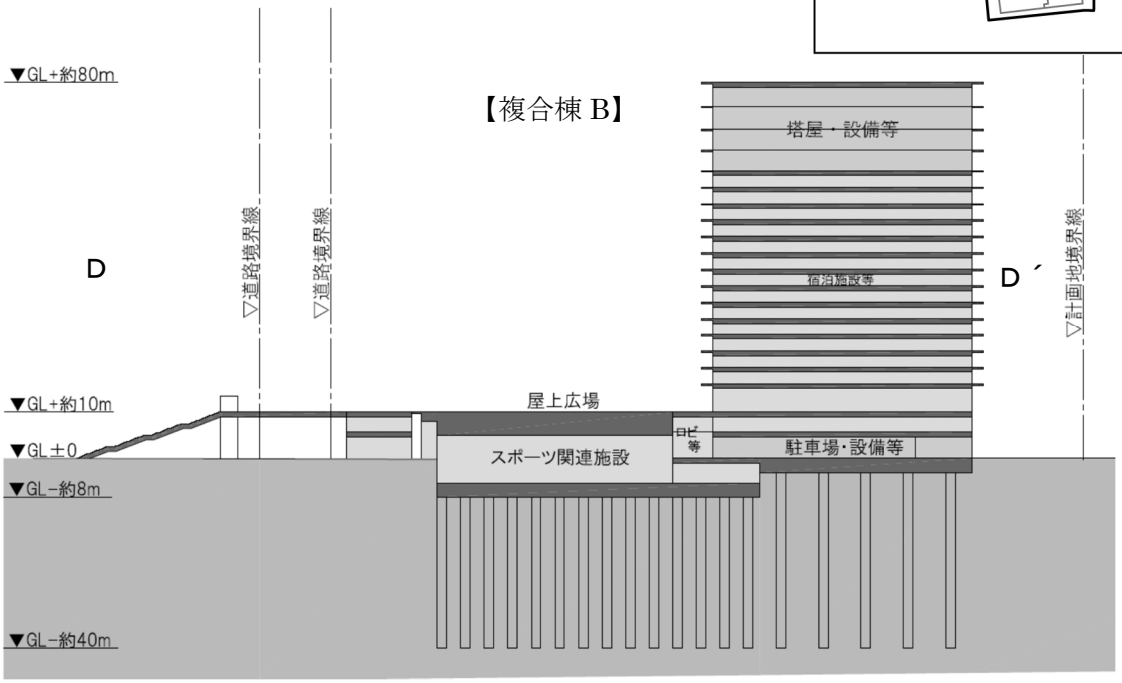


図 3.3-4(2)　断面図(D-D')　　S=1/1,600

【ラグビー場棟】

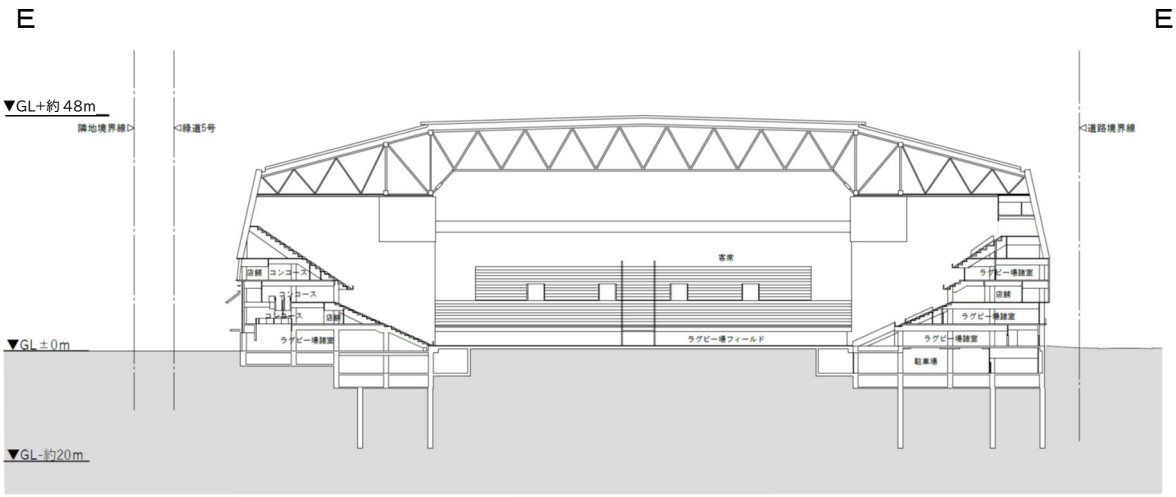
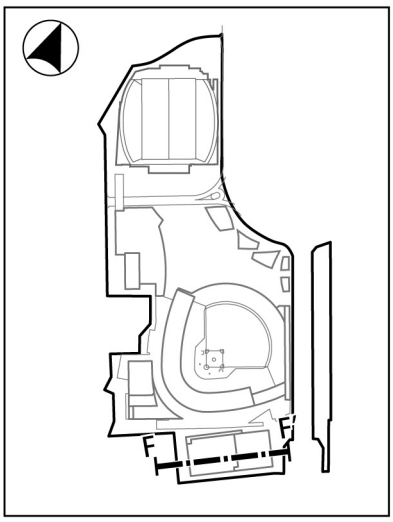


図 3.3-4(3)　断面図(E-E')　　S=1/1,600



【事務所棟】

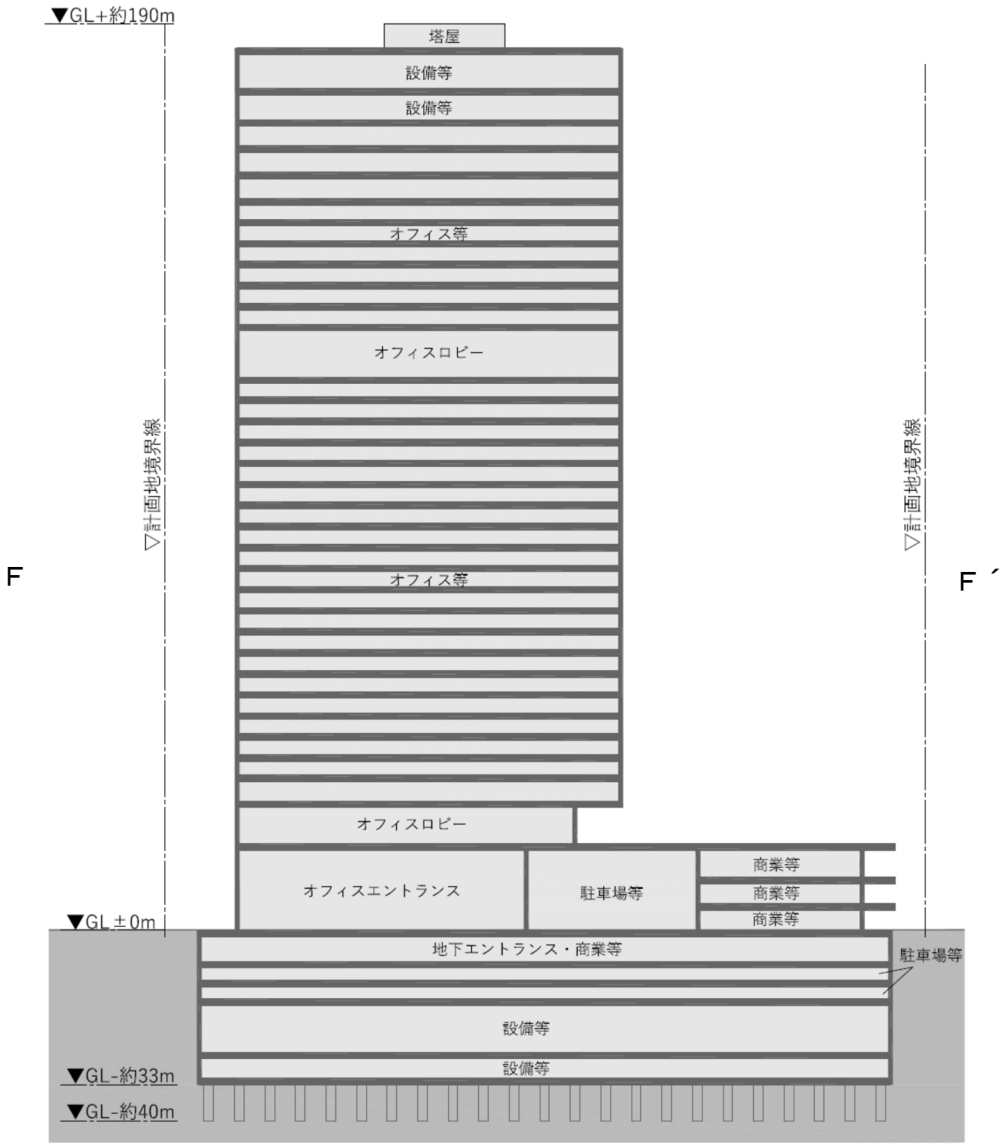


図 3.3-4(4)　断面図(F-F')　　S=1/1,600

注 1）評価書掲載の完成イメージ図と描画方法を変えているが、ラグビー場棟以外の建物等に変更はない（2023 年 10 月作成）。絵画館前広場については別事業である。
注 2）計画については今後変更となる可能性がある。

図 3.3-5　完成イメージ

(4) 発生集中交通量及び自動車動線計画

工事の完了後に出入りする自動車の発生集中交通量は、「大規模開発地区関連交通計画マニュアル（改訂版)」（平成 26 年 6 月　国土交通省都市局）等に基づき、約 4,600 台/日と想定している。スポーツ施設については公共交通機関による利用を想定し、自動車の発生集中交通量は見込まないこととした。想定される関連車両の主な走行ルートは、図 3.3-6 に示すとおり、特例都道四谷角筈線、一般国道 246 号（青山通り)、特別区道第 1044 号線（スタジアム通り）等を利用して、計画建築物に出入りする計画である。なお、計画地北側の区道第 43-670 号線については廃道となる予定である。

交通処理計画については、今後、現況交通量や将来予測交通量等を踏まえて、道路管理者及び交通管理者等の関係機関との協議を行い決定するものとする。

(5) 駐車場計画

駐車場の台数は、「東京都駐車場条例」（昭和 33 年 10 月東京都条例第 77 号）に基づく附置義務台数以上を基準とし、約 1,070 台を確保する計画である。

(6) 歩行者動線計画

歩行者の動線計画は、図 3.3-7 に示すとおりである。

計画地の西側を南北に走る一般国道 246 号（青山通り）から国立競技場まで人々を繋ぐ特別区道第 1044 号線（スタジアム通り）には、都会的で活気のある歩行者ネットワークを形成し、周辺市街地と当地区を結ぶ玄関口の役割を果たす計画である。

計画地を南北に繋ぐ動線としては、ラグビー場棟と野球場棟を結ぶ歩行者ネットワークの形成により、施設間連携の強化を図り、歩行者空間を立体的に整備することで、歩車分離によるバリアフリーかつ安全安心で人にやさしい動線を形成する。

青山二丁目交差点から聖徳記念絵画館を繋ぐ動線として、神宮外苑いちょう並木の本来の象徴性を保全するとともに、明治神宮外苑の玄関口としてふさわしい活気に溢れた歩行者動線を形成する。

また、現在、神宮外苑いちょう並木側とスタジアム通り側の繋がりが希薄なため、散策等が可能な東西の歩行者ネットワークの強化を図る計画である。

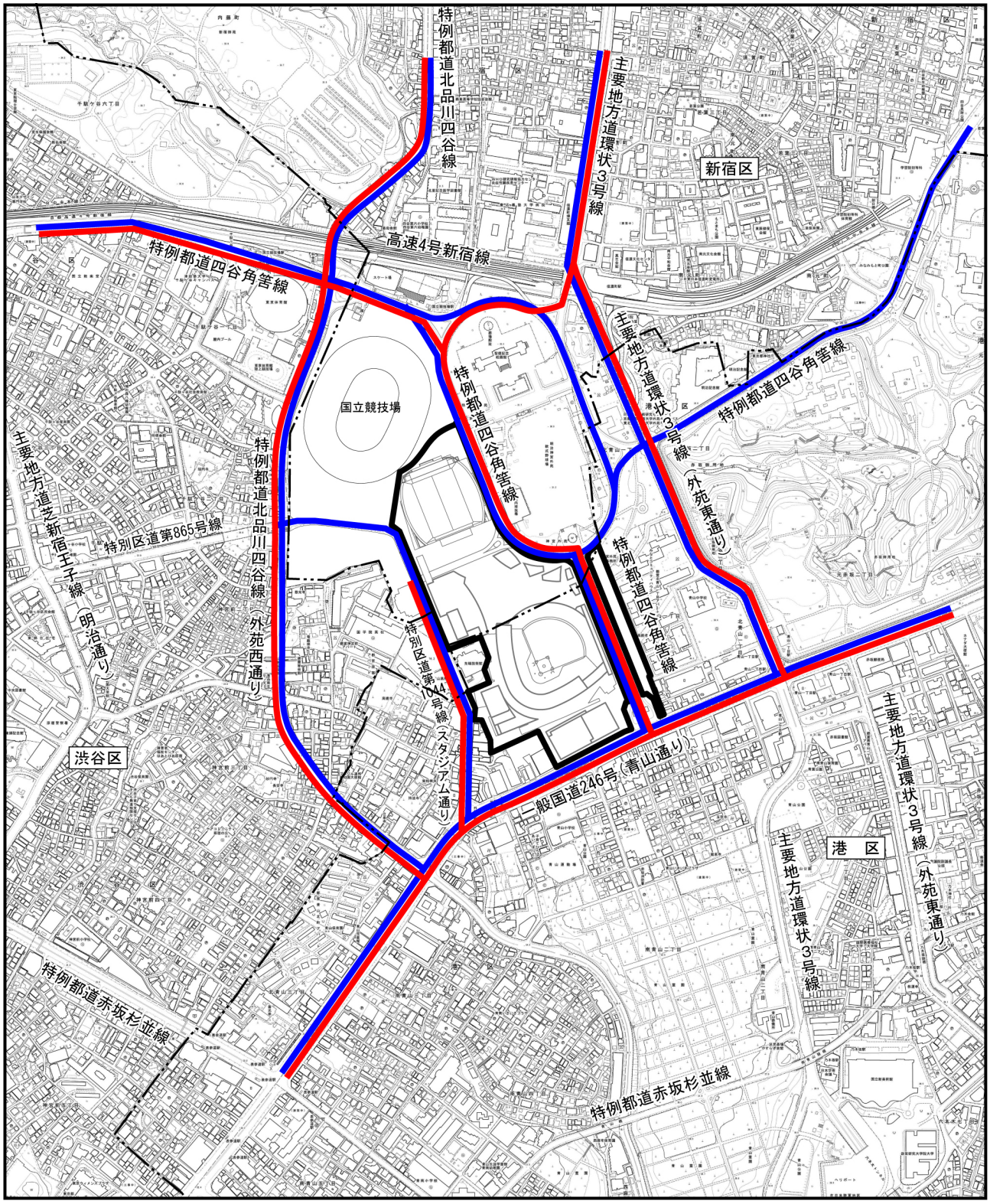
(7) 給排水計画

上水は公共上水道を利用し、汚水は公共下水道へ放流する。雨水に関しては、「新宿区雨水流出抑制施設の設置に関する要綱」（平成元年 10 月)、「港区雨水流出抑制施設設置指導要綱」（平成 5 年 11 月港土計第 333 号）に基づき、今後関係機関と協議し、雨水貯留槽等の雨水流出抑制施設の設置を行い、放流量の調整を行う。また、雨水貯留槽等の設置にあたっては、東京都の「建築物における排水槽等の構造､維持管理等に関する指導要綱」(平成 16 年 12 月 16 環改計第 298 号）及び「ビルピット臭気対策マニュアル」（平成 24 年 3 月　東京都環境局）に基づき設置・維持管理を行う。

(8) 熱源計画

熱源設備として、地域冷暖房施設、中央熱源及び個別熱源を整備する計画である。本事業の施

設で使用するエネルギーは、電気及び都市ガスを計画しており、業務、商業施設等で利用する熱源については極力集中化を図り、効率的なエネルギーシステムを採用する計画である。



凡　例

- 計画地
- 区界
- 流出動線
- 流入動線

N

S＝1／12,000

0　100　200　300m

図 3.3-6　関連車両の主な走行ルート

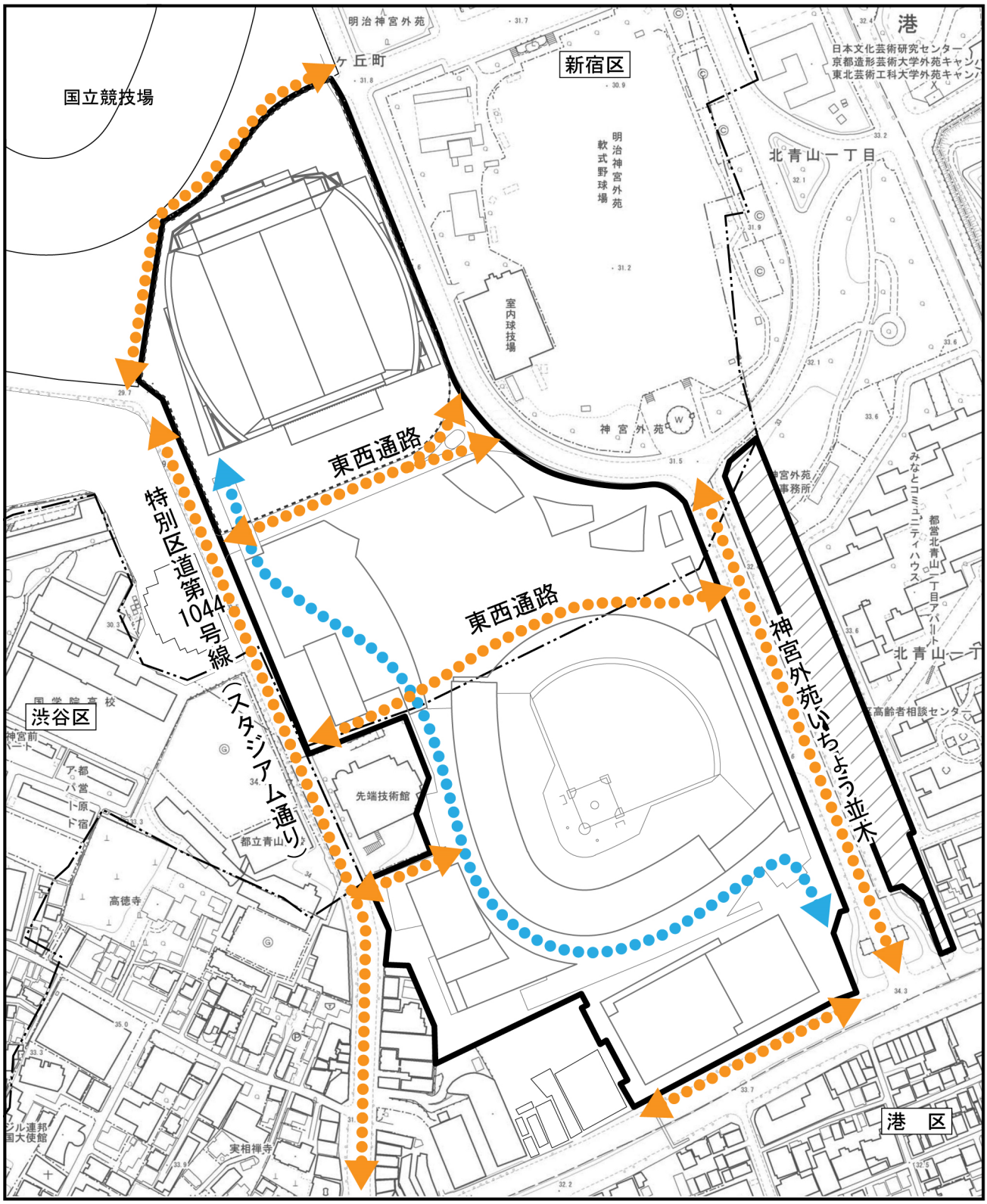


図 3.3-7　歩行者動線計画

(9) 廃棄物処理計画

建設工事に伴い発生する建設廃棄物及び建設発生土は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（昭和 45 年 12 月法律第 137 号）、「資源の有効な利用の促進に関する法律」（平成 3 年 4 月法律第 48 号）、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成 12 年 5 月法律第 104 号）等に基づき、再生利用可能な廃棄物及び掘削土砂については積極的にリサイクルに努め、リサイクルが困難なものについては適切な処理を行うこととする。

石綿含有材料を使用する建築物等が確認された場合には、「大気汚染防止法」（昭和 43 年 6 月法律第 97 号）、「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」（平成 12 年 12 月東京都条例第 215 号）（以下「環境確保条例」という。）または、「港区建築物の解体工事等の事前周知等に関する要綱」（平成 20 年 4 月 20 港環建第 22 号）、「建築物の解体等に係る石綿（アスベスト）飛散防止対策マニュアル」（令和 4 年 3 月　東京都）に基づき遵守事項等に従い、飛散防止に努めるとともに、適切に処理する。

また、伐採した樹木はベンチや記念品等の製作、木質歩道や堆肥・ウッドチップ等として活用する。

工事の完了後に発生する一般廃棄物及び飲食店等から発生する産業廃棄物については、「東京都廃棄物条例」（平成 4 年 6 月東京都条例第 140 号）、「新宿区リサイクル及び一般廃棄物の処理に関する条例」（平成 11 年 12 月新宿区条例第 51 号）、「港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例」（平成 11 年 12 月港区条例第 33 号）等を踏まえて、関係者への啓発活動によりその排出量の抑制に努めるとともに、分別回収を行い、資源の有効利用と廃棄物の減量化を図ることとする。

(10) 緑化計画

緑化計画図は、図 3.3-8 に、緑化のイメージは、図 3.3-9 に示すとおりである。

緑化に際しては、新宿御苑から赤坂御用地へと連続する骨格的なまとまりのあるみどりを維持・保全するとともに、スポーツ施設の周辺には、多種多様な活動を促す開放的な広場空間を整備し、人溜まり空間の確保にも配慮したものとする。また、歩行者動線とも連携して芝生や高木等を配置し、地区特性に応じたメリハリのある緑化を推進する。

整備方針としては、4 列のいちょう並木を保存するとともに、緑地（並木東側）や神宮外苑広場（建国記念文庫）等の既存樹木を存置もしくは移植により極力残す計画とすることにより、みどりと一体の景観を形成する。神宮外苑広場（建国記念文庫）等の緑地については一部改変されるが、文化交流施設棟周辺及び中央広場廻りにおいて、神宮外苑広場(建国記念文庫)からの移植樹木を基調としつつ、新たに新植樹木も配置することで、次の 100 年に受け継ぐ緑地環境を整備し、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林及び生態系を復元する計画である。また、デッキレベルの南北通路と地上の広場が一体となることによる高低差を活用し、施設と広場がシームレスにつながり、多様なアクティビティが可能となる広場を整備する。

緑化計画は、表 3.3-2 に示す「港区みどりを守る条例」（昭和 49 年 6 月港区条例第 29 号)、「新宿区みどりの条例」（平成 2 年 11 月新宿区条例第 43 号)、「東京 2020 大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」（平成 30 年 11 月 東京都)、「東京都都市開発諸制度に基づく再開発等促進区の緑化基準（都市開発諸制度の緑化チェックシート)」、「東京都風致地区条例による緑化基準」の緑化基準を遵守する緑化計画とする。

植栽予定樹種については、「植栽時における在来種選定ガイドライン～生物多様性に配慮した植栽を目指して」（平成 26 年 5 月東京都）及び「生物多様性緑化ガイド」（平成 28 年 1 月港区）等を参考に選定する計画とする。なお、「東京における自然の保護と回復に関する条例」（平成 12 年 12 月東京都条例第 216 号）の緑化計画書の届出等（第 14 条）については、港区及び新宿区は同条例第 57 条により適用を受けない。

事業の実施にあたっては、緑化整備について下記の事項を留意することで緑の保全に努める。

・工事の施行にあたっては、保存する 4 列のいちょう並木の生育に影響が及ばないよう、計画建物の地下躯体の配置等に配慮する。
・4 列のいちょう並木のうち西側 1 列については、設計者、樹木医、事業者が一体となり、継続して根系調査を実施するとともに、根系の状態に応じた基礎構造、施工方法等を精査する。
・今後詳細な設計を実施するにあたり、存置する既存樹木の生育に影響が及ばないよう、既存樹木の根鉢と計画建物の地下躯体との離隔を保持する等、計画建物の配置等に配慮する。
・ラグビー場棟については、景観形成の観点から圧迫感の緩和を実現しつつ、既存樹木の保全・配慮を目指したデザインとする。設計・施工両面で工夫することにより、存置及び移植樹木を増やす計画とし、自然環境の保全に努める。
・ラグビー場棟の東側及び北西側には都市計画上地区施設として定められている緑道を整備するほか、既存樹木の存置や移植による保全、新植による緑量の確保や質の向上にも配慮し、設計・建設等の各段階において関係機関と協議を行う。
・樹木の根周りが歩行者等により踏み固められないよう、歩行可能な場所を限定し、樹木の保全に努める。
・計画地中央部の広場空間と連続する文化交流施設棟及びラグビー場棟南側の緑地については、文化交流施設棟の高さを抑えることにより、日照の確保及び緑の生育促進に努める。

・樹木の移植及び新植にあたっては、植付に適した時期に留意するとともに、必要に応じて事前に適切な時期に根回しを行っていく。
・移植樹木及び新植樹木に支柱を設置し、根の活着を図るとともに、倒木、傾き等を防止する。
・新植樹木は、既存樹木の樹種を参考にして植栽種を選定する。

凡　例

- 計画地
- 区界
- ラグビー場棟敷地範囲
- 地上部緑化（既存または移植）
- 地上部緑化（既存）注1)
- 地上部緑化（新規）
- 屋上緑化
- 芝生

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

注1）既存のみどりを活用した緑地（並木東側）エリア。
注2）計画については今後変更の可能性がある。
注3）本変更届において移植予定樹木の変更を行ったが、その移植先の緑化の内容については評価書に記載のエリアごとの整備方針等に基づき検討を深度化し、今後の変更届において変更する予定である。

図 3.3-8　緑化計画図

表 3.3-2　計画緑化面積及び必要緑化面積

根拠法令	計画緑化面積	必要緑化面積
「港区みどりを守る条例」	【緑化面積】 約 29,032m^2 注 1) 【地上部緑化面積】 約 18,554m^2 注 1) 【接道部緑化延長】 約 720m	・基準緑化面積 約 25,892m^2 ・基準接道部緑化延長 約 665m
「新宿区みどりの条例」	【緑化面積】 約 9,217m^2 【地上部緑化面積】 約 6,546m^2 【接道部緑化延長】 約 503m	・基準緑化面積 約 9,036m^2 ・基準接道部緑化延長 約 446m
「東京都都市開発諸制度に基づく再開発等促進区の緑化基準」 「東京 2020 大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」	【合計緑化面積】 約 31,701m^2 【建築物上緑化面積】 約 9,311m^2 注 2) 【地上部緑化面積】 約 22,390m^2	・合計緑化基準面積 約 29,423m^2 ・建築物上緑化基準面積 約 12,169m^2 ・地上部緑化基準面積 約 17,254m^2
「東京都風致地区条例による緑化基準」	【合計緑化面積】 約 30,705m^2 【建築物上緑化面積】 約 1,128m^2 【地上部緑化面積】 約 29,577m^2	・合計緑化基準面積 約 23,568m^2

注 1）港区みどりを守る条例の対象とならない並木東側敷地の緑地面積も含む。
注 2）東京都市開発諸制度に基づく再開発等促進区の緑化基準については、合計緑化面積が基準に適合しているかで判断される。
注 3）緑化面積については各施設のそれぞれの確認申請時に各施設の敷地範囲の緑化面積が確定となるため、今後の協議で最終的な数値となる。そのため現時点（2024 年 9 月時点）の数値を記述する。なお、ラグビー場敷地の緑化は「図 3.3-8　緑化計画図」(p.21)の内容で調整中である。

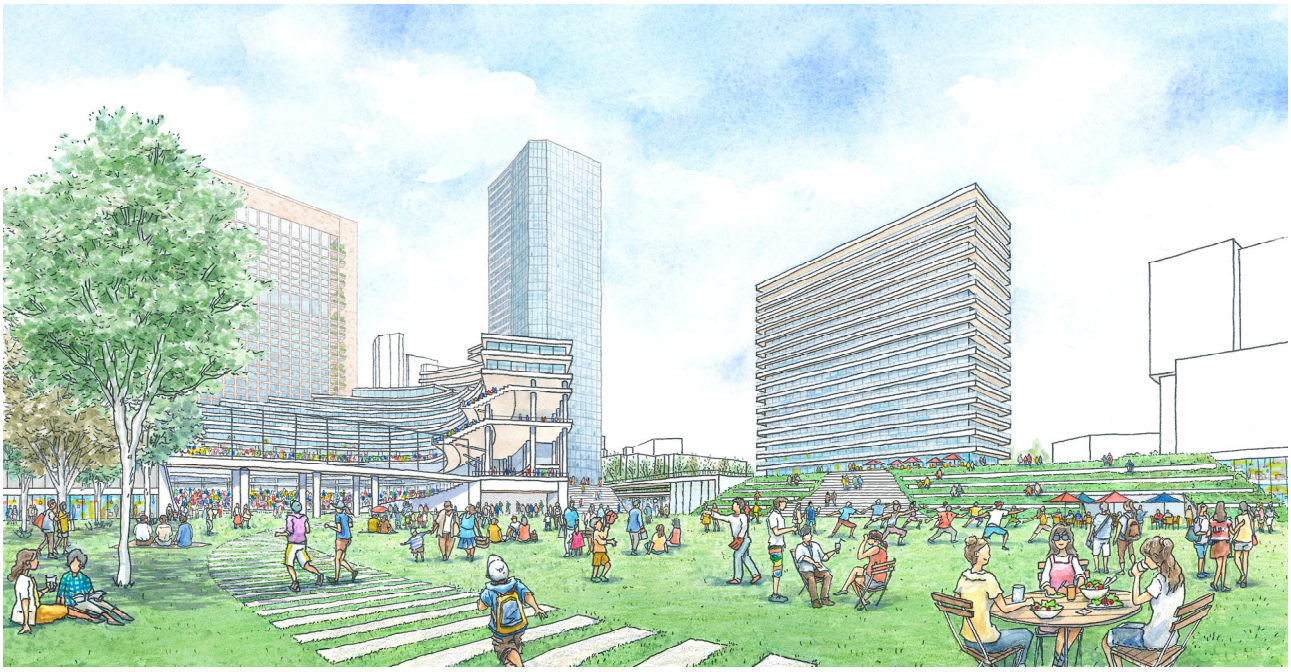


図3.3-9　緑化のイメージ（広場）

4. 計画の変更について

4.1 計画の変更理由及び概要

ラグビー場棟について、樹木の保全に留意した施設検討を行うとともに、東京都から要請された「神宮外苑地区のまちづくりにおける樹木の保全について（要請）」を踏まえ、敷地条件や施設仕様を考慮した上で、詳細な形状について設計検討を重ねた結果、以下の方針とする。

・ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らす。

・ラグビー場棟の高さを都市計画上の最高高さよりも低く抑え、建物の北側を階段状とするとともに東側及び西側上部の壁面を建物側に傾斜させることで、日照時間を増やし、樹木の生育環境を良化する。

また、上記検討に加え、水道工事に支障する地中障害物が発見されたこと等により、ラグビー場棟の第Ⅰ期工事工程を、2025 年 2 月～2028 年 6 月から 2026 年 2 月～2029 年 12 月に変更する。

以上の変更を踏まえ、東京都環境影響評価条例第 62 条に基づき変更届を提出するものである。

4.2 計画の変更内容

4.2.1 ラグビー場棟の形状の変更

敷地条件や施設仕様を踏まえて、詳細な形状について設計・検討を行った。

具体的な検討内容は以下に示すとおりである。

(1) 敷地条件（図 4.2-1 参照）

ラグビー場棟の建設は、競技開催の継続性に鑑み、神宮球場を供用したまま、Ⅰ期敷地で競技に支障が出ないように、ラグビー場としての機能を充足して建設する必要がある。

計画地の東西北側には地区計画によって建物を建てることができない 4 つの地区施設が定められている。また、計画地北側（国立競技場との隣地境界線沿い）には神宮外苑周辺地区に供給する電気・上下水道を含む、重要インフラが地下に埋設されている。さらに、計画地南側には神宮球場があり、野球場の機能維持に必要なインフラ管が地下に埋設されている。これら敷地条件を考慮した上で、ラグビー場棟の建物配置を決定する必要がある。

(2) ラグビー場棟の施設仕様（図 4.2-1 参照）

スポーツ庁主催の「ラグビーの振興に関する関係者会議」において、国際大会の基準を踏まえたラグビー場棟を整備することや、全天候型のラグビー場とすることなどの方針「秩父宮ラグビー場の移転整備の基本的考え方について（案）」（スポーツ庁ホームページ）が示された。これを受けて、独立行政法人日本スポーツ振興センターにおいて、基本方針（ビジョン、コンセプト）等や、整備計画（収容人数・フィールドサイズなどの規模や導入機能など）及び管理・運営等についてとりまとめた「新秩父宮ラグビー場（仮称）基本計画」（資料編 p114～116 参照）を策定した。この基本計画や国際大会の基準となる「ラグビーワールドカップ 2019 開催都市ガイドライン」等も参考とし、以下の内容を主な施設仕様とする「新秩父宮ラグビー場（仮称）整備・運営等事業 業務要求水準書」（独立行政法人日本スポーツ振興センター、資料編 p117～118 参照）を策定した。

・全天候型のスタジアムとして外装・屋根を計画
・Ⅰ期の供用開始時においてラグビーの試合や大会が開催可能
・フィールド寸法 134m×84m
・競技区域天井高さ 35m
・ワールドラグビーが求める公式試合（国際大会）の収容能力 15,000 席以上
・神宮外苑の緑と調和した緑化の推進及び緑のネットワークの形成

(3) 平面的配慮（図 4.2-2 参照）

存置樹木をさらに増やす取り組みとして、収容人数について「ラグビーワールドカップ 2019 開催都市ガイドライン」で示される試合カテゴリーのうち、国際大会が開催できる最低収容能力である 15,000 席以上を確保しながら建物規模を縮小化し、神宮外苑広場（建国記念文庫）を含むラグビー場棟周辺の緑地を保全するとともに、日影による生育環境への影響を低減するために可能な限り外壁をセットバックした設計とする。

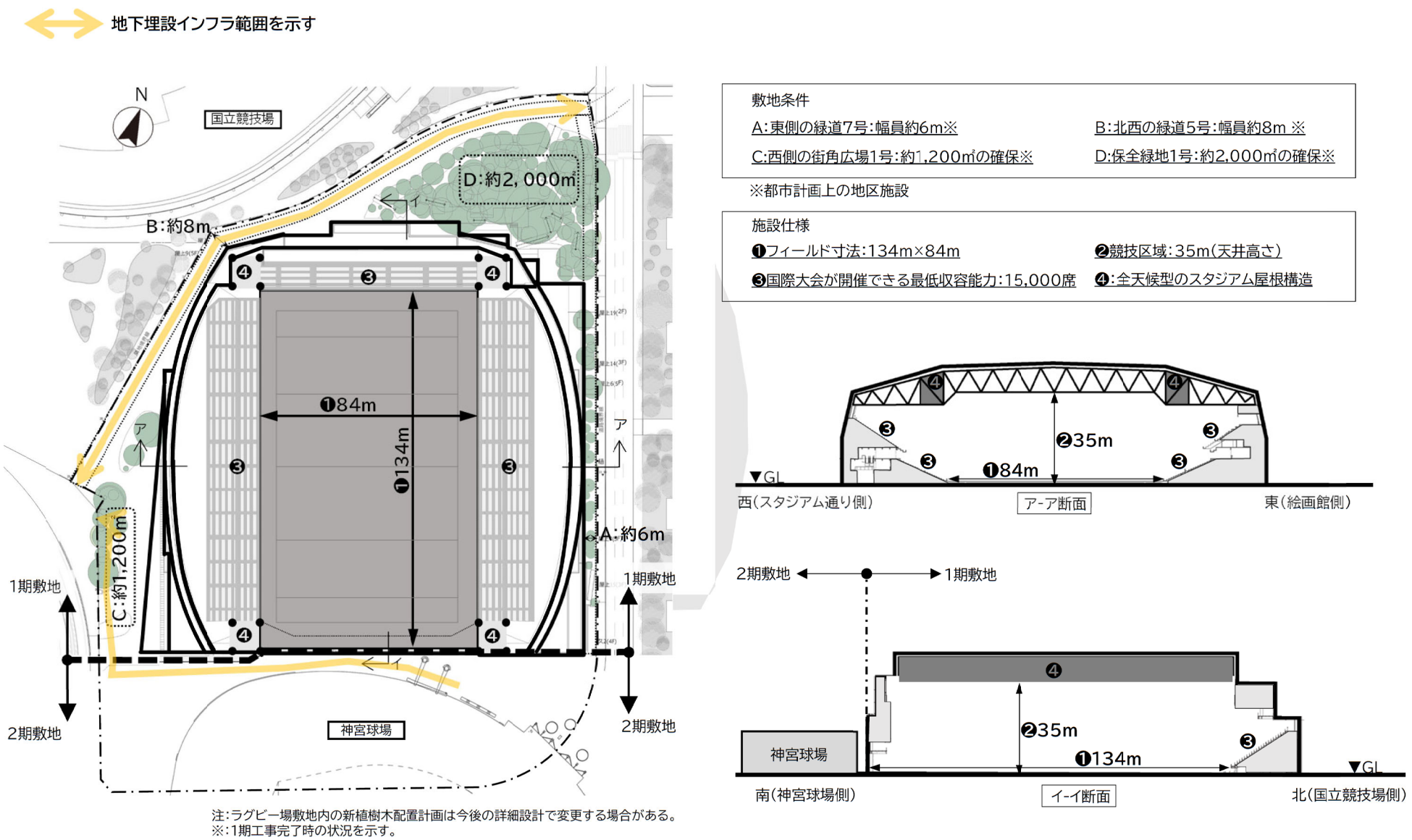
具体的には、敷地条件、ラグビー場棟の施設仕様を満たした上で必要最低限の建物規模とし、北東角を平面的に最大限セットバックさせ、ラグビー場棟敷地周囲の緑道のうち北側部分（図 4.2-1 の敷地条件 B、幅員約 8m）について、樹木を保全するとともに、日影による生育環境への影響を低減し景観的にも配慮した計画とする。さらに、評価書時よりも建物北側の縮小化を図ることで、神宮外苑広場（建国記念文庫）内の保全エリアをさらに拡大（図 4.2-2 に示すセットバック部分）し、存置樹木を 17 本（ラグビー場棟敷地内 14 本）増やす計画とする。

以上により、樹木の保全に最大限配慮する計画としている。

(4) 立体的配慮（図 4.2-2 参照）

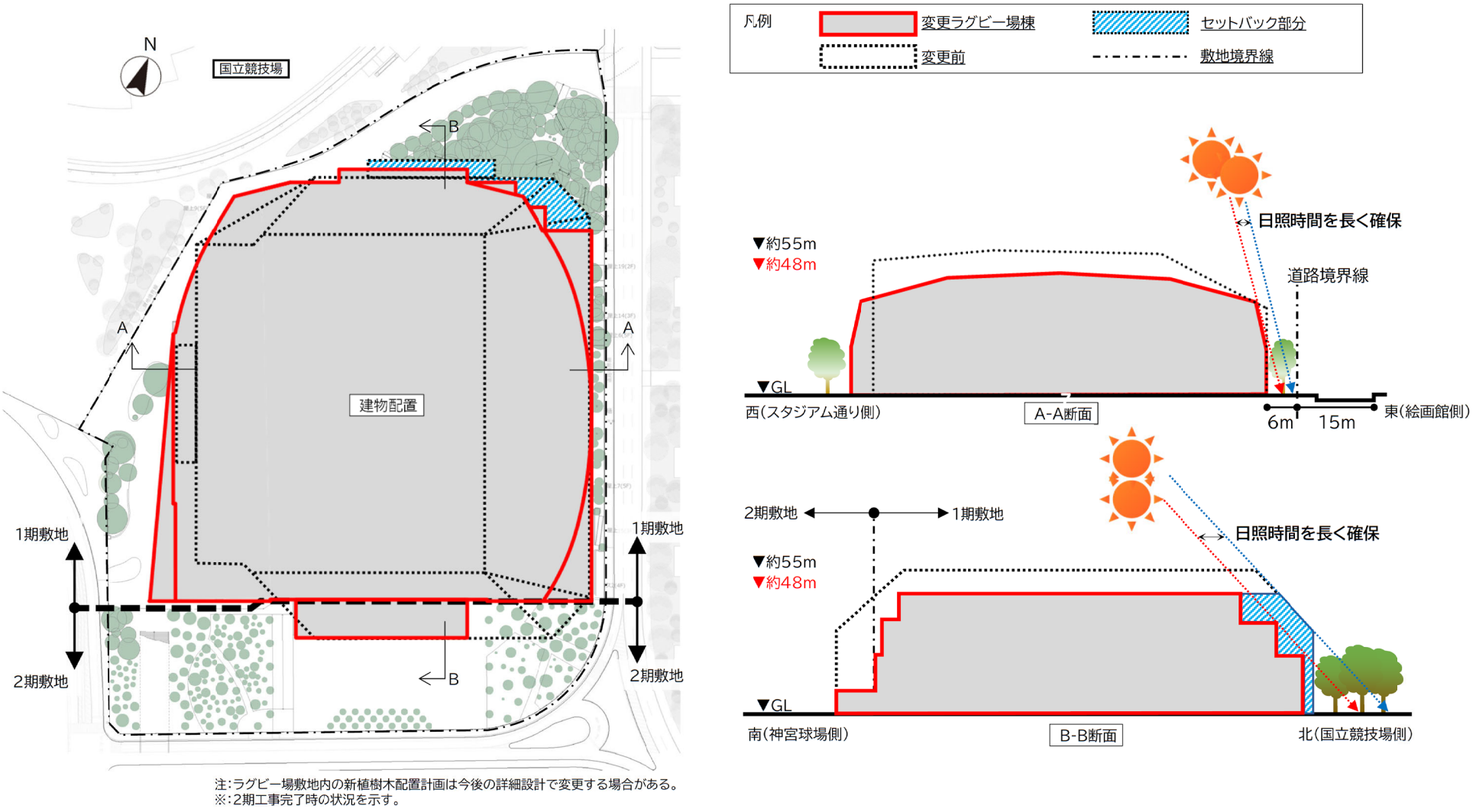
ラグビー場棟の施設仕様を満たす必要最低限の高さについて、圧迫感の緩和など外苑地区の景観形成に寄与するべく、都市計画上の最高高さ制限 55mよりも低く、平均地盤面からの高さを約 48mとし、隣接する国立競技場の軒高と同程度とすることとした。

また、建物の北側を階段状とするとともに東側及び西側の上部の壁面を建物側に傾斜させることで、樹冠と建物の離隔を図り、日影の範囲の低減や景観的な圧迫感に配慮して、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の生育環境を評価書時よりも良化する計画とする。



注:ラグビー場敷地内の新植樹木配置計画は今後の詳細設計で変更する場合がある。
※:1期工事完了時の状況を示す。

図 4.2-1　敷地条件及び必要条件を踏まえた施設仕様について



注:ラグビー場敷地内の新植樹木配置計画は今後の詳細設計で変更する場合がある。
※:2期工事完了時の状況を示す。

図 4.2-2　平面的、立体的配慮について

変更前後のラグビー場棟を含む建築計画の概要は、表 4.2-1(1)～(2)に、配置計画図は、図 4.2-3(1)～(2)、断面図は、図 4.2-4(1)～(2)に示すとおりである。

表 4.2-1(1)　建築計画の概要【変更後】

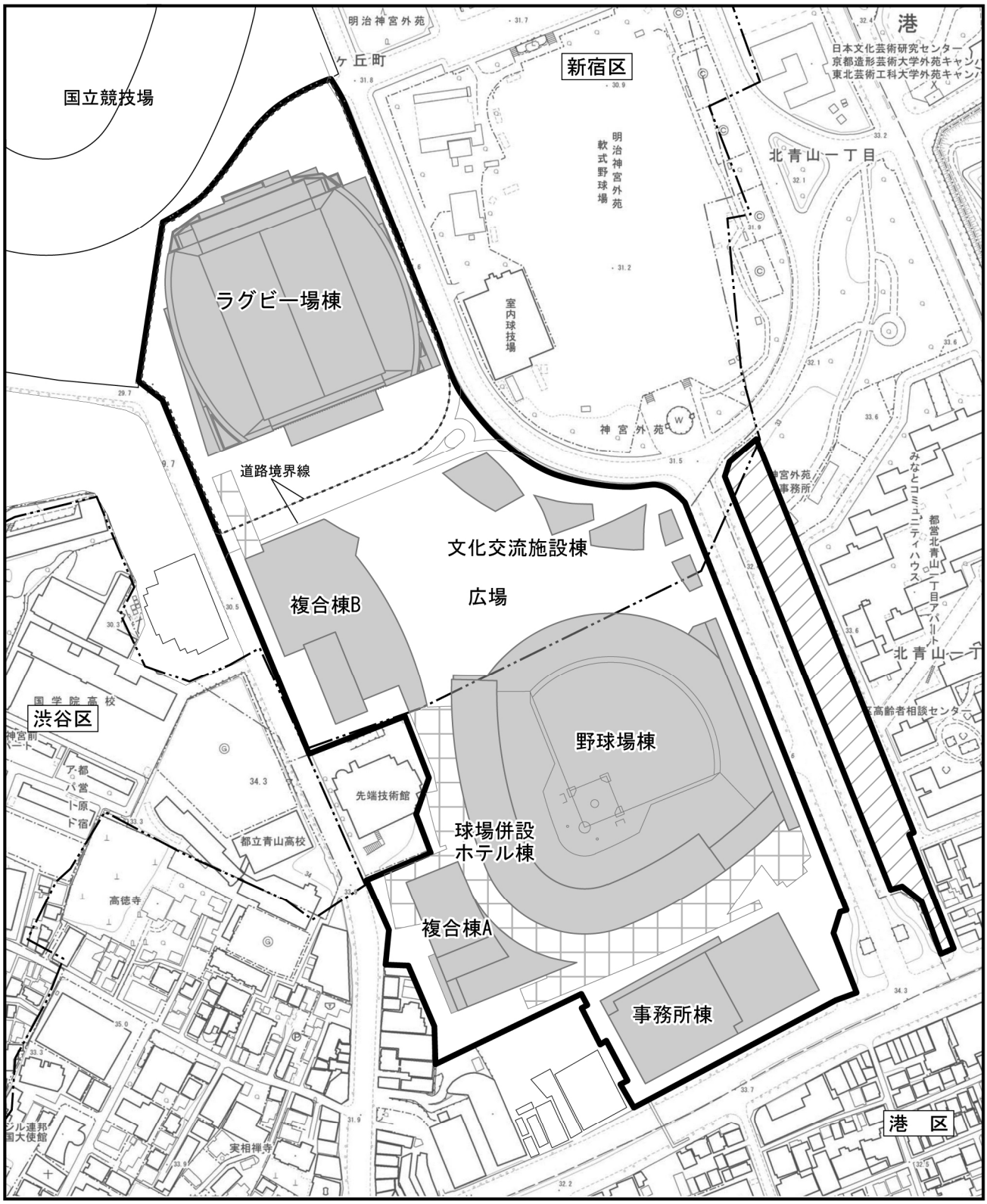
項　　目	ラグビー場棟	複合棟A	複合棟B	文化交流施設棟	野球場棟及び球場併設ホテル棟	事務所棟
計画地面積	約174,700m^2					
延床面積	約72,500m^2	約127,300m^2	約30,300m^2	約2,000m^2	約115,700m^2	約213,000m^2
	合計　約560,800m^2					
最高高さ	約48m	約185m	約80m	約6m	約60m	約190m
主要用途	ラグビー場、文化交流施設、商業、駐車場等	オフィス、商業、駐車場等	宿泊施設、スポーツ関連施設、駐車場等	公園支援施設、商業等	野球場、宿泊施設、商業、駐車場等	オフィス、商業、駐車場等
階　　数	地上8階 地下1階	地上40階、地下2階、塔屋1階	地上18階、地下1階、塔屋1階	地上1階	地上14階、塔屋1階、地下1階	地上38階、地下5階
構　　造	RC造、S造	S造、SRC造	S造、SRC造	S造、SRC造	RC造、SRC造	S造、SRC造
駐車台数	合計　約1,070台					

注 1) 今後、関係者協議等により変更になることがある。
2) 下線部分は変更した事項を示す。

表 4.2-1(2)　建築計画の概要【変更前】

項　　目	ラグビー場棟	複合棟A	複合棟B	文化交流施設棟	野球場棟及び球場併設ホテル棟	事務所棟
計画地面積	約174,700㎡					
延床面積	約76,700㎡	約127,300㎡	約30,300㎡	約2,000㎡	約115,700㎡	約213,000㎡
	合計　約565,000㎡					
最高高さ	約55m	約185m	約80m	約6m	約60m	約190m
主要用途	ラグビー場、文化交流施設、商業、駐車場等	オフィス、商業、駐車場等	宿泊施設、スポーツ関連施設、駐車場等	公園支援施設、商業等	野球場、宿泊施設、商業、駐車場等	オフィス、商業、駐車場等
階　　数	地上7階、地下1階	地上40階、地下2階、塔屋1階	地上18階、地下1階、塔屋1階	地上1階	地上14階、塔屋1階、地下1階	地上38階、地下5階
構　　造	RC造、SRC造、S造	S造、SRC造	S造、SRC造	S造、SRC造	RC造、SRC造	S造、SRC造
駐車台数	合計　約1,070台					

注）今後、関係者協議等により変更になることがある。



凡　例

- 計画地
- 区界
- ラグビー場棟敷地範囲
- 建築物
- デッキ
- 緑地

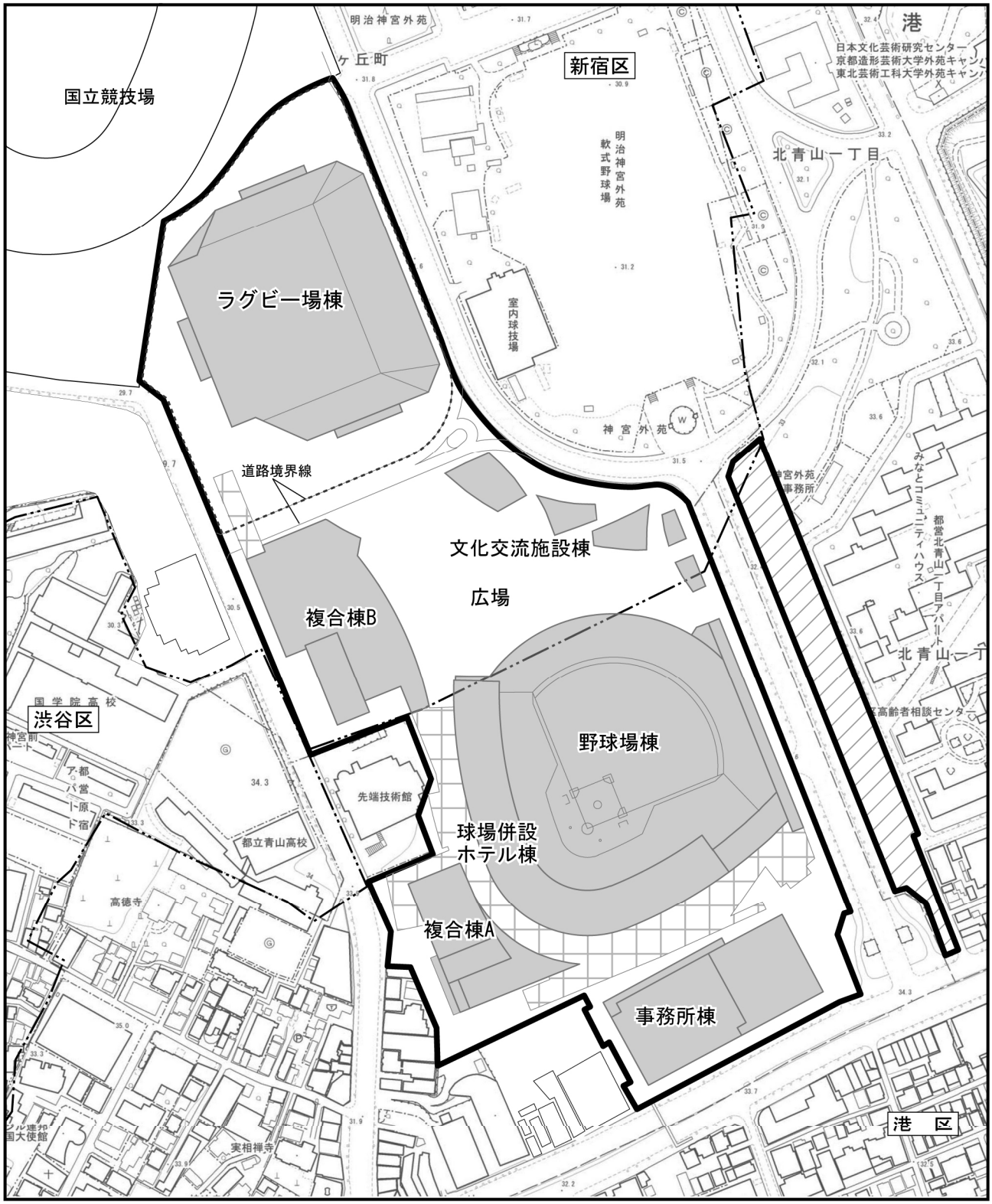
注）計画については今後変更の可能性がある。

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

図 4.2-3(1)　配置計画図【変更後】



凡　例

- 計画地
- 区界
- ラグビー場棟敷地範囲
- 建築物
- デッキ
- 緑地

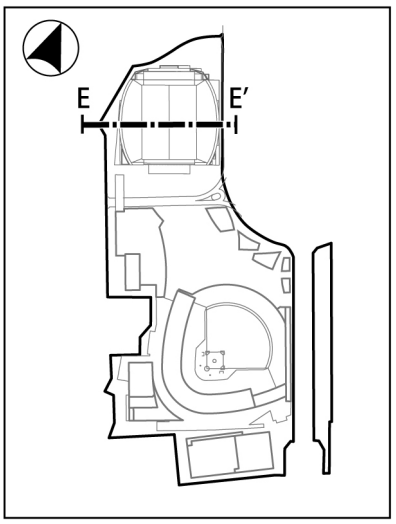
注）計画については今後変更の可能性がある。

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

図 4.2-3(2)　配置計画図【変更前】



【ラグビー場棟】

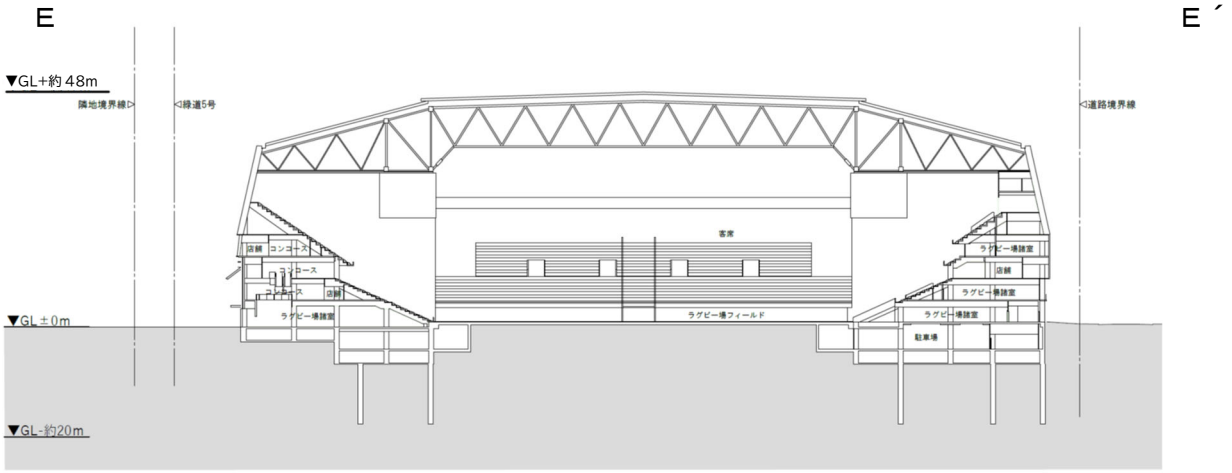


図 4.2-4(1)　断面図(E-E')　　S=1/1,600【変更後】

【ラグビー場棟】

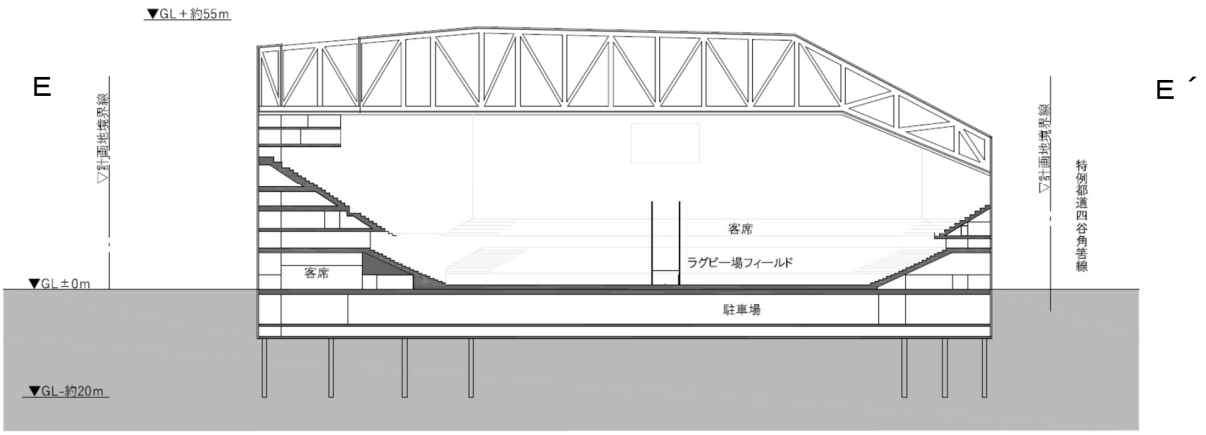


図 4.2-4(2)　断面図(E-E')　　S=1/1,600【変更前】

4.2.2 存置、移植、伐採樹木の本数の変更

(1) ラグビー場棟敷地内の樹木本数

ラグビー場棟敷地内について、存置、移植、伐採樹木の本数を整理したため、本変更届にて報告する。なお、ラグビー場棟の敷地は、環境影響評価書に記載の毎木調査エリアのうち、建国記念文庫と第二球場及び野球場三塁側の一部が該当する（図 4.2-5 参照）。

ラグビー場棟敷地内の存置、移植、伐採樹木の本数については表 4.2-2 に示すとおりである。

変更前と比較し、ラグビー場棟北側面積の縮小化を図ることや、ラグビー場棟の壁面位置と既存樹木の位置を詳細に確認し、移植予定であった東側道路沿いの樹木を存置に変更する等の検討により、存置樹木は 14 本増、移植樹木は 4 本増、伐採樹木は 27 本減となり（枯損等の樹木を含め、存置樹木を 17 本、移植樹木を 4 本増やし、また、伐採本数を 21 本減らし）、ラグビー場棟敷地内の保全エリアを拡大する計画とする。本変更により、ラグビー場棟敷地内の存置樹木は合計 92 本、移植樹木は合計 93 本となる。

図 4.2-5　ラグビー場棟敷地の範囲

表4.2-2　樹木本数の変更の概略（ラグビー場棟敷地内）

単位：本

	変更後				変更前				差分
	神宮外苑広場（建国記念文庫）	第二球場の一部	野球場三塁側の一部	合計	神宮外苑広場（建国記念文庫）	第二球場の一部	野球場三塁側の一部	合計	
存置樹木	75(77)	10(11)	7(7)	92(95)	58	14	6	78	**+14(+17)**
移植樹木	44(44)	49(49)	0(0)	93(93)	50	39	0	89	**+4(+4)**
伐採樹木	23(28)	42(43)	6(6)	71(77)	41	50	7	98	**-27(-21)**
合計	142(149)	101(103)	13(13)	256(265)	149	103	13	265	―

注 1）詳細は「5.3 予測・評価の見直し　5.3.1 生物・生態系」（p.42）参照

注 2）()内の数値は、枯損等（評価書時点以降、立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木）を除外した本数を示す。枯損等の本数は 9 本である。

(2) 計画地全体の既存樹木の変化の程度

「(1) ラグビー場棟敷地内の樹木本数」に記載した存置、移植、伐採樹木の計画の変更に加え、「事後調査報告書(工事の施行中その 2)」にて報告した既存樹木の 2023 年の毎木調査において、生育状況等をより詳細に把握した結果新たに移植可能と判断される樹木も確認されたため、計画地全体の既存樹木の存置、移植、伐採樹木の本数についても変更する。

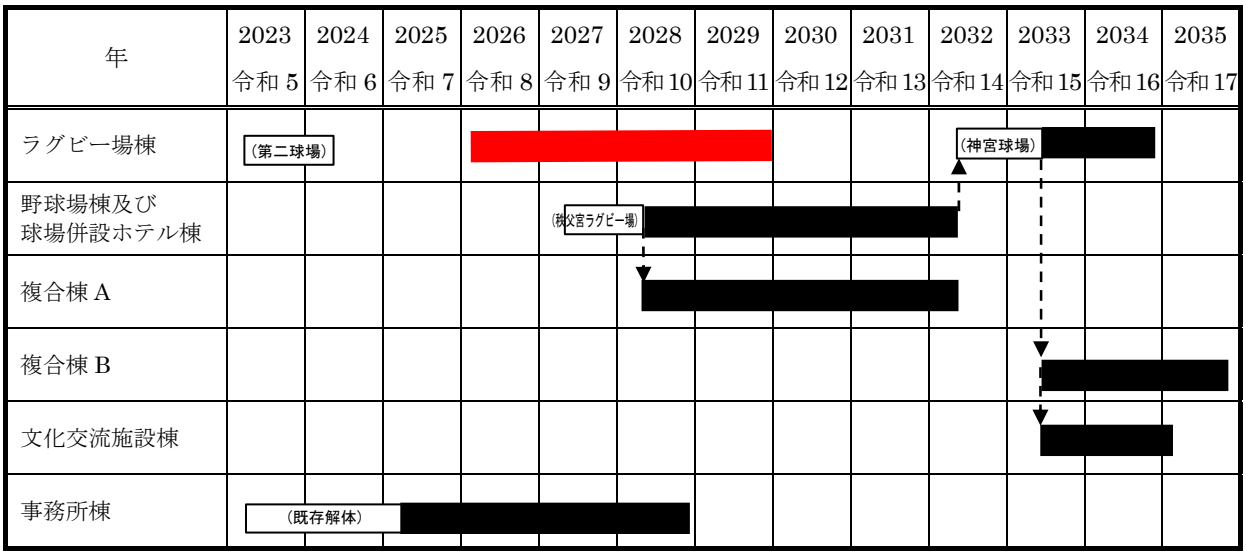
変更前後における樹木本数は、「5.3 予測・評価の見直し 5.3.1 生物・生態系 2) 計画地全体の既存樹木の変化の程度」(p.48) に示すとおりである。

なお、変更前後における存置、移植、伐採樹木の配置図及び毎木調査票は、資料編 p.142～395 に示すとおりである。

4.2.3 工事工程の変更

前述のとおり、樹木の保全に留意した施設検討を行うとともに、東京都から要請された「神宮外苑地区のまちづくりにおける樹木の保全について（要請）」に基づき検討を重ねたこと、水道工事に支障する地中障害物が発見されたこと等により、ラグビー場棟の第Ⅰ期工事工程を 2025 年 2 月～2028 年 6 月から 2026 年 2 月～2029 年 12 月に変更する。変更前後の工事工程は表 4.2-3(1)～(2)に示すとおりである。なお、施工計画に変更はない。

表4.2-3(1)　工事工程表【変更後】

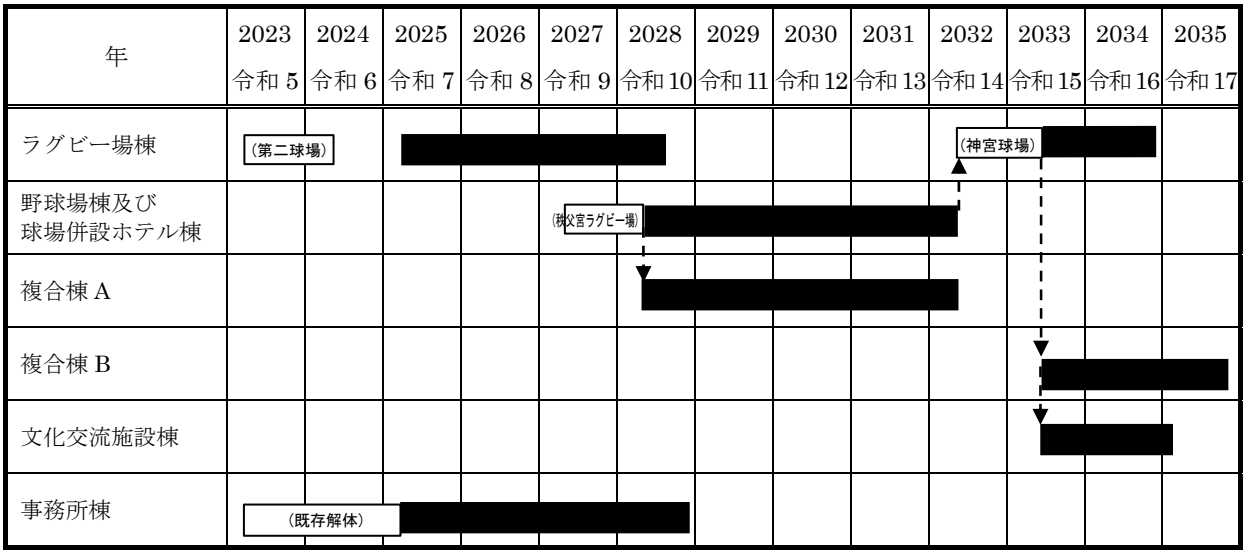


：解体工事

：新築工事（赤色部分は変更箇所）

注）今回変更対象の施設（ラグビー場棟第Ⅰ期）のみ現時点の工事工程に変更。他の施設は今後工程が決定次第、変更する予定である。

表4.2-3(2)　工事工程表【変更前】



：解体工事

：新築工事

5. 計画の変更に伴う予測・評価の見直し

5.1 見直し項目及びその理由

「4. 計画の変更について」に示した事業計画の変更に伴い、表 5.1-1 に示すとおり、予測・評価の見直しが必要となる項目の抽出を行った。

表5.1-1(1) 予測・評価の見直しの必要性

環境影響評価の項目		予測事項	見直しの必要性	理　由
大気汚染	工事の施行中	建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	×	工事工程が変更となるものの、予測条件であるピーク時の建設機械台数に変更はなく、ラグビー場棟 I 期工事時の二酸化窒素の将来濃度（年間 98%値）0.047ppm、浮遊粒子状物質の将来濃度（2%除外値）0.046mg/m³ に変更はないため、予測の見直しは行わない。
		工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	×	予測条件である工事用車両台数に変更はなく、予測時期①（ラグビー場棟 I 期工事時）の二酸化窒素の将来濃度（年間 98%値）0.041～0.043ppm、浮遊粒子状物質の将来濃度（2%除外値）0.043～0.044mg/m³ に変更はないため、予測の見直しは行わない。
	工事の完了後	関連車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	×	予測条件である発生集中交通量に変更はなく、二酸化窒素の将来濃度（年間 98%値）0.041～0.042ppm、浮遊粒子状物質の将来濃度（2%除外値）0.043～0.044mg/m³ に変更はないため、予測の見直しは行わない。
		地下駐車場の供用に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度	×	予測条件である発生集中交通量等に変更はなく、二酸化窒素の将来濃度（年間 98%値）0.043ppm、浮遊粒子状物質の将来濃度（2%除外値）0.045mg/m³ に変更はないため、予測の見直しは行わない。
		熱源施設の稼働に伴い発生する二酸化窒素の大気中における濃度	×	予測条件である熱源施設の諸元等に変更はなく、二酸化窒素の将来濃度（年間 98%値）0.046ppm に変更はないため、予測の見直しは行わない。

表5.1-1(2)　予測・評価の見直しの必要性

環境影響評価の項目		予測事項	見直しの必要性	理　由
騒音・振動	工事の施行中	建設機械の稼働に伴う建設作業の騒音・振動	×	工事工程が変更となるものの、予測条件であるピーク時の建設機械台数、施行範囲及び建設機械の稼働位置に変更はなく、ラグビー場棟Ⅰ期工事時の建設作業騒音レベル(L_{A5})は解体時で77dB、新設時で75dB、建設作業振動レベル(L_{10})は解体時で53dB、新設時で55dBであることに変更はないため、予測の見直しは行わない。
		工事用車両の走行に伴う道路交通の騒音・振動	×	予測条件であるピーク時の工事用車両台数に変更はなく、予測時期①（ラグビー場棟Ⅰ期工事時）の道路交通の騒音レベル(L_{Aeq})は昼間62～71dB、道路交通の振動レベル(L_{10})は昼間37～52dB、夜間35～48dBであることに変更はないため、予測の見直しは行わない。
	工事の完了後	関連車両の走行に伴う道路交通の騒音・振動	×	予測条件である発生集中交通量に変更はなく、道路交通の騒音レベル(L_{Aeq})は昼間62～71dB、夜間56～69dB、道路交通の振動レベル(L_{10})は昼間37～52dB、夜間35～48dBであることに変更はないため、予測の見直しは行わない。
		施設の供用に伴う騒音	×	事後調査報告書（工事の施行中その2）において野球場棟のセットバックの方針を示しているが、詳細な設計については今後行うため、現時点での予測の見直しは行わない。
土壌汚染	工事の施行中	汚染土壌の掘削・移動等に伴う土壌への影響の内容及び程度	×	予測条件である掘削範囲が小さくなる。また、実施する手続きに変更はないため、予測の見直しは行わない。
地　盤	工事の施行中	掘削工事に伴う地盤の変形の範囲及び程度	×	予測条件である掘削範囲が小さくなる。また、施工方法及び施工深さに変更はないため、予測の見直しは行わない。
		掘削工事に伴う地下水の水位及び流況の変化による地盤沈下の範囲及び程度	×	
	工事の完了後	地下構造物の存在等に伴う地下水の水位及び流況の変化による地盤沈下の範囲及び程度	×	予測条件である地下構造物の位置に変更はないため、予測の見直しは行わない。
水循環	工事の施行中	掘削工事に伴う地下水の水位及び流況の変化の程度	×	予測条件である掘削範囲が小さくなる。また、施工方法及び施工深さに変更はないため、予測の見直しは行わない。
	工事の完了後	地下構造物の存在等に伴う地下水の水位及び流況の変化の程度	×	予測条件である地下構造物の位置に変更はないため、予測の見直しは行わない。
		土地の改変に伴う地表面流出量の変化の程度	×	予測条件である土地利用計画に変更はないため、予測の見直しは行わない。

表5.1-1(3)　予測・評価の見直しの必要性

環境影響評価の項目		予測事項	見直しの必要性	理　由
生物・生態系	工事の完了後	植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度	○	ラグビー場棟の建築計画の変更に伴い、存置・移植・伐採樹木の本数を変更するため、既存樹木の変化の程度について予測の見直しを行う。なお、植物相及び植物群落については植物の種類（注目される植物種を含む）等の予測条件に変更は生じないため、予測の見直しは行わない。
		動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度	×	動物の種類（注目される動物種を含む）や、緑地及び生態系のネットワーク、緑の量等の予測条件に変更は生じないため、これらの予測の見直しは行わない。
		生息(育)環境の変化の内容及びその程度	×	
		緑の量の変化の内容及びその程度	×	
		都市域生態系の変化の内容及びその程度	×	
日　影	工事の完了後	冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度	○	ラグビー場棟の壁面位置や施設の高さ、建物デザインに変更が生じるため、予測の見直しを行う。
		日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度	○	
電波障害	工事の完了後	建築物等の設置によるテレビ電波の遮へい障害及び反射障害	×	ラグビー場棟の建物位置に変更はなく、建物高さは低くなるため、予測の見直しは行わない。
風環境	工事の完了後	平均風向、平均風速及び最大風速等の突風の状況並びにそれらの変化する地域の範囲及び変化の程度	○	ラグビー場棟の壁面位置や施設の高さ、建物デザインに変更が生じるため、予測の見直しを行う。
景　観	工事の完了後	主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度	×	ラグビー場棟の用途及び景観の構成要素に変更はないため、予測の見直しは行わない。
		代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度	○	ラグビー場棟の壁面位置や施設の高さ、建物デザインに変更が生じるため、予測の見直しを行う。
		圧迫感の変化の程度	○	

表5.1-1(4)　予測・評価の見直しの必要性

環境影響評価の項目		予測事項	見直しの必要性	理　由
史跡・文化財	工事の施行中	埋蔵文化財包蔵地の改変の程度	×	予測条件である掘削範囲が小さくなる。また、実施する手続きに変更はないため、予測の見直しは行わない。
自然との触れ合い活動の場	工事の施行中	自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響の程度	×	予測条件である施工計画及び緑地の保全状況に変更はないため、予測の見直しは行わない。
	工事の完了後	自然との触れ合い活動の場の持つ機能の変化の程度	×	予測条件である緑地の計画に変更はないため、予測の見直しは行わない。
廃棄物	工事の施行中	解体工事に伴う撤去建造物及び伐採樹木等の排出量、再利用量及び処理・処分の方法	×	予測条件である解体建物に変更はない。また、伐採樹木の量について、伐採本数が減少するため、予測の見直しは行わない。
		建設工事に伴う建設廃棄物及び建設発生土の排出量、再利用量及び処理・処分の方法	×	予測条件である延床面積は小さくなる。また、施工方法及び施工深さに変更はないため、予測の見直しは行わない。
	工事の完了後	施設の供用に伴う廃棄物の種類及び排出量、再利用量及び処理・処分の方法	×	予測条件である用途別の延床面積は小さくなるため、予測の見直しは行わない。
温室効果ガス	工事の完了後	施設の供用に伴う環境への温室効果ガスの排出量またはエネルギーの使用量の程 度及びそれらの削減の程度	×	予測条件である用途別の延床面積は小さくなるため、予測の見直しは行わない。

注)「見直しの必要性」において、「○」は見直し必要、「×」は見直し不要を示す。

5.2　見直しを行った予測・評価の結論

見直しを行った予測・評価の結論は、表 5.2-1 に示すとおりである。

表5.2-1(1)　予測・評価の結論

項 目	予測・評価の結論
1. 生物・ 生態系	ラグビー場棟について、敷地条件や施設仕様を踏まえて、詳細な形状について設計・検討を行った結果、以下の方針とした。 ・ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らす。 ・ラグビー場棟の高さを都市計画上の最高高さよりも低く抑え、建物の北側を階段状とするとともに東側及び西側の上部の壁面を建物側に傾斜させることで、樹木の生育環境を良化する。 ・ラグビー場棟の壁面位置と既存樹木の位置を詳細に確認したことで、変更前は移植予定であった東側道路沿いの樹木について、存置に変更する。 上記の結果、ラグビー場棟敷地内の樹木の本数は、変更前は存置が 78 本、移植が 89 本であるのに対し、変更後は存置が 92 本、移植が 93 本となり、存置及び移植の本数が増加する。また、伐採は変更前が 98 本であるのに対し、変更後は 71 本に減少する。ラグビー場棟の北東角を最大限後退させること等により、ラグビー場棟敷地内の神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアを拡大する計画とし、神宮外苑広場（建国記念文庫）内の存置樹木を 19 本増加させることができた。 したがって、評価の指標とした既存樹木の保全に配慮しているものと考え、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。
2. 日影	計画地周辺地域への日影の影響を低減するため、ラグビー場棟の高さを変更前の約 55m から変更後は約 48m に抑えている。 計画建築物による日影は、評価書と同様に、日影規制のある地域において、日影規制ライン（敷地境界線から 10m）を越えて 2 時間以上及ぶことはなく、かつ、日影規制ライン（敷地境界線から 5m）を越えて 3 時間以上及ぶことはない。なお、計画地周辺は概ね再開発等促進区を定める地区計画の地区整備計画の範囲となり、計画地周辺のほとんどが日影規制の適用除外となったことから、計画建築物による日影時間は日影規制の範囲内に収まる。 また、ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させた。さらに、ラグビー場棟の最高高さを低くし、建物の北側を階段状として東側及び西側の上部の壁面を建物側に傾斜させることで、北側の神宮外苑広場（建国記念文庫）等の存置樹木への日影範囲の影響を低減しているものと考える。 したがって、評価の指標「東京都日影による中高層建築物の高さの制限に関する条例」に定める日影規制を満足することから、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。

表5.2-1(2)　予測・評価の結論

項 目	予測・評価の結論
3. 風環境	ラグビー場棟の壁面位置や施設の高さ、建物デザインを変更したことにより、防風対策前では領域 C(中高層市街地相当の風環境)となる地点が変更前の 6 地点に対して変更後では 5 地点、領域 D(強風地域相当の風環境)となる地点が変更前後ともに 1 地点生じると予測するが、防風対策後ではこれらの地点は、計画地南側の青山通り沿いは領域 C または B(低中層市街地相当の風環境)に、それ以外は領域 A または領域 B となり、風環境は改善されると予測する。 したがって、計画建築物の存在により、計画地周辺地域の風環境に変化はあるものの、領域 A(住宅地相当の風環境)及び領域 B に相当する風環境が維持されるものと考えることから、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。
4. 景観	1)代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度 ラグビー場棟については評価書時点から配置や規模について著しい変更は行っておらず、変更前と同様に、近景域においては、計画建築物が視野に占める割合は大きいものの、変更後ではラグビー場棟の占める割合は小さくなっており、眺望に著しい変化はない。 神宮外苑広場（建国記念文庫）の既存樹木については設計の工夫を行い、ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させた。さらに、ラグビー場棟の最高高さを低くし、建物の北側を階段状として東側及び西側の上部の壁面を建物側に傾斜させることで、存置及び移植樹木が増加するとともに、評価書に記載した保全エリアの範囲を拡大することができ、既存樹木の保全に配慮している。 また、施設東側及び北側には、都市計画上地区施設として定められている緑道を整備するほか、既存樹木の存置や移植による保全、新植による緑量の確保や質の向上にも配慮する。さらに、保全エリアにおける存置樹木の生育環境良化に向けて、歩行できるエリアは設置しつつ、樹木の生育環境のために立ち入りを制限するエリアは木チップ等で覆う計画とする。 以上の環境保全のための措置を徹底することから、代表的な眺望地点からの景観については、現況のまとまりのある緑も維持・保全されており、「港区景観計画」に示されている「青山通り周辺景観形成特別地区」、「神宮外苑銀杏並木周辺景観形成特別地区」の景観形成の目標、「新宿区景観形成ガイドライン」に示されている「新宿御苑みどりと眺望保全地区」の景観形成の目標及び「渋谷区景観計画」に示されている文化・事業活動等の特性に応じた景観形成等の基本理念との整合が図られるものと考える。 上記については、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。 2) 圧迫感の変化の程度 圧迫感の指標である形態率の地域全体の変化量は、現況と比較して最大 26.15 ポイント増加するものと考えられ、変更前の 32.81 ポイント増加から 6.66 ポイント減少する。 計画建築物の配置は、敷地境界から一定の距離をとり、色彩は、「東京都景観色彩ガイドライン」、「港区景観計画」及び「新宿区景観形成ガイドライン」に適合したものとする。 計画地及びその周辺には、高木等、歩行者動線とも連携した緑化を行い、地区特性に応じたメリハリのある緑化を推進する。これらにより、計画建築物による圧迫感の低減に努める。 上記については、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。

5.3 予測・評価の見直し

5.3.1 生物・生態系

(1) 予測事項

事業計画の変更に伴い予測・評価の見直しを行う事項は、既存樹木の変化の程度とした。

(2) 予測の対象時点

予測の対象時点は、施設の供用が通常状態に達した時点とした。

(3) 予測地域（予測地点）

予測の対象地域は、計画地内とした。

(4) 予測方法

既存樹木の変化の程度を事業計画と重ね合わせて整理する方法とした。また、2023 年の毎木調査結果を踏まえて存置、移植、伐採の扱いについて整理する方法とした。

(5) 予測結果

1) ラグビー場棟敷地内の既存樹木の変化の程度

ア．既存樹木の本数の変化の程度

(ｱ) 樹木について

事業の実施に伴い、落葉広葉樹等の既存植栽樹群が改変されるが、計画地内で最も緑量の多い神宮外苑広場（建国記念文庫）等の植栽樹は、存置もしくは移植により極力残す計画であることに、変更前後で変更はない。

変更前後における樹木本数及び変更理由ごとの内訳の本数は、表 5.3.1-1(1)～(2)に示すとおりである。また、変更前後における存置、移植、伐採樹木の配置は、資料編に示すとおりである。

ラグビー場棟の建設に伴うラグビー場棟敷地内の既存樹木を伐採する範囲について、既存樹木の保全エリアの調整を行った。神宮外苑広場（建国記念文庫）におけるラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置する樹木を増加させている。また、ラグビー場棟の壁面位置と既存樹木の位置を詳細に確認したことで、変更前は移植予定であった東側道路沿いの樹木について、存置に変更する。さらに、2023 年に実施した活力度調査に基づき再検討した結果、一部の伐採樹木を移植に変更する。

上記の結果、ラグビー場棟敷地内の樹木の本数は表 5.3.1-1 に示すとおりである。変更前の存置 78 本、移植 89 本、合計 167 本に対し、事後調査報告書（工事の施行中その 1）で報告した土壌汚染により伐採せざるを得ない樹木や、事後調査報告書（工事の施行中その 2）で報告した枯損等（立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木）を除外し、変更後は存置が 14 本増加、移植が 4 本増加となり、存置 92 本、移植 93 本、合計 185 本となる。伐採については変更前の 98 本に対し、変更後は 71 本となり、27 本の減少となる。図 4.2-2（p.27 参照）のセットバック部分に示したとおり、壁面位置を検討しラグビー場棟敷地内の神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアを拡大する計画としたことにより、神宮外苑広場（建国記念文庫）内の存置樹木を 19

本増加させることができた（表 5.3.1-2(1)及び図 5.3.1-1 参照）。

また、樹木の移植及び新植にあたっては、植付に適した時期に留意するとともに、事前に適切な時期に必要に応じて根回しを行っている。さらに、工事の施行にあたっては存置する既存樹木を傷つけないよう、建設機械の配置に留意している。

改変する神宮外苑広場（建国記念文庫）等の樹林地について、再生復元する生態系に配慮した維持管理を行い、定期的なモニタリング状況に応じた順応的管理を継続し、将来にわたって緑地環境の保全を図る。

これらの樹木に対する配慮については変更前後で変更はない。

建国記念

伐採→保存 10 本

43	ヤマザクラ
46	シイノキ
49	ケヤキ
73	ケヤキ
75	ヤエザクラ
89	シラカシ
94	ヒトツバダゴ
95	ヒトツバダゴ
133	シイノキ
134	ヒトツバダゴ

移植→保存 9 本

21	トウカエデ
51	シラカシ
59	シイノキ
90	ヒトツバダゴ
96	ヒトツバダゴ
131	クロマツ
135	トウカエデ
146	ヒトツバダゴ
150	フウ

第二球場

保存→移植　1 本

19	ヒトツバダゴ

保存→伐採　2 本

13	シイノキ
17	シイノキ

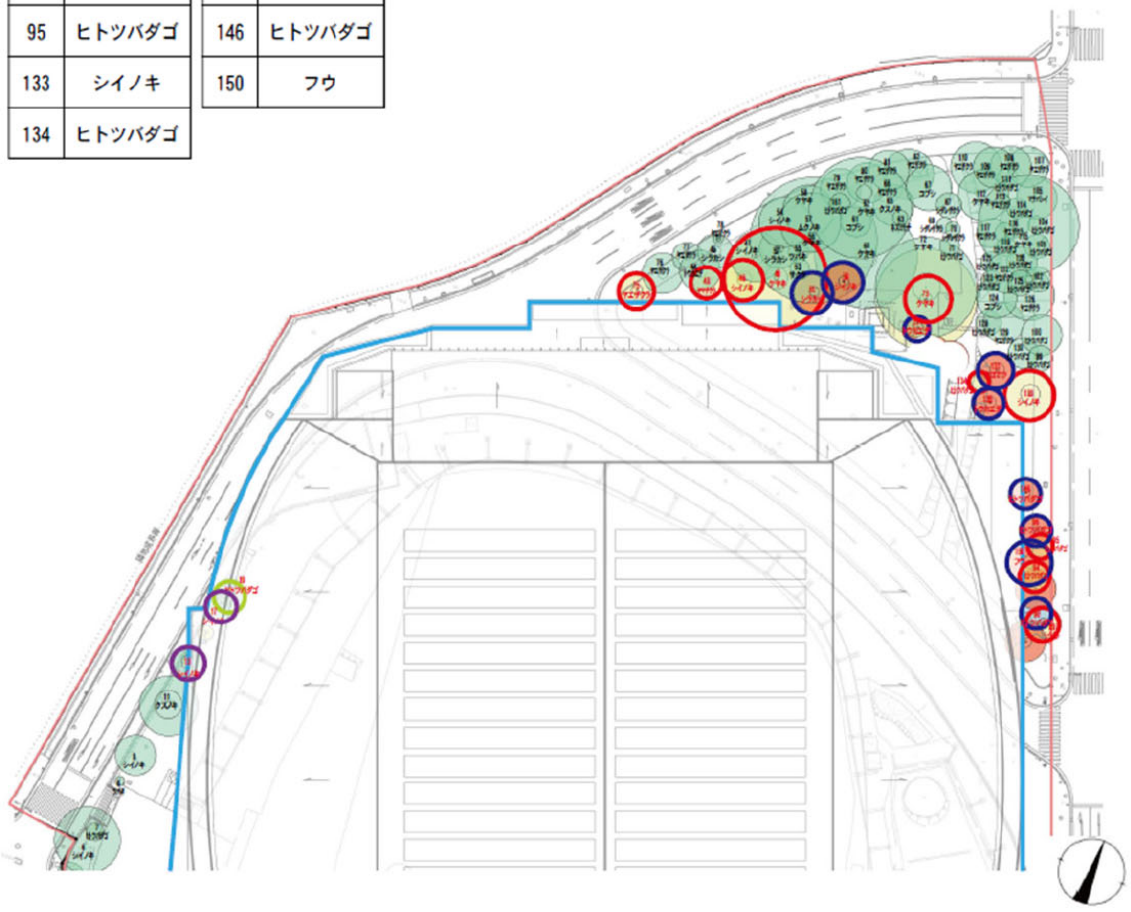


図 5.3.1-1　壁面位置の検討により変更となる樹木

表 5.3.1-1(1)　樹木本数の変更の概略（ラグビー場棟敷地内）

単位：本

	変更後				変更前				差分
	神宮外苑広場（建国記念文庫）	第二球場の一部	野球場三塁側の一部	合計	神宮外苑広場（建国記念文庫）	第二球場の一部	野球場三塁側の一部	合計	
存置樹木	75(77)	10(11)	7(7)	92(95)	58	14	6	78	+14(+17)
移植樹木	44(44)	49(49)	0(0)	93(93)	50	39	0	89	+4(+4)
伐採樹木	23(28)	42(43)	6(6)	71(77)	41	50	7	98	−27(−21)
合計	142(149)	101(103)	13(13)	256(265)	149	103	13	265	―

注 1）エリア毎の詳細は表 5.3.1-2(1)～(3)参照。
注 2）変更前後における存置、移植、伐採樹木の配置及び毎木調査票は、資料編参照。
注 3）()内の数値は、枯損等（評価書時点以降、立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木）を含めた本数を示す。

表 5.3.1-1(2)　樹木本数の変更の内訳（ラグビー場棟敷地内）

単位：本

	変更後	変更前	差分						
				内訳					
				壁面位置の検討	伐採から存置へ見直し	伐採から移植へ見直し	移植から伐採へ見直し	土壌汚染	枯損等
存置樹木	92	78	+14	+16	+1	0	0	0	−3
移植樹木	93	89	+4	−8	―	+15	−1	−2	0
伐採樹木	71	98	−27	−8	−1	−15	+1	+2	−6
枯損等	9	―	+9	―	―	―	―	―	+9
合計	265	265	―	―	―	―	0	―	―

注）枯損等：評価書時点以降、立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木。

表 5.3.1-2(1)　樹木本数の変更の内訳（神宮外苑広場（建国記念文庫））

単位：本

	変更後	変更前	差分						
				内訳					
				壁面位置の検討	伐採から存置へ見直し	伐採から移植へ見直し	移植から伐採へ見直し	土壌汚染	枯損等
存置樹木	75	58	+17	+19	―	0	0	0	−2
移植樹木	44	50	−6	−9	―	+5	0	−2	0
伐採樹木	23	41	−18	−10	―	−5	0	+2	−5
枯損等	7	―	+7	―	―	―	―	―	+7
合計	149	149	―	―	―	―	0	―	―

注）枯損等：評価書時点以降、立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木。

表 5.3.1-2(2)　樹木本数の変更の内訳（第二球場の一部）

単位：本

	変更後	変更前	差分						
				内訳					
				壁面位置の検討	伐採から存置へ見直し	伐採から移植へ見直し	移植から伐採へ見直し	土壌汚染	枯損等
存置樹木	10	14	−4	−3	―	0	0	0	−1
移植樹木	49	39	+10	+1	―	+10	−1	0	0
伐採樹木	42	50	−8	+2	―	−10	+1	0	−1
枯損等	2	―	+2	―	―	―	―	―	+2
合計	103	103	―	―	―	―	―	―	―

注 1）枯損等：評価書時点以降、立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木。
注 2）壁面位置が西側に膨らんだことにより、ラグビー場棟西側の存置樹木が減少している。

表 5.3.1-2(3)　樹木本数の変更の内訳（野球場三塁側の一部）

単位：本

	変更後	変更前	差分						
				内訳					
				壁面位置の検討	伐採から存置へ見直し	伐採から移植へ見直し	移植から伐採へ見直し	土壌汚染	枯損等
存置樹木	7	6	+1	―	+1	0	0	0	0
移植樹木	0	0	0	―	0	0	0	0	0
伐採樹木	6	7	−1	―	−1	0	0	0	0
枯損等	―	―	―	―	―	―	―	―	―
合計	13	13	―	―	―	―	―	―	―

注）枯損等：評価書時点以降、立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木。

(ｲ) 神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全について

神宮外苑広場（建国記念文庫）の既存樹木については設計の工夫を行った結果、ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らしている。また、図 4.2-2(p.27 参照)のセットバック部分に示したとおり、評価書に記載した保全エリアを拡大するとともに、ラグビー場棟の高さを都市計画上の最高高さよりも低く抑え、建物の北側を階段状とし、東側及び西側上部の壁面を建物側に傾斜させることで、日影範囲を低減することができ、既存樹木の保全に配慮している。

施設東側及び北側には都市計画上地区施設として定められている緑道を整備するが、ラグビー場棟の壁面位置と既存樹木の位置を詳細に確認したことで、変更前は移植予定であった東側道路沿いの樹木について、存置に変更することができ、既存樹木の存置や移植による保全に配慮している。さらに、新植による緑量の確保や質の向上にも配慮し、保全エリアにおける存置樹木の生育環境良化に向けて、歩行できるエリアは設置しつつ、樹木の生育環境のために立ち入りを制限するエリアは木チップ等で覆う計画とする。上記のとおり、樹木の伐採を可能な限り回避し、樹木の保全に努めるとともに神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアを可能な限り拡大するよう努めている。

改変する神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹林地について、再生復元する生態系に配慮した維持管理を行い、定期的なモニタリング状況に応じた順応的管理を継続し、将来にわたって緑地環境の保全を図る。

これらについては変更前後で変更はない。

イ．環境保全のための措置の具体化の状況

環境影響評価書で示した環境保全のための措置について、ラグビー場棟の計画・設計に関する事項は以下のとおりである。

■環境影響評価書で示した環境保全のための措置

①各施設の設計及び施工計画の詳細を決定していく中で、施工方法の工夫や樹木の保全に配慮した仕様とする。

②今後詳細な設計を実施するにあたり、存置する既存樹林の生育に影響が及ばないよう、既存樹木の根鉢と計画建物の地下躯体との離隔を保持する等、計画建物の配置等に配慮する。

③神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアの拡大について、施設設計の深度化と併せて継続的に検討し、可能な限り保全エリアを拡大するとともに、ラグビー場の配置、構造等の詳細設計において生物・生態系への影響を回避・最小化する措置について具体的な内容を検討する。

④神宮外苑広場（建国記念文庫）等の植栽樹は、存置もしくは移植により極力残す計画とする。

⑤ラグビー場の詳細な形状については今後、新ラグビー場設計者に対して、圧迫感の緩和、既存樹木の保全等に留意したデザインなどを、引き続き検討するよう要請する。また、改めて既存樹木について設計・施工の両面からの工夫等により存置又は移植を検討し、自然環境の保全に努めるよう要請する。

⑥ラグビー場棟の東側及び北側には都市計画上地区施設として定められている緑道を整備するほか、既存樹木の存置や移植による保全、新植による緑量の確保や質の向上にも配慮し、設計・建設等の各段階において関係機関と協議を行う。

今回、詳細な設計を進める中で、上記の環境保全のための措置を具体化した。その内容は下記のとおりである。

■環境保全のための措置の具体化の状況

・ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させ、神宮外苑広場（建国記念文庫）内の保全エリアをさらに拡大する計画とした。

・施設要件を満たす必要最低限の高さについて検討した結果、都市計画上の最高高さ制限 55mよりも低く、平均地盤面からの高さを約 48mとする。また、建物の北側を階段状とするとともに東側及び西側の上部の壁面を建物側に傾斜させることで、日影や景観、圧迫感に配慮するだけでなく、日照条件、樹幹と建物の離隔を図り、神宮外苑広場（建国記念文庫）敷地の樹木の生育環境の良化を図る計画とした。

・周辺環境との調和や景観に配慮し、保全エリアにおける存置樹木の生育環境良化に向けて、歩行できるエリアは設置しつつ、樹木の生育環境のために立ち入りを制限するエリアは木チップ等で覆う計画とした。

2) 計画地全体の既存樹木の変化の程度

「1) ラグビー場棟敷地内の既存樹木の変化の程度」に記載した存置、移植、伐採樹木の計画の変更に加え、「事後調査報告書（工事の施行中その 2)」にて報告した既存樹木の毎木調査において、生育状況等をより詳細に把握した結果新たに移植可能と判断される樹木も確認されたため、計画地全体の既存樹木の存置、移植、伐採樹木の本数についても変更する。

変更前後における樹木本数は、表 5.3.1-3 に示すとおりである。

なお、変更前後における存置、移植、伐採樹木の配置や、存置、移植、伐採の扱いを変更した樹木は、資料編に示すとおりである。

表 5.3.1-3　変更前後における存置、移植、伐採樹木の本数

	変更後	変更前
存置樹木	616 本（629 本）	615 本
移植樹木	193 本（195 本）	191 本
移植検討樹木	19 本（19 本）	19 本
伐採樹木	511 本（529 本）	556 本
合計	1,339 本（1,381 本）	1,381 本

注）()内の数値は、枯損等（評価書時点以降、立ち枯れや腐朽等により、安全管理上の対策を講じ、撤去した樹木）42 本を含めた本数を示す。

(6) 評　価

変更後における評価の指標は、既存樹木の保全が図られることとした。

ラグビー場棟について、敷地条件や施設仕様を踏まえて、詳細な形状について設計・検討を行った結果、以下の方針とした。

・ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させることで、存置・移植樹木を増やし、伐採樹木を減らす。
・ラグビー場棟の高さを都市計画上の最高高さよりも低く抑え、建物の北側を階段状とするとともに東側及び西側の上部の壁面を建物側に傾斜させることで、樹木の生育環境を良化する。
・ラグビー場棟の壁面位置と既存樹木の位置を詳細に確認したことで、変更前は移植予定であった東側道路沿いの樹木について、存置に変更する。

上記の結果、ラグビー場棟敷地内の樹木の本数は、変更前は存置が 78 本、移植が 89 本であるのに対し、変更後は存置が 92 本、移植が 93 本となり、存置及び移植の本数が増加する。また、伐採は変更前が 98 本であるのに対し、変更後は 71 本に減少する。ラグビー場棟の北東角を最大限後退させること等により、ラグビー場棟敷地内の神宮外苑広場（建国記念文庫）の保全エリアを拡大する計画とし、神宮外苑広場（建国記念文庫）内の存置樹木を 19 本増加させることができた。

したがって、評価の指標とした既存樹木の保全に配慮しているものと考え、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。

5.3.2 日影

(1) 予測事項

事業計画の変更に伴い予測・評価の見直しを行う事項は、「冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度」、「日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度」とした。

(2) 予測の対象時点

予測の対象時点は、変更前と同様、計画建築物の工事の完了後で、日影が最も長くなる冬至日とした。

(3) 予測地域（予測地点）

1) 冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度

変更前と同様、冬至日の真太陽時における 8 時から 16 時までに、計画建築物による日影が生じると想定される範囲とした。

2) 日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度

変更前と同様、計画地近傍において、冬至日の真太陽時における 8 時から 16 時までに、計画建築物による日影の影響に特に配慮すべき施設の付近とし、ラグビー場棟近傍の図 5.3.2-1 に示す 2 地点とした。

なお、No.4 地点については、評価書においては地点名称を「新国立競技場南東側交差点」としていたが、竣工から 4 年以上が経過しているため、地点名称を「国立競技場南東側交差点」に変更した。

(4) 予測方法

1) 予測方法

予測方法に変更はない。

2) 予測条件

変更後、変更前の予測条件は、表 5.3.2-1(1)～(2)に示すとおりである。

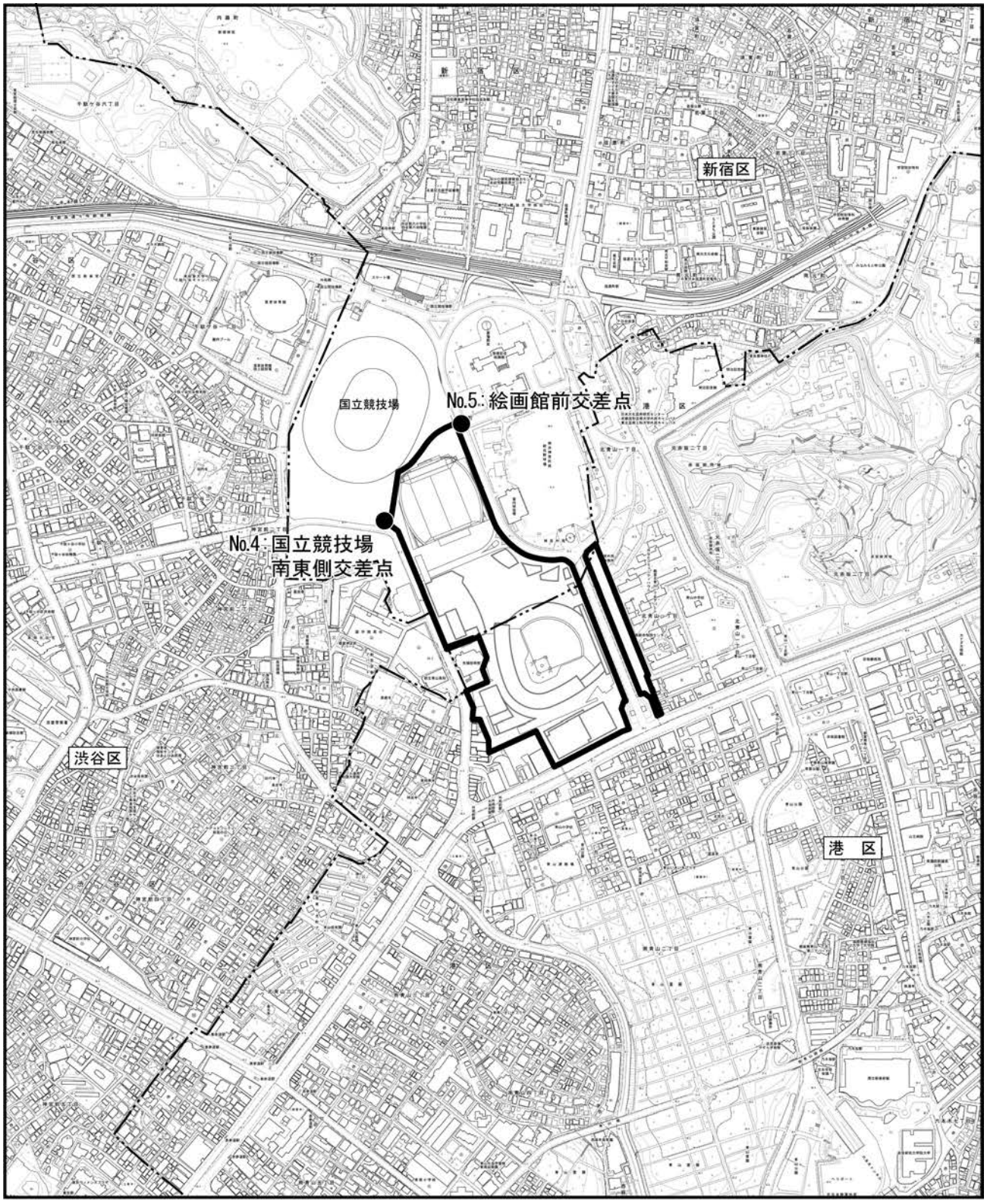
表5.3.2-1(1)　日影の予測条件【変更後】

項　　目	条　　件
計画地の位置及び形状	「3 対象事業の目的及び内容　3.3 対象事業の内容」
建築物の高さ	ラグビー場棟：約 48m、複合棟 A：約 185m、複合棟 B：約 80m、文化交流施設棟：約 6m、野球場棟及び球場併設ホテル棟：約 60m、事務所棟：約 190m
日影測定面の位置	平均地盤面(T.P.+約 30m)から高さ 4m の位置 (建築基準法第 56 条の 2 によって定められた日影規制の基準となる測定面の位置)
予測の時期	計画建築物の建設完了後の冬至日
予測の時間帯	真太陽時の 8 時から 16 時
予測に用いた緯度	北緯 36 度 00 分

注）下線は変更した箇所を示す。

表5.3.2-1(2)　日影の予測条件【変更前】

項　　目	条　　件
計画地の位置及び形状	「3 対象事業の目的及び内容　3.2 事業の内容」
建築物の高さ	ラグビー場棟：約 55m、複合棟 A：約 185m、複合棟 B：約 80m、文化交流施設棟：約 6m、野球場棟及び球場併設ホテル棟：約 60m、事務所棟：約 190m
日影測定面の位置	平均地盤面(T.P.+約 30m)から高さ 4m の位置 (建築基準法第 56 条の 2 によって定められた日影規制の基準となる測定面の位置)
予測の時期	計画建築物の建設完了後の冬至日
予測の時間帯	真太陽時の 8 時から 16 時
予測に用いた緯度	北緯 36 度 00 分



凡　例

- 計画地
- 区界
- ● 日影調査地点（No.4、5）

N

S＝1／12,000

0　100　200　300m

注）ラグビー場棟の近傍の調査地点について再予測を行った。

図5.3.2-1　日影調査地点

(5) 予測結果

1) 冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度

変更後、変更前の冬至日の平均地盤面から 4mの高さにおける計画建築物による時刻別日影図は、図 5.3.2-2(1)～(2)に、ラグビー場棟による時刻別日影図は、図 5.3.2-3(1)～(2)に示すとおりである。計画建築物による等時間日影図は、図 5.3.2-6(1)～(2)に、ラグビー場棟による等時間日影図は、図 5.3.2-7(1)～(2)に示すとおりである。

変更前と同様に、8 時から 16 時の時間帯で日影が及ぶ範囲は、計画地から北西方向に約 1.1km 離れた千駄ヶ谷四丁目から北東方向に約 1.2km 離れた赤坂御用地内までの範囲であると予測する。

計画建築物により 2 時間以上の日影が及ぶ範囲は、変更前は計画地の敷地境界から最大約 70m の範囲であったのに対し、変更後は最大約 60m の範囲となる。計画建築物による日影は、日影規制のある地域において、日影規制ライン（敷地境界線から 10m）を越えて 2 時間以上及ぶことはなく、かつ、日影規制ライン（敷地境界線から 5m）を越えて 3 時間以上及ぶことはない。加えて、計画地周辺は概ね再開発等促進区を定める地区計画の地区整備計画の範囲となり、日影規制の適用除外となったことから、計画建築物による日影時間は日影規制の範囲内に収まる。

なお、変更前後のラグビー場棟による春・秋分の時刻別日影図は、図 5.3.2-4(1)～(2)に、春・秋分の等時間日影図は、図 5.3.2-8(1)～(2)に、夏至の時刻別日影図は、図 5.3.2-5(1)～(2)に、夏至の等時間日影図は、図 5.3.2-9(1)～(2)に示すとおりである。

今回の変更では、ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させた。さらに、ラグビー場棟の最高高さを低くし、建物の北側を階段状として、東側及び西側の上部の壁面を建物側に傾斜させることで、夏至及び春・秋分の日影の範囲が縮小している。

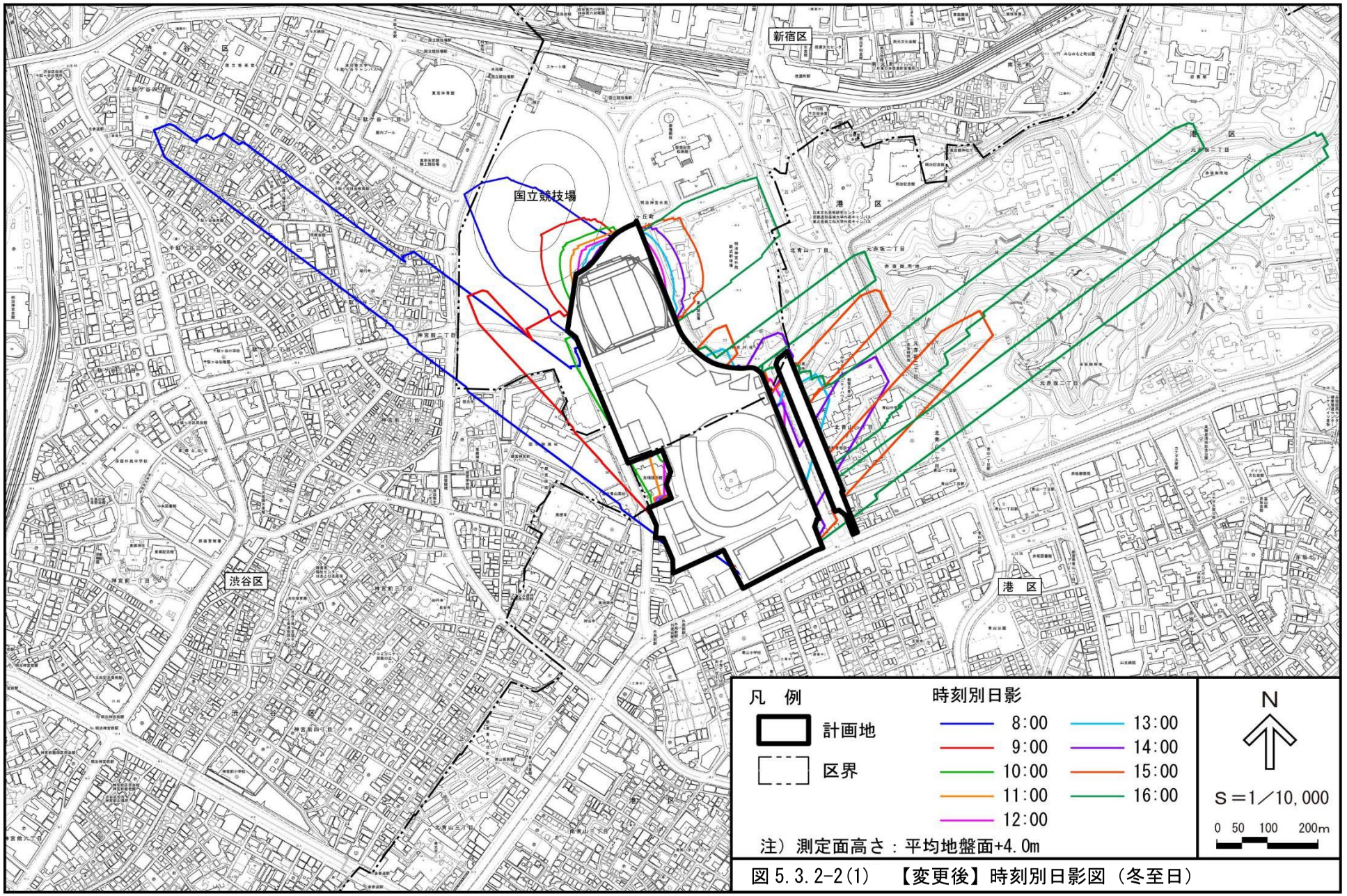


図 5.3.2-2(1)　【変更後】時刻別日影図（冬至日）

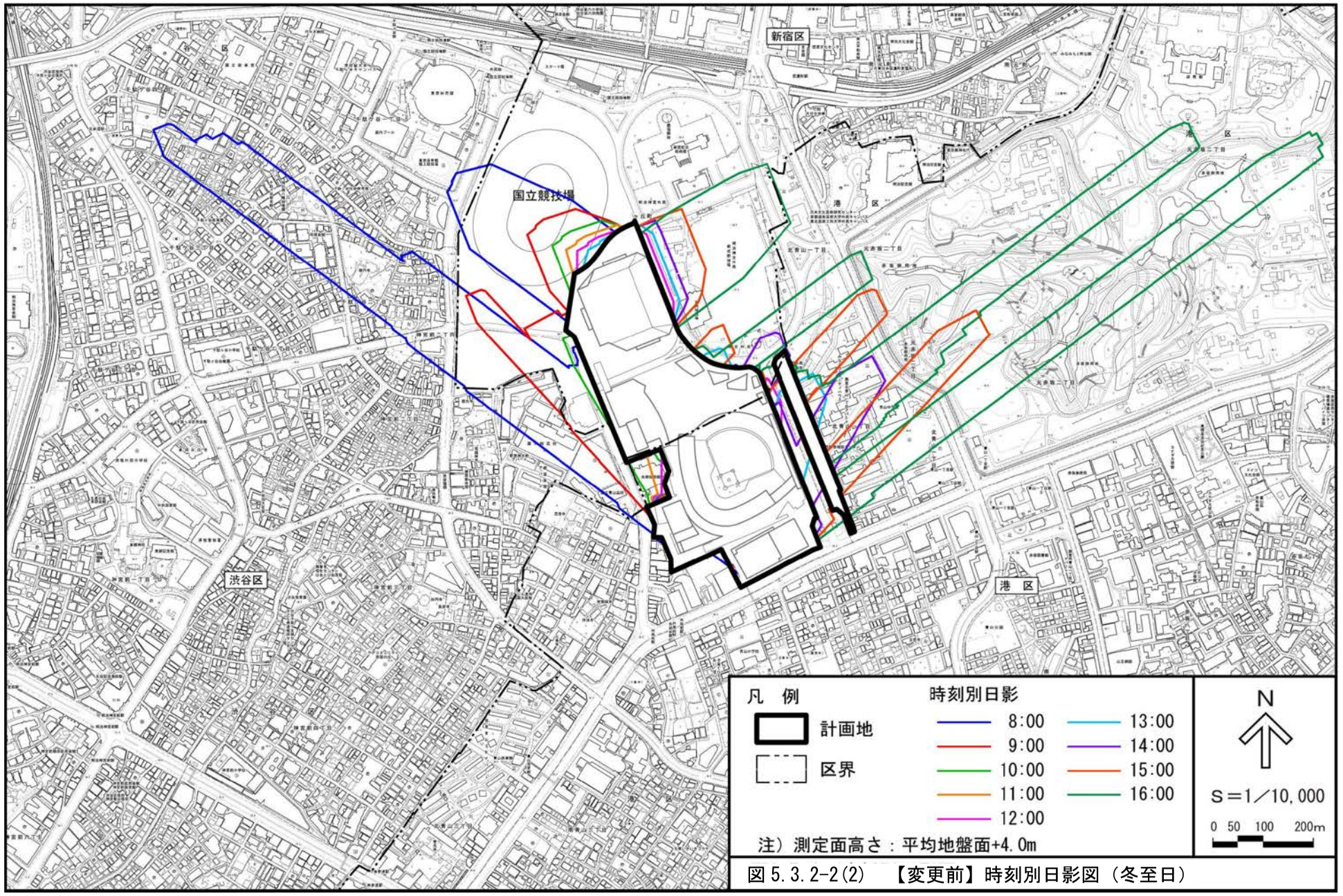


図 5.3.2-2(2)　【変更前】時刻別日影図（冬至日）

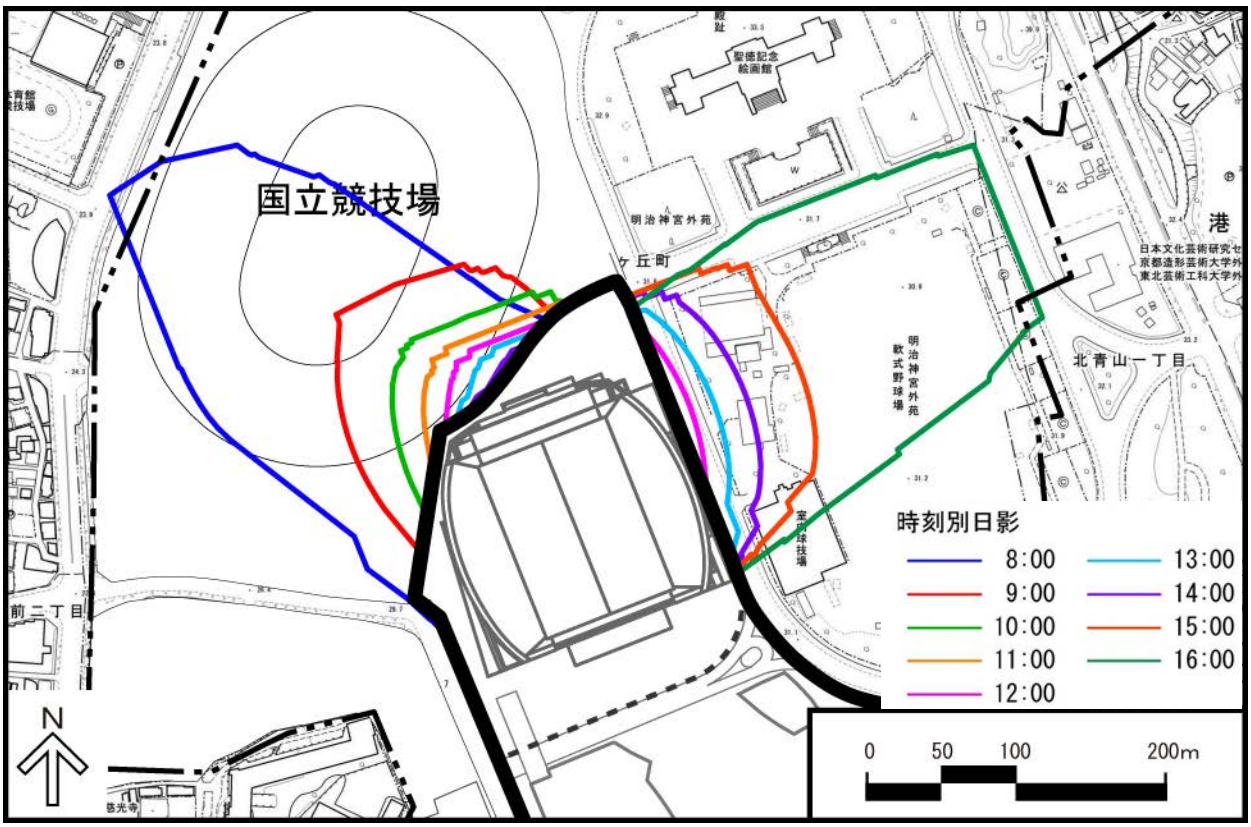


図5.3.2-3(1)　【変更後】時刻別日影図（冬至日）

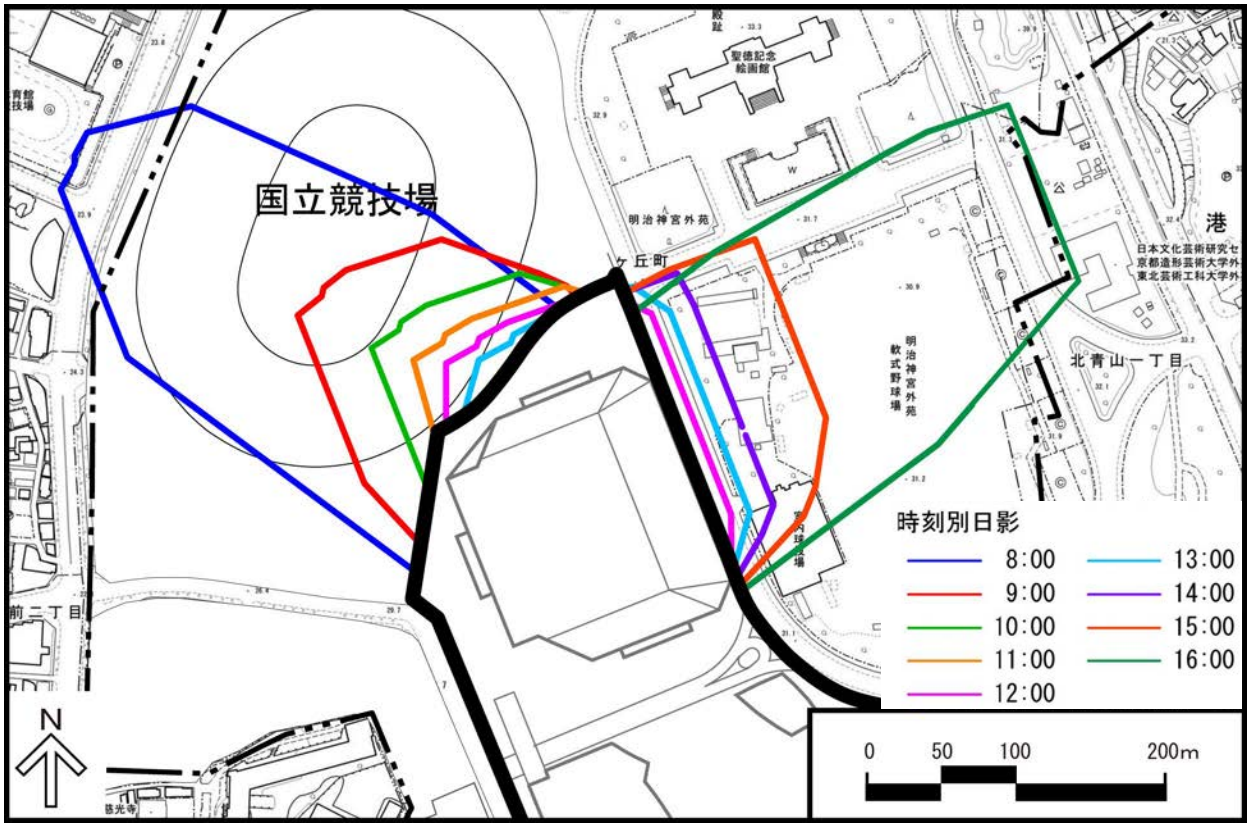


図5.3.2-3(2)　【変更前】時刻別日影図（冬至日）

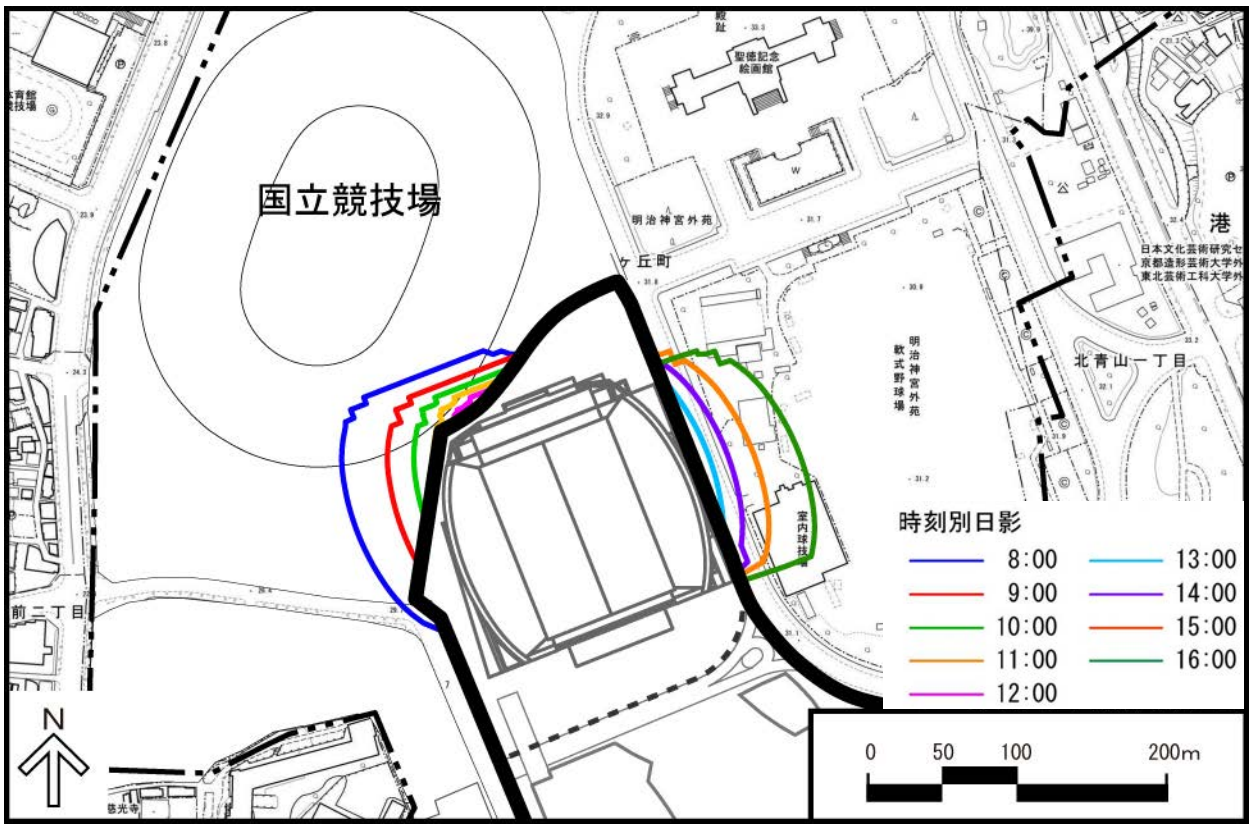


図5.3.2-4(1)　【変更後】時刻別日影図（春・秋分）

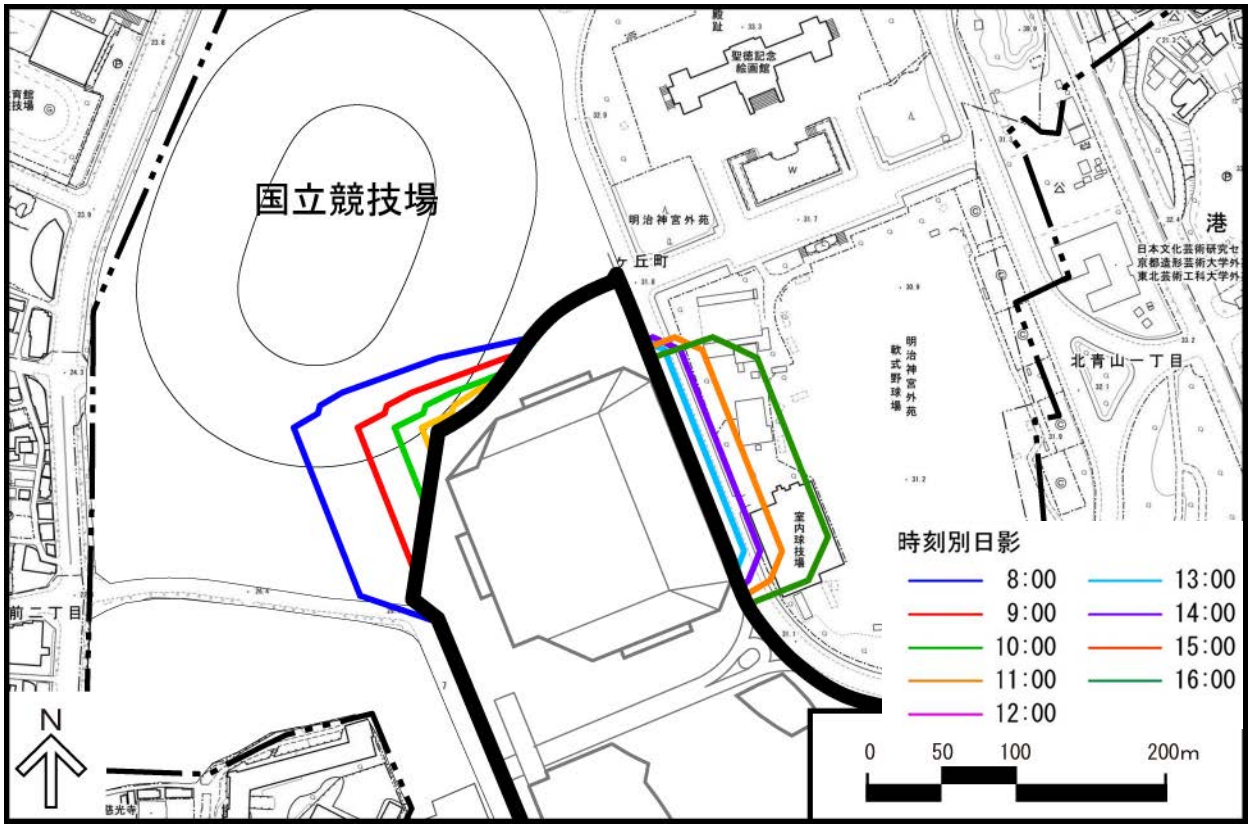


図5.3.2-4(2)　【変更前】時刻別日影図（春・秋分）

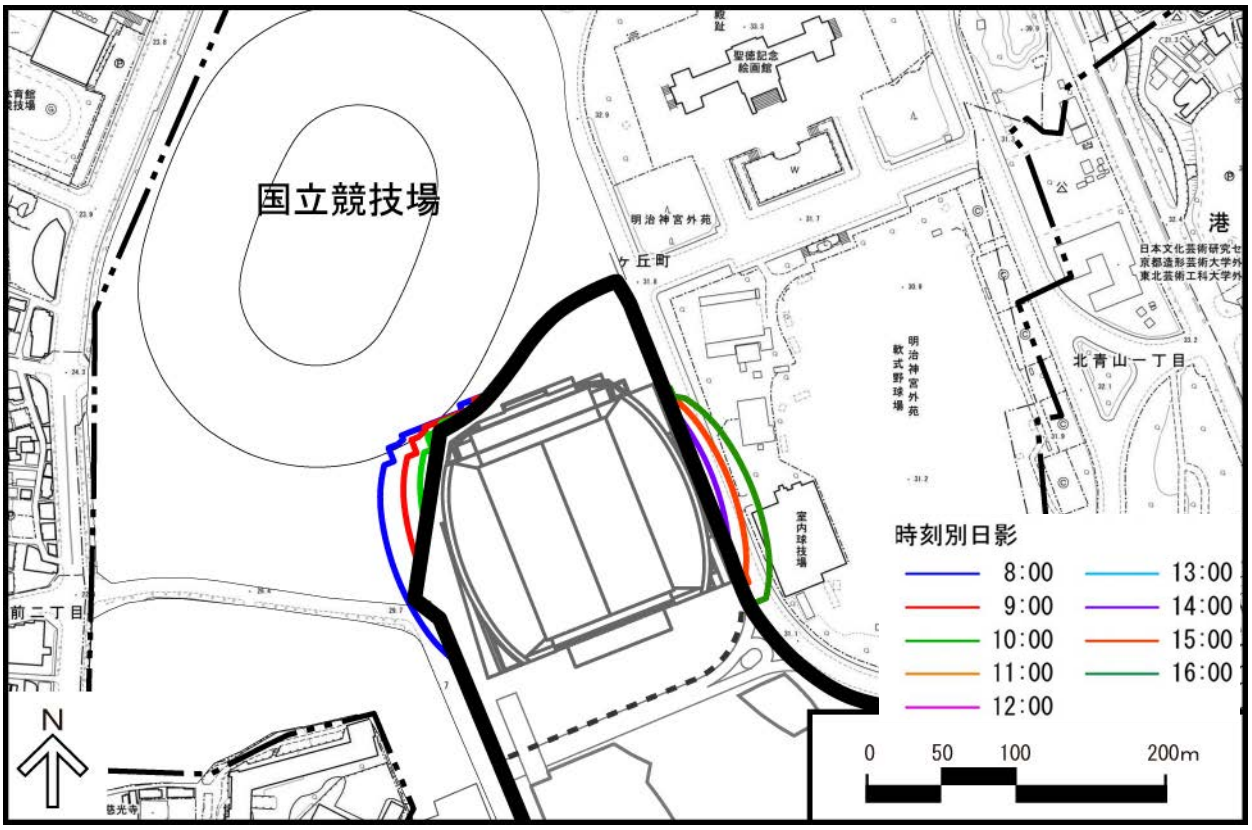


図5.3.2-5(1)　【変更後】時刻別日影図（夏至）

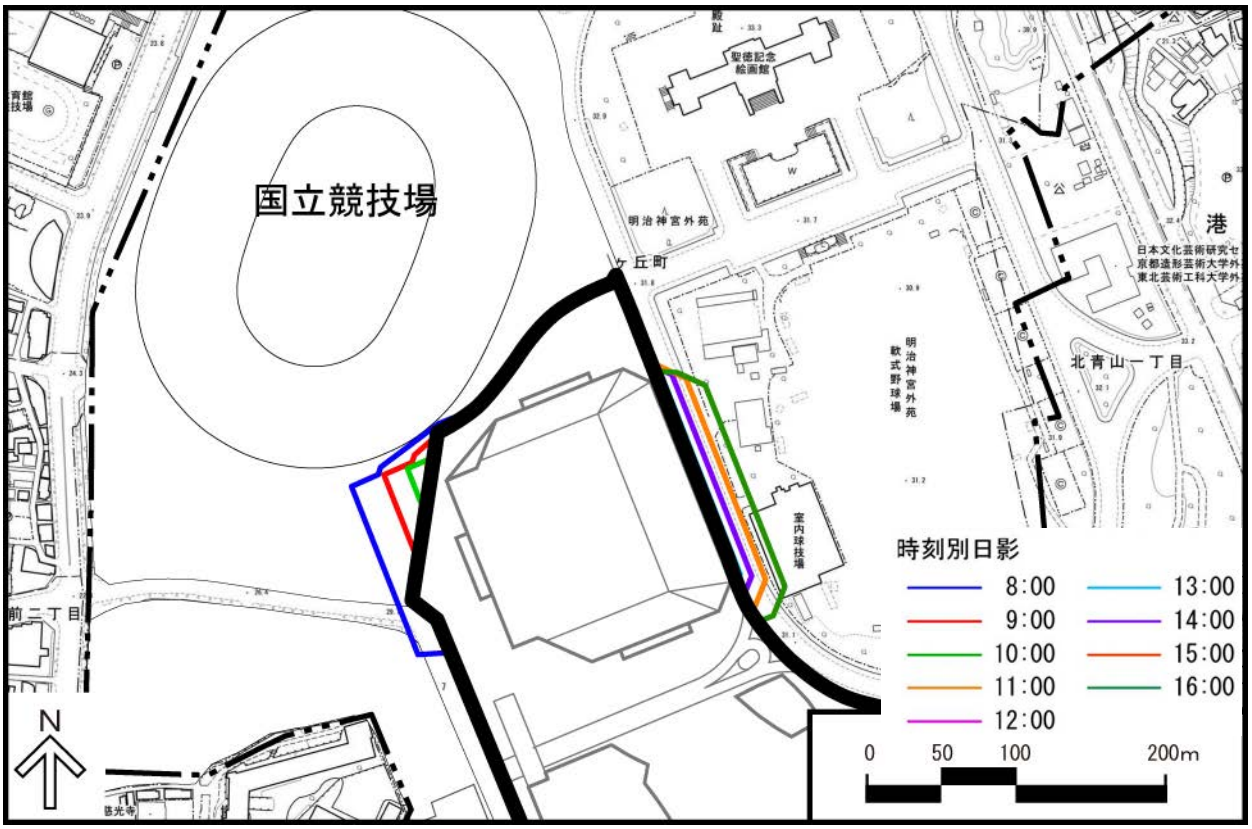
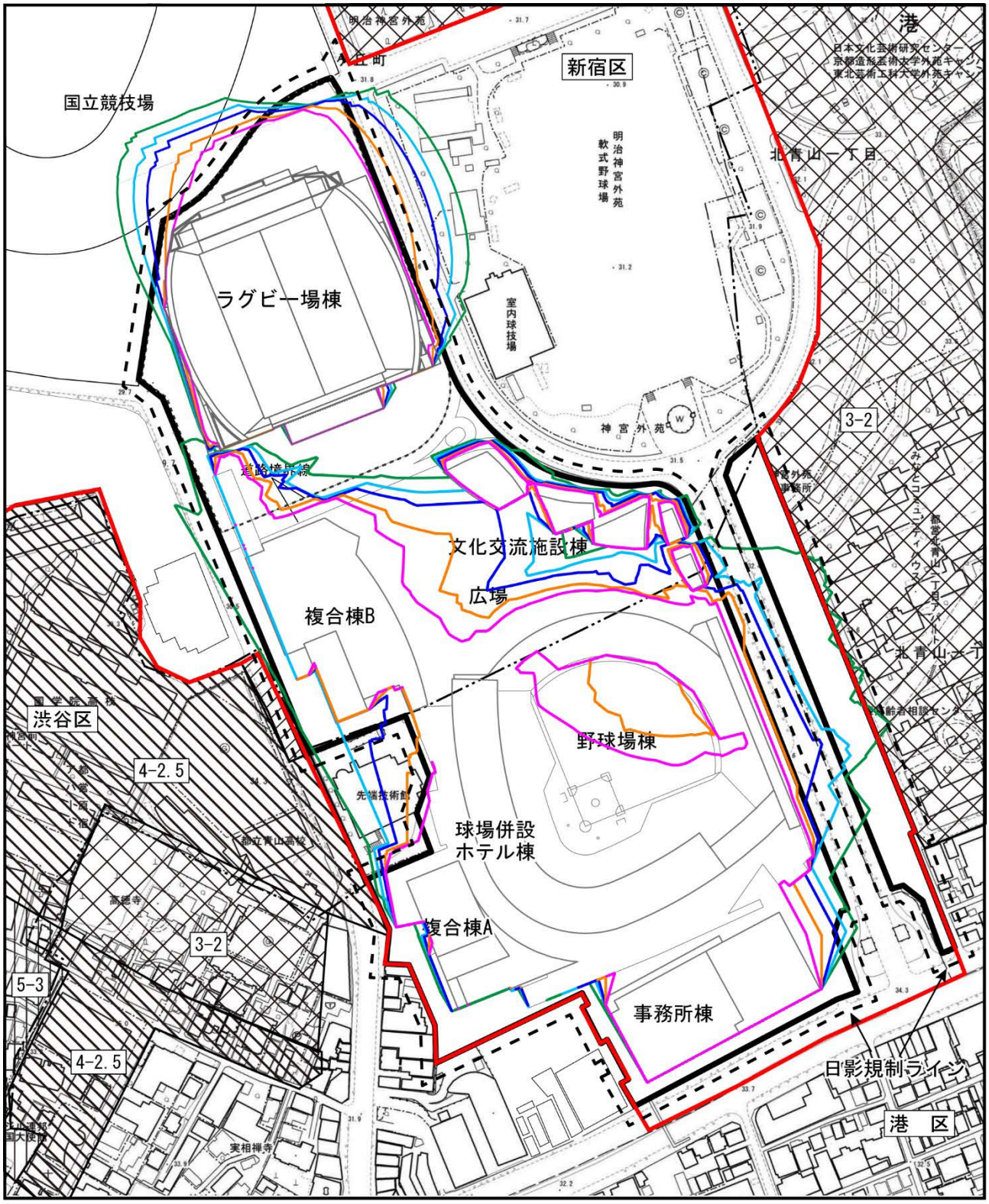


図5.3.2-5(2)　【変更前】時刻別日影図（夏至）

（空　白）



凡　例

- 計画地
- 区界
- ラグビー場棟敷地範囲
- 日影規制ライン（敷地境界線から10m）
- 再開発等促進区を定める地区計画の地区整備計画の範囲

日影時間

- 2時間
- 2.5時間
- 3時間
- 4時間
- 5時間

	規制される日影時間		測定水平面
	敷地境界線からの水平距離が5mを超え10m以内の範囲	敷地境界線からの水平距離が10mを超える範囲	(平均地盤面からの高さ)
▨	3時間	2 時間	4.0m
▨	4時間	2.5時間	4.0m
▨	4時間	2.5時間	6.5m
▨	5時間	3 時間	4.0m
▨	5時間	3 時間	6.5m

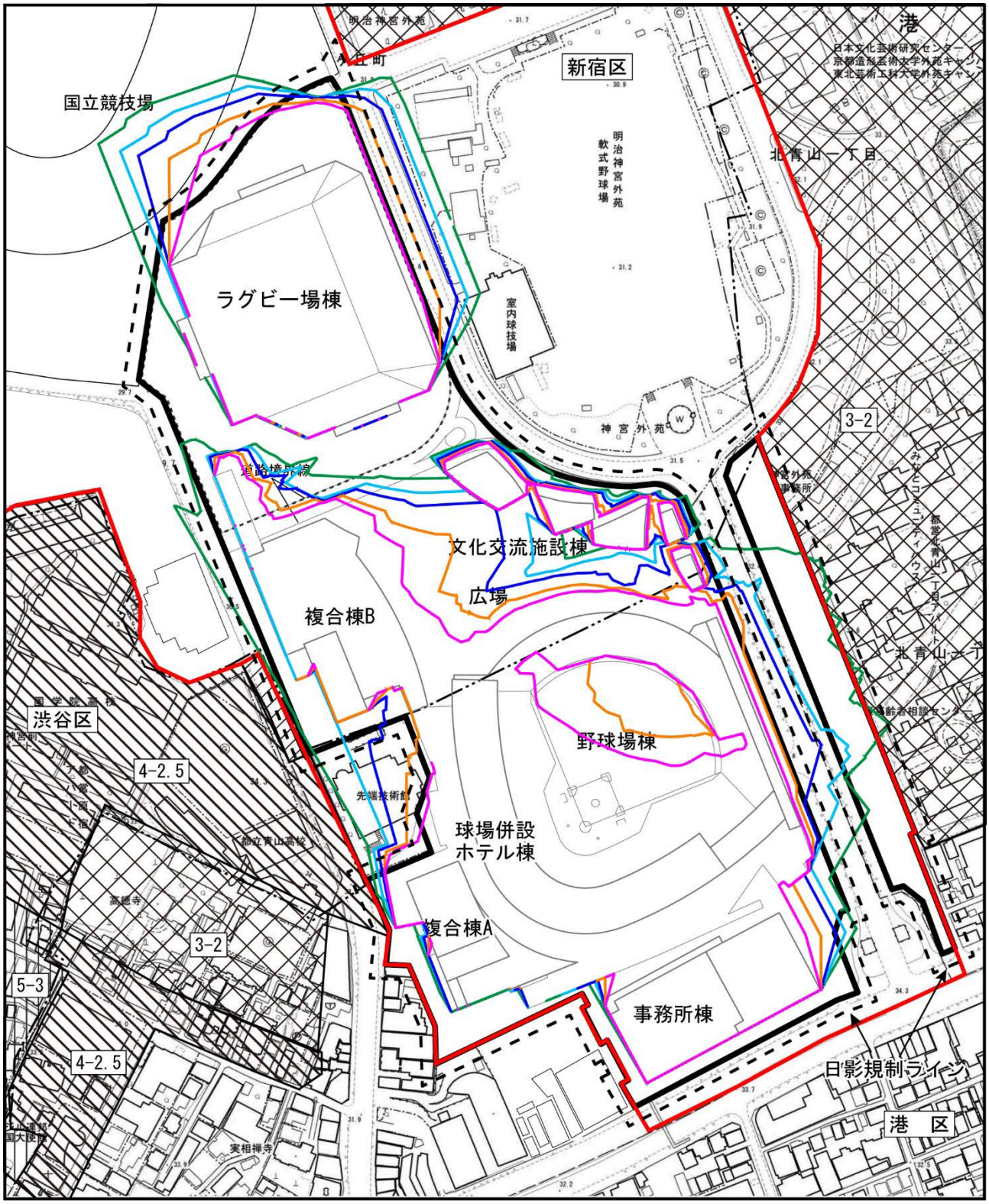
注）再開発等促進区を定める地区計画の地区整備計画の範囲は日影規制の適用除外となる

N

S＝1／4,000

0　40　80　120m

図 5.3.2-6(1)　【変更後】等時間日影図（冬至日）



凡 例

日影時間

- 2時間
- 2.5時間
- 3時間
- 4時間
- 5時間

計画地

区界

ラグビー場棟敷地範囲

日影規制ライン(敷地境界線から10m)

再開発等促進区を定める地区計画の地区整備計画の範囲

	規制される日影時間		測定水平面
	敷地境界戦からの水平距離が5mを超え10m以内の範囲	敷地境界戦からの水平距離が10mを超える範囲	(平均地盤面からの高さ)
	3時間	2 時間	4.0m
	4時間	2.5時間	4.0m
	4時間	2.5時間	6.5m
	5時間	3 時間	4.0m
	5時間	3 時間	6.5m

注）再開発等促進区を定める地区計画の地区整備計画の範囲は日影規制の適用除外となる

N

S＝1／4,000

0 40 80 120m

図 5.3.2-6(2)　【変更前】等時間日影図（冬至日）

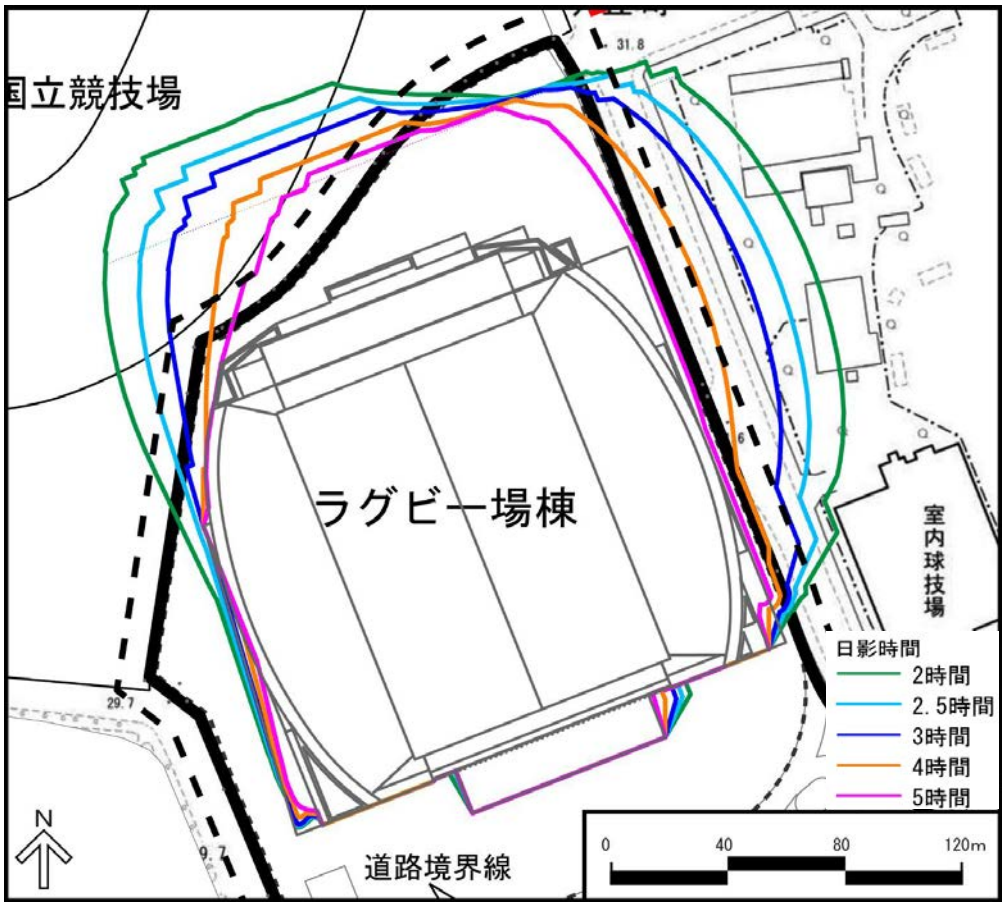


図5.3.2-7(1)　【変更後】等時間日影図（冬至日）

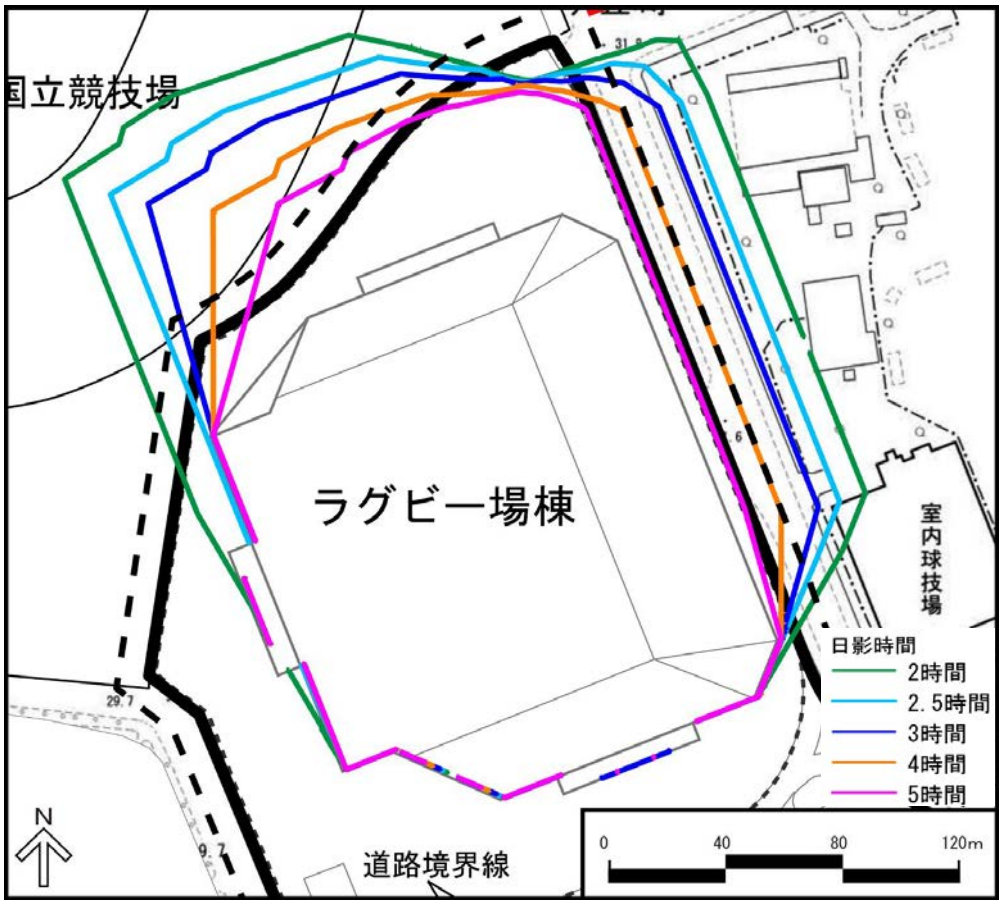


図5.3.2-7(2)　【変更前】等時間日影図（冬至日）

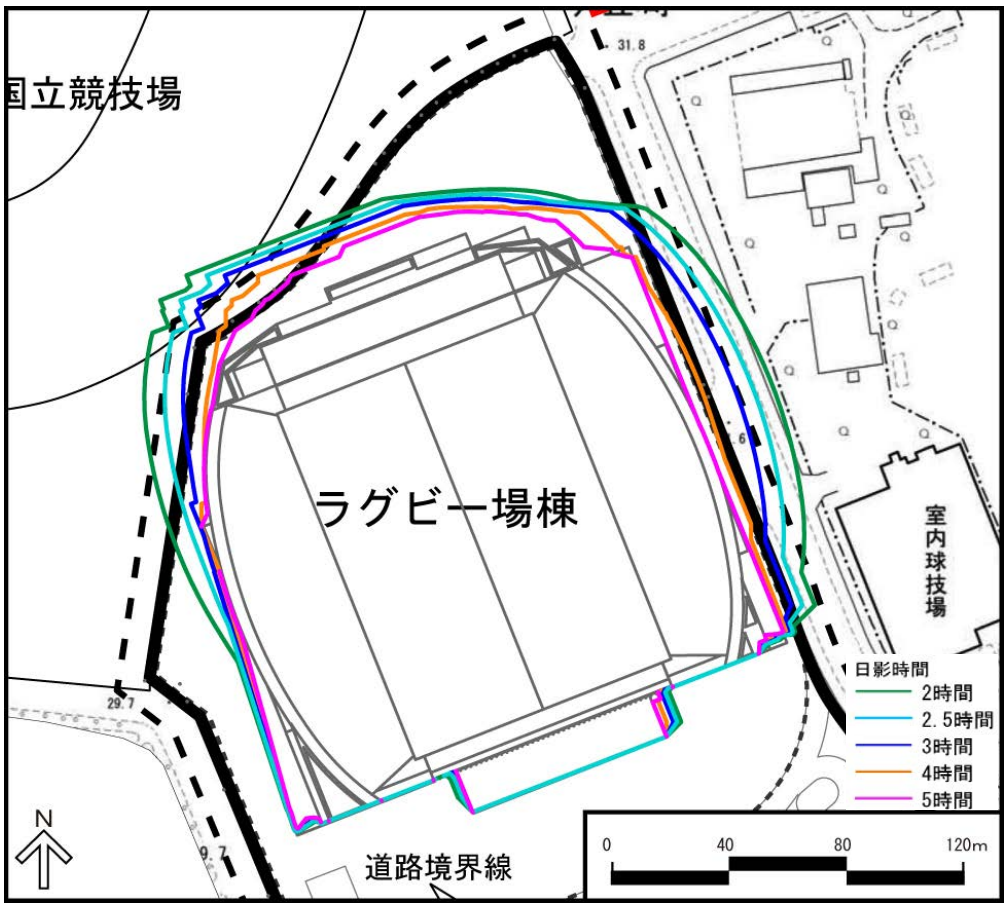


図5.3.2-8(1)　【変更後】等時間日影図（春・秋分）

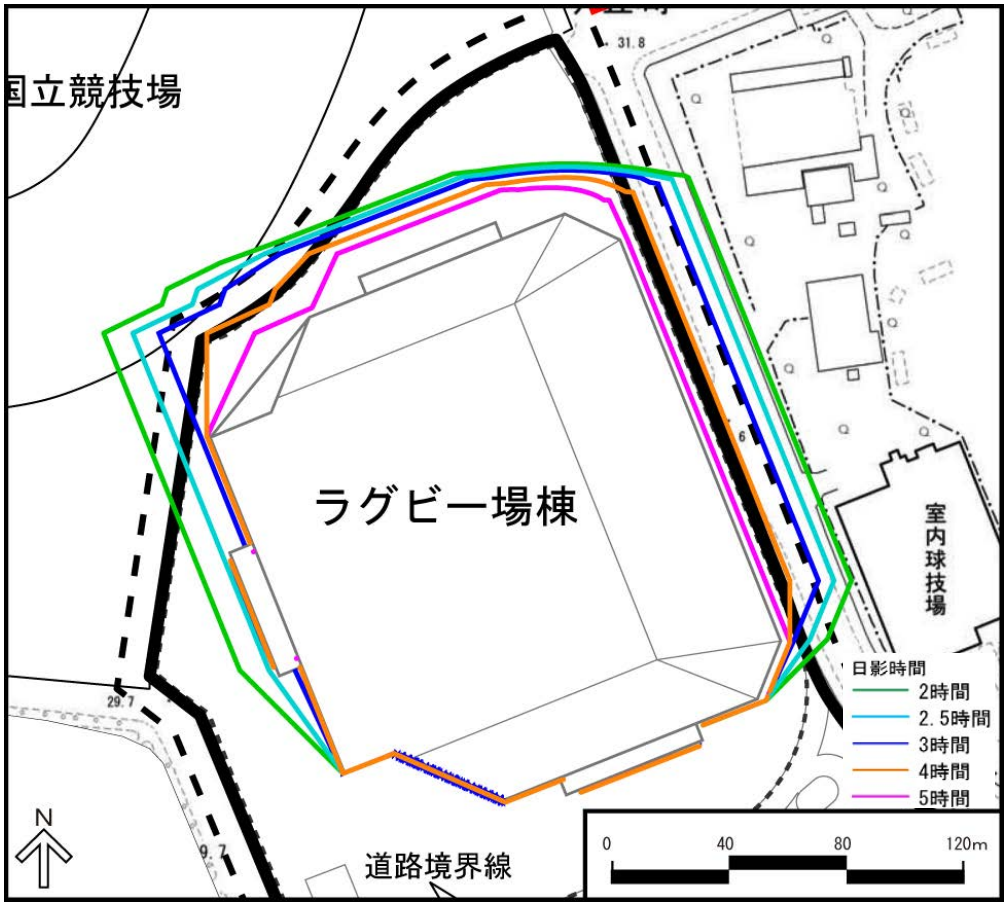


図5.3.2-8(2)　【変更前】等時間日影図（春・秋分）

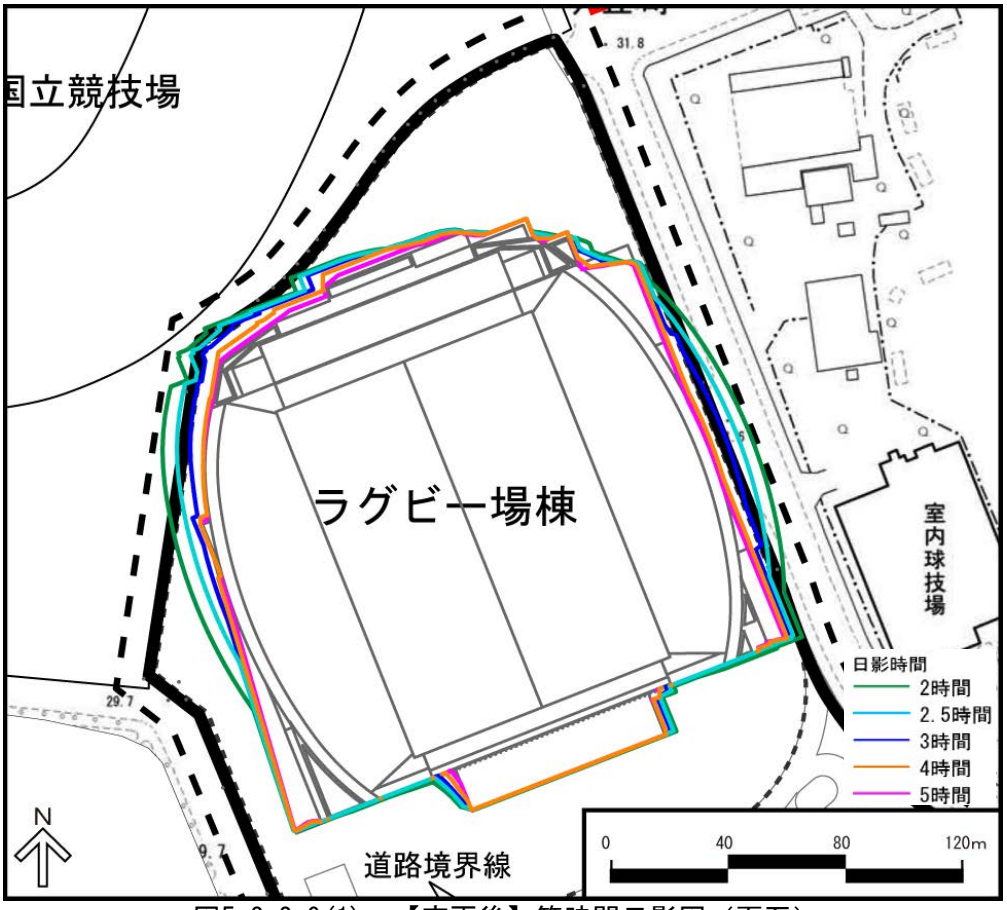


図5.3.2-9(1)　【変更後】等時間日影図（夏至）

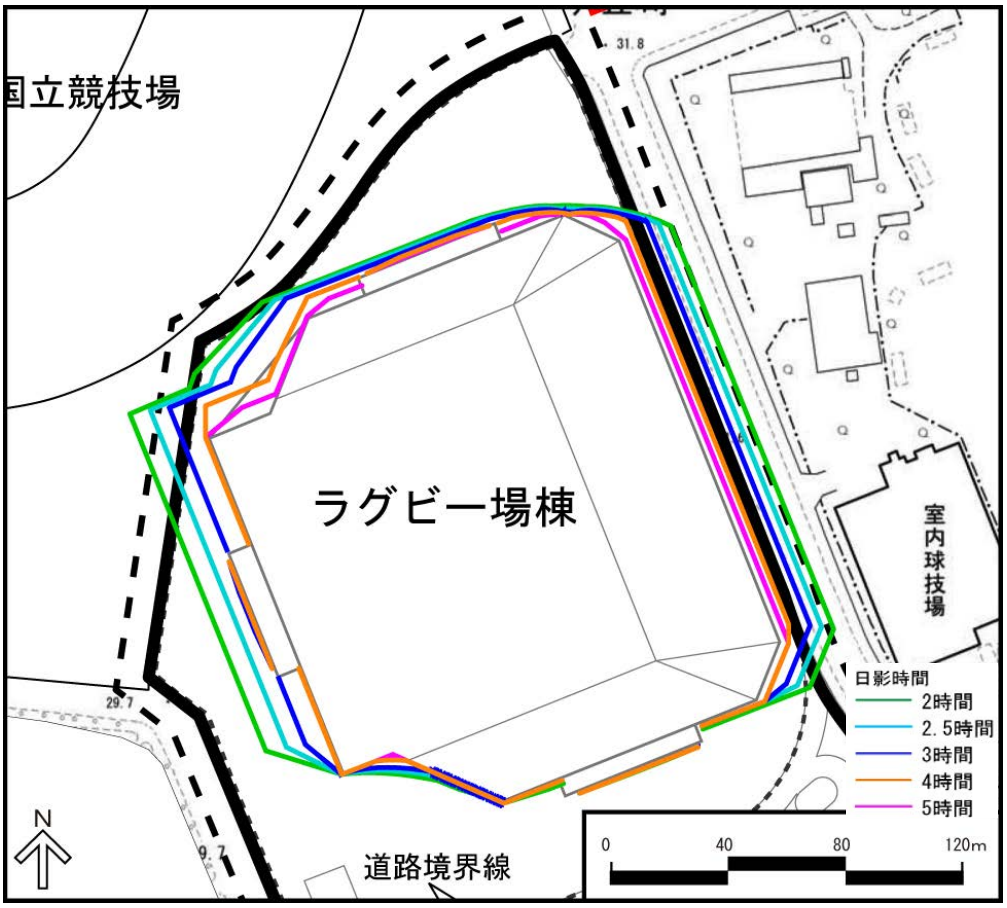


図5.3.2-9(2)　【変更前】等時間日影図（夏至）

2) 日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度

変更後、変更前の計画建築物による日影の状況を予測した合成天空写真は、写真 5.3.2-1～2 に、主要な地点における日影時間の変化の程度は、表 5.3.2-2 に示すとおりである。

No.4 地点では、変更前では夏至日において約 30 分、冬至日において約 40 分、計画建築物による日影時間が増加するのに対し、変更後では夏至日において約 10 分、冬至日において約 40 分、計画建築物による日影時間が増加する。春・秋分において、変更前では計画建築物による日影時間の変化はないが、変更後では約 10 分、計画建築物による日影時間が減少する。No.5 地点では、変更前では冬至日においてのみ約 3 時間 40 分、計画建築物による日影時間が増加するのに対し、変更後では冬至日においてのみ約 2 時間 40 分、計画建築物による日影時間が増加する。

表 5.3.2-2(1)　主要な地点における日影時間【変更後】

地点	時刻		8	9	10	11	12	13	14	15	16	日影の生じる時間	現況からの変化量
No.4	夏至日	現況										－	－
		工事の完了後										10 分	10 分
	春・秋分	現況										30 分	－
		工事の完了後										20 分	-10 分
	冬至日	現況										3 時間 20 分	－
		工事の完了後										4 時間	40 分
No.5	夏至日	現況										－	－
		工事の完了後										－	なし
	春・秋分	現況										－	－
		工事の完了後										－	なし
	冬至日	現況										30 分	－
		工事の完了後										3 時間 10 分	2 時間 40 分

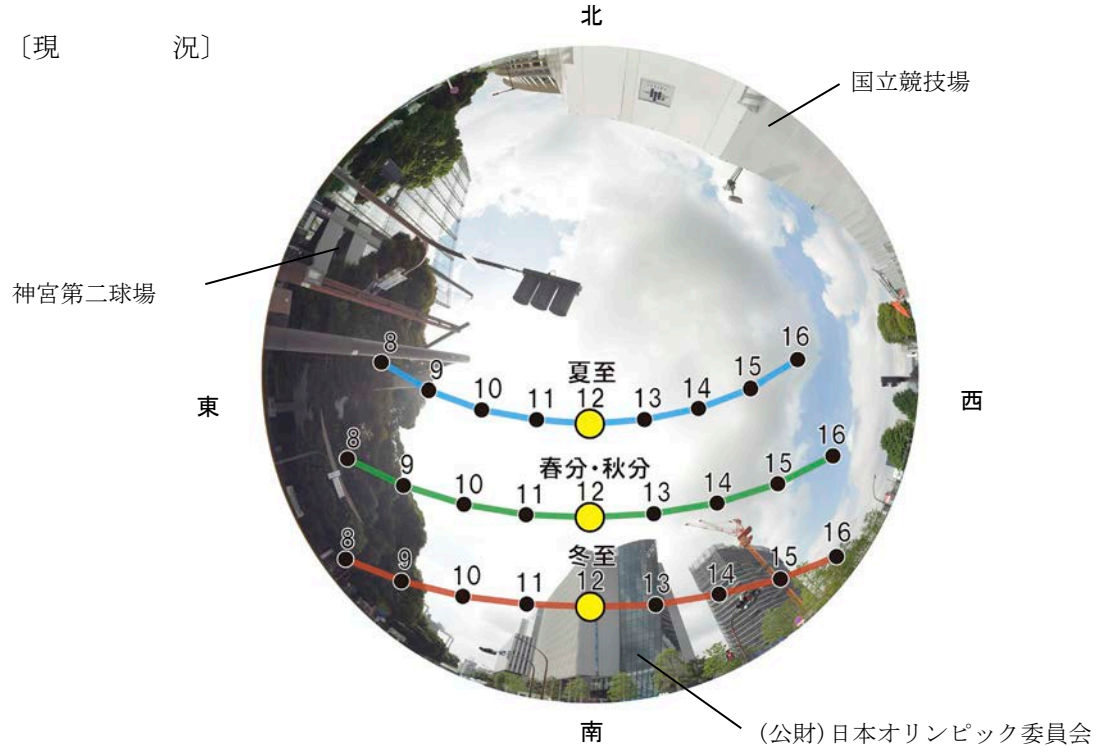
注 1）植栽、道路標識等による日影については、日影時間に含まない。
注 2）■：日影時間、▨：計画建築物による日影時間
注 3）下線部分は変更となった箇所を示す。

表 5.3.2-2(2)　主要な地点における日影時間【変更前】

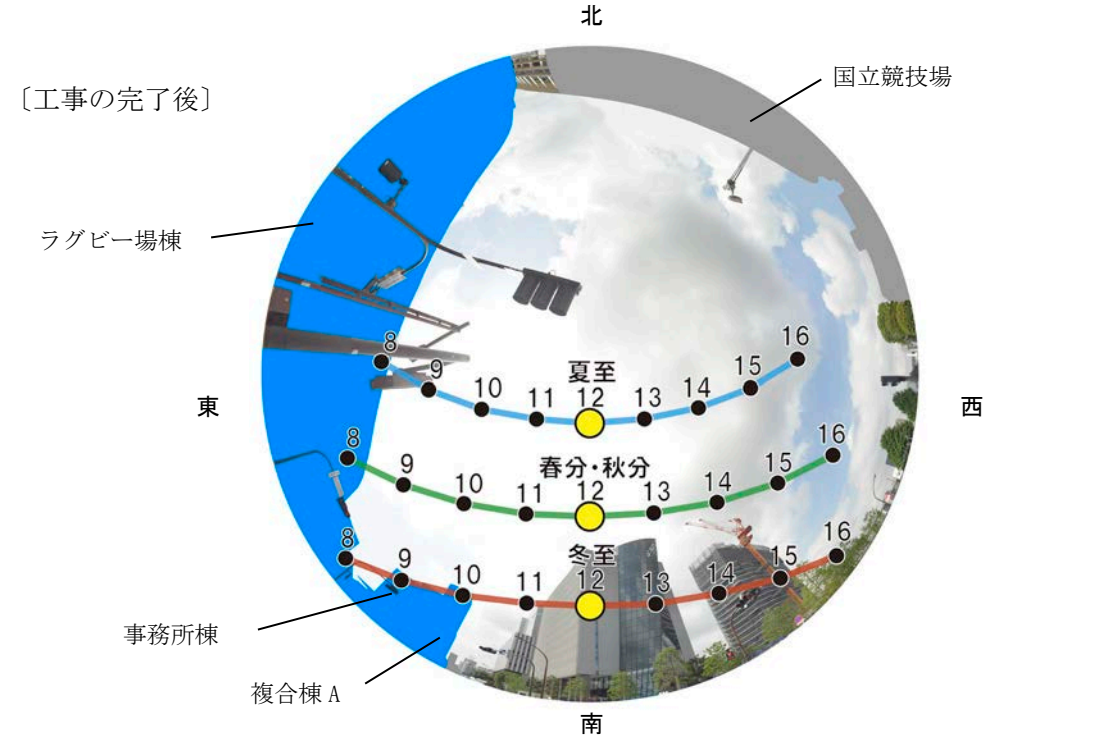
地点	時　刻		8	9	10	11	12	13	14	15	16	日影の生じる時間	現況からの変化量
No.4	夏至日	現況										－	－
		工事の完了後										30 分	30 分
	春・秋分	現況										30 分	－
		工事の完了後										30 分	なし
	冬至日	現況										3 時間 20 分	－
		工事の完了後										4 時間	40 分
No.5	夏至日	現況										－	－
		工事の完了後										－	なし
	春・秋分	現況										－	－
		工事の完了後										－	なし
	冬至日	現況										30 分	－
		工事の完了後										4 時間 10 分	3 時間 40 分

注 1）植栽、道路標識等による日影については、日影時間に含まない。
注 2）■：日影時間、▨：計画建築物による日影時間

〔現　　況〕



〔工事の完了後〕



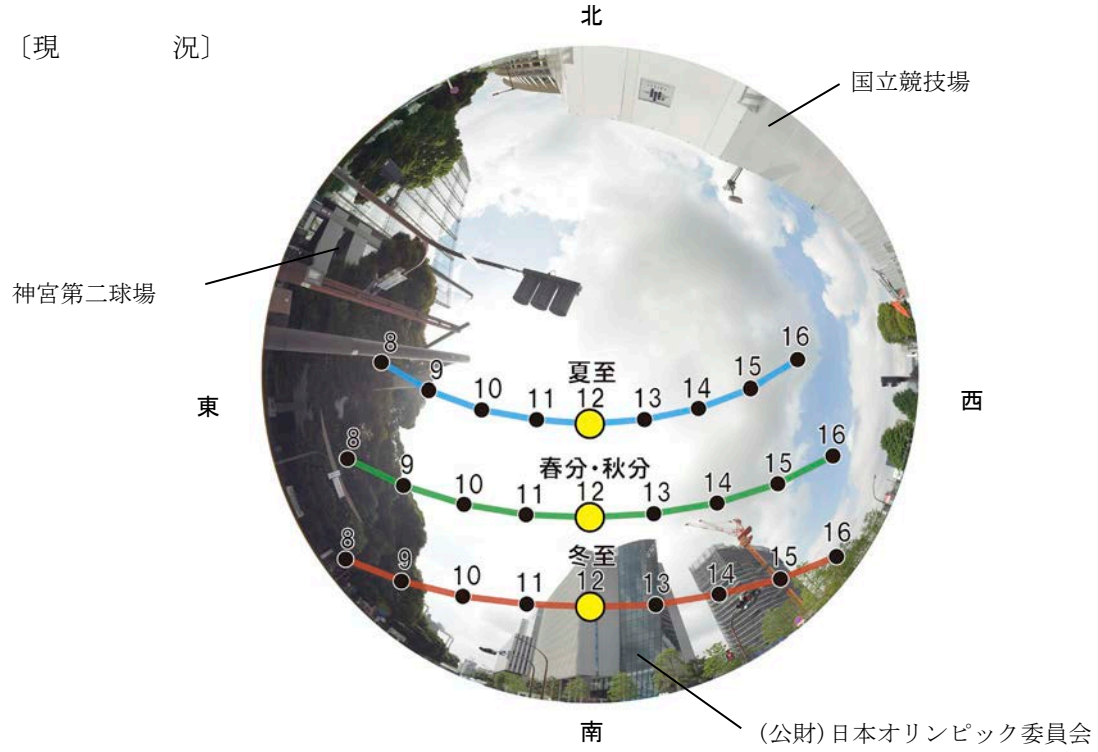
時　刻		8	9	10	11	12	13	14	15	16	日影の生じる時間	現況からの変化量
夏至日	現況										－	－
	工事の完了後		▨								10 分	10 分
春・秋分	現況		■								30 分	－
	工事の完了後		▨								20 分	-10 分
冬至日	現況				■	■	■	■	■		3 時間 20 分	－
	工事の完了後		▨	▨	■	■	■	■	■		4 時間	40 分

夏至日における 8 時から 16 時の現況の日影時間はなく、工事の完了後の日影時間は、約 10 分である。
冬至日における 8 時から 16 時の現況の日影時間は、約 3 時間 20 分であり、工事の完了後の日影時間は、約 4 時間である。計画建築物により、日影時間は最大 40 分増加する。

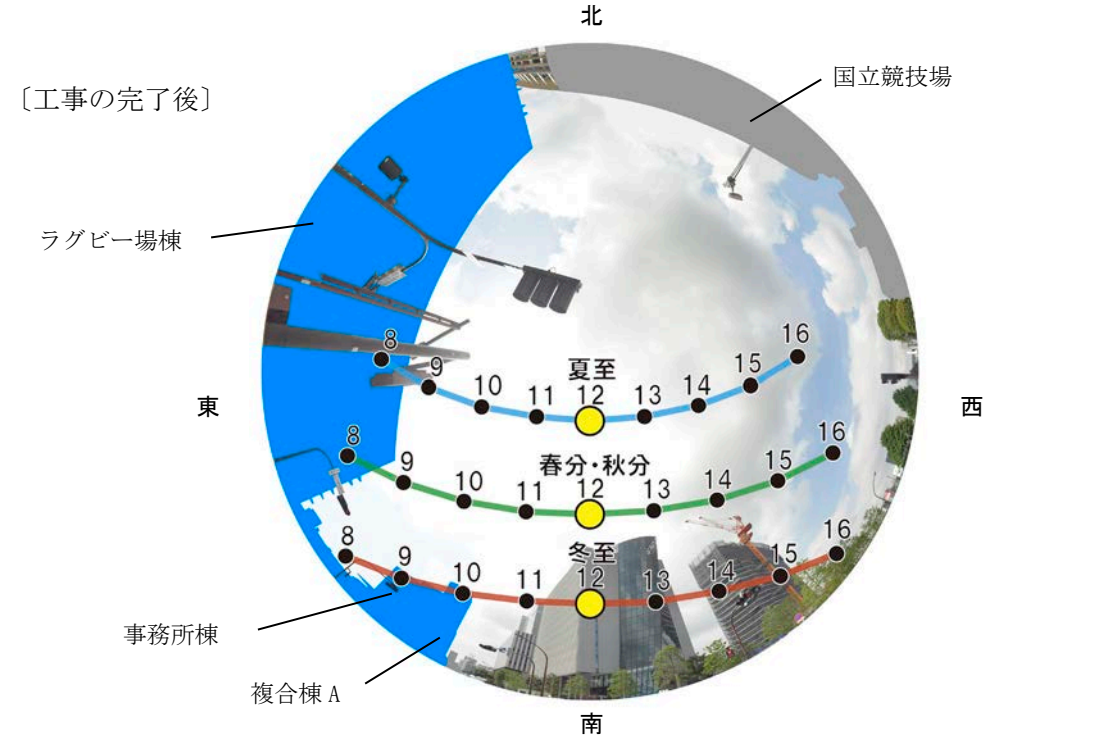
注）下線部分は変更となった箇所を示す。

写真 5.3.2-1(1)　天空写真（No.4 地点　国立競技場南東側交差点）【変更後】

〔現　　況〕



〔工事の完了後〕

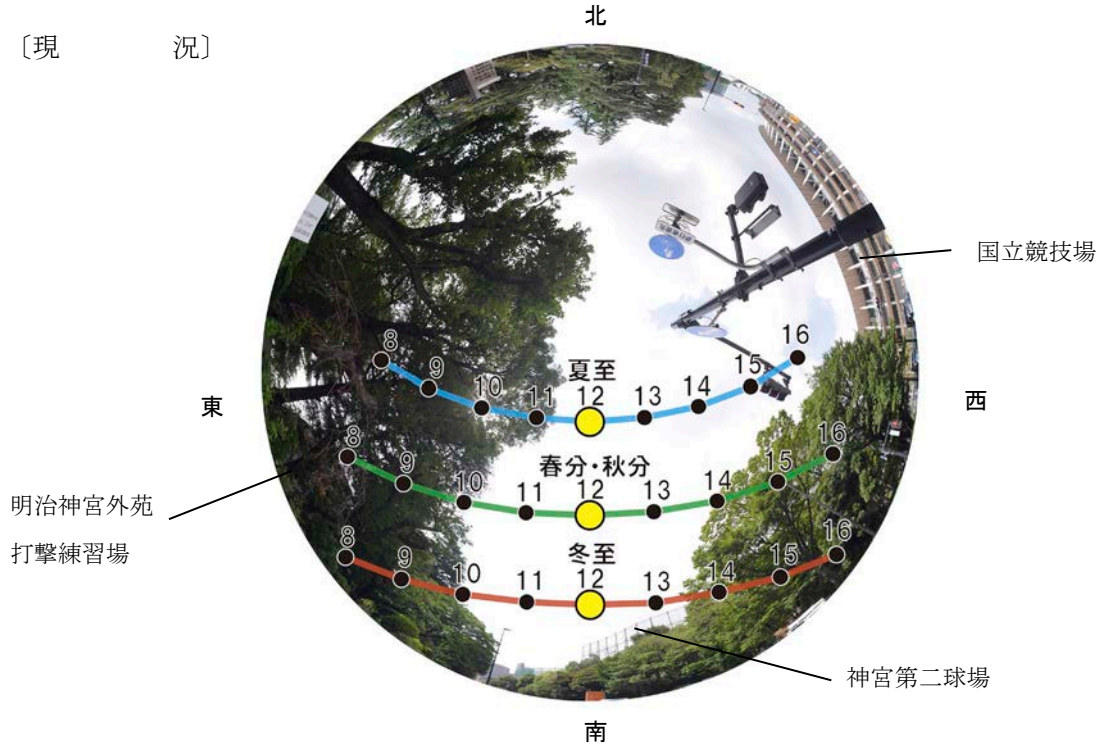


時　刻		8	9	10	11	12	13	14	15	16	日影の生じる時間	現況からの変化量
夏至日	現況										―	―
	工事の完了後		▨								30 分	30 分
春・秋分	現況		■								30 分	―
	工事の完了後		▨								30 分	なし
冬至日	現況				■	■	■	■	■		3 時間 20 分	―
	工事の完了後			▨	▨	■	■	■	■		4 時間	40 分

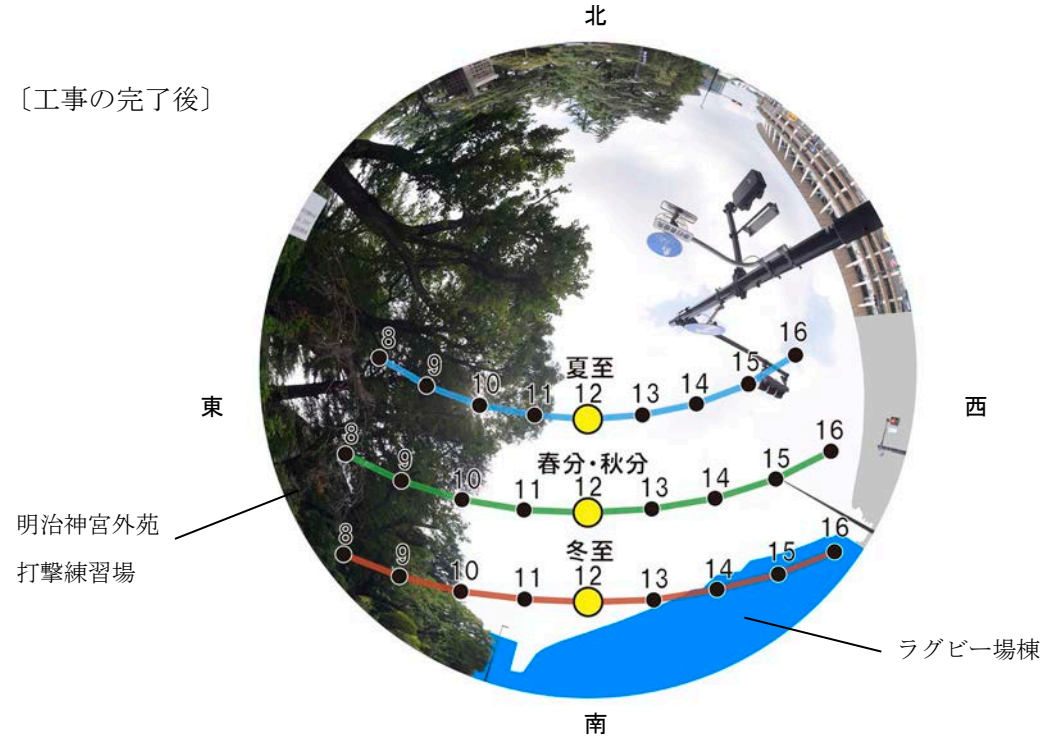
夏至日における 8 時から 16 時の現況の日影時間はなく、工事の完了後の日影時間は、約 30 分である。
冬至日における 8 時から 16 時の現況の日影時間は、約 3 時間 20 分であり、工事の完了後の日影時間は、約 4 時間である。計画建築物により、日影時間は最大 40 分増加する。

写真 5.3.2-1(2)　天空写真(No.4 地点　国立競技場南東側交差点)【変更前】

〔現　　況〕



〔工事の完了後〕



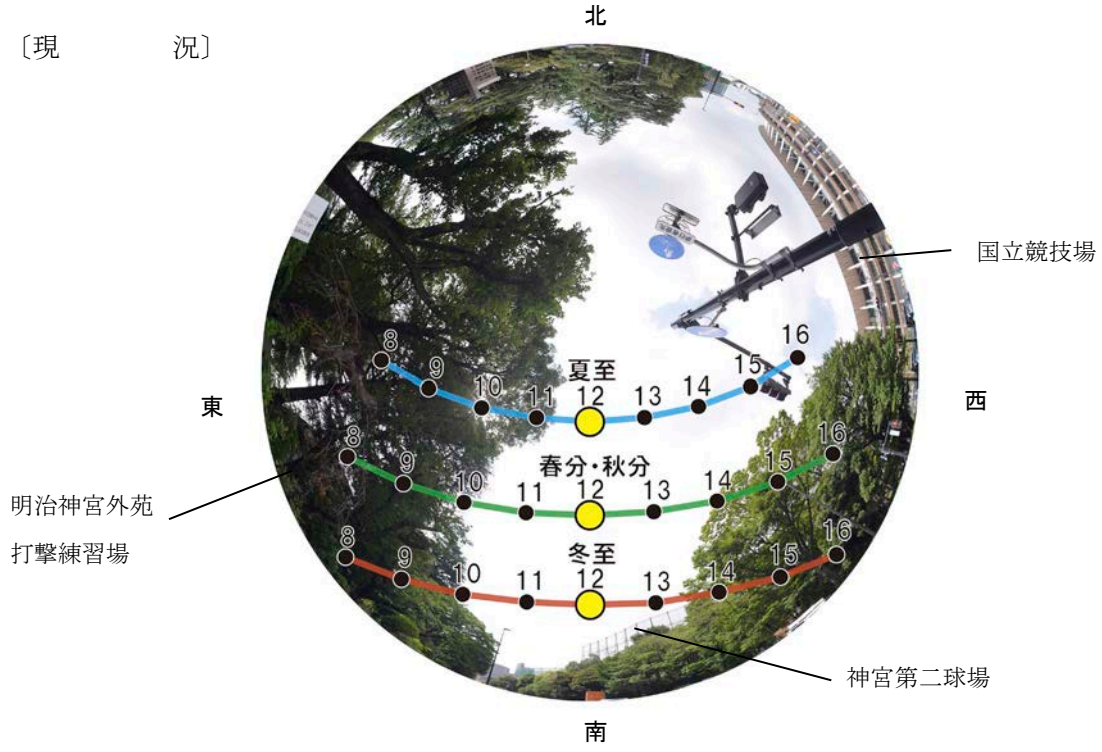
時　刻		8	9	10	11	12	13	14	15	16	日影の生じる時間	現況からの変化量
夏至日	現況										－	－
	工事の完了後										－	なし
春・秋分	現況										－	－
	工事の完了後										－	なし
冬至日	現況		■								30 分	－
	工事の完了後		■					▨	▨	▨	3 時間 10 分	2 時間 40 分

冬至日における 8 時から 16 時の現況の日影時間は、約 30 分であり、工事の完了後の日影時間は、約 3 時間 10 分である。計画建築物により、日影時間は最大 2 時間 40 分増加する。

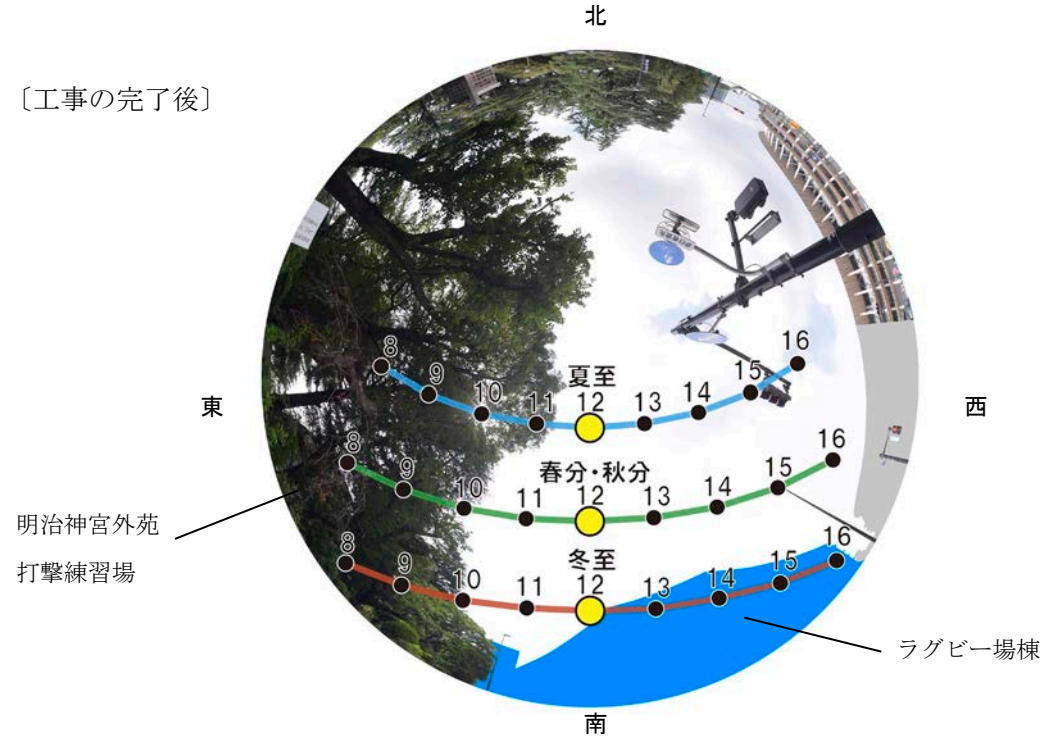
注）下線部分は変更となった箇所を示す。

写真 5.3.2-2(1)　天空写真(No.5 地点　絵画館前交差点)【変更後】

〔現　　況〕



〔工事の完了後〕



時　刻		8	9	10	11	12	13	14	15	16	日影の生じる時間	現況からの変化量
夏至日	現況										－	－
	工事の完了後										－	なし
春・秋分	現況										－	－
	工事の完了後										－	なし
冬至日	現況		■								30 分	－
	工事の完了後		■				▨	▨	▨		4 時間 10 分	3 時間 40 分

冬至日における 8 時から 16 時の現況の日影時間は、約 30 分であり、工事の完了後の日影時間は、約 4 時間 10 分である。計画建築物により、日影時間は最大 3 時間 40 分増加する。

写真 5.3.2-2(2)　天空写真(No.5 地点　絵画館前交差点)【変更前】

(6) 評価

変更後における評価の指標は、変更前と同様に、「東京都日影による中高層建築物の高さの制限に関する条例」に定める日影規制とした。

計画地周辺地域への日影の影響を低減するため、ラグビー場棟の高さを変更前の約 55m から変更後は約 48m に抑えている。

計画建築物による日影は、評価書と同様に、日影規制のある地域において、日影規制ライン（敷地境界線から 10m）を越えて 2 時間以上及ぶことはなく、かつ、日影規制ライン（敷地境界線から 5m）を越えて 3 時間以上及ぶことはない。なお、計画地周辺は概ね再開発等促進区を定める地区計画の地区整備計画の範囲となり、計画地周辺のほとんどが日影規制の適用除外となったことから、計画建築物による日影時間は日影規制の範囲内に収まる。

また、ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させた。さらに、ラグビー場棟の最高高さを低くし、建物の北側を階段状として東側及び西側の上部の壁面を建物側に傾斜させることで、北側の神宮外苑広場（建国記念文庫）等の存置樹木への日影範囲の影響を低減しているものと考える。

したがって、評価の指標「東京都日影による中高層建築物の高さの制限に関する条例」に定める日影規制を満足することから、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。

5.3.3 風環境

(1) 予測事項

事業計画の変更に伴い予測・評価の見直しを行う事項は、「計画建築物の設置に伴う計画地周辺の平均風向、平均風速及び最大風速等の突風の状況とそれらの変化する地域の範囲及び変化の程度」とした。

(2) 予測の対象時点

予測の対象時点は、変更前と同様、計画建築物の工事の完了後とした。

(3) 予測地域（予測地点）

予測の対象地域及び対象地点は、変更前と同様、評価書の現況調査の調査地域と同様とした。

(4) 予測方法

予測は、変更前と同様に、風洞実験による方法とし、実験に使用した模型の縮尺、範囲、基準風及び実験ケースに変更はない。

変更前後の予測地点は、図 5.3.3-1 に示すとおりであり、風速測定点は変更前と同様に、建設後は合計 112 地点（No.1～86、104～129）とした。

また、変更前後の防風植栽等の配置は、図 5.3.3-2(1)～(2)に示すとおりである。

風洞模型実験による風環境の評価は、変更前と同様に表 5.3.3-1 に示す評価尺度を用いて、風環境の状態を領域区分 A～D に分類する方法により行った。

この評価尺度は、株式会社風工学研究所が東京都内の約 100 地点において実施した風向・風速の観測結果に基づき、確率的風環境評価法として提案されたものである。

ここでは、風速の累積頻度曲線から、住宅地、市街地、事務所街のそれぞれの風環境の累積頻度 55%(平均風速)及び累積頻度 95%(日最大平均風速)の境界を示す曲線を定め、それにより 4 つの領域に区分している。

表5.3.3-1　風環境の評価尺度(風工学研究所の提案による風環境評価基準)

区　分	評価基準	年間平均風速 (累積頻度 55%の風速)	日最大平均風速の年平均 (累積頻度 95%の風速)
領域 A	住宅地相当 住宅地としての風環境、または比較的穏やかな風環境が必要な場所	≦1.2 m/秒	≦2.9 m/秒
領域 B	低中層市街地相当 住宅地・市街地としての風環境、一般的風環境	≦1.8 m/秒	≦4.3 m/秒
領域 C	中高層市街地相当 事務所街としての風環境、又は比較的強い風が吹いても我慢できる場所	≦2.3 m/秒	≦5.6 m/秒
領域 D	強風地域相当 超高層建物の足元でみられる風環境、一般には好ましくない風環境	＞2.3 m/秒	＞5.6 m/秒

資料：「市街地の風の性状」(昭和 61 年第 9 回風工学シンポジウム論文　(株)風工学研究所)

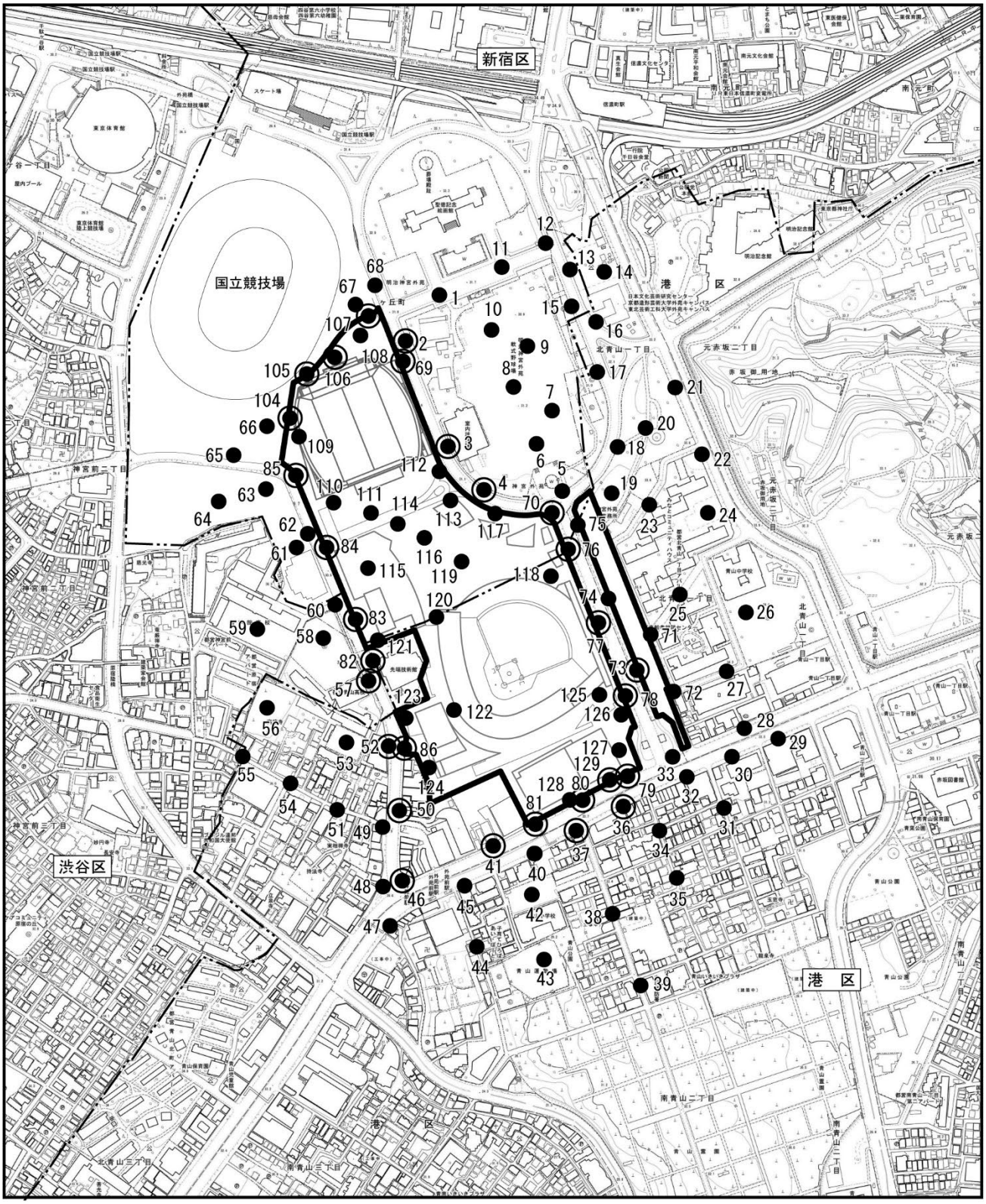


図 5.3.3-1　【変更前後】風速測定地点（建設後）

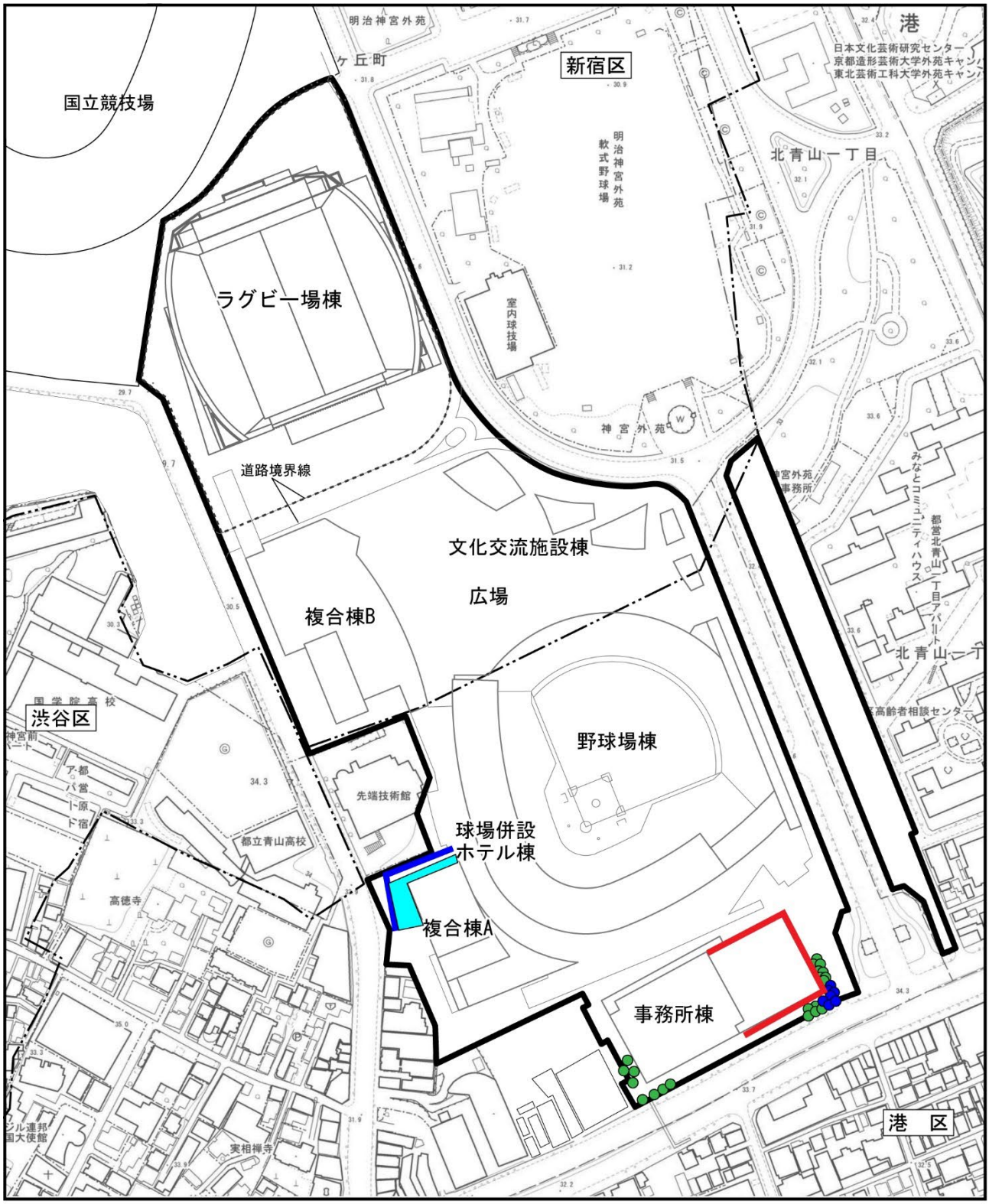


図 5.3.3-2(1)　【変更後】防風対策図

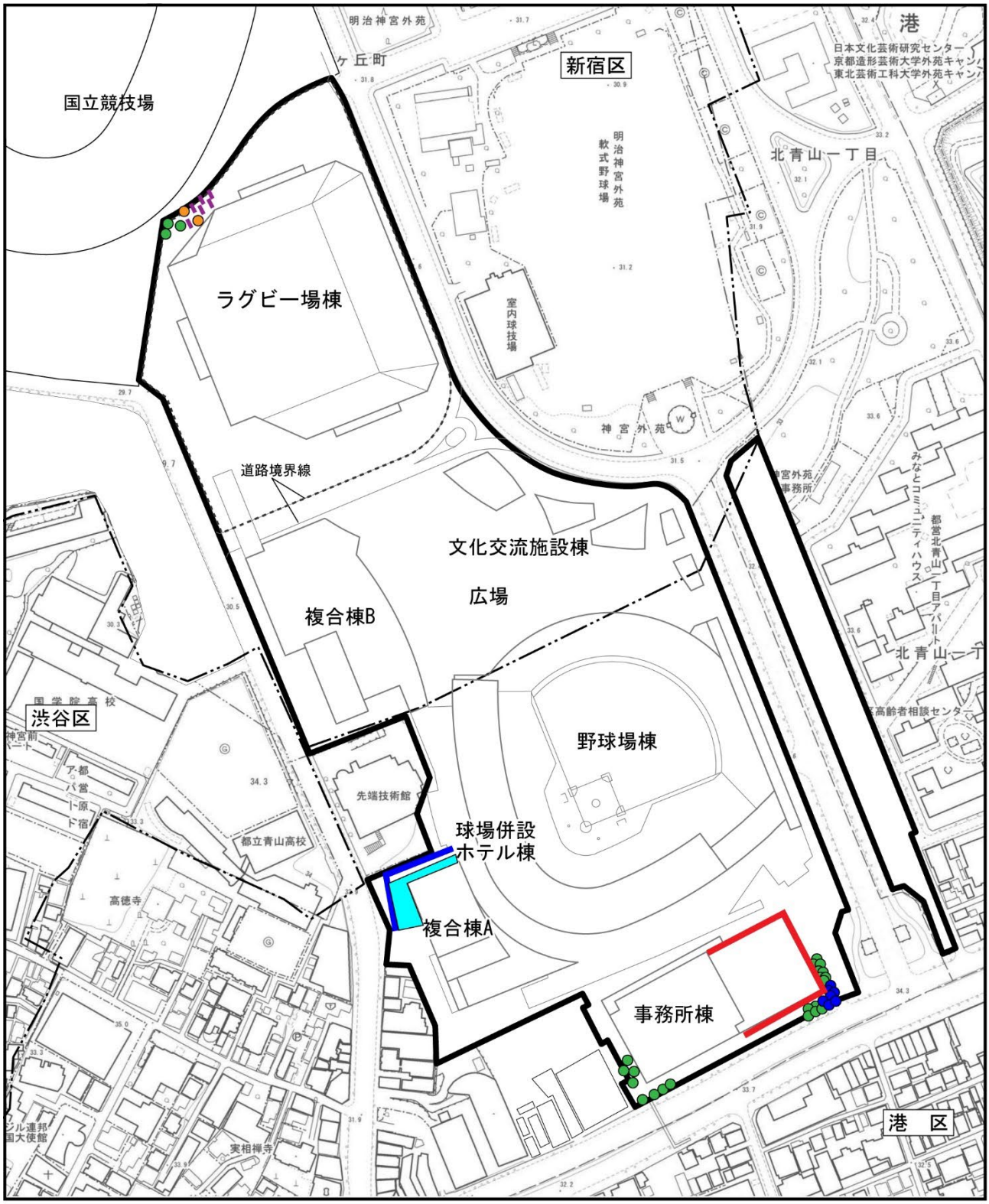


図 5.3.3-2(2)　【変更前】防風対策図

(5) 予測結果

1) 現況から建設後（対策前）における変化の程度

建設後(対策前)における風環境は、図 5.3.3-4(1)～(2)に示すとおりである。

現況から建設後(対策前)における風環境区分変化一覧は、表 5.3.3-2(1)～(2)に示すとおりである。

変更前では 62 地点が領域 A であり、領域 B は 43 地点、領域 C は 6 地点、領域 D は 1 地点で確認されたのに対し、変更後では 68 地点が領域 A であり、領域 B は 38 地点、領域 C は 5 地点、領域 D は 1 地点で確認された。

現況と比べ、変更前では 1 領域上がる地点は 15 地点、2 領域上がる地点は 2 地点であったのに対し、変更後では 1 領域上がる地点は 12 地点、2 領域上がる地点は 2 地点であった(現況において未測定地点を除く）。

また、領域が増加した地点の出現位置は、変更前後でほとんど変わらなかった。

建設後（対策前）については、ラグビー場棟の周辺において変更前では領域 B または領域 C であったのに対し、変更後では領域 A または領域 B であった。

2) 現況から建設後（対策後）における変化の程度

建設後(対策後)における風環境は、図 5.3.3-5(1)～(2)に示すとおりである。

現況から建設後(対策後)における風環境区分変化一覧は、表 5.3.3-3(1)～(2)に示すとおりである。

変更前では 63 地点が領域 A であり、領域 B は 48 地点、領域 C は 1 地点で、領域 D は確認されなかったのに対し、変更後では 69 地点が領域 A であり、領域 B は 42 地点、領域 C は 1 地点で、領域 D は確認されなかった。

現況と比べ、変更前では 1 領域上がる地点は 12 地点であったのに対し、変更後では 1 領域上がる地点は 10 地点であった(現況において未測定地点を除く)。

また、領域が増加した地点の出現位置は、変更前後でほとんど変わらず計画地の南側及び西側の地点において対策による効果が確認された。

建設後（対策後）については、ラグビー場棟の周辺において変更前はほとんどの地点が領域 B であったのに対し、変更後は領域 A と領域 B が概ね半々であった。

また、年間を通しての卓越風である北北西と南西の 2 風向の建設前及び建設後・対策後における風速ベクトル比は、図 5.3.3-6、図 5.3.3-7 に示すとおりである。

変更前後ともに、建設後・対策後の南西の風向の際、計画地の風下において現況よりも風が弱くなる箇所が見られた。

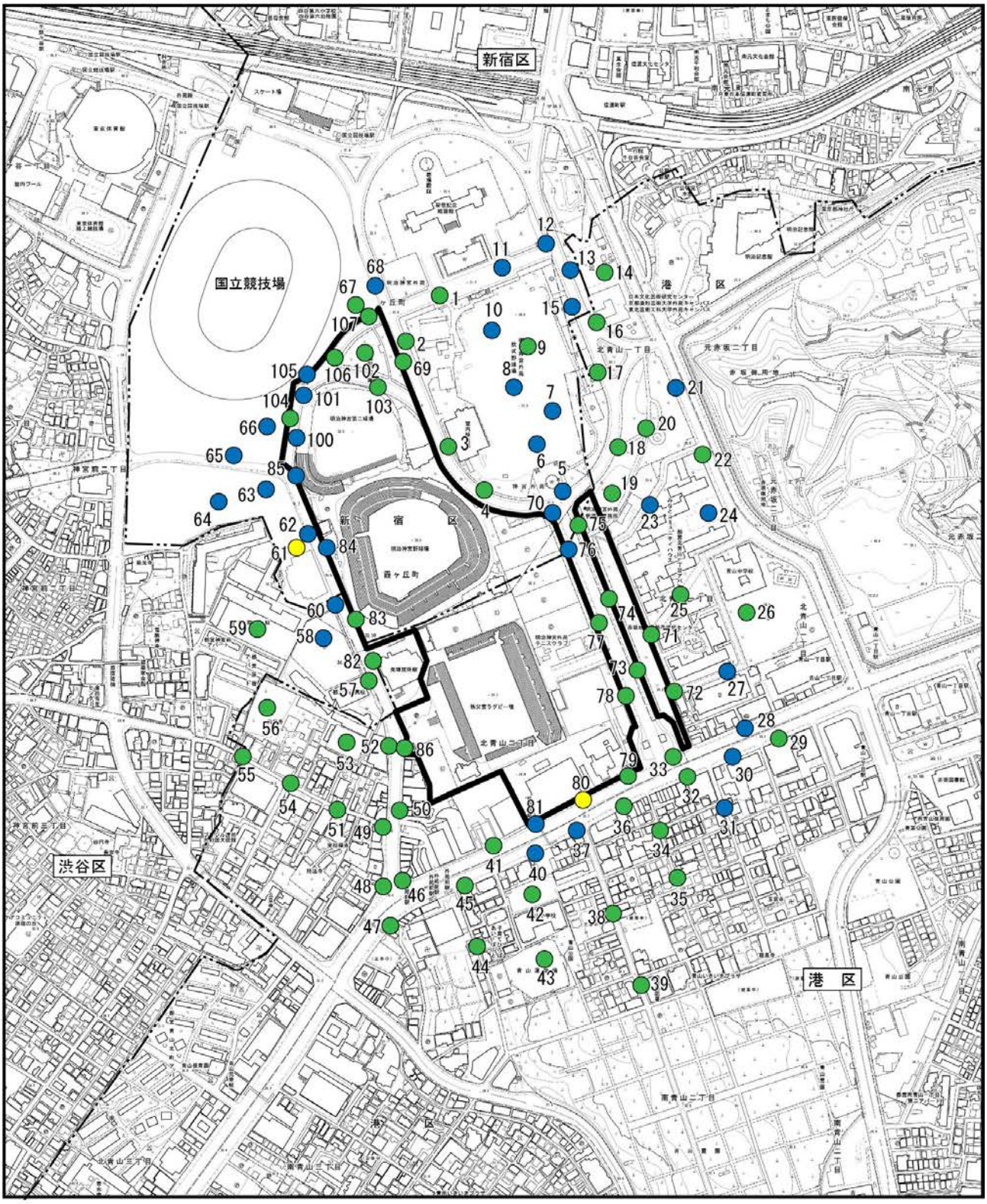


図 5.3.3-3　風環境評価（現況）

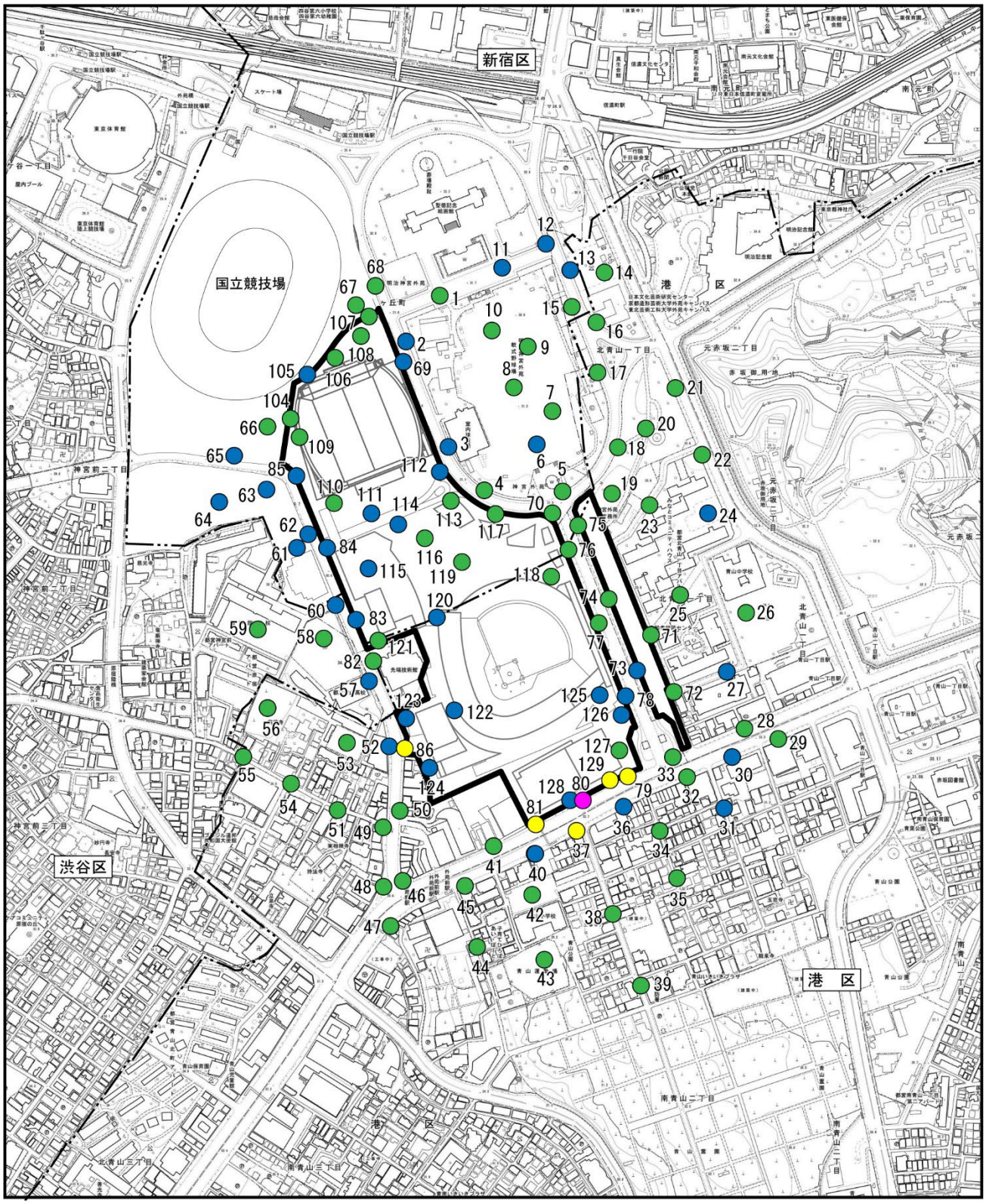


図 5.3.3-4(1)　【変更後】風環境評価（建設後・対策前）

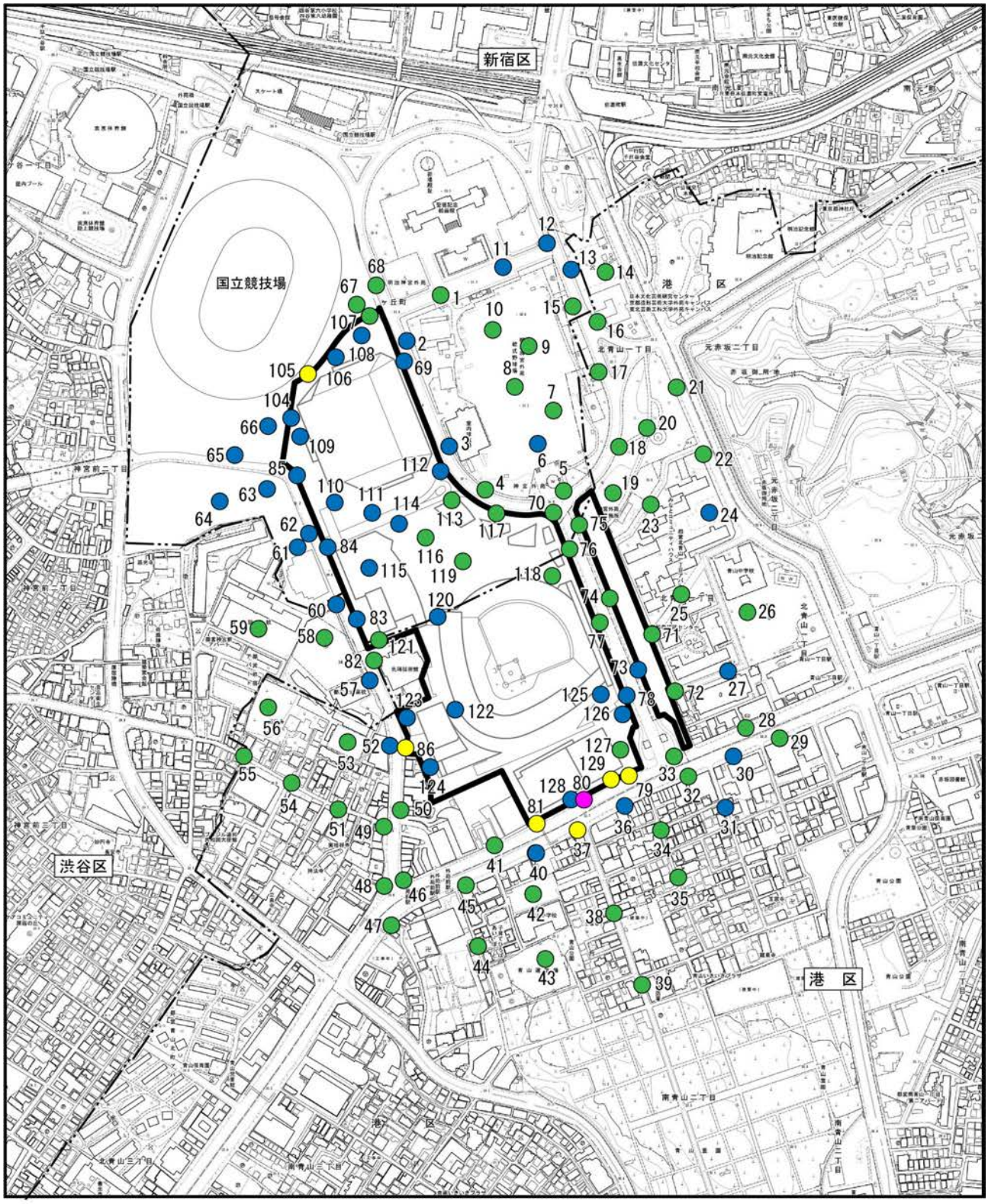


図 5.3.3-4(2)　【変更前】風環境評価（建設後・対策前）

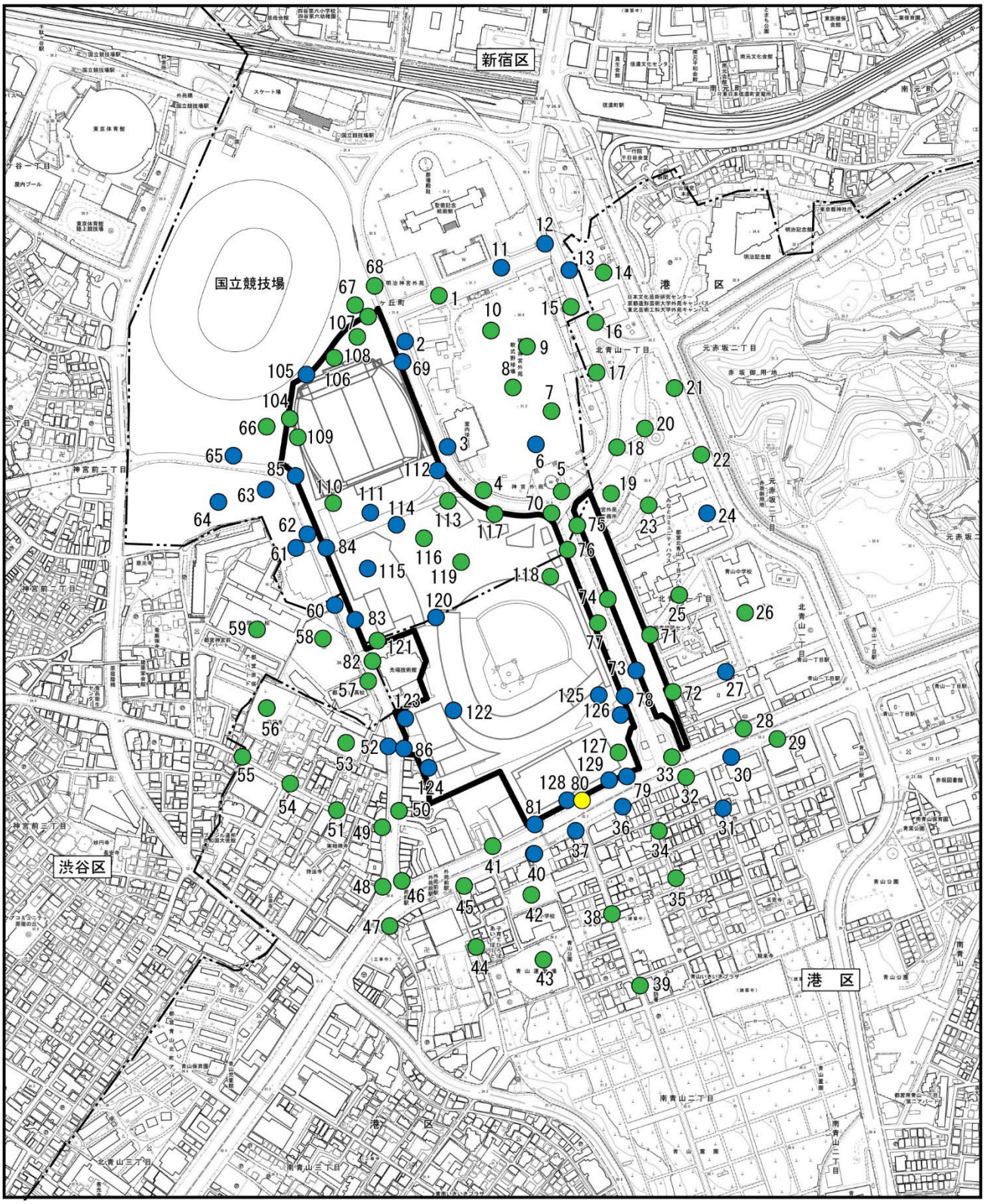


図 5.3.3-5(1)　【変更後】風環境評価（建設後・対策後）

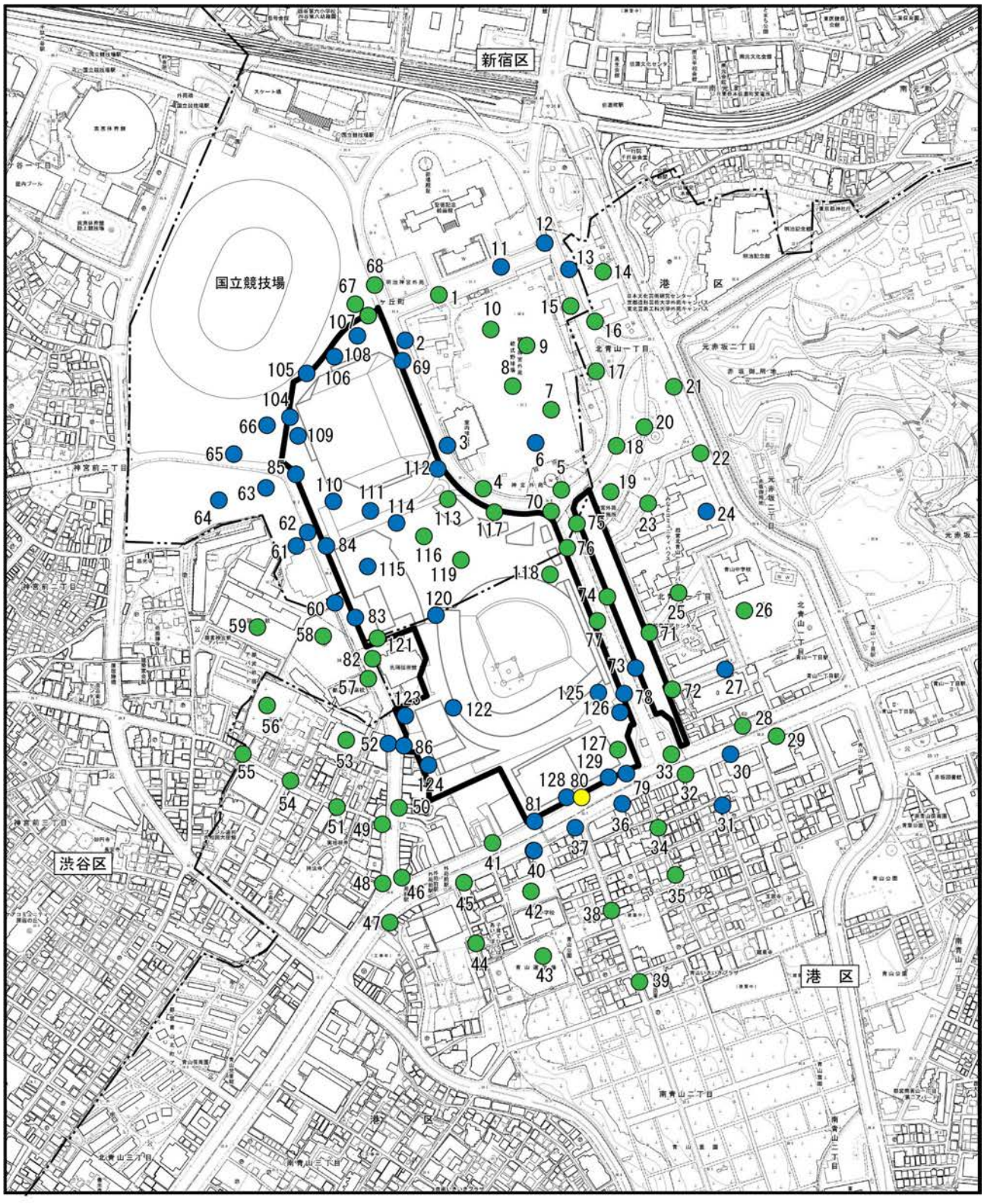


図 5.3.3-5(2)　【変更前】風環境評価（建設後・対策後）

表5.3.3-2(1)　風環境区分別変化一覧(現況から建設後(対策前))【変更後】

区　分		建設後(対策前)					計
		未測定	領域 A	領域 B	領域 C	領域 D	
建設前	未測定	—	108, 109, 110, 113, 116, 117, 118, 119, 121, 127 計 10 地点	111, 112, 114, 115, 120, 122, 123, 124, 125, 126, 128 計 11 地点	129 計 1 地点	—	計 22 地点
	領域 A	102, 103 計 2 地点	1, 4, 9, 14, 16, 17, 18, 19, 20, 22, 25, 26, 29, 32, 33, 34, 35, 38, 39, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 53, 54, 55, 56, 59, 67, 71, 72, 74, 75, 77, 82, 104, 106, 107 計 45 地点	2, 3, 36, 52, 57, 69, 73, 78, 83 計 9 地点	79, 86 計 2 地点	—	計 58 地点
	領域 B	100, 101 計 2 地点	5, 7, 8, 10, 15, 21, 23, 28, 58, 66, 68, 70, 76 計 13 地点	6, 11, 12, 13, 24, 27, 30, 31, 40, 60, 62, 63, 64, 65, 84, 85, 105 計 17 地点	37, 81 計 2 地点	—	計 34 地点
	領域 C	—	—	61 計 1 地点	—	80 計 1 地点	計 2 地点
	領域 D	—	—	—	—	—	計 0 地点
計		計 4 地点	計 68 地点	計 38 地点	計 5 地点	計 1 地点	計 116 地点

注1) 数値は測定点番号を示す。
注2) 網掛けを行った範囲は、建設前から建設後(対策前)において領域が上がる地点を示す。
注3) 下線の測点については、対策前後で領域が変化した測点を示す(計7地点)。

表5.3.3-2(2)　風環境区分別変化一覧(現況から建設後(対策前))【変更前】

区　分		建設後(対策前)					計
		未測定	領域 A	領域 B	領域 C	領域 D	
建設前	未測定	—	113, 116, 117, 118, 119, 121, 127 計 7 地点	108, 109, 110, 111, 112, 114, 115, 120, 122, 123, 124, 125, 126, 128 計 14 地点	129 計 1 地点	—	計 22 地点
	領域 A	102, 103 計 2 地点	1, 4, 9, 14, 16, 17, 18, 19, 20, 22, 25, 26, 29, 32, 33, 34, 35, 38, 39, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 53, 54, 55, 56, 59, 67, 71, 72, 74, 75, 77, 82, 107 計 43 地点	2, 3, 36, 52, 57, 69, 73, 78, 83, 104, 106 計 11 地点	79, 86 計 2 地点	—	計 58 地点
	領域 B	100, 101 計 2 地点	5, 7, 8, 10, 15, 21, 23, 28, 58, 68, 70, 76 計 12 地点	6, 11, 12, 13, 24, 27, 30, 31, 40, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 84, 85 計 17 地点	37, 81, 105 計 3 地点	—	計 34 地点
	領域 C	—	—	61 計 1 地点	—	80 計 1 地点	計 2 地点
	領域 D	—	—	—	—	—	計 0 地点
計		計 4 地点	計 62 地点	計 43 地点	計 6 地点	計 1 地点	計 116 地点

注1) 数値は測定点番号を示す。
注2) 網掛けを行った範囲は、建設前から建設後(対策前)において領域が上がる地点を示す。
注3) 下線の測点については、対策前後で領域が変化した測点を示す(計8地点)。

表5.3.3-3(1)　風環境区分別変化一覧(建設前から建設後(対策後))　【変更後】

区　分		建設後(対策後)					計
		未測定	領域 A	領域 B	領域 C	領域 D	
建設前	未測定	—	108, 109, 110, 113, 116, 117, 118, 119, 121, 127 計 10 地点	111, 112, 114, 115, 120, 122, 123, 124, 125, 126, 128, 129 計 12 地点	—	—	計 22 地点
	領域 A	102, 103 計 2 地点	1, 4, 9, 14, 16, 17, 18, 19, 20, 22, 25, 26, 29, 32, 33, 34, 35, 38, 39, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 67, 71, 72, 74, 75, 77, 82, 104, 106, 107 計 46 地点	2, 3, 36, 52, 69, 73, 78, 79, 83, 86 計 10 地点	—	—	計 58 地点
	領域 B	100, 101 計 2 地点	5, 7, 8, 10, 15, 21, 23, 28, 58, 66, 68, 70, 76 計 13 地点	6, 11, 12, 13, 24, 27, 30, 31, 37, 40, 60, 62, 63, 64, 65, 81, 84, 85, 105 計 19 地点	—	—	計 34 地点
	領域 C	—	—	61 計 1 地点	80 計 1 地点	—	計 2 地点
	領域 D	—	—	—	—	—	計 0 地点
計		計 4 地点	計 69 地点	計 42 地点	計 1 地点	計 0 地点	計 116 地点

注1) 数値は測定点番号を示す。
注2) 網掛けを行った範囲は、建設前から建設後(対策後)において領域が上がる地点を示す。
注3) 下線の測点については、対策前後で領域が変化した測点を示す(計7地点)。

表5.3.3-3(2)　風環境区分別変化一覧(建設前から建設後(対策後))　【変更前】

区　分		建設後(対策後)					計
		未測定	領域 A	領域 B	領域 C	領域 D	
建設前	未測定	—	113, 116, 117, 118, 119, 121, 127 計 7 地点	108, 109, 110, 111, 112, 114, 115, 120, 122, 123, 124, 125, 126, 128, 129 計 15 地点	—	—	計 22 地点
	領域 A	102, 103 計 2 地点	1, 4, 9, 14, 16, 17, 18, 19, 20, 22, 25, 26, 29, 32, 33, 34, 35, 38, 39, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 53, 54, 55, 56, 57, 59, 67, 71, 72, 74, 75, 77, 82, 107 計 44 地点	2, 3, 36, 52, 69, 73, 78, 79, 83, 86, 104, 106 計 12 地点	—	—	計 58 地点
	領域 B	100, 101 計 2 地点	5, 7, 8, 10, 15, 21, 23, 28, 58, 68, 70, 76 計 12 地点	6, 11, 12, 13, 24, 27, 30, 31, 37, 40, 60, 62, 63, 64, 65, 66, 81, 84, 85, 105 計 20 地点	—	—	計 34 地点
	領域 C	—	—	61 計 1 地点	80 計 1 地点	—	計 2 地点
	領域 D	—	—	—	—	—	計 0 地点
計		計 4 地点	計 63 地点	計 48 地点	計 1 地点	計 0 地点	計 116 地点

注1) 数値は測定点番号を示す。
注2) 網掛けを行った範囲は、建設前から建設後(対策後)において領域が上がる地点を示す。
注3) 下線の測点については、対策前後で領域が変化した測点を示す(計8地点)。

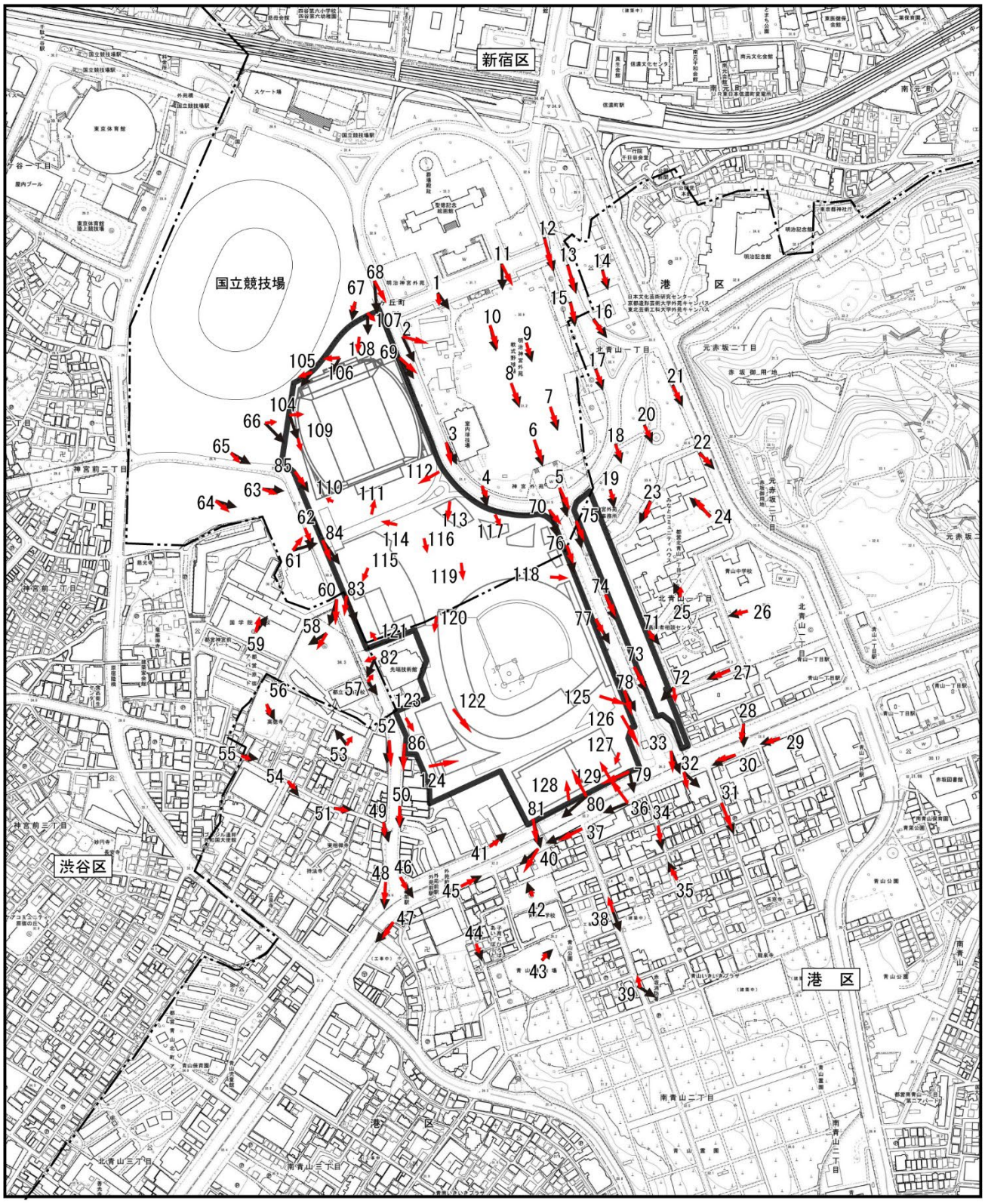


図 5.3.3-6(1)　【変更後】風速ベクトル比（風向：北北西）

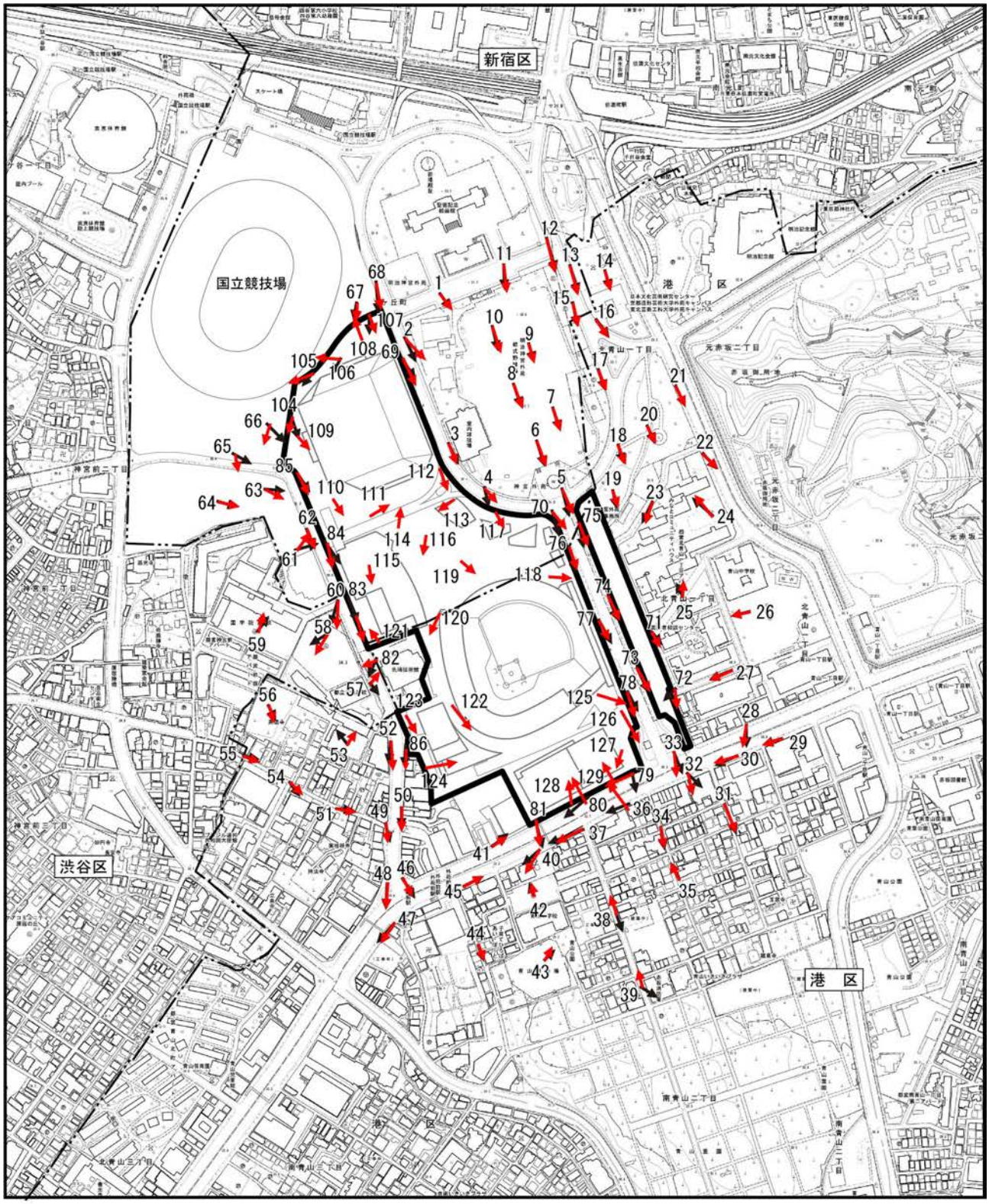


図 5.3.3-6(2)　【変更前】風速ベクトル比（風向：北北西）

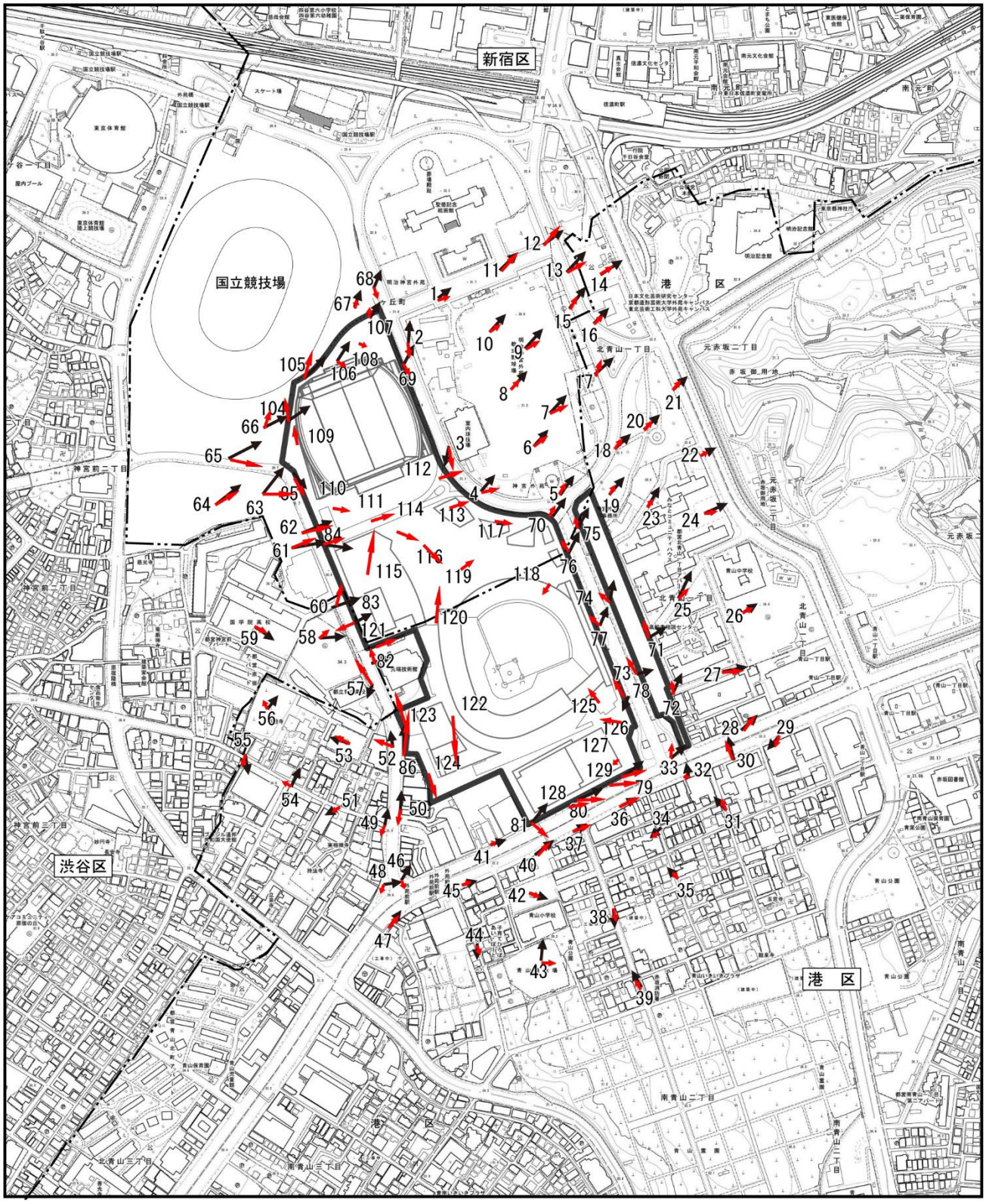


図 5.3.3-7(1)　【変更後】風速ベクトル比（風向：南西）

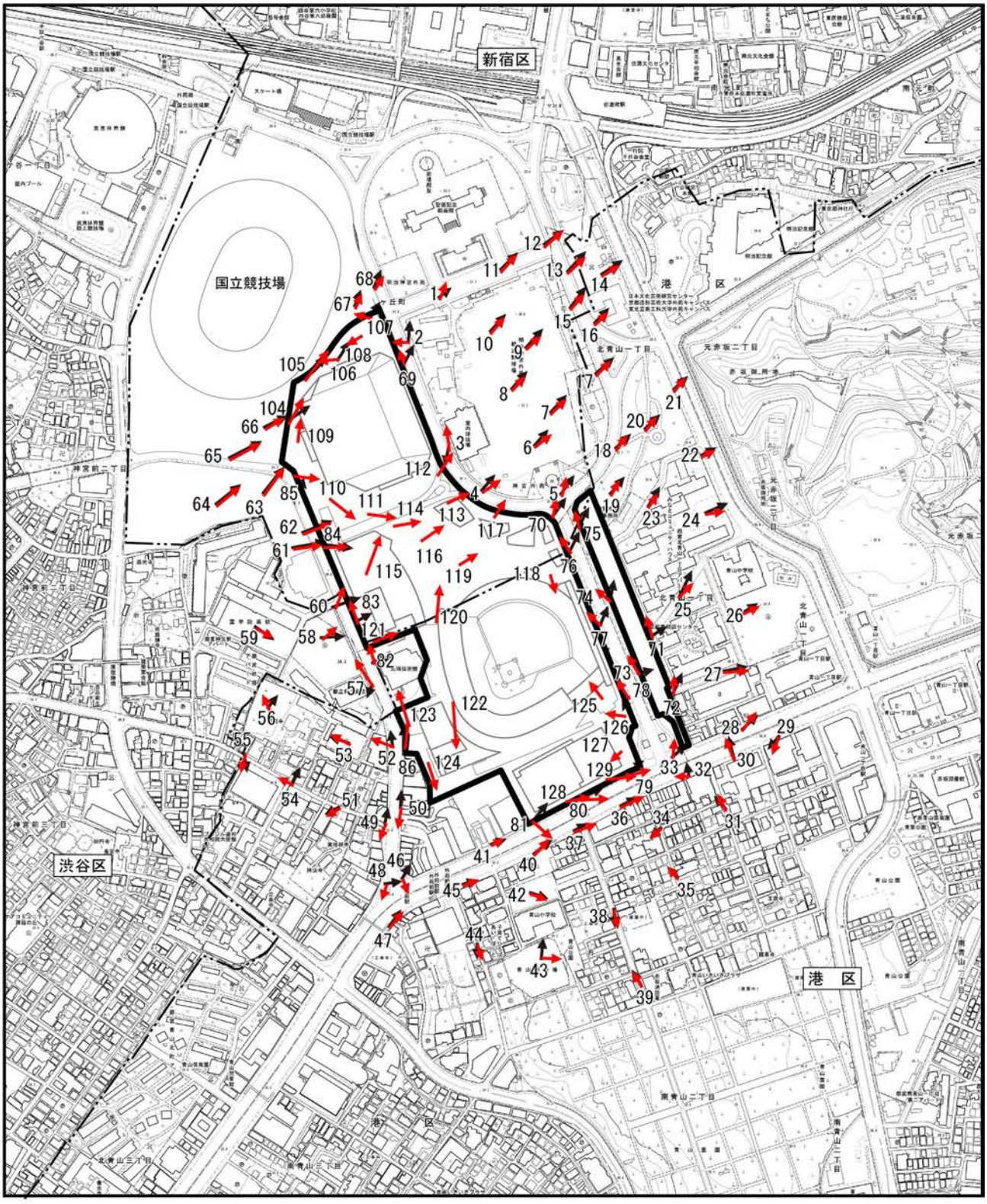


図 5.3.3-7(2)　【変更前】風速ベクトル比（風向：南西）

(6) 評　価

評価の指標は、表 5.3.3-1 に示した風環境評価基準とした。

ラグビー場棟の壁面位置や施設の高さ、建物デザインを変更したことにより、防風対策前では領域C(中高層市街地相当の風環境)となる地点が変更前の6地点に対して変更後では5地点、領域 D(強風地域相当の風環境)となる地点が変更前後ともに 1 地点生じると予測するが、防風対策後ではこれらの地点は、計画地南側の青山通り沿いは領域 C または B(低中層市街地相当の風環境)に、それ以外は領域 A または領域 B となり、風環境は改善されると予測する（表 5.3.3-4(1)～(2)参照)。

したがって、計画建築物の存在により、計画地周辺地域の風環境に変化はあるものの、領域A(住宅地相当の風環境)及び領域 B に相当する風環境が維持されるものと考えることから、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。

表5.3.3-4(1)　【変更後】風環境区分別変化のまとめ

	領域A	領域B	領域C	領域D
建設前	58	34	2	0
建設後（対策前）	68	38	5	1
建設後（対策後）	69	42	1	0

注）下線は変更した箇所を示す。

表5.3.3-4(2)　【変更前】風環境区分別変化のまとめ

	領域A	領域B	領域C	領域D
建設前	58	34	2	0
建設後（対策前）	62	43	6	1
建設後（対策後）	63	48	1	0

5.3.4 景観

(1) 予測事項

事業計画の変更に伴い予測・評価の見直しを行う事項は、「代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度」及び「圧迫感の変化の程度」とした。

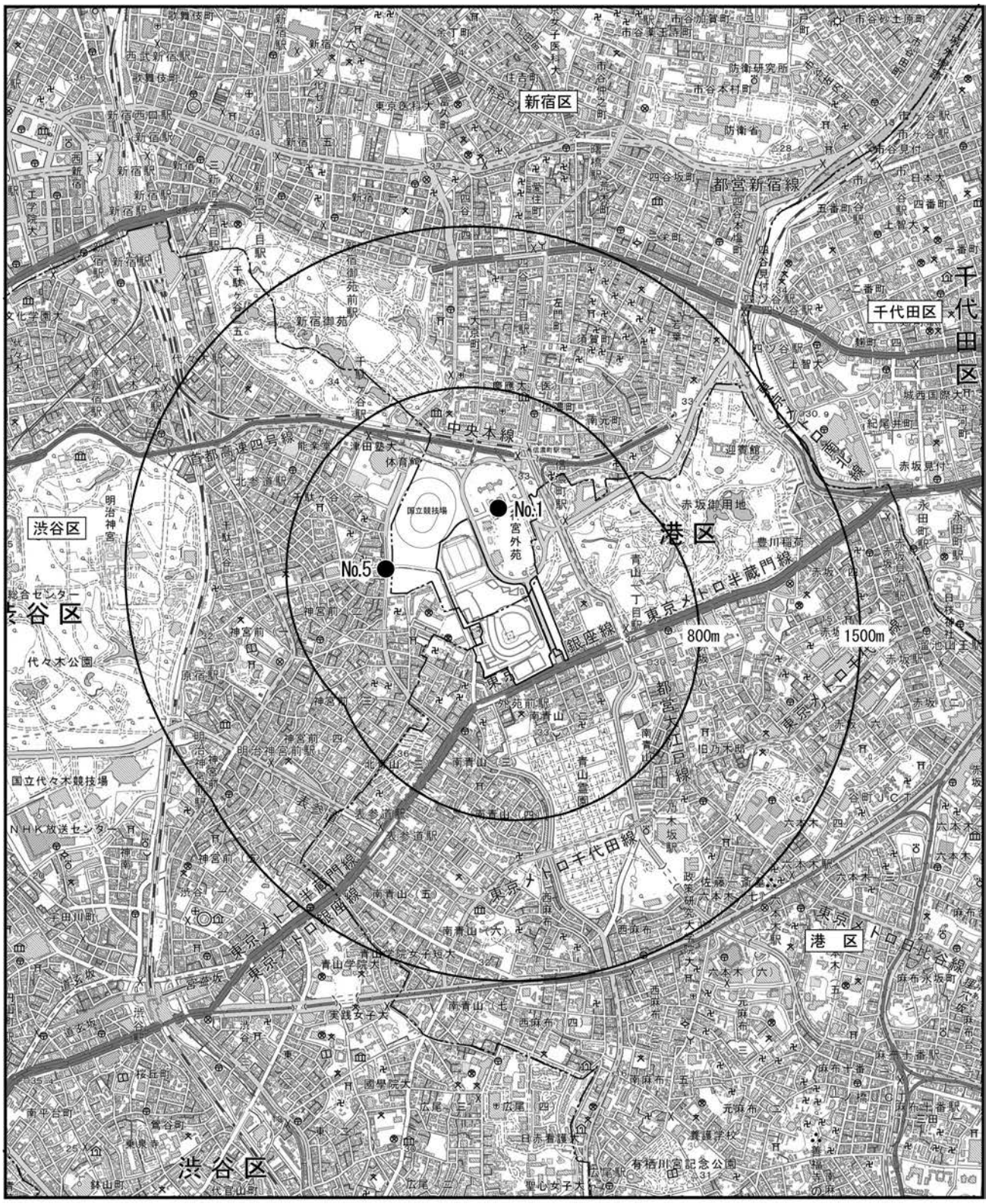
(2) 予測の対象時点

予測の対象時点は、変更前と同様、計画建物の建設工事が完了した時点とした。

(3) 予測地域（予測地点）

予測の対象地域及び対象地点は、変更前と同様、評価書の現況調査の調査地域及び地点とし、ラグビー場棟近傍の図 5.3.4-1～2 に示す地点とした。

なお、圧迫感の No.3 地点については、評価書においては地点名称を「新国立競技場南東側交差点」としていたが、竣工から 4 年以上が経過しているため、地点名称を「国立競技場南東側交差点」に変更した。



凡　例

- 計画地
- 区界
- ● 景観調査地点 (No.1、5)

近景域
No.1　聖徳記念絵画館前広場
No.5　仙寿院交差点

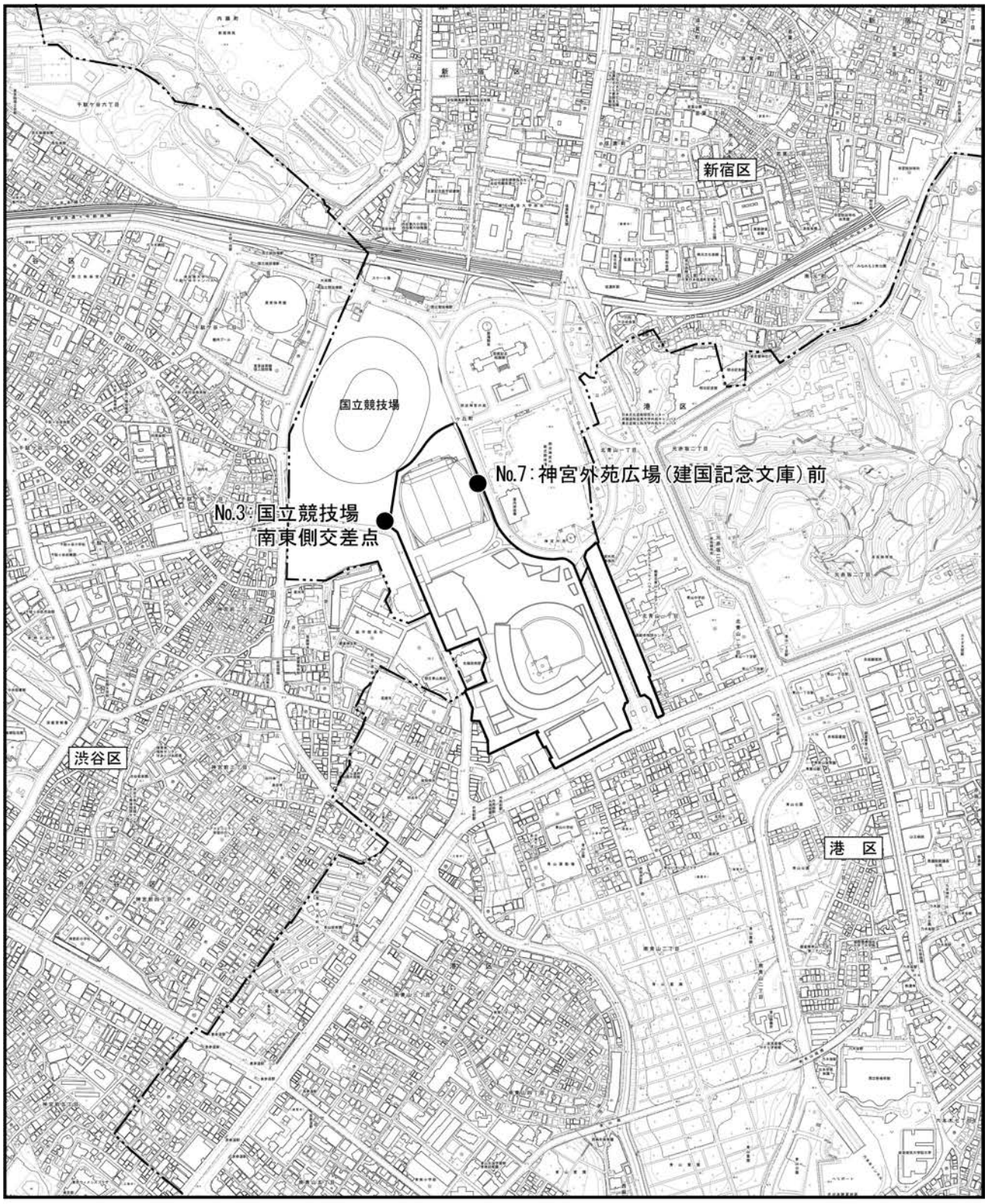
N

S＝1／25,000

0　250　500　750m

注）ラグビー場棟の近傍の調査地点について再予測を行った。

図5.3-4-1　景観調査地点（代表的な眺望地点の調査）



凡　例

- 計画地
- 区界
- ● 圧迫感調査地点（No.3、7）

注）ラグビー場棟の近傍の調査地点について再予測を行った。

N

S＝1／12,000

0　100　200　300m

図5.3.4-2　景観調査地点（圧迫感の調査）

(4) 予測手法

1) 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度

変更前と同様に、計画地周辺を含めた現況写真に、計画建築物の完成予想図を重ね合わせて合成写真(フォトモンタージュ)を作成し、現況写真との比較を行うことにより、代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度を予測した。

2) 圧迫感の変化の程度

変更前と同様に、現況の天空写真に、計画建築物の完成予想図を合成した天空写真を作成し、圧迫感の指標の一つである形態率を求め、圧迫感の変化の程度を予測した。

(5) 予測結果

1) 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度

代表的な眺望地点からの、現況と工事の完了後の眺望の変化の程度は、写真 5.3.4-1～3 に示すとおりである。

変更前と同様に、No.1 地点からは、聖徳記念絵画館前広場の樹木越しにラグビー場棟を含む計画建築物が出現する。計画建築物が視野に占める割合は大きいものの、変更後ではラグビー場棟の占める割合は小さくなっている。

さらに、計画地内には新規緑地を創出するとともに、既存樹木の存置、移植利用も行うことにより、緑豊かな景観が維持される計画である。

これらについては、変更前と変更後の予測結果に変更はない。

現 況	
工事の完了後	

現　　況：計画地の北約 350m の聖徳記念絵画館前広場からの眺望である。右側に聖徳記念絵画館、中央には広場が視認できる。広場の周辺には明治神宮外苑の緑があり、左側には神宮外苑いちょう並木も確認できる。中央奥には、計画地内の伊藤忠商事東京本社ビルと隣接する青山 OM-スクエアが見える。

工事の完了後：広場の樹木越しに計画建築物が出現する。計画建築物が視野に占める割合は大きく、新たな都市的な景観要素として認識される。

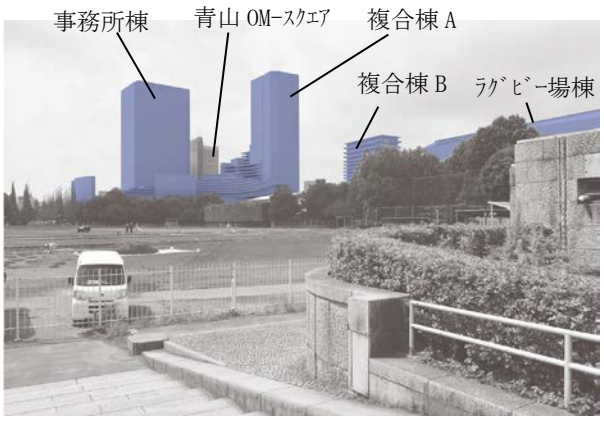


写真 5.3.4-1(1)　眺望の状況（No.1：聖徳記念絵画館前広場）【変更後】

現 況	
工事の完了後	

現　　況：計画地の北約 350m の聖徳記念絵画館前広場からの眺望である。右側に聖徳記念絵画館、中央には広場が視認できる。広場の周辺には明治神宮外苑の緑があり、左側には神宮外苑いちょう並木も確認できる。中央奥には、計画地内の伊藤忠商事東京本社ビルと隣接する青山 OM-スクエアが見える。

工事の完了後：広場の樹木越しに計画建築物が出現する。計画建築物が視野に占める割合は大きく、新たな都市的な景観要素として認識される。

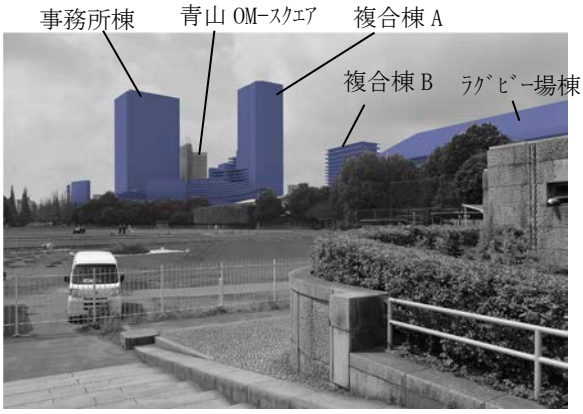
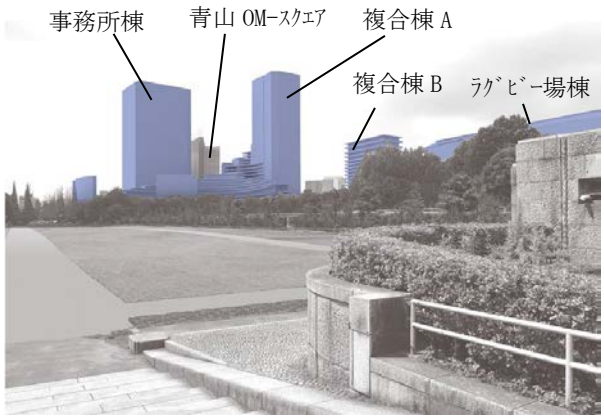


写真 5.3.4-1(2)　眺望の状況（No.1：聖徳記念絵画館前広場）【変更前】

現況	
工事の完了後	 注）聖徳記念絵画館前広場は別事業であり、イメージである。

現　　況：計画地の北約 350m の聖徳記念絵画館前広場からの眺望である。右側に聖徳記念絵画館、中央には広場が視認できる。広場の周辺には明治神宮外苑の緑があり、左側には神宮外苑いちょう並木も確認できる。中央奥には、計画地内の伊藤忠商事東京本社ビルと隣接する青山 OM-スクエアが見える。

工事の完了後：広場の樹木越しに計画建築物が出現する。計画建築物が視野に占める割合は大きく、新たな都市的な景観要素として認識される。



注）聖徳記念絵画館前広場の計画は最新の計画案を反映している。

写真 5.3.4-2(1)　眺望の状況（No.1：聖徳記念絵画館前広場、別事業の計画を反映）【変更後】

現況

工事の完了後

注）聖徳記念絵画館前広場は別事業であり、イメージである。

現　　況：計画地の北約 350m の聖徳記念絵画館前広場からの眺望である。右側に聖徳記念絵画館、中央には広場が視認できる。広場の周辺には明治神宮外苑の緑があり、左側には神宮外苑いちょう並木も確認できる。中央奥には、計画地内の伊藤忠商事東京本社ビルと隣接する青山 OM-スクエアが見える。

工事の完了後：広場の樹木越しに計画建築物が出現する。計画建築物が視野に占める割合は大きく、新たな都市的な景観要素として認識される。

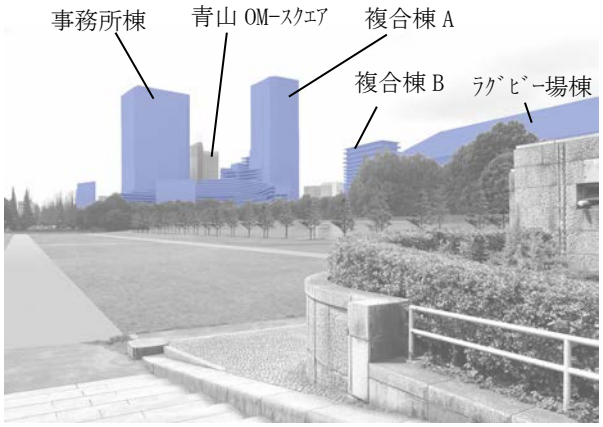
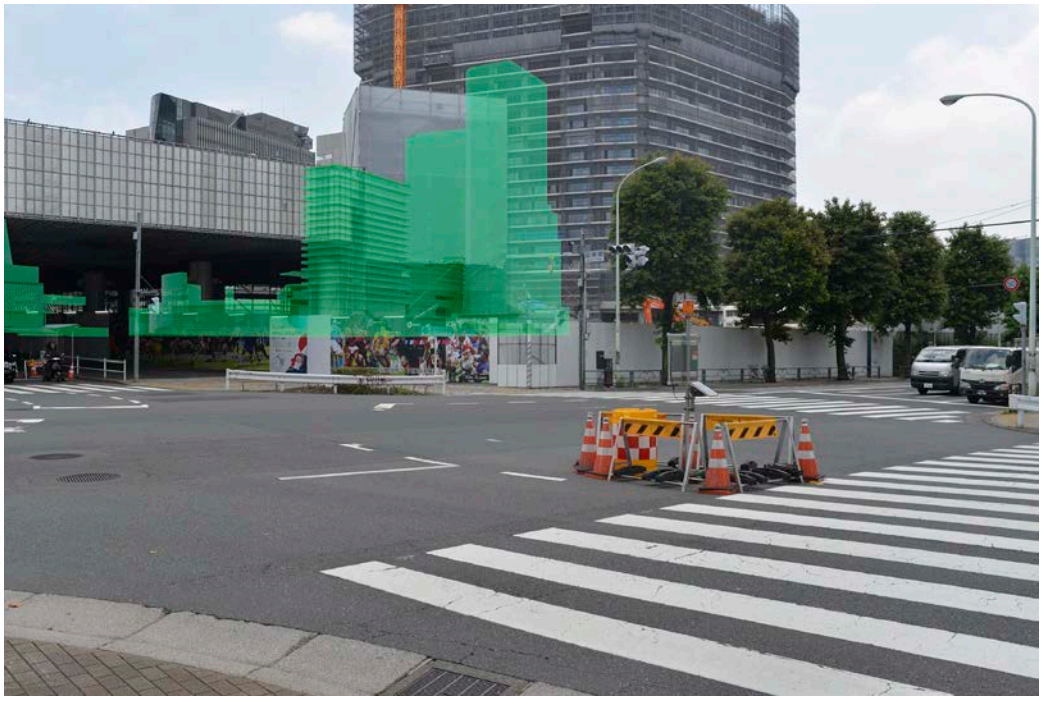


写真 5.3.4-2(2)　眺望の状況（No.1：聖徳記念絵画館前広場、別事業の計画を反映）【変更前】

現況

工事の完了後



現　　況：計画地の西約 370m の仙寿院交差点付近からの眺望である。目前に仙寿院交差点があり、左右に特例都道北品川四谷線（外苑西通り）が通っている。中央奥には THE COURT 神宮外苑が視認できる。

工事の完了後：計画建築物は既存建築物に遮られて視認できないため、眺望に変化は生じない。

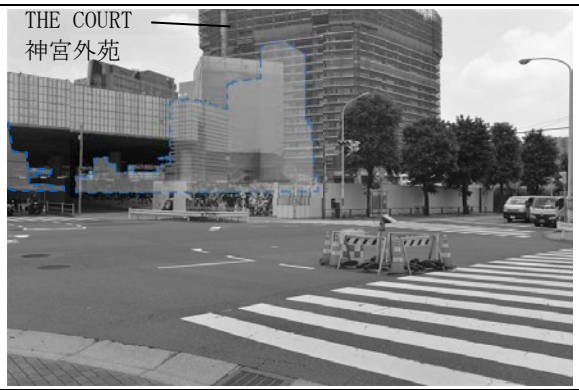


写真 5.3.4-3(1)　眺望の状況（No.5：仙寿院交差点）【変更後】

現 況	
工事の完了後	

現　　況：計画地の西約 370m の仙寿院交差点付近からの眺望である。目前に仙寿院交差点があり、左右に特例都道北品川四谷線（外苑西通り）が通っている。中央奥には THE COURT 神宮外苑が視認できる。

工事の完了後：計画建築物は既存建築物に遮られて視認できないため、眺望に変化は生じない。

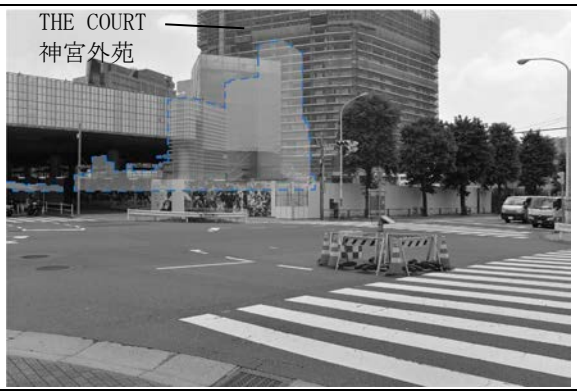


写真 5.3.4-3 (2)　眺望の状況（No.5：仙寿院交差点）【変更前】

2) 圧迫感の変化の程度

各調査地点における現況と工事の完了後における形態率の変化の程度は、表 5.3.4-1 及び写真 5.3.4-4～5 に示すとおりである。

設計の変更に伴い、変更前後での地域全体の形態率の変化の程度は、No.3 地点で変更前の 7.85 ポイント増加から変更後は 5.74 ポイント増加となり、2.11 ポイント減少する。No.7 地点で変更前の 32.81 ポイント増加から変更後は 26.15 ポイント増加となり 6.66 ポイント減少する。

表 5.3.4-1 (1)　形態率の変化の程度【変更後】

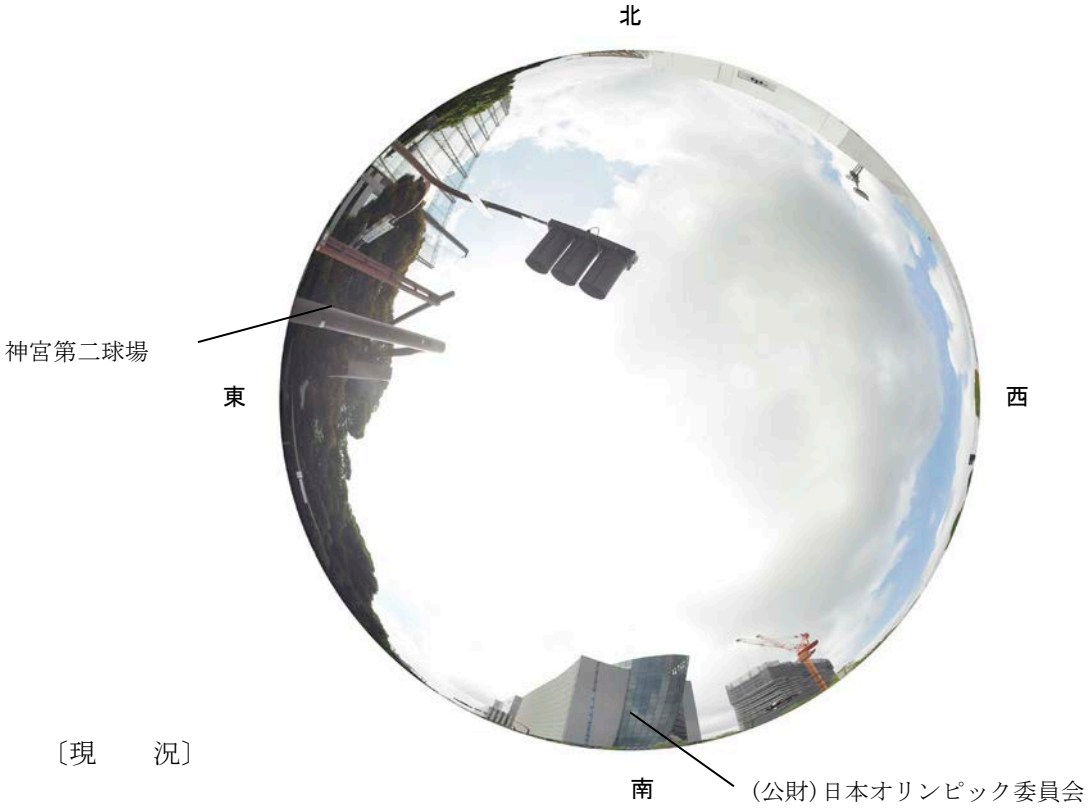
調査地点		現況		工事の完了後		変化量	
		地域全体 A	計画地内 既存建築物 B	地域全体 C	計画地内 計画建築物 D	地域全体 C-A	計画地内 D-B
No.3	国立競技場南東側交差点	11.66%	0.71%	17.40%	7.37%	5.74ﾎﾟｲﾝﾄ	6.66ﾎﾟｲﾝﾄ
No.7	神宮外苑広場（建国記念文庫）前	3.83%	2.41%	29.98%	28.56%	26.15ﾎﾟｲﾝﾄ	26.15ﾎﾟｲﾝﾄ

注 1) 調査地点の番号は、図 5.3.4-2(p.95)に対応する。
注 2) 下線部分は変更した事項を示す。

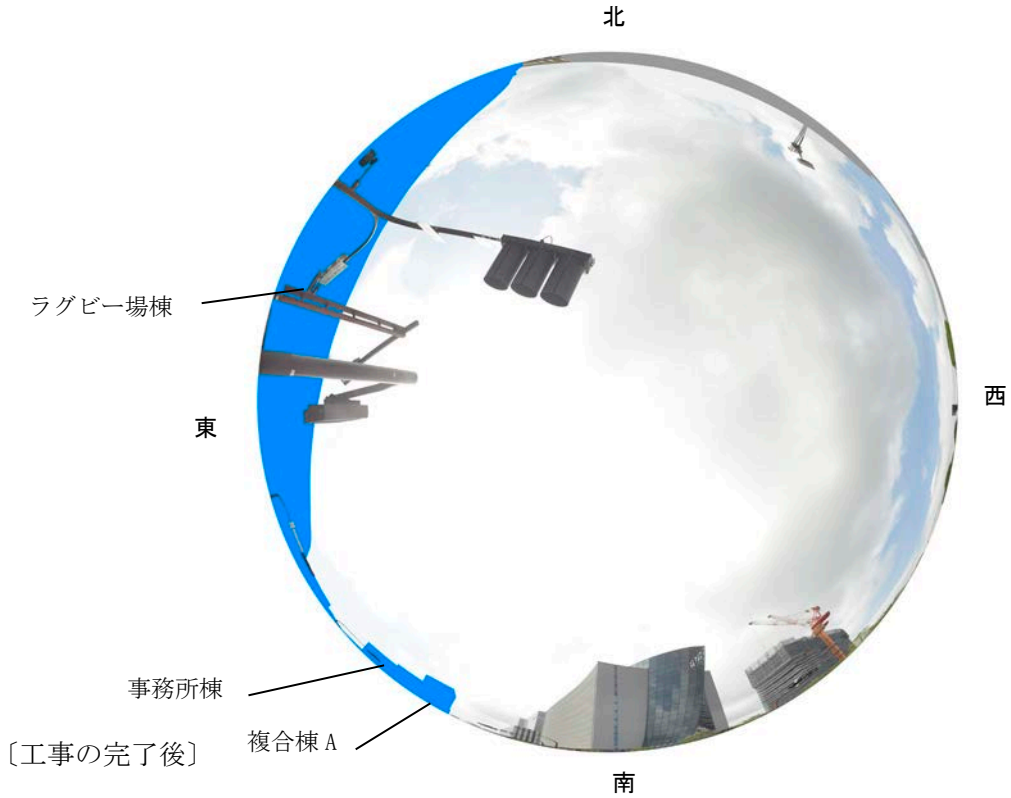
表 5.3.4-1 (2)　形態率の変化の程度【変更前】

調査地点		現況		工事の完了後		変化量	
		地域全体 A	計画地内 既存建築物 B	地域全体 C	計画地内 計画建築物 D	地域全体 C-A	計画地内 D-B
No.3	国立競技場南東側交差点	11.66%	0.71%	19.51%	9.47%	7.85ﾎﾟｲﾝﾄ	8.76ﾎﾟｲﾝﾄ
No.7	神宮外苑広場（建国記念文庫）前	3.83%	2.41%	36.64%	35.22%	32.81ﾎﾟｲﾝﾄ	32.81ﾎﾟｲﾝﾄ

注）調査地点の番号は、図 5.3.4-2(p.95)に対応する。



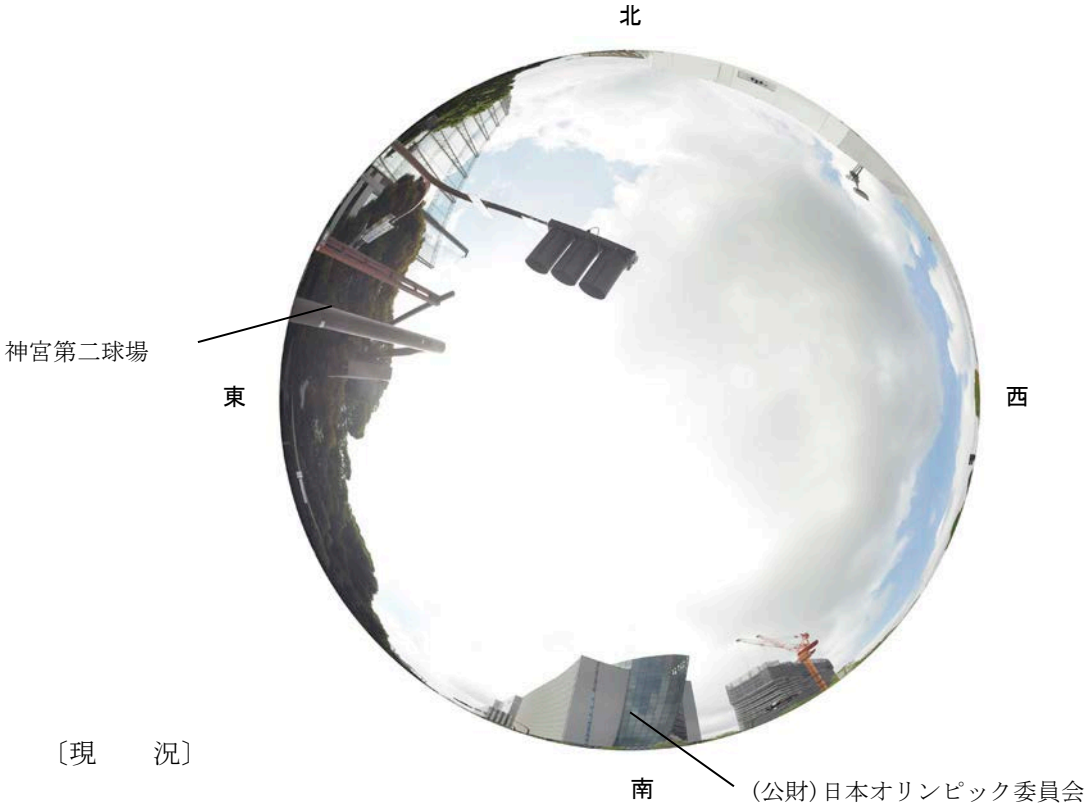
〔現　　況〕



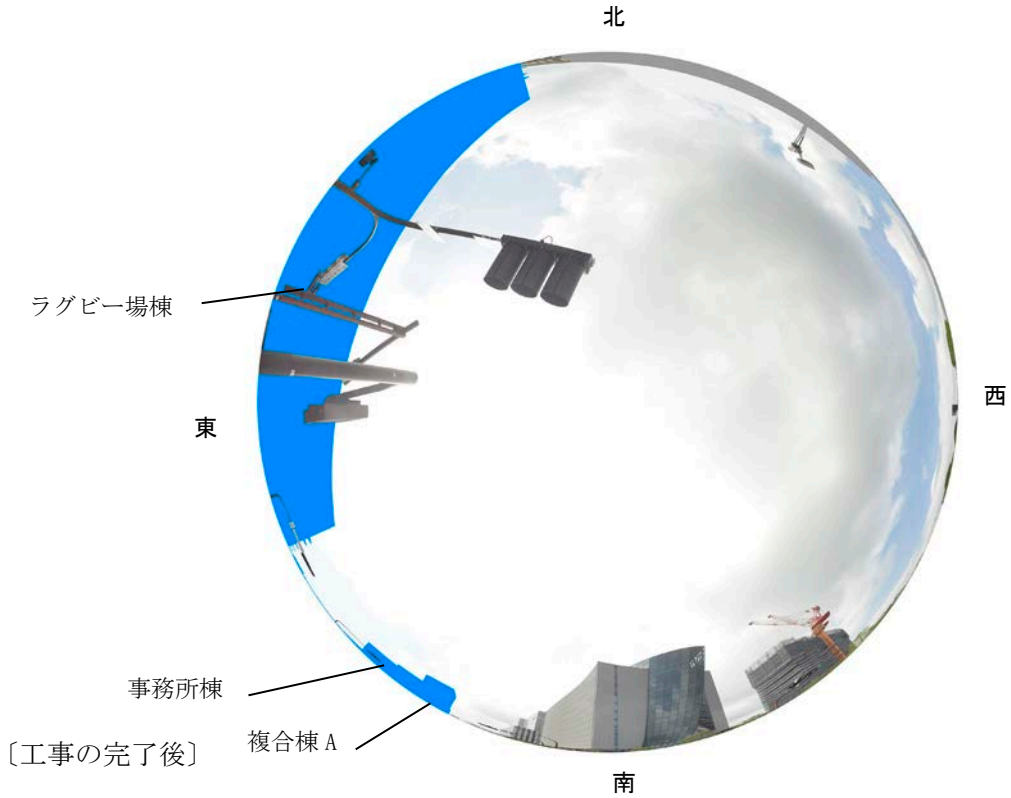
〔工事の完了後〕

現　　況：計画地内の既存建築物が見える。地域全体の形態率は 11.66%である。 工事の完了後：北東側に計画建築物(ラグビー場棟)が見える。地域全体の形態率は 17.40%となり、現況と比較して 5.74 ポイントの増加となる。

写真 5.3.4-4(1)　圧迫感の変化（No.3：国立競技場南東側交差点）【変更後】



〔現　　況〕

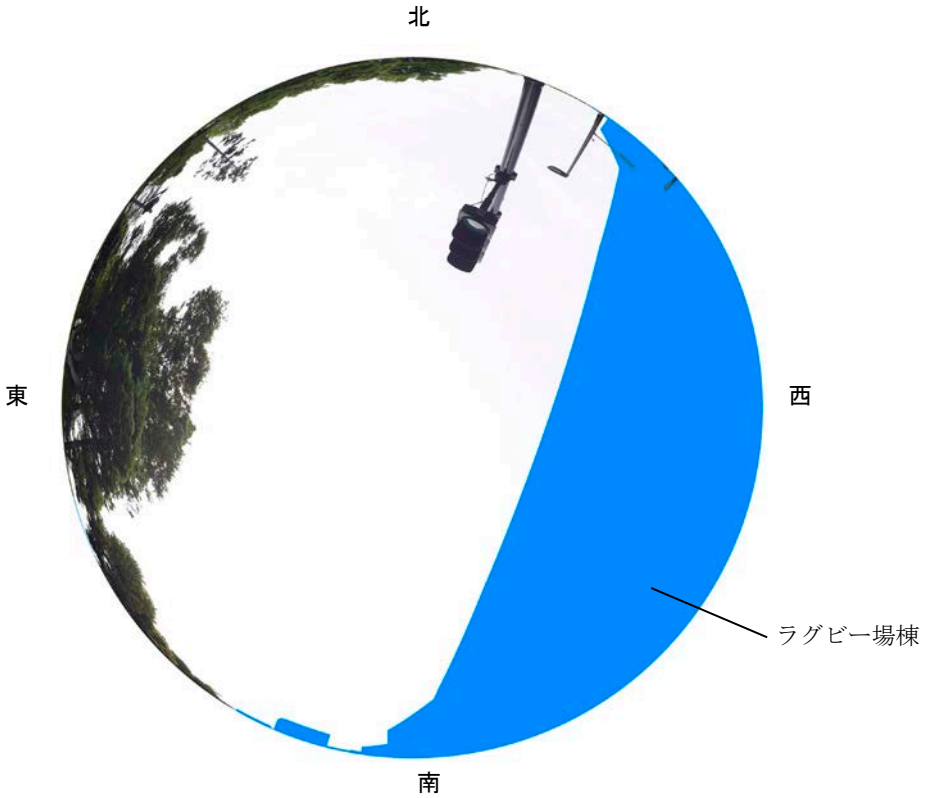


〔工事の完了後〕

現　　況：計画地内の既存建築物が見える。地域全体の形態率は 11.66%である。 工事の完了後：北東側に計画建築物(ラグビー場棟)が見える。地域全体の形態率は 19.51%となり、現況と比較して 7.85 ポイントの増加となる。

写真 5.3.4-4(2)　圧迫感の変化（No.3：国立競技場南東側交差点）【変更前】

〔現　　況〕



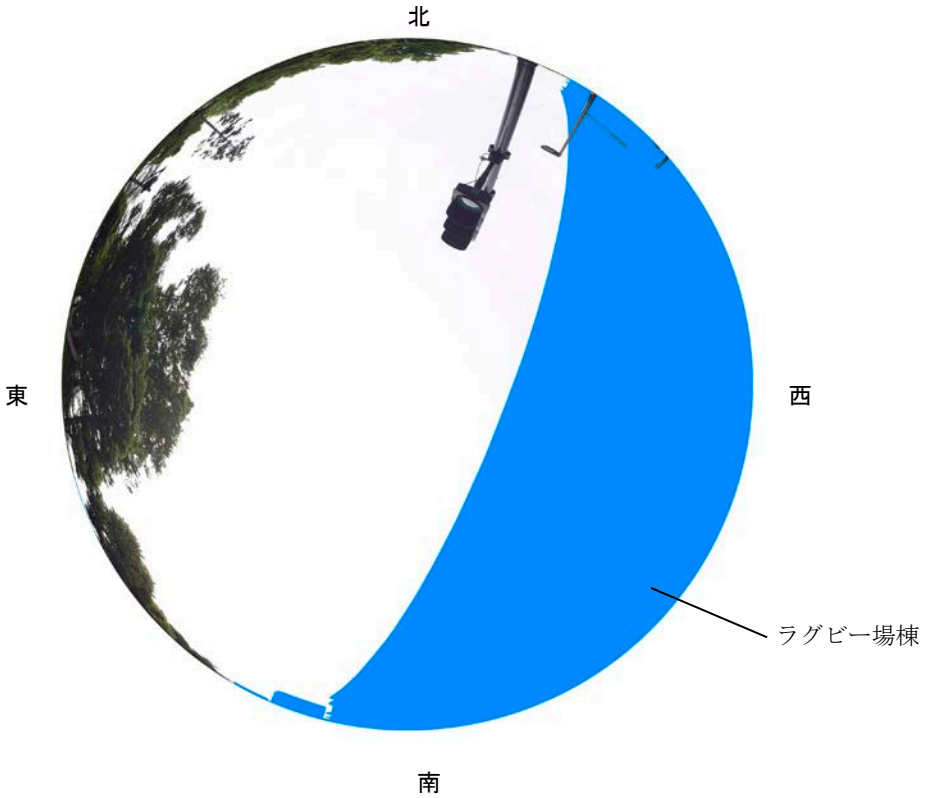
〔工事の完了後〕

注）ラグビー場棟手前に新植する予定の樹木はモンタージュに反映していない。

現　　況：計画地内の既存建築物が見える。地域全体の形態率は 3.83%である。
工事の完了後：西側に計画建築物(ラグビー場棟)が見える。地域全体の形態率は 29.98%となり、現況と比較して 26.15 ポイントの増加となる。

写真 5.3.4-5(1)　圧迫感の変化（No.7：神宮外苑広場（建国記念文庫）前）【変更後】

〔現　　況〕



〔工事の完了後〕

注）ラグビー場棟手前に新植する予定の樹木はモンタージュに反映していない。

現　　況：計画地内の既存建築物が見える。地域全体の形態率は 3.83%である。
工事の完了後：西側に計画建築物(ラグビー場棟)が見える。地域全体の形態率は 36.64%となり、現況と比較して 32.81 ポイントの増加となる。

写真 5.3.4-5(2)　圧迫感の変化（No.7：神宮外苑広場（建国記念文庫）前）【変更前】

(6) 評　価

・評価の指標は、「港区景観計画」、「新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドライン」、「渋谷区景観計画」等に定める景観の方針とした。圧迫感の変化の程度についてはこれに加え、「圧迫感の軽減を図ること」とした。

1) 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度

ラグビー場棟については評価書時点から配置や規模について著しい変更は行っておらず、変更前と同様に、近景域においては、計画建築物が視野に占める割合は大きいものの、変更後ではラグビー場棟の占める割合は小さくなっており、眺望に著しい変化はない。

神宮外苑広場（建国記念文庫）の既存樹木については設計の工夫を行い、ラグビー場棟の北側の建物規模を縮小化し、北東角を最大限後退させた。さらに、ラグビー場棟の最高高さを低くし、建物の北側を階段状として東側及び西側の上部の壁面を建物側に傾斜させることで、存置及び移植樹木が増加するとともに、評価書に記載した保全エリアの範囲を拡大することができ、既存樹木の保全に配慮している。

また、施設東側及び北側には、都市計画上地区施設として定められている緑道を整備するほか、既存樹木の存置や移植による保全、新植による緑量の確保や質の向上にも配慮する。さらに、保全エリアにおける存置樹木の生育環境良化に向けて、歩行できるエリアは設置しつつ、樹木の生育環境のために立ち入りを制限するエリアは木チップ等で覆う計画とする。

以上の環境保全のための措置を徹底することから、代表的な眺望地点からの景観については、現況のまとまりのある緑も維持・保全されており、「港区景観計画」に示されている「青山通り周辺景観形成特別地区」、「神宮外苑銀杏並木周辺景観形成特別地区」の景観形成の目標、「新宿区景観形成ガイドライン」に示されている「新宿御苑みどりと眺望保全地区」の景観形成の目標及び「渋谷区景観計画」に示されている文化・事業活動等の特性に応じた景観形成等の基本理念との整合が図られるものと考える。

上記については、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。

2) 圧迫感の変化の程度

圧迫感の指標である形態率の地域全体の変化量は、現況と比較して最大 26.15 ポイント増加するものと考えられ、変更前の 32.81 ポイント増加から 6.66 ポイント減少する。

計画建築物の配置は、敷地境界から一定の距離をとり、色彩は、「東京都景観色彩ガイドライン」、「港区景観計画」及び「新宿区景観形成ガイドライン」に適合したものとする。

計画地及びその周辺には、高木等、歩行者動線とも連携した緑化を行い、地区特性に応じたメリハリのある緑化を推進する。これらにより、計画建築物による圧迫感の低減に努める。

上記については、変更後と変更前における評価の結論に変更はない。

6. 環境影響評価手続等の状況

6.1 環境影響評価手続の状況

環境影響評価の手続の状況は、表 6.1-1 に示すとおりである。

表6.1-1 環境影響評価の手続の状況

環境影響評価の手続	提出年月日	備　　考
環境影響評価書	令和 5 年 1 月 10 日	－
事後調査計画書	令和 5 年 1 月 17 日	－
工事着手届（着工届）	令和 5 年 1 月 17 日	－
事後調査報告書(工事の施行中その 1)	令和 5 年 7 月 6 日	生物・生態系（根回しの状況、養生の状況、仮移植計画）
事後調査報告書(工事の施行中その 2)	令和 6 年 9 月 30 日	生物・生態系（既存樹木の状況、神宮外苑広場（建国記念文庫）の樹木の保全状況、いちょう並木の保全状況（4 列））、自然との触れ合い活動の場、廃棄物

6.2 許認可の状況

本事業に係る許認可の状況は、表 6.2-1 に示すとおりである。

表6.2-1 本事業に係る許認可の状況

許認可等	根拠法令	年月日
建築物の確認	建築基準法　第 6 条第 1 項　または　第 6 条の 2	－
第一種市街地再開発事業	都市再開発法　第 7 条の 9	令和 5 年 2 月 17 日　告示
地区計画	都市計画法　第 12 条の 5	令和 4 年 3 月 10 日　告示

資　料　編

目　次

1.　ラグビー場棟の施設仕様について　……113
2.　存置、移植、伐採樹木　……119
　2.1　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木　……119
　2.2　計画地全体における存置、移植、伐採樹木　……142
3.　風環境予測結果　……396

1. ラグビー場棟の施設仕様について

ラグビー場棟の施設仕様の設定根拠について、p. 114～p. 118 に示す。

新秋父宮ラグビー場（仮称）基本計画 ～概要版～

JAPAN SPORT COUNCIL

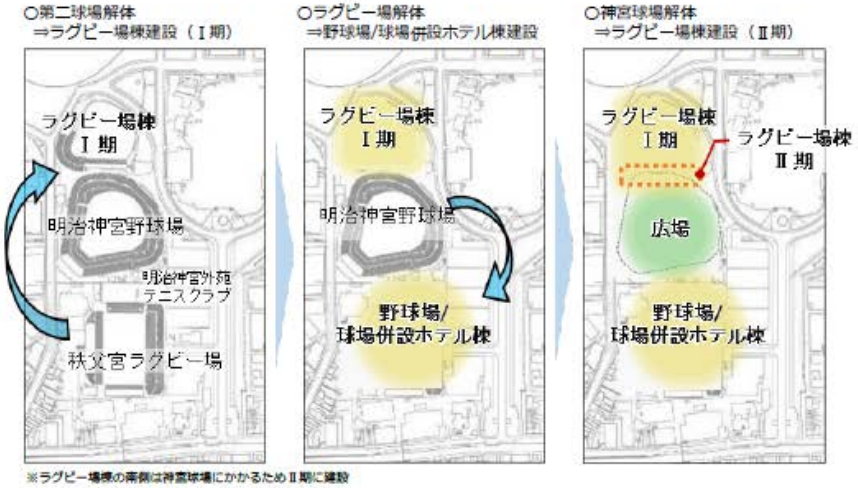
1．事業の概要

（1）これまでの経緯

秩父宮ラグビー場を管理・運営する日本スポーツ振興センターは、新秩父宮ラグビー場（仮称）の整備について、東京都の地区計画や指針に基づき、神宮外苑地区一帯のまちづくり事業として、都及び神宮外苑地区のまちづくり事業を推進する関係者と連携し協議を重ねてきた。また、スポーツ庁をはじめとする関係省庁や、（公財）日本ラグビーフットボール協会など関係者との意見交換やヒアリングを通して、本基本計画の検討を進めてきたところである。

（2）計画地を含む神宮外苑地区再開発事業の整備イメージ

計画地を含む神宮外苑地区一帯のまちづくり事業は、都の指針の誘導方針として示されている「競技等の継続に配慮した大規模スポーツ施設の連鎖的な建替え」に基づき整備を行う予定である。新秩父宮ラグビー場（仮称）については、現位置より北側に移転し、Ⅰ期、Ⅱ期に分けて整備する予定で検討を進めている。



※ラグビー場棟の南側は神宮球場にかかるためⅡ期に建設

2．計画地の概要

（1）計画地の現状

新秩父宮ラグビー場（仮称）の計画地は、新宿区に位置し国立競技場に隣接しており、敷地面積は約43,500㎡である。また、計画地を含む神宮外苑地区は、国立競技場をはじめとした日本を代表するスポーツ施設やその関連施設が多く集積し、国民がスポーツに親しむ一大拠点を形成している。

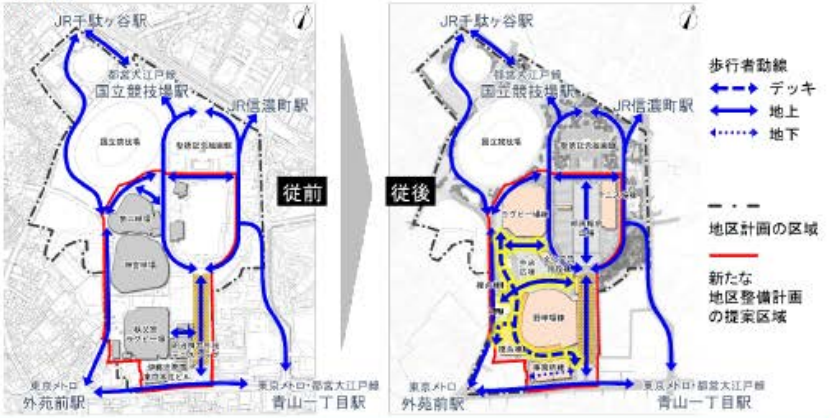
（2）計画地を含む都市計画

都が策定した「神宮外苑地区地区計画」に定める目標の実現に向けて、東京2020大会後を見据え、民間が事業主体となって進めるまちづくりを適切に誘導するため「東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり指針」を策定し、神宮外苑地区をにぎわい溢れるみどり豊かなスポーツの拠点として更に発展させていくための目指すべき将来像を掲げた。

新秩父宮ラグビー場（仮称）は、都の公園まちづくり制度の活用も図りながら、上記、指針に基づき、世界に誇れるスポーツクラスターの形成の一助となるようまちづくりに取組む方針で整備を行う。また、整備を行うにあたり、地区計画の方針を踏まえた必要な地区施設等を位置付けていく。

（3）計画地と周辺ネットワーク

国立競技場や中央広場、神宮球場との連携を図り、地域一帯でスポーツ・文化の醸成に貢献する。また、計画地への来場者が安全・快適に歩行・滞留でき、また、周辺の緑豊かな風格ある都市景観やにぎわいを楽しめるよう歩行者動線等の整備を図る。



JAPAN SPORT COUNCIL

3．施設整備計画に関する事項

（1）施設整備の基本的な考え方

新秩父宮ラグビー場（仮称）の整備は都市再開発法に基づく第一種市街地再開発事業（個人施行）として施行予定である。また、基本方針を踏まえ、以下の考え方を基に施設整備計画を検討する。

1.我が国のラグビーを象徴するスタジアム

■ラグビーの「聖地」
選手は最高の高揚感を感じ、観客はどこからでも見やすく、スタッフは機能的に運営できる、訪れた人々が一体感：ONE TEAMになれるラグビー場を目指す。

■ラグビーの魅力を感じられるスタジアム
秩父宮ラグビー場の歴史や日本ラグビーの感動の場面、記録などに加え、ラグビーの持つ多様な価値を実感し、誰もがスタジアム全体でラグビーを体験できるような施設を目指す。

2. 様々なシーンに対応できる誰もが心地よいスタジアム

■多様なスポーツ・文化によるにぎわい創出
ラグビー以外のスポーツ競技や各種イベントでも使いやすい施設とし、神宮外苑地区のにぎわい創出に寄与する。

■人にやさしく、何度でも訪れたくなる空間
共生社会にふさわしい計画とし、誰もが心地よく過ごすことができる施設を目指す。

■スマートスタジアム
最新の通信環境を導入するなど、ICTの活用による高付加価値のサービスを提供する。

「スポーツの力」で未来を育てるスタジアム
～人々の生きがいを創出し、持続可能で活力ある社会を育む～

3. 持続可能性に配慮した未来を紡ぐスタジアム

■地球・社会にやさしい施設
省エネルギーをはじめとする地球温暖化対策、持続可能性に配慮するなど、地球や社会にとってやさしい施設を目指す。

■防災性の強化により地域に貢献
大規模災害発生時には利用者や帰宅困難者の安全を確保するとともに、防災拠点として地域に貢献し、安心・安全な施設を目指す。

4. スポーツの多様な価値を発信するスタジアム

■「スポーツの力」で未来を育てる
秩父宮記念スポーツ博物館を起点として、様々なスポーツの価値を発信し、知的な刺激や楽しみを分かち合い、語り合える場・機会を提供する。

■スポーツのもたらす可能性
心身の健康の保持増進に加え、スポーツが社会にもたらす効果、人と人とのつながり・絆などスポーツの可能性を感じられる施設を目指す。

（2）整備方針

1）基本事項

①規模・主用途	・ワールドラグビー公式試合開催の際に求められる施設水準と機能※を想定する。 ※「ラグビーワールドカップ2019開催都市ガイドライン」で示される試合カテゴリーのプール戦（カテゴリーB）クラス ・収容人数は約25,000人規模とし、座席は20,000席を想定する。 ・主用途はラグビー利用とするが、他のスポーツやスポーツ以外のイベント等の利用も想定する。 ・全天候型のスタジアムとする。
②一般利用者への開放	・スポーツやイベント利用以外にも、公園利用者や来街者に対しても開放された施設を目指し、スポーツ博物館、飲食店、物販施設等、利用できる施設を計画する。
③スマートスタジアム	・IT技術の進展により、観客に対する様々な情報提供や観客による情報発信等が高度化・多様化していくことを前提に、最新の通信環境の導入等を検討する。
④ユニバーサルデザイン	・誰もが利用しやすい施設とするため、ユニバーサルデザインに十分配慮した諸室、動線、サイン等を計画する。

2）導入機能

①フィールド	・人工芝のフィールド、フィールドサイズ：140m×87mを想定 ・人工芝はトップレベルの選手が常に良好な状態で競技できる環境 ・選手との距離が近く感じられ、試合の臨場感が感じられ、選手と観客の一体感が生まれるラグビー場を目指す
②スポーツ関連（選手関連、運営者等関連、メディア関連）	・選手関連諸室、運営者等関連諸室、メディア関連諸室などは、ラグビーの試合の開催に必要な諸室を確保 ・選手関連諸室、運営者等関連諸室、メディア関連諸室を利用する者が不自由なく快適に利用できる計画
③観客関連	・快適なスポーツ観戦環境を実現できる、スタンド席やコンコース等の空間を計画、また文化イベント利用にも配慮した形態 ・案内サインやゲート等の視認性にも配慮された、誰もが使いやすいラグビー場 ・入場前の待機スペースを確保
④VIP関連	・十分な数の個室化されたVIPルーム等、ホスピタリティ施設としてふさわしい空間を計画
⑤文化交流施設	・スポーツの多様な価値を伝えるネットワークの拠点としての秩父宮記念スポーツ博物館及びラグビーの魅力を発信するミュージアムを計画
⑥イベント関連	・イベント関係者の諸室は、イベントの開催に必要な設備・諸室を適切に確保した、運営者が不自由なく快適に利用できる計画 ・搬入車両のフィールド乗り入れ等の設営に配慮した計画
⑦にぎわい形成機能	・イベントの有無に関わらず来街者が利用できるように、ラグビー場低層部に文化交流施設、店舗等を配置し、屋外空間や他の街区との連携による一体的なにぎわい形成に配慮した計画

3）動線計画

・ラグビーを主とした国際競技大会の開催に対応できるように、選手、運営者、メディア関係者、観客、VIP、管理者等の施設利用者がそれぞれ機能的で分かりやすい動線を計画する。
・自然災害や火災発生時等に、施設利用者が迅速かつ安全に避難できる動線を確保する。

4）景観

①外観デザイン
・ラグビーの聖地としてふさわしい品格のあるデザインを目指す。
・神宮外苑の緑豊かな風格ある都市景観との調和を図る。また、隣接する国立競技場や野球場棟など、三つのスタジアムが協調し、周辺街区や公共施設等との調和を意識したデザインを目指す。
・スタジアム通りからの圧迫感の緩和を図るとともに、中央広場・絵画館前広場からの景観に配慮する。
②緑化計画
・計画地の外周や北側に存在する既存樹木を活かし、神宮外苑の緑と調和した緑化空間を形成する。
・隣接する国立競技場と調和するみどりのネットワークを形成する。

5）環境

①環境：自然エネルギー等の利活用により省エネルギー化・節水を図り、環境負荷を軽減した施設とする。
②LCC（ライフサイクルコスト）：環境配慮した設備機器を採用するなど、LCCが低減されるように計画する。

6）設備

・スポーツ利用やイベント利用それぞれに対応し、観客や管理運営者等にとって魅力的で使いやすい設備・設備諸室を計画する。
・将来の設備更新に配慮した計画とする。
・自然災害や火災発生時等においても対応可能な設備計画とする。

7）防災・BCP

・大規模災害に備え、十分な耐震性を有する構造とするとともに防災にも配慮した安心安全な計画とする。
・自然災害等に対応するために、必要な構造や防災機能を有する計画とする。
・災害発生時に帰宅困難者対応や施設利用者へ配慮して、滞在可能なスペース、備蓄倉庫、発電設備等を計画する。
・来場者が安心して過ごせるよう、新型コロナウイルス感染症等の感染症への対応を踏まえた計画とする。

（3）事業方式

民間のノウハウと創意工夫を最大限活用できるよう施設整備及び運営に民間活力を活用した事業方式（PFI事業／BT＋コンセッション方式）により整備することを前提に進める。

4．管理・運営業務に関する事項

（1）管理・運営の基本的な考え方

1）管理・運営の基本的な考え方

・基本方針に掲げるスタジアム像の実現を図り、ラグビーをプレーする人、みる人、ささえる人、集まる人にとって安全かつ快適な施設となるとともに、他のスポーツ競技や各種イベントなど様々な用途でも同様に誰もが安全かつ快適に使用できるよう管理・運営を行う。

2）管理・運営手法

・ホスピタリティ機能の充実や収益の最大化を図るため、民間のノウハウと創意工夫を最大限活用できるようコンセッション方式を想定し、民間活力が最大限に発揮されるよう、設計・建築と管理・運営とを連続した一体事業とすることを想定している。

3）対象施設範囲

・管理・運営の対象施設範囲は、新秋父宮ラグビー場（仮称）とする。
・文化交流施設として整備するスポーツ博物館における、資料の収集保存や調査研究、展示、教育普及等の学芸業務をはじめとする運営業務は原則としてJSCが行うこととし、維持管理業務は新秋父宮ラグビー場（仮称）の維持管理と一体で事業者が行うことを想定している。
・神宮外苑地区一帯のまちづくりに取り組み、関係者との連携及び協力に努めるものとする。

4）運営権設定と管理・運営の開始時期等

・Ⅰ期 建設工事竣工後に運営権を設定し、管理・運営を開始することを想定している。

（2）収支に関する基本的な考え方

1）収入

新秋父宮ラグビー場（仮称）の収入については、ラグビーその他スポーツ利用による貸館収入のほか、文化イベント利用等による貸館収入、広告収入、ホスピタリティの向上に資するサービスの提供による収入等を想定する。

事業者は、新秋父宮ラグビー場（仮称）の全天候型スタジアム等の施設特性や立地の優位性を最大限に活かし、収益の最大化を図ることが期待される。

2）費用負担

新秋父宮ラグビー場（仮称）の維持管理・運営に係る費用（運営実態に基づき課税があった場合の課税額相当分の負担を含む。）は、貸館その他の収入から事業者が原則負担することを想定する。

収入及び費用負担については、今後実施するマーケットサウンディングの調査結果及び市場動向を踏まえ、更に詳細な検討を行う。

5．事業スケジュール〈想定〉

基本・実施設計	令和４（2022）年度～
【Ⅰ期】建設工事	令和６（2024）年度～令和９（2027）年度
【Ⅱ期】建設工事	令和15（2033）年度～

第2章. 施設整備

第1節　基本方針

2. 施設整備方針

P16、17より

（3）神宮外苑地区全体として発揮される機能を高めるための整備方針

第1章.第3節.3. 計画地等の概要に記載のとおり、本施設等が位置する神宮外苑地区は、東京都景観計画において、東京を代表する眺望景観として親しまれている神宮外苑の銀杏並木と絵画館の眺望を保全する景観誘導区域及び新宿御苑の文化財庭園等の眺望の保全に関する景観誘導区域に位置し、東京のまちづくりや景観形成に関して重要な場所である。

① 神宮外苑の緑豊かな風格ある都市景観との調和

② 隣接する国立競技場・野球場と本施設等の3つのスタジアムが協調したデザイン

③ 各最寄り駅（千駄ヶ谷駅・信濃町駅・外苑前駅・青山一丁目駅・北参道駅・国立競技場駅）からのアクセスを考慮し、あらゆる方向からの景観に配慮するとともに、圧迫感や閉鎖性の緩和に留意したデザイン

④ 本敷地の外周や北側に存在する既存樹木を活かし、隣接する国立競技場をはじめとする神宮外苑の緑と調和した緑化の推進及びみどりのネットワークの形成

第2節　設計及び建設の前提条件

P19より

2. 建設の条件

本施設等の建設をⅠ期・Ⅱ期に分ける場合は、【添付資料8】「各室性能表」の「各諸室の工事期間」欄に記載のとおりに整備し、Ⅰ期の供用開始時において、ラグビーの試合や大会等の開催が可能な計画とすること（Ⅰ期で【添付資料8】「各室性能表」に記載の室を全て整備し、Ⅱ期は外構・車路等に係る整備のみを実施することも可能。）。

スポーツ博物館についてはⅠ期・Ⅱ期のいずれの整備でも可とする。

なお、Ⅱ期工事中において、ラグビーの試合や大会等に支障がないよう計画すること。

P19 より

3. 観客席の条件

スタンド席で15,422席以上、フィールドを利用したアリーナ席で5,000席以上を収容できる計画とする。

（1）スタンド席

スタンド席の種別及び座席数は、図表4による。

図表４　総座席数

種別	スタンド席座席数
一般席	15,000 席以上 （この内、車いす席・車いす同伴者席をそれぞれ 0.5%以上、付加アメニティ席を 1.0%以上確保する）
貴賓室 バルコニー席	12 席 （この内、車いす席を 0.5%以上確保する）
観戦ボックス バルコニー席	80 席以上 （この内、車いす席を 0.5%以上確保する）
VIP ラウンジ バルコニー席	150 席以上 （この内、車いす席を 0.5%以上確保する）
記者席	150 席
チーム用スタンド席	30 席
合計	15,422 席以上
備考 一般席の一部について、プレミアム感のある観戦体験や来場者の裾野を広げることに寄与するような機能（プレミアムシートやファミリーシートなど）を事業者の提案に基づき導入すること。	

P20より

5. フィールドの条件

次のフィールドの規格を確保する。

ア フィールド寸法は134m×84mを確保すること。

イ フィールド内の競技区域の寸法は120m×70mを確保すること。

ウ インゴールは各10mとし、ライン（幅100mm）はピッチの外に書くこと。

エ 周辺区域はメインスタンド側8m、バックスタンド側6m、サイドスタンド側7mを確保すること。

オ 競技区域の天井高さは35m以上確保すること。

第4節　施設計画（個別）

1.　建築性能

P26より

（3）外装・屋根計画

① 全天候型のスタジアムとして外装・屋根を計画すること。

② 外装・屋根は、外皮としての性能を十分に満足し、耐久性及びメンテナンス性に優れた計画とする。

③ 外装材・屋根材は、近隣への反射等に配慮した計画とする。

④ 外装材・屋根材の仕上げ及び色彩が、周辺の景観と調和した計画とする。

⑤ 観客の観戦環境や競技者の競技環境が快適となるよう、大空間における音響に配慮した屋根形状・材質を計画するとともに、近隣への遮音にも配慮した計画とする。

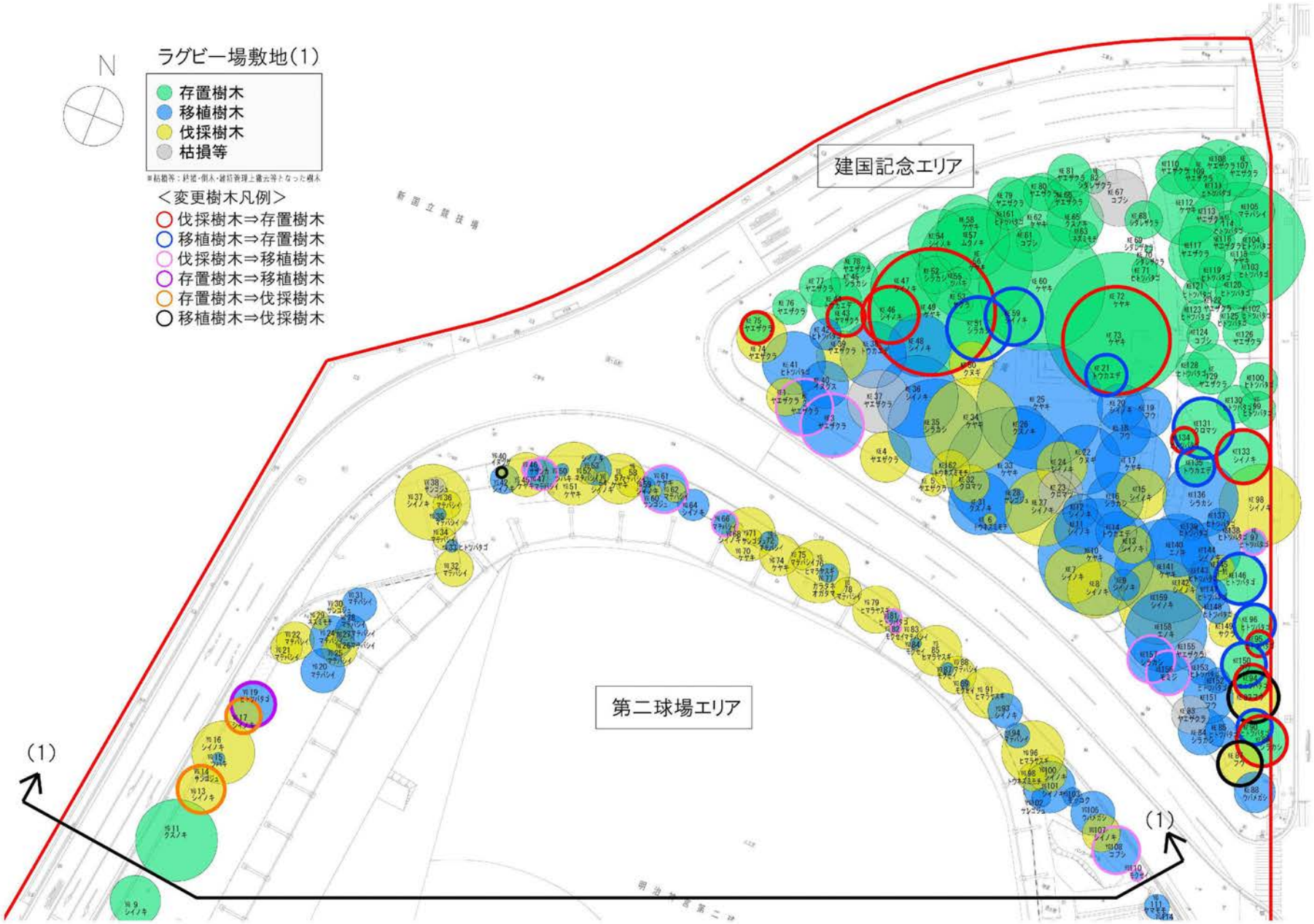
2. 存置、移植、伐採樹木

2.1 ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木

変更後におけるラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木の配置は、資料図 2.1-1～2 に示すとおりである。また、毎木調査票は、資料表 2.1-1～19 に示すとおりである。なお、毎木調査票の見方は、下記のとおりである。

■毎木調査票の見方

1. 活力度評価結果の網掛けは 2019 年春季までの調査の活力度評価に対し評価が変化したものを示す（2019 年春季までの調査結果については、環境影響評価書にて記載）。
2. 当リストにおける「保存」は、存置樹木のことを示す。
3. 保存・移植・伐採の分類における「※」は枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木を示す。



資料図 2.1-1　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木の配置

資料図 2.1-2　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木の配置

資料表 2.1-1　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名：建国記念文庫　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-001		ヤエザクラ	7.5	85	6.0	-	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B			○					○	有	中	幹に打音異常 H0.0m～1.2mあり。 開口空洞 15×18×40/40(貫通)あり。 根元の穴に前回調査ではベッコウタケの子実体が確認されたが今回は消失。 樹幹傾斜あり。 枯枝(西側H4.5)、φ10、L=2.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-002		ヤエザクラ	10.0	134	9.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	無	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1m。 樹勢普通であるが、剪定による移植後の樹形維持可。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。 根回し時の歩道使用が必要。		●(赤)		A			
KE-003		ヤエザクラ	10.5	2本立	10.0	155.91	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			有	無	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.1m。 樹勢普通であるが移植後の樹形維持可。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。 根回し時の歩道使用が必要。		●(赤)		B			
KE-004		ヤエザクラ	10.0	2本立	8.0	108.75	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		有	無	幹H1.2mに開口空洞 10×10×15あり。 高さH1.2mに入り皮あり。 ぶつ切り剪定痕からの腐朽(中)あり。 幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.1m。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-005		ヤエザクラ	4.5	90	3.5	-	3.5	3.5	3.5	2.5	3.0	3.5	2.0	2.0	1.5	1.0	2.60	C			○					○	有	中	幹に打音異常 H0.5m～1.5mあり。 大枝(南側下部)に腐朽(大)あり。 樹冠上部の枯死、樹形・樹勢は不良である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-006		トウネズミモチ	3.3	2本立	2.0	39.28	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	大	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
KE-007		シイノキ	8.5	184	9.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○				○		有	無	幹に打音異常 H0.5m～1.2mあり。 枝の分布に偏り(道路側)あり。腐朽、損傷も多い。 移植後の樹形・樹勢の維持が困難。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m。フェンスは撤去可能。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-008		シイノキ	8.5	161	9.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	無	根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 根元にカンゾウタケの発生あり。 大枝(南側)に腐朽(大)あり。大枝に剪定痕からの腐朽あり。 大枝(H5.3m)に腐朽枝φ20、L=0.8mあり。 樹冠に偏り(道路側)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-009		シイノキ	7.0	56	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	大	幹(H2.5m)に開口空洞 18×13×5/25あり。		●		B			
KE-010		ケヤキ	21.0	2本立	18.5	266.169	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B	○					○			無	無	根元に入り皮、巻き根が多数あり(切断処置済)。 樹皮にコルク質の異常が、多数あり。 大枝(西側)H2.0mに腐朽(中)あり。 移植時に細い株は切断。上部剪定では樹形不良。		●		A			
KE-011		シイノキ	7.5	78	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B		○		○					無	大	大枝(西側)に腐朽(小)あり。		●		B			
KE-012		シイノキ	7.5	71	5.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B		○		○					無	大	幹(H2.0m)に開口空洞20×10×12/30あり。 移植に際しては問題ない状態である。		●		B			
KE-013		シイノキ	7.0	115	6.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	大	樹冠傾斜あり。 根元(南H0.2m)に開口空洞 30×6×10あり。 幹(南H0.6m)に開口空洞 15×5×4あり。 幹(南H1.4m)に開口空洞 23×7×25(芯達)あり。 幹(南H2.5m)に開口空洞 25×8×25(芯達)あり。 幹(北H1.0m)に開口空洞 8×3×25/35(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.5mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

資料表 2.1-2　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名	建国記念文庫	調査日	2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-014	トウカエデ	15.0	127	6.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○			○				無	大	根元に敷き葉の養生あり。 被圧樹形(現状剪定の必要なし)。上部剪定でも樹勢、枝葉回復力高い種である。		●		B			
KE-015	シイノキ	7.0	138	8.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	大	根元・幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 幹(南H0.9m)に開口空洞 25×6×25/33(芯達)あり。 幹(北H1.0m)に開口空洞25×13×12/45あり。 幹(東H1.4m)に開口空洞7×10×25/40(芯達)あり。 大枝に剪定痕からの腐朽(中)が3箇所あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-016	シラカシ	19.0	171	9.0	-	2.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○				○			無	無	幹(西側)H1.5mに開口空洞 100×3×30/48(芯達)あり。 幹に打診音異常H0.5～2.0mあり。 上記あるが、移植はできる程度である。		●		B			
KE-017	ケヤキ	18.5	136	12.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無		被圧による枝枯れ(小)あり。 根元に敷き葉の養生あり。 上部剪定で樹形の維持が困難。		●		A			
KE-018	フウ	21.0	200	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	無	剪定こぶが多数あり。 上部剪定で樹形の維持がやや難。		●		A			
KE-019	フウ	22.0	185	8.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○				○			有	無	被圧により、片枝樹形である。 移植に向けた剪定で適正樹形の維持がやや困難(12mまで下枝なし)。太い露出根(北側)あり。 幹芯から歩道縁石までの距離1.55m(北側)、1.9m(東側)。		●		A			
KE-020	シイノキ	12.5	120	7.5	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				無	無	大枝に剪定痕からの腐朽(中)が多数あり。 幹(南H1.4m)に開口空洞3×3×12/40あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m～1.5mあり。 移植剪定後の樹形維持が可能。		●		B			
KE-021	トウカエデ	16.0	137	6.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○			○				無	無	露出根に樹皮欠損・腐朽あり。 幹(北H2.1m)に開口空洞20×15×12/45あり。 ぶつ切り剪定されている。 上記あるが、移植はできる程度である。	●			B			
KE-022	クヌギ	20.0	224	11.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無	無	ぶつ切り剪定されている。 幹に肥大部あり、打診音異常H0.5～1.5mあり。 上記あるが、移植はできる程度である。		●		B			
KE-023	クロマツ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	枯死している。	-	-	※	B			
KE-024	シイノキ	7.5	110	8.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	無	中	高さH5.0mにて断幹されている。 幹H1.0mに開口空洞 7×5×32/35(芯達)あり。 幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-025	ケヤキ	18.0	215	20.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○					○			有	無	高さH3.0mにて断幹されている。 深植え状態にある。 枯枝(H8m) φ10, L=5.0mあり。 上部剪定で適正樹形の維持が困難(H3.0mで断幹され、そこから伸長した双幹状の樹形)。 幹芯から柵までの離隔距離0.5m。		●		B			
KE-026	クスノキ	13.5	103	7.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B		○			○				無	無	下枝が高い。 枯枝(西H7m) φ6, L=1.2mあり。被圧による下枝の枯れ多数あり。 クスは萌芽力高く樹形回復力ある。		●		B			
KE-027	シイノキ	10.5	209	12.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.25	B			○				○		無	有	幹(南H1.2m)に開口空洞 6×6×40/80(芯達)あり。 幹(南H0.4m)に開口空洞 20×20×25あり。 大枝の下部に腐朽が数か所あり。 移植に向けた剪定で適正樹形の維持が困難(樹幹傾斜および枝の分布に極端な偏り(道路側)あり)。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

資料表 2.1-3　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名	建国記念文庫	調査日	2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	
KE-028		サンゴジュ	3.0	2本立	2.5	23,19	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○		○					無	大	-
KE-031		クスノキ	15.5	246	10.0	-	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○				○			有	無	根元がフェンスにくい込んでいる。 フェンス撤去により根鉢確保が可能。 クスは萌芽力あり。 樹木番号KE-033ケヤキによる被圧により片枝樹形である。
KE-032		クロマツ	11.5	97	6.0	-	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○				○		無	無	樹木番号KE-032ケヤキによる被圧により片枝樹形である。 下枝高く、道路側へ大きく傾斜しており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
KE-033		ケヤキ	20.0	227	20.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	無	樹冠が大きく、立派である。 上部剪定で樹形の維持が困難、ケヤキらしさがなくなる。
KE-034		ケヤキ	13.0	190	15.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B			○					○	無	大	大枝に開口空洞 400×25あり。 深植え状態にある。 周辺木からの被圧(大)あり。 枯枝(北H5.0m) φ20、L=3.5mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
KE-035		シラカシ	17.5	188	15.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○					○			無	無	幹(H1.5m)に閉塞痕あり。 大枝分岐部(H2.2m)に入り皮あり。 上部剪定でも樹形の維持が可能。
KE-036		シイノキ	14.5	207	13.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○				○			無	無	大枝(南側)に腐朽(大)、打音異常(大)あり。 幹に打音異常(小) H1.0m～2.5mあり。 枯枝(南H9m) φ12、L=7.0mあり。
KE-037		ヤエザクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	枯死している。
KE-038		トウカエデ	17.0	160	10.5	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○			○				無	無	過去にぶつ切り剪定されている。 枯枝(南H7.5m) φ10、L=10.5mあり。 ほか、被圧による下枝の枯れ多数あり。 上部剪定を行っても樹形の維持が可能。萌芽力が高い。
KE-039		ヤエザクラ	7.5	126	8.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○				○		無	無	樹幹傾斜あり。樹形に乱れあり。 幹H0.5mに開口空洞 1×1×15あり。 断幹痕(H3.0m) 40×40あり。 枯枝(東5.5m) φ15、L=1.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
KE-040		イヌグス	10.0	78	7.5	-	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.35	A		○		○					無	小	-
KE-041		ヒトツバタゴ	12.0	198	10.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○			○				無	無	大枝に剪定痕からの腐朽が数か所あり。 大枝(南側)に腐朽あり。 移植剪定後の樹形維持が可能。
KE-042		ヒトツバタゴ	7.0	48	5.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	大枝に剪定痕からの腐朽が数か所あり。 深植え状態にある。
KE-043		ヤマザクラ	10.0	94	6.0	-	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	無	大	ひこばえ、胴吹き枝が多数あり。 下枝が高い。 枯枝(南H6.5m) φ20、L=6.0mあり。 移植後に健全な状態への回復が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-028		●		B			
KE-031		●		B			
KE-032			●	B			●
KE-033		●		B			
KE-034			●	B			●
KE-035		●		B			
KE-036		●		B			
KE-037	-	-	※	B			
KE-038		●		B			
KE-039			●	B			●
KE-040		●		B			
KE-041		●		B			
KE-042		●		B			
KE-043	●(赤)			B			

資料表 2.1-4　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名			建国記念文庫																調査日				2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日													
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》				2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●：変更樹木			ABCD			
KE-044		トウカエデ	18.0	172	8.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	フェンスが近接している。 過去に大枝のぶつ切り剪定されている。 ヘデラの登ハンあり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
KE-045		シラカシ	14.0	133	7.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	大	幹H2.0mに開口空洞 8×8×15あり。 根元がフェンスにくい込んでいる。フェンスが近接している。 ヘデラの登ハンあり。	●			B			
KE-046		シイノキ	11.0	164	9.0	-	2.5	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	無	根元H0.1mに開口空洞 80×15(68)×25/45(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.8mあり。 大枝付け根に開口空洞 10×10×15あり。 幹に開口空洞(小)が多数あり。 大枝(北西H1.7m)に腐朽あり。 ひこばえが多数あり。 根元の障害が大きい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
KE-047		シイノキ	12.0	191	11.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	無	大	根元・幹(北側)に開口空洞(大) 170×15×40/50(芯達)あり。 幹内部の空洞が幹上方へ1.0m続いている。 根元にカンゾウタケの発生あり。	●			B			
KE-048		シイノキ	15.5	191	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				無	無	幹(北側)H0.7mに開口空洞(小) 5×2×15/60あり。 大枝付け根H3.0mにキノコの発生(種不明)あり。 移植に伴う上部剪定後も樹形の維持が可能。		●		B			
KE-049		ケヤキ	21.0	256	20.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	無	小	幹H0.6mに開口空洞(大) 230×50×20/70あり。 根元(東側)にキノコの発生(種不明)あり。 鋼棒貫入異常35/110cm以上あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
KE-050		クヌギ	18.0	172	7.0	-	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	小	中央部・下部に大枝がない。 剪定痕の巻込み良好。 枯枝(南西H7.5m) φ30, L=5.0m、枯枝(北H9.0m) φ25, L=3.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
KE-051		シラカシ	14.5	133	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○				○				無	無	被圧により枝数がやや少ない。 移植後の樹形維持が可能。比較的細い幹。	●			B			
KE-052		シラカシ	14.5	101	6.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	中	片枝樹形である。 幹H0.3mに開口空洞(大) 400×10×20/30(芯達)あり。 ※カシナガ対策で幹の目通り周囲長は測定不可	●			B			
KE-053		サクラ	6.0	26	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	大	周辺木からの被圧あり。	●			B			
KE-054		シイノキ	16.0	245	10.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	大	北側に樹皮欠損(大) 230×15あり。 根元・幹に打診音異常H0.0～2.0mあり。 前回調査において、高さH0.4mにアイカワタケ(ヒラフスベ型)の子実体がみられたが、今回は消失していた。 フェンスが1.0m(北側)の距離にある。	●			B			
KE-055		ツバキ	6.0	46	4.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	中	根元・幹(北側)に開口空洞(大) 147×7×9/15(芯達)あり。	●			A			
KE-056		ケヤキ	22.0	285	18.0	-	1.5	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	小	幹H0.8mに開口空洞(大) 120×11×70/70(南北に貫通開口)あり。幹内部の空洞が幹上方へ2.0m続いている。	●			B			
KE-057		ムクノキ	21.0	195	12.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		無	中	根上り(中)あり。 巻き根(大)あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			A			
KE-058		ケヤキ	20.5	192	10.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	樹幹傾斜(小)(北側)あり、片枝樹形である。 移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 フェンスが1.0m(北側)の距離にある。	●			B			

資料表 2.1-5　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名			建国記念文庫																調査日				2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日													
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
樹木番号		樹種名	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-059		シイノキ	11.0	133	9.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				無	無	幹(北H1.4m)に開口空洞(小) 14×5×15/40あり。 幹に打音異常(中) H0.5m～2.0mあり。 木柵が1.1m(南側)の距離にある。 移植後の樹形維持が可能。	●			B			
KE-060		ケヤキ	22.0	276	20.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B			○					○	無	小	幹(東側)に開口空洞・腐朽(大) 200×15×40/70(芯達)あり。 空洞内部にコフキサルノコシカケの子実体あり。 巻き根(大)あり。	●			B			
KE-061		コブシ	3.0	62	4.0	-	3.5	3.5	4.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	2.0	1.0	2.70	C			○					○	無	中	断幹痕(H4.0m)からの腐朽が進行している。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～1.5mあり。 枯枝(H2.3m) φ10, L=3.0mあり。	●			B			
KE-062		ケヤキ	19.0	203	15.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		無	中	被圧により片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 巻き根(中)あり。	●			B			
KE-063		ネズミモチ	4.5	2本立	4.5	34,32	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	-	●			B			
KE-065		クスノキ	19.0	204	9.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	被圧により片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 巻き根(中)あり。	●			B			
KE-066		ヤエザクラ	11.0	2本立	7.0	114,80	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	大	樹幹傾斜(中)(北側)あり。 フェンスが1.0m(北側)の距離にあり、適正根鉢の確保困難。	●			B			
KE-067		コブシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	枯死している。	※	-	-	B			
KE-068		シダレザクラ	6.0	64	6.0	-	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	小	根上り(中)あり。 枯枝(北H6.5m) φ8m, L=1.2mあり。 舗装が1.0m(東側)の距離にあり、根鉢確保困難。	●			B			
KE-069		シダレザクラ	1.8	46 (H=1.1m)	0.9	-	4.0	4.0	4.0	3.5	4.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	3.05	C			○					○	無	無	樹高が3m以下である。 H2.5mで断幹、H1.1mまで枯死。1.1mからの枝葉が伸長。 幹の南側が根元まで腐朽・欠損。幅20cm。 打診音異常H0.0～1.1m。	●			B			
KE-070		シダレザクラ	3.0	61	1.2	-	4.0	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.75	C			○					○	無	小	断幹痕(H2.2m)からの腐朽(大)が進行している。 根元・幹に打音異常(大) H0.0～2.0mあり。 幹(H1.5m)に開口空洞12×8×12/22(芯達)あり。 樹形が崩壊している。	●			B			
KE-071		ヒトツバタゴ	4.0	25	4.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	小	下枝がない。	●			B			
KE-072		ケヤキ	21.0	345	23.0	-	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○							○	有	小	樹木番号KE-073ケヤキに近接しており、根鉢確保困難。 根上り(大)、巻き根(中)あり。	●			A			
KE-073		ケヤキ	21.0	154	17.0	-	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○							○	有	中	樹木番号KE-072ケヤキに近接しており、根鉢確保困難。 巻き根(中)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。	●			A			
KE-074		ヤエザクラ	9.0	131	8.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	小	樹木番号KE-075ヤエザクラに近接しており、移植不可である。 大枝に剪定痕からの開口空洞29×26×15/35、打診音異常(小)H1.2～1.8mあり。 枯枝(H4.5m) φ22, L=1.0m、背着生キノコあり。 フェンスが0.3m(南側)の距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

資料表 2.1-6　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名			建国記念文庫																調査日				2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日																
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考						伐採理由		
樹木番号		樹種名	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元補強等	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-075		ヤエザクラ	6.5	112	5.0	-	3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	小	樹木番号KE-074ヤエザクラに近接しており、根鉢確保困難。 大枝(西側)に、剪定痕からの腐朽 30×30あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。	●			B			
KE-076		ヤエザクラ	10.0	140	5.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	小	大枝に剪定痕からの腐朽 20×20あり。 フェンスが1.3m(南側)の距離にある。	●			B			
KE-077		ヤエザクラ	5.0	2本立	6.5	120,103	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	有	中	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 双幹の両方とも断幹されている。 根元(北側)に虫害(コスカシバ穿孔痕)あり。	●			B			
KE-078		ヤエザクラ	4.0	52	4.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 揺らぎ(小)あり。 幹(東側)に剪定痕あり。	●			B			
KE-079		ヤエザクラ	8.5	130	7.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 根元にベッコウタケ株の発生あり。 根元(北側)に打診音異常 H0.0～0.3mあり。 大枝(北H3.4m)にスタブカット(切り残し枝)φ25, L=1.5mあり。 根元がフェンスにくい込んでいる。	●			B			
KE-080		ヤエザクラ	7.5	84	6.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 幹(東H1.5m)に開口空洞 25×15×15/30(芯達)あり。 幹に打診音異常(小) H1.5～2.5mあり。 大枝(北H3.5m)にスタブカット(切り残し枝)φ20, L=0.7mあり。 フェンスが1.0m(北側)の距離にある。	●			B			
KE-081		ヤエザクラ	10.0	131	7.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 根上り(大)あり。 縁石に乗り上げあり。	●			B			
KE-082		シダレザクラ	10.0	81	4.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.55	C			○					○	有	大	樹幹傾斜(北側)(小)あり。 枯枝(北H9m) φ10, L=1.5mあり。 フェンスが0.3m(南側)の距離にある。	●			B			
KE-083		ヤエザクラ	3.5	77	6.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	枯死している。	―	―	※	B			
KE-084		シラカシ	11.0	144	7.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○				○				有	無	樹幹傾斜(小)(西側)あり。 幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.15m。根鉢確保、樹形維持が可能。		●		B			
KE-085		ヒトツバタゴ	6.0	2本立	5.0	35,20	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○				○				有	中	幹芯からフェンス(北側)までの離隔距離0.85m、自動販売機基礎(東側)までの離隔距離0.9m。根鉢径が一部変形するが根鉢確保が可能。大きくはない。		●		A			
KE-087		フウ	13.5	162	7.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○				○				有	無	盛土されている。 枕木舗装が根元にあり。 幹芯から枕木階段(北側)までの離隔距離0.6m。樹形維持、根鉢確保が可能。(土壌汚染エリア)。 土壌汚染調査の結果、移植不可。			●	A		● 土壌汚染	
KE-088		ウバメガシ	7.5	6本立	6.5	117,87,85,62,61,59	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○				○			無	無	根元に樹皮欠損(中) 30×30あり。 枝の伸長が北側で少ない。 萌芽力旺盛。		●		B			
KE-089		シラカシ	12.0	139	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	無	大枝に枝折れによる樹皮欠損 20×20、巻込み(良)あり。 根元に穿孔性害虫の穿孔痕あり。 根元、園路の枕木との接触あり。 幹に屈曲あり、移植対象樹として適さない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
KE-090		ヒトツバタゴ	4.5	2本立	5.5	53,35	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○			○					無	小	枝の伸長が東側で多い。	●			A			

資料表 2.1-7　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名	建国記念文庫	調査日	2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-093		フウ	15.0	151	8.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○			○				有	無	枯枝(北H2m) φ15, L=1.0mあり。枯枝(西H8m) φ12, L=2.0mあり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.8m。根鉢確保、適正樹形が可能。(土壌汚染エリア)。 土壌汚染調査の結果、移植不可。			●	B		● 土壌汚染	
KE-094		ヒトツバタゴ	6.0	77	5.5	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(道路側)あり。 根元(北側)に開口空洞 15×30×15/45あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m～1.0mあり。 フェンスが近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
KE-095		ヒトツバタゴ	4.0	2本立	4.0	50,48	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○					○	無	大	枯枝(北東H1.5m) φ12, L=1.5mあり。 枝抜け痕が数か所あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
KE-096		ヒトツバタゴ	9.0	81	6.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	2.15	B		○			○				有	無	樹幹傾斜(道路側)あり。 巻き根あり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.8m。根鉢確保が可能。傾いているが移植樹として適している。	●			B			
KE-097		ヒトツバタゴ	7.5	70	4.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○			○			有	大	下枝が高い。 漂植え状態にある。 フェンスが、近接している。被圧で樹勢・樹形やや悪いが、移植で回復の可能性あり。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。		●		B			
KE-098		シイノキ	9.5	215	13.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B	○						○		無	無	根元(北東H0.1m)にカンゾウタケの発生あり。 幹に大枝剪定痕からの腐朽が多数あり。 幹の肥大成長部分にアイカワタケ(ヒラフスベ型)の子実体あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 腐朽枝(南H3.5m) φ20, L=2.5mあり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離1.6m。 葉張り有り、大枝切断で樹形、樹勢維持困難。腐朽、空洞も多い。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-099		ヒトツバタゴ	10.5	2本立	6.0	83,33	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	大	高さH1.1mで幹が2分岐している。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-100		ヒトツバタゴ	10.5	137	6.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.50	B			○					○	有	小	巻き根あり。 漂植え状態にある。 枯枝(北H3.5m) φ10, L=2.0mあり。樹冠全体に小枝の枯れあり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-102		ヒトツバタゴ	4.0	49	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○					○		有	大	漂植え状態にある。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-103		ヒトツバタゴ	7.5	84	6.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		有	大	フェンスが近接している。	●			B			
KE-104		ヒトツバタゴ	4.0	25	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○						○	有	大	漂植え状態にある。 樹木番号KE-115ケヤキからの被圧(大)あり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-105		マテバシイ	7.0	144	7.0	-	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	有	大	大枝がぶつ切り剪定されている。 幹(西側)に大枝剪定痕からの腐朽あり。 根元・幹に打音異常(大) H0.0m～2.5mあり。 幹に樹皮枯死が多数あり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-107		ヤエザクラ	10.5	211	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○					○	有	大	樹幹傾斜あり。 幹H1.2mに開口空洞 25×20×35/55(芯達)あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 巻き根あり。 樹木番号KE-108ヤエザクラと競合している。 フェンスが近接している。	●			B			

資料表 2.1-8　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名			建国記念文庫															調査日					2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日											伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-108		ヤエザクラ	10.5	165	10.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B		○					○		有	大	大枝がぶつ切り剪定されている。 巻き根あり。 根上りあり。 樹木番号KE-107ヤエザクラと競合している。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-109		ヤエザクラ	10.5	127	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	大	根元がフェンスにくい込んでいる。 樹幹傾斜あり。 根元・幹(東側)に打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 大枝(東側)に打音異常(大)あり。	●			B			
KE-110		ヤエザクラ	7.5	2本立	7.0	155,69	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	高さH1.1mで幹が2分岐している。 根元(西側)にベッコウタケの子実体が多数あり。 鋼棒貫入異常 35/60cm(芯達)あり。 根元・幹に打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 巻き根あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 枯枝(北西H7m) φ15, L=1.5mあり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-111		ヒトツバタゴ	3.5	23	3.5	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					有	中	深植え状態にある。 片枝樹形である。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-112		ケヤキ	20.0	228	12.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B		○					○		無	小	大枝に縦の亀裂あり。 大枝に照明が巻き付き設置されている。 樹皮の脱落が多い。	●			B			
KE-113		ヤエザクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	–	–	枯死している。	※	-	-	C			
KE-114		ヒトツバタゴ	3.0	23	4.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	大	幹(H0.3m)に開口空洞 3×2×2/12(閉塞傾向)あり。	●			B			
KE-115		ケヤキ	19.0	246	20.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B	○						○		有	小	巻き根(大)あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 枯枝(東H13m) φ10 L=4.5mあり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-116		ヤエザクラ	3.0	56	3.0	-	3.5	3.0	3.5	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.45	B			○					○	無	大	断幹されている。 幹に開口空洞 15×10×12/18(芯達)あり。	●			C			
KE-117		ヤエザクラ	18.0	120	9.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	大	根元(西側)にキノコの発生(種不明)あり。 根元に根頭がんしゅ病様のこぶあり。	●			B			
KE-119		ヒトツバタゴ	4.5	28	5.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					無	大	枝に枝こぶ症状(増生病)が多数あり。 深植え状態にある。	●			B			
KE-120		ヒトツバタゴ	8.0	2本立	6.0	58,12	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	枝に枝こぶ症状(増生病)が多数あり。 深植え状態にある。	●			B			
KE-121		ヒトツバタゴ	8.0	66	4.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B			○					○	無	中	大枝にスタブカット(切り残し枝)が多数あり。 枝葉量が少ない。 移植後の健全な生育・樹形の維持は困難。	●			B			
KE-122		ヤエザクラ	7.5	105	1.5	-	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.65	C			○					○	無	中	双幹の一方が切除されている。 下枝が高い。 枯枝(H6m) φ30, L=4.0mあり。	●			B			
KE-123		ヒトツバタゴ	5.0	35	4.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	中	深植え状態にある。	●			B			

資料表 2.1-9　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名		建国記念文庫																	調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日													伐採理由	
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-124		コブシ	11.5	114	5.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	大枝がぶつ切り剪定されている。 幹(南西H1.4m)に開口空洞 8×8×15あり。 前回調査より梢端部の枯れ枝が増えている。 園路際に位置する。	●			B			
KE-125		ヒトツバタゴ	4.0	28	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	中	樹幹傾斜あり。	●			B			
KE-126		ヤエザクラ	8.0	2本立	6.5	126,122	3.0	3.0	3.5	2.5	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	小	断幹されている。 大枝(東側)に打音異常(中)あり。 盛土あり。 大枝に照明が巻き付き設置されている。 フェンスが近接している。 園路際に位置する。	●			B			
KE-128		ヒトツバタゴ	7.0	54	5.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					有	小	幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 深植え状態にある。 園路際に位置する。	●			B			
KE-129		ヤエザクラ	11.0	130	8.0	-	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	小	樹幹傾斜あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 胴吹き枝が多数あり。 園路際に位置する。 移植後に健全な状態への回復が困難。	●			B			
KE-130		ヒトツバタゴ	12.0	119	6.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B			○					○	無	中	根元に開口空洞 10×8×25/40(芯達)あり。 胴吹き枝が多数あり。	●			B			
KE-131		クロマツ	17.0	197	9.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無	無	下枝が高い。上部剪定では適正樹形が困難(12mまで下枝なし)。	●			B			
KE-133		シイノキ	11.5	229	8.5	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	小	樹幹傾斜(小)あり。 幹(北側)H1.1mに、開口空洞 8×8×25あり。 幹(南側)H1.1mに、開口空洞 8×8×20あり。 フェンスが近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
KE-134		ヒトツバタゴ	8.0	42	4.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	中	揺らぎ(小)あり。 深植え状態にある。 樹勢が回復傾向にある。 園路際に位置する。	●			B			
KE-135		トウカエデ	14.0	155	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				無	中	大枝に開口空洞 25×10あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 大枝に照明が巻き付き設置されている。 隣木(シラカシ、クロマツ)からの被圧あり、剪定は不要。移植後の樹形回復が可能。	●			B			
KE-136		シラカシ	15.0	172	12.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B	○				○				無	無	幹にカシノアカカイガラムシの吸汁害による影響と思われる樹肌の荒れあり。 移植後の樹形維持が可能。		●		B			
KE-137		ヒトツバタゴ	7.5	31	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	幹に剪定痕が数か所あり。		●		B			
KE-138		ヒトツバタゴ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	−	−	枯死している。	−	−	※	B			
KE-139		ヒトツバタゴ	7.5	40	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	大	被圧による枝枯れ、腐朽あり。		●		B			

資料表 2.1-10　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名：建国記念文庫　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●(赤):変更樹木			ABCD			
KE-140		エノキ	16.0	169	10.0	-	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B		○				○			無	中	小枝の枯れあり。 下枝が高く、上部剪定後の樹形維持が困難。		●		B			
KE-141		ケヤキ	20.0	183	16.5	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無	無	露出根に腐朽あり。 上部剪定後の樹形維持が困難。		●		A			
KE-142		シイノキ	2.8	110 (H=1.1m)	2.0	-	3.5	3.5	4.0	3.5	4.0	3.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.80	C			○					○	無	無	樹高が3m以下である。 H1.1mで断幹。内部が1.1mから根元まで空洞が連続する。空洞直径28cm。外径35cm。H1.0mから萌芽枝が伸びる。 打診音音異常H0.0～1.1m。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
KE-143		ヒトツバタゴ	7.0	32	4.5	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	大	被圧による枝枯れ(中)あり。		●		B			
KE-144		シイノキ	10.5	111	9.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				無	小	枝抜け痕からの腐朽あり。 大枝の伸長(東側)あり、剪定の必要あり。 全景写真の樹高は9m。あまり大きくなく樹形維持が可能。		●		B			
KE-145		ユーカリノキ	14.0	141	4.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B		○						○	無	小	断幹痕あり。 ユーカリノキの大木は移植困難である(樹種特性)。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-146		ヒトツバタゴ	8.0	112	8.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B		○			○				無	小	露出根に切断痕と腐朽あり。 被圧による枝枯れが多数あり。 隣木(KE-144シイノキ)からの被圧あり。 全景写真の樹高は8m。あまり大きくなく樹形維持が可能。	●(赤)			B			
KE-147		ヒトツバタゴ	7.0	39	5.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	被圧による枝枯れ(中)あり。		●		B			
KE-148		ヒトツバタゴ	6.5	31	4.0	-	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	大	－		●		B			
KE-149		サクラ	8.5	2本立	5.5	148,116	3.0	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.50	B			○				○		無	無	枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽(小)が数か所あり。 大枝(東側)に打音異常あり。 双幹部分が入り皮である。 大枝の枯れ下がり(大)あり。樹形不良。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
KE-150		フウ	13.5	166	7.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○			○				有	無	過去にぶつ切り剪定されている。 被圧による片枝樹形である。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m、フェンスは撤去可。根鉢確保、樹形維持が可能。	●(赤)			B			
KE-151		フウ	20.0	215	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○				○				無	無	過去にぶつ切り剪定されている。 上部剪定後の樹形維持可能。		●		A			
KE-152		ヒトツバタゴ	9.0	58	4.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					無	大	－		●		B			
KE-153		ヒトツバタゴ	3.5	26	4.5	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					無	大	－		●		B			
KE-155		ヤエザクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	－	－	枯死している。	-	-	※	C			

資料表 2.1-11　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名：建国記念文庫　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-156	モミジ	7.0	61	7.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○			○				有	中	幹H0.7mに、開口空洞 13×15×15(芯達)あるが巻込み発達。 前回調査からの経年により、幹の開口部の巻き込みもしっかりとしており、移植はできる。		●（赤）		B			
KE-157	シラカシ	15.0	163	7.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○			○			有	中	枝の分布に極端な偏りあり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m。樹勢普通であり、フェンス撤去と剪定により樹形回復可能。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。		●（赤）		B			
KE-158	エノキ	12.0	167	13.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○				○			無	中	幹H2.0m付近に打音異常(小)あり。 隣木(KE-157シラカシ、KE-159シイノキ)からの被圧あり。上部剪定後の樹形維持が困難。片側の枝が少い。		●		A			
KE-159	シイノキ	12.5	195	13.5	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	中	下側の大枝に腐朽(大)あり。 露出根に腐朽(大)が多数あり。 大枝に電線とライトが設置されている。 隣木(KE-158エノキ)を被圧、剪定の必要あり。葉張り大きく、大枝剪定で樹形、樹勢維持が困難。腐朽空洞も多い。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-161	ヒトツバタゴ	3.3	29	4.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	大	盛土(小)あり。 幹(北H1m)に樹皮欠損16×6あり。	●			B			
KE-162	トウネズミモチ	9.0	5本立	6.0	34,32,29,27,28	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	無	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		

資料表 2.1-12　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名			第二球場														調査日		2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日																	
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
																							難													
樹木番号		樹種名	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-001		シイノキ	13.5	296	12.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.60	A	○						○		有	小	幹H1.0mに開口空洞(中)あり。 大枝H7.5mに樹皮欠損(大)あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りがあるが葉量は充実している。	●			A			
YG-002		シイノキ	13.5	143	6.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.00	B		○					○		有	中	幹に開口空洞(中) H1.5m～2.5m、打音異常あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏り、被圧による樹形の乱れがあり。	●			A			
YG-003		シイノキ	13.5	212	8.0	-	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.70	A		○					○		有	小	幹H2.5mに開口空洞(中)、打音異常あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りあり。	●			A			
YG-004		モッコク	5.5	42	2.5	-	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.75	A		○		○					有	中	土留めの縁石が根元にあり。 周辺木からの被圧あり。	●			A			
YG-005		シイノキ	11.0	222	7.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.85	B		○					○		有	中	幹H1.8mに開口空洞(中)あり。 大枝H1.8mに開口空洞(中)が、数か所あり。 配電盤に近接する。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りあり。	●			A			
YG-006		シイノキ	12.5	296	13.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.80	B	○						○		有	中	幹H1.2mに開口空洞(中)(芯達)あり。 大枝H1.5mに開口空洞(中)あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りあり。	●			A			
YG-007		ヒトツバタゴ	6.0	38	4.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.85	B		○		○					無	中	樹冠の偏りあり。	●			B			
YG-008		ツバキ	3.0	3本立	2.0	31,35,21	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○		○					有	中	土留めの縁石が根元にあり。	●			B			
YG-009		シイノキ	9.0	186	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.70	A		○					○		有	無	土留めの縁石が根元にあり。 葉がやや小さい。	●			A			
YG-011		クスノキ	17.0	350	13.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	土留めの縁石が根元にあり。	●			A			
YG-013		シイノキ	10.0	179	7.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	2.20	B		○					○		有	小	根元H0.0mに開口空洞(大)(芯達)が複数あり。 枝に多芽症状あり。 葉が小さく、葉量がやや疎である。 枯枝あり。 土留めの縁石が根元にあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-014		サンゴジュ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	枯損している。	※	-	-	C			
YG-015		ツバキ	2.8	4本立	2.0	30,30,20,21	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	中	樹高が3m以下である。 隣接YG-091シイノキの下に存する。 シイノキ側の枝葉がやや少ないが、他は良好。根回し済み。		●		B			
YG-016		シイノキ	9.0	197	10.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	小	幹H2.0mに開口空洞(中)あり。 ふところ枝がなく幹に開口空洞、大枝に樹皮欠損が多い。 土留めの縁石が根元にあり。 葉量がやや疎である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-017		シイノキ	8.0	170	5.5	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○						○	有	中	根元に開口空洞(小)あり。 幹H1.8mに開口空洞(中)、子実体(種不明)あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 土留めの縁石が根元にあり。 梢端の葉が小さい。 傷が複数あり、キノコの広がりが見られる。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

資料表 2.1-13　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名			第二球場															調査日					2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-019		ヒトツバタゴ	10.0	126	7.0	-	1.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					有	中	幹H2.0mに樹皮欠損(中)あり。 土留めの縁石が根元にあり。 樹勢・樹形が良好である。		●		B			
YG-020		マテバシイ	7.5	2本立	7.0	92,81	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	中	土留めの縁石が根元にあり。縁石あるが移植可能。 双幹の片側に樹冠の偏りあり。 胴吹きが多い。てんぐ巣症状の枝が散在する。		●		A			
YG-021		マテバシイ	9.0	113	5.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		有	中	片枝樹形である。 コンクリート基礎が根元にあり。 樹冠に偏りあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-022		マテバシイ	9.5	112	6.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	小	コンクリート基礎が根元にあり。 ひこばえが多く、下枝が高い。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-024		マテバシイ	10.0	113	7.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○				○				無	小	隣接樹木との距離が近いが移植できる。 移植樹として樹形維持も可能。		●		A			
YG-025		マテバシイ	11.5	103	5.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B			○				○		無	中	隣接樹木との距離が近いが適正根鉢の確保がぎりぎり可。 樹形の乱れがあり(下枝が高い)、枯枝有り、移植後の回復が難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-026		マテバシイ	5.5	2本立	4.0	45,43	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		無	中	隣接樹木との距離が近く、根鉢の確保が困難である。 被圧による樹形の乱れがあり(樹幹に傾き、枝の分布に偏り)、移植後の回復が難しい。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-027		マテバシイ	3.2	14.9	2.5	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		無	中	幹に枯死あり。 株立ちになっている。 隣接樹木との距離が近く、根鉢の確保が困難である。 樹形に乱れがあり(高さ1mで断幹)、移植後の回復が難しい。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-028		マテバシイ	9.5	91	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				無	中	隣接樹木との距離が近い。 YG-027マテバシイの撤去により、根鉢確保が可能である。 樹形維持も可能。 隣木(YG-024マテバシイ)の被圧あり、剪定は不要。(根回し済み)		●		A			
YG-029		ネズミモチ	5.0	31	3.0	-	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.60	C			○					○	無	大	根元に開口空洞(大)あり。 葉に虫害あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-030		サンゴジュ	3.2	33	2.0	-	4.0	4.0	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	3.75	D			○					○	無	大	株の1本が割けたことによる樹皮欠損(大)あり。 根元に揺らぎあり。 樹冠に偏りあり。 樹勢が衰退し、枯死寸前の状態である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
YG-031		マテバシイ	10.0	142	5.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					無	中	根元にフラス、根元から幹(H0～0.8m)にキクイムシの穿孔痕あり。		●		A			
YG-032		マテバシイ	7.5	120	6.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	無	コンクリート壁に近接する。 ひこばえが多数あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-033		ヒトツバタゴ	4.5	33	2.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					有	大	樹冠に偏りあり。 コンクリート壁に近接する。		●		B			
YG-034		マテバシイ	7.0	91	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	中	大枝H2.0mに腐朽(中)あり。 土留めの石積みが根元にあり。 樹形の乱れがあり(枝の分布に偏り)、移植後の回復が難しい。 てんぐ巣症状の枝が散在する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-035		マテバシイ	2.7	3本立	2.0	23,17,15	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					有	中	株立ち状態にある。 土留めの石積みが根元にある。 根回しを終えている。		●		B			

資料表 2.1-14　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名：第二球場　調査日：2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-036	マテバシイ	4.5	2本立	4.5	43.29	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		有	大	樹冠に偏りあり。 コンクリート壁に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-037	シイノキ	11.0	236	12.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.40	B		○						○	有	無	幹H2.5mに開口空洞(中)あり。 大枝に腐朽が複数あり。 土留めの石積みが根元にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-038	サンゴジュ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	枯損している。	-	-	※	B			
YG-040	イヌツゲ	2.5	30	1.5	-	3.5	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.70	C			○					○	無	中	樹冠に偏りあり。上部枯れ下り対象外である。根回し済み、上部に枯下りがあり移植には適さないと判断される。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-042	シイノキ	6.5	109	4.5	-	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.95	B		○			○				有	小	ブロック塀に近接するが根鉢確保は可能である。		●		A			
YG-045	ケヤキ	10.0	160	7.0	-	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	1.5	1.0	2.85	C			○				○		有	小	ブロック塀に近接する。 大枝剪定痕からの枯れ下がり、大枝の枯損と枯枝が多く、樹形・樹勢が不良である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-046	サザンカ	3.3	2本立	3.0	44.21	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A		○				○			無	中	樹勢・樹高ほぼ良好傾向にあり、あまり大き過ぎず、根元構造物撤去で移植はできる。		●		A			
YG-047	マテバシイ	8.5	88	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	中	樹形にやや乱れあるが、樹勢ほぼ良好傾向にあり、根元構造物撤去で移植可。球場解体に伴い日当たり良好で、樹勢・樹形回復と根鉢確保が可能となり移植はできる。		●		A			
YG-050	ツバキ	3.2	2本立	2.0	20.17	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○		○					有	中	概ね問題なし。		●		B			
YG-051	ケヤキ	11.0	184	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	中	ぶつ切り剪定痕からの腐朽あり。 ブロック塀に近接し、掘り取り作業領域の確保が困難である。 強剪定による萌芽樹である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-052	マテバシイ	6.5	57	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	大	隣木からの被圧あり。枝の分布に偏り(敷地境界側)あり。 てんぐ巣症状の枝が散在する。移植後に健全な状態の維持が困難。 ブロック塀に近接する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-053	シイノキ	8.0	91	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.75	A		○		○					有	中	コンクリート基礎に近接するが、移植時の根鉢確保可能。 てんぐ巣症状の枝が散在する。		●		A			
YG-054	シイノキ	4.5	55	2.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	大	幹に樹皮欠損・腐朽あり。移植後の回復が困難。 ブロック塀に近接する。 樹冠にやや偏りあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-057	ケヤキ	10.0	157	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	中	大枝に剪定痕からの腐朽あり。 ブロック塀に近接する。 幹H3mで3分岐、内1本が枯損。剪定痕からの腐朽が多数あり。 強剪定後の萌芽樹である。 掘り取り作業領域の確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-058	マテバシイ	7.5	82	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	大	ブロック塀に近接する。 枝葉量は充実している。 樹形に極端な乱れがあり(隣木からの被圧、樹冠に偏り)、移植に伴う剪定後の回復が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●

資料表 2.1-15　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名：第二球場　調査日：2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-059	シイノキ	6.5	81	2.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					有	中	ブロック塀に近接する。 枝葉量は充実している。		●		A			
YG-060	サンゴジュ	4.0	4本立	2.0	41,21,33,39	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.0	3.10	C			○					○	有	大	大枝に樹皮欠損・腐朽あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-061	ケヤキ	11.5	170	7.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○				○			有	中	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.25m。 萌芽樹であるが根元構造物解体で移植はできる。		●		B			
YG-062	マテバシイ	8.5	94	3.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	大枝に剪定痕からの腐朽(中)が複数あり。 樹形に乱れと傾斜(隣木からの被圧、樹冠に偏り)がある。ブロック塀と樹木に近接する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-064	シイノキ	10.0	125	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B		○			○				有	小	樹形は良好である。 ブロック塀に近接するが根鉢はかろうじて確保可能である。		●		A			
YG-066	マテバシイ	8.0	73	4.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	小	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.0m。根元構造物撤去で根鉢確保可能。樹勢ほぼ良好傾向にある。球場解体で日照量増加し樹勢・樹形も回復傾向にあるため移植はできる。		●		A			
YG-068	シイノキ	4.5	53	2.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.30	B			○					○	有	大	幹に大枝剪定痕・腐朽(H1.1m)、開口空洞、樹皮欠損、断幹痕あり。 樹形崩壊傾向にあり、移植後に健全な状態への回復見込めない。 ブロック塀に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-070	ケヤキ	11.0	147	8.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	小	大枝に剪定痕からの腐朽が多数あり。移植後の回復は難しく不適。 ブロック塀に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-071	サンゴジュ	4.0	4本立	2.5	41,39,31,27	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0	2.0	3.60	D		○					○		有	大	ブロック塀に近接する。 隣接樹木との距離が近い。 虫害(サンゴジュハムシ)あり、葉量が疎である。 規格や活力度などから樹形・生育不良。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-072	マテバシイ	6.5	62	3.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C		○		○					有	中	ブロック塀に近接する。移植可。 てんぐ巣症状あり。 枝の伸長量が少なく、枝葉量がやや疎である。		●		B			
YG-074	ケヤキ	12.5	156	6.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	小	ブロック塀に近接し、掘り取り作業領域の確保が困難である。 大枝に剪定痕からの腐朽ある上、樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-075	マテバシイ	6.5	77	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	大	ブロック塀に近接する。 樹形に乱れがあり(隣木被圧による扇型の扁平樹形) 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-076	ヒマラヤスギ	25.5	239	10.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○							○	有	小	ブロック塀に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 上部や大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-077	カラタネオガタマ	4.5	6本立	3.0	23,22,21,21,19,18	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A		○		○					有	中	ブロック塀に近接する。 葉量が疎である。		●		A			

資料表 2.1-16　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名			第二球場														調査日		2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日																伐採理由	
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植	難				参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-078		マテバシイ	9.0	97	4.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	中	ブロック塀に近接する。 枝の伸長量が少なく、てんぐ巣症状あり。樹幹傾斜もあり、移植樹としては適さない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-079		ヒマラヤスギ	25.5	232	7.5	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	ブロック塀に近接し、根回し、掘取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-081		ヒトツバタゴ	4.0	48	2.5	-	3.0	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.60	C			○			○			有	大	幹芯からブロック塀までの離隔距離0.4m。 被圧で樹形・樹勢やや悪いが、根元構造物撤去で根鉢確保でき移植はできる。移植地で被圧も解消されれば樹勢回復も期待できる。		●		B			
YG-082		モクセイ	3.2	3本立	1.5	24,21,9	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.00	B		○				○			有	大	幹芯からフェンス基礎までの離隔距離0.4m。 根元構造物撤去で根鉢確保でき移植はできる。		●		B			
YG-083		マテバシイ	7.5	79	5.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	小	樹形に乱れ(片枝樹形)あり、ブロック塀に近接し、根回し、掘り取り作業が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-084		モクセイ	3.5	3本立	1.8	19,19,14	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					有	大	ブロック塀に近接する。移植可。		●		B			
YG-085		ヒマラヤスギ	25.5	237	8.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	ブロック塀に近接し、根回し、掘取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-087		モクセイ	3.0	3本立	2.0	18,17,16	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	大	根元・幹に樹皮欠損(小) H0.0m～1.5mが多数あり。 ブロック塀に近接する。移植可。		●		B			
YG-088		マテバシイ	9.0	93	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B		○					○		有	中	枝にコブ症状、てんぐ巣症状あり。 枯枝(東側)あり。 樹形に乱れがあり、残置であれば問題無いが、移植の場合は移植後の健全な状態への回復が難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-089		モクセイ	3.6	4本立	1.5	25,23,14,14	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.25	B		○		○					有	大	根元・幹に樹皮欠損(小) H0.0m～1.2mが多数あり。 ブロック塀に近接する。移植可。		●		B			
YG-091		ヒマラヤスギ	22.5	225	8.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.50	A	○						○		有	小	ブロック塀と歩道縁石に近接し、根回し、掘取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-093		シイノキ	9.0	125	5.5	-	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.60	A		○			○				有	小	幹に、開口空洞(枝抜け痕)(小)あり。 やや被圧があるが、樹形は良い。		●		A			
YG-094		マテバシイ	6.5	70	4.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.75	A		○		○					無	小	樹冠に偏りあり。 てんぐ巣症状あり。		●		A			
YG-096		ヒマラヤスギ	27.0	262	10.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	ブロック塀に近接し、根回し、掘取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-098		トウネズミモチ	8.0	4本立	4.5	30,27,23,18	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.70	A			○					○	有	中	コンクリート基礎に近接する。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適である。			●	B	●		

資料表 2.1-17　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	移植 難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
エリア名		第二球場					1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-100		シイノキ	10.0	104	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.0	1.0	2.10	B		○					○		無	大	深植え状態にある。 樹形に乱れがあり(被圧による扁型の扁平樹形)、移植樹として不適である。 樹冠頂部に枯枝が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-101		シイノキ	11.0	213	8.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.60	A	○				○				有	中	大枝に樹皮欠損・腐朽が複数あり。 ブロック塀に近接する。 樹形は良好で維持可能。根鉢確保もかろうじて可能である。		●		A			
YG-102		サンゴジュ	4.0	3本立	3.0	35,33,27	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○		○					無	中	ブロック塀に近接する。		●		B			
YG-103		モッコク	5.7	37	3.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○		○					無	中	概ね問題なし。		●		A			
YG-105		ウバメガシ	8.0	4本立	7.0	106,99,81,30	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.70	A		○			○				有	小	歩道手すりに近接する。 4つの株がそれぞれ独立している。 胴吹き多数、樹形に乱れあり(被圧による扁型の扁平樹形)。 移植に伴う樹形維持と再生は可能である。		●		B			
YG-107		シイノキ	7.5	2本立	6.0	113,97	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	1.0	1.0	2.00	B		○					○		有	中	コンクリート基礎に近接する。 大枝に開口空洞あり。 樹形に乱れ(枝の分布に偏り)、樹幹傾斜。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-108		コブシ	10.0	2本立	7.5	96,86	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○				○			有	小	樹形にやや乱れあるが、個性的な形の花木であり移植難樹木であるが、枝葉が伸長し、樹勢・樹形が回復傾向にあり、移植はできる。(経年により樹勢良化)		●		B			
YG-110		モクセイ	3.3	3本立	2.0	59,40,35	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	小	経年により樹形・樹勢も良化し移植対象と判断。		●		B			
YG-111		ヤマモモ	7.0	115	4.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○			○				有	無	コンクリート基礎に近接する。 幹に開口空洞あり。 移植後の樹形維持が可能である。		●		B			
YG-114		モクセイ	3.0	5本立	2.0	44,37,34,32,32	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	コンクリート基礎に近接する。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-115		ヤマモモ	6.5	83	3.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○		○					有	無	コンクリート基礎に近接する。		●		B			
YG-116		モクセイ	3.4	5本立	2.0	45,40,35,31,20	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-118		ケヤキ	12.5	220	13.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○				○			有	無	解体工事の進捗で萌芽が良好で自然樹形に回復しつつあるため移植対象と判断。		●		B			
YG-120		モクセイ	3.5	90 芝付	2.5	-	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-121		ヤマモモ	7.0	100	4.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 全体的にヤマモモのこぶ病あり。		●		B			
YG-122		モクセイ	3.5	85 芝付	2.5	-	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-123		モクセイ	3.0	5本立	2.0	40,38,34,30,14	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			

資料表 2.1-18　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名			第二球場																調査日			2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-124		モクセイ	3.3	5本立	2.0	40,40,34,34,17	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○				○			有	小	経年により樹形・樹勢も良化し移植対象と判断。		●		B			
YG-125		ケヤキ	16.5	300	12.0	−	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 根元に開口空洞(中)深さ40cm以上あり。 幹に開口空洞(大)H1.0深さ15cm、(中)H0.8深さ20cmあり。 幹H1.2mにコフキサルノコシカケ様の子実体あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-128		ヤマモモ	7.5	122	5.0	−	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	根元H0.2mに開口空洞(小) 深さ12cmあり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。		●		B			
YG-129		モクセイ	3.0	95 芝付	3.2	−	1.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-130		モクセイ	3.5	95 芝付	3.0	−	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-131		モクセイ	3.5	118 芝付	2.5	−	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-132		モクセイ	3.5	118 芝付	3.0	−	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-133		カラタネオガタマ	5.0	6本立	5.5	45,40,37,36,36,24	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○			○				有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。擁壁に近接する。 前回調査より樹勢が衰退傾向にあり、枝の伸長も鈍い。ひこばえ多数あり。		●		B			
YG-134		ケヤキ	11.5	236	10.0	−	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.10	B		○				○			有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹形に乱れ(強剪定後の萌芽樹形)あり。 剪定痕が目立つが、樹高低く、移植難であるものの移植はできる。		●		A			
YG-146		ケヤキ	12.5	246	14.0	−	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○						○	有	小	根元・幹に樹皮欠損・腐朽(大)あり。 高さH0.5mにコフキサルノコシカケの子実体あり。 根元・幹に打音異常あり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、ケヤキらしさに欠ける。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-147		ケヤキ	15.0	293	7.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		有	無	大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽が複数あり。 幹に樹皮欠損(中) H1.5m～2.5mあり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。建物に近接している。 樹形に乱れがあり。大枝(南側)に衰退枝あり。 樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、ケヤキらしさに欠ける。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

資料表 2.1-19　ラグビー場棟敷地における存置、移植、伐採樹木リスト

既存樹木調査結果一覧

エリア名：野球場三塁側　　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形 (1～4評価)	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形 (1～4評価)	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 (ABCD)	保存の必要性 高 (該当に○)	中	低	移植 可 (該当に○)	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物 (有無)	片枝・被圧 (大中小無)
Y01-041	シイノキ	8.0	195	6.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小
Y01-042	ケヤキ	16.0	260	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○				○		有	無
Y01-043	シイノキ	11.0	207	8.0	-	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	1.0	1.0	2.10	B			○				○		有	無
Y01-044	シイノキ	11.0	253	6.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小
Y01-045	イヌツゲ	3.5	3本立	2.0	33,24,14	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.80	B		○		○					無	中
Y01-047	シイノキ	8.0	96	6.0	-	3.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.85	B			○					○	有	大
Y01-048	シイノキ	11.0	172	10.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○					○		有	小
Y01-049	シイノキ	8.0	170	7.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.85	B			○				○		有	無
Y01-050	イチョウ	14.0	393	6.0	-	2.5	2.0	3.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○						○	有	無
Y01-051	ケヤキ	20.0	267	10.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		無	無
Y01-052	シイノキ	11.0	135	6.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.75	A		○		○					無	小
Y01-053	イチョウ	17.0	285	8.5	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○				○			有	無
Y01-083	ソロ	13.0	154	8.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	無

樹木番号	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存 (該当に● ●:変更樹木)	移植	伐採	2019年春季樹木活力度評価 (ABCD)	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
Y01-041	根元・幹に開口空洞55×10(196)×15/50あり。 幹H2.5mに開口空洞20×5(150)×10/30あり。 根元・幹に打診音異常あり。幹にコフキタケの発生あり。 樹形に乱れあり(樹冠に道路側への大きな偏り)。 大枝に腐朽(中)あり。 万年塀が根元にあり。 斜面に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y01-042	幹芯から万年塀までの離隔距離1.7m。 大枝に剪定痕が多数あり。 強剪定後の萌芽樹である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-043	幹芯から土留めまでの離隔距離1.4m。 樹形に乱れあり不適(樹冠に道路側への大きな偏り、樹幹傾斜)。 幹H3mにコフキサルノコシカケあり。 幹H4.5mに開口空洞あり。 枯枝(西側歩道上H4.5m) Φ15, L=2m、ほか多数あり。要切除。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-044	根元・幹に打診音異常(大) H0.0～1.5mあり。 鋼棒貫入異常あり。 大枝に剪定痕からの腐朽20×20(北側H1m)、15×10(西側H1m)、20×20(南H1.4)あり。 根元から幹に腐朽が多く、軽減剪定が必要である。 土留め壁が根元にあり。 斜面に位置する。	●			B			
Y01-045	幹H1.5mに開口空洞(小)、巻込みあり。 3本立の主幹(C33)の高さH2mより上部が枯死している。	●			A			
Y01-047	根元に開口空洞40×10×20/35(芯達)、打音異常あり。 樹幹傾斜(道路側)、片枝樹形である。 土留め壁が根元にあり。	●			B			
Y01-048	大枝に樹皮欠損(中)が多数あり。 幹芯からコンクリート基礎までの距離1.7m。	●			A			
Y01-049	大枝に樹皮欠損(小)が2箇所あり。 大枝が看板に接触している。 幹芯から看板基礎までの離隔距離0.9m、歩車道縁石までの離隔距離0.9m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-050	幹H0.7m～1.8mに開口空洞120×50(390)×30/100ほか、3箇所、打音異常(大)あり。 縁石が根元にあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y01-051	露出根あり。 幹芯からアスファルト舗装までの距離2.3m、マンホールまでの距離2.7m。	●			B			
Y01-052	根元・幹に打音異常H0.0m～0.8mあるが移植には問題ない程度。	●			A			
Y01-053	幹H0.4m～1.6mに開口空洞(小)が3箇所、打診音異常(小)あり。 根鉢が大きいが、場内であれば移植はできる。 樹冠を構成する大枝の剪定状態についても良好である。	●(赤)			B			
Y01-083	根元・幹H0.0m～3.0mに開口空洞、打診音異常あり。 幹芯から万年塀までの離隔距離0.8m、土留めまでの離隔距離2.2m。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

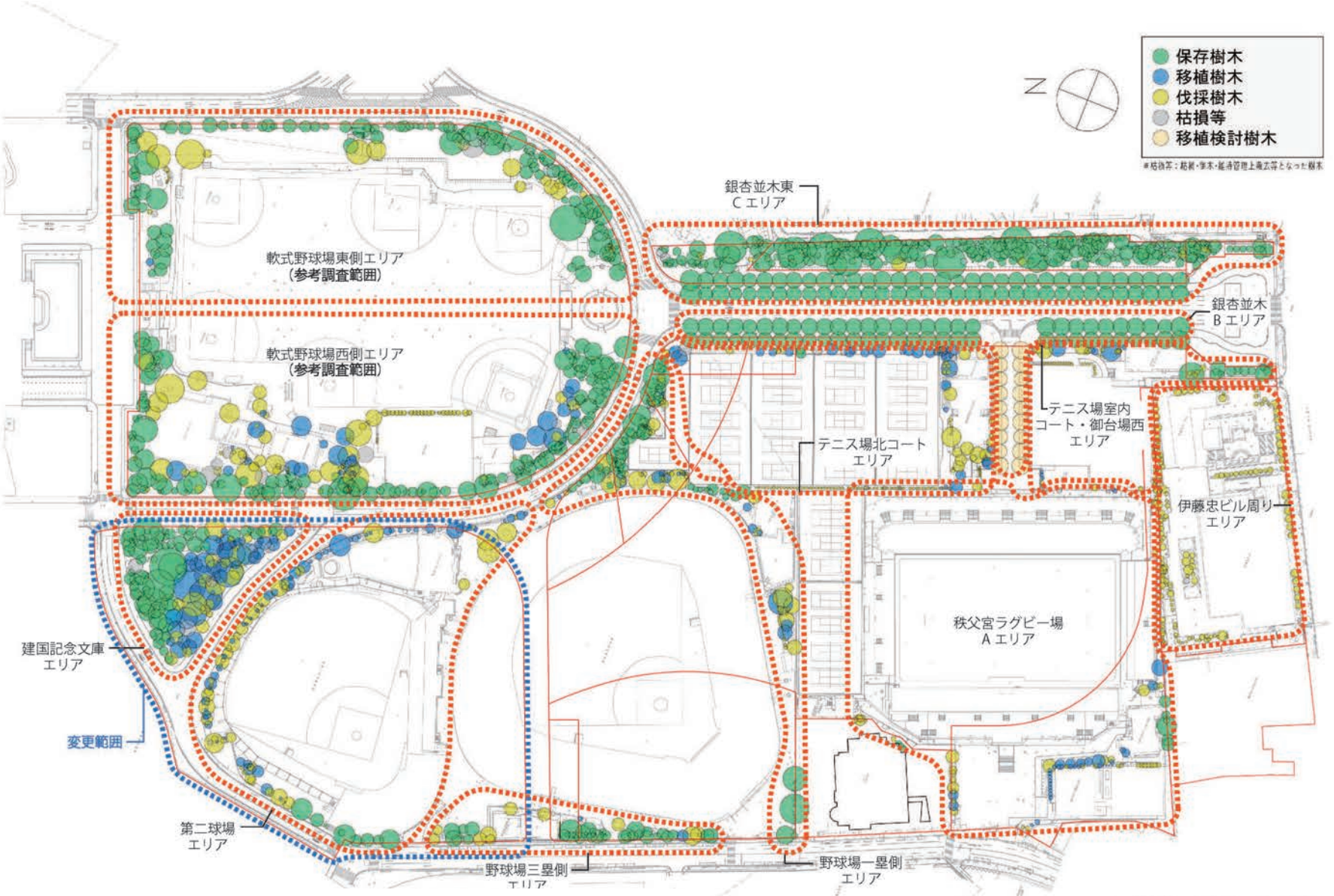
（空白）

2.2　計画地全体における存置、移植、伐採樹木

変更前後における計画地全体の存置、移植、伐採樹木の配置は、資料図 2.2-1～14 に示すとおりである。また、変更後の毎木調査票は、資料表 2.2-1 に、変更前の毎木調査票は、資料表 2.2-2～3 に示すとおりである。なお、毎木調査票の見方は、下記のとおりである。

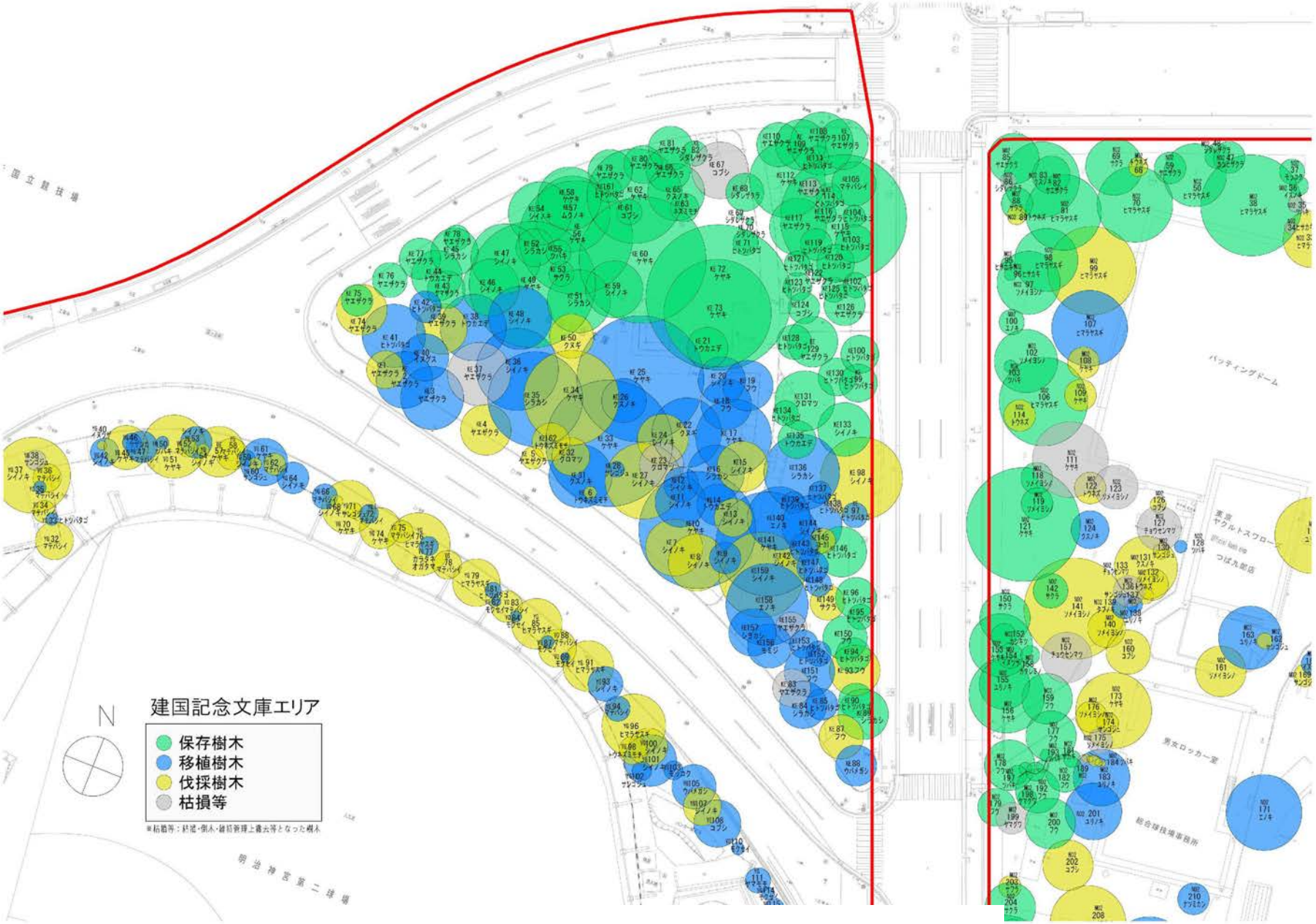
■毎木調査票の見方

1. 活力度評価結果の網掛けは 2019 年春季までの調査の活力度評価に対し評価が変化したものを示す（2019 年春季までの調査結果については、環境影響評価書にて記載）。
2. 当リストにおける「保存」は、存置樹木のことを示す。
3. 保存・移植・伐採の分類における「※」は枯損・倒木・維持管理上撤去等となった樹木を示す。
4. 伐採理由については、風致地区内の樹木を対象に示す。
5. 銀杏並木には伐採がないため伐採理由欄は設けていない。
6. 変更範囲及び参考調査範囲以外の保存・移植・伐採の分類は評価書時のものを記載しており、移植可否の調査結果と異なる場合がある。分類の変更については今後の変更届にて示していく。

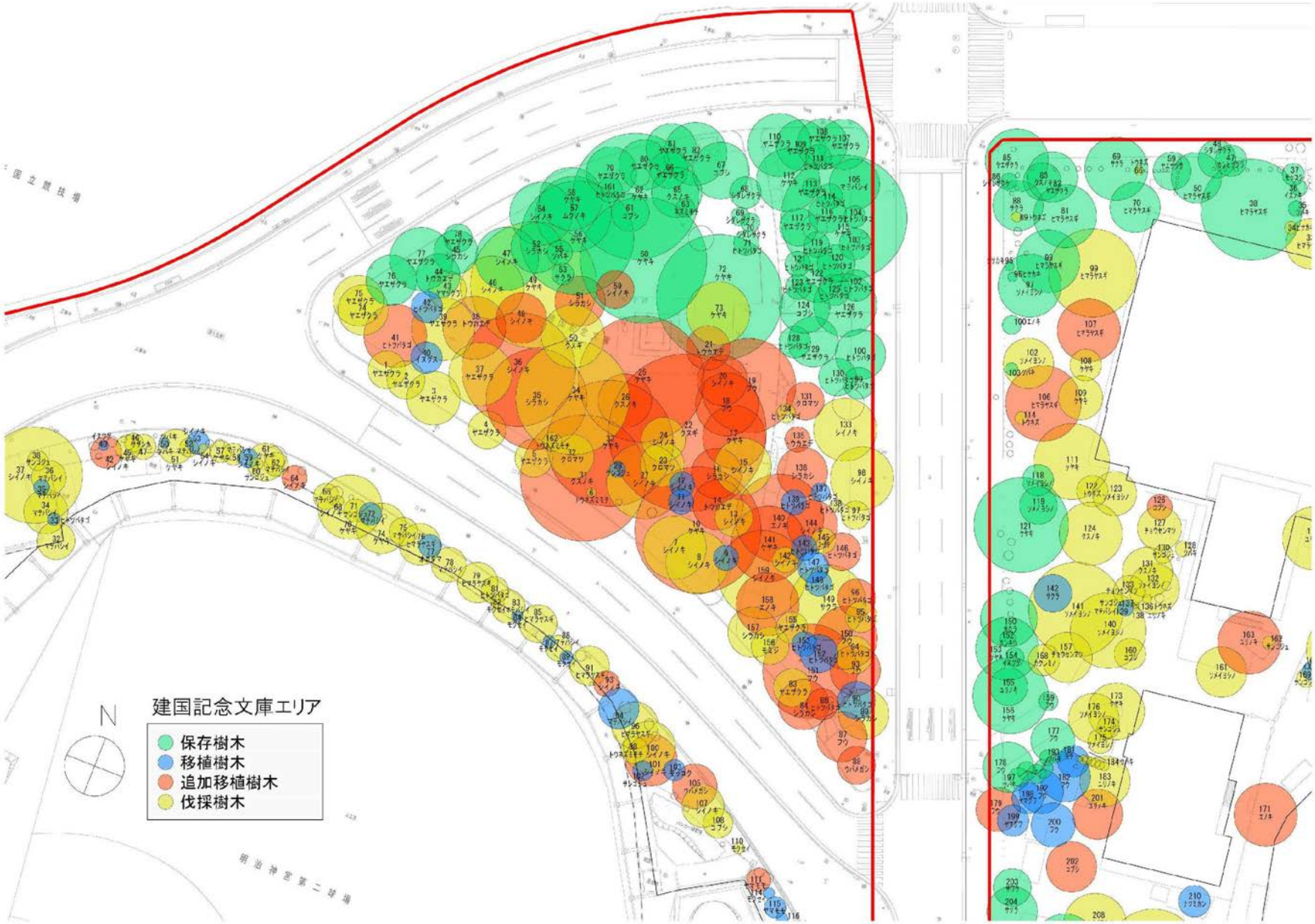


注）軟式野球場東側エリア及び西側エリアは別事業である。

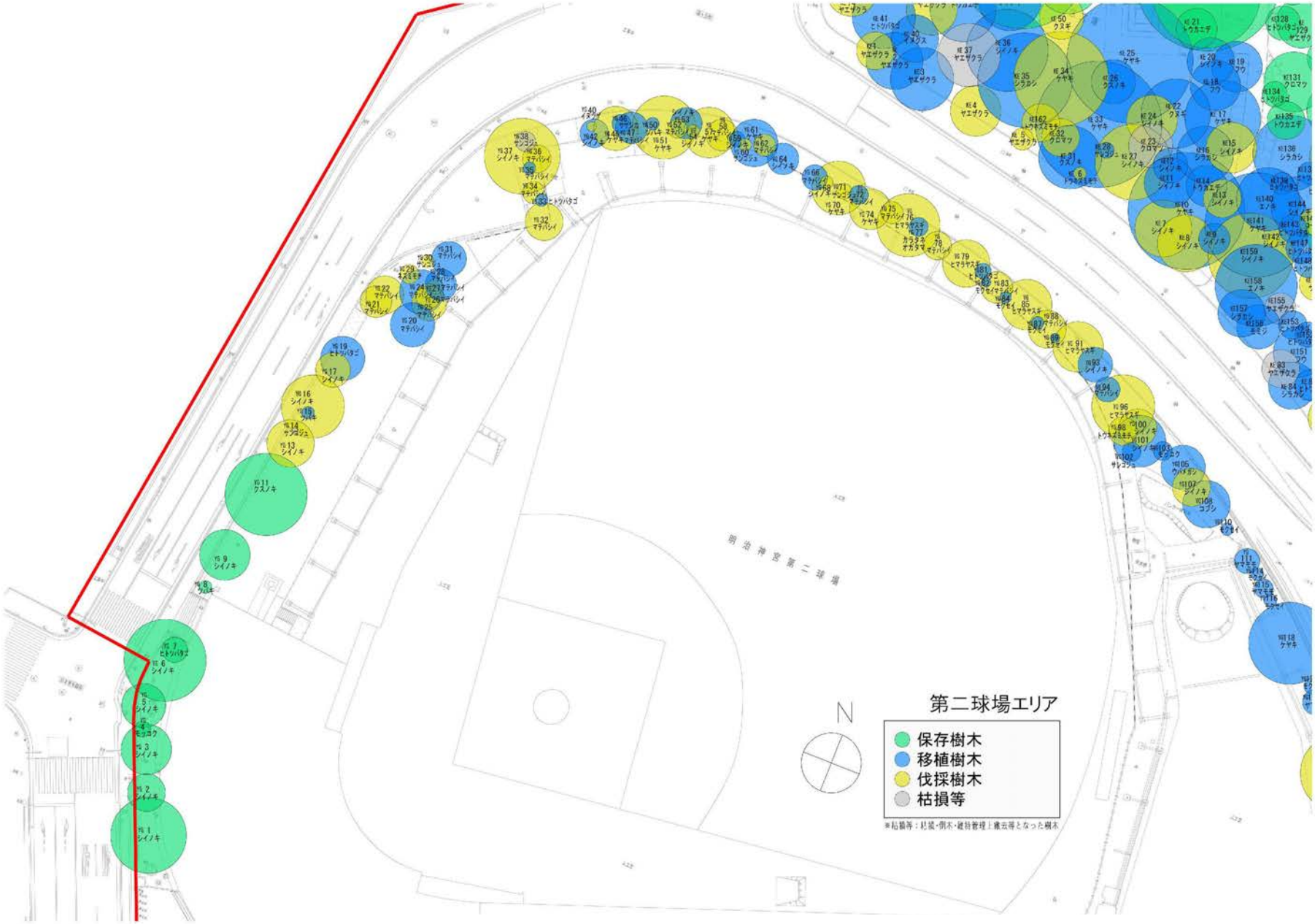
資料図 2.2-1　毎木調査エリア（計画地全体）



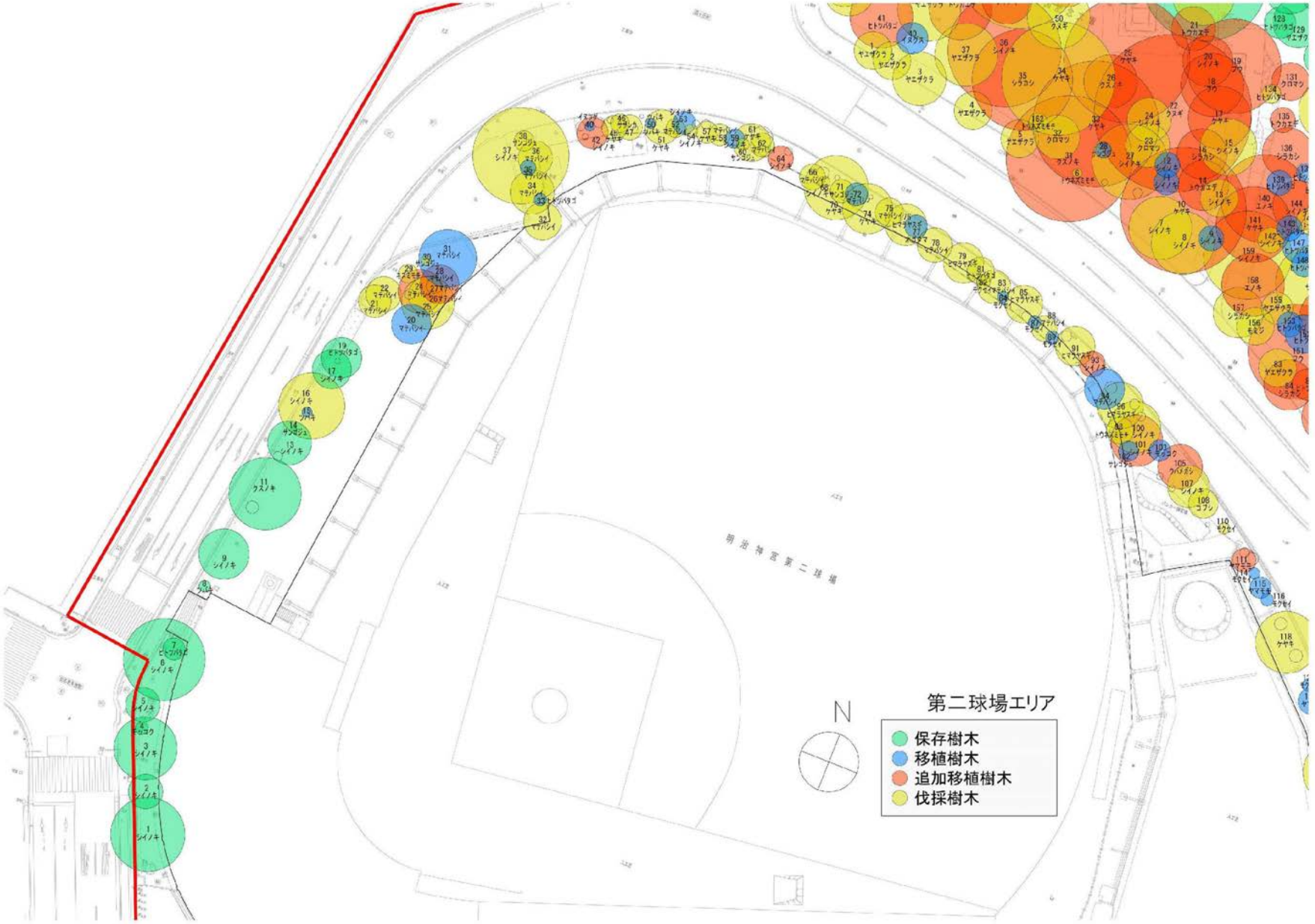
資料図 2.2-2(1)　毎木調査エリア（建国記念文庫エリア）【変更後】



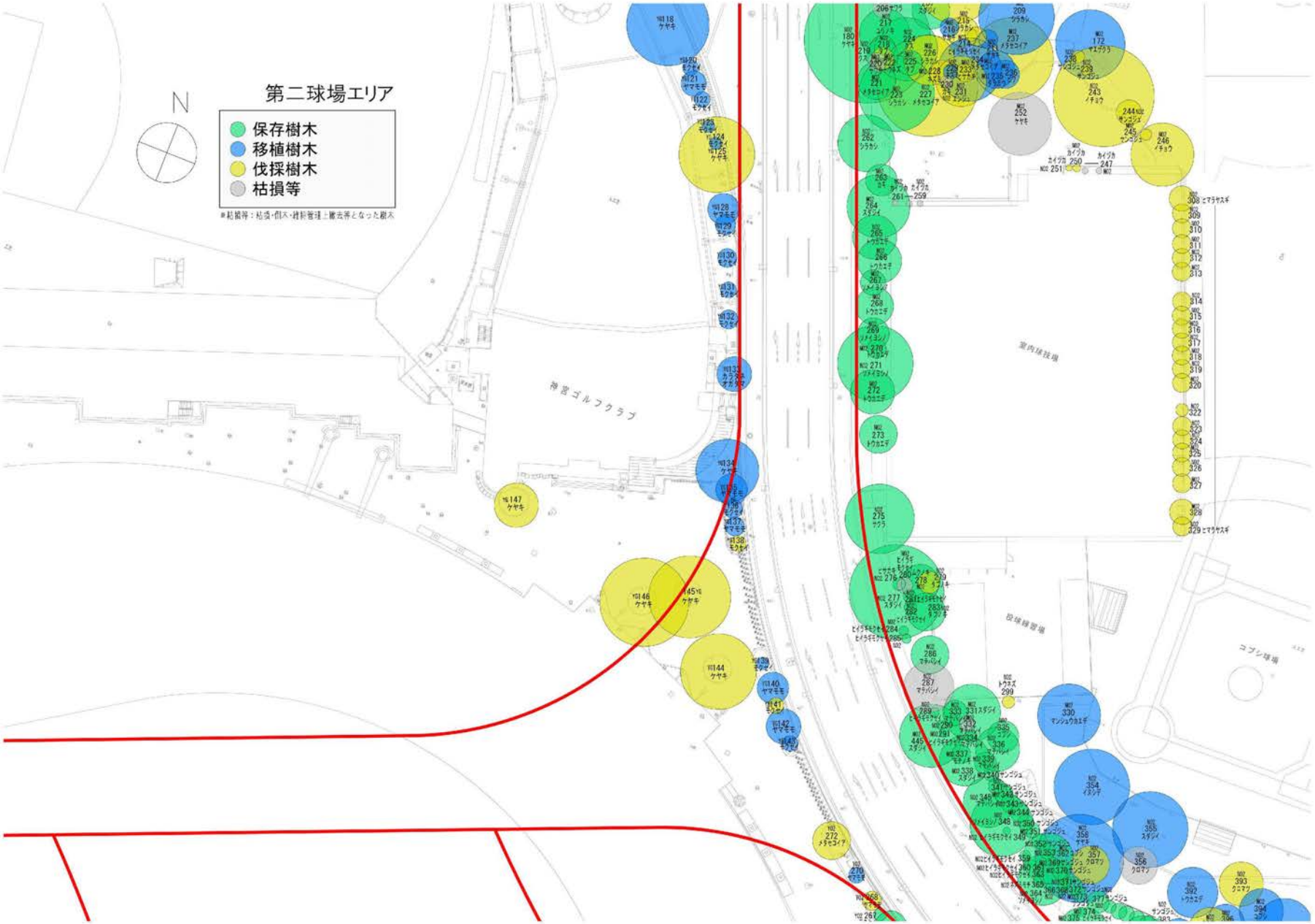
資料図 2.2-2(2)　毎木調査エリア（建国記念文庫エリア）【変更前】



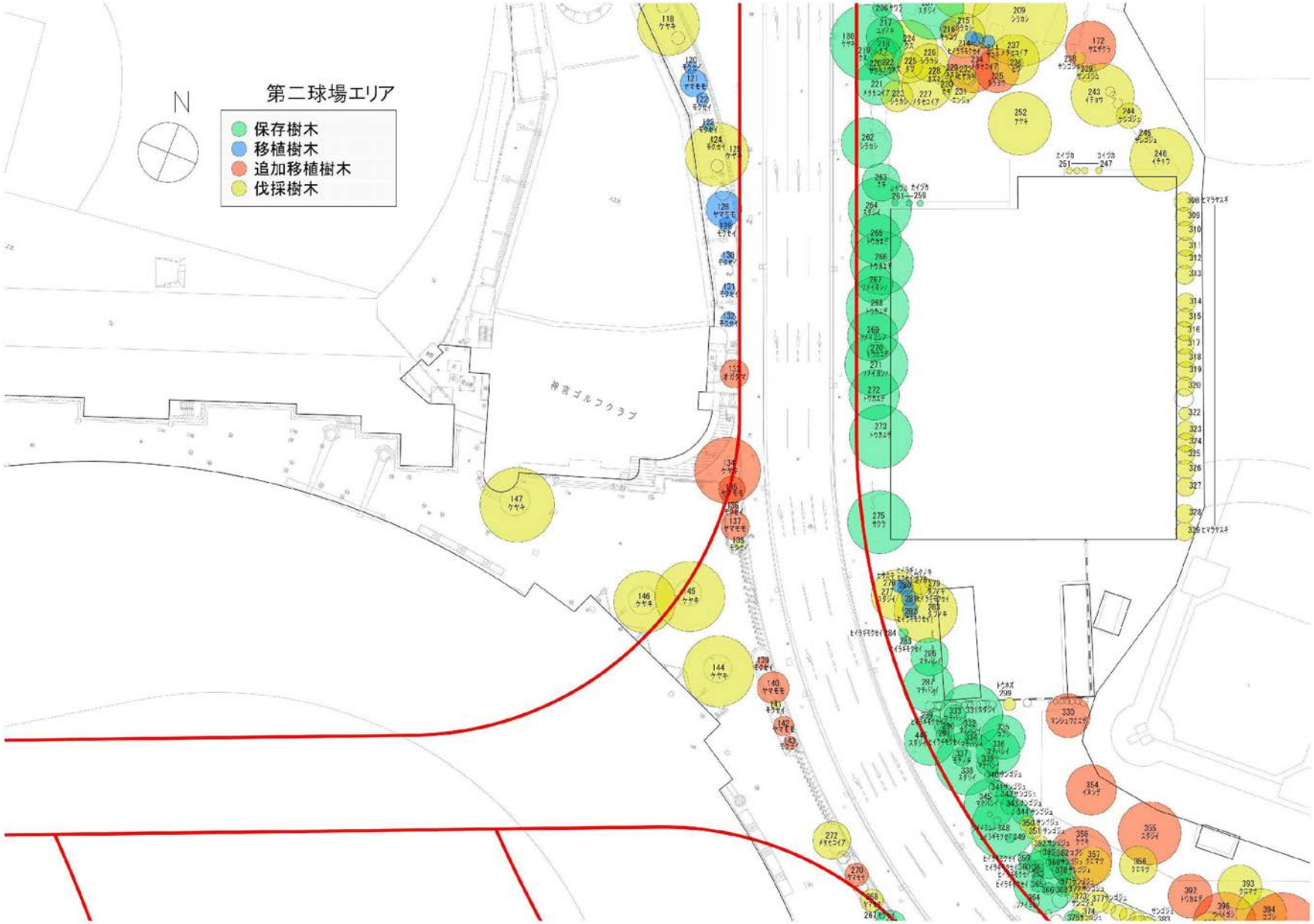
資料図 2.2-3(1)　毎木調査エリア（第二球場エリア）【変更後】



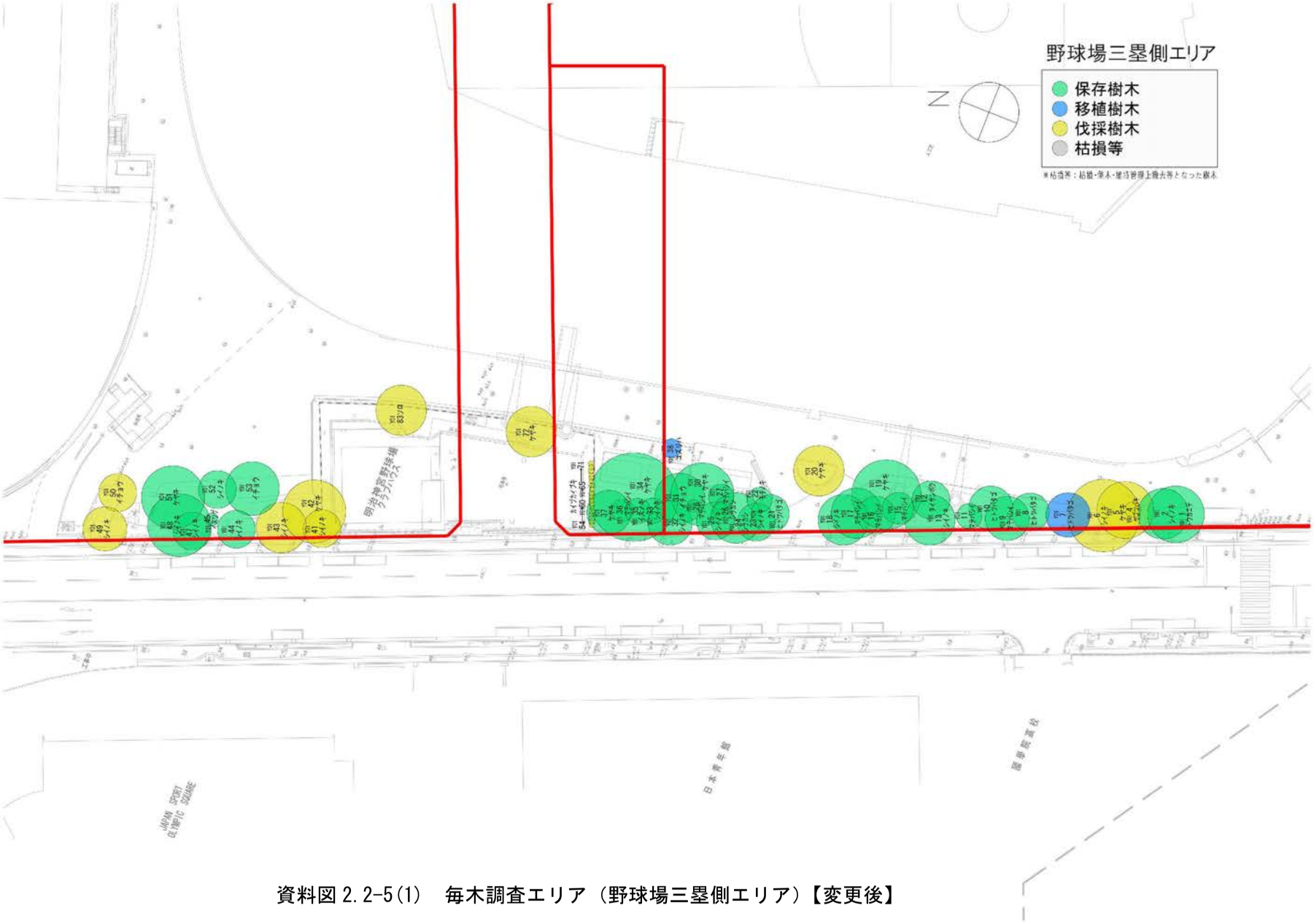
資料図 2.2-3(2)　毎木調査エリア（第二球場エリア）【変更前】



資料図 2.2-4(1)　毎木調査エリア（第二球場エリア）【変更後】



資料図 2.2-4(2)　毎木調査エリア（第二球場エリア）【変更前】

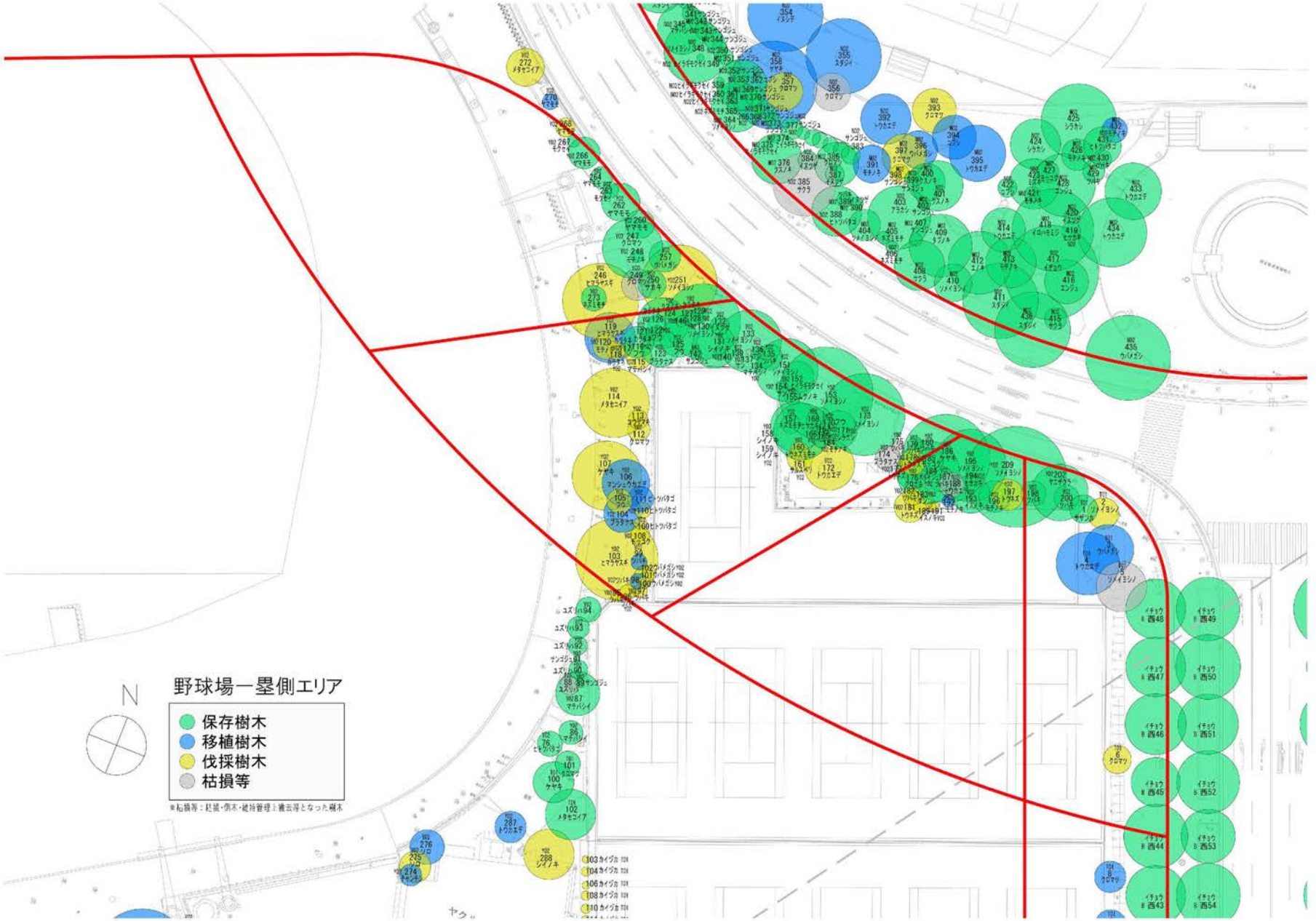


資料図 2.2-5(1)　毎木調査エリア（野球場三塁側エリア）【変更後】

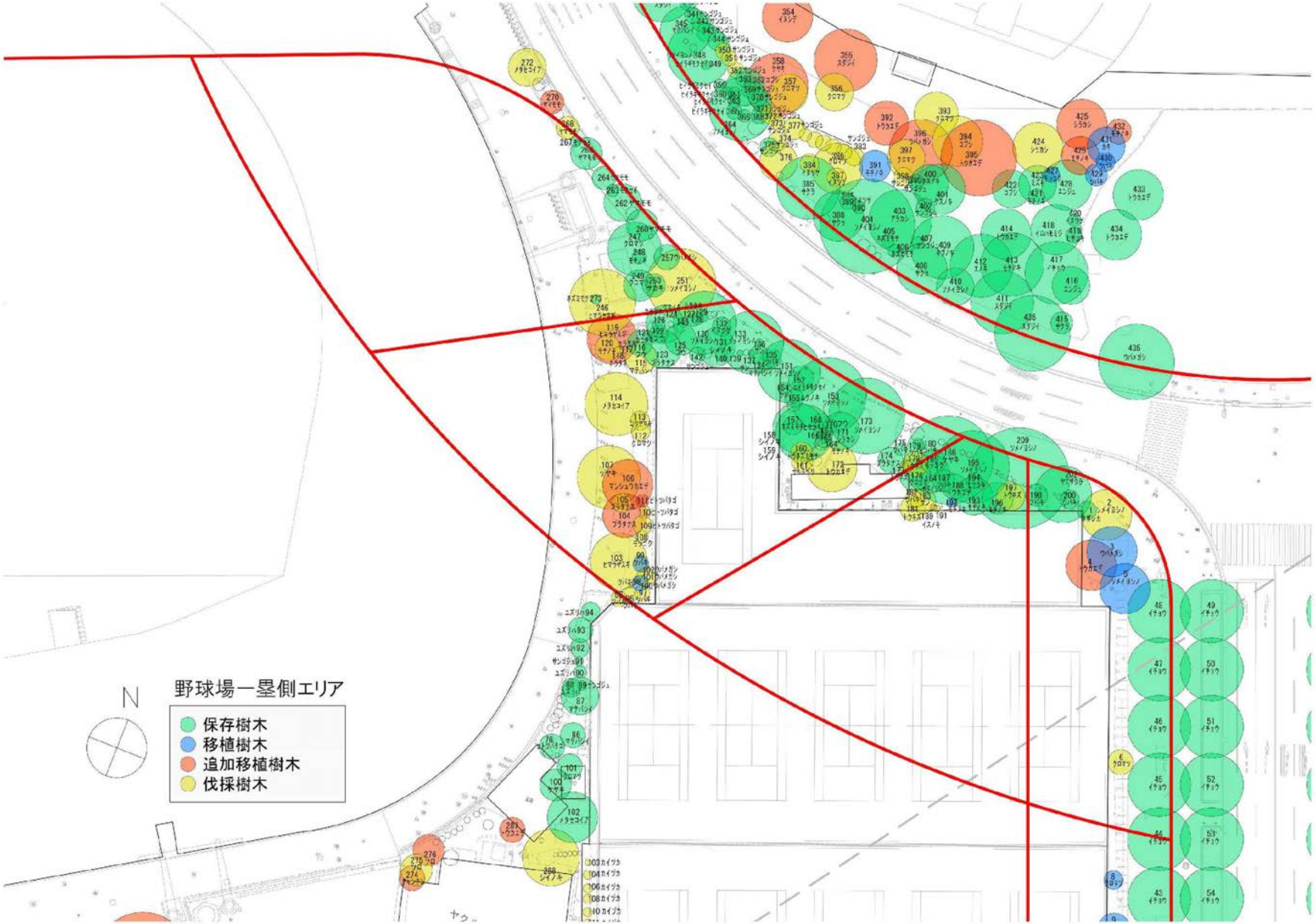
資料図 2.2-5(2)　毎木調査エリア（野球場三塁側エリア）【変更前】

資料図 2.2-6（1）　毎木調査エリア（野球場一塁側エリア）【変更後】

資料図 2.2-6（2）　毎木調査エリア（野球場一塁側エリア）【変更前】



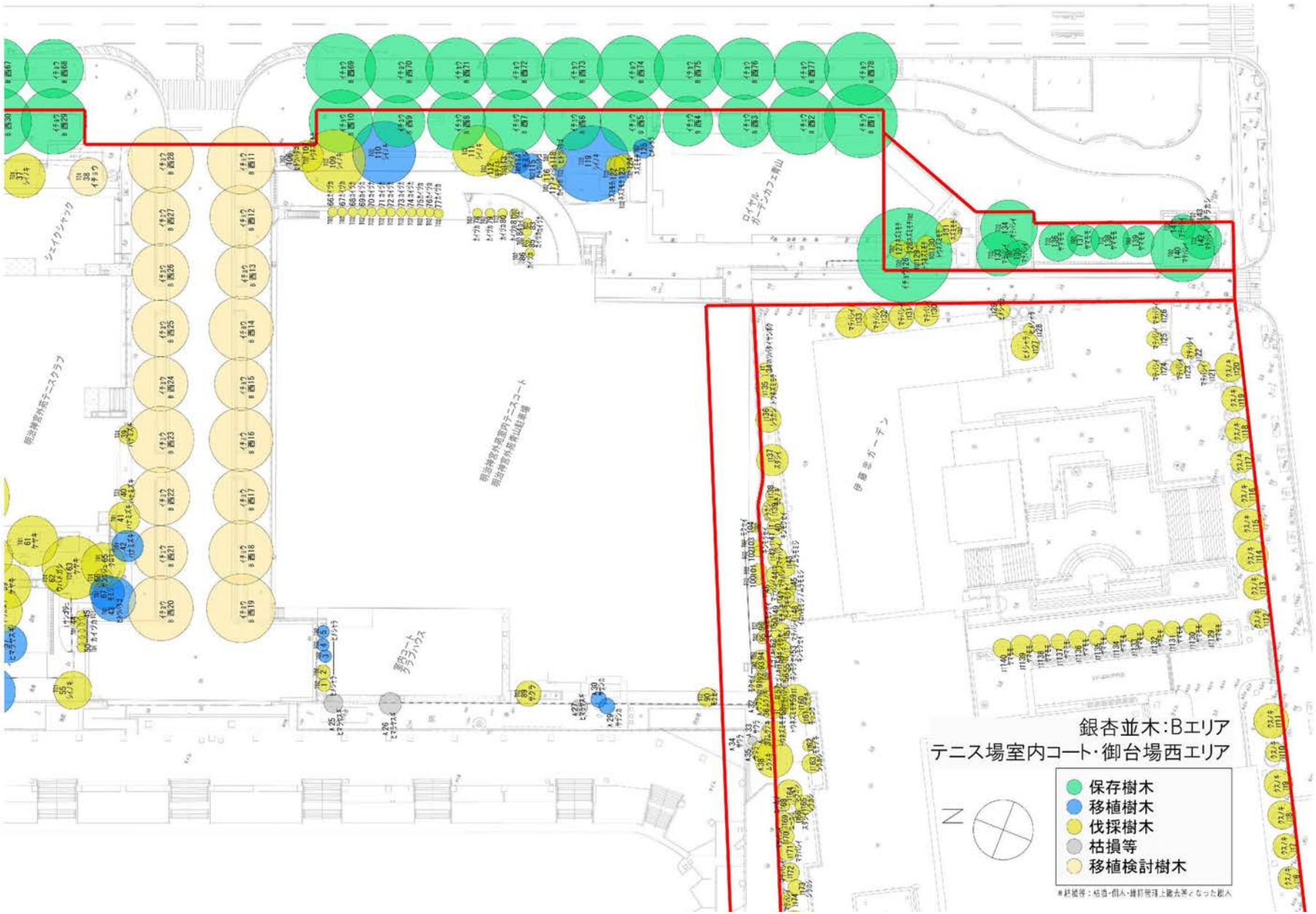
資料図 2.2-7（1）　毎木調査エリア（野球場一塁側エリア・テニス場北コートエリア・銀杏並木Ｂエリア）【変更後】



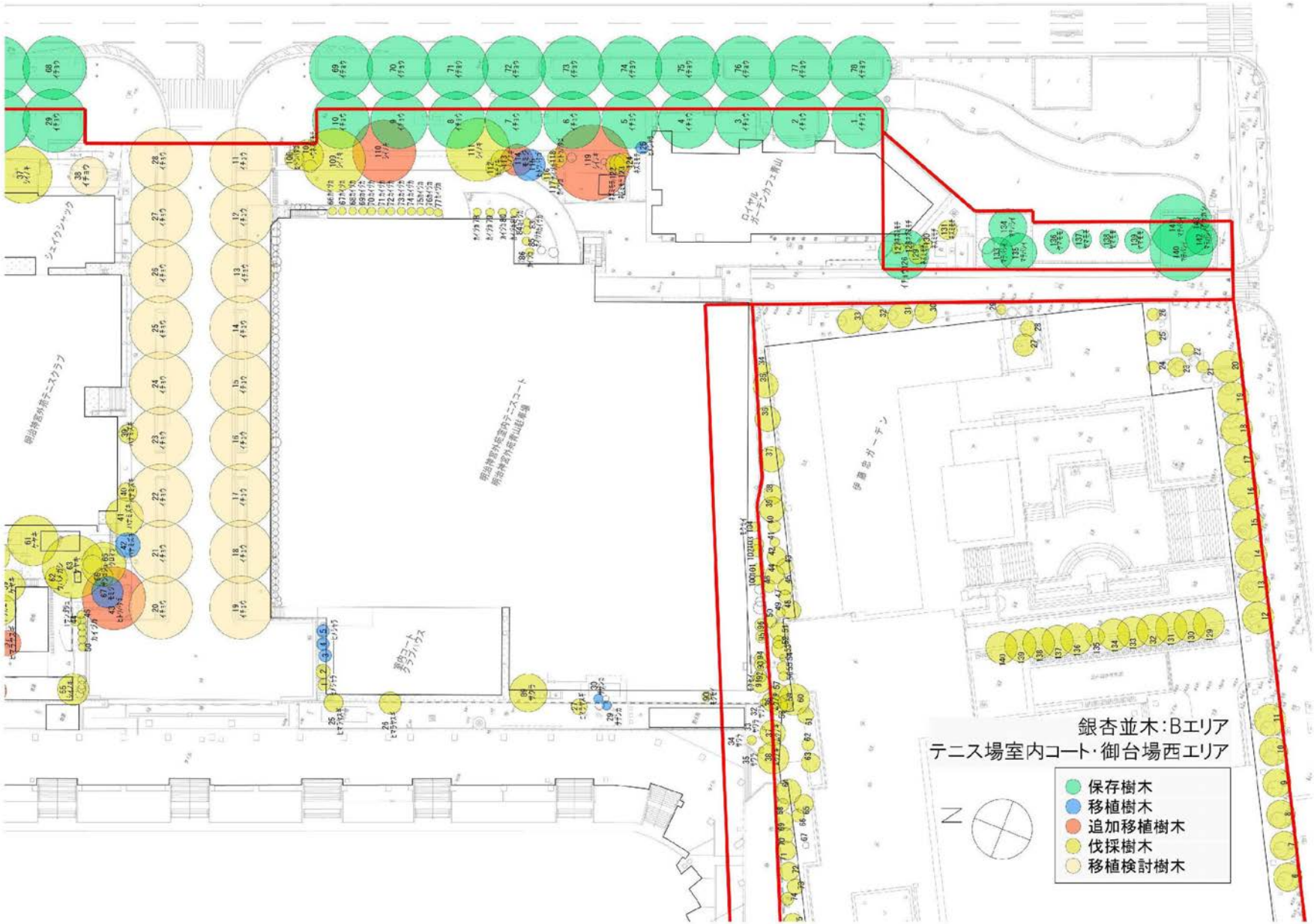
資料図 2.2-7（2）　毎木調査エリア（野球場一塁側エリア・テニス場北コートエリア・銀杏並木Bエリア）【変更前】

資料図 2.2-8（1）　毎木調査エリア（野球場一塁側エリア・テニス場北コートエリア・銀杏並木 B エリア）【変更後】

資料図 2.2-8（2）　毎木調査エリア（野球場一塁側エリア・テニス場北コートエリア・銀杏並木Ｂエリア）【変更前】



資料図 2.2-9（1）　毎木調査エリア（テニス場室内コート・御台場西エリア　銀杏並木Ｂエリア　伊藤忠ビル周りエリア）【変更後】

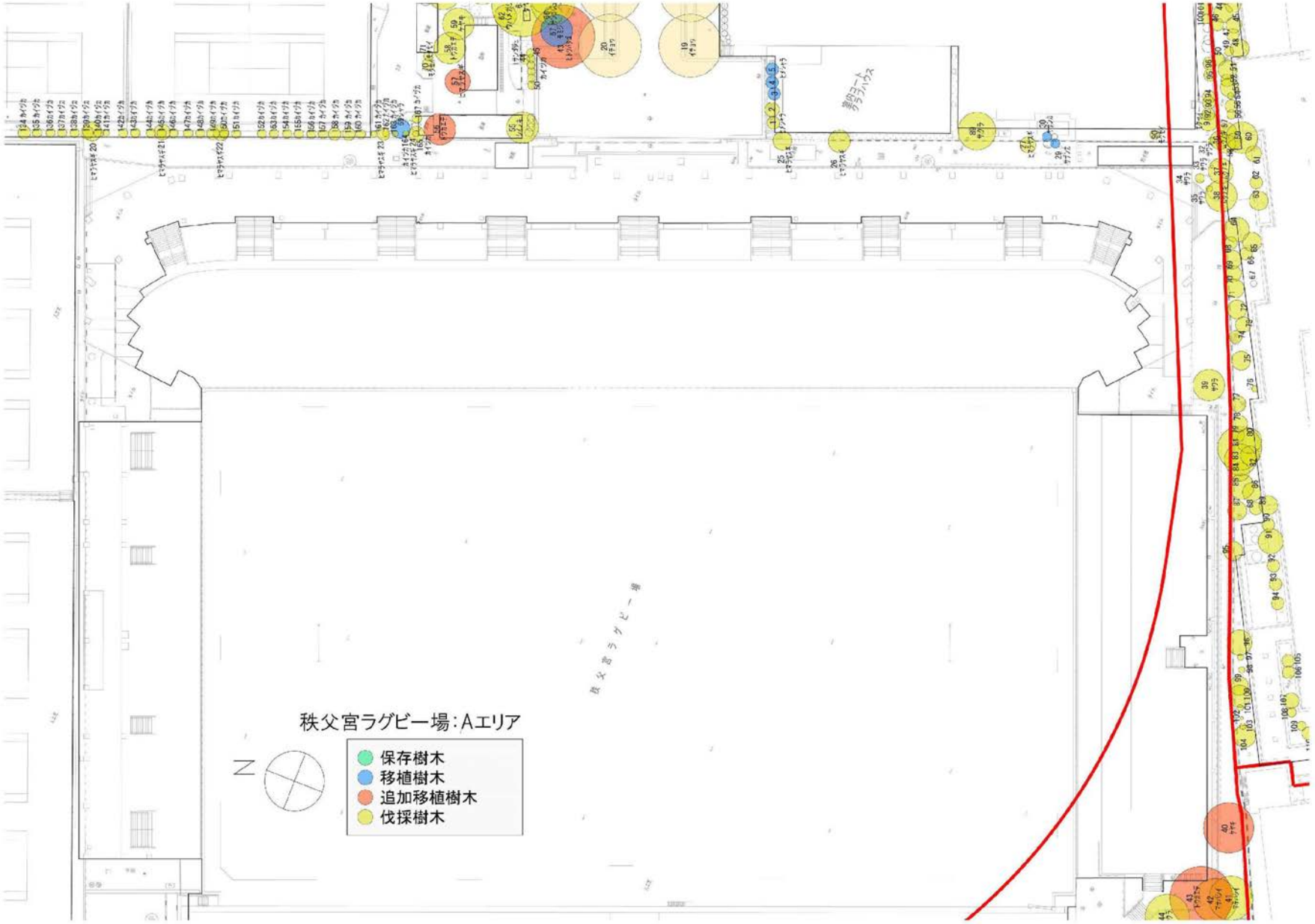


資料図 2.2-9（2）　毎木調査エリア（テニス場室内コート・御台場西エリア　銀杏並木Ｂエリア　伊藤忠ビル周りエリア）【変更前】

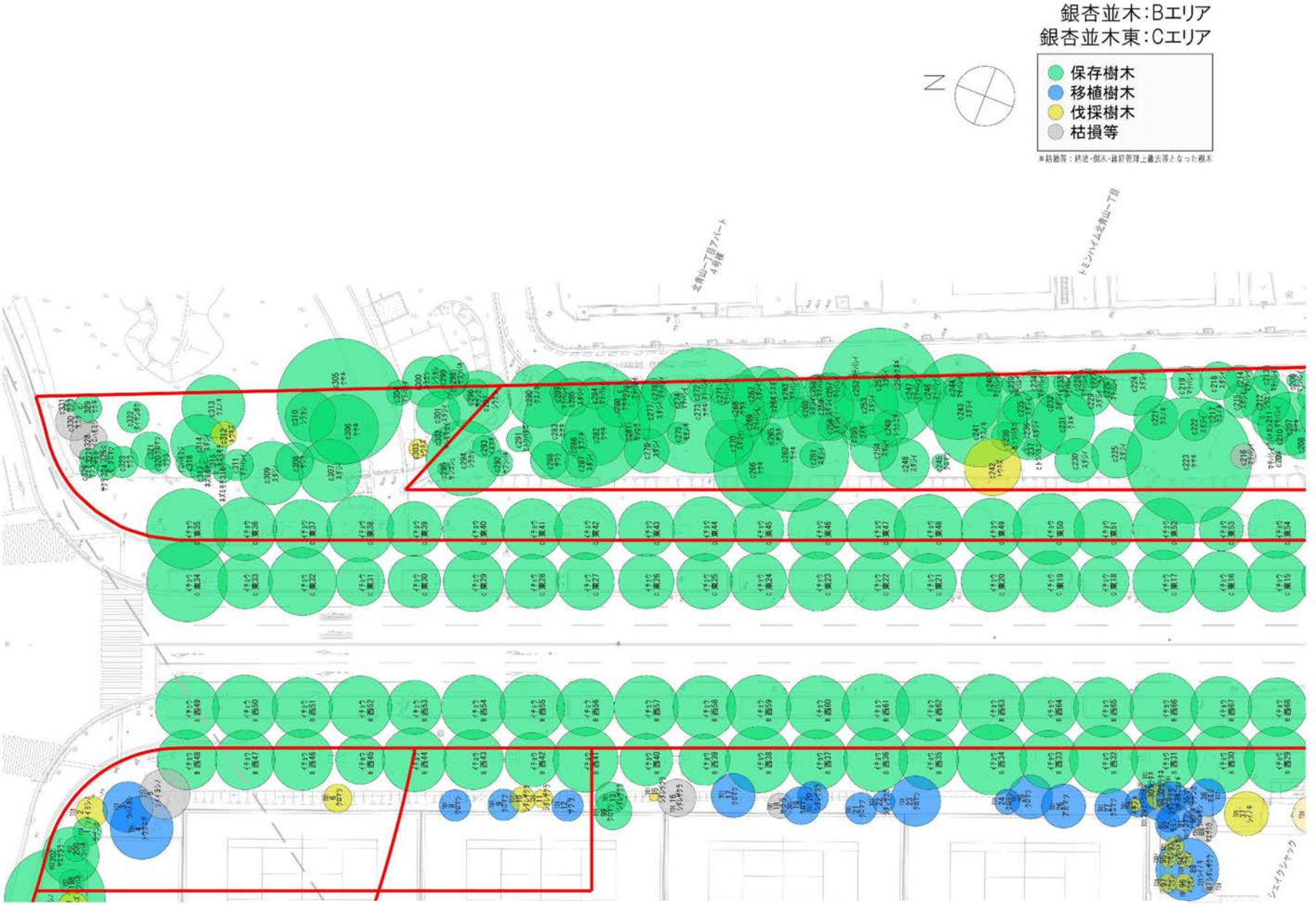
資料図 2.2-10（1）　毎木調査エリア（秩父宮ラグビー場 A エリア）【変更後】

資料図 2.2-10（2）　毎木調査エリア（秩父宮ラグビー場 A エリア）【変更前】

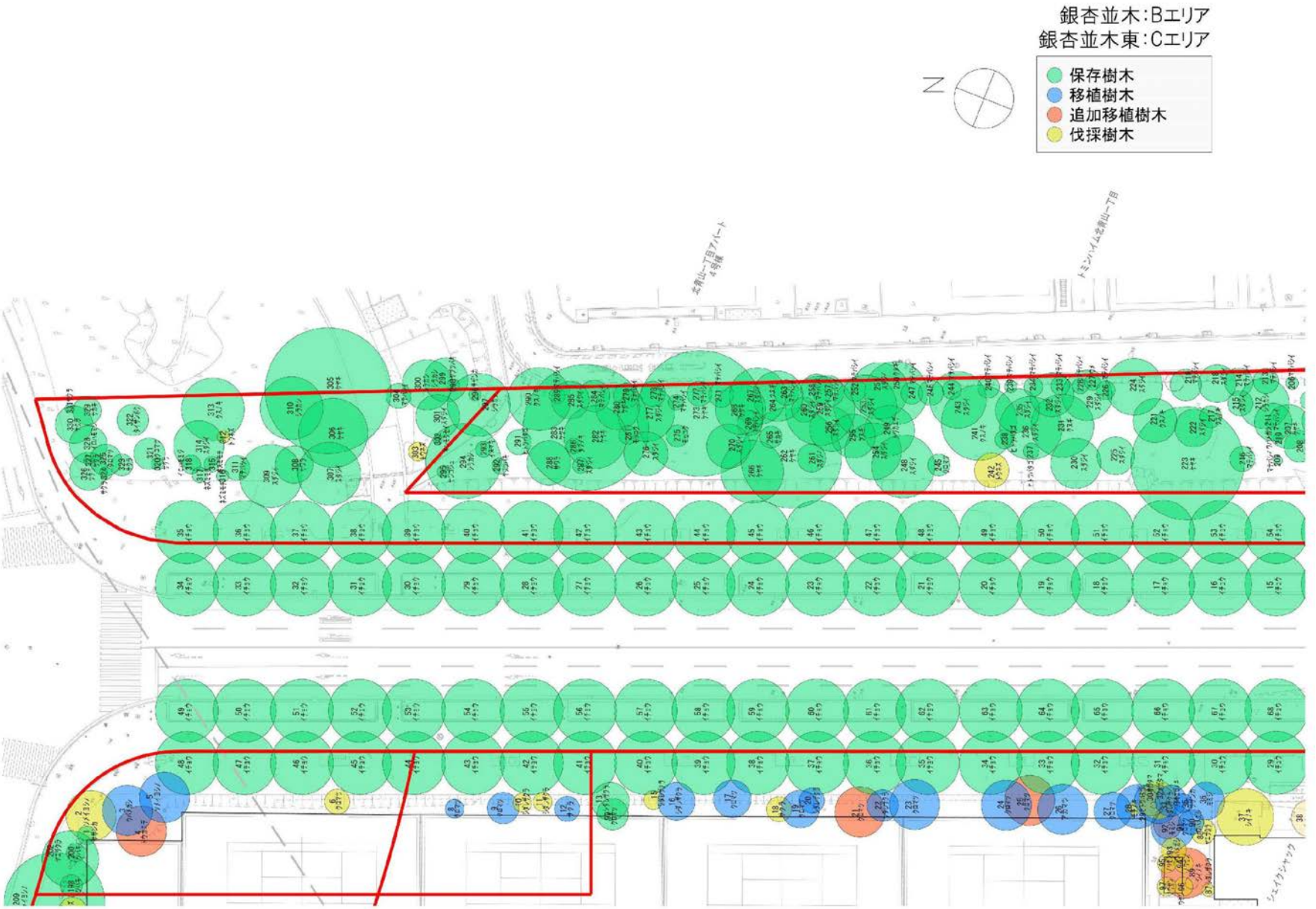
資料図 2.2-11（1）　毎木調査エリア（秩父宮ラグビー場 A エリア　伊藤忠ビル周りエリア）【変更後】



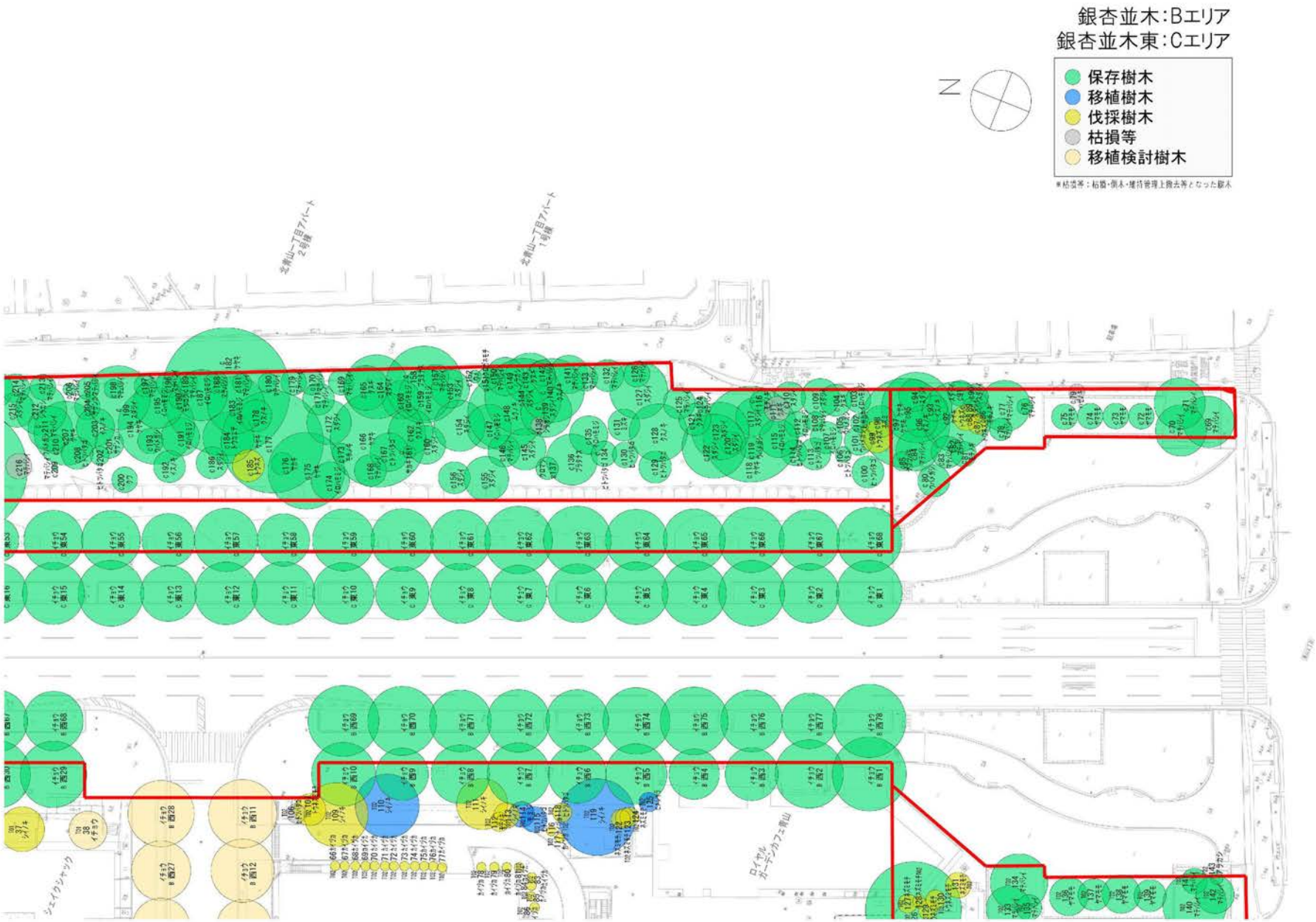
資料図 2.2-11 (2)　毎木調査エリア（秩父宮ラグビー場 A エリア　伊藤忠ビル周りエリア）【変更前】



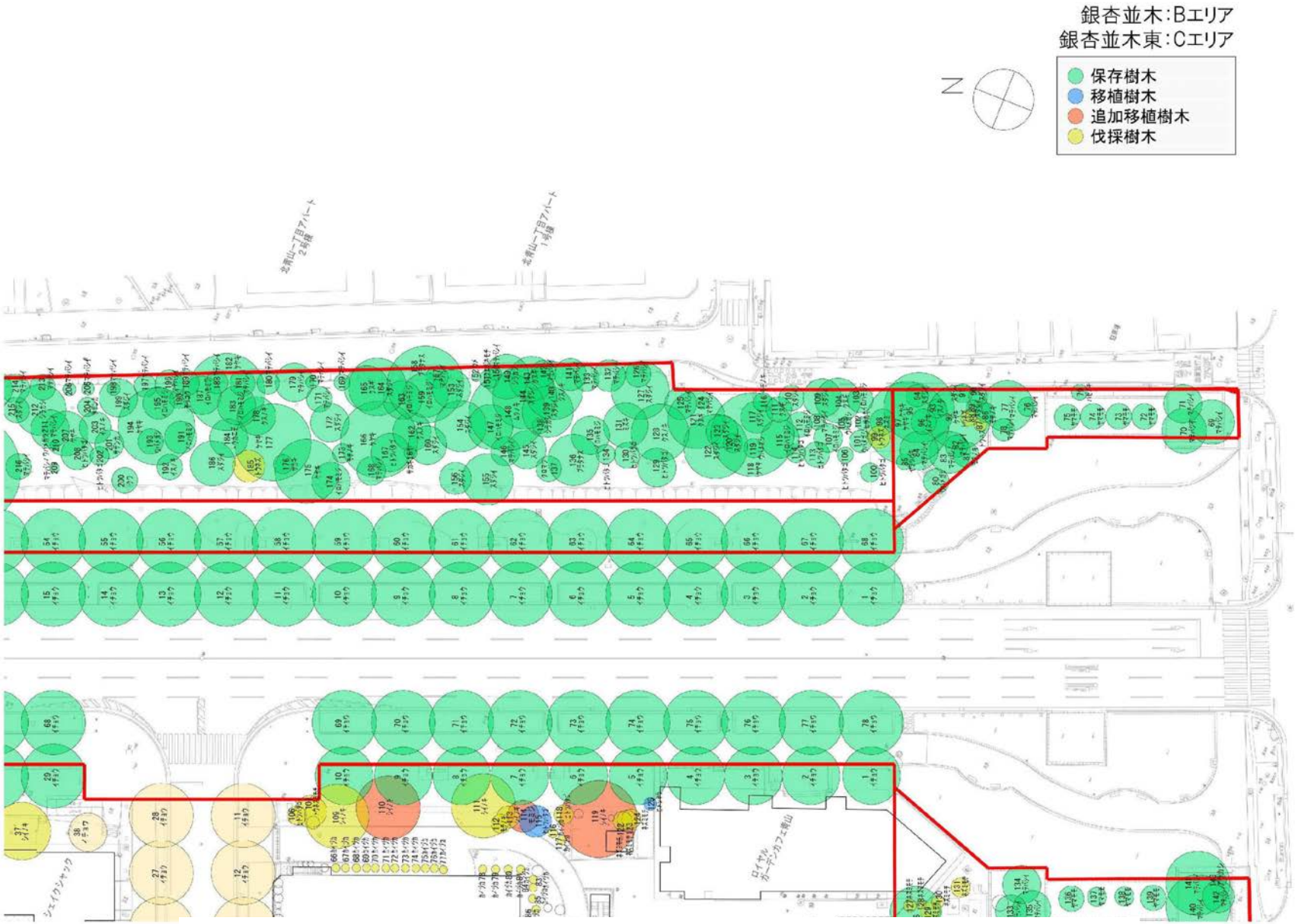
資料図 2.2-12（1）　毎木調査エリア（銀杏並木 B エリア　銀杏並木東 C エリア）【変更後】



資料図 2.2-12（2）　毎木調査エリア（銀杏並木 B エリア　銀杏並木東 C エリア）【変更前】



資料図 2.2-13（1）　毎木調査エリア（銀杏並木 B エリア　銀杏並木東 C エリア）【変更後】



資料図 2.2-13（2）　毎木調査エリア（銀杏並木Ｂエリア　銀杏並木東Ｃエリア）【変更前】

資料図 2.2-14（1）　毎木調査エリア（秩父宮ラグビー場Ａエリア　伊藤忠ビル周りエリア）【変更後】

資料図 2.2-14（2）　毎木調査エリア（秩父宮ラグビー場 A エリア　伊藤忠ビル周りエリア）【変更前】

資料表 2.2-1(1)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Aエリア：秩父宮ラグビー場　調査日：2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	
A	1	ヒムロスギ	15.0	112	5.0	―	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	小	根元・幹に打診音異常H0.0～0.8mあり。 枯枝が散在する。街灯柱と近接。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、側溝までの離隔距離1.35m。 下枝が高く、移植に向けた剪定には不適である。 隣木のヒマラヤスギをやや被圧している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
A	2	ヒマラヤスギ	18.0	141	6.0	―	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○			○				有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、側溝までの離隔距離1.3m。植栽帯の幅は2.25m。 移植に伴う剪定において、高さH12mで断幹しても樹形を維持できる。
A	3	サワラ	15.0	85	3.5	―	3.0	3.0	4.0	3.0	3.0	3.0	2.0	3.0	3.0	1.0	2.80	C			○				○		有	大	幹に開口空洞 200×20×20/30(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 枝葉量が少なく、樹形に乱れ(被圧樹形)あり。 下枝の枯損が多い。 幹折れの危険性あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
A	4	ヒマラヤスギ	18.0	154	6.0	―	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.60	A		○			○				有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹に打診音異常(小) H1.5～2.0mあり。 樹幹傾斜(小)あり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、側溝までの離隔距離1.3m。剪定、樹形維持が可能である。根鉢確保がかろうじて可能である。
A	5	シャリンバイ	3.0	21	3.0	―	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	大	枝が街灯柱に接触している。 街灯柱とマンホールに挟まれた位置にある。 樹形に乱れあり(被圧により裏側の枝が消失)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
A	6	ヒマラヤスギ	18.0	151	7.0	―	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.70	A			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 幹芯からマンホールまでの離隔距離0.9m、側溝までの離隔距離1.1m、フェンスまでの離隔距離1.2m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
A	7	サワラ	15.5	111	3.5	―	2.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B			○				○		有	小	根元・幹に開口空洞(溝腐れ症状) 750×10×15/35、打音異常あり。幹折れの危険性あり。 支柱に接触している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
A	8	サワラ	15.0	99	4.0	―	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.35	B			○				○		有	小	根元・幹に開口空洞(溝腐れ症状) 150×5×15/30(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 幹折れの危険性あり。 枯枝が散在する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
A	9	サワラ	15.5	100	5.0	―	2.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B			○				○		有	小	根元・幹に開口空洞(溝腐れ症状) 20×5×20/35(芯達)ほか、断続的に複数あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 幹折れの危険性あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
A	10	スダジイ	8.5	150	8.0	―	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.20	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 大枝が強剪定されており、樹形に乱れあり。 街灯が樹冠内にある。支柱あり。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.9m、マンホールまでの離隔距離1.05m。掘り取り作業領域の確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
A	11	サンゴジュ	3.0	52	3.5	―	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.85	C			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 高さH3.0mにおいて断幹、枯れ下がりあり。 砂の盛土あり。
A	12	サンゴジュ	4.0	2本立	3.5	57.42	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.85	C			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹(H1.5m)に開口空洞 10×10×10/20(芯達)あり。 高さH3.0mにおいて断幹、枯れ下がりあり。 砂の盛土あり。
A	13	サンゴジュ	4.0	2本立	3.5	37.30	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.85	C			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 高さH3.0mにおいて断幹されている。 砂の盛土あり。

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 離隔の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に●			ABCD			
1			●	B		●	
2		●		A			
3			●	C			●
4		●		A			
5			●	B		●	
6			●	A		●	
7			●	B			●
8			●	B			●
9			●	B			●
10			●	B		●	
11	●			C			
12	●			C			
13	●			C			

資料表 2.2-1(2)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名	Aエリア：秩父宮ラグビー場	調査日	2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日

エリア	樹木番号		樹種名		規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
									1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
A	14		サンゴジュ		3.5	2本立	3.0	49.48	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.95	C			○				○		有	小	幹上部において断幹あり。 砂の盛土あり。 双幹の一方が枯損している。 2本立の1本(C48)が枯死している。 樹形不良。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
A	15		コノテガシワ		6.0	2本立	2.0	24.16	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.45	B			○				○		有	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元がフェンスに接触しており、掘り取り作業が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
A	16		ゲッケイジュ		10.0	2本立	7.0	68.61	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A			○				○		有	小	幹分岐部に入り皮あり。 根元縁石乗り上げ。 すす病の発生あり。 根元がフェンスに接触しており、掘り取り作業が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	17		ムクゲ		3.5	42(芝付)	4.0	－	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B			○				○		有	大	樹形に乱れあり。 フェンス、構造物、隣接樹木と近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	18		ムクゲ		3.5	37(芝付)	4.0	－	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B			○				○		有	大	樹形に乱れあり。 フェンス、構造物と近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	19		コブシ		4.0	26	3.5	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.75	C			○				○		有	大	樹形に乱れあり。幹が屈曲している。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
A	20		ヒマラヤスギ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	21		ヒマラヤスギ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	22		ヒマラヤスギ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	23		ヒマラヤスギ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	D			
A	24		ヒマラヤスギ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	25		ヒマラヤスギ		4.0	173	0.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(台切り)。	－	－	※	D			
A	26		ヒマラヤスギ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	27		ヒマラヤスギ		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			
A	29		サザンカ		4.0	28	2.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	巻き根(中)あり。		●		B			
A	30		サザンカ		3.0	28	2.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		B			
A	32		サワラ		8.0	74	3.0	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	1.0	3.20	C											高さH8.0mにて断幹されている。 根元に開口空洞 30×1×5/25ほか、溝腐れ症状あり。 根元・幹に打診音異常 H0.0～2.0mあり。 隣木のムクノキ(樹木番号36)と接触している。 樹形に乱れあり(下枝が無い)。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
A	33		サワラ		2.5	73	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	-	-	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	－	－	※	D			

資料表 2.2-1(3)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Aエリア：秩父宮ラグビー場　調査日：2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
A	34	サワラ	–	97	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	-	-	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	–	–	※	C			
A	35	サワラ	10.0	75	3.5	–	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.5	3.5	3.0	1.0	2.70	C			○				○		有	中	根元・幹に開口空洞20×1×5/22ほか、断続的に溝腐れ症状あり。 幹に打診音異常(小) H1.5～2.0mあり。 幹芯から縁石までの離隔距離0.65m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
A	36	ムクノキ	8.0	55	5.0	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B			○					○	有	大	フェンス囲い内に位置し、フェンスと接触・くい込みあり。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	37	ムクノキ	7.0	48	4.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○					○	有	大	フェンス囲い内に位置し、フェンスと接触・くい込みあり。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	38	ムクノキ	9.0	60	6.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B			○					○	有	大	フェンス囲い内に位置し、フェンスと接触・くい込み・押上げあり。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	39	サワラ	11.5	105	3.5	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	中	鋼棒貫入異常5cmあり。 樹幹傾斜(小)あり。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
A	40	ケヤキ	14.0	178	10.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.95	B		○			○				有	小	支柱のみ込みあり。 大枝分岐に入り皮あり。 幹芯から石積み擁壁までの離隔距離1.45m、コンクリート擁壁までの離隔距離2.1m。樹形維持が可能。根鉢確保がかろうじて可能である。		●		B			
A	41	マテバシイ	6.5	77	3.5	–	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	3.0	3.5	3.0	1.0	2.70	C			○				○		無	小	樹幹傾斜あり。枝葉量が少ない。樹形に乱れあり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 斜面地に位置する。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
A	42	マテバシイ	8.0	80	4.0	–	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	3.5	3.0	1.0	2.65	C			○				○		無	中	枝葉量が少ない。樹形に乱れあり。 巻き根(中)あり。 斜面地に位置する。 活力度が悪く、移植後に健全な状態への回復は難しい。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
A	43	トウカエデ	12.0	178	6.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				有	小	支柱のみ込みあり。 根元に大きなコブあり。 斜面に位置する。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.6m。樹勢・樹形の維持は可能。		●		C			
A	44	サクラ	7.0	2本立	7.0	105,85	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○						○	有	無	分電盤に近接、基礎に根が食い込んでいる。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
A	45	サクラ	6.0	99	7.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○						○	有	無	根元に打診音異常(小) H0.0～0.3mあり。 石積塀と縁石に近接している。	●			B			
A	46	サクラ	8.0	131	5.0	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B		○						○	有	中	大枝に今日剪定痕あり。 根元に打診音異常(小) H0.0～0.2mあり。 石積塀と縁石に近接し、縁石押し上げあり。	●			B			
A	47	サクラ	8.0	66	3.5	–	3.5	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.55	C		○						○	有	大	根株に腐朽あり。 隣木からの被圧(大)あり。 根張りがやや小さく、衰退傾向にある。 石積塀と縁石に近接している。	●			C			
A	48	サクラ	9.0	169 (H0.8m)	12.0	–	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B		○						○	有	小	巻き根(大)あり。 大枝の相互接触あり。 胴吹き枝が多数あり。小枝の枯れあり。 石積塀と縁石に近接し、縁石押し上げあり。	●			B			
A	49	サクラ	9.0	93	7.0	–	2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	中	巻き根(中)あり。 打診音異常あり。 樹幹傾斜あり。 石積塀と縁石に近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(4)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名					Aエリア：秩父宮ラグビー場																調査日			2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日														
					規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
																									難													
エリア	樹木番号		樹種名		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
									1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
A	50		サクラ		9.0	112	8.0	−	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B		○					○		有	小	巻き根(大)あり。 石積塀と縁石に近接している。	●			B			
A	52		サクラ		4.5	57	5.0	−	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B		○		○					有	小	ひこばえが多数あり。 大枝にキノコ(種不明)の発生あり。 枯枝φ5, L=2.0mあり。 建物に近接している。 上記の状態はあるものの、移植に際しては支障なし。		●		B			
A	53		ウメ		4.0	36	3.5	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○					○		有	小	建物および樹木番号52サクラからの被圧(小)あり。 ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元に打診音異常 H0.0～0.2mがあること、枯枝があることから移植には適さない。		●		B			
A	56		カイヅカイブキ		4.5	74	3.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○					○	有	小	植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	57		カイヅカイブキ		4.5	72	3.0	−	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.95	B			○					○	有	中	片側(建物側)の枝に枯枝が多数あり。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	58		カイヅカイブキ		4.5	72	3.0	−	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.95	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。樹幹傾斜あり。 片側(建物側)の枝に枯枝が多数あり。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	59		カイヅカイブキ		4.5	67	3.0	−	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.95	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。樹幹傾斜あり。 片側(建物側)の枝に枯枝が多数あり。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	60		カイヅカイブキ		4.5	71	3.0	−	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.95	B			○				○		有	中	巻き根(小)あり。 片側(建物側)の枝に枯枝が多数あり。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	61		カイヅカイブキ		4.5	73	3.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保が困難である。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	62		カイヅカイブキ		4.5	71	3.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保が困難である。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	63		カイヅカイブキ		6.0	78	2.5	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	樹幹傾斜あり。枯枝あり。 植栽帯(幅1.2m)内に列植されている。幹芯から縁石までの離隔距離0.5m。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	64		カイヅカイブキ		6.0	82	2.5	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	植栽帯(幅1.2m)内に列植されている。幹芯から縁石までの離隔距離0.5m。 単木で掘り取ると相互被圧による樹形の乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	65		カイヅカイブキ		4.5	34	1.0	−	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	66		カイヅカイブキ		4.5	37	1.0	−	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	67		カイヅカイブキ		4.5	38	1.0	−	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○					無	小	−		●		A			

資料表 2.2-1(5)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Aエリア:秩父宮ラグビー場															調査日	2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日																		
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目								伐採理由		
																							難														
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
A	68	カイヅカイブキ	4.5	30	1.0	―	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	69	カイヅカイブキ	6.0	76	3.0	―	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	―		●		A			
A	70	カイヅカイブキ	6.0	65 (H1.5m)	3.0	―	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.95	B			○				○		無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 階段脇に位置し、片枝が強く剪定されており、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 ※階段側は防音シートに覆われているため未確認 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
A	71	キンモクセイ	6.0	2本立	3.0	43.27 (H0.1m)	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.0	1.85	B		○		○					無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。		●		B			
A	72	サクラ	6.0	58	4.0	―	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		有	中	幹(H1.1m)に開口空洞 50×3×5/18あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
A	73	サクラ	7.0	46	5.0	―	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹(H1.0m)に開口空洞 70×1×5/15あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～0.4mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
A	74	サクラ	8.0	90	8.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				有	小	剪定樹形である。幹芯から縁石までの離隔距離0.6m。樹形維持、根鉢確保が可能である。		●		A			
A	75	サクラ	8.0	62	5.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 植栽帯(幅1.4m)内にある。樹形維持、根鉢確保が可能である。		●		A			
A	76	サクラ	8.5	74	5.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 植栽帯(幅1.4m)内にある。樹形維持、根鉢確保が可能である。		●		A			
A	77	サクラ	8.5	80	6.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				有	中	巻き根(中)あり。 植栽帯(幅1.4m)内にある。幹芯から縁石までの離隔距離0.45m。樹形維持、根鉢確保が可能である。		●		A			
A	78	サクラ	8.5	66	6.0	―	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹幹傾斜(小)あり。 隣木のカイヅカイブキと近接(1.5m)している。 植栽帯(幅1.4m)内にある。幹芯から縁石までの離隔距離0.35m。樹形維持、根鉢確保がかろうじて可能である。		●		A			
A	79	サクラ	9.5	128	8.0	―	2.0	1.5	2.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A			○				○		有	小	縁石持ち上げあり。 街灯、隣木のカイヅカイブキと近接している。 植栽帯(幅1.4m)のL字部分に位置する。幹芯から縁石までの離隔距離0.4m。露出根大きい。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	80	カイヅカイブキ	6.5	60 (H1.7)	2.5	―	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 仮設フェンスに近接しているため、適正根鉢確保困難。 階段脇に位置し、片枝が強く剪定されており、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 ※階段側は防音シートに覆われているため未確認 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
A	81	カイヅカイブキ	6.5	75	2.5	―	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	82	カイヅカイブキ	6.5	70	2.5	―	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	83	カイヅカイブキ	6.0	63	2.5	―	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	―		●		A			

資料表 2.2-1(6)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名	Aエリア:秩父宮ラグビー場	調査日	2023 年　5 月　25 日　～　2023 年　5 月　25 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考（洞口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)）	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 樹林の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
A	84	カイヅカイブキ	6.0	60	2.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹幹傾斜(小)、根元の揺らぎ(小)あり。 片側の枝が枯れており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
A	85	カイヅカイブキ	6.5	70	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		A			
A	86	カイヅカイブキ	7.0	73	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 仮設フェンス内に位置する。		●		A			
A	87	カイヅカイブキ	7.0	72	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 仮設フェンス内に位置する。		●		A			
A	88	カイヅカイブキ	7.0	75	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	89	カイヅカイブキ	7.0	77	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	90	カイヅカイブキ	7.0	91	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	91	カイヅカイブキ	7.0	82	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	92	カイヅカイブキ	7.0	86	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	93	カイヅカイブキ	7.0	74	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	樹幹傾斜あり。 仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	94	カイヅカイブキ	7.0	78	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	95	カイヅカイブキ	7.0	85	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	96	カイヅカイブキ	7.0	94	2.5	–	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	小	西側の枝葉がない。 生垣の西端に位置する。 根元から西側1mに街灯あり。 仮設フェンスに近接する。		●		A			
A	97	シラカシ	7.0	47	3.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	若木である。		●		B			
A	98	シラカシ	6.5	50	2.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	大	若木である。 隣木シラカシと相互被圧あり。		●		B			
A	99	シラカシ	6.5	36	2.5	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	1.0	2.05	B		○		○					無	中	若木である。 隣木シラカシと相互被圧あり。 相互被圧はあるが、若い樹で萌芽力が有り、移植後の樹形回復が期待できる。			●	B			
A	100	シラカシ	4.0	23	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	3.0	1.0	2.30	B		○		○					無	中	若木である。 被圧樹形である。 相互被圧はあるが、若い樹で萌芽力が有り、移植後の樹形回復が期待できる。			●	B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(7)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日								備　考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
エリア	樹木番号	結実	規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）														該当に●			ABCD
			樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m） 東西	葉張り（m） 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果				
【西側銀杏並木】 Bエリア：銀杏並木																																		
B	西1	実	26.0	280	10.4	12.7	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.53	A	イチョウ並木の最南端に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。 根元GLは歩道＋35cm。ロイヤルガーデンカフェのデッキに囲まれている。 本年の剪定後、不定芽から伸長した葉が小さく、葉色も薄い。	●			A
B	西2		31.0	282	10.4	11.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.64	A	2つのカフェの入口に位置。根元は緑色のシートに覆われている。 踏圧害あり。 枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西3		32.0	270	7.2	9.4	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.64	A	キハチガーデンデッキ内に位置。根元GLは歩道＋30cm。 根元は深植え状態。	●			A
B	西4	実	29.5	233	7.4	8.3	1.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.69	A	キハチガーデンデッキ内に位置。根元は深植え状態。 大枝 開口空洞(大) 複数あり。損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞(西側)(未芯達)あり。 樹冠全体に葉の縮れあり。特に高さ約10～20mに目立つ。	●			B
B	西5	実	30.5	274	8.8	10.2	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.79	B	枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西6		33.5	310	9.1	9.1	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.79	B	枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西7	実	31.5	233	9.4	10.1	2.0	2.5	1.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	2.00	B	スダジイと相互被圧あり。 樹冠全体に葉の縮れあり。特に高さ約10～20mに目立つ。	●			A
B	西8	実	32.0	230	9.2	9.1	2.0	2.5	1.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	2.00	B	スダジイと相互被圧あり。 樹冠全体に葉の縮れあり。特に高さ約10～20mに目立つ。	●			A
B	西9	実	32.0	235	8.3	8.1	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.13	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	2.06	B	スダジイと相互被圧あり。剪定により葉量がやや少ない。 枯枝(北西側) H:4.5m φ15cm L:2.5m。要切除。 樹冠全体に葉の縮れあり。特に高さ約10～20mに目立つ。	●			A
B	西10	実	30.0	226	10.1	9.9	2.0	2.5	1.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.95	B	2.00	B	ラグビー場方面との角地に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。 スダジイと相互被圧あり。 樹冠全体に葉の縮れあり。特に高さ約10～20mに目立つ。	●			A
B	西11	実	26.0	294	11.1	10.3	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.85	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:1.3m 80×10×13/60cm(未芯達)。		移植検討		A
B	西12	実	26.0	238	9.8	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B			移植検討		A
B	西13		26.5	243	8.7	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西14	実	25.0	269	10.2	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A	駐車場側(南側) 下枝に葉の褐変あり。		移植検討		A
B	西15	実	25.0	270	7.4	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90	B	樹冠の中部から上部に葉の褐変症状が複数見られる。 高さ15mより上部の葉に褐変が疎らに見られる。		移植検討		A

資料表 2.2-1(8)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			規格				Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日			2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日													
エリア	樹木番号	結実	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季樹査活力度評価
																																	該当に●			ABCD
B	西16		26.0	250	10.8	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90	B	高さ15mより上部の葉に褐変が疎らに見られる。		移植検討		A
B	西17		25.5	270	8.5	9.1	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	不定根誘導処置 幹 南側 H:0～6.0m、W:30cm。		移植検討		B
B	西18		25.5	256	9.7	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B			移植検討		A
B	西19		25.5	253	11.4	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西20		25.0	298	10.6	10.0	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.66	A	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～5.0m、W:50cm。 樹勢・樹形良好。		移植検討		A
B	西21		24.5	250	9.1	7.8	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～7.0m、W:45cm。		移植検討		B
B	西22	実	24.5	240	8.2	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.07	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.03	B	高さ10mより上部、特に20mより上部に黄葉が始まっている。		移植検討		A
B	西23		25.0	267	10.3	10.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A			移植検討		A
B	西24		25.0	228	8.1	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.07	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.90	B			移植検討		A
B	西25	実	26.0	219	10.0	8.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西26		25.5	213	8.5	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西27	実	26.0	203	9.4	9.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.77	B			移植検討		A
B	西28		25.0	270	10.8	10.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞H:0.5m 20×5×10/80cm(未芯達)、損傷被覆材発達。		移植検討		A
B	西29	実	31.5	270	10.6	10.1	3.0	3.5	1.5	3.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.69	C	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D	3.37	D	SHAKE SHACKテラス内に位置。枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理障害によるものと思われる。 高さ15mより上部が全て落葉。先端部の枯れかどうかは不明。 樹冠中央部まで全て落葉。残る葉は小さく、縮れ、褐変が多い。結実量少。	●			A
B	西30		30.5	266	10.2	10.9	2.5	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.32	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.0	2.5	2.0	1.0	2.28	B	2.35	B	SHAKE SHACKテラス内の角に位置。 枝の伸長が短く、葉が小さい。 大枝に胴吹きが多く、樹冠全体に葉の縮れあり。	●			A

資料表 2.2-1(9)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日	2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日										備　考	保存	移植	伐採	2019年春季観査活力度評価
			規　格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉									先端部(頂部)												該当に●			ABCD
エリア	樹木番号	結実	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果				
B	西31	実	29.0	261	9.9	10.9	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.13	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.23	B	2.19	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。	●			A
B	西32		30.5	247	10.8	10.7	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.13	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	1.95	B	2.06	B		●			A
B	西33		30.5	231	9.6	9.0	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	3.0	1.0	2.12	B	2.19	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。 一部の葉に縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理障害によるものと思われる。 西側、特に下枝に葉の黄変あり。 上部の葉は密度はあるものの、褐変症状が見られる。 下部に少し落葉が見られる。	●			A
B	西34		27.0	229	11.3	11.0	2.5	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	1.5	2.88	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	3.5	3.56	D	3.22	C	枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理障害によるものと思われる。 西側、葉の黄変多数、落葉あり、上部はほぼ褐変。東側の葉は緑色。 頂部はほぼ落葉。葉が小さい。 西側に落葉、葉の褐変多数。東側の葉に縮れあり。	●			A
B	西35	実	27.5	212	9.2	9.7	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.98	B	褐変症状は見られない。	●			A
B	西36		27.5	280	9.8	10.3	2.5	3.5	1.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	2.50	B	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D	3.27	D	枝の伸長が短く、葉が小さい。 樹冠全体に褐変症状あり。特に上部の葉に顕著に見られる。 生理障害によるものと思われる。 頂部約10m落葉。西側、下部にも落葉あり。 高さ約17mまで全て落葉。高さ10mより上部は葉が小さく、縮れ多数。	●			A
B	西37		27.0	248	8.9	10.0	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	2.03	B	東側、樹冠中央部1～2枝に葉の黄変あり。 樹冠全体の葉が小さく、大枝に胴吹きが多い。	●			A
B	西38		26.0	240	9.8	11.2	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	2.00	B	葉の黄変症状なし。 樹冠全体の葉が小さく、大枝に胴吹きが多い。	●			A
B	西39		27.0	211	8.2	8.0	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	2.00	B	葉の黄変症状なし。 樹冠全体の葉が小さく、大枝に胴吹きが多い。	●			A
B	西40	実	27.0	214	8.8	7.8	3.0	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.25	C	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D	3.61	D	枝の伸長が短く、葉が小さく、葉量が少ない。 ほぼ全葉に縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理障害によるものと思われる。 東側下部のみ緑の葉を残し、樹冠全体の葉が褐変。 並木内で最も樹勢が悪い。高さ10mより上部が全て落葉。結実多数。 残る葉は少なく、小さい。高さ5～8mに黄変、褐変が多い。	●			A
B	西41		29.5	262	9.8	10.8	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.0	2.23	B	2.24	B	西側樹冠中央部に葉の黄変・褐変症状が4～5枝程度あり。 高さ7mより上部全体の葉が小さく、縮れあり。	●			A
B	西42	実	27.0	250	8.9	8.3	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.0	2.12	B	2.19	B	葉の密度がやや疎、葉の萎れあり。 根元のヘデラにも葉の変色あり。	●			A
B	西43		28.5	259	9.4	9.5	2.5	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.25	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.45	D	3.32	D	樹冠中央部、南と西側に葉の褐変症状が多い。上部の葉は褐変が少ない。 全葉に縮れ、褐変あり。	●			A
B	西44	実	28.0	304	9.7	10.6	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.32	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.84	B	2.08	B	頂部に葉の縮れあり。	●			A

資料表 2.2-1(10)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日	2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日										備　考	保存	移植	伐採	2019年春季観査活力度評価
			規　格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉									先端部(頂部)												該当に●			
エリア	樹木番号	結実	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果					ABCD
B	西45		27.5	241	8.2	7.4	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.32	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.84	B	2.08	B		●			A
B	西46	実	28.0	250	10.1	9.3	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.32	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.84	B	2.08	B	西側に褐変あり。	●			A
B	西47		27.0	269	9.4	9.6	2.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.78	B	1.87	B	幹の上部が屈曲。	●			A
B	西48	実	26.5	242	9.0	10.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.78	B	1.85	B	イチョウ並木の最北端に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。	●			A
B	西49	実	25.0	255	9.7	10.4	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	イチョウ並木の最北端に位置。西49～78東京都管理。 幹 開口空洞H:0.9m 40×3×33/60cm(芯達)、損傷被覆材発達。	●			A
B	西50		27.5	248	9.4	11.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B		●			A
B	西51	実	25.0	182	9.3	9.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.95	B		●			B
B	西52		27.5	198	9.4	10.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.98	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.6m 15×13×10/60cm (未芯達)。	●			A
B	西53		26.5	194	8.5	8.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.98	B	幹 開口空洞 H:09m 80×17×10/50cm、損傷被覆材発達。 西側に隣り合う44より葉色が黄色。 黄葉が周囲のイチョウより早く、全葉が小さく、縮れあり。	●			A
B	西54		27.5	190	8.9	11.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A
B	西55		29.0	206	10.5	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A
B	西56	実	20.5	186	8.9	9.2	2.5	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.07	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.06	B	樹高がやや低く、幹の梢端が北側に屈曲。 大枝(車道側) 開口空洞 H:1.8m 120×17×3/15cm(未芯達)。	●			A
B	西57		28.5	252	10.1	10.1	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.00	B	大枝 開口空洞(車道側) H1.5m 30×20×30/40cm(芯達) 要切除。	●			A
B	西58		28.0	200	9.9	10.1	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.95	B	幹 開口空洞H:0.8m80×20×10/75cm(未芯達)、損傷被覆材発達。	●			A
B	西59	実	23.5	198	10.2	10.1	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.07	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.11	B	葉がやや小さく、葉色が薄い。 幹 開口空洞 H0.6m 100×10×7/45cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞 H:1.5m 20×15×20 (大枝剪定痕)同高さに他2箇所。	●			A
B	西60		25.0	182	9.4	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A

資料表 2.2-1(11)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			規格				Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日	2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日										備考	保存	移植	伐採	2019年春季観査活力度評価
					葉張り(m)		全体		先端部(頂部)以外の枝葉										先端部(頂部)														
エリア	樹木番号	結実	樹高(m)	幹周(cm)	東西	南北	樹形	樹勢	大枝の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果		該当に●			ABCD
B	西61		24.0	184	9.6	11.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A
B	西62	実	24.5	181	10.2	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A
B	西63		27.0	202	9.5	11.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.93	B		●			A
B	西64	実	29.0	226	10.1	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B		●			A
B	西65		25.5	222	9.5	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B		●			A
B	西66		28.5	225	10.4	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.90	B	下枝高がやや高い。	●			A
B	西67		26.5	187	9.7	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.90	B	下枝高がやや高い。	●			A
B	西68		28.5	221	8.7	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.72	A	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西69		29.0	247	10.5	11.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.82	B	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西70		28.5	213	10.5	11.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.58	A		●			A
B	西71	実	28.5	189	9.6	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	樹冠内中央部に葉の黄変症状あり。特に東側上部に黄変が多い。結実が多い。実がついている枝は落葉している。	●			A
B	西72		28.0	214	9.1	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.72	A		●			A
B	西73		27.5	208	9.3	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.72	A	葉の黄葉が始まっている。	●			A
B	西74		28.5	232	9.7	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.69	A	葉の黄葉が始まっている。	●			A
B	西75		27.0	213	10.5	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.69	A	葉の黄葉が始まっている。	●			A
B	西76		27.0	248	10.0	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.69	A	葉の黄葉が始まっている。	●			A

資料表 2.2-1(12)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日												
			規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉										先端部(頂部)																	
エリア	樹木番号	結実	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																	該当に●			ABCD
B	西77		26.5	229	7.9	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.66	A	葉の黄葉が始まっている。	●			A
B	西78		26.0	261	10.4	12.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.50	A	イチョウ並木の最南端に位置。西49～78東京都管理。 剪定のモデル樹。植栽帯幅3.25m。 葉の黄葉が始まっている。	●			A

資料表 2.2-1(13)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）															調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日								備　考	保存	移植	伐採	2019年冬季調査活力度評価
エリア	樹木番号	結実	規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉									先端部(頂部)																
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果		該当に●			ABCD
【東側銀杏並木】 Cエリア：銀杏並木東																																	
C	東1	実	27.5	237	10.3	10.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	**1.50**	A	イチョウ並木の最南端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東2		28.0	227	9.2	9.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	**1.50**	A		●			A
C	東3	実	29.5	267	10.4	10.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	**1.61**	A		●			A
C	東4	実	29.0	242	9.8	10.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	**1.61**	A		●			A
C	東5		29.0	248	10.0	9.5	1.5	1.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.64**	A	大枝付根 開口空洞(車道側) H:1.3m 75×15×5/15(68)cm。 幹 開口空洞(大枝付根) H:1.3m 20×10×15/50(230)cm。 大枝付根の開口空洞が幹にも空洞が拡がっているため要切除。	●			A
C	東6	実	29.0	231	9.0	9.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.56**	A		●			A
C	東7	実	30.0	200	8.3	9.3	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.61**	A	幹 開口空洞(大枝付根) H:2.0m 60×10×15/50(230)cm。	●			A
C	東8		28.0	227	9.5	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.56**	A		●			A
C	東9	実	28.0	214	7.7	9.1	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.61**	A	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.7m 30×15×15/60(230)cm。 大枝付根 開口空洞(歩道側) H:1.5m 60×10×3/15(63)cm。	●			A
C	東10	実	27.5	194	9.3	9.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.56**	A		●			A
C	東11		28.5	308	9.9	9.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.58**	A	大枝付根　開口空洞 H:1.5m 50×30×15/40cm(未芯達)。	●			A
C	東12	実	27.5	210	9.8	9.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.56**	A		●			A
C	東13	実	25.0	186	8.5	9.1	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.64**	A	樹高がやや低く、幹の梢端が屈曲。	●			A
C	東14	実	28.0	224	10.0	10.5	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.61**	A	大枝　開口空洞 H:2.0m 40×20×20/45cm(未芯達)。	●			A
C	東15	実	29.0	240	9.7	9.7	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	**1.58**	A	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.9m 30×20cm。	●			A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(14)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日								備　考	保存	移植	伐採	2019年春季観査活力度評価
エリア	樹木番号	結実	規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉										先端部(頂部)																	
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m)		樹形	樹勢	大枝の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果					
					東西	南北																											該当に●			ABCD
C	東16	実	29.0	229	9.3	9.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A		●			A
C	東17		29.0	217	9.6	10.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A		●			A
C	東18		28.0	195	8.0	8.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A		●			A
C	東19	実	28.5	247	9.3	10.0	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.61	A	幹 開口空洞 H:0.9m 150×25×20/90cm(未芯達)。	●			A
C	東20	実	27.0	195	8.3	10.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.58	A	大枝付根 開口空洞 H:2.0m 20×15×20/50cm(未芯達)。	●			A
C	東21		26.0	184	8.7	8.9	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.78	B	1.85	B	幹 開口空洞 H:0.4m 35×8×15/70cm(未芯達)、損傷被覆材発達。枝張りがやや小さい。	●			A
C	東22		28.0	217	9.1	9.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A		●			A
C	東23		28.0	190	8.2	10.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A		●			A
C	東24	実	27.0	183	9.0	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.69	A	樹冠下部の葉量がやや疎。	●			A
C	東25	実	27.5	211	8.8	8.8	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.72	A	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.5m 35×20cm。	●			A
C	東26	実	27.5	206	8.6	8.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.56	A		●			A
C	東27		28.0	231	8.6	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.50	A		●			A
C	東28	実	29.0	203	8.5	8.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.66	A		●			A
C	東29	実	28.0	272	9.1	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A		●			A
C	東30	実	28.0	200	8.7	7.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A		●			A
C	東31	実	29.0	227	7.5	7.9	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.69	A	幹 開口空洞 H:0.3m 50×15×15/85cm(未芯達)、損傷被覆材発達。	●			A

資料表 2.2-1(15)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名							Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日	2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日																
エリア	樹木番号	結実	規格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）																	
			樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐度	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備　考	保存	移植	伐採	2019年春季観査活力度評価
					東西	南北																										該当に●			ABCD
C	東32		27.5	288	10.4	11.1	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.74	A	幹の梢端が北側に屈曲。 幹開口空洞（大枝剪定痕） H:1.4m 45×25×10/80cm(未芯達)。	●			A
C	東33		28.0	256	8.7	8.7	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.72	A	大枝付根腐朽(車道側) H:1.5m φ40cm 60×20cm。 大枝開口空洞(南東側) H:1.5m 30×15×5/30cm。	●			A
C	東34		26.0	335	11.4	14.2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.63	A	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.56	A	1.58	A	イチョウ並木の最北端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東35		27.0	310	12.5	13.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A	イチョウ並木の最北端に位置。東35～68明治神宮管理。 梢端の0.5mのみ葉量が疎。 梢端部0.5mのみ落葉。	●			A
C	東36	実	28.0	225	9.7	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東37		29.5	246	9.2	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A		●			A
C	東38		30.0	301	10.2	10.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.77	B		●			A
C	東39	実	31.0	263	8.5	8.9	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.87	B	幹 開口空洞 H:0.2m 40×10×35/125cm(未芯達)、損傷被覆材発達。	●			A
C	東40	実	29.0	216	9.8	9.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東41		29.0	253	9.7	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東42		30.0	254	8.9	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東43		30.5	263	8.5	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東44		31.0	263	9.3	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
C	東45	実	29.0	229	8.2	7.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B	上部の着葉が疎ら。	●			A
C	東46	実	31.0	267	8.1	11.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B		●			A
C	東47		29.5	258	9.4	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B	高さ約10mより上部の樹冠全体に葉の萎れあり。	●			A

資料表 2.2-1(16)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			規格				Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日					2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日								備考				
							全体		先端部（頂部）以外の枝葉										先端部（頂部）																	
エリア	樹木番号	結実	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m) 東西	葉張り (m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果		保存	移植	伐採	2019年春季期査活力度評価
																																	該当に●			ABCD
C	東48		28.0	280	10.5	11.3	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.77	B		●			A
C	東49	実	31.5	257	9.7	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B		●			A
C	東50	実	32.0	266	12.0	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B		●			A
C	東51		31.0	234	9.8	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東52	実	33.0	234	9.2	10.4	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.98	B	大枝開口空洞(歩道側) H:1.6m 50×15×10/20cm(芯達)。 歩道上部に伸びる大枝の開口空洞が芯に達しているため要切除。	●			A
C	東53	実	28.5	199	7.3	6.7	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.98	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹 開口空洞 H:0.7m 140×20×15/80(未芯達)。	●			A
C	東54	実	31.5	237	8.2	10.4	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.98	B	大枝付根開口空洞(南側) H:1.6m 120×10×20/25cm(貫通)。 緑地内大枝開口空洞(貫通)は損傷被覆材の発達あり、要経過観察。 萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東55		30.5	233	9.0	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B		●			A
C	東56		31.5	237	7.8	8.7	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東57		31.5	255	9.7	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東58		32.0	240	7.5	8.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東59		32.0	222	9.8	9.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B		●			A
C	東60	実	33.5	234	9.6	10.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B		●			A
C	東61	実	32.5	235	9.2	9.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B		●			A
C	東62		34.0	246	10.2	10.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B		●			A
C	東63		31.0	257	10.6	10.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A

資料表 2.2-1(17)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）
調査日：2023 年 10 月 23 日 ～ 10 月 24 日

エリア	樹木番号	結実	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																	該当に●			ABCD
C	東64		30.0	237	9.5	9.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B		●			A
C	東65		31.0	242	9.4	9.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東66	実	32.0	246	10.0	10.4	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.63	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.72	A	根元 開口空洞 40×10×20/120cm。 萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東67	実	29.0	208	10.1	8.9	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.77	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東68	実	30.0	244	9.9	10.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.69	A	イチョウ並木の最南端に位置。東35～68明治神宮管理。 萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A

資料表 2.2-1(18)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日									保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）														該当に●			ABCD
エリア	樹木番号	樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備　考				
				東西	南北																													
【西側銀杏並木】 Bエリア：銀杏並木																																
B	西1	26.0	280	8.8	10.8	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	イチョウ並木の最南端に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。 根元GLは歩道＋35cm。ロイヤルガーデンカフェのデッキに囲まれている。今年の剪定後に伸長した胴吹き枝の葉が小さく、葉色も薄い。	●			A
B	西2	30.5	284	9.9	10.1	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	2つのカフェの入口に位置。根元は緑色のシートに覆われている。 踏圧害あり。 枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西3	31.5	270	6.5	8.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	キハチガーデンデッキ内に位置。根元GLは歩道＋30cm。 根元は深植え状態。	●			A
B	西4	29.5	233	6.8	7.4	2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	キハチガーデンデッキ内に位置。根元は深植え状態。 大枝 開口空洞(大) 複数あり。損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞(西側)(未芯達)あり。	●			B
B	西5	30.0	274	8.6	10.3	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西6	33.0	309	9.1	9.0	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	枝先端部に葉の萎れあり。	●			A
B	西7	31.0	233	9.0	9.8	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.03	B	スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西8	32.0	230	9.7	8.4	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.03	B	スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西9	32.0	237	7.7	7.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.07	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.08	B	スダジイと相互被圧あり。 枯枝(北西側) H:4.5m φ15cm L:2.5m。要切除 剪定により葉量がやや少ない。	●			A
B	西10	30.0	226	9.7	10.2	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.03	B	ラグビー場方面との角地に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。 スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西11	26.0	290	11.1	9.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.85	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:1.3m 80×10×13/60cm(未芯達)。		移植検討		A
B	西12	26.0	235	8.9	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90	B			移植検討		A
B	西13	26.5	243	9.0	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90	B			移植検討		A
B	西14	26.0	263	10.2	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.93	B	駐車場側(南側) 下枝に葉の褐変あり		移植検討		A
B	西15	25.5	268	8.8	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.90	B	樹冠の中部から上部に葉の褐変症状が複数見られる		移植検討		A

資料表 2.2-1(19)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		規格				Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日				2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日													
				葉張り (m)		全体		先端部(頂部)以外の枝葉										先端部(頂部)																	
エリア	樹木番号	樹高 (m)	幹周 (cm)	東西	南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																該当に●			ABCD
B	西16	25.5	249	10.0	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.82	B			移植検討		A
B	西17	26.5	270	8.4	8.7	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	不定根誘導処置 幹 南側 H:0～6.0m、W:30cm。		移植検討		B
B	西18	25.5	255	9.6	11.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B			移植検討		A
B	西19	26.0	252	11.1	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西20	25.0	296	9.9	10.0	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.69	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.66	A	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～5.0m、W:50cm。 樹勢・樹形良好。		移植検討		A
B	西21	24.5	249	8.9	7.8	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.79	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～7.0m、W:45cm。		移植検討		B
B	西22	24.5	235	8.2	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.77	B			移植検討		A
B	西23	24.5	266	10.4	11.4	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.61	A			移植検討		A
B	西24	25.5	229	8.0	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西25	26.0	217	9.9	7.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西26	26.0	213	8.6	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西27	26.5	203	8.9	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A			移植検討		A
B	西28	26.0	272	11.3	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.77	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:0.5m 20×5×10/80cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。		移植検討		A
B	西29	32.0	270	10.7	10.4	3.0	3.5	1.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.82	C	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D	3.43	D	SHAKE SHACKテラス内に位置。枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に葉緑から肩状に委凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。 高さ15mより上部が全て落葉。先端部の枯れかどうかは不明。	●			A
B	西30	30.0	267	10.5	10.4	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	SHAKE SHACKテラス内の角に位置。 枝の伸長が短く、葉が小さい。	●			A
B	西31	29.0	263	9.7	10.9	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。	●			A

資料表 2.2-1(20)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日														
エリア	樹木番号	規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉										先端部(頂部)												総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m)		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果							該当に●			ABCD
				東西	南北																															
B	西32	30.5	251	11.0	10.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.94	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.11	B		●			A
B	西33	29.5	232	10.6	9.1	2.0	3.0	1.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	2.50	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	2.45	B	2.48	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。 一部の葉に葉縁から扁状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。 西側、特に下枝に葉の黄変あり。	●			A
B	西34	27.0	229	11.7	9.8	2.5	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	1.5	2.88	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	4.0	3.5	3.50	D	3.19	C	枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に葉縁から扁状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。 西側、葉の黄変多数、落葉あり、上部はほぼ褐変。東側の葉は緑色。	●			A
B	西35	27.5	213	11.8	9.0	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.16	B	褐変症状は見られない。	●			A
B	西36	27.5	276	9.9	10.4	2.5	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	2.5	1.5	2.82	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	3.45	D	3.14	C	枝の伸長が短く、葉が小さい。 樹冠全体と特に上部の葉に褐変症状が顕著に見られる。 生理的障害によるものと思われる。 上部約10m落葉。西側、下部にも落葉あり。	●			A
B	西37	26.5	248	10.2	9.8	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.95	B	2.14	B	東側、樹冠中央部1～2枝に葉の黄変あり。	●			A
B	西38	26.0	240	10.5	10.6	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.03	B	葉の黄変症状なし。	●			A
B	西39	26.5	210	9.4	8.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.03	B	葉の黄変症状なし。	●			A
B	西40	27.0	216	9.7	7.9	3.0	3.5	1.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	3.13	C	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	3.45	D	3.29	D	枝の伸長が短く、葉が小さく、葉量が少ない。 ほぼ全葉に葉縁から扁状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。 東側下部のみ緑の葉を残し、樹冠全体の葉が褐変。	●			A
B	西41	29.0	263	10.3	9.9	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.23	B	2.27	B	西側樹冠中央部に葉の黄変・褐変症状が4～5枝程度あり。	●			A
B	西42	27.0	251	9.4	8.3	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	葉の密度がやや疎、葉の萎れあり。 根元のヘデラにも葉の変色あり。	●			A
B	西43	28.5	260	9.6	8.8	2.0	3.5	1.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.63	C	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.5	3.0	2.0	2.56	C	2.61	C	樹冠の中央部、南と西側に葉の褐変症状が多い。 上部の葉は緑が多い。	●			A
B	西44	27.5	304	9.8	10.1	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西45	27.5	243	8.3	7.7	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.14	B		●			A
B	西46	27.5	251	9.8	9.4	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.14	B		●			A
B	西47	27.0	267	9.3	9.3	2.5	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.16	B	幹の上部が屈曲。	●			A

資料表 2.2-1(21)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日

エリア	樹木番号	規格 樹高 (m)	規格 幹周 (cm)	規格 葉張り (m) 東西	規格 葉張り (m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・腐	先端部(頂部)以外の枝葉 梢端の枯損	先端部(頂部)以外の枝葉 枝の伸長量	先端部(頂部)以外の枝葉 枝葉の密度	先端部(頂部)以外の枝葉 緑量	先端部(頂部)以外の枝葉 葉色	先端部(頂部)以外の枝葉 葉の大きさ	先端部(頂部)以外の枝葉 葉形	先端部(頂部)以外の枝葉 平均評点	先端部(頂部)以外の枝葉 評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	先端部(頂部) 枝の伸長量	先端部(頂部) 枝葉の密度	先端部(頂部) 緑量	先端部(頂部) 葉色	先端部(頂部) 葉の大きさ	先端部(頂部) 葉形	先端部(頂部) 褐変	先端部(頂部) 落葉	先端部(頂部) 平均評点	先端部(頂部) 評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																															該当に●				ABCD
B	西48	26.0	243	10.0	10.2	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	2.11	B	イチョウ並木の最北端に位置。西1～10・29～48明治神宮管理。	●			A
B	西49	25.0	253	10.3	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	イチョウ並木の最北端に位置。西49～78東京都管理。 幹 開口空洞 H:0.9m 40×3×33/60cm(芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
B	西50	27.5	247	9.3	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西51	25.0	182	9.4	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	1.98	B		●			B
B	西52	27.5	198	9.6	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.00	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.6m 15×13×10/60cm (未芯達)	●			A
B	西53	26.5	193	8.4	9.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.88	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.00	B	幹 開口空洞 H:09m 80×17×10/50cm、損傷被覆材が発達。 西側に隣り合う44より葉色が黄色。	●			A
B	西54	27.0	186	8.9	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	1.98	B		●			A
B	西55	29.0	206	10.3	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	1.98	B		●			A
B	西56	20.0	187	8.2	9.4	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.98	B	樹高がやや低く、幹の梢端が北側に屈曲。 大枝(車道側) 開口空洞 H:1.8m 120×17×3/15cm(未芯達)	●			A
B	西57	28.5	247	8.9	9.8	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	大枝 開口空洞(車道側) H1.5m 30×20×30/40cm(芯達) 要切除	●			A
B	西58	27.5	201	9.3	11.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	幹 開口空洞 H:0.8m 80×20×10/75cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
B	西59	27.5	194	9.9	10.2	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	葉がやや小さく、葉色が薄い。 幹 開口空洞 H0.6m 100×10×7/45cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞 H:1.5m 20×15×20 (大枝剪定痕)同高さに他 2箇所	●			A
B	西60	25.0	182	8.4	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西61	23.5	183	9.7	10.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西62	24.5	181	10.1	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西63	27.0	202	9.3	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A

資料表 2.2-1(22)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD
																														該当に●			
B	西64	28.5	227	9.0	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B		●			A
B	西65	26.0	222	9.2	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B		●			A
B	西66	28.5	224	10.7	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	1.95	B		●			A
B	西67	27.0	188	9.1	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.03	B	下枝高がやや高い。	●			A
B	西68	29.0	220	9.2	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西69	28.5	247	10.9	11.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西70	28.0	211	10.0	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B		●			A
B	西71	29.0	188	9.0	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.95	B	樹冠内中央部に葉の黄変症状あり。特に東側上部に黄変が多い。	●			A
B	西72	28.0	214	8.9	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B		●			A
B	西73	28.0	207	9.1	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B		●			A
B	西74	28.0	233	10.0	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
B	西75	28.0	213	10.6	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.84	B	1.82	B		●			A
B	西76	27.0	248	11.0	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.67	A	1.74	A		●			A
B	西77	26.0	227	8.3	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.50	A	1.66	A		●			A
B	西78	26.0	260	10.6	12.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A	1.50	A	イチョウ並木の最南端に位置。西49～78東京都管理。 剪定のモデル樹。植栽帯幅3.25m。	●			A

資料表 2.2-1(23)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日					2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日												
エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	大枝幹の欠損・傷	先端部(頂部)以外の枝葉 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																該当に●			ABCD
【東側銀杏並木】 Cエリア：銀杏並木東																																			
C	東1	27.5	236	9.7	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B	イチョウ並木の最南端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東2	28.0	227	9.3	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東3	29.0	269	10.6	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東4	29.0	233	10.0	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東5	29.0	249	9.6	9.5	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.85	B	大枝付根 開口空洞(車道側) H:1.3m 75×15×5/15(68)cm 幹 開口空洞(大枝付根) H:1.3m 20×10×15/50(230)cm 大枝付根の開口空洞が幹にも空洞が拡がっているため要切除	●			A
C	東6	28.0	229	9.3	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東7	28.0	200	9.1	9.6	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹 開口空洞(大枝付根) H:2.0m 60×10×15/50(230)cm	●			A
C	東8	28.0	226	8.6	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東9	28.0	213	8.7	8.9	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.7m 30×15×15/60(230)cm 大枝付根 開口空洞(歩道側) H:1.5m 60×10×3/15(63)cm	●			A
C	東10	27.5	195	9.6	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東11	28.0	304	10.2	9.9	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	大枝付根　開口空洞 H:1.5m 50×30×15/40cm(未芯達)。	●			A
C	東12	27.5	206	9.2	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東13	25.0	186	8.9	9.2	3.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	樹高がやや低く、幹の梢端が屈曲。	●			A
C	東14	28.5	224	11.0	10.4	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	大枝　開口空洞 H:2.0m 40×20×20/45cm(未芯達)。	●			A
C	東15	28.5	239	10.9	9.2	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.9m 30×20cm。	●			A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(24)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日										保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）											総合評点	総合評価結果	備　考	該当に●			ABCD
エリア	樹木番号	樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果							
				東西	南北																													
C	東16	29.0	229	10.4	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東17	29.0	216	9.5	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.85	B		●			A
C	東18	28.0	195	9.0	8.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東19	28.0	247	8.7	9.9	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹 開口空洞 H:0.9m 150×25×20/90cm(未芯達)。	●			A
C	東20	26.0	195	8.6	11.4	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	大枝付根 開口空洞 H:2.0m 20×15×20/50cm(未芯達)。	●			A
C	東21	26.0	183	8.5	9.1	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 開口空洞 H:0.4m 35×8×15/70cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
C	東22	28.0	217	9.2	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東23	27.5	190	8.5	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東24	27.0	182	9.6	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東25	27.5	210	8.9	8.7	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.5m 35×20cm。	●			A
C	東26	27.5	205	9.7	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東27	28.0	230	9.1	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東28	28.5	203	8.7	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東29	28.0	271	9.3	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東30	28.0	199	8.9	7.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東31	29.0	227	8.8	8.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 開口空洞 H:0.3m 50×15×15/85cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A

資料表 2.2-1(25)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・腐	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																該当に●			ABCD
C	東32	27.5	288	10.0	11.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹開口空洞（大枝剪定痕）H:1.4m 45×25×10/80cm(未芯達)。	●			A
C	東33	28.0	252	6.9	9.2	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	大枝付根腐朽(車道側) H:1.5m φ40cm 60×20cm。 大枝開口空洞(南東側) H:1.5m 30×15×5/30cm。	●			A
C	東34	25.5	333	12.0	13.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.79	B	イチョウ並木の最北端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東35	27.5	309	12.0	12.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.72	A	イチョウ並木の最北端に位置。東35～68明治神宮管理。 梢端の0.5mのみ葉量が疎。	●			A
C	東36	28.0	225	9.8	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東37	29.0	246	8.8	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東38	30.0	300	10.2	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東39	30.0	263	9.3	9.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	幹 開口空洞 H:0.2m 40×10×35/125cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
C	東40	29.0	216	9.2	8.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東41	29.0	250	9.2	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東42	30.5	254	9.6	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東43	30.5	261	7.8	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東44	31.0	262	9.0	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東45	29.0	228	7.8	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東46	31.0	267	8.0	9.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東47	29.5	259	9.6	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B	葉の萎れあり。	●			A

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(26)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日									保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉									先端部(頂部)											総合評点	総合評価結果	備考	該当に●			ABCD
エリア	樹木番号	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果						
C	東48	30.5	283	10.4	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東49	31.5	256	9.3	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東50	32.0	266	10.9	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B		●			A
C	東51	32.0	233	8.5	8.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東52	32.0	233	8.0	10.4	2.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.13	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.08	B	大枝開口空洞(歩道側) H:1.6m 50×15×10/20cm(芯達)。 歩道上部に伸びる大枝の開口空洞が芯に達しているため要切除	●			A
C	東53	28.5	200	7.1	7.1	2.5	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.07	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.08	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹 開口空洞 H:0.7m　140×20×15/80(未芯達)。	●			A
C	東54	31.5	237	8.2	9.8	2.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.13	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.08	B	大枝付根開口空洞(南側) H:1.6m 120×10×20/25cm(貫通)。 緑地内大枝開口空洞(貫通)は損傷被覆材の発達あり、要経過観察。 萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東55	30.0	232	8.6	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東56	31.0	237	8.0	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東57	31.5	254	9.5	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東58	31.5	238	7.5	8.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東59	32.0	224	9.9	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東60	33.5	233	9.8	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東61	32.5	233	9.6	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東62	34.0	246	10.3	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東63	31.0	253	10.1	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.57	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.85	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(27)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名		規格				全体		Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）									調査日	2023 年 7 月 26 日 ～ 7 月 27 日										保存	移植	伐採	2019年巻季調査活力度評価
								先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）														
エリア	樹木番号	樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備　考	該当に●			ABCD
				東西	南北																													
C	東64	30.0	238	8.6	9.6	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.03	B		●			A
C	東65	31.0	240	10.4	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東66	32.0	247	9.4	9.3	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	根元 開口空洞 40×10×20/120cm。 萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東67	29.0	207	9.2	8.7	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。	●			A
C	東68	30.0	243	9.3	9.7	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	萌芽枝が伸長して枝葉量が増加。 イチョウ並木の最南端に位置。東35～68明治神宮管理。	●			A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(28)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日								備　考	保存	移植	伐採	2019年冬季調査活力度評価
エリア	樹木番号	規　格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉									先端部(頂部)																
		樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m)		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果		該当に●			ABCD
				東西	南北																											
【西側銀杏並木】 Bエリア：銀杏並木																																
B	西1	26.0	280	8.8	10.8	2.0	2.5	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.07	B	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.95	B	2.03	B	イチョウ並木の最南端に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。 根元GLは歩道＋35cm。ロイヤルガーデンカフェのデッキに囲まれている。今年の剪定後に伸長した胴吹き枝の葉が小さく、葉色も薄い。	●			A
B	西2	30.5	284	9.9	10.1	2.0	2.5	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.07	B	2.5	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.12	B	2.11	B	2つのカフェの入口に位置。根元は緑色のシートに覆われている。 踏圧害あり。	●			A
B	西3	31.5	270	6.5	8.6	2.0	2.5	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.07	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.19	B	キハチガーデンデッキ内に位置。根元GLは歩道＋30cm。 根元は深植え状態。	●			A
B	西4	29.5	233	6.8	7.4	2.0	2.5	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.13	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.22	B	キハチガーデンデッキ内に位置。根元は深植え状態。 大枝 開口空洞(大) 複数あり。損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞(西側)(未芯達)あり。	●			B
B	西5	30.0	274	8.6	10.3	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.16	B		●			A
B	西6	33.0	309	9.1	9.0	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.16	B		●			A
B	西7	31.0	233	9.0	9.8	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.16	B	スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西8	32.0	230	9.7	8.4	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.16	B	スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西9	32.0	237	7.7	7.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.13	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.22	B	スダジイと相互被圧あり。 枯枝(北西側) H:4.5m φ15cm L:2.5m。要切除	●			A
B	西10	30.0	226	9.7	10.2	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B	2.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.28	B	2.16	B	ラグビー場方面との角地に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。 スダジイと相互被圧あり。	●			A
B	西11	26.0	290	11.1	9.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.95	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。 幹 開口空洞 H:1.3m 80×10×13/60cm(未芯達)。		移植検討		A
B	西12	26.0	235	8.9	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A
B	西13	26.5	243	9.0	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A
B	西14	26.0	263	10.2	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A
B	西15	25.5	268	8.6	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(29) 【変更後】毎木調査結果表

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存(該当に●)	移植(該当に●)	伐採(該当に●)	2019年春季調査活力度評価 ABCD
B	西16	25.5	249	10.0	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A
B	西17	26.5	270	8.4	8.7	2.0	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.07	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.98	B	不定根誘導処置 幹 南側 H:0～6.0m、W:30cm。		移植検討		B
B	西18	25.5	255	9.6	11.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B			移植検討		A
B	西19	26.0	252	11.1	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西20	25.0	296	9.9	10.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～5.0m、W:50cm。		移植検討		A
B	西21	24.5	249	8.9	7.8	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	不定根誘導処置 幹 北側 H:0～7.0m、W:45cm。		移植検討		B
B	西22	24.5	235	8.2	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西23	24.5	266	10.4	11.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西24	25.5	229	8.0	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西25	26.0	217	9.9	7.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西26	26.0	213	8.6	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西27	26.5	203	8.9	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B			移植検討		A
B	西28	26.0	272	11.3	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	西11～28 港区管理 。植栽帯幅1.6m(内径)。幹 開口空洞 H:0.5m 20×5×10/80cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。		移植検討		A
B	西29	32.0	270	10.7	10.4	2.0	3.5	1.5	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.57	C	3.0	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	1.5	3.0	1.0	2.78	C	2.69	C	SHAKE SHACKテラス内に位置。枝の伸長が短く、葉が小さい。多くの葉に葉縁から扇状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。	●			A
B	西30	30.0	267	10.5	10.4	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	SHAKE SHACKテラス内の角に位置。枝の伸長が短く、葉が小さい。	●			A
B	西31	29.0	263	9.7	10.9	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。	●			A

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日

資料表 2.2-1(30)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日	2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日															保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉									先端部(頂部)																該当に●			ABCD
エリア	樹木番号	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	枝幹の欠損・傾	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備　考				
B	西32	30.5	251	11.0	10.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西33	29.5	232	10.6	9.1	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.0	2.28	B	2.27	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。 一部の葉に葉縁から扁状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。	●			A
B	西34	27.0	229	11.7	9.8	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.0	2.28	B	2.27	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。 多くの葉に葉縁から扁状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。	●			A
B	西35	27.5	213	11.8	9.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西36	27.5	276	9.9	10.4	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	3.0	1.0	2.39	B	2.32	B	枝の伸長が短く、葉が小さい。 樹冠全体と特に上部の葉に褐変症状が顕著に見られる。 生理的障害によるものと思われる。	●			A
B	西37	26.5	248	10.2	9.8	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西38	26.0	240	10.5	10.6	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西39	26.5	210	9.4	8.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西40	27.0	216	9.7	7.9	2.0	3.5	1.5	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.57	C	3.0	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	1.5	3.0	1.0	2.78	C	2.69	C	枝の伸長が短く、葉が小さく、葉量が少ない。 ほぼ全葉に葉縁から扁状に萎凋、褐変症状あり。生理的障害によるものと思われる。	●			A
B	西41	29.0	263	10.3	9.9	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西42	27.0	251	9.4	8.3	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西43	28.5	260	9.6	8.8	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西44	27.5	304	9.8	10.1	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西45	27.5	243	8.3	7.7	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西46	27.5	251	9.8	9.4	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B		●			A
B	西47	27.0	267	9.3	9.3	2.5	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.24	B	幹の上部が屈曲。	●			A

資料表 2.2-1(31)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日														
エリア	樹木番号	規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉									先端部(頂部)																				
		樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m)		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備　考	保存	移植	伐採	2019年春季観査活力度評価
				東西	南北																										該当に●			ABCD
B	西48	26.0	243	10.0	10.2	2.0	3.0	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.19	B	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	2.17	B	2.22	B	イチョウ並木の最北端に位置。西1～10･29～48明治神宮管理。	●			A
B	西49	25.0	253	10.3	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	イチョウ並木の最北端に位置。西49～78東京都管理。 幹 開口空洞 H:0.9m　40×3×33/60cm(芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
B	西50	27.5	247	9.3	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
B	西51	25.0	182	9.4	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			B
B	西52	27.5	198	9.6	10.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.6m 15×13×10/60cm (未芯達)	●			A
B	西53	26.5	193	8.4	9.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	幹 開口空洞 H:09m 80×17×10/50cm、損傷被覆材が発達。	●			A
B	西54	27.0	186	8.9	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西55	29.0	206	10.3	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西56	20.0	187	8.2	9.4	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.90	B	樹高がやや低く、幹の梢端が北側に屈曲。 大枝(車道側) 開口空洞 H:1.8m 120×17×3/15cm(未芯達)	●			A
B	西57	28.5	247	8.9	9.8	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B	大枝 開口空洞(車道側) H1.5m 30×20×30/40cm(芯達) 要切除	●			A
B	西58	27.5	201	9.3	11.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	幹 開口空洞 H:0.8m 80×20×10/75cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
B	西59	27.5	194	9.9	10.2	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.93	B	葉がやや小さく、葉色が薄い。 幹 開口空洞 H0.6m 100×10×7/45cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。 幹 開口空洞 H:1.5m 20×15×20 (大枝剪定痕)同高さに他 2箇所	●			A
B	西60	25.0	182	8.4	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西61	23.5	183	9.7	10.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西62	24.5	181	10.1	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西63	27.0	202	9.3	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(32)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日									保存	移植	伐採	2019年春季別衰活力度評価
		規　格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉									先端部(頂部)												総合評点	総合評価結果	備　考	該当に●			ABCD
エリア	樹木番号	樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傾	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果						
B	西64	28.5	227	9.0	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西65	26.0	222	9.2	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西66	28.5	224	10.7	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西67	27.0	188	9.1	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西68	29.0	220	9.2	10.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.00	B	1.90	B	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西69	28.5	247	10.9	11.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B	ラグビー場方面に曲がる角地に位置。	●			A
B	西70	28.0	211	10.0	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西71	29.0	188	9.0	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西72	28.0	214	8.9	10.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西73	28.0	207	9.1	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
B	西74	28.0	233	10.0	11.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西75	28.0	213	10.6	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西76	27.0	248	11.0	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西77	26.0	227	8.3	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
B	西78	26.0	260	10.6	12.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B	イチョウ並木の最南端に位置。西49～78東京都管理。 剪定のモデル樹。植栽帯幅3.25m。	●			A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(33)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日									保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）												総合評価	総合評価結果	備　考	該当に●			ABCD
エリア	樹木番号	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張り (m) 東西	葉張り (m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・偏	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果							
【東側銀杏並木】 Cエリア：銀杏並木東																																	
C	東1	27.5	236	9.7	10.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B	イチョウ並木の最南端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東2	28.0	227	9.3	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東3	29.0	269	10.6	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東4	29.0	233	10.0	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東5	29.0	249	9.6	9.5	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.85	B	大枝付根 開口空洞(車道側) H:1.3m 75×15×5/15(68)cm 幹 開口空洞(大枝付根) H:1.3m 20×10×15/50(230)cm 大枝付根の開口空洞が幹にも空洞が拡がっているため要切除	●			A
C	東6	28.0	229	9.3	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東7	28.0	200	9.1	9.6	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹 開口空洞(大枝付根) H:2.0m 60×10×15/50(230)cm	●			A
C	東8	28.0	226	8.6	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東9	28.0	213	8.7	8.9	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹 開口空洞(大枝剪定痕) H:1.7m 30×15×15/60(230)cm 大枝付根 開口空洞(歩道側) H:1.5m 60×10×3/15(63)cm	●			A
C	東10	27.5	195	9.6	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東11	28.0	304	10.2	9.9	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	大枝付根　開口空洞 H:1.5m 50×30×15/40cm(未芯達)。	●			A
C	東12	27.5	206	9.2	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東13	25.0	186	8.9	9.2	3.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	樹高がやや低く、幹の梢端が屈曲。	●			A
C	東14	28.5	224	11.0	10.4	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	大枝　開口空洞 H:2.0m 40×20×20/45cm(未芯達)。	●			A
C	東15	28.5	239	10.9	9.2	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.9m 30×20cm。	●			A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(34)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）												調査日				2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日														
エリア	樹木番号	規格				全体		先端部(頂部)以外の枝葉										先端部(頂部)											総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		樹高(m)	幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果				該当に●			ABCD
C	東16	29.0	229	10.4	9.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東17	29.0	216	9.5	10.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東18	28.0	195	9.0	8.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東19	28.0	247	8.7	9.9	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹 開口空洞 H:0.9m 150×25×20/90cm(未芯達)。	●			A
C	東20	26.0	195	8.6	11.4	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	大枝付根 開口空洞 H:2.0m 20×15×20/50cm(未芯達)。	●			A
C	東21	26.0	183	8.5	9.1	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 開口空洞 H:0.4m 35×8×15/70cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
C	東22	28.0	217	9.2	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東23	27.5	190	8.5	10.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東24	27.0	182	9.6	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東25	27.5	210	8.9	8.7	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 樹皮欠損(大枝剪定痕) H:1.5m 35×20cm。	●			A
C	東26	27.5	205	9.7	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東27	28.0	230	9.1	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東28	28.5	203	8.7	9.1	2.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B		●			A
C	東29	28.0	271	9.3	10.0	2.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B		●			A
C	東30	28.0	199	8.9	7.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.77	B		●			A
C	東31	29.0	227	8.8	8.6	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.79	B	幹 開口空洞 H:0.3m 50×15×15/85cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(35)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日									保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
		規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）											総合評点	総合評価結果	備　考				
エリア	樹木番号	樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傾	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果					該当に●			ABCD
				東西	南北																													
C	東32	27.5	288	10.0	11.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹開口空洞（大枝剪定痕） H:1.4m 45×25×10/80cm(未芯達)。	●			A
C	東33	28.0	252	6.9	9.2	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.82	B	大枝付根腐朽(車道側) H:1.5m φ40cm 60×20cm。 大枝開口空洞(南東側) H:1.5m 30×15×5/30cm。	●			A
C	東34	25.5	333	12.0	13.1	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.73	A	1.72	A	イチョウ並木の最北端に位置。東1～34東京都管理。	●			A
C	東35	27.5	309	12.0	12.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B	イチョウ並木の最北端に位置。東35～68明治神宮管理。	●			A
C	東36	28.0	225	9.8	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東37	29.0	246	8.8	9.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東38	30.0	300	10.2	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.85	B		●			A
C	東39	30.0	263	9.3	9.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.82	B	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.89	B	1.87	B	幹 開口空洞 H:0.2m 40×10×35/125cm(未芯達)、損傷被覆材が発達。	●			A
C	東40	29.0	216	9.2	8.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東41	29.0	250	9.2	8.7	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東42	30.5	254	9.6	10.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東43	30.5	261	7.8	9.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東44	31.0	262	9.0	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東45	29.0	228	7.8	8.4	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東46	31.0	267	8.0	9.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東47	29.5	259	9.6	9.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(36)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）　調査日：2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日

エリア	樹木番号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	葉張り(m) 東西	葉張り(m) 南北	全体 樹形	全体 樹勢	先端部(頂部)以外の枝葉 大枝幹の欠損・傷	梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	先端部(頂部) 梢端の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
																																該当に●			ABCD
C	東48	30.5	283	10.4	10.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東49	31.5	256	9.3	8.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東50	32.0	266	10.9	9.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東51	32.0	233	8.5	8.2	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東52	32.0	233	8.0	10.4	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	大枝開口空洞(歩道側) H:1.6m 50×15×10/20cm(芯達)。 歩道上部に伸びる大枝の開口空洞が芯に達しているため要切除	●			A
C	東53	28.5	200	7.1	7.1	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.88	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	幹の梢端が北側に屈曲。 幹 開口空洞 H:0.7m 140×20×15/80(未芯達)。	●			A
C	東54	31.5	237	8.2	9.8	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	2.00	B	大枝付根開口空洞(南側) H:1.6m 120×10×20/25cm(貫通)。 緑地内大枝開口空洞(貫通)は損傷被覆材の発達あり、要経過観察。	●			A
C	東55	30.0	232	8.6	8.9	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東56	31.0	237	8.0	8.8	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.93	B		●			A
C	東57	31.5	254	9.5	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.00	B		●			A
C	東58	31.5	238	7.5	8.1	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.00	B		●			A
C	東59	32.0	224	9.9	9.3	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.00	B		●			A
C	東60	33.5	233	9.8	9.6	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.00	B		●			A
C	東61	32.5	233	9.6	9.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.11	B		●			A
C	東62	34.0	246	10.3	10.1	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.11	B		●			A
C	東63	31.0	253	10.1	10.1	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.11	B		●			A

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(37)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名						Bエリア：銀杏並木　Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木範囲）											調査日					2023 年 5 月 26 日 ～ 6 月 1 日														
エリア	樹木番号	規　格				全体		先端部（頂部）以外の枝葉									先端部（頂部）																				
		樹高（m）	幹周（cm）	葉張り（m）		樹形	樹勢	大枝の欠損・傷	枯損の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	平均評点	評価結果	枯損の枯損	枝の伸長量	枝葉の密度	緑量	葉色	葉の大きさ	葉形	褐変	落葉	平均評点	評価結果	総合評点	総合評価結果	備　考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
				東西	南北																										該当に●			ABCD
C	東64	30.0	238	8.6	9.6	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.11	B		●			A
C	東65	31.0	240	10.4	8.9	2.0	2.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.94	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.11	B		●			A
C	東66	32.0	247	9.4	9.3	2.0	2.5	2.0	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B	2.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.23	B	2.14	B	根元 開口空洞 40×10×20/120cm。	●			A
C	東67	29.0	207	9.2	8.7	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B		●			A
C	東68	30.0	243	9.3	9.7	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	2.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.06	B	1.95	B	イチョウ並木の最南端に位置。東35～68明治神宮管理。	●			A

資料表 2.2-1(38)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形 (1～4評価)	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形 (1～4評価)	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 (ABCD)	保存の必要性 高 (該当に○)	中	低	移植 可 (該当に○)	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物 (有無)	片枝・被圧 (大中小無)	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存 (該当に●)	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 (ABCD)	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
C	69	マテバシイ	8.0	7本立	8.0	83,80,69,68,58,58,56	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.0	1.80	B		○					○		有	小	石垣の上に位置し、適正な根鉢確保困難。	●			B			
C	70	マテバシイ	8.5	155	8.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	小	根元・幹に開口空洞が多数あり。 幹に打診音異常 H1.0～2.5mあり。 大枝に開口空洞30×18(80)×10/22あり。 枝にカミキリムシ脱出孔が、複数あり。 石垣の上に位置する。	●			B			
C	71	マテバシイ	7.0	3本立	8.0	65,60,45	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	大	根元に樹皮欠損・腐朽(大枝切除痕)あり。 幹(H2.5m)に開口空洞15×10(63)×15/25(芯達)あり。	●			B			
C	72	ヤマモモ	8.0	91	4.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A	○			○					有	小	－	●			B			
C	73	ヤマモモ	8.0	91	4.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A	○			○					有	小	－	●			B			
C	74	ヤマモモ	8.0	96	4.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A	○			○					有	小	－	●			B			
C	75	ヤマモモ	8.0	110	4.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○			○					有	小	－	●			B			
C	76	マテバシイ	3.2	153	2.5	-	4.0	3.5	4.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.80	C			○					○	有	小	幹に開口空洞・腐朽(大)、被害が進行している。	●			C			
C	77	マテバシイ	9.0	170	8.0	-	4.0	3.5	4.0	2.5	3.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.75	C			○					○	有	小	幹に開口空洞・腐朽(大)、高さH0.8～2.2mに打診音異常(大)あり。	●			B			
C	78	マテバシイ	4.5	65	3.5	-	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	大	露出根あり。 極めて樹形が乱れており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	79	ハゼノキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	-	-	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	枯損している。	※	–	–	B			
C	80	ウバメガシ	5.0	8本立	5.0	54,47,33,32,30,30,28,25	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					有	中	－	●			B			
C	81	モチノキ	4.0	5本立	4.0	53,38,37,20,17	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					有	中	－	●			B			
C	82	マテバシイ	6.0	65	2.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		有	大	片枝で葉も少なく、回復不可。	●			B			
C	83	マテバシイ	6.5	82	5.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○				○		有	中	枝が極まばらで移植後の回復不可能。	●			B			
C	84	マテバシイ	7.0	80	6.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	大	枝が極まばらで移植後の回復不可能。	●			B			
C	85	ヤブツバキ	6.0	2本立	3.0	50,38	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	－	●			B			

資料表 2.2-1(39)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Cエリア：銀杏並木東(銀杏並木以外の範囲)　調査日：2023 年　5 月　24 日　～　2023 年　5 月　26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	86	モチノキ	9.0	2本立	3.0	83,25	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○		○					有	中	樹形、樹勢良好、移植可能。	●			B			
C	87	トウネズミモチ	7.0	53	3.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
C	88	トウネズミモチ	7.5	5本立	4.0	38,38,14,13,11	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
C	89	スダジイ	8.0	126	3.0	−	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	大	幹(H1.2～2.0m)に打音異常あり。	●			B			
C	90	スダジイ	9.0	128	4.0	−	2.5	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○					○		有	中	幹に打音異常あり。 擬木柵に接触している。	●			B			
C	91	スダジイ	8.0	111	4.0	−	2.5	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○						○	有	中	擁壁際で移植のための適正根鉢確保が困難	●			B			
C	92	ケヤキ	18.0	285	11.0	−	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	小	擬木柵に近接している(幹芯から西に1m)。	●			B			
C	93	イスノキ	8.0	58	4.0	−	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A		○		○					無	小	−	●			B			
C	94	スダジイ	8.0	158	5.0	−	2.5	2.5	3.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	中	幹に打音異常あり。 擬木柵に近接している(幹芯から東に0.4m)。	●			B			
C	95	ケヤキ	18.0	235	11.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	96	イスノキ	9.0	83	5.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	小	−	●			B			
C	97	ケヤキ	18.0	234	14.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			A			
C	98	ネズミモチ	6.0	5本立	5.0	54,30,24,16,14	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○					○		無	小	根元・幹に腐朽が散在する。	●			B			
C	99	トウネズミモチ	8.0	92	5.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	小	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
C	100	ヒトツバタゴ	8.0	85	5.0	−	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	小	擬木柵に近接している(幹芯から2.4m)。	●			A			
C	101	ウバメガシ	8.0	2本立	4.5	110,40	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中	−	●			B			
C	102	ヒサカキ	4.5	2本立	3.0	38,12	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	−	●			B			

資料表 2.2-1(40)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）																	調査日		2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 26 日																
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目						2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	103	イロハモミジ	6.0	63	4.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	小	擬木柵に近接している(幹芯から2.2m)。	●			A			
C	104	クヌギ	14.0	184	5.0	–	3.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	小	擬木柵に近接している(幹芯から1.5m)。 擬木柵があるままでは適正根鉢確保困難。	●			B			
C	105	ウバメガシ	6.5	61	2.0	–	2.5	2.5	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	無	小	根元・幹に樹皮欠損130×12(55)あり。 樹皮欠損がH0～1.2mまで連続。移植不可。	●			B			
C	106	ヒトツバタゴ	6.5	50	2.5	–	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B	○			○					無	大	–	●			B			
C	107	イロハモミジ	5.0	36	5.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	中	–	●			B			
C	108	マテバシイ	9.0	87	3.0	–	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○		○					無	中	–	●			B			
C	109	スダジイ	9.0	115	6.0	–	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○				○		有	中	根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 擬木柵の控え柱に接触している。擬木柵に近接している(幹芯から0.6m)。	●			B			
C	110	スダジイ	9.0	128	5.0	–	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○				○		有	小	幹に開口空洞(小)が複数ある。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.5mあり。 擬木柵に近接している(幹芯から0.5m)。	●			B			
C	111	クヌギ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	–	–	B			
C	112	イロハモミジ	7.5	83	4.0	–	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	2.00	B	○			○					無	中	–	●			A			
C	113	ヒトツバタゴ	9.0	65	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	中	–	●			A			
C	114	ヒトツバタゴ	7.0	55	4.0	–	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B	○			○					無	中	–	●			B			
C	115	イロハモミジ	8.0	2本立	6.0	70,54	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B	○			○					無	中	–	●			A			
C	116	モチノキ	6.0	42	3.5	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	小	雌木である。	●			B			
C	117	スダジイ	9.0	132	6.0	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.35	B			○				○		無	大	幹に開口空洞(小)が複数ある。 樹木番号118ケヤキからの被圧により、片枝樹形である。 道路側は大きく剪定されている。	●			B			
C	118	ケヤキ	18.0	251	15.0	–	1.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.5	1.5	2.5	2.0	1.0	1.90	B	○						○		無	小	樹形が良く、存在感があり、保存価値が高い。 大径木のため、移植時の根鉢の確保・樹形維持が難しい。	●			A			
C	119	ウバメガシ	5.5	2本立	3.5	57,44	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					無	小	剪定痕が多数、腐朽あり。	●			B			

資料表 2.2-1(41)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日

エリア	樹木番号		樹種名		規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度（1～4評価） 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形（1～4評価）	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 ABCD	保存の必要性（該当に○） 高	中	低	移植（該当に○） 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物（有無）	片枝・被圧（大中小無）	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存（該当に●）	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
C	120		スダジイ		8.0	70	3.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					無	小	―	●			B			
C	121		クヌギ		12.0	154	5.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B		○					○		無	大	下枝のない片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 剪定痕が多数あり。	●			B			
C	122		スダジイ		12.0	232	10.0	-	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B		○					○		無	中	片枝樹形である。 根元にツリバリサルノコシカケの子実体あり。 幹に腐朽あり。 根元・幹に打診音異常 H0.1～2.3mあり。 樹幹傾斜(小)(西側)あり。	●			B			
C	123		スダジイ		9.0	129	9.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○					○		無	中	片枝がなく、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	124		マテバシイ		3.0	48	2.0	-	3.5	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.65	C			○					○	無	大	樹幹傾斜(小)あり。 上部が大きく剪定されている上、片枝となっており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			C			
C	125		マテバシイ		10.0	128	5.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	中	片枝樹形である。 剪定痕が多数あり。 根元H0.0m～H1.2mに開口空洞あり。	●			B			
C	126		マテバシイ		4.5	75	4.0	-	3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	中	片枝樹形である。 根元H0.0m～H1.2mに開口空洞あり。 樹幹傾斜(小)あり。	●			B			
C	127		スダジイ		11.0	187	9.0	-	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.40	B		○					○		無	小	片枝樹形である。 幹・大枝に樹皮欠損(小)が複数ある。	●			B			
C	128		クスノキ		15.0	194	9.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	129		ヒトツバタゴ		8.0	84	5.0	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	2.30	B	○			○					無	小	―	●			B			
C	130		ヒトツバタゴ		8.0	65	4.0	-	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.00	A	○			○					無	小	―	●			B			
C	131		ミズキ		10.0	86	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	小	―	●			B			
C	132		マテバシイ		9.0	3本立	5.0	85,59,50	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	小	大枝付根に入皮あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	133		マテバシイ		9.0	82	4.0	-	2.5	3.0	2.0	2.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.30	B		○					○		無	小	枝にてんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	134		ヒトツバタゴ		4.0	34	4.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.00	B	○			○					無	小	―	●			B			
C	135		イロハモミジ		6.0	83	6.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	小	―	●			A			
C	136		プラタナス		14.0	244	8.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B	○						○		無	小	剪定痕が多数あり。 大径木であり、保存価値がある。	●			B			

資料表 2.2-1(42)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Cエリア：銀杏並木東(銀杏並木以外の範囲)															調査日						2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 26 日														
エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	137	クロマツ	17.0	130	3.5	–	3.5	3.0	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.40	B		○					○		無	無	下枝がなく、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 下枝が高すぎるため、移植に際しての剪定も難しい。	●			B			
C	138	シラカシ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、樹木回避のため撤去。	※	–	–	B			
C	139	スダジイ	8.0	125	8.0	–	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.40	B		○					○		無	中	ひこばえが多い上、片側の枝がなく、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	140	ムクノキ	18.0	178	10.0	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	2.05	B	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	141	マテバシイ	8.5	95	6.0	–	3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	小	剪定痕に腐朽があり、片枝樹形である。 移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	142	マテバシイ	5.0	63	4.0	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	中	片枝がなく、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	143	クヌギ	13.0	188	8.0	–	3.0	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○					○		無	大	樹木番号144スダジイ等からの被圧により下枝が高い。 幹に樹木番号144スダジイの大枝がくい込んでいる。	●			B			
C	144	スダジイ	12.0	142	12.0	–	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	小	移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	145	スダジイ	10.0	135	6.5	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	小	移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	146	マテバシイ	6.0	3本立	5.0	43,38,38	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	中	三本立ちの内、1本は断幹され、2本は枯損している。	●			B			
C	147	イロハモミジ	7.0	2本立	7.0	63,57	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.50	A	○			○					無	小	–	●			A			
C	148	ムクノキ	18.0	200	12.0	–	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	2.05	B	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	149	シラカシ	16.0	148	6.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○						○		無	中	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	150	マテバシイ	4.0	35	3.0	–	4.0	3.5	3.0	3.0	4.0	3.5	2.0	3.0	2.5	1.0	2.95	C			○					○	無	大	樹冠上部が失われ、樹形・樹勢は不良。	●			C			
C	151	クロガネモチ	5.0	44	3.5	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○		○					無	中	–	●			B			
C	152	ウメ	4.0	29	2.0	–	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.50	B			○	○					無	大	樹幹傾斜(小)あり。 傾斜しているが、ウメらしさあり。小さい木で移植可能。	●			C			
C	153	スダジイ	8.0	132	6.0	–	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	小	東側に樹幹傾斜(中)あり。大枝も東側のみで片枝樹形となっており、移植後の健全な状態への回復は困難。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(43)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名			Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）															調査日									2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 26 日									
			規格				活力度											保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	154	スダジイ	15.0	143	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	155	スダジイ	13.0	235	7.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	小	擬木柵に近接している(幹芯から1.2m)。	●			B			
C	156	スダジイ	13.0	169	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	小	擬木柵に近接している(幹芯から1.3m)。	●			B			
C	157	マテバシイ	4.0	49	4.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.30	B		○		○					無	大	－	●			B			
C	158	プラタナス	18.0	299	12.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.5	1.5	1.0	2.00	B	○						○		無	小	樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	159	イロハモミジ	8.0	88	8.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	中	幹(H1.0m)に開口空洞・腐朽 5×5(83)×18/25(芯達)あり。 樹勢に問題無し、移植可能。	●			A			
C	160	スダジイ	9.5	115	6.0	－	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B		○					○		無	小	根元・幹に打診音異常 H0.0～2.5mあり。	●			B			
C	161	サザンカ	8.0	43	2.0	－	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○		○					無	小	幹(H0.5m)に開口空洞・腐朽 20×5(43)×5/18あり。 樹勢に問題無し、移植可能。	●			B			
C	162	クスノキ	12.0	146	7.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	－	●			B			
C	163	イロハモミジ	7.0	56	6.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	小	枯枝(H3.5m) φ8, L=1.2mあり。	●			A			
C	164	スダジイ	10.0	158	10.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	樹木番号165クヌギと近接している。	●			B			
C	165	クヌギ	12.0	168	7.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B		○					○		無	小	樹木番号164スダジイと近接している。	●			B			
C	166	ケヤキ	19.0	287	15.0	－	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.40	B	○						○		無	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹に打音異常(小)あり。 大枝に樹皮欠損(大)、剪定痕からの枯れ下がりあり。 枯枝(H15m) φ20, L=7mあり。 樹冠内を電線が通っている。	●			B			
C	167	ヒトツバタゴ	8.0	53	6.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B		○		○					無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。	●			B			
C	168	マテバシイ	7.0	51	5.0	－	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 枝にてんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	169	マテバシイ	6.5	57	4.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 揺らぎ(小)あり。 強い樹幹傾斜あり、枝葉が少なく片枝樹形である。移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			
C	170	マテバシイ	4.5	58	4.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 揺らぎ(小)あり。 強い樹幹傾斜あり、枝葉が少なく片枝樹形である。移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(44)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：Cエリア：銀杏並木東(銀杏並木以外の範囲)　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度(1～4評価) 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形(1～4評価)	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果(ABCD)	保存の必要性(該当に○) 高	中	低	移植(該当に○) 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物(有無)	片枝・被圧(大中小無)	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存(該当に●)	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価(ABCD)	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
C	171	マテバシイ	9.0	76	5.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.00	B		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹に穿孔性害虫の穿孔痕(Φ2mm以下)が多数あり。(ピンク色の標識テープあり)	●			B			
C	172	スダジイ	12.0	154	7.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○		○					無	小	幹に打診音異常(小) H1.0～2.0mあり。 移植に問題無し。	●			B			
C	173	モチノキ	6.0	4本立	3.0	46,40,30,14	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	ひこばえが多数あり。	●			B			
C	174	イロハモミジ	8.0	95	6.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 隣木のモチノキとケヤキからの被圧あり。 フェンスに近接している。	●			A			
C	175	ケヤキ	24.0	246	12.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○						○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 枯枝(H15m) φ15, L=6mあり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	176	サカキ	6.5	2本立	3.5	40,39	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.10	B	○			○					無	小	樹形良好。 幹の相互接触、幹と大枝の相互接触あり。 枝の電線接触あり。 葉に虫害あり。	●			B			
C	177	ケヤキ	25.0	237	16.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○						○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹(H0～1.5m)に、肥大生長あり。 幹に、打音異常(小)あり。 隣木ケヤキ(175)からの被圧あり。	●			B			
C	178	クスノキ	9.0	77	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。	●			B			
C	179	マテバシイ	9.0	67	4.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	中	樹幹傾斜(小)(東側)あり。 ひこばえが多数あり。 隣木ケヤキによる被圧あり。	●			B			
C	180	マテバシイ	6.5	66	3.0	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.45	B			○				○		無	大	樹幹傾斜(小)(東側)あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 枯枝(小)あり。	●			B			
C	181	マテバシイ	7.5	72	3.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○					○		無	中	樹幹傾斜(小)(東側)あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 ひこばえが多数あり。 枯枝(小)あり。 樹木番号182ケヤキと近接している。	●			B			
C	182	ケヤキ	24.0	262	20.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 相互接触あり。 大枝(北H5m)に、樹皮欠損(大) 200×30あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			A			
C	183	イロハモミジ	8.0	58	9.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	小	樹形良好。	●			A			
C	184	トウカエデ	10.0	151	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○						○	無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹(南H0.5m)に開口空洞 80×10×13/30あり。 過去にぶつ切り剪定されている。	●			B			
C	185	トウネズミモチ	11.0	85	5.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	無	小	枯枝(小)あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		

資料表 2.2-1(45)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）																調査日				2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日														
エリア	樹木番号	樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	186	スダジイ	10.0	140	5.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.30	B		○					○		無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹幹傾斜(小)あり。 幹(H2m)に、開口空洞 20×10×21/56あり。 幹にアイカワタケのヒラフスベ型の子実体(残さ)あり。	●			B			
C	187	イロハモミジ	8.0	78	8.0	-	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○			○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹幹傾斜(小)あり。	●			A			
C	188	マテバシイ	6.0	52	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					無	中	樹勢、樹形普通で移植可能。	●			B			
C	189	マテバシイ	8.0	76	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○					○		無	中	樹幹傾斜(小)あり。 大枝に枝欠損部からの腐朽あり。 ひこばえが多数あり。	●			B			
C	190	モッコク	6.0	67	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.20	B		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 梢端の枯れ下がりあり。	●			B			
C	191	イロハモミジ	5.5	61	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹勢衰退傾向にある。 大枝に樹皮枯死(大)あり。 枯枝 φ10, L=2mあり。	●			B			
C	192	イスノキ	7.0	3本立	5.0	43,33,29	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B		○		○					無	小	樹形良好。 葉に虫こぶあり。	●			B			
C	193	ウバメガシ	6.0	59	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 枝数がやや少ない。	●			B			
C	194	ケヤキ	24.0	286	12.0	-	1.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○						○		無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 大枝に開口空洞20×20(巻き込み)、ほか複数あり。 樹形は大きく立派である。	●			A			
C	195	イロハモミジ	7.5	56	8.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	小	剪定痕(小)あり。	●			A			
C	196	マテバシイ	5.0	67	4.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	強い樹幹傾斜あり、片枝樹形である。移植後の健全な状態の維持は困難。 大枝に入り皮あり。	●			B			
C	197	マテバシイ	6.0	63	3.5	-	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.40	B			○				○		無	大	樹幹傾斜(小)あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 葉がやや疎、梢端に枯れ下がりあり。	●			B			
C	198	マテバシイ	3.0	42	3.0	-	4.0	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.70	C			○					○	無	大	梢端部に小枝がなく、著しく樹形・樹勢が悪い。 幹に枯れ下がりあり。 ひこばえが多数あり。	●			C			
C	199	スダジイ	10.0	189	10.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B	○						○		無	小	巻き根(中)あり。 移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	200	クワ	3.5	2本立	4.0	43,23 (H0.2m)	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 断幹され、断幹部に腐朽あり。 擬木柵に近接している。	●			B			
C	201	サザンカ	6.0	93 (H0.3m)	4.5	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹に開口空洞(小)(巻き込み)、ほか多数あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。	●			B			
C	202	ヒトツバタゴ	5.0	37	3.0	-	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○	○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 隣木サザンカからの被圧あり。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(46)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	203	イスノキ	8.5	91	6.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	小	大枝分岐部に入り皮あり。	●			B			
C	204	サザンカ	6.0	43	4.0	-	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○					○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元に開口空洞 20×5×5/20(巻き込み)あり。	●			B			
C	205	マテバシイ	5.0	37	3.5	-	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.20	B		○		○					無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 隣木スダジイからの被圧あり。	●			B			
C	206	マテバシイ	6.0	2本立	2.0	59,34	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.30	B		○					○		無	小	片枝樹形である。 主幹が、断幹されている。 幹(双幹)に、打診音異常H0.0～2.0m(大)あり。 枝に、てんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	207	ケヤキ	12.0	146	10.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B	○						○		無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 胴吹きが多数あり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	208	ヒトツバタゴ	8.0	52	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。	●			A			
C	209	マテバシイ	2.5	5	1.0	-	4.0	3.5	3.5	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	3.0	1.0	2.95	C			○					○	無	小	樹高が3m以下である。 枝の伸長が悪く、ひこばえのみの樹形である。	●			C			
C	210	ウバメガシ	6.0	28	3.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹に開口空洞(大) 60×5×3/10ほか全2箇所あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～1.0mあり。	●			B			
C	211	マテバシイ	6.0	3本立	7.0	42,39,35	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	1.0	2.15	B		○					○		無	中	枝にてんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	212	シラカシ	14.0	145	8.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 下枝がない。樹冠に偏りあり。 隣木ケヤキからの被圧あり。	●			B			
C	213	マテバシイ	7.5	74	4.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	樹幹傾斜(小)あり。 隣木シラカシからの被圧により、片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	214	マテバシイ	5.5	54	4.5	-	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	片枝樹形である。 樹幹傾斜(小)あり。 根元・幹に、打診音異常(小) H0.0～1.0mあり。 隣木スダジイからの被圧(大)あり。	●			B			
C	215	スダジイ	6.5	118	5.5	-	3.5	3.5	4.0	2.5	4.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.75	C			○					○	無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹がH4.0mで断幹、枯れ下がりあり。 幹に開口空洞 400×20×20/40(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。	●			C			
C	216	マテバシイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去(ひこばえあり)。	※	-	-	C			
C	217	クスノキ	5.0	74	4.0	-	4.0	3.5	4.0	3.0	4.0	3.5	2.0	2.5	2.5	1.0	3.00	C			○					○	無	小	断幹されている。高さH3mから枯れ下がりあり。 根元に開口空洞 5×5×22/30(芯達)あり。 根元・幹に打音異常 H0.0～2.0mあり。 根元の揺らぎ(大)あり。 幹折れ、倒木の危険性あり。	●			C			
C	218	スダジイ	12.0	175	6.0	-	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B		○					○		無	小	幹H2.3m～3.4mにかけて開口空洞(大)(巻き込み)あり。 根元・幹に打診音異常 H0.0～1.0mあり。 大枝に開口空洞(大)あり。 幹折れの危険性あり。	●			B			

資料表 2.2-1(47)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）																		調査日			2023年 5月 24日 ～ 2023年 5月 26日																
			規格				活力度												保存の必要性			移植						参考項目							伐採理由		
																							難														
エリア	樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	219	マテバシイ	8.0	78	5.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○					○		無	中	隣木スダジイからの被圧により、片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	221	クスノキ	12.5	89	7.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.10	B		○		○					無	中	隣木ケヤキからの被圧あり。	●			B			
C	222	スダジイ	13.0	124	5.0	-	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.40	B			○					○	無	中	幹に腐朽と打音異常(高さH1.2～2.0m)あり。 樹幹傾斜(大)(東側)あり。 枝張りが小さい。	●			B			
C	223	ケヤキ	22.0	470	20.0	-	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		無	無	幹H0.45m～1.5mにかけて開口空洞(大)(芯達)あり。 大枝に樹皮欠損・腐朽あり。 存在感があり、保存が望ましい。移植の場合は樹形を大きく損なう可能性が高い。	●			A			
C	224	スダジイ	12.0	213	10.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		無	小	大枝に樹皮欠損・腐朽あり。	●			B			
C	225	スダジイ	11.0	159	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.15	B		○					○		有	小	大枝・幹に開口空洞あり。 樹冠が傾き偏っている。 擬木柵に近接している。	●			B			
C	226	マテバシイ	7.0	48	3.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○					○		無	中	枝にてんぐ巣病の症状あり。葉量も少なく、移植後の回復は困難。	●			B			
C	227	ウメ	3.2	53	2.5	-	3.0	2.5	3.5	2.5	3.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.35	B			○					○	無	中	根元・幹に腐朽あり。 移植樹として不適であるが、現存のままなら問題ない。	●			B			
C	228	マテバシイ	4.0	46	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	2.15	B			○					○	無	大	片枝がなく、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	229	スダジイ	14.0	201	7.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	2.20	B		○					○		無	小	樹形にやや乱れあり。 移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	230	スダジイ	11.0	173	7.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		有	小	大枝H0.85m～2.05mにかけて開口空洞あり。 擬木柵に近接している。	●			B			
C	231	クヌギ	15.0	184	10.0	-	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B	○					○			無	中	樹形に存在感あり。	●			B			
C	232	スダジイ	12.0	169	5.0	-	3.5	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.65	C			○					○	無	大	樹形が崩れ、樹形・樹勢共にで移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
C	233	マテバシイ	4.5	50	2.5	-	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.75	C			○					○	無	中	樹冠頂部に枯損、樹形に崩れ・乱れあり。	●			B			
C	234	マテバシイ	6.5	56	4.5	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	無	大	樹冠に傾き(東側、道路側)、偏りが大きく、移植後の健全な生育は困難。	●			B			
C	235	スダジイ	9.0	98	5.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.55	C		○					○		無	大	幹に曲がりあり。 樹冠に傾き(東側、道路側)、偏りあり。 幹(H2.5m)に開口空洞 8×7あり。	●			B			
C	236	スダジイ	14.0	148	11.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B	○						○		無	小	枝張りと高さのある大木で存在感がある。 移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(48) 【変更後】毎木調査結果表

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	
C	237	ヒトツバタゴ	4.0	32	2.8	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.15	B		○		○					有	中	樹幹傾斜(大)。 根元に開口空洞 10×8×4あり。 電柱に近接している。
C	238	ヒトツバタゴ	8.0	31	4.5	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.05	B		○		○					無	大	ふところの枝葉がやや疎である。 樹高あり。
C	239	マテバシイ	5.5	49	3.0	-	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.45	B			○					○	無	大	枝葉量が少なく、樹勢衰退傾向にある。 ひこばえが多数あり。
C	240	マテバシイ	4.5	61	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○		○					無	大	樹冠に偏り(東側、道路側に枝葉)あり。 ひこばえが多数あり。
C	241	クスノキ	18.0	344	15.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.65	A	○						○		無	無	樹形・樹勢は良く、存在感があり、保存が望ましい。 かなりの巨木のため移植は難しく、回復不能なほど大きく剪定されることになる。
C	242	トウネズミモチ	8.0	3本立	9.0	66,53,35	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	有	中	株立ちが葉張り、樹形に乱れあり。 擬木柵に近接している。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。
C	243	スダジイ	13.5	206	13.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○					○		無	中	枝葉量がやや疎だが、骨格をなす枝が四方へ伸長して、存在感のある大木である。 樹形はやや不良。 かなりの巨木のため移植は難しく、回復不能なほど大きく剪定されることになる。
C	244	マテバシイ	4.5	59	3.0	-	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B			○					○	有	大	樹冠に傾斜と偏りあり、樹形が崩れている。 幹(H2.3m)に開口空洞 25×13×10あり。 隣木スダジイ(樹木番号243)と、近接している。
C	245	クロマツ	12.5	95	2.5	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.50	B			○					○	有	中	下枝が高く、枝張りも小さく、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 擬木柵に近接している。
C	246	マテバシイ	8.5	74	4.5	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	大	隣木スダジイ(樹木番号243)からの被圧により、樹幹に傾き(東側)あり。
C	247	マテバシイ	7.5	65	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○		○					無	中	樹冠に傾き(東側)、偏りあり。
C	248	スダジイ	12.5	2本立	8.0	177, 144	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		有	無	高さH1.0からの双幹樹形、副幹は屈曲している。 擬木柵に近接している。 擬木柵があるままでは適正根鉢確保困難。
C	249	トウカエデ	13.0	147	5.5	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B		○		○					無	中	下枝が高く、枝葉量が少ない。 根元に樹皮欠損・腐朽あり。
C	250	クヌギ	16.0	166	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	中	樹高の高い木である。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。
C	251	スダジイ	11.0	173	19.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.30	B		○					○		有	大	大枝(東H1.6m)に剪定痕からの腐朽 20×20×30あり。 大枝(北H1.7m)に剪定痕からの腐朽 20×15×25あり。 樹幹傾斜(小)(東側)あり。 大枝への腐朽が多く、樹冠も傾斜しており、回復不能。
C	252	マテバシイ	7.5	63	4.5	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B			○					○	無	大	樹幹傾斜(大)(東側)あり。 隣木スダジイからの被圧により樹冠に傾き、偏りが大きく、移植後の健全な生育は困難。 ひこばえが多数あり。
C	253	スダジイ	16.0	159	10.0	-	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B	○						○		無	中	高さH2.5mに大枝剪定痕からの腐朽、キノコ(種不明)の発生あり。 やや屈曲した樹形の大木である。

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に●			ABCD			
237	●			B			
238	●			B			
239	●			B			
240	●			B			
241	●			A			
242			●	B	●		
243	●			B			
244	●			B			
245	●			B			
246	●			B			
247	●			B			
248	●			B			
249	●			B			
250	●			B			
251	●			B			
252	●			B			
253	●			B			

資料表 2.2-1(49)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）																	調査日		2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日																	
エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	254	スダジイ	9.5	163	7.5	-	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.95	B		○				○			無	小	大枝(南西側)に剪定痕からの腐朽 23×19あり。 ひこばえが多数あり。	●			B			
C	255	クヌギ	12.0	95	4.0	-	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.85	C			○				○		無	大	北西側に開口空洞(35×15×20)、空洞部のふくらみ(肥大生長)、打音異常あり。 下枝が高く、枝葉量が少ない。	●			B			
C	256	スダジイ	9.5	111	4.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○			○				無	大	枝葉量がやや疎。	●			B			
C	257	マテバシイ	6.5	64	5.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	無	大	樹幹傾斜(東側)あり。 ひこばえが多数あり。 樹幹の傾きが大きく、移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			
C	258	マテバシイ	5.5	60	4.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.45	B			○					○	無	大	樹幹傾斜(東側)あり。 ひこばえが多数あり。 樹幹の傾きが大きく、移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			
C	259	スダジイ	15.0	178	10.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○						○		無	大	極端な片枝樹形となっており、移植時の剪定からの健全な状態への回復・維持は困難。	●			B			
C	260	スダジイ	12.5	132	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○				○			無	大	胴吹きが多数あり。(剪定痕からの萌芽と思われる)	●			B			
C	261	スダジイ	6.0	122	4.0	-	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.70	C			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(西側)あり。 根元に、腐朽(大)あり。幹に、腐朽(大)あり。 幹(H1.0～2.5m)に、樹皮欠損・腐朽、シイサルノコシカケの発生あり。	●			C			
C	262	ケヤキ	23.0	326	18.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		無	小	巨木であり、存在感がある。 かなりの巨木のため移植は難しく、回復不能なほど大きく剪定されることになる。	●			B			
C	263	マテバシイ	6.0	61	4.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(東側)あり。 ひこばえが多数あり。 樹幹の傾きが大きく、移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			
C	264	クヌギ	15.0	155	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		無	中	枝葉量にやや偏りあり(東側に多い)。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	265	サカキ	5.5	2本立	3.5	61,45	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.5	1.0	1.35	A	○			○					無	中	枝葉量が多く、樹勢は良好。	●			B			
C	266	ケヤキ	20.0	161	12.5	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.40	A	○						○		有	小	やや細いが、上部で枝葉が茂り、良好な状態である。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	267	スダジイ	12.0	161	8.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B	○						○		無	中	樹幹傾斜(小)あり。 大枝が伸長し、存在感のある樹木である。 移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	268	ケヤキ	11.0	70	10.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	下枝が高く、上部で枝葉が広がる盃形の樹形である。	●			B			
C	269	マテバシイ	5.0	42	5.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.35	B			○					○	無	大	下枝に枯れあり。樹形に大きな乱れあり。 ひこばえが多数あり。 移植後の健全な生育が困難。	●			B			
C	270	スダジイ	9.5	149	7.5	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○				○			無	中	樹形に乱れがあるが、枝葉が充実して回復に向かっている。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(50)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：Cエリア：銀杏並木東(銀杏並木以外の範囲)　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度(1～4評価) 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形(1～4評価)	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果(ABCD)	保存の必要性(該当に○) 高	中	低	移植(該当に○) 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物(有無)	片枝・被圧(大中小無)	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存(該当に●)	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価(ABCD)	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
C	271	マテバシイ	7.0	48	4.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.25	B		○					○		無	大	ひこばえ多数あり。 下枝がなく、隣木からの被圧(大)により樹形乱れが大きく、移植後の健全な状態の維持は困難。	●			B			
C	272	マテバシイ	6.0	69	4.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○					○		無	中	片枝がなく、樹形不良で移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 ひこばえ多数あり。	●			B			
C	273	ケヤキ	20.0	338	20.0	–	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.25	B	○						○		有	小	幹に樹皮欠損・腐朽あり。 打音異常あり。 枯枝φ10, L=3.0mあり。 電柱2本に近接している。	●			B			
C	274	マテバシイ	7.0	65	2.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.35	B		○					○		無	大	樹幹傾斜あり。 根元に打音異常(小)あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。	●			B			
C	275	モチノキ	7.0	83	3.5	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.05	B		○					○		無	大	枝に剪定痕からの腐朽あり。 大枝に腐朽あり。 根元にこぶあり。	●			B			
C	276	スダジイ	10.0	204	7.0	–	2.5	3.0	3.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.45	B			○				○		無	中	根元・幹に打診音異常 H0.0～2.0mあり。 西側に開口空洞(8×7×28)あり。 枝に剪定痕からの腐朽あり。	●			B			
C	277	スダジイ	9.0	178	9.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		無	中	東側に樹皮欠損(20×13)あり。 大枝に剪定痕からの腐朽あり。	●			B			
C	278	マテバシイ	5.0	52	4.0	–	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	大	片枝樹形であり、樹幹傾斜(東側)あり。 被圧(大)あり。	●			B			
C	279	マテバシイ	7.0	58	4.0	–	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○		○					無	大	片枝樹形であり、樹冠傾斜(東側)あり。	●			B			
C	280	ケヤキ	9.0	50	7.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	大	被圧(大)あり。 枯枝(H4m) L=3.0mあり。	●			A			
C	281	モッコク	5.5	70	3.0	–	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B		○		○					無	中	被圧あり。 下枝(西側)に胴枯症状(120×10)あり。	●			B			
C	282	ケヤキ	17.0	184	10.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		無	大	隣木のケヤキからの被圧(東側)あり。 剪定痕が複数あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	283	ケヤキ	20.0	283	20.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B	○						○		無	小	存在感があり、保存価値が高い。 枯枝(H15m), L=6mあり、下枝の一部に胴枯症状あり。 枯れ枝やかなりの巨木のため移植は難しく、回復不能なほど大きく剪定されることになる。	●			A			
C	284	マテバシイ	9.0	96	5.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.05	B		○		○					無	大	片枝樹形であり、樹冠傾斜(東側)あり。	●			A			
C	285	スダジイ	9.0	177	6.0	–	3.0	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○					○		無	大	片枝樹形であり、樹冠傾斜(東側)あり。 幹H0.6m～1.5mに腐朽あり。 幹に大枝剪定痕からの腐朽あり。	●			A			
C	286	タブノキ	9.0	53	4.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.60	A	○			○					無	中	被圧を受けるが、樹形は良い。 枝が架線に接触している。 良好移植可能。	●			A			
C	287	スダジイ	7.0	128	5.0	–	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B			○					○	無	中	断幹あり。 開口空洞16×10(148)×25/45(芯達)あり。 打音異常(大)あり。	●			B			

資料表 2.2-1(51)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名					Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）															調査日		2023年 5月 24日 ～ 2023年 5月 26日								
					規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目	
エリア	樹木番号		樹種名		樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧
									1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無
C	288		サワラ		16.0	179	6.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○					○		無	中
C	289		マテバシイ		3.0	44	2.5	-	4.0	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.10	C			○					○	無	大
C	290		クスノキ		15.0	165	10.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B	○						○		有	中
C	291		ヒトツバタゴ		3.0	53	4.0	-	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.00	B			○	○					無	中
C	292		ヤブツバキ		6.0	55	4.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○					無	小
C	293		イヌマキ		5.5	2本立	3.5	58,36	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.50	B		○					○		無	中
C	294		シラカシ		18.0	227	12.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B	○						○		有	大
C	295		サンゴジュ		4.0	3本立	2.0	35,29,25	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○					○	有	大
C	296		サザンカ		4.0	2本立	4.0	39,23	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A		○		○					有	大
C	297		シラカシ		14.0	158	10.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○					○		有	中
C	298		ヤブツバキ		4.0	2本立	4.0	36,19	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.55	A		○		○					無	大
C	299		シラカシ		14.0	137	7.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○					○		無	大
C	300		シラカシ		14.0	142	8.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○					○		有	中
C	301		スダジイ		9.0	126	7.0	-	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○					○		有	大
C	302		キンモクセイ		4.5	36 (H0.7m)	2.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.80	B		○		○					無	中
C	303		トウネズミモチ		4.5	148 (芝付)	3.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B			○					○	無	中
C	304		マテバシイ		8.5	86 (H0.6m)	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B		○					○		有	中

樹木番号	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
		該当に●			ABCD			
288	隣木のケヤキによる被圧あり。 下側の大枝が枯枝剪定により少ない。	●			B			
289	幹に胴枯症状あり。 樹冠上部が枯れており、樹形が崩壊している。 撤去の必要あり。	●			C			
290	存在感があり、保存価値が高い。 照明灯に近接している。	●			B			
291	樹幹傾斜(西側)があり、断幹されている。 枝が電線に接触している。	●			B			
292	樹形が良好である。	●			A			
293	樹形が崩壊しはじめている。	●			B			
294	幹に胴枯症状があり、開口空洞がある。 存在感があり、保存価値が高い。 幹(H0～1.8m)にカシノナガキクイムシの防除策(メイカコート塗布、カシナガホイホイ設置など)が施されている。 アスファルト舗装、フェンスに近接している。	●			B			
295	幹の上部に枯損があり、片枝樹形となっている。 照明灯に近接している。 フェンスに近接している。	●			C			
296	根元に石組の石が埋もれている。	●			A			
297	下枝が無い。 根元に石が埋もれていることにより、移植に当たっての適正根鉢の確保は困難	●			B			
298	片枝樹形である。 根元に樹皮欠損(22×8)あり。	●			A			
299	樹幹傾斜(北側)あり。 根元にベッコウタケの子実体あり。 幹に開口空洞が、数か所あり。 建物に近接してる。	●			B			
300	片枝樹形である。 閉塞痕に打音異常(小)あり。 建物に近接しており、適正根鉢の確保困難。	●			B			
301	幹に剪定痕からの腐朽あり。 大枝付根に腐朽と打音異常(小)あり。 根元に石が埋もれている。	●			B			
302	やや片枝樹形である。	●			A			
303	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
304	構造物と電線に近接している。	●			B			

資料表 2.2-1(52)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		CエリアI：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）	調査日	2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	305	ケヤキ	20.0	330	20.0	–	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.00	B	○						○		無	小	大枝に剪定痕からの腐朽あり。 巻き根あり。 存在感があり、保存価値が高い。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	306	ケヤキ	18.0	203	11.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.15	B		○					○		無	中	片枝樹形であり、樹幹傾斜(西側)あり。 大枝に樹皮枯死あり。 大枝に剪定痕からの腐朽あり。	●			B			
C	307	スダジイ	13.0	216	10.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B		○					○		無	中	片枝樹形である。 根元にツリバリサルノコシカケの子実体が多数あり。 幹と剪定痕に背着生キノコ(種不明)の発生あり。 H1.0m～1.5mに打音異常(中)あり。 根元・幹(H0～0.5m)にメイカコートの塗布あり。 大枝に剪定痕からの腐朽あり。	●			B			
C	308	サワラ	14.0	128	6.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B			○					○	無	中	樹幹傾斜(大)(東側)あり。 開口空洞 40×6(152)×22/40(芯達)、打音異常(大)あり。 支柱設置、もしくは撤去検討の必要性あり。	●			B			
C	309	スダジイ	12.0	212	10.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○					○		有	中	大枝に剪定痕からの腐朽あり。 打音異常(大)あり。 枝が電線に接触している。 鉄柵に近接している。	●			B			
C	310	シラカシ	14.0	178	8.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		無	中	片枝樹形である。 幹に樹皮欠損・腐朽(16×11)あり。 幹(H0～1.3m)にカシノナガキクイムシの防除策(メイカコート塗布、カシナガホイホイ設置など)が施されている。	●			B			
C	311	マテバシイ	6.0	85	5.0	–	3.0	2.5	4.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.50	B			○					○	無	中	断幹により、樹冠上部の樹形に乱れあり。 幹の上部から中部にかけて、胴枯症状と、腐朽あり。	●			B			
C	312	トウネズミモチ	6.0	2本立	4.0	26,25	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B			○					○	無	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
C	313	クスノキ	15.0	124	10.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.10	B		○					○		無	中	幹に打音異常(小)あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
C	314	スダジイ	15.0	190	9.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○					○		無	中	樹幹傾斜(小)(西側)あり。 下枝に樹皮欠損・腐朽あり。	●			B			
C	315	ネズミモチ	4.0	4本立	4.0	31,26,21,15	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	無	中	幹にコフキサルノコシカケの発生あり。 大枝に背着生キノコ(種不明)の発生あり。 移植不可。	●			B			
C	316	ネズミモチ	4.0	3本立	3.0	20,18,12	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.20	B		○		○					無	中	–	●			B			
C	317	ネズミモチ	4.5	44	3.0	–	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.20	B		○		○					無	中	巻き根あり。 露出根あり。	●			B			
C	318	イロハモミジ	5.0	42	5.0	–	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.60	A		○		○					無	中	根元に樹皮欠損・腐朽(大)あるが、移植には問題ない。 枝が電柱に接触している。	●			A			
C	320	サクラ	3.5	20	4.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	1.60	A	○			○					無	中	新植である。 ひこばえ多数あり。	●			A			
C	321	クロマツ	14.0	119	6.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○		無	無	樹形が崩壊している。 大枝に枝折れ痕あり。 移植に伴う剪定をしたら幹のみになり、移植後の回復が困難。	●			B			

資料表 2.2-1(53)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：Cエリア：銀杏並木東（銀杏並木以外の範囲）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 26 日

エリア	樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
C	322	タイサンボク	10.0	91	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.80	B		○		○					無	無	巻き根あり。	●			A			
C	323	サクラ	5.0	3本立	5.0	52,27,26	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○					無	無	支柱が腐朽しており撤去の必要性あり。	●			A			
C	324	サクラ	4.0	3本立	3.0	25,20,16	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○			○					無	小	新植である。 支柱撤去の必要あり。	●			A			
C	325	クロマツ	12.0	104	5.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B		○					○		無	無	枝折れ痕に腐朽あり。 支柱撤去の必要あり。 移植に伴う剪定をしたら幹のみになり、移植後の回復が困難。	●			B			
C	326	サクラ	5.0	274	3.0	-	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	1.5	1.5	1.5	1.5	3.00	C			○					○	有	無	幹にカワウソタケの子実体が多数あり。 根元にコフキサルノコシカケの子実体あり。 H1.2m～1.5mに打音異常(大)と打音異常(中)あり。 ほぼ枯死状態で、ひこばえが成長している。 注：葉の活力度(1.5)対象はひこばえ	●			B			
C	327	サクラ	4.0	34	3.0	-	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.40	A	○			○					無	中	新植である。 支柱撤去の必要あり。	●			A			
C	328	イロハモミジ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	-	-	B			
C	329	サカキ	5.5	61	4.5	-	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	1.5	1.5	1.5	1.5	3.00	C			○					○	無	小	ほぼ枯死状態で、ひこばえが成長している。	●			B			
C	330	サクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	-	-	B			
C	331	サクラ	3.5	24	2.0	-	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.60	A	○			○					無	中	新植である。 支柱撤去の必要あり。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(54)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：野球場三塁側　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・腐	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
Y01-001		トウカエデ	14.0	245	9.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○						○	有	小	根上り、露出根の肥大生長あり。 縁石(球場側)、土留め壁が根元付近にあり。 露出根が道路側の土留め壁側で切断されている。	●			A			
Y01-002		シイノキ	12.0	160	8.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.85	B		○					○		有	小	幹H1.4mに腐朽(中)あり。 打音異常あり。 縁石が根元付近にあり。	●			A			
Y01-004		ヤブツバキ	4.5	80	2.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.85	B			○				○		有	中	根元(道路側)に樹皮枯死45×40(113)あり。 大枝H2.3mに開口空洞(中)あり。 駐車場縁石までの離隔距離0.8m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-005		ケヤキ	19.0	274	9.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	2.00	B			○				○		有	無	大径木の為、移植方法についての検討が必要である。 縁石が根元付近にあり。 隣木(Y01-004ヤブツバキ)に近接、根鉢径が重複する(離距離0.5m)。幹芯から駐車場縁石までの離隔距離1.2m、道路までの離距離2.1m。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-006		シイノキ	12.0	210	11.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.75	A			○				○		有	小	露出根が多数あり。 樹幹傾斜あり。 縁石が根元にあり。 幹芯から柵までの離距離0.8m、駐車場縁石までの離隔距離1.2m、道路までの離距離1.8m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-007		ヒトツバタゴ	10.0	3本立	7.0	90,68,38	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	中	樹木番号Y01-006シイノキからの被圧あり。 縁石が根元付近にあり。		●		A			
Y01-008		ヒトツバタゴ	11.0	82	6.0	-	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○				○				有	小	露出根が多数あり。 両脇の樹木からの被圧あり。 看板基礎が根元にあり。	●			A			
Y01-009		マテバシイ	10.0	2本立	7.0	101,97	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○					○		有	小	枝にてんぐ巣病の症状あり。 道路側へやや片枝樹形である。 大枝に樹皮欠損 10×7あり。 枯枝(北側H3m) φ10, L=0.6mあり。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-010		ヒトツバタゴ	10.0	164	7.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○			○					無	小	露出根が多数あり。 幹H1.4mにスタブカット(切り残し枝)あり。 樹形が良く、保存価値は高い。	●			A			
Y01-011		マテバシイ	8.0	137	4.0	-	3.0	3.0	3.0	2.0	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.40	B			○					○	有	小	根元・幹H0.1m～4.0mに開口空洞(大)(芯達)あり。被害が進行中であり、幹折れの可能性あり。 枝にてんぐ巣病の症状が多数あり。 土留め壁が根元にあり。	●			B			
Y01-012		タイサンボク	12.0	107	6.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A	○			○					無	小	記念樹の立看板あり。	●			A			
Y01-013		シイノキ	11.0	205	8.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.60	A			○				○		有	小	樹幹傾斜(道路側)あり。 穿孔性害虫の穿孔痕あり。 斜面に位置する。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-015		マテバシイ	7.0	60	5.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	中	双幹の一方は切除されている。 根元に樹皮欠損30×3あり。 幹に腐朽(進行中)あり。 ひこばえ多数あり。 マンホールが根元にある。	●			B			
Y01-016		マテバシイ	7.0	73	6.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○	○					無	中	樹幹傾斜(道路側)あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 斜面に位置する。 土留め壁が根元にあるが、移植時の根鉢確保可能。	●			B			

資料表 2.2-1(55)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：野球場三塁側　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
Y01-017		マテバシイ	8.0	2本立	8.0	80,48	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○		○					無	中	双幹が広がる方向に伸長しており樹形が悪い。 ひこばえ多数あり。	●			B			
Y01-018		シイノキ	10.0	2本立	8.0	205,58	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.70	A		○					○		有	中	大枝H0.9m～1.8mに開口空洞(中)(芯達)あり。 露出根が多数あり。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-019		ケヤキ	16.0	269	11.0	-	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.10	A	○						○		有	無	大枝H6.0mに腐朽(大)あり。 コンクリート基礎が根元にあり。 照明灯の柱に枝の接触あり。	●			B			
Y01-020		ケヤキ	14.0	213	8.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	無	幹芯から駐車場縁石までの離隔距離1.3m、道路までの離隔距離1.9m。強剪定後の萌芽樹である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-021		ヒトツバタゴ	8.0	85	6.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	中	樹木番号Y01-023シイノキからの被圧あり。 被圧による樹幹傾斜あり。 露出根が多数あり。 斜面に位置する。	●			A			
Y01-022		モチノキ	8.0	133	4.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.35	A		○		○					有	小	露出根が多数あり。 幹芯からコンクリートブロックまでの距離1.2m。	●			A			
Y01-023		シイノキ	8.0	165	6.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.75	A		○					○		有	中	幹(H4.5m)に樹皮欠損30×30あり。 断幹されており、頂部に腐朽あり。 樹木番号Y01-024シラカシからの被圧あり。 道路側へ片枝樹形である。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-024		シラカシ	16.0	163	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○					○		有	小	枯枝(東側H10m) φ10, L=1.0m、(西側H10m) φ10, L=0.2mあり。 土留め壁が根元にあり。	●			B			
Y01-025		シイノキ	14.0	165	6.0	-	2.5	2.0	2.5	3.0	2.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.85	B		○					○		有	中	幹(H2.3m)に開口空洞90×10(165)、打診音異常(大) H1.5～3mあり。 大枝(H5m)に開口空洞・腐朽100×10あり。 樹幹傾斜あり。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-026		シラカシ	9.0	55	3.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B		○		○					無	中	-	●			B			
Y01-027		マテバシイ	8.0	64	4.0	-	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中	枯枝(高さH3m) φ15, L=0.7mあり。 ひこばえ多数あり。	●			B			
Y01-028		マテバシイ	3.5	23	2.0	-	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○	○					無	中	枝にてんぐ巣病の症状あるが、移植時は処置(剪定)を行い移植可能。 ひこばえ多数あり。 斜面に位置する。	●			B			
Y01-030		ケヤキ	20.0	218	10.0	-	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○						○		有	小	大枝に樹皮欠損・腐朽(中)が2箇所あり。 幹芯からコンクリートブロックまでの距離1.5m。 土留め壁が根元にあり。	●			A			
Y01-031		イチョウ	21.0	170	8.0	-	1.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.40	A	○						○		有	小	幹芯からコンクリート基礎までの距離1.0m。	●			A			
Y01-032		シイノキ	14.0	239	7.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.60	A		○					○		有	小	根元に開口空洞(小)、ミツバチの営巣あり。 幹芯から土留めまでの離隔距離1.0m。 斜面に位置する。	●			A			
Y01-033		シイノキ	7.0	81	4.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B		○		○					無	中	断幹されており、樹形が崩壊している。 斜面に位置する。	●			B			

資料表 2.2-1(56)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		野球場三塁側															調査日		2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日																	
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考					伐採理由		
樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
Y01-034		ケヤキ	20.0	292	14.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B	○						○		有	小	根元・幹H0.0m～2.5mに樹皮欠損(中)が2箇所あり。 ぶつ切り剪定されている。 幹芯からコンクリート基礎までの距離2.2m。 斜面に位置する。	●			B			
Y01-035		イスノキ	8.0	62	4.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.65	A		○		○					無	小	斜面に位置する。	●			A			
Y01-036		マテバシイ	5.0	2本立	3.5	79,59	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	中	大枝H2.5mに開口空洞30×15(69)×8/20あり。 枝にてんぐ巣病の症状あり。 枯枝(東H2.5m) Φ10, L=1.2mあり。 樹勢は普通であり、根鉢の確保ができ移植は可能。	●			B			
Y01-037		ケヤキ	11.0	149	7.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○		○					有	中	幹H0.5mに開口空洞・腐朽15×5(150)×12/40、巻込み(良)あり。 幹芯から電柱までの距離1.7m。 開口空洞問題無く、移植可能。	●			B			
Y01-038		ユズリハ	4.0	24	3.0	-	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.20	A	○			○					有	無	若木である。 記念樹の立看板あり。 幹芯から土留め壁までの距離0.5m。		●		A			
Y01-041		シイノキ	8.0	195	6.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小	根元・幹に開口空洞55×10(196)×15/50あり。 幹H2.5mに開口空洞20×5(150)×10/30あり。 根元・幹に打診音異常あり。幹にコフキタケの発生あり。 樹形に乱れあり(樹冠に道路側への大きな偏り)。 大枝に腐朽(中)あり。 万年塀が根元にあり。 斜面に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y01-042		ケヤキ	16.0	260	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離1.7m。 大枝に剪定痕が多数あり。 強剪定後の萌芽樹である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-043		シイノキ	11.0	207	8.0	-	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	1.0	1.0	2.10	B			○				○		有	無	幹芯から土留めまでの離隔距離1.4m。 樹形に乱れあり不適(樹冠に道路側への大きな偏り、樹幹傾斜)。 幹H3mにコフキサルノコシカケあり。 幹H4.5mに開口空洞あり。 枯枝(西側歩道上H4.5m) Φ15, L=2m、ほか多数あり。要切除。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-044		シイノキ	11.0	253	6.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	根元・幹に打診音異常(大) H0.0～1.5mあり。 鋼棒貫入異常あり。 大枝に剪定痕からの腐朽20×20(北側H1m)、15×10(西側H1m)、20×20(南H1.4)あり。 根元から幹に腐朽が多く、軽減剪定が必要である。 土留め壁が根元にあり。 斜面に位置する。	●			B			
Y01-045		イヌツゲ	3.5	3本立	2.0	33,24,14	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.80	B		○		○					無	中	幹H1.5mに開口空洞(小)、巻込みあり。 3本立の主幹(C33)の高さH2mより上部が枯死している。	●			A			
Y01-047		シイノキ	8.0	96	6.0	-	3.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.85	B			○					○	有	大	根元に開口空洞40×10×20/35(芯達)、打音異常あり。 樹幹傾斜(道路側)、片枝樹形である。 土留め壁が根元にあり。	●			B			
Y01-048		シイノキ	11.0	172	10.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○					○		有	小	大枝に樹皮欠損(中)が多数あり。 幹芯からコンクリート基礎までの距離1.7m。	●			A			
Y01-049		シイノキ	8.0	170	7.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.85	B			○				○		有	無	大枝に樹皮欠損(小)が2箇所あり。 大枝が看板に接触している。 幹芯から看板基礎までの離隔距離0.9m、歩車道縁石までの離隔距離0.9m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-050		イチョウ	14.0	393	6.0	-	2.5	2.0	3.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○						○	有	無	幹H0.7m～1.8mに開口空洞120×50(390)×30/100ほか、3箇所、打音異常(大)あり。 縁石が根元にあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

資料表 2.2-1(57)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		野球場三塁側	調査日	2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
Y01-051		ケヤキ	20.0	267	10.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		無	無	露出根あり。 幹芯からアスファルト舗装までの距離2.3m、マンホールまでの距離2.7m。	●			B			
Y01-052		シイノキ	11.0	135	6.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.75	A		○		○					無	小	根元・幹に打音異常H0.0m～0.8mあるが移植には問題ない程度。	●			A			
Y01-053		イチョウ	17.0	285	8.5	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○				○			有	無	幹H0.4m～1.6mに開口空洞(小)が3箇所、打診音異常(小)あり。 根鉢が大きいが、場内であれば移植はできる。 樹冠を構成する大枝の剪定状態についても良好である。	●(赤)			B			
Y01-054		カイヅカイブキ	3.0	28	0.8	-	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○				○		有	中	樹冠が小さい。 フェンスが近接している。 幹芯から万年塀までの距離0.6m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-055		カイヅカイブキ	3.0	19	0.9	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)は、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-056		カイヅカイブキ	3.0	23	0.9	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-057		カイヅカイブキ	3.0	26	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-058		カイヅカイブキ	3.0	24	0.9	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-059		カイヅカイブキ	3.0	23	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-060		カイヅカイブキ	3.0	20	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-061		カイヅカイブキ	3.0	23	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y01-062		カイヅカイブキ	3.0	23	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-063		カイヅカイブキ	3.0	25	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-064		カイヅカイブキ	3.0	23	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-065		カイヅカイブキ	3.0	27	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-066		カイヅカイブキ	3.0	24	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●

資料表 2.2-1(58)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考（開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)）	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
エリア名		野球場三塁側															調査日		2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日																	
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
Y01-067		カイヅカイブキ	3.5	30	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-068		カイヅカイブキ	3.0	26	0.8	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-069		カイヅカイブキ	3.5	26	0.9	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-070		カイヅカイブキ	3.5	28	0.9	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-071		カイヅカイブキ	3.5	31	0.9	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○				○		有	無	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
Y01-072		ケヤキ	17.0	286	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	無	大枝H7mに開口空洞あり。 幹芯から万年塀までの離隔距離1.4m、土留めまでの離隔距離2.3m。 大きな柱に近接。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y01-083		ソロ	13.0	154	8.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	無	根元・幹H0.0m～3.0mに開口空洞、打診音異常あり。 幹芯から万年塀までの離隔距離0.8m、土留めまでの離隔距離2.2m。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

資料表 2.2-1(59)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名	野球場一塁側	調査日	2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号		樹種名	規格				活力度											保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	樹端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧							
							1～4評価						1～4評価						該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-001		シイノキ	13.0	243	11.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.00	B		○					○		有	小	根元・幹に打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 巻き根(大)あり。 腐朽枝φ30(西側)あり。小枝に枯れが散在する。 コンクリートブロックの植栽帯内に位置する。	●			B			
Y02-002		イスノキ	8.0	89	4.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 コンクリートブロックの植栽帯内に位置する。	●			B			
Y02-003		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	－	4.0	4.0	4.0	3.5	4.0	4.0	3.0	3.0	3.0	1.0	3.35	D			○				○		有	大	樹形・樹勢が悪く、上部に枯枝多数あり。 根元の掘らぎ(大)あり。 電源盤に近接している。 コンクリートブロックの植栽帯内に位置する。	●			D			
Y02-004		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	－	3.5	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.70	C			○				○		有	大	片枝樹形である。 コンクリートブロックの植栽帯内に位置する。	●			C			
Y02-006		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.45	B			○				○		有	中	巻き根あり。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。 コンクリートブロックの植栽帯内に位置する。	●			B			
Y02-007		カイヅカイブキ	3.0	35	1.0	－	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.60	C			○				○		有	中	根元の掘らぎ(小)、巻き根(小)あり。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			C			
Y02-008		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	－	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	1.0	2.50	B			○				○		有	中	根元の掘らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片側に枝がなく、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
Y02-009		カイヅカイブキ	3.0	31	1.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.60	C			○				○		有	中	片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			C			
Y02-010		カイヅカイブキ	3.0	33	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	電源盤と照明に近接している。 樹木番号Y02-11ケヤキに近接している。	●			B			
Y02-011		ケヤキ	15.0	255	18.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B	○						○		有	無	巻き根(大)あり。 大枝の相互接触、食い込みあり。 隣木のサンゴジュと接触している。 照明に近接している。	●			B			
Y02-013		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	根元の掘らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 照明に近接している。 樹木番号Y02-11ケヤキに近接している。	●			B			
Y02-014		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.30	B		○					○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-015		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	電源盤に近接している。	●			B			

資料表 2.2-1(60)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側																調査日		2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日															
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-016		カイヅカイブキ	3.0	33	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-017		カイヅカイブキ	3.0	33	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-018		カイヅカイブキ	3.0	33	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片側に枝がなく、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
Y02-019		カイヅカイブキ	3.0	32	1.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	根元の揺らぎ(中)あり。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-020		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-021		カイヅカイブキ	3.0	37	1.0	–	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 片枝樹形である。 電源盤に近接している。	●			B			
Y02-022		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		有	中	樹木番号Y02-23ケヤキに近接しており、移植時の根鉢確保困難。	●			B			
Y02-023		ケヤキ	14.0	220	15.0	–	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B	○						○		有	小	断幹されており、切断部に腐朽あり。 ぶつ切り剪定されている。 高さH1.0mで、2分岐しており、入り皮状態にある。 幹に打音異常(小) H1.0～2.0mあり。	●			B			
Y02-024		ケヤキ	10.0	221	9.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○				○		有	無	ぶつ切り剪定されている。 剪定痕の腐朽、剪定痕からの枯損・枯枝が複数あり。 電源盤に近接している。 石積の植栽帯に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-028		カイヅカイブキ	3.0	44	2.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		無	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-029		カイヅカイブキ	3.0	43	2.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		無	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-030		カイヅカイブキ	3.0	39	2.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		無	無	石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-031		カイヅカイブキ	3.0	37	1.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		無	小	根元の揺らぎ(小)あり。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(61)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名		野球場一塁側																	調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日															伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-032		カイヅカイブキ	3.0	36	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		無	小	根元の揺らぎ(小)あり。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-033		カイヅカイブキ	2.9	31	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	中	樹高が3m以下である。 隣接するプラタナスからの被圧あり。 石積の植栽帯に位置し、電気のマンホールにも近接する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-034		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		有	中	石積の植栽帯に位置し、マンホールにも近接する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-035		カイヅカイブキ	3.0	38	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-036		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-037		カイヅカイブキ	2.8	32	0.9	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.05	C			○					○	無	大	樹高が3m以下である。 石積の植栽帯に位置する。 被圧により北側の枝しかなく樹形不良である。 活力度が悪く移植後の健全な生育が困難。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-038		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-039		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.0	2.80	C			○				○		無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹木番号Y02-053シイノキからの被圧あり。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-040		カイヅカイブキ	3.0	31	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.0	2.80	C			○				○		無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹木番号Y02-054マテバシイからの被圧あり。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-041		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.0	2.80	C			○				○		無	大	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 樹木番号Y02-054マテバシイからの被圧あり。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-042		カイヅカイブキ	2.8	28	0.9	–	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.0	2.90	C			○					○	無	大	樹高が3m以下である。 被圧(大)あり樹形不良である。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(62)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名			野球場一塁側														調査日				2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日															
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-043		カイヅカイブキ	2.9	28	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	中	樹高が3m以下である。 樹木番号Y02-055シイノキからの被圧あり。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-044		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○				○		無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-045		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○				○		無	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-046		カイヅカイブキ	3.0	30	1.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○				○		無	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 活力度が悪く、樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-047		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B			○				○		無	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-048		カイヅカイブキ	3.0	35	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○				○		無	中	根元の揺らぎ(小)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-049		カイヅカイブキ	3.0	32	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-050		カイヅカイブキ	3.0	39	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B			○				○		有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 石積の植栽帯に位置する。 樹形に乱れあり、樹形不良(片枝樹形)。移植後の回復見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-051		プラタナス	15.0	187	9.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B		○			○				有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 ぶつ切り剪定が多数あり。 幹(北側)H0.3mに大きな傷の巻き込みによる肥大あり。 斜面に位置する。		●		B			
Y02-052		プラタナス	14.0	124	7.0	–	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.95	B		○			○				有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 ぶつ切り剪定、幹に樹皮欠損が多数あり。 大枝付け根(南側)に開口空洞(小)あり。 変電設備のマンホールに近接している。		●		B			
Y02-053		シイノキ	11.0	172	10.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	根元・幹に打音異常(小) H0.0m～2.5mあり。 幹(北側)H2.5mに開口空洞 12×5×30/45(芯達)、ハチの巣あり。 幹に背着生キノコあり。大枝にキノコあり。枯枝あり。 変電設備のマンホールに近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-054		マテバシイ	7.0	75	5.0	–	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	1.0	2.65	C			○				○		有	大	樹幹傾斜(北側)(中)あり。ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 枝に多芽症状あり。 樹木番号Y02-053シイノキ、Y02-062ケヤキからの被圧あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

資料表 2.2-1(63)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側																調査日			2023年 5月 22日 ～ 2023年 5月 24日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》				2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-055		シイノキ	7.5	61	4.0	−	3.0	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	3.5	3.0	1.0	2.50	B			○				○		有	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 胴吹き枝が多数あり。 樹木番号Y02-057ケヤキ、Y02-062ケヤキからの被圧あり。 斜面に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-056		マテバシイ	6.0	107	2.5	−	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	3.5	2.5	3.0	2.5	1.0	3.15	C			○				○		有	中	幹(西側)H1.0mに開口空洞 90×15(貫通)あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m～2.5mあり。 主幹の枯れ下がりあり。幹折れの可能性あり。 ポンプ、配管、制御盤に近接している。 活力度が悪く移植後の健全な生育が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-057		ケヤキ	15.0	212	10.0	−	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		有	小	幹分岐部に入り皮あり。 ぶつ切り剪定が多数あり。スタブカット(切り残し枝)の枯損あり。 貯水槽に近接し、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-058		マテバシイ	6.5	147	5.0	−	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.10	B			○				○		有	小	胴吹き枝が多数あり。 幹上部に電信柱のワイヤー支線が掛けられている。 貯水槽に近接し、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-061		ムクノキ	14.0	164	12.0	−	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.95	B			○				○		有	大	巻き根(中)あり。 片枝樹形である。 樹木番号Y02-062ケヤキからの被圧あり。 貯水槽に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-062		ケヤキ	14.5	230	15.0	−	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.85	B		○				○			有	小	大枝(西側)に樹皮欠損(穿孔性虫害の食害痕)あり。打音異常(小) H1.5～2.0mあり。 深植え状態にある。 貯水槽に近接する。		●		B			
Y02-076		ヒトツバタゴ	5.0	69	4.0	−	1.0	1.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○					○		有	中	ぶつ切り剪定が複数あり。 斜面に位置する。 倉庫に近接している。	●			A			
Y02-086		マテバシイ	3.5	190	3.8	−	3.5	3.0	4.0	3.5	3.5	3.0	2.5	3.0	2.5	1.0	2.95	C			○					○	有	大	大枝・幹に腐朽(大)あり。 幹に打音異常(大) H0.5～1.5mあり。 大枝に開口空洞(大)あり。 テニスコートに近接している。	●			C			
Y02-087		マテバシイ	8.0	142	7.0	−	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	小	枝に多芽症状あり。 ひこばえが多数あり。 斜面に位置する。 テニスコート、フェンスに近接している。	●			B			
Y02-088		ユズリハ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	−	−	C			
Y02-089		サンゴジュ	4.0	2本立	1.5	33,15	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1.0	3.25	C			○					○	無	大	斜面に位置する。 テニスコートに近接している。 活力度が悪く、移植後に健全な状態への回復は難しい。	●			C			
Y02-090		ユズリハ	5.5	80	3.0	−	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.65	C			○				○		有	大	幹に樹皮欠損30×10cm、H1.5～2.0mあり。 ぶつ切り剪定が多数あり。 上記状態は、移植後も健全な状態への回復は難しい。 斜面に位置する。	●			C			
Y02-091		サンゴジュ	3.0	21	1.0	−	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1.0	3.25	C			○				○		有	大	テニスコートに近接している。 活力度が悪く、移植後に健全な状態への回復は難しい。	●			C			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(64)　【変更後】毎木調査結果表

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	野球場一塁側						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023年 5月 22日 ～ 2023年 5月 24日	該当に●			ABCD			
Y02-092		ユズリハ	6.0	80	3.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.50	B			○				○		有	大	根元に開口空洞からの腐朽あり。 幹H1.5mに開口空洞あり。 根元・幹に打音異常(小) H0.0m～1.0mあり。 フェンスとテニスコートに近接している。	●			C			
Y02-093		ユズリハ	5.0	2本立	3.5	81,64	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.50	B			○				○		有	大	巻き根あり。 幹H0.5m～1.2mに樹皮枯死あり。 根元・幹に打音異常(中) H0.0～2.5mあり。 双幹の片側は枯死している。	●			B			
Y02-094		ユズリハ	5.0	2本立	4.0	80,65	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.25	B		○					○		有	大	大枝に腐朽、大枝付け根に入り皮あり。 巻き根あり。	●			B			
Y02-095		ツバキ	3.5	2本立	1.8	17,15	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	中	Y02-095,Y02-096,Y02-097は群植されており、単木では被圧(中)により枝葉量が少なく、樹勢・樹形不良である。 雨水桝が近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-096		ツバキ	3.5	3本立	2.5	25,18,17	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	大	Y02-095,Y02-096,Y02-097は群植されており、単木では被圧により枝葉量が少なく、樹形不良である。 被圧密植で単木での移植後の樹形・樹勢回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-097		ツバキ	3.5	3本立	2.2	24,24,20	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○				○		無	大	Y02-095,Y02-096,Y02-097は群植されており、単木では被圧により枝葉量が少なく、樹形不良である。 被圧密植で単木での移植後の樹形・樹勢回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-098		ツバキ	3.5	4本立	2.5	26,25,17,13	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	ツバキが群植されている。		●		B			
Y02-099		ツバキ	3.5	2本立	2.5	18,13	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	ツバキが群植されている。		●		B			
Y02-100		ウバメガシ	4.0	34	2.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	無	大	周辺木と近接している。被圧・密植で枝葉少なく、移植後の樹形・樹勢回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-101		ウバメガシ	4.0	2本立	3.0	24,19	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	無	大	幹が屈曲している。 周辺木と近接している。被圧・密植で枝葉少なく、移植後の樹形・樹勢回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-102		ウバメガシ	4.0	24	1.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	無	大	周辺木と近接している。被圧・密植で枝葉少なく、移植後の樹形・樹勢回復は見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-103		ヒマラヤスギ	20.0	315	13.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	有	小	下枝にスタブカット(切り残し枝)が多数あり。 縁石の押し上げあり。 深植え状態にある。 駐車場の植桝内に位置する。狭小な植桝(0.6x0.6m)である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-104		プラタナス	15.0	211	6.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B		○			○				有	中	幹H4.0mに樹皮欠損 20×15が2箇所あり。 スタブカット(切り残し枝)に開口空洞が数か所あり。 ぶつ切り剪定されている。 深植え状態にある。 コンクリートブロックに囲まれた植栽帯内に位置する。 上記あるものの、移植を行うことはできる。		●		B			

資料表 2.2-1(65)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：野球場一塁側　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-105		フウ	5.0	63	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○		○				有	大	高さH2.1mの梢端切除部に開口空洞あるが、移植はできる状態となっている。 コンクリートブロックに囲まれた植栽帯内に位置するが根鉢確保可能。			●	B			
Y02-106		マンシュウカエデ	12.0	2本立	7.5	145,134	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○			○				有	中	幹H3mに開口空洞 20×12(巻き込み中)あり。 擁壁を壊わすことで根鉢確保が可能である。		●		B			
Y02-107		ケヤキ	20.0	211	11.0	－	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○				○		有	小	幹に打音異常(小) H1.0～2.5mあり。 深植え状態にある。 縁石の押し上げあり。 ブロックと舗装に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-108		モッコク	3.5	3本立	3.0	36,35,35	2.5	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	中	大枝に枝折れ痕、樹皮欠損が複数あり。移植樹として不適である。 根元は2本立ちである。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-109		ヒトツバタゴ	4.5	37	2.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B			○				○		無	大	ぶつ切り剪定されている。 被圧による樹形に乱れがあり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-110		ヒトツバタゴ	4.5	29	2.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○				○		無	大	北側の大枝に枯枝あり。 ぶつ切り剪定されている。 樹形に乱れあり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-111		ヒトツバタゴ	6.0	60	4.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B		○			○				無	中	幹H2mに樹皮欠損 10×8あり。 ぶつ切り剪定されている。		●		B			
Y02-112		クロマツ	16.0	101	3.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.20	B			○				○		無	小	下枝がかなり高い位置にある。 樹形に乱れあり(H10mまで下枝なし)、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-113		コウヤマキ	7.0	59	3.0	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	2.0	1.0	3.00	C			○					○	有	大	双幹の一方が断幹されている。 幹H2.5mに樹皮欠損150×10あり。 幹に打音異常(小) H0.5～1.0mあり。 幹に樹皮欠損多数あり。 幹全体におよぶ腐朽が大きく、下枝が高く、枝葉量が少ない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
Y02-114		メタセコイア	21.0	275	11.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○				○		有	小	過去にぶつ切り剪定されている。 舗装の押し上げあり。 舗装に囲まれる。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y02-115		マテバシイ	8.0	93	4.0	－	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.15	B			○				○		有	中	枯枝が数か所あり。 多芽症状あり。 深植え状態にある。 細い電柱に近接している。 樹形に乱れあり(樹幹傾斜)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-116		フウ	15.0	161	5.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	大	幹H1.2mに断幹痕からの開口空洞 20×19(160)×10あり。 深植え状態にある。 LPガス警報器に近接している。	●			B			
Y02-117		カラタネオガタマ	4.0	2本立	2.0	20,16	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.10	B			○				○		無	小	梢端切除されており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

資料表 2.2-1(66)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側																調査日			2023年 5月 22日 ～ 2023年 5月 24日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-118		カラタネオガタマ	4.0	2本立	3.0	21,13	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		無	中	梢端切除されており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-119		ヒマラヤスギ	21.0	165	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○				○				有	無	深植え状態にある。 盛土あり。 隣木(Y02-120モチノキ)と根鉢が重複するするため、モチノキを移植しない場合は根鉢が確保できる。		●		B			
Y02-120		モチノキ	11.0	2本立	4.0	77,50	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	深植え状態にある。 盛土あり。 被圧による樹形に乱れ(樹幹傾斜)あり。隣木ヒマラヤスギと競合。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-121		カラタネオガタマ	3.0	2本立	2.0	19,16	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	枝葉少なく、移植後に健全な状態への回復が困難。	●			B			
Y02-122		フウ	5.0	120	2.5	-	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.70	C			○					○	無	大	断幹されている。幹H3mから上部が枯損している。 チャアナタケモドキの発生あり。 樹形が崩壊している。	●			B			
Y02-123		プラタナス	21.0	263	6.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		無	中	ぶつ切り剪定されている。 深植え状態にある。 斜面に位置する。	●			B			
Y02-124		クスノキ	18.0	185	8.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	ぶつ切り剪定されている。 やや深植え状態にある。 根がフェンスに接触しており、移植時の根鉢確保困難。	●			B			
Y02-125		フウ	13.0	117	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	中	深植え状態にある。 斜面に位置するが、萌芽力があり移植可。	●			B			
Y02-126		カラタネオガタマ	3.0	2本立	3.0	10,7	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	大	幹(双幹)に樹皮枯死(大)あり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
Y02-127		カラタネオガタマ	3.5	3本立	2.5	26,13,10	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中	断幹されている。	●			B			
Y02-128		カラタネオガタマ	4.0	3本立	2.5	30,18,9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	梢端切除されている。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-129		カラタネオガタマ	4.0	23	2.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中		●			B			
Y02-130		ソメイヨシノ	15.0	230	12.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	中	幹(南側)H1.0mに開口空洞 25×13×5あり。 幹に樹皮欠損・腐朽 22×10(230)あり。 幹に打音異常(小) H0.5～1.2mあり。 深植え状態にある。 フェンスが近接している。	●			A			

資料表 2.2-1(67)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側																調査日		2023 年 5月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-131		シイノキ	15.0	195	7.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	ひこばえが多数あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
Y02-132		イヌツゲ	4.5	2本立	3.0	26,16	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中	枝抜け痕が数か所あり。	●			B			
Y02-133		ソメイヨシノ	15.0	255	10.0	－	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	中	幹(南側)H1.0mにコフキサルノコシカケの子実体あり。 根元・幹(南側)H0.0～1.4mに樹皮枯死・欠損 140×80(260)あり。 樹幹傾斜あるが、上部で持ち直している。 胴吹きが多数あり。 フェンスが接触している。	●			B			
Y02-134		マテバシイ	2.5	4本立	2.0	6,5,5,5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	中	樹高が3m以下である。 伐採後のひこばえ伸長状態である。	●			B			
Y02-135		ツバキ	4.5	57	4.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	ひこばえが多数あるが、移植は可能。	●			B			
Y02-136		サンゴジュ	－	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	－	－	枯損している。	※	－	－	C			
Y02-137		サンゴジュ	－	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	－	－	枯損している。	※	－	－	C			
Y02-139		サンゴジュ	3.2	22	1.0	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.95	C			○					○	無	大	断幹されている。 下枝が少ない。	●			C			
Y02-140		サンゴジュ	3.6	20	2.0	－	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.70	C			○					○	無	大	下枝がなく、樹形不良で移植後に健全な状態への回復が見込めない。	●			C			
Y02-142		サンゴジュ	3.6	22	2.0	－	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	無	大	断幹されている(樹形不良)。 葉の食害あり(サンゴジュハムシ)。	●			C			
Y02-146		サンゴジュ	3.2	18	1.8	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.60	C			○					○	有	大	フェンスが近接している。 活力度が悪く、移植後に健全な状態への回復は難しい。	●			C			
Y02-151		ソメイヨシノ	14.0	191	10.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	中	樹幹傾斜あり。 胴吹き枝の剪定痕が多数あり。 スタブカット(切り残し枝)、腐朽あり。 斜面に位置する。 コンクリートパイプが根元にあり。 テニスコートのフェンスが近接している。	●			B			
Y02-152		ヒイラギモクセイ	4.5	46	5.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○					○		有	大	ひこばえが、多数あり。 コンクリートパイプが、根元にあり。 テニスコートのフェンスが、近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(68)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：野球場一塁側　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-153		ソメイヨシノ	16.0	245	15.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	中	樹幹傾斜(小)(車道側)あり。 胴吹き枝が多数あり。 道とのフェンスが近接している。	●			B			
Y02-154		サンゴジュ	3.5	21	2.0	–	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.80	C			○					○	無	大	被圧により葉量が少ない。 葉の食害あり(サンゴジュハムシ)。	●			C			
Y02-155		ムクノキ	4.0	22	2.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		無	大	樹皮欠損10×10あり。 断幹されている。 実生の若木で下枝がなく回復の見込みがない。	●			A			
Y02-157		ネズミモチ	3.5	6本立	3.0	22,20,19,15,12,10	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	大	ぶつ切り剪定されており、移植後に健全な状態への回復が見込めない。	●			B			
Y02-158		シイノキ	10.0	168	8.0	–	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	大	断幹されている。 根元・幹に打音異常(大) H0.0m～2.5mあり。 幹H1.4mの大枝剪定痕にコフキタケの発生あり。 スタブカット(切り残し枝)からの開口空洞が4箇所あり。 深植え状態にある。	●			B			
Y02-159		シイノキ	14.0	199	9.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○						○		無	中	移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
Y02-160		トウネズミモチ	5.0	40	3.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	大	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
Y02-161		サルスベリ	6.0	54	4.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		無	大	穿孔性虫害あり。 樹形に乱れあり(樹幹傾斜)、幹に開口空洞あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-164		モチノキ	6.0	37	3.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	中	深植え状態にある。	●			B			
Y02-165		ヒサカキ	3.2	2本立	1.5	26,15	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					無	大	移植可能	●			B			
Y02-166		ヒサカキ	3.5	19	2.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.0	1.95	B		○		○					無	大	移植可能	●			B			
Y02-167		ヒサカキ	3.5	21	2.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	移植可能	●			B			
Y02-168		ヒサカキ	3.5	30	4.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	移植可能	●			B			

資料表 2.2-1(69)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側															調査日		2023 年　5 月　22 日　～　2023 年　5 月　24 日																
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-170		フウ	11.0	90	2.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	大	高さH5.0mで断幹されている。 深植え状態にある。	●			B			
Y02-171		シラカシ	8.0	120	6.0	－	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	大	幹(北側)H2.0mに開口空洞 20×8×18/33(芯達)あり。 根元・幹に打音異常(中) H0.0m～2.5mあり。 トイレとのフェンスが近接している。	●			B			
Y02-172		トウカエデ	11.5	160	8.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○				○		有	中	根が階段にくい込んでいる。 縁石の押し上げあり。 トイレ脇の植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y02-173		ソメイヨシノ	13.0	273	13.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B	○						○		有	中	根元にベッコウタケの発生あり。 縁石の押し上げあり。 巻き根あり。 植桝内に位置する。	●			A			
Y02-174		プラタナス	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	※	－	－	C			
Y02-175		ツバキ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	枯損。	※	－	－	A			
Y02-176		クロガネモチ	14.0	135	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		有	中	片枝樹形である。 トイレに近接する。	●			B			
Y02-177		トウネズミモチ	3.0	19 (H0.5)	2.0	－	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.10	B			○					○	無	中	樹幹傾斜(中)あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
Y02-178		トウネズミモチ	5.5	2本立	4.0	45,42	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
Y02-179		ツバキ	3.0	3本立	2.0	22,16,11	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	フェンスが近接している。	●			B			
Y02-180		ネズミモチ	3.0	18	1.5	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	中	フェンスが近接している。	●			B			
Y02-181		トウネズミモチ	8.0	3本立	5.0	68,49,43	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.70	A			○					○	有	中	トイレに近接している。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
Y02-182		ツバキ	5.0	64	3.0	－	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.85	B			○					○	有	小	幹に開口空洞(大)(H0.7m～1.8m、深さ18cm)(芯達)あり。 建物に近接しており、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(70)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名			野球場一塁側															調査日			2023 年　5 月　22 日　～　2023 年　5 月　24 日													伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-183		サンゴジュ	6.5	80	4.0	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.20	B			○				○		有	中	ブロック塀に近接している。 樹形に乱れあり(樹幹傾斜、下枝が高い)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-184		ボダイジュ	18.0	191	10.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○						○		有	小	巻き根あり。 建物と樹木に近接している。	●			A			
Y02-185		モッコク	5.5	3本立	4.0	56,52,41	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.10	B		○					○		有	中	根元に開口空洞(中)あり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-186		ケヤキ	20.0	217	14.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.5	1.5	1.0	1.85	B	○						○		有	小	幹H2.5mに開口空洞 深さ5cmあり。 幹に打音異常(小) H2.0m～2.5mあり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-187		ツバキ	6.0	49	4.0	－	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	小	幹H1.5mに樹皮欠損(小)あり。	●			B			
Y02-188		トウカエデ	－	－	－	－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	－	－	枯死している。	※	-	-	B			
Y02-189		イスノキ	4.5	14	0.7		3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○				○		有	中	ブロック塀に近接している。 実生木と思われ、イスノキ3本Y02-189,Y02-190,Y02-191が密植し、単木では樹形に乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-190		イスノキ	4.5	16	1.5	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○				○		有	中	ブロック塀に近接している。 実生木と思われ、イスノキ3本Y02-189,Y02-190,Y02-191が密植し、単木では樹形に乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-191		イスノキ	5.0	16	1.5	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○				○		有	中	ブロック塀に近接している。 実生木と思われ、イスノキ3本Y02-189,Y02-190,Y02-191が密植し、単木では樹形に乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-192		モチノキ	4.5	49	2.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.30	B		○		○					有	中	大枝H1.2mに腐朽(中)あり。大枝H2.5mに腐朽(中)あり。 葉にタイワントガリキジラミの虫害あり。 ブロック塀に近接している。		●		B			
Y02-193		イスノキ	9.0	123	6.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.80	B	○			○					有	小	大枝H2.0mに腐朽(中)あり。 ブロック塀に近接している。	●			A			
Y02-194		ヒサカキ	5.0	28	2.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.60	C			○					○	無	中	根元・幹にベッコウタケの発生あり。 幹H1.0mに開口空洞(小)あり。幹H1.2mに開口空洞(小)あり。幹H2.5mに開口空洞(小)あり。 大枝に枯枝あり。	●			B			
Y02-195		ソメイヨシノ	11.0	24	11.5	－	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.45	B			○				○		有	中	根元・幹に打音異常(小) H0.0m～1.2mあり。 大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽(大)、腐朽(中)が複数あり。 フェンスが近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(71)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：野球場一塁側　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考（開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元））	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-196	モチノキ	7.0	85	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	小	ブロック塀に近接している。	●			B			
Y02-197	トウネズミモチ	8.0	2本立	5.0	90,42	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	有	中	大枝H1.2mに腐朽(中)あり。 ブロック塀に近接している。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
Y02-198	ツバキ	4.0	2本立	4.0	60,35	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.75	A		○					○		有	小	幹H1.0m～1.5mに腐朽(小)が8箇所あり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-200	ツバキ	5.0	75	4.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○		○					有	中	大枝付け根H1.2mに樹皮欠損(中)あり。 大枝H2.0mに樹皮欠損(中)あり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-202	ヤエザクラ	8.0	2本立	9.0	122,81	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○					○		有	中	幹に打音異常0.5m～1.0mあり。 幹H1.0mに腐朽(中)あり。	●			B			
Y02-209	ソメイヨシノ	10.0	297	16.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.35	B	○						○		有	小	根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.6mあり。 大枝H3.0m～3.5mに亀裂あり。 大枝付け根H2.5mに剪定痕からの腐朽(大)あり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-246	ヒマラヤスギ	18.0	255	12.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A			○				○		有	小	コンクリート基礎に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
Y02-247	クロマツ	15.0	157	9.5	－	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B	○						○		有	小	コンクリート基礎に近接している。 樹木番号Y02-248モチノキと根元が近接している。	●			A			
Y02-248	モチノキ	7.0	57	2.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○					○		有	小	葉にタイワントガリキジラミの虫害あり。 コンクリート壁に近接している。 樹木番号Y02-247クロマツと根元が近接している。	●			B			
Y02-249	クロマツ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。	※	－	－	B			
Y02-250	サカキ	7.5	76	4.5	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	1.0	2.5	1.0	1.85	B		○					○		有	小	幹H1.0mに開口空洞(中) 深さ10cmあり。 フェンスが近接している。	●			B			
Y02-251	ソメイヨシノ	11.0	208	12.0	－	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○					○	有	中	幹H0.5m～1.0mにベッコウタケの発生あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.3mあり。 スタブカット(切り残し枝)からの腐朽が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
Y02-257	ウバメガシ	7.0	4本立	5.0	95,89,46,31	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.75	A		○					○		有	中	根元に開口空洞(芯達)あり。 スタブカット(切り残し枝)からの腐朽が多数あり。 コンクリート土留めに近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(72)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名		野球場一塁側																調査日					2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日											伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-260		ヤマモモ	6.5	89	4.5	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.75	A		○					○		有	小	大枝付け根H2.5mに開口空洞(中) 深さ8cmあり。 コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-262		ヤマモモ	6.5	111	6.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○					○		有	小	幹H1.5mに開口空洞(中) 深さ12cmあり。 コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-263		モクセイ	3.5	7本立	2.5	43,30,30,28,26,25,19	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.70	A		○					○		有	小	コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-264		ヤマモモ	5.5	114	3.5	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	小	幹H1.2mに開口空洞(中) 深さ10cmあり。 コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-266		ヤマモモ	6.5	94	5.0	－	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○					○		有	小	コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-267		モクセイ	3.5	3本立	2.0	44,26,20	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		有	小	コンクリート土留めに近接している。	●			B			
Y02-268		ヤマモモ	6.0	121	3.0	－	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B			○				○		有	小	スタブカット(切り残し枝)が多数あり。 樹形に乱れ(左右のふところ枝の消失)あり。 コンクリート土留めに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-270		ヤマモモ	6.5	98	2.5	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				有	無	大枝H1.0にぶつ切り剪定痕からの腐朽(中)あり。 コンクリート土留めに近接している。		●		B			
Y02-272		メタセコイア	11.0	241	6.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		有	無	断幹されており、切断部φ40cmに腐朽あり。 コンクリート土留めに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-273		ネズミモチ	5.0	3本立	4.0	26,18,15	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	有	中	コンクリート土留めに、近接している。	●			B			
Y02-274		チャンチン	8.0	113	3.5	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○			○				有	無	大枝にぶつ切り剪定が多数あり、コンクリート土留めに近接しているが、移植はできる。 エリア内にて希少樹種である。		●		B			
Y02-275		ソロ	9.5	4本立	5.0	63,44,34,22	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○				○		有	中	根元に開口空洞(小)(芯達)、樹皮欠損・腐朽(小)あり。 大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽が多数あり。 隣木(Y02-0274チャンチン)からの被圧あり。 コンクリート土留めに近接している。 樹形に乱れあり(樹幹に傾き)。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
Y02-276		ソロ	9.5	4本立	5.5	71,60,59,32	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○			○				有	中	大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽が多数あり。 コンクリート土留めに近接している。 樹形は良好である。根鉢確保は可能である。		●		B			

資料表 2.2-1(73)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			野球場一塁側															調査日				2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5月 24 日												伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
Y02-287		トウカエデ	12.0	190	5.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○			○				無	無	幹H0.3mに開口空洞(中) 深さ25cmあり。 大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽(中)あり。 建物に近接している。斜面地に立地する。 移植後の萌芽や樹形回復が期待できる(樹種特性)。		●		B			
Y02-288		シイノキ	9.0	187	8.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	無	幹H0.5mに開口空洞(小) 深さ15cmあり。 シイサルノコシカケ様の子実体あり。 幹に打診音異常(小) H1.0～1.5mあり。 大枝に枯枝あり。 樹形・樹勢不良。 建物に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(74)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名			第二球場																調査日		2023 年 4 月 10 日 ~ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日													伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1~4評価						1~4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-001		シイノキ	13.5	296	12.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.60	A	○						○		有	小	幹H1.0mに開口空洞(中)あり。 大枝H7.5mに樹皮欠損(大)あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りがあるが葉量は充実している。	●			A			
YG-002		シイノキ	13.5	143	6.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.00	B		○					○		有	中	幹に開口空洞(中) H1.5m~2.5m、打音異常あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏り、被圧による樹形の乱れがあり。	●			A			
YG-003		シイノキ	13.5	212	8.0	-	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.70	A		○					○		有	小	幹H2.5mに開口空洞(中)、打音異常あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りあり。	●			A			
YG-004		モッコク	5.5	42	2.5	-	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.75	A		○		○					有	中	土留めの縁石が根元にあり。 周辺木からの被圧あり。	●			A			
YG-005		シイノキ	11.0	222	7.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.85	B		○					○		有	中	幹H1.8mに開口空洞(中)あり。 大枝H1.8mに開口空洞(中)が、数か所あり。 配電盤に近接する。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りあり。	●			A			
YG-006		シイノキ	12.5	296	13.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.80	B	○						○		有	中	幹H1.2mに開口空洞(中)(芯達)あり。 大枝H1.5mに開口空洞(中)あり。 土留めの縁石が根元にあり。 道路側に樹冠の偏りあり。	●			A			
YG-007		ヒトツバタゴ	6.0	38	4.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.85	B		○		○					無	中	樹冠の偏りあり。	●			B			
YG-008		ツバキ	3.0	3本立	2.0	31,35,21	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○		○					有	中	土留めの縁石が根元にあり。	●			B			
YG-009		シイノキ	9.0	186	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.70	A		○					○		有	無	土留めの縁石が根元にあり。 葉がやや小さい。	●			A			
YG-011		クスノキ	17.0	350	13.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	土留めの縁石が根元にあり。	●			A			
YG-013		シイノキ	10.0	179	7.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	2.20	B		○					○		有	小	根元H0.0mに開口空洞(大)(芯達)が複数あり。 枝に多芽症状あり。 葉が小さく、葉量がやや疎である。 枯枝あり。 土留めの縁石が根元にあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-014		サンゴジュ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ー	ー	枯損している。	※	-	-	C			
YG-015		ツバキ	2.8	4本立	2.0	30,30,20,21	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	中	樹高が3m以下である。 隣接YG-091シイノキの下に存する。 シイノキ側の枝葉がやや少ないが、他は良好。根回し済み。		●		B			
YG-016		シイノキ	9.0	197	10.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	小	幹H2.0mに開口空洞(中)あり。 ふところ枝がなく幹に開口空洞、大枝に樹皮欠損が多い。 土留めの縁石が根元にあり。 葉量がやや疎である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-017		シイノキ	8.0	170	5.5	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○						○	有	中	根元に開口空洞(小)あり。 幹H1.8mに開口空洞(中)、子実体(種不明)あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m~2.0mあり。 土留めの縁石が根元にあり。 梢端の葉が小さい。 傷が複数あり、キノコの広がりが見られる。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

資料表 2.2-1(75)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：第二球場　調査日：2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	
YG-019	ヒトツバタゴ	10.0	126	7.0	−	1.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					有	中	幹H2.0mに樹皮欠損(中)あり。 土留めの縁石が根元にあり。 樹勢・樹形が良好である。
YG-020	マテバシイ	7.5	2本立	7.0	92,81	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	中	土留めの縁石が根元にあり。縁石あるが移植可能。 双幹の片側に樹冠の偏りあり。 胴吹きが多い。てんぐ巣症状の枝が散在する。
YG-021	マテバシイ	9.0	113	5.0	−	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		有	中	片枝樹形である。 コンクリート基礎が根元にあり。 樹冠に偏りあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
YG-022	マテバシイ	9.5	112	6.0	−	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	小	コンクリート基礎が根元にあり。 ひこばえが多く、下枝が高い。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
YG-024	マテバシイ	10.0	113	7.0	−	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○				○				無	小	隣接樹木との距離が近いが移植できる。 移植樹として樹形維持も可能。
YG-025	マテバシイ	11.5	103	5.5	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B			○				○		無	中	隣接樹木との距離が近いが適正根鉢の確保がぎりぎり可。 樹形の乱れがあり(下枝が高い)、枯枝有り、移植後の回復が難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
YG-026	マテバシイ	5.5	2本立	4.0	45,43	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		無	中	隣接樹木との距離が近く、根鉢の確保が困難である。 被圧による樹形の乱れがあり(樹幹に傾き、枝の分布に偏り)、移植後の回復が難しい。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
YG-027	マテバシイ	3.2	14.9	2.5	−	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		無	中	幹に枯死あり。 株立ちになっている。 隣接樹木との距離が近く、根鉢の確保が困難である。 樹形に乱れがあり(高さ1mで断幹)、移植後の回復が難しい。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
YG-028	マテバシイ	9.5	91	5.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				無	中	隣接樹木との距離が近い。 YG-027マテバシイの撤去により、根鉢確保が可能である。 樹形維持も可能。 隣木(YG-024マテバシイ)の被圧あり、剪定は不要。(根回し済み)
YG-029	ネズミモチ	5.0	31	3.0	−	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.60	C			○					○	無	大	根元に開口空洞(大)あり。 葉に虫害あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
YG-030	サンゴジュ	3.2	33	2.0	−	4.0	4.0	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	3.75	D			○					○	無	大	株の1本が裂けたことによる樹皮欠損(大)あり。 根元に揺らぎあり。 樹冠に偏りあり。 樹勢が衰退し、枯死寸前の状態である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
YG-031	マテバシイ	10.0	142	5.5	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					無	中	根元にフラス、根元から幹(H0～0.8m)にキクイムシの穿孔痕あり。
YG-032	マテバシイ	7.5	120	6.0	−	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	無	コンクリート壁に近接する。 ひこばえが多数あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
YG-033	ヒトツバタゴ	4.5	33	2.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					有	大	樹冠に偏りあり。 コンクリート壁に近接する。
YG-034	マテバシイ	7.0	91	3.5	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	中	大枝H2.0mに腐朽(中)あり。 土留めの石積みが根元にあり。 樹形の乱れがあり(枝の分布に偏り)、移植後の回復が難しい。 てんぐ巣症状の枝が散在する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
YG-035	マテバシイ	2.7	3本立	2.0	23,17,15	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					有	中	株立ち状態にある。 土留めの石積みが根元にある。 根回しを終えている。

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-019		●		B			
YG-020		●		A			
YG-021			●	A		●	
YG-022			●	A		●	
YG-024		●		A			
YG-025			●	A			●
YG-026			●	B		●	
YG-027			●	A		●	
YG-028		●		A			
YG-029			●	B			●
YG-030			●	C			●
YG-031		●		A			
YG-032			●	A		●	
YG-033		●		B			
YG-034			●	A			●
YG-035		●		B			

資料表 2.2-1(76)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
エリア名		第二球場					1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023年4月10日～2023年4月11日・10月26日	該当に●　●:変更樹木			ABCD			
YG-036		マテバシイ	4.5	2本立	4.5	43.29	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		有	大	樹冠に偏りあり。 コンクリート壁に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-037		シイノキ	11.0	236	12.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.40	B		○						○	有	無	幹H2.5mに開口空洞(中)あり。 大枝に腐朽が複数あり。 土留めの石積みが根元にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-038		サンゴジュ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	枯損している。	-	-	※	B			
YG-040		イヌツゲ	2.5	30	1.5	-	3.5	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.70	C			○					○	無	中	樹冠に偏りあり。上部枯れ下り対象外である。根回し済み、上部に枯下りがあり移植には適さないと判断される。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-042		シイノキ	6.5	109	4.5	-	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.0	1.95	B		○			○				有	小	ブロック塀に近接するが根鉢確保は可能である。		●		A			
YG-045		ケヤキ	10.0	160	7.0	-	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	1.5	1.0	2.85	C			○				○		有	小	ブロック塀に近接する。 大枝剪定痕からの枯れ下がり、大枝の枯損と枯枝が多く、樹形・樹勢が不良である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-046		サザンカ	3.3	2本立	3.0	44.21	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A		○				○			無	中	樹勢・樹高ほぼ良好傾向にあり、あまり大き過ぎず、根元構造物撤去で移植はできる。		●		A			
YG-047		マテバシイ	8.5	88	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	中	樹形にやや乱れあるが、樹勢ほぼ良好傾向にあり、根元構造物撤去で移植可。球場解体に伴い日当たり良好で、樹勢・樹形回復と根鉢確保が可能となり移植はできる。		●		A			
YG-050		ツバキ	3.2	2本立	2.0	20.17	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○		○					有	中	概ね問題なし。		●		B			
YG-051		ケヤキ	11.0	184	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	中	ぶつ切り剪定痕からの腐朽あり。 ブロック塀に近接し、掘り取り作業領域の確保が困難である。 強剪定による萌芽樹である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-052		マテバシイ	6.5	57	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	大	隣木からの被圧あり。枝の分布に偏り(敷地境界側)あり。 てんぐ巣症状の枝が散在する。移植後に健全な状態の維持が困難。 ブロック塀に近接する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-053		シイノキ	8.0	91	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.75	A		○		○					有	中	コンクリート基礎に近接するが、移植時の根鉢確保可能。 てんぐ巣症状の枝が散在する。		●		A			
YG-054		シイノキ	4.5	55	2.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	大	幹に樹皮欠損・腐朽あり。移植後の回復が困難。 ブロック塀に近接する。 樹冠にやや偏りあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-057		ケヤキ	10.0	157	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	中	大枝に剪定痕からの腐朽あり。 ブロック塀に近接する。 幹H3mで3分岐、内1本が枯損。剪定痕からの腐朽が多数あり。 強剪定後の萌芽樹である。 掘り取り作業領域の確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-058		マテバシイ	7.5	82	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	大	ブロック塀に近接する。 枝葉量は充実している。 樹形に極端な乱れがあり(隣木からの被圧、樹冠に偏り)、移植に伴う剪定後の回復が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●

資料表 2.2-1(77)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			第二球場															調査日		2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日																
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考					伐採理由		
樹木番号		樹種名	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-059		シイノキ	6.5	81	2.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					有	中	ブロック塀に近接する。 枝葉量は充実している。		●		A			
YG-060		サンゴジュ	4.0	4本立	2.0	41,21,33,39	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.0	3.10	C			○					○	有	大	大枝に樹皮欠損・腐朽あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-061		ケヤキ	11.5	170	7.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○				○			有	中	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.25m。 萌芽樹であるが根元構造物解体で移植はできる。		●		B			
YG-062		マテバシイ	8.5	94	3.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	大枝に剪定痕からの腐朽(中)が複数あり。 樹形に乱れと傾斜(隣木からの被圧、樹冠に偏り)がある。ブロック塀と樹木に近接する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-064		シイノキ	10.0	125	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B		○			○				有	小	樹形は良好である。 ブロック塀に近接するが根鉢はかろうじて確保可能である。		●		A			
YG-066		マテバシイ	8.0	73	4.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	小	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.0m。根元構造物撤去で根鉢確保可能。樹勢ほぼ良好傾向にある。球場解体で日照量増加し樹勢・樹形も回復傾向にあるため移植はできる。		●		A			
YG-068		シイノキ	4.5	53	2.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.30	B			○					○	有	大	幹に大枝剪定痕・腐朽(H1.1m)、開口空洞、樹皮欠損、断幹痕あり。 樹形崩壊傾向にあり、移植後に健全な状態への回復見込めない。 ブロック塀に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-070		ケヤキ	11.0	147	8.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	小	大枝に剪定痕からの腐朽が多数あり。移植後の回復は難しく不適。 ブロック塀に近接する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-071		サンゴジュ	4.0	4本立	2.5	41,39,31,27	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0	2.0	3.60	D		○					○		有	大	ブロック塀に近接する。 隣接樹木との距離が近い。 虫害(サンゴジュハムシ)あり、葉量が疎である。 規格や活力度などから樹形・生育不良。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-072		マテバシイ	6.5	62	3.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C		○		○					有	中	ブロック塀に近接する。移植可。 てんぐ巣症状あり。 枝の伸長量が少なく、枝葉量がやや疎である。		●		B			
YG-074		ケヤキ	12.5	156	6.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	小	ブロック塀に近接し、掘り取り作業領域の確保が困難である。 大枝に剪定痕からの腐朽ある上、樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-075		マテバシイ	6.5	77	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	大	ブロック塀に近接する。 樹形に乱れがあり(隣木被圧による扇型の扁平樹形) 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-076		ヒマラヤスギ	25.5	239	10.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○							○	有	小	ブロック塀に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 上部や大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-077		カラタネオガタマ	4.5	6本立	3.0	23,22,21,21,19,18	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A		○		○					有	中	ブロック塀に近接する。 葉量が疎である。		●		A			

資料表 2.2-1(78)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
エリア名：第二球場	調査日：2023年4月10日～2023年4月11日・10月26日					1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-078	マテバシイ	9.0	97	4.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	中	ブロック塀に近接する。 枝の伸長量が少なく、てんぐ巣症状あり。樹幹傾斜もあり、移植樹としては適さない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-079	ヒマラヤスギ	25.5	232	7.5	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	ブロック塀に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-081	ヒトツバタゴ	4.0	48	2.5	-	3.0	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.60	C			○			○			有	大	幹芯からブロック塀までの離隔距離0.4m。 被圧で樹形・樹勢やや悪いが、根元構造物撤去で根鉢確保でき移植はできる。移植地で被圧も解消されれば樹勢回復も期待できる。		●		B			
YG-082	モクセイ	3.2	3本立	1.5	24,21,9	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.00	B		○				○			有	大	幹芯からフェンス基礎までの離隔距離0.4m。 根元構造物撤去で根鉢確保でき移植はできる。		●		B			
YG-083	マテバシイ	7.5	79	5.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	小	樹形に乱れ(片枝樹形)あり、ブロック塀に近接し、根回し、掘り取り作業が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-084	モクセイ	3.5	3本立	1.8	19,19,14	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					有	大	ブロック塀に近接する。移植可。		●		B			
YG-085	ヒマラヤスギ	25.5	237	8.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	ブロック塀に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-087	モクセイ	3.0	3本立	2.0	18,17,16	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	大	根元・幹に樹皮欠損(小) H0.0m～1.5mが多数あり。 ブロック塀に近接する。移植可。		●		B			
YG-088	マテバシイ	9.0	93	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B		○					○		有	中	枝にコブ症状、てんぐ巣症状あり。 枯枝(東側)あり。 樹形に乱れがあり、残置であれば問題無いが、移植の場合は移植後の健全な状態への回復が難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-089	モクセイ	3.6	4本立	1.5	25,23,14,14	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.25	B		○		○					有	大	根元・幹に樹皮欠損(小) H0.0m～1.2mが多数あり。 ブロック塀に近接する。移植可。		●		B			
YG-091	ヒマラヤスギ	22.5	225	8.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.50	A	○						○		有	小	ブロック塀と歩道縁石に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-093	シイノキ	9.0	125	5.5	-	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.60	A		○			○				有	小	幹に、開口空洞(枝抜け痕)(小)あり。 やや被圧があるが、樹形は良い。		●		A			
YG-094	マテバシイ	6.5	70	4.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.75	A		○		○					無	小	樹冠に偏りあり。 てんぐ巣症状あり。		●		A			
YG-096	ヒマラヤスギ	27.0	262	10.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○						○		有	小	ブロック塀に近接し、根回し、堀取り作業が困難である。 大枝剪定で本来の樹形が損なわれている。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
YG-098	トウネズミモチ	6.0	4本立	4.5	30,27,23,18	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.70	A			○					○	有	中	コンクリート基礎に近接する。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適である。			●	B	●		

資料表 2.2-1(79)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	第二球場						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-100		シイノキ	10.0	104	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.0	1.0	2.10	B		○					○		無	大	深植え状態にある。 樹形に乱れがあり(被圧による扇型の扁平樹形)、移植樹として不適である。 樹冠頂部に枯枝が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-101		シイノキ	11.0	213	8.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.0	1.0	1.0	1.60	A	○				○				有	中	大枝に樹皮欠損・腐朽が複数あり。 ブロック塀に近接する。 樹形は良好で維持可能。根鉢確保もかろうじて可能である。		●		A			
YG-102		サンゴジュ	4.0	3本立	3.0	35,33,27	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○		○					無	中	ブロック塀に近接する。		●		B			
YG-103		モッコク	5.7	37	3.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○		○					無	中	概ね問題なし。		●		A			
YG-105		ウバメガシ	8.0	4本立	7.0	106,99,81,30	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.70	A		○			○				有	小	歩道手すりに近接する。 4つの株がそれぞれ独立している。 胴吹き多数、樹形に乱れあり(被圧による扇型の扁平樹形)。 移植に伴う樹形維持と再生は可能である。		●		B			
YG-107		シイノキ	7.5	2本立	6.0	113,97	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	1.0	1.0	2.00	B		○					○		有	中	コンクリート基礎に近接する。 大枝に開口空洞あり。 樹形に乱れ(枝の分布に偏り)、樹幹傾斜。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
YG-108		コブシ	10.0	2本立	7.5	96,86	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○				○			有	小	樹形にやや乱れあるが、個性的な形の花木であり移植難樹木であるが、枝葉が伸長し、樹勢・樹形が回復傾向にあり、移植はできる。(経年により樹勢良化)		●(赤)		B			
YG-110		モクセイ	3.3	3本立	2.0	59,40,35	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	小	経年により樹形・樹勢も良化し移植対象と判断。		●(赤)		B			
YG-111		ヤマモモ	7.0	115	4.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○			○				有	無	コンクリート基礎に近接する。 幹に開口空洞あり。 移植後の樹形維持が可能である。		●		B			
YG-114		モクセイ	3.0	5本立	2.0	44,37,34,32,32	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	無	コンクリート基礎に近接する。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-115		ヤマモモ	6.5	83	3.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○		○					有	無	コンクリート基礎に近接する。		●		B			
YG-116		モクセイ	3.4	5本立	2.0	45,40,35,31,20	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-118		ケヤキ	12.5	220	13.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○				○			有	無	解体工事の進捗で萌芽が良好で自然樹形に回復しつつあるため移植対象と判断。		●(赤)		B			
YG-120		モクセイ	3.5	90 芝付	2.5	-	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-121		ヤマモモ	7.0	100	4.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 全体的にヤマモモのこぶ病あり。		●		B			
YG-122		モクセイ	3.5	85 芝付	2.5	-	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-123		モクセイ	3.0	5本立	2.0	40,38,34,30,14	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(80)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名	第二球場	調査日	2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形 (1～4評価)	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形 (1～4評価)	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 (ABCD)	保存の必要性 高 (該当に〇)	中	低	移植 可 (該当に〇)	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物 (有無)	片枝・被圧 (大中小無)	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存 (該当に●、●:変更樹木)	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 (ABCD)	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
YG-124		モクセイ	3.3	5本立	2.0	40,40,34,34,17	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		〇				〇			有	小	経年により樹形・樹勢も良化し移植対象と判断。		●(赤)		B			
YG-125		ケヤキ	16.5	300	12.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		〇					〇		有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 根元に開口空洞(中)深さ40cm以上あり。 幹に開口空洞(大)H1.0深さ15cm、(中)H0.8深さ20cmあり。 幹H1.2mにコフキサルノコシカケ様の子実体あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-128		ヤマモモ	7.5	122	5.0	-	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		〇		〇					有	無	根元H0.2mに開口空洞(小) 深さ12cmあり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。		●		B			
YG-129		モクセイ	3.0	95 芝付	3.2	-	1.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		〇		〇					有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-130		モクセイ	3.5	95 芝付	3.0	-	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		〇		〇					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-131		モクセイ	3.5	118 芝付	2.5	-	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		〇		〇					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-132		モクセイ	3.5	118 芝付	3.0	-	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		〇		〇					有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。		●		B			
YG-133		カラタネオガタマ	5.0	6本立	5.5	45,40,37,36,36,24	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		〇			〇				有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。擁壁に近接する。 前回調査より樹勢が衰退傾向にあり、枝の伸長も鈍い。ひこばえ多数あり。		●		B			
YG-134		ケヤキ	11.5	236	10.0	-	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.10	B		〇				〇			有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹形に乱れ(強剪定後の萌芽樹形)あり。 剪定痕が目立つが、樹高低く、移植難であるものの移植はできる。		●		A			
YG-135		ヤマモモ	6.5	95	5.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		〇			〇				有	中	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹冠に偏りあり。 移植後の樹形維持が可能である。		●		B			
YG-136		モクセイ	3.5	120 芝付	3.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.80	B		〇			〇				有	無	根元付近にコンクリート土留め板、看板基礎あり。 基礎とれば移植はできる。		●		B			
YG-137		ヤマモモ	6.5	130	3.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		〇			〇				有	無	大枝付け根H1.5mに開口空洞(中) 深さ15cmあり。 根元に樹皮欠損(中)あり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。 移植後の樹形維持が可能である。		●		B			
YG-138		モクセイ	4.0	101 芝付	2.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.75	A		〇					〇		有	無	根元付近にコンクリート土留め板、看板基礎あり、移植時の根鉢確保困難。 看板の裏に立地し、樹形に乱れあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-139		モクセイ	3.5	111 芝付	2.0	-	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.55	A		〇			〇				有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢・樹形は良好である。		●		B			
YG-140		ヤマモモ	7.0	128	5.0	-	2.0	1.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		〇			〇				有	無	幹H3.0mに開口空洞(中) 深さ5cm(巻き込み良好)あり。 大枝H2.5mに樹皮欠損・腐朽あり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。 移植後の樹形維持が可能である。		●		B			
YG-141		モクセイ	3.5	100 芝付	2.5	-	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A		〇			〇				有	小	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹勢は良好である。			●	B			
YG-142		ヤマモモ	5.5	105	5.5	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		〇			〇				有	無	根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹形は良好である。		●		B			
YG-143		モクセイ	4.0	93 芝付	2.5	-	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.55	A		〇			〇				有	無	根元付近にコンクリート土留め板、電灯基礎あり。 樹勢・樹形は良好である。		●		B			

資料表 2.2-1(81)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			第二球場															調査日				2023 年 4 月 10 日 ～ 2023 年 4 月 11 日 ・ 10 月 26 日												伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
YG-144		ケヤキ	14.5	239	12.0	−	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B	○						○		有	無	大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽が複数あり。 根元付近に植栽帯縁石、電灯基礎あり。 強剪定、萌芽樹でケヤキらしさがない。 掘り取り作業領域の確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-145		ケヤキ	12.5	267	13.0	−	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B	○						○		有	小	大枝H5.0mに開口空洞(中)あり。 大枝に亀裂が複数あり。 根元付近に電灯基礎(2か所)、植栽帯縁石あり。 樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、ケヤキらしさに欠ける。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
YG-146		ケヤキ	12.5	246	14.0	−	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○						○	有	小	根元・幹に樹皮欠損・腐朽(大)あり。 高さH0.5mにコフキサルノコシカケの子実体あり。 根元・幹に打音異常あり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。 樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、ケヤキらしさに欠ける。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
YG-147		ケヤキ	15.0	293	7.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		有	無	大枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽が複数あり。 幹に樹皮欠損(中) H1.5m～2.5mあり。 根元付近にコンクリート土留め板あり。建物に近接している。 樹形に乱れがあり。大枝(南側)に衰退枝あり。 樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、ケヤキらしさに欠ける。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(82)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名			テニス場北コート														調査日		2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日																	
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考				2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-001		サザンカ	5.0	3本立	4.5	42,39,28	1.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.30	A		○						○	有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 ブロック塀に近接している(西側)。	●			A			
T01-002		ソメイヨシノ	7.0	246	5.0	-	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.70	C			○				○		有	中	幹の片側全面に樹皮枯死あり、コフキタケ様の発生あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 幹・大枝の腐朽が進行中、撤去の検討が必要。 石の柵が0.3m(東側)の距離にあり、近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-003		ウバメガシ	8.5	3本立	8.0	102,84,66	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.40	A	○			○					無	小	隣木トウカエデによる被圧あり。樹冠に偏りあり。		●		A			
T01-004		トウカエデ	14.0	260	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.70	A	○					○			有	無	ネットフェンスが0.9m(西側)にある。 移植に向けた剪定に耐え(樹種特性)、移植には適している。		●		A			
T01-005		ソメイヨシノ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	-	※	-	B			
T01-006		クロマツ	10.5	105	4.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.35	B			○				○		有	無	南側にスタブカット(切り残し枝)が数か所あり。 擬木柵が1.1m(東側)の距離にある。 下枝が高く移植に向けた剪定に適していない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-008		クロマツ	12.0	97	5.0	-	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.80	B		○		○					有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 ネットフェンスが0.7m(西側)の距離にある。		●		B			
T01-009		クロマツ	15.0	145	5.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.70	A	○			○					有	無	ネットフェンスが1.1m(西側)の距離にある。		●		A			
T01-010		シダレザクラ	7.0	79	4.0	-	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹H3.0mに腐朽(大) 60×20、巻込み(弱)あり。幹折れの危険あり。 石の柵が1.3m(東側)にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-011		シダレザクラ	6.0	80	3.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.40	B			○					○	有	無	大枝H3.0m(南側)に折損痕の腐朽、大枝・幹の腐朽(大)あり。 石の柵が1.2m(東側)にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-012		サクラ	7.0	96	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.0mあり。 幹が屈曲、樹幹傾斜あるが、樹形の維持は可能。 大枝 H2.3mに剪定痕からの腐朽、巻込み(弱)あり。 ネットフェンスが0.8m(西側)の距離にあるが根鉢確保可能。		●		A			
T01-013		シダレザクラ	5.0	83	5.0	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B	○			○					有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 擬木柵が0.9m(東側)の距離にある。	●			A			
T01-015		シダレザクラ	5.5	97	1.5	-	4.0	3.5	4.0	3.5	3.5	3.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.85	C			○					○	有	小	断幹されている。断幹痕からの枯れ下がり、腐朽(大)あり。 ルートカラー(地際の根張り)が見えない。根元の揺らぎ(中)あり。 根元(北側)にコフキタケの発生あり。 幹H1.4mに腐朽 22/30cmあり。幹(南東)全面にキノコ発生あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 大枝H2.5mに剪定痕からの腐朽 15×15あり。 大枝付け根(東側)に腐朽、キノコがL150cmにかけてあり。 撤去の検討が必要。 擬木柵が1.0m(東側)の距離にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●

資料表 2.2-1(83)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			テニス場北コート														調査日		2023 年 5月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日										
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	
T01-016		シダレザクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	幹折れにより、安全配慮のため伐採済み
T01-017		クロマツ	13.0	187	7.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○			○					有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 擬木柵が0.9m(東側)の距離にある。
T01-018		サクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去(切株)。
T01-019		クロマツ	9.0	101	6.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.15	B		○		○					有	小	樹幹傾斜(テニスコート側)あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～0.5m(小)あり。 ネットフェンスが0.8m(西側)の距離にある。
T01-020		シダレザクラ	6.0	90	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B		○		○					有	中	根元・幹にカワウソタケ H0.0～0.7mあり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.0mあり。 大枝にスタブカット(切り残し枝)φ20, 0.5m、枯損あり。 枯枝(北側)φ5, L2.0mあり 擬木柵が1.1m(東側)の距離にある。
T01-021		クロマツ	11.0	207	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○				○				有	無	スタブカット(切り残し枝)が数か所あり。 葉量がやや疎である。 ネットフェンス、テニスコート基礎に接触(西側)している。 根鉢確保がかろうじて可能、樹形維持可能。
T01-022		シダレザクラ	5.5	71	3.5	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 断幹されており(枯れ下がり)、樹形に乱れがある。
T01-023		クロマツ	15.0	180	8.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.60	A	○			○					無	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。
T01-024		クロマツ	10.0	128	4.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○		○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。
T01-025		クロマツ	15.5	190	7.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.90	B	○					○			有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 擬木柵が1.1m(東側)の距離にある。 幹芯から電柱までの離隔距離1.1m。樹高高く場内移植ならば移植できる。剪定不可。
T01-026		アカマツ	9.5	141	7.0	-	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.10	B		○		○					有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 H2.3m(西側)に大枝のスタブカット(切り残し枝) φ20×L40cmあり。 樹幹傾斜(大)(北側)あり。 ネットフェンスが0.9m(西側)の距離にある。
T01-027		クロマツ	12.0	117	6.0	-	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 東側に枝が少ない。 スタブカット(切り残し枝)による枯損枝が数か所あり。 ネットフェンスが1.0m(西側)の距離にある。
T01-028		モチノキ	3.5	22	2.0	-	2.5	2.5	1.0	2.5	1.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.15	B			○					○	無	大	樹木番号T01-029ヒトツバタゴに近接(0.2m)する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
T01-029		ヒトツバタゴ	10.0	113	4.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 大枝付け根に入り皮あり。

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に●			ABCD			
T01-016	―	※	―	B			
T01-017		●		A			
T01-018	―	―	※	C			
T01-019		●		B			
T01-020		●		B			
T01-021		●		B			
T01-022		●		B			
T01-023		●		A			
T01-024		●		B			
T01-025		●		A			
T01-026		●		B			
T01-027		●		B			
T01-028			●	B		●	
T01-029		●		A			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(84)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名		テニス場北コート				調査日		2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-030		カラタネオガタマ	5.5	61	4.0	-	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○		○					有	大	擬木柵が0.9m(東側)の距離にある。		●		A			
T01-032		カラタネオガタマ	6.0	2本立	4.0	35,20	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○						○	有	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹の相互接触あり。 樹木番号T01-033シダレザクラに近接する為、移植不可。 擬木柵が0.9m(東側)の距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
T01-033		シダレザクラ	10.0	127	6.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○			○					有	中	根元・幹に打診音異常(小) H0.0～0.5mあり。 H4.5mの位置でクロマツ(西側)とケーブリングされている。 フェンスが1m(西側)の距離にある。		●		A			
T01-034		エゴノキ	6.0	31	5.0	-	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	2.5	2.0	1.0	1.80	B		○		○					有	大	擬木柵が0.9m(東側)の距離にある。		●		B			
T01-035		サザンカ	4.5	25	3.0	-	2.0	2.0	1.5	2.5	1.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.80	B		○		○					無	大	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。		●		B			
T01-036		モミジ	6.0	4本立	6.0	42,35,16,13	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.65	A		○		○					有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 擬木柵が1.1m(東側、南側)の距離にある。		●		A			
T01-037		シイノキ	9.5	214	7.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.15	B	○							○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 大枝に剪定痕からの腐朽(大)が数か所あり。 植栽桝は八角形(内幅1.3m)である。 H6.0mの位置でクロマツ(北側)とケーブリングされている。 樹形が刈り込み剪定された状態にある。 SHAKE SHACKの店外フロアが幹H1.2mの位置にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-038		イチョウ	9.0	4本立	6.0	206,184,161,124	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.30	B	○							○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 株立ちの1本(C184cm) 幹4本がH7.0mで切断され、萌芽した状態にある。 植栽桝は八角形(内幅1.3m)である。 SHAKE SHACKの店外フロアが幹H1.0mの位置にある。		移植検討		B			
T01-039		ハナミズキ	6.5	45	3.0	-	2.5	2.5	4.0	2.5	3.0	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.35	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 根元・幹(東側)に開口空洞・腐朽(大) 200×10×8/16(芯達)あり。幹 H1.5m(西側)に腐朽 20×8×5あり。 小枝の枯れが多数あり。 幹折れの危険性あり、撤去の検討が必要。 縁石が1.0m(建物寄り)の距離に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-040		ハナミズキ	5.5	29	2.5	-	3.0	3.0	4.0	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。根元にくびれあり。 根元に揺らぎ(小)あり。 根元・幹に樹皮枯死・腐朽 280×5×5/8(芯達)、溝腐れ症状(大)あり。 小枝の枯れが多数あり。 縁石が1.0m(建物寄り)の距離に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-041		ハナミズキ	5.5	44	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○				○		有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 幹芯から電灯までの離隔距離0.45m、側溝までの離隔距離0.5m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-042		ハナミズキ	5.5	37	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○		○					有	中	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 隣木クロマツの被圧あり。 U型側溝と縁石が0.7m(西側)の距離にある。		●		B			
T01-043		ヒトツバタゴ	12.0	4本立	7.0	133,130,118,67	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B	○				○				有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 4本立ちの内 1本(C118)が、1.7m(φ30cm)にて断幹、枯損している。 幹分岐部に入り皮(大)、腐朽あり。 幹2本(C133, C67)に打診音異常(小) H08～2.0mあり。 幹(南側)に開口空洞 35×11×12、巻込み(良)あり。 擁壁が1.0mの距離にある。		●		B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(85)　【変更後】毎木調査結果表

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
エリア名		テニス場北コート																											調査日 2023 年 5月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日							
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-044		サンゴジュ	4.0	29	1.5	-	3.5	3.5	2.5	3.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.75	C			○					○	有	大	ブロック塀に近接する。 隣接するカイヅカイブキから被圧(大)。 物置の屋根に接触している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
T01-045		カイヅカイブキ	5.0	40	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-046		カイヅカイブキ	5.5	38	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-047		カイヅカイブキ	5.5	40	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-048		カイヅカイブキ	5.5	40	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-049		カイヅカイブキ	5.0	46	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-050		カイヅカイブキ	6.0	55	1.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	無	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 裏側の枝が全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-055		シイノキ	8.5	195	6.0	-	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.80	B	○							○	有	無	巻き根(大)あり。 幹とブロック塀が接触している。 塀に接して生育している為、移植不可である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-056		トウカエデ	11.5	189	8.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○				○				有	無	擁壁(H2.5m)が1.5mの距離にある。 砂置場とボール倉庫の間に位置する。 施設撤去で根鉢確保は可能である。樹形良好、維持可能。		●		A			
T01-057		ヒマラヤスギ	13.0	158	6.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○				○				有	無	径1.2mの縁石に囲まれた植栽帯に位置する。 周囲がコンクリート舗装されている。 建物が1.5mの距離にある。 適度な剪定が行われており、移植に適している。周辺の舗装を剥いで根鉢を確保することで移植ができる。		●		B			
T01-058		トウカエデ	14.0	188	7.0	-	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○					○		有	小	H2.0m(南側)に開口空洞 20×20、巻込み(良)あり。 H0.5m(西側)にコフキサルノコシカケ(大)の発生あり。 露出根(中)あり。隣木ケヤキの被圧(小)あり。 縁石が0.8mの距離にある。小屋より1.3mの距離にある。 樹勢はやや良で回復傾向にあるが、キノコあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
T01-059		ケヤキ	15.0	163	7.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○				○		有	小	ルートカラー(地際の根張り)が見えない。 コンクリート土間が0.6m(南側)の距離にあり、近接している。 樹形に乱れあり、下枝も高い。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-060		ケヤキ	14.0	165	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	無	階段が0.7m(北側)の距離にあり、近接している。 強剪定後の萌芽状態にあり、樹形の維持が難しい。 幹芯から階段までの離隔距離0.7m、受電盤までの離隔距離1.0m、フェンスに接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

資料表 2.2-1(86)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名	テニス場北コート	調査日	2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-061		ケヤキ	18.0	246	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	無	H3.0m(南側)にスタブカット(大)(切り残し枝) L35cm、腐朽あり。 建物が2.2m(東側)の距離にある。 根元(北側)にベッコウタケ(幼菌)の発生あり。 幹芯から照明盤基礎までの離隔距離0.7m、給水タンクまでの離隔距離1.2m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-062		ウバメガシ	5.5	60	4.0	-	2.5	3.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.60	C			○					○	有	無	H0.0～2.3m(西側)に溝腐れ(大) 幅25cm、打音異常あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
T01-063		ケヤキ	18.0	183	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	小	強剪定後の萌芽が伸長して、樹形が回復傾向にある。 ポンプ室が1.5m(東側)の距離にある。 幹芯から空調機基礎までの離隔距離0.9m、ポンプ室までの離隔距離1.7m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
T01-065		クロマツ	11.0	2本立	7.0	108,88	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.05	B			○					○	無	中	根元(南側)に腐朽、打音異常、巻込み(弱)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-066		サンゴジュ	3.6	38	2.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.85	C			○					○	無	小	樹形・樹勢ともに不良である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
T01-067		モミジ	5.0	106	5.5	-	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.85	B		○		○					有	大	ブロック塀が0.6m(北側)の距離にある。移植に際して塀を壊すことで適正根鉢確保可能。 ヒトツバタゴを被圧(大)している。		●		B			
T01-069		シャラノキ	4.0	2本立	2.5	30,28	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	無			●		A			
T01-070		モクセイ	3.5	7本立	2.5	26,23,20,18,18,15,14	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.10	B			○					○	有	無	裏側の枝が無い列植の刈り込み樹形で、単木では移植樹として適さない。構造物隣接。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-071		モクセイ	3.5	3本立	1.5	26,25,22	3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.0	1.5	1.5	2.45	B			○					○	有	無	裏側の枝が無い列植の刈り込み樹形で、単木では移植樹として適さず、構造物隣接。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-077		ケヤキ	15.0	306	12.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○					○			無	無	建物が0.6mの距離にあり、やや片根の変形根鉢となるが、移植のための根鉢確保可能。			●	A			
T01-079		モクセイ	3.0	7本立	1.5	23,19,7,14,11,11,10	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.00	B		○		○					無	無	列植された刈り込み樹形である。			●	B			
T01-080		モクセイ	3.0	5本立	1.5	23,17,15,15,13	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.05	B		○		○					無	無	列植された刈り込み樹形である。			●	B			
T01-081		モクセイ	3.3	5本立	1.5	41,38,17,13,11	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.00	B		○		○					無	無	列植された刈り込み樹形である。			●	B			
T01-082		モクセイ	3.1	5本立	1.8	30,26,24,22,20	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○		○					無	無	列植された刈り込み樹形である。			●	B			
T01-083		モクセイ	3.1	5本立	2.0	34,32,29,23,20	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○		○					無	無	列植された刈り込み樹形である。			●	B			

資料表 2.2-1(87)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：テニス場北コート　　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-084	ヒトツバタゴ	3.5	3本立	3.0	17,15,11	1.5	1.5	0.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.35	A	○			○					有	無	樹勢は良好。 記念樹である。 縁石に囲まれた植栽帯 1.2m×1.6m内に位置する。		●		A			
T01-085	トウカエデ	12.0	258	8.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.00	A	○							○	有	無	建物が1.0mの距離にある。 デッキ(H1.15m)に囲まれている。 地山から1.15m下にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
T01-086	トウカエデ	12.0	178	6.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.0	1.80	B	○				○				有	無	デッキ(H1.15m)に囲まれている。幹芯から歩道(デッキ外)までの離隔距離1.7m。 樹形の維持は可能。デッキを壊すことで根鉢確保が可能だが、根鉢が大きく場内移植。 ※根元周囲長は目通りからの推測値、土壌硬度は計測不可(根元はデッキ下にある)		●		B			
T01-087	シダレザクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	枯死している。	-	-	※	C			
T01-088	ヤエザクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	枯死している(切株なし)。	-	-	※	C			
T01-089	シイノキ	13.0	245	10.0	-	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.70	A	○					○			有	無	大木であるが、傷が少なく、移植に向けた剪定での樹形維持は可能である。 幹芯からパーゴラ基礎までの離隔距離0.7m。根鉢が大きく場内移植。		●		B			
T01-090	ウバメガシ	7.5	84	3.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.15	B		○		○					無	小	樹勢は良好。 中枝に腐朽あり。切除の必要あり。		●		B			
T01-091	クロマツ	14.5	143	6.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○						○	無	小	下枝が非常に高く(下枝高 H9.0m)、移植に伴う剪定をすると幹状となり、移植後の回復が困難。		●		B			
T01-092	モミジ	6.0	4本立	3.5	39,28,25,17	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○			○				無	小	幹芯から隣木(T01-091クロマツ)までの離隔距離1.1mだが、根鉢確保は可能であり、移植はできる。		●		A			
T01-093	ウバメガシ	7.5	106	3.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.50	B			○					○	無	大	隣木のシイを被圧している。 双幹の南側が枯死し断幹されている。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-094	ノウゼンカヅラ	3.5	19	2.5	-	3.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○	無	大	パーゴラの隣に位置する。 ツル植物であり、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T01-095	ノウゼンカヅラ	3.2	12	2.5	-	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	1.5	2.0	2.0	1.0	2.35	B			○					○	有	大	パーゴラの基礎に接触している。 ウバメガシを被圧(大)している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-096	ノウゼンカヅラ	3.3	20	3.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	大	パーゴラの基礎に接触している。 シイノキからの被圧(大)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-097	ノウゼンカヅラ	3.5	2本立	3.0	17,10	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	大	パーゴラの基礎に接触している。 シイノキからの被圧(大)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-099	クロマツ	14.0	182	6.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○				○			有	無	テニスコート内に位置する。 フェンスに接触しているが、移植のための根鉢確保可能。	●			B			
T01-100	ケヤキ	7.0	131	6.5	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○						○	有	小	ブロック塀と擁壁の際にあり、移植は困難である。	●			B			

資料表 2.2-1(88)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			テニス場北コート																調査日			2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考					伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-101		クロマツ	11.0	116	4.0	－	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○						○	有	小	小屋際に位置し、周囲が舗装されているため、移植は困難である。	●			B			
T01-102		メタセコイア	18.5	254	8.0	－	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○							○	有	無	小屋と擁壁の間にあり、移植は困難である。	●			A			
T01-103		カイヅカイブキ	3.7	48	1.2	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-104		カイヅカイブキ	3.8	54	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-106		カイヅカイブキ	3.7	51	1.2	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-108		カイヅカイブキ	3.8	53	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-110		カイヅカイブキ	3.8	54	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-111		カイヅカイブキ	3.8	58	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-112		カイヅカイブキ	3.8	50	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-113		カイヅカイブキ	3.5	51	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-114		カイヅカイブキ	4.0	55	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-115		カイヅカイブキ	3.5	56	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-116		カイヅカイブキ	3.5	55	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-117		カイヅカイブキ	3.5	59	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-118		カイヅカイブキ	3.5	63	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-119		カイヅカイブキ	3.5	51	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

資料表 2.2-1(89)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		テニス場北コート														調査日		2023 年　5 月 24 日　～　2023 年　5 月 24 日																		伐採理由
樹木番号		樹種名	規格				活力度											保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難	
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝枝の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-120		カイヅカイブキ	3.8	58	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-121		カイヅカイブキ	3.8	50	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-122		カイヅカイブキ	3.8	57	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-123		カイヅカイブキ	3.8	54	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-124		カイヅカイブキ	3.8	49	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-125		カイヅカイブキ	3.8	53	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-126		カイヅカイブキ	3.8	52	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-127		カイヅカイブキ	3.8	51	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-128		カイヅカイブキ	3.8	54	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-129		カイヅカイブキ	3.8	53	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-130		カイヅカイブキ	3.8	52	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-131		カイヅカイブキ	3.8	54	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-132		カイヅカイブキ	3.8	55	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-133		カイヅカイブキ	3.8	55	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-134		カイヅカイブキ	3.8	54	1.8	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		
T01-135		カイヅカイブキ	3.8	50	1.5	－	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●		

資料表 2.2-1(90)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			テニス場北コート														調査日		2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日															伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》							
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-136		カイヅカイブキ	3.5	53	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-137		カイヅカイブキ	3.8	56	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-138		カイヅカイブキ	3.8	47	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-139		カイヅカイブキ	3.8	50	1.8	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-140		カイヅカイブキ	3.8	43	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-141		カイヅカイブキ	3.8	43	1.2	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-142		カイヅカイブキ	3.8	42	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-143		カイヅカイブキ	3.8	39	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-144		カイヅカイブキ	3.8	41	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-145		カイヅカイブキ	3.8	40	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-146		カイヅカイブキ	3.8	41	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-147		カイヅカイブキ	3.8	45	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-148		カイヅカイブキ	3.8	41	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-149		カイヅカイブキ	3.8	39	1.8	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-150		カイヅカイブキ	3.8	42	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-151		カイヅカイブキ	3.8	40	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(91)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名			テニス場北コート																調査日			2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日														伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1	STEP2	STEP3
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》					重点対策外来種	根鉢の確保が困難	移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T01-152		カイヅカイブキ	3.8	38	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-153		カイヅカイブキ	3.8	39	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-154		カイヅカイブキ	3.8	38	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-155		カイヅカイブキ	3.8	39	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-156		カイヅカイブキ	3.8	40	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-157		カイヅカイブキ	3.8	42	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-158		カイヅカイブキ	3.8	42	1.8	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-159		カイヅカイブキ	3.8	39	1.8	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-160		カイヅカイブキ	3.8	41	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-161		カイヅカイブキ	3.2	35	1.0	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-162		カイヅカイブキ	3.2	30	1.0	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.50	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-163		カイヅカイブキ	3.1	30	1.0	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.45	B			○					○	有	無	刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-164		カイヅカイブキ	2.8	25	1.0	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.45	B			○					○	有	中	樹高が3m以下である。 刈り込み剪定されている。下枝が高く樹冠が小さい。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-165		カイヅカイブキ	2.7	19	1.0	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.45	B			○					○	有	中	樹高が3m以下である。 刈り込み剪定されている。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 南側に倉庫があり、伸長できない状態にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T01-167		カイヅカイブキ	2.9	30	1.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.35	B			○					○	有	中	樹高が3m以下である。 刈り込み剪定されている。下枝が高く樹冠が小さい。 ブロック塀の際、縁石と70cmの間に列植されている。 南側に倉庫があり、伸長できない状態にある。片枝樹形である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

資料表 2.2-1(92)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：テニス場室内コート・御台場西(T02-126以降)　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度(1～4評価) 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形(1～4評価)	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 ABCD	保存の必要性(該当に○) 高	中	低	移植(該当に○) 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物(有無)	片枝・被圧(大中小無)	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存(該当に●)	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
T02-001		ヒメシャラ	4.0	17	2.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	中	マンホールと建物が0.3mの距離にあり、近接している。 建物の陰に位置している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-002		ヒメシャラ	5.5	2本立	3.0	21,19	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	有	小	建物の陰に位置している。 マンホールと擁壁が約0.3mの距離にあり、近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-003		ヒメシャラ	5.5	2本立	2.0	26,9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	建物の陰に位置している。 建物が0.4mの距離にあり、近接している。		●		B			
T02-004		ヒメシャラ	5.5	4本立	2.0	22,21,14,14	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					有	中	建物の陰に位置している。 建物が0.4mの距離にあり、近接している。		●		B			
T02-005		ヒメシャラ	5.0	3本立	2.0	21,13,11	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	中	建物の陰に位置している。 建物が0.4mの距離にあり、近接している。		●		B			
T02-066		カイヅカイブキ	4.5	43	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、表側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-067		カイヅカイブキ	4.5	40	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、表側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-068		カイヅカイブキ	4.5	38	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、表側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-069		カイヅカイブキ	4.5	38	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、表側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-070		カイヅカイブキ	4.5	35	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、表側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-071		カイヅカイブキ	4.5	41	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、表側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-072		カイヅカイブキ	4.5	45	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、表側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-073		カイヅカイブキ	4.5	44	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、表側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-074		カイヅカイブキ	4.5	36	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、表側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-075		カイヅカイブキ	4.5	40	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、表側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の脇に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(93)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：テニス場室内コート・御台場西(T02-126以降)　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T02-076		カイヅカイブキ	4.5	42	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の際に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-077		カイヅカイブキ	4.5	46	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の際に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-078		カイヅカイブキ	4.5	44	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の際に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-079		カイヅカイブキ	4.5	42	1.5	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の際に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-080		カイヅカイブキ	4.5	42	1.5	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の際に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-081		カイヅカイブキ	4.5	48	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 建物の際に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-083		カイヅカイブキ	4.5	57	1.5	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 駐車場脇のU字溝が1.3mの距離にある。建物の際に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-084		カイヅカイブキ	4.5	55	1.5	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 駐車場脇のU字溝が1.3mの距離にある。建物の際に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-085		カイヅカイブキ	4.5	57	1.5	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 駐車場脇のU字溝が1.3mの距離にある。建物の際に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-086		カイヅカイブキ	4.5	51	1.5	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	無	刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 縁石が0.8mの距離にある。駐車場から0.9mの距離にある。 駐車場脇のU字溝が1.3mの距離にある。建物の際に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-089		サクラ	8.0	89	4.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B		○						○	有	中	マンホールと設備機器に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-090		モクセイ	2.9	29	3.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○	有	中	コンクリート舗装が0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-091		モクセイ	2.7	4本立	3.0	19,19,18,17	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-092		モクセイ	2.6	3本立	2.0	25,20,18	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-093		モクセイ	2.6	4本立	2.0	13,12,12,9	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
T02-094		モクセイ	2.7	3本立	3.0	18,14,14	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	

資料表 2.2-1(94)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	テニス場室内コート・御台場西(T02-126以降)						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日	該当に●			ABCD			
T02-095		モクセイ	2.6	4本立	2.0	36,15,10,10	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-096		モクセイ	2.6	5本立	1.5	22,16,13,13,8	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から1mの距離にある。 H2.5程度で剪定、樹形不良移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-100		モクセイ	2.5	4本立	1.0	16,16,16,9	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-101		モクセイ	2.5	3本立	2.3	18,17,9	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-102		モクセイ	2.6	3本立	1.7	14,13,12	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-103		モクセイ	2.5	4本立	1.7	18,15,12,11	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-104		モクセイ	2.5	3本立	1.5	16,12,10	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	擁壁から0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-106		ヒトツバタゴ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	安全配慮、樹木回避のため撤去。	-	-	※	B			
T02-107		トウネズミモチ	6.0	2本立	5.0	63,46	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	大	ぶつ切り剪定されている。 ベッコウタケ様の発生あり。 シイノキからの被圧(大)あり。 擬木柵が0.6mの距離にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
T02-109		シイノキ	13.0	2本立	10.0	241,65	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B	○							○	有	無	根元(東側)に開口空洞(大) 25×5×12 巻込み(良)あり。 根元にキノコ(種不明)の発生あり。 大枝(南側)にスタブカット(切り残し枝)・腐朽 φ18×L40 巻込み(弱)あり。 縁石が1.0mの距離にある。柵が1.4mの距離にあり、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-110		シイノキ	11.0	219	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○				○			有	無	根元(東側)に開口空洞があるが、移植に問題はない。 高さH2.5m(西側)に剪定痕からの腐朽 18×18あり。 擬木柵に近接している。 枝張りが大きいが場内移植ならば移植できる。		●		B			
T02-111		シイノキ	10.0	190	8.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	小	大枝下部(南側)に溝腐れ L300cmにわたりあり。上部のスタブカット(切り残し枝)に背着生キノコあり。 傷などの被害が多く、移植後の樹勢維持が困難。フェンスが近接。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T02-112		モチノキ	4.5	2本立	3.0	47,35	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	幹に樹皮欠損・腐朽(中)あり。 縁石に近接しており、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
T02-113		シイノキ	8.0	173	4.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	小	擬木柵に近接している。 根元・幹に樹皮枯死、打診音異常(大)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T02-114		モミジ	5.0	2本立	4.0	71,29	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				無	小	樹幹傾斜あり。 樹木番号T02-115ヒトツバタゴに近接している。 樹形の維持は可能である。		●		B			

資料表 2.2-1(95)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		テニス場室内コート・御台場西(T02-126以降)															調査日					2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日														
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD			
T02-115		ヒトツバタゴ	7.0	100	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	小	梢端部が剪定されて、萌芽状態にある。 スタブカット(切り残し枝)が数か所あり。 フェンスが1.5mの距離にある。根鉢確保可能。		●		B			
T02-116		カイヅカイブキ	4.0	47	1.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	小	縁石が1.3mの距離にある。裏枝が日照不足で枯れており、移植後の回復不可能。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T02-117		カイヅカイブキ	4.0	44	1.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	小	縁石が1.3mの距離にある。裏枝が日照不足で枯れており、移植後の回復不可能。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T02-118		ヒトツバタゴ	4.5	49	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	大	ぶつ切り剪定されている。 傾斜木であり、幹が曲がっている。 根元の揺らぎ(小)あり。 フェンスが1.3mの距離にある。 被圧と曲がりがあり、移植後の健全な状態への回復が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
T02-119		シイノキ	9.0	204	12.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○			○			有	無	幹に開口空洞、打診音異常 H1.0～2.0m(大)があるが、移植に問題はない。 フェンスが1.3mの距離、電柱が1.5mの距離にある。 枝張りが大きいが場内移植ならば移植できる。		●		B			
T02-122		ネズミモチ	8.0	48	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	マンホールが0.3mの距離に、コンクリート基礎が1.1mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-123		ネズミモチ	8.0	39	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	コンクリート基礎が1.1mの距離にある。下枝高く、122,123,124の根鉢近接で移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-124		ネズミモチ	8.0	59	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	コンクリート基礎が1.1mの距離にある。下枝高く、122,123,124の根鉢近接で移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
T02-125		ヒメシャラ	6.0	31	3.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	小	コンクリート園路から1.0mの距離にある。 イチョウ(東側)と建物による被圧あり。		●		B			
T02-126		イチョウ	16.0	2本立	15.0	282,210	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○							○	有	無	双幹の南側の幹H2.2mに開口空洞 10×5×7あり。また、その下部に打音異常あり。 大枝(北側)H3.0mにスタブカット(枯損)(切り残し枝)φ12cm,L=35cmあり。また、その下部に打音異常あり。 擁壁に北・東・西側を囲まれている(距離1.3m～1.5m)。	●			A			
T02-127		ネズミモチ	4.0	2本立	3.0	46,27	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	ぶつ切り剪定されている。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
T02-128		ネズミモチ	4.0	37	2.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.45	B			○					○	有	大	ぶつ切り剪定されている。 根元(北側)H0.0m～0.3mに腐朽 30×10あり。 擁壁に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
T02-129		トウネズミモチ	4.0	3本立	3.0	22,21,14	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.55	C			○					○	有	大	ぶつ切り剪定されている。 フェンスが1.5mの距離にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
T02-130		トウネズミモチ	4.0	41	3.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	高さH1.5mで断幹されている。 擁壁が1.5mの距離にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	C	●		
T02-131		ネズミモチ	5.0	2本立	4.0	57,39	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	高さH3.0mで断幹されている。 根元に入り皮 L60cmあり。 フェンスが1.0mの距離に、マンホールが1.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	

資料表 2.2-1(96)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：テニス場室内コート・御台場西（T02-126以降）　調査日：2023 年 5 月 24 日 ～ 2023 年 5 月 24 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度（1～4評価） 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	（1～4評価） 葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 ABCD	保存の必要性（該当に○） 高	中	低	移植（該当に○） 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物（有無）	片枝・被圧（大中小無）	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存（該当に●）	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
T02-133		マテバシイ	8.0	135	7.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	有	小	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。巻き根(中)あり。 枝にてんぐ巣の症状あり。 擁壁が2.2mの距離にある。石垣の上に位置する。	●			B			
T02-134		マテバシイ	9.0	141	9.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.20	B			○					○	有	小	幹(南側)H3.0mに開口空洞 13×13 巻込みあり。 ひこばえが多数あり。 擁壁が2.5mの距離にある。 石垣の上に位置する。	●			B			
T02-135		マテバシイ	5.0	160	4.0	－	4.0	3.5	4.0	3.0	4.0	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	3.00	C			○					○	有	中	根元にコフキタケの発生あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.0mあり。 露出根が多数あり。巻き根(中)あり。ひこばえが多数あり。 石積みから1.8mの距離にある。石垣の上に位置する。 大枝に剪定痕・腐朽、剪定こぶが多数、てんぐ巣症状あり。 大枝の枯損が多数あり、緊急切除の必要あり。	●			B			
T02-136		ヤマモモ	7.0	100	6.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B	○			○					有	小	コンクリート基礎(φ120cm)が0.6mの距離にある。 石垣の上に位置する。	●			B			
T02-137		ヤマモモ	7.0	103	5.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B	○			○					有	小	目立った傷は見当たらない。	●			B			
T02-138		ヤマモモ	7.0	89	6.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B	○						○		無	小	幹H2.5mに開口空洞・腐朽 40×40×10 巻込み(弱)あり。 幹に打診音異常(大) H2.0mあり。 幹折れの可能性あり。	●			B			
T02-139		ヤマモモ	7.0	107	5.0	－	2.0	3.0	2.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B	○			○					無	小	葉量がやや疎である。	●			B			
T02-140		マテバシイ	8.0	2本立	10.0	100,88	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.15	B			○					○	有	小	幹3本の内、1本は高さH0.3mにて断幹されている。 幹分岐部に入り皮あり。 露出根が多数あり。ひこばえが多数あり。 石積みから2.7mの距離にある。 樹幹傾斜(大)あり、移植後の健全な状態の維持は困難。	●			C			
T02-141		マテバシイ	3.5	2本立	4.0	178,20	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.05	B			○					○	無	小	幹3本共に高さH3.0m程度で断幹されている。 ルートカラー（地際の根張り）が見えない。ひこばえが多数あり。 主幹(C178cm)が枯死しており、細い副幹とひこばえの樹形である。	●			C			
T02-142		マテバシイ	8.0	2本立	6.0	111,95	3.0	2.0	3.5	3.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.55	C			○					○	有	小	3本立の内、西側の1本が枯損し、H1.7mで断幹φ40cmされている。 樹幹傾斜(大)あり。巻き根(中)あり。幹分岐部に入り皮あり。 ひこばえが多数あり。 石積みから1.7mの距離にあり、移植時の根鉢確保困難。	●			C			
T02-143		アラカシ	3.5	5本立	2.0	15,13,10,8,8	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.05	B			○					○	有	大	ルートカラー（地際の根張り）が見えない。 隣接するマテバシイに接触している。 高さH1.8mで梢端切除されている。 石積みから1.8mの距離にある。	●			C			

資料表 2.2-1(97)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			建国記念文庫																調査日		2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日															伐採理由	
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-001		ヤエザクラ	7.5	85	6.0	-	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B			○					○	有	中	幹に打音異常 H0.0m～1.2mあり。 開口空洞 15×18×40/40(貫通)あり。 根元の穴に前回調査ではベッコウタケの子実体が確認されたが今回は消失。 樹幹傾斜あり。 枯枝(西側H4.5), φ10, L=2.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-002		ヤエザクラ	10.0	134	9.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	無	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1m。 樹勢普通であるが、剪定による移植後の樹形維持可。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。 根回し時の歩道使用が必要。		●		A			
KE-003		ヤエザクラ	10.5	2本立	10.0	155,91	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			有	無	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.1m。 樹勢普通であるが移植後の樹形維持可。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。 根回し時の歩道使用が必要。		●		B			
KE-004		ヤエザクラ	10.0	2本立	8.0	108,75	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○				○		有	無	幹H1.2mに開口空洞 10×10×15あり。 高さH1.2mに入り皮あり。 ぶつ切り剪定痕からの腐朽(中)あり。 幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.1m。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-005		ヤエザクラ	4.5	90	3.5	-	3.5	3.5	3.5	2.5	3.0	3.5	2.0	2.0	1.5	1.0	2.60	C			○					○	有	中	幹に打音異常 H0.5m～1.5mあり。 大枝(南側下部)に腐朽(大)あり。 樹冠上部の枯死、樹形・樹勢は不良である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-006		トウネズミモチ	3.3	2本立	2.0	39,28	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	大	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
KE-007		シイノキ	8.5	184	9.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○				○		有	無	幹に打音異常 H0.5m～1.2mあり。 枝の分布に偏り(道路側)あり。腐朽、損傷も多い。 移植後の樹形・樹勢の維持が困難。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m。フェンスは撤去可能。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-008		シイノキ	8.5	161	9.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	無	根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。 根元にカンゾウタケの発生あり。 大枝(南側)に腐朽(大)あり。大枝に剪定痕からの腐朽あり。 大枝(H5.3m)に腐朽枝 φ20, L=0.8mあり。 樹冠に偏り(道路側)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-009		シイノキ	7.0	56	5.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					有	大	幹(H2.5m)に開口空洞 18×13×5/25あり。		●		B			
KE-010		ケヤキ	21.0	2本立	18.5	266,169	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B	○					○			無	無	根元に入り皮、巻き根が多数あり(切断処置済)。 樹皮にコルク質の異常が、多数あり。 大枝(西側)H2.0mに腐朽(中)あり。 移植時に細い株は切断。上部剪定では樹形不良。		●		A			
KE-011		シイノキ	7.5	78	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B		○		○					無	大	大枝(西側)に腐朽(小)あり。		●		B			
KE-012		シイノキ	7.5	71	5.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B		○		○					無	大	幹(H2.0m)に開口空洞20×10×12/30あり。 移植に際しては問題ない状態である。		●		B			
KE-013		シイノキ	7.0	115	6.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	大	樹冠傾斜あり。 根元(南H0.2m)に開口空洞 30×6×10あり。 幹(南H0.6m)に開口空洞 15×5×4あり。 幹(南H1.4m)に開口空洞 23×7×25(芯達)あり。 幹(南H2.5m)に開口空洞 25×8×25(芯達)あり。 幹(北H1.0m)に開口空洞 8×3×25/35(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.5mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

資料表 2.2-1(98)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			建国記念文庫																調査日			2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日													伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-014		トウカエデ	15.0	127	6.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○			○				無	大	根元に敷き藁の養生あり。 被圧樹形(現状剪定の必要なし)。上部剪定でも樹勢、枝葉回復力高い種である。		●		B			
KE-015		シイノキ	7.0	138	8.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	大	根元・幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 幹(南H0.9m)に開口空洞 25×6×25/33(芯達)あり。 幹(北H1.0m)に開口空洞25×13×12/45あり。 幹(東H1.4m)に開口空洞7×10×25/40(芯達)あり。 大枝に剪定痕からの腐朽(中)が3箇所あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-016		シラカシ	19.0	171	9.0	-	2.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○				○			無	無	幹(西側)H1.5mに開口空洞 100×3×30/48(芯達)あり。 幹に打診音異常H0.5～2.0mあり。 上記あるが、移植はできる程度である。		●		B			
KE-017		ケヤキ	18.5	136	12.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無		被圧による枝枯れ(小)あり。 根元に敷き藁の養生あり。 上部剪定で樹形の維持が困難。		●		A			
KE-018		フウ	21.0	200	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	無	剪定こぶが多数あり。 上部剪定で樹形の維持がやや難。		●		A			
KE-019		フウ	22.0	185	8.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○				○			有	無	被圧により、片枝樹形である。 移植に向けた剪定で適正樹形の維持がやや困難(12mまで下枝なし)。太い露出根(北側)あり。 幹芯から歩道縁石までの距離1.55m(北側)、1.9m(東側)。		●		A			
KE-020		シイノキ	12.5	120	7.5	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				無	無	大枝に剪定痕からの腐朽(中)が多数あり。 幹(南H1.4m)に開口空洞3×3×12/40あり。 根元・幹に打音異常 H0.0m～1.5mあり。 移植剪定後の樹形維持が可能。		●		B			
KE-021		トウカエデ	16.0	137	6.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○			○				無	無	露出根に樹皮欠損・腐朽あり。 幹(北H2.1m)に開口空洞20×15×12/45あり。 ぶつ切り剪定されている。 上記あるが、移植はできる程度である。	●			B			
KE-022		クヌギ	20.0	224	11.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無	無	ぶつ切り剪定されている。 幹に肥大部あり、打診音異常H0.5～1.5mあり。 上記あるが、移植はできる程度である。		●		B			
KE-023		クロマツ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	枯死している。	―	―	※	B			
KE-024		シイノキ	7.5	110	8.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	無	中	高さH5.0mにて断幹されている。 幹H1.0mに開口空洞 7×5×32/35(芯達)あり。 幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-025		ケヤキ	18.0	215	20.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○					○			有	無	高さH3.0mにて断幹されている。 深植え状態にある。 枯枝(H8m) φ10, L=5.0mあり。 上部剪定で適正樹形の維持が困難(H3.0mで断幹され、そこから伸長した双幹状の樹形)。 幹芯から柵までの離隔距離0.5m。		●		B			
KE-026		クスノキ	13.5	103	7.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.5	1.0	2.25	B		○			○				無	無	下枝が高い。 枯枝(西H7m) φ6, L=1.2mあり。被圧による下枝の枯れ多数あり。 クスは萌芽力高く樹形回復力ある。		●		B			
KE-027		シイノキ	10.5	209	12.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.25	B			○				○		無	有	幹(南H1.2m)に開口空洞 6×6×40/80(芯達)あり。 幹(南H0.4m)に開口空洞 20×20×25あり。 大枝の下部に腐朽が数か所あり。 移植に向けた剪定で適正樹形の維持が困難(樹幹傾斜および枝の分布に極端な偏り(道路側)あり)。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●

資料表 2.2-1(99)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格: 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度: 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性: 高	中	低	移植: 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目: 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
建国記念文庫							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023年 5月 22日 ～ 2023年 5月 24日 ・ 10月 26日
KE-028		サンゴジュ	3.0	2本立	2.5	23,19	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○		○					無	大	–
KE-031		クスノキ	15.5	246	10.0	-	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○				○			有	無	根元がフェンスにくい込んでいる。 フェンス撤去により根鉢確保が可能。 クスは萌芽力あり。 樹木番号KE-033ケヤキによる被圧により片枝樹形である。
KE-032		クロマツ	11.5	97	6.0	-	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○				○		無	無	樹木番号KE-032ケヤキによる被圧により片枝樹形である。 下枝高く、道路側へ大きく傾斜しており、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
KE-033		ケヤキ	20.0	227	20.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	無	樹冠が大きく、立派である。 上部剪定で樹形の維持が困難、ケヤキらしさがなくなる。
KE-034		ケヤキ	13.0	190	15.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B			○					○	無	大	大枝に開口空洞 400×25あり。 深植え状態にある。 周辺木からの被圧(大)あり。 枯枝(北H5.0m) φ20、L=3.5mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
KE-035		シラカシ	17.5	186	15.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○					○			無	無	幹(H1.5m)に閉塞痕あり。 大枝分岐部(H2.2m)に入り皮あり。 上部剪定でも樹形の維持が可能。
KE-036		シイノキ	14.5	207	13.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○				○			無	無	大枝(南側)に腐朽(大)、打音異常(大)あり。 幹に打音異常(小) H1.0m～2.5mあり。 枯枝(南H9m) φ12、L=7.0mあり。
KE-037		ヤエザクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	枯死している。
KE-038		トウカエデ	17.0	160	10.5	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○			○				無	無	過去にぶつ切り剪定されている。 枯枝(南H7.5m) φ10、L=10.5mあり。 ほか、被圧による下枝の枯れ多数あり。 上部剪定を行っても樹形の維持が可能。萌芽力が高い。
KE-039		ヤエザクラ	7.5	126	8.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○				○		無	無	樹幹傾斜あり。樹形に乱れあり。 幹H0.5mに開口空洞 1×1×15あり。 断幹痕(H3.0m) 40×40あり。 枯枝(東5.5m) φ15、L=1.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
KE-040		イヌグス	10.0	78	7.5	-	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.35	A		○		○					無	小	–
KE-041		ヒトツバタゴ	12.0	198	10.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○			○				無	無	大枝に剪定痕からの腐朽が数か所あり。 大枝(南側)に腐朽あり。 移植剪定後の樹形維持が可能。
KE-042		ヒトツバタゴ	7.0	48	5.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	大枝に剪定痕からの腐朽が数か所あり。 深植え状態にある。
KE-043		ヤマザクラ	10.0	94	6.0	-	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	無	大	ひこばえ、胴吹き枝が多数あり。 下枝が高い。 枯枝(南H6.5m) φ20、L=6.0mあり。 移植後に健全な状態への回復が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由: STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-028		●		B			
KE-031		●		B			
KE-032			●	B			●
KE-033		●		B			
KE-034			●	B			●
KE-035		●		B			
KE-036		●		B			
KE-037	–	–	※	B			
KE-038		●		B			
KE-039			●	B			●
KE-040		●		B			
KE-041		●		B			
KE-042		●		B			
KE-043	●(赤)			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(100)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：建国記念文庫　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無
KE-044	トウカエデ	18.0	172	8.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中
KE-045	シラカシ	14.0	133	7.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	大
KE-046	シイノキ	11.0	164	9.0	-	2.5	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	無
KE-047	シイノキ	12.0	191	11.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	無	大
KE-048	シイノキ	15.5	191	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				無	無
KE-049	ケヤキ	21.0	256	20.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	無	小
KE-050	クヌギ	18.0	172	7.0	-	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	小
KE-051	シラカシ	14.5	133	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○				○				無	無
KE-052	シラカシ	14.5	101	6.0	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	中
KE-053	サクラ	6.0	26	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	大
KE-054	シイノキ	16.0	245	10.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	大
KE-055	ツバキ	6.0	46	4.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	中
KE-056	ケヤキ	22.0	285	18.0	-	1.5	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	小
KE-057	ムクノキ	21.0	195	12.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		無	中
KE-058	ケヤキ	20.5	192	10.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中

樹木番号	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-044	フェンスが近接している。 過去に大枝のぶつ切り剪定されている。 ヘデラの登ハンあり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
KE-045	幹H2.0mに開口空洞 8×8×15あり。 根元がフェンスにくい込んでいる。フェンスが近接している。 ヘデラの登ハンあり。	●			B			
KE-046	根元H0.1mに開口空洞 80×15(68)×25/45(芯達)あり。 根元・幹に打診音異常(小) H0.0～1.8mあり。 大枝付け根に開口空洞 10×10×15あり。 幹に開口空洞(小)が多数あり。 大枝(北西H1.7m)に腐朽あり。 ひこばえが多数あり。 根元の障害が大きい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
KE-047	根元・幹(北側)に開口空洞(大) 170×15×40/50(芯達)あり。 幹内部の空洞が幹上方へ1.0m続いている。 根元にカンゾウタケの発生あり。	●			B			
KE-048	幹(北側)H0.7mに開口空洞(小) 5×2×15/60あり。 大枝付け根H3.0mにキノコの発生(種不明)あり。 移植に伴う上部剪定後も樹形の維持が可能。		●		B			
KE-049	幹H0.6mに開口空洞(大) 230×50×20/70あり。 根元(東側)にキノコの発生(種不明)あり。 鋼棒貫入異常35/110cm以上あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
KE-050	中央部・下部に大枝がない。 剪定痕の巻込み良好。 枯枝(南西H7.5m) φ30, L=5.0m、枯枝(北H9.0m) φ25, L=3.0mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
KE-051	被圧により枝数がやや少ない。 移植後の樹形維持が可能。比較的細い幹。	●			B			
KE-052	片枝樹形である。 幹H0.3mに開口空洞(大) 400×10×20/30(芯達)あり。 ※カシナガ対策で幹の目通り周囲長は測定不可	●			B			
KE-053	周辺木からの被圧あり。	●			B			
KE-054	北側に樹皮欠損(大) 230×15あり。 根元・幹に打診音異常H0.0～2.0mあり。 前回調査において、高さH0.4mにアイカワタケ(ヒラフスベ型)の子実体がみられたが、今回は消失していた。 フェンスが1.0m(北側)の距離にある。	●			B			
KE-055	根元・幹(北側)に開口空洞(大) 147×7×9/15(芯達)あり。	●			A			
KE-056	幹H0.8mに開口空洞(大) 120×11×70/70(南北に貫通開口)あり。幹内部の空洞が幹上方へ2.0m続いている。	●			B			
KE-057	根上り(中)あり。 巻き根(大)あり。 樹高・葉張が大きく、移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			A			
KE-058	樹幹傾斜(小)(北側)あり、片枝樹形である。 移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 フェンスが1.0m(北側)の距離にある。	●			B			

資料表 2.2-1(101)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：建国記念文庫　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-059	シイノキ	11.0	133	9.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				無	無	幹(北H1.4m)に開口空洞(小) 14×5×15/40あり。 幹に打音異常(中) H0.5m～2.0mあり。 木柵が1.1m(南側)の距離にある。 移植後の樹形維持が可能。	●(赤)			B			
KE-060	ケヤキ	22.0	276	20.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B			○					○	無	小	幹(東側)に開口空洞・腐朽(大) 200×15×40/70(芯達)あり。 空洞内部にコフキサルノコシカケの子実体あり。 巻き根(大)あり。	●			B			
KE-061	コブシ	3.0	62	4.0	-	3.5	3.5	4.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.5	2.0	1.0	2.70	C			○					○	無	中	断幹痕(H4.0m)からの腐朽が進行している。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～1.5mあり。 枯枝(H2.3m) φ10, L=3.0mあり。	●			B			
KE-062	ケヤキ	19.0	203	15.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		無	中	被圧により片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 巻き根(中)あり。	●			B			
KE-063	ネズミモチ	4.5	2本立	4.5	34,32	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	-	●			B			
KE-065	クスノキ	19.0	204	9.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	被圧により片枝樹形であり、移植後に健全な状態への回復の見込みがない。 巻き根(中)あり。	●			B			
KE-066	ヤエザクラ	11.0	2本立	7.0	114,80	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	大	樹幹傾斜(中)(北側)あり。 フェンスが1.0m(北側)の距離にあり、適正根鉢の確保困難。	●			B			
KE-067	コブシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	枯死している。	※	-	-	B			
KE-068	シダレザクラ	6.0	64	6.0	-	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	小	根上り(中)あり。 枯枝(北H6.5m) φ8m, L=1.2mあり。 舗装が1.0m(東側)の距離にあり、根鉢確保困難。	●			B			
KE-069	シダレザクラ	1.8	46 (H=1.1m)	0.9	-	4.0	4.0	4.0	3.5	4.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	3.05	C			○					○	無	無	樹高が3m以下である。 H2.5mで断幹、H1.1mまで枯死。1.1mからの枝葉が伸長。 幹の南側が根元まで腐朽・欠損。幅20cm。 打診音異常H0.0～1.1m。	●			B			
KE-070	シダレザクラ	3.0	61	1.2	-	4.0	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.75	C			○					○	無	小	断幹痕(H2.2m)からの腐朽(大)が進行している。 根元・幹に打音異常(大) H0.0～2.0mあり。 幹(H1.5m)に開口空洞12×8×12/22(芯達)あり。 樹形が崩壊している。	●			B			
KE-071	ヒトツバタゴ	4.0	25	4.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	小	下枝がない。	●			B			
KE-072	ケヤキ	21.0	345	23.0	-	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○							○	有	小	樹木番号KE-073ケヤキに近接しており、根鉢確保困難。 根上り(大)、巻き根(中)あり。	●			A			
KE-073	ケヤキ	21.0	154	17.0	-	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○							○	有	中	樹木番号KE-072ケヤキに近接しており、根鉢確保困難。 巻き根(中)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。	●(赤)			A			
KE-074	ヤエザクラ	9.0	131	8.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	小	樹木番号KE-075ヤエザクラに近接しており、移植不可である。 大枝に剪定痕からの開口空洞29×26×15/35、打診音異常(小)H1.2～1.8mあり。 枯枝(H4.5m) φ22, L=1.0m、背着生キノコあり。 フェンスが0.3m(南側)の距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(102)　【変更後】毎木調査結果表

樹木番号	エリア名	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	建国記念文庫						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023年5月22日～2023年5月24日・10月26日	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-075		ヤエザクラ	6.5	112	5.0	-	3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	小	樹木番号KE-074ヤエザクラに近接しており、根鉢確保困難。 大枝(西側)に、剪定痕からの腐朽 30×30あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。	●（赤）			B			
KE-076		ヤエザクラ	10.0	140	5.5	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	小	大枝に剪定痕からの腐朽 20×20あり。 フェンスが1.3m(南側)の距離にある。	●			B			
KE-077		ヤエザクラ	5.0	2本立	6.5	120,103	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	有	中	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 双幹の両方とも断幹されている。 根元(北側)に虫害(コスカシバ穿孔痕)あり。	●			B			
KE-078		ヤエザクラ	4.0	52	4.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 揺らぎ(小)あり。 幹(東側)に剪定痕あり。	●			B			
KE-079		ヤエザクラ	8.5	130	7.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 根元にベッコウタケ様の発生あり。 根元(北側)に打診音異常 H0.0～0.3mあり。 大枝(北H3.4m)にスタブカット(切り残し枝)φ25, L=1.5mあり。 根元がフェンスにくい込んでいる。	●			B			
KE-080		ヤエザクラ	7.5	84	6.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.15	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 幹(東H1.5m)に開口空洞 25×15×15/30(芯達)あり。 幹に打診音異常(小) H1.5～2.5mあり。 大枝(北H3.5m)にスタブカット(切り残し枝)φ20, L=0.7mあり。 フェンスが1.0m(北側)の距離にある。	●			B			
KE-081		ヤエザクラ	10.0	131	7.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(北側)あり。 根上り(大)あり。 縁石に乗り上げあり。	●			B			
KE-082		シダレザクラ	10.0	81	4.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.55	C			○					○	有	大	樹幹傾斜(北側)(小)あり。 枯枝(北H9m) φ10, L=1.5mあり。 フェンスが0.3m(南側)の距離にある。	●			B			
KE-083		ヤエザクラ	3.5	77	6.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	－	－	枯死している。	-	-	※	B			
KE-084		シラカシ	11.0	144	7.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B	○				○				有	無	樹幹傾斜(小)(西側)あり。 幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.15m。根鉢確保、樹形維持が可能。		●		B			
KE-085		ヒトツバタゴ	6.0	2本立	5.0	35,20	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B	○				○				有	中	幹芯からフェンス(北側)までの離隔距離0.85m、自動販売機基礎(東側)までの離距離0.9m。根鉢径が一部変形するが根鉢確保が可能。大きくはない。		●		A			
KE-087		フウ	13.5	162	7.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○				○				有	無	盛土されている。 枕木舗装が根元にあり。 幹芯から枕木階段(北側)までの離隔距離0.6m。樹形維持、根鉢確保が可能。(土壌汚染エリア)。 土壌汚染調査の結果、移植不可。			●（赤）	A		● 土壌汚染	
KE-088		ウバメガシ	7.5	6本立	6.5	117,87,85,62,61,59	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○				○			無	無	根元に樹皮欠損(中) 30×30あり。 枝の伸長が北側で少ない。 萌芽力旺盛。		●		B			
KE-089		シラカシ	12.0	139	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	無	大枝に枝折れによる樹皮欠損 20×20、巻込み(良)あり。 根元に穿孔性害虫の穿孔痕あり。 根元、園路の枕木との接触あり。 幹に屈曲あり、移植対象樹として適さない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●（赤）			A			
KE-090		ヒトツバタゴ	4.5	2本立	5.5	53,35	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○			○					無	小	枝の伸長が東側で多い。	●（赤）			A			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(103)　【変更後】毎木調査結果表

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果
	建国記念文庫						1～4評価						1～4評価					ABCD
KE-093		フウ	15.0	151	8.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B
KE-094		ヒトツバタゴ	6.0	77	5.5	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B
KE-095		ヒトツバタゴ	4.0	2本立	4.0	50,48	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B
KE-096		ヒトツバタゴ	9.0	81	6.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	2.15	B
KE-097		ヒトツバタゴ	7.5	70	4.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B
KE-098		シイノキ	9.5	215	13.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B
KE-099		ヒトツバタゴ	10.5	2本立	6.0	83,33	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B
KE-100		ヒトツバタゴ	10.5	137	6.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.50	B
KE-102		ヒトツバタゴ	4.0	49	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B
KE-103		ヒトツバタゴ	7.5	84	6.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	3.0	2.0	1.0	2.50	B
KE-104		ヒトツバタゴ	4.0	25	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B
KE-105		マテバシイ	7.0	144	7.0	-	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.15	B
KE-107		ヤエザクラ	10.5	211	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B

調査日　2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
	該当に○			該当に○					有無	大中小無	
KE-093		○			○				有	無	枯枝(北H2m) φ15, L=1.0mあり。枯枝(西H8m) φ12, L=2.0mあり。幹芯からフェンスまでの離隔距離0.8m。根鉢確保、適正樹形が可能。(土壌汚染エリア)。土壌汚染調査の結果、移植不可。
KE-094			○					○	有	大	樹幹傾斜(道路側)あり。根元(北側)に開口空洞 15×30×15/45あり。根元・幹に打音異常 H0.0m～1.0mあり。フェンスが近接している。移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
KE-095			○					○	無	大	枯枝(北東H1.5m) φ12, L=1.5mあり。枝抜け痕が数か所あり。移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
KE-096		○			○				有	無	樹幹傾斜(道路側)あり。巻き根あり。幹芯からフェンスまでの離隔距離0.8m。根鉢確保が可能。傾いているが移植樹として適している。
KE-097			○			○			有	大	下枝が高い。深植え状態にある。フェンスが、近接している。被圧で樹勢・樹形やや悪いが、移植で回復の可能性あり。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。
KE-098	○						○		無	無	根元(北東H0.1m)にカンゾウタケの発生あり。幹に大枝剪定痕からの腐朽が多数あり。幹の肥大成長部分にアイカワタケ(ヒラフスベ型)の子実体あり。根元・幹に打診音異常(小) H0.0～2.0mあり。腐朽枝(南H3.5m) φ20, L=2.5mあり。幹芯からフェンスまでの離隔距離1.6m。実張り有り、大枝切断で樹形、樹勢維持困難。腐朽、空洞も多い。移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
KE-099		○					○		有	大	高さH1.1mで幹が2分岐している。フェンスが近接している。
KE-100			○					○	有	小	巻き根あり。深植え状態にある。枯枝(北H3.5m) φ10, L=2.0mあり。樹冠全体に小枝の枯れあり。フェンスが近接している。
KE-102		○					○		有	大	深植え状態にある。フェンスが近接している。
KE-103			○				○		有	大	フェンスが近接している。
KE-104		○						○	有	大	深植え状態にある。樹木番号KE-115ケヤキからの被圧(大)あり。フェンスが近接している。
KE-105			○					○	有	大	大枝がぶつ切り剪定されている。幹(西側)に大枝剪定痕からの腐朽あり。根元・幹に打音異常(大) H0.0m～2.5mあり。幹に樹皮枯死が多数あり。フェンスが近接している。
KE-107			○					○	有	大	樹幹傾斜あり。幹H1.2mに開口空洞 25×20×35/55(芯達)あり。根元・幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。巻き根あり。樹木番号KE-108ヤエザクラと競合している。フェンスが近接している。

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-093			●	B		● 土壌汚染	
KE-094	●			B			
KE-095	●			B			
KE-096	●			B			
KE-097		●		B			
KE-098			●	B			●
KE-099	●			B			
KE-100	●			B			
KE-102	●			B			
KE-103	●			B			
KE-104	●			B			
KE-105	●			B			
KE-107	●			B			

資料表 2.2-1(104)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名	建国記念文庫	調査日	2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-108		ヤエザクラ	10.5	165	10.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B		○					○		有	大	大枝がぶつ切り剪定されている。 巻き根あり。 根上りあり。 樹木番号KE-107ヤエザクラと競合している。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-109		ヤエザクラ	10.5	127	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	大	根元がフェンスにくい込んでいる。 樹幹傾斜あり。 根元・幹(東側)に打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 大枝(東側)に打音異常(大)あり。	●			B			
KE-110		ヤエザクラ	7.5	2本立	7.0	155.69	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	高さH1.1mで幹が2分岐している。 根元(西側)にベッコウタケの子実体が多数あり。 鋼棒貫入異常 35/60cm(芯達)あり。 根元・幹に打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 巻き根あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 枯枝(北西H7m) φ15, L=1.5mあり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-111		ヒトツバタゴ	3.5	23	3.5	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					有	中	深植え状態にある。 片枝樹形である。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-112		ケヤキ	20.0	228	12.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.85	B		○					○		無	小	大枝に縦の亀裂あり。 大枝に照明が巻き付き設置されている。 樹皮の脱落が多い。	●			B			
KE-113		ヤエザクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	枯死している。	※	-	-	C			
KE-114		ヒトツバタゴ	3.0	23	4.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	大	幹(H0.3m)に開口空洞 3×2×2/12(閉塞傾向)あり。	●			B			
KE-115		ケヤキ	19.0	246	20.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B	○						○		有	小	巻き根(大)あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 枯枝(東H13m) φ10 L=4.5mあり。 フェンスが近接している。	●			B			
KE-116		ヤエザクラ	3.0	56	3.0	-	3.5	3.0	3.5	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.45	B			○					○	無	大	断幹されている。 幹に開口空洞 15×10×12/18(芯達)あり。	●			C			
KE-117		ヤエザクラ	18.0	120	9.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	大	根元(西側)にキノコの発生(種不明)あり。 根元に根頭がんしゅ病様のこぶあり。	●			B			
KE-119		ヒトツバタゴ	4.5	28	5.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					無	大	枝に枝こぶ症状(増生病)が多数あり。 深植え状態にある。	●			B			
KE-120		ヒトツバタゴ	8.0	2本立	6.0	58.12	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	枝に枝こぶ症状(増生病)が多数あり。 深植え状態にある。	●			B			
KE-121		ヒトツバタゴ	8.0	66	4.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B			○					○	無	中	大枝にスタブカット(切り残し枝)が多数あり。 枝葉量が少ない。 移植後の健全な生育・樹形の維持は困難。	●			B			
KE-122		ヤエザクラ	7.5	105	1.5	-	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.65	C			○					○	無	中	双幹の一方が切除されている。 下枝が高い。 枯枝(H6m) φ30, L=4.0mあり。	●			B			
KE-123		ヒトツバタゴ	5.0	35	4.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	中	深植え状態にある。	●			B			

資料表 2.2-1(105)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		建国記念文庫																調査日		2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日														伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-124		コブシ	11.5	114	5.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○					○	無	小	大枝がぶつ切り剪定されている。 幹(南西H1.4m)に開口空洞 8×8×15あり。 前回調査より梢端部の枯れ枝が増えている。 園路際に位置する。	●			B			
KE-125		ヒトツバタゴ	4.0	28	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	中	樹幹傾斜あり。	●			B			
KE-126		ヤエザクラ	8.0	2本立	6.5	126,122	3.0	3.0	3.5	2.5	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	小	断幹されている。 大枝(東側)に打音異常(中)あり。 盛土あり。 大枝に照明が巻き付き設置されている。 フェンスが近接している。 園路際に位置する。	●			B			
KE-128		ヒトツバタゴ	7.0	54	5.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					有	小	幹に打音異常 H0.0m～2.0mあり。 深植え状態にある。 園路際に位置する。	●			B			
KE-129		ヤエザクラ	11.0	130	8.0	-	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	小	樹幹傾斜あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 胴吹き枝が多数あり。 園路際に位置する。 移植後に健全な状態への回復が困難。	●			B			
KE-130		ヒトツバタゴ	12.0	119	6.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B			○					○	無	中	根元に開口空洞 10×8×25/40(芯達)あり。 胴吹き枝が多数あり。	●			B			
KE-131		クロマツ	17.0	197	9.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無	無	下枝が高い。上部剪定では適正樹形が困難(12mまで下枝なし)。	●			B			
KE-133		シイノキ	11.5	229	8.5	-	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○				○		有	小	樹幹傾斜(小)あり。 幹(北側)H1.1mに、開口空洞 8×8×25あり。 幹(南側)H1.1mに、開口空洞 8×8×20あり。 フェンスが近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
KE-134		ヒトツバタゴ	8.0	42	4.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	中	揺らぎ(小)あり。 深植え状態にある。 樹勢が回復傾向にある。 園路際に位置する。	●			B			
KE-135		トウカエデ	14.0	155	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○			○				無	中	大枝に開口空洞 25×10あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 大枝に照明が巻き付き設置されている。 隣木(シラカシ、クロマツ)からの被圧あり、剪定は不要。移植後の樹形回復が可能。	●			B			
KE-136		シラカシ	15.0	172	12.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B	○				○				無	無	幹にカシノアカカイガラムシの吸汁害による影響と思われる樹肌の荒れあり。 移植後の樹形維持が可能。		●		B			
KE-137		ヒトツバタゴ	7.5	31	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	幹に剪定痕が数か所あり。		●		B			
KE-138		ヒトツバタゴ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	枯死している。	-	-	※	B			
KE-139		ヒトツバタゴ	7.5	40	3.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	大	被圧による枝枯れ、腐朽あり。		●		B			

資料表 2.2-1(106)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：建国記念文庫　調査日：2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●（●:変更樹木）			ABCD			
KE-140	エノキ	16.0	169	10.0	–	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B		○				○			無	中	小枝の枯れあり。 下枝が高く、上部剪定後の樹形維持が困難。		●		B			
KE-141	ケヤキ	20.0	183	16.5	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○				○			無	無	露出根に腐朽あり。 上部剪定後の樹形維持が困難。		●		A			
KE-142	シイノキ	2.8	110 (H=1.1m)	2.0	–	3.5	3.5	4.0	3.5	4.0	3.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.80	C			○					○	無	無	樹高が3m以下である。 H1.1mで断幹。内部が1.1mから根元まで空洞が連続する。空洞直径28cm。外径35cm。H1.0mから萌芽枝が伸びる。 打診音音異常H0.0～1.1m。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
KE-143	ヒトツバタゴ	7.0	32	4.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○		○					無	大	被圧による枝枯れ(中)あり。		●		B			
KE-144	シイノキ	10.5	111	9.5	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				無	小	枝抜け痕からの腐朽あり。 大枝の伸長(東側)あり、剪定の必要あり。 全景写真の樹高は9m。あまり大きくなく樹形維持が可能。		●		B			
KE-145	ユーカリノキ	14.0	141	4.0	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B		○						○	無	小	断幹痕あり。 ユーカリノキの大木は移植困難である(樹種特性)。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-146	ヒトツバタゴ	8.0	112	8.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B		○			○				無	小	露出根に切断痕と腐朽あり。 被圧による枝枯れが多数あり。 隣木(KE-144シイノキ)からの被圧あり。 全景写真の樹高は8m。あまり大きくなく樹形維持が可能。	●			B			
KE-147	ヒトツバタゴ	7.0	39	5.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○		○					無	大	被圧による枝枯れ(中)あり。		●		B			
KE-148	ヒトツバタゴ	6.5	31	4.0	–	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	大	–		●		B			
KE-149	サクラ	8.5	2本立	5.5	148,116	3.0	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.50	B			○				○		無	無	枝にぶつ切り剪定痕からの腐朽(小)が数か所あり。 大枝(東側)に打音異常あり。 双幹部分が入り皮である。 大枝の枯れ下がり(大)あり。樹形不良。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
KE-150	フウ	13.5	166	7.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○			○				有	無	過去にぶつ切り剪定されている。 被圧による片枝樹形である。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m、フェンスは撤去可。根鉢確保、樹形維持が可能。	●			B			
KE-151	フウ	20.0	215	8.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○				○				無	無	過去にぶつ切り剪定されている。 上部剪定後の樹形維持可能。		●		A			
KE-152	ヒトツバタゴ	9.0	58	4.0	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					無	大	–		●		B			
KE-153	ヒトツバタゴ	3.5	26	4.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					無	大	–		●		B			
KE-155	ヤエザクラ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	枯死している。	–	–	※	C			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(107)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名	建国記念文庫		調査日	2023 年 5 月 22 日 ～ 2023 年 5 月 24 日 ・ 10 月 26 日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
KE-156		モミジ	7.0	61	7.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○			○				有	中	幹H0.7mに、開口空洞 13×15×15(芯達)あるが巻込み発達。 前回調査からの経年により、幹の開口部の巻き込みもしっかりとしており、移植はできる。		●		B			
KE-157		シラカシ	15.0	163	7.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○			○			有	中	枝の分布に極端な偏りあり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m。樹勢普通であり、フェンス撤去と剪定により樹形回復可能。フェンス等構造物撤去により、移植はできる。		●		B			
KE-158		エノキ	12.0	167	13.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○				○			無	中	幹H2.0m付近に打音異常(小)あり。 隣木(KE-157シラカシ、KE-159シイノキ)からの被圧あり。上部剪定後の樹形維持が困難。片側の枝が少い。		●		A			
KE-159		シイノキ	12.5	195	13.5	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○				○		無	中	下側の大枝に腐朽(大)あり。 露出根に腐朽(大)が多数あり。 大枝に電線とライトが設置されている。 隣木(KE-158エノキ)を被圧、剪定の必要あり。葉張り大きく、大枝剪定で樹形、樹勢維持が困難。腐朽空洞も多い。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
KE-161		ヒトツバタゴ	3.3	29	4.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.90	B		○		○					無	大	盛土(小)あり。 幹(北H1m)に樹皮欠損16×6あり。	●			B			
KE-162		トウネズミモチ	9.0	5本立	6.0	34,32,29,27,28	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	無	中	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(108)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日														
				規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考				
エリア	樹木番号		樹種名	樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	1		クスノキ	11.0	143	4.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	2		クスノキ	12.0	146	4.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	3		クスノキ	11.0	136	4.0	−	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	4		クスノキ	12.0	175	4.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	幹(南側)に打診音異常(小) H1.4～1.6mあり。 樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A
IT	5		クスノキ	13.0	189	5.0	−	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	中	樹幹傾斜(小)(エントランス側)あり。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A
IT	6		クスノキ	12.0	162	3.5	−	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)。枝葉(西側)が、ビル風の影響により少ない。やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.4m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と、作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	7		クスノキ	11.0	151	4.0	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.4m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	8		クスノキ	11.0	162	4.5	−	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	3.0	2.0	3.0	2.0	1.0	2.45	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.4m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	9		クスノキ	11.0	150	4.5	−	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		有	中	幹(南側)に打診音異常 H1.7～2.0mあり。 樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.4m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(109)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日														
				規格				活力度												保存の必要性			移植	難				参考項目						
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	10		クスノキ	12.0	177	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	中	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離2.4m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	11		クスノキ	12.0	192	5.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	小	樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。 ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 幹芯から建物までの離隔距離3.5m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離2.2m。 適正根鉢径と、作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	12		クスノキ	13.0	155	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	13		クスノキ	13.0	148	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	14		クスノキ	13.0	153	5.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	15		クスノキ	14.0	160	5.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	16		クスノキ	14.0	179	4.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.25	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	17		クスノキ	14.0	178	3.5	-	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.0	3.0	2.0	1.0	2.50	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	18		クスノキ	14.0	178	4.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 ツリーサークルに根の食い込みあり。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	19		クスノキ	14.0	177	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		有	中	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	20		クスノキ	14.0	186	4.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○				○		有	小	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 ツリーサークルに根の押上げあり。 適正根鉢径と作業エリアの確保が困難である。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	21		マテバシイ	6.0	63	2.0	-	4.0	4.0	4.0	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.5	1.0	3.00	C			○					○	有	小	幹(東側)に開口空洞・腐朽 H0.5m～2.5mあり。腐朽が進行中、高さH1.1mにおいて東西方向に貫通あり。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	22		マテバシイ	7.0	64	2.5	-	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	小	幹(東側)H2.0mに亀裂(横方向に長さ20cm)、腐朽あり。 幹に打診音異常 H1.9～2.2mあり。 枝葉が東側にない。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C

資料表 2.2-1(110)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5月 25 日														
				規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧					
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	23		マテバシイ	7.0	63	2.5	-	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○					○	有	小	径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	24		マテバシイ	7.0	2本立	2.5	58,48	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	小	径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	25		マテバシイ	7.0	3本立	2.5	58,24,21	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	有	無	根元に開口空洞 10×5(43)×8/17あり。 径1.5mの植桝内に位置する。根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	26		マテバシイ	6.0	89	2.5	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	無	幹(南側)H0.8mに開口空洞・腐朽 80×8(86)×7/19、腐朽進行中、打診音異常あり。 径1.5mの植桝内に位置する。根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	27		ヒメシャラ	4.0	3本立	4.5	42,40,35	2.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○	○					有	無	幹H1.2mに開口空洞 16×9(40)×8/11、腐朽進行中あり。 幹H1.7mに開口空洞 13×8(35)×6/13、腐朽進行中あり。 腐朽枝あり。 1.8m×1.8mの植桝内に位置する。 腐朽の進行は遅く、キノコも見られないため、移植後の維持可能。			●	B
IT	28		ヒメシャラ	3.5	3本立	1.8	44,26,21	3.5	3.5	4.0	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	小	3本立の主幹が高さH1.8mで断幹されている。 根元・幹(H0～1.8m)に樹皮枯死180×20(43)あり。 1.8m×1.8mの植桝内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	29		ヒメシャラ	5.0	38	2.5	-	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	無	樹幹傾斜(東側)(小)あり。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	30		マテバシイ	6.5	70	4.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.45	A		○						○	有	中	骨格をなす枝が西側に伸長していない。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	31		マテバシイ	6.0	2本立	4.0	56,39	3.0	2.5	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○					○	有	小	枝葉が西側にない。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	32		マテバシイ	7.0	72	4.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B			○					○	有	中	高さH3.5mに亀裂(縦方向に長さ30cm)あり。 枝葉が西側にない。 径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	33		マテバシイ	7.0	96	5.0	-	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.65	A		○						○	有	中	径1.5mの植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	34		ホソバタイサンボク	6.0	56	2.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	有	中	露出根あり。 擁壁が北側0.5m、南側0.9mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	35		トウネズミモチ	8.0	115	3.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B			○					○	有	小	露出根あり。 枝葉が北側にあまり伸長していない。 幅1.4m(南北間)の狭植込地に位置する。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B

資料表 2.2-1(111)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り													調査日	2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日												備考	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
				規格				活力度										保存の必要性			移植					参考項目							
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難			不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》				
																						A	B	C								
								1～4評価						1～4評価				ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	36		シラカシ	9.0	96	4.0	-	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A		○			○				有	無	露出根が見られるが移植には問題なし。 枝葉が北側にあまり伸長していない。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.0m。			●	B
IT	37		スダジイ	6.5	5本立	5.0	65,53,50,49,45	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○					○	有	無	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	38		モチノキ	5.0	40	2.5	-	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○						○	有	無	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が北側0.9mの距離にあり、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	39		シラカシ	8.0	92	3.5	-	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.60	A			○					○	有	無	根根元(東側)に開口空洞10×8(130)×15/40(巻き込み良好)あり。 露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 マンホールが西側0.7mの距離、擁壁が北側1.3mの距離にあり、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	40		キンモクセイ	4.0	4本立	2.5	35,35,25,23	2.5	1.5	3.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	有	小	枝葉が北側にない。 露出根あり。 擁壁が北側0.6mの距離にある。マンホールが東側0.8mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	41		キンモクセイ	4.0	2本立	1.8	30,22	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A			○					○	有	小	露出根あり。 擁壁が北側0.6mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	42		マテバシイ	7.0	78	3.0	-	3.5	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.50	B			○					○	有	無	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が北側1.4mの距離にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	C
IT	43		ノムラモミジ	5.0	55	3.0	-	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A		○						○	無	中	露出根あり。 巻き根あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	44		マテバシイ	7.0	75	3.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	無	露出根あり。 ひこばえあり。 擁壁が北側0.8mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	45		ノムラモミジ	5.0	50	3.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					無	中	露出根あり。 巻き根あり。 枝葉が北側にあまり伸長していない。			●	B
IT	46		マテバシイ	7.0	73	2.0	-	3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	小	露出根あり。 擁壁が北側0.7mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	47		ヒイラギモクセイ	4.0	3本立	2.8	35,33,26	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	無	中	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	48		イロハモミジ	5.0	65	3.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A			○					○	有	小	根元に傷(横方向に幅25cm)、閉塞しつつある。 幹(西H0.5m)に開口空洞 2×2、閉塞しつつある。 擁壁が南側0.8m、西側0.6mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B

資料表 2.2-1(112)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日														
エリア	樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
				樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧					
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	49		モチノキ	5.0	42	2.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.95	B			○					○	有	中	露出根あり。 マンホールが0.3mの距離にある。 擁壁が0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	50		ヒイラギモクセイ	3.5	4本立	2.0	33,39,19,18	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	有	中	マンホールが0.4mの距離にある。 擁壁が0.5mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	51		マテバシイ	6.0	68	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	有	小	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が0.4mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	52		キンモクセイ	3.0	2本立	2.0	16,14	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	有	中	擁壁が0.4mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	53		キンモクセイ	3.0	3本立	3.0	25,20,12	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	有	無	擁壁が0.4mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	54		エゴノキ	4.0	37	1.5	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.00	B			○					○	無	無	揺らぎ(中)あり。 根元に開口空洞・腐朽 20×40×30あり。 露出根あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	55		キンモクセイ	3.5	3本立	2.0	29,25,19	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.10	B			○					○	有	小	露出根あり。 擁壁が0.6mの距離にある。散水栓に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	56		エゴノキ	3.0	2本立	1.5	24,20	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B			○					○	無	中	根元に樹皮欠損(小)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	57		マテバシイ	6.0	70	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.35	B			○					○	有	無	マンホールが0.7mの距離にある。 擁壁が1.1mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C
IT	58		トウネズミモチ	6.0	4本立	3.0	49,49,48,26	2.5	2.5	4.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○					○	有	小	株の1つ(西側)に腐朽、枯損あり。 設備用のH鋼に接触している。 露出根あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B
IT	59		トウネズミモチ	4.0	2本立	1.5	29,16	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.55	C			○					○	有	大	露出根あり。 マンホールが0.2mの距離にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	C
IT	60		ケヤキ	8.0	128	5.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.30	B			○					○	有	無	露出根が多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が東側0.8m、南側1.0mの距離にあり、根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	61		モッコク	4.5	48	2.5	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.30	B			○					○	有	無	建造物が北側0.6mの距離にある。 照明のセンサーに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	62		モチノキ	4.5	52	2.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	小	露出根あり。 建造物が北側0.7mの距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B

資料表 2.2-1(113)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り													調査日	2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日																
エリア	樹木番号		樹種名	規格				活力度											保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
				樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧					
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	63		シラカシ	6.0	75	3.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.80	B		○			○				有	無	擁壁が北側0.7mの距離にある。 幅1.8mの植栽帯内に位置する。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.8m、1.0m。樹形良好、根鉢はかろうじて確保が可能である。			●	B
IT	64		シラカシ	7.5	84	4.0	–	2.5	2.5	3.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.30	B			○					○	有	中	樹冠上部に隣接するユーカリからの被圧あり。 幹に樹皮欠損・腐朽(大)あり。 打診音異常(小)あり。 大枝剪定痕に腐朽あり。 露出根あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	65		シラカシ	5.0	64	3.0	–	4.0	3.0	4.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.65	C			○					○	無	小	高さH4.0mで断幹されており、枯れ下っている。 鋼棒貫入異常(芯達)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	66		スダジイ	3.0	98	2.0	–	4.0	3.0	4.0	3.0	4.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.95	C			○					○	無	中	幹(東側)に樹皮欠損(周囲長比1/2以上)、打診音異常あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	68		ユーカリ	7.0	65	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○				○		有	中	大枝H5.0m以上にぶつ切り剪定が散在する。 下枝が高く、移植に向けた剪定に適さず、移植には不向きである。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.7m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	69		ユーカリ	11.0	100	3.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○				○		有	無	樹幹傾斜(北側)あり。 壁が北側に近接している。 下枝が高く、移植に向けた剪定に適さず、移植には不向きである。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.9m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	70		マテバシイ	6.5	61	2.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○		○					無	中	樹幹傾斜(南側)あり。 打診音異常(小)あり。 大枝付け根H2.0m(北側上部)に、腐朽あり。 露出根あり。			●	B
IT	71		マテバシイ	6.0	68	3.0	–	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○		○					無	中	樹幹傾斜(南側)あり。 露出根あり。			●	B
IT	72		マテバシイ	5.5	54	3.0	–	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B		○		○					無	中	高さH4m(北側と南東側)に大枝剪定痕からの腐朽あり。			●	B
IT	73		シラカシ	7.5	74	2.5	–	2.0	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	小	大枝H1.0m(南側)に樹皮欠損あり。 高さH5.0mに大枝剪定痕からの腐朽あり。			●	B
IT	74		マテバシイ	5.0	44	2.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.35	B			○					○	無	中	高さH1.5mに剪定痕からの腐朽、打診音異常(大)あり。 隣接するシラカシ(東側)、マテバシイ(西側)からの被圧(大)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	75		マテバシイ	7.0	79	4.0	–	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	小	幹下部に打音異常(小)あり。 巻き根(小)あり。			●	B
IT	76		サルスベリ	3.0	28	1.2	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.90	B			○					○	無	中	根元の揺らぎ(小)あり。 枝葉が少なく、衰退傾向にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	B
IT	77		マテバシイ	5.5	57	2.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.26	B			○					○	無	中	幹(北側)に開口空洞 H2.0～3.0m、背着生キノコ(種不明)あり。 枯枝 φ5, L=2mあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B

資料表 2.2-1(114)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り																調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日													
エリア	樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立数	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	78		マテバシイ	6.5	68	2.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B		○		○					無	小	梢端部にこぶが数か所あり。 露出根あり。			●	B
IT	79		マテバシイ	5.5	3本立	2.0	42,31,26	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○		○					無	中	株の2本が枯損、切除されている。 幹に樹皮欠損(支柱接触痕)あり。 打診音異常あり。 下枝がない(下枝高H3.0m)。樹皮欠損や打音異常は致命的ではなく、移植後の樹形維持は可能。			●	B
IT	80		ヤマモモ	5.0	50	4.0	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B		○		○					無	大	根元(北側)に開口空洞 10×10×10、打診音異常あり。 根元の揺らぎ(中)あり。打音異常や揺らぎは致命的ではなく移植後の樹形維持可能。			●	B
IT	81		クスノキ	12.0	149	5.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B	○					○			有	中	根元(西側)に打診音異常あるが、移植に際しては問題ない程度。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.2m。樹形の維持、根鉢の確保が可能である。			●	B
IT	82		ヤマモモ	4.0	53	3.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○					○	無	大	上部(北側)に腐朽(大)、開口空洞が数か所、打診音異常あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	83		クスノキ	11.0	122	3.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B			○				○		有	中	隣木(No81クスノキ)からの被圧あり。 下枝が高く、移植に向けた剪定に適さず、移植には不向きである。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.2m。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	B
IT	84		マテバシイ	6.5	89	3.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B			○					○	無	大	高さH2.0mに入り皮あり。 高さH2.0mから根元に亀裂あり。 西側に開口空洞あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	85		マテバシイ	6.0	3本立	4.0	47,39,35	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○	無	中	株の1本が枯損、切除されている。 打診音異常あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	86		マテバシイ	7.0	73	3.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	無	中	樹幹傾斜(南側)あり。 打診音異常あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	87		ノムラモミジ	4.0	45	4.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	中	剪定痕に腐朽あり。			●	B
IT	88		シラカシ	6.5	73	2.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○		○					無	中	高さH2.5m(北西側)に開口空洞あり。 打診音異常(小)あり。			●	B
IT	89		イロハモミジ	4.0	67	3.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			無	中	大枝(西側)に打診音異常あり。			●	B
IT	90		シラカシ	6.0	58	2.0	-	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.45	B			○					○	無	中	幹(北側)の上部と下部に潰瘍れ症状あり。 鋼棒貫入異常(芯達)あり。 打診音異常あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	91		クスノキ	8.5	3本立	4.0	91,59,34	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○			○				有	無	打診音異常(小)あり。 大枝(北側)が構造物に近接している。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.7m、1.0m。樹形の維持が可能である。			●	B
IT	92		シラカシ	6.5	57	2.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○	無	中	東側に開口空洞あり。 打診音異常(小)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(115)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名				伊藤忠ビル周り																調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日												
エリア	樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
				樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧					
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	93		マテバシイ	6.5	48	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○	無	小	打診音異常あり。 剪定痕からの腐朽が数か所あり。 露出根あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	94		マテバシイ	6.0	51	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.45	B			○					○	無	小	打診音異常あり。 枝上部(東側)に剪定痕からの腐朽あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	95		マテバシイ	6.0	5本立	3.0	42,38,34,32,26	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○	有	中	株(西側)に開口空洞あり。 構造物に北側と南側が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	96		マテバシイ	7.0	2本立	3.5	55,46	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○		○					無	小	2株双方に開口空洞あり。 打診音異常(大)あり。 大枝H4.0m(東側)にこぶあり。打音異常があるが、致命的とは判断しにくく移植後の樹形維持可能。			●	B
IT	97		サザンカ	3.5	31	1.8	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	中	隣接するマテバシイ(東側)からの被圧あり。 壁に近接し片枝樹形であり、枝葉も少なく、移植後の回復は困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	B
IT	98		サザンカ	3.2	27	1.8	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	中	隣接するマテバシイ(西側)からの被圧あり。 壁に近接し片枝樹形であり、枝葉も少なく、移植後の回復は困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	B
IT	99		マテバシイ	6.0	60	3.0	–	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	2.10	B		○		○					無	中	数か所にこぶ症状、てんぐ巣病の症状あり。 てんぐ巣病あるが、致命的ではなく移植後の樹形維持可能。			●	B
IT	100		マテバシイ	5.5	68	3.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	小	高さH4.0m(北東側)に開口空洞、高さH3.0m(北東側)に開口空洞100×10cm、高さH2.0m(北東側)に開口空洞20×13cmあり。 打診音異常あり。			●	B
IT	101		サザンカ	3.2	25	1.5	–	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	無	大	断幹されている。 隣接するマテバシイ(東側)からの被圧(大)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	102		サザンカ	3.2	19	1.0	–	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.65	C			○					○	無	小	樹幹傾斜(南側)あり。 枝葉量が少なく樹形にやや乱れ、樹勢が衰退傾向にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	103		サザンカ	3.3	26	1.8	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○		○					無	小	隣接するシラカシ(西側)からの被圧(大)あり。 樹形が回復傾向にある。			●	B
IT	104		シラカシ	8.5	93	3.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○		○					無	小	古葉に食害痕があるが、新葉は良好である。			●	B
IT	105		シラカシ	5.0	85	2.5	–	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.40	B			○					○	無	無	下枝(北西側)にこぶが数か所あり。 高さH1.5mに入り皮あり。 樹勢が衰退傾向にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	106		モッコク	3.3	3本立	2.3	31,21,18	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B		○		○					無	小	葉がやや小さい。 移植可能である。			●	B
IT	107		シラカシ	6.0	78	2.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.30	B		○		○					無	無	葉が小さく、樹勢がやや不良だが、回復傾向にあり、移植可能である。			●	B
IT	108		サザンカ	3.2	27	1.5	–	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.15	B		○		○					無	中	近接するシラカシ(東側)からの被圧(大)あり。 下枝(東H0.5m)に腐朽あり。 刈込樹形である。			●	B

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(116) 【変更後】毎木調査結果表

エリア名				伊藤忠ビル周り																調査日	2023年 5月 25日 ～ 2023年 5月 25日													
				規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目						
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	109		スダジイ	4.0	36	2.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	小	樹幹傾斜(北側)あり。 根元に樹皮欠損あり。			●	B
IT	110		サザンカ	3.3	33	1.5	-	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					無	小	樹形良好である。			●	B
IT	111		スダジイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	-	-	※	C
IT	112		シラカシ	3.5	2本立	1.5	59,21	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	3.00	C			○					○	無	無	断幹されており、断幹部からの腐朽(大)、打診音異常あり。 樹勢が著しく衰退している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	113		キンモクセイ	3.5	61(芝付)	2.3	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.70	A		○		○					無	無	樹形良好である。			●	B
IT	114		モチノキ	4.5	61	2.0	-	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.35	B		○		○					無	無	カイガラムシが多数寄生し、葉が小さく、すす病が多発している。 消毒や施肥で移植後の樹勢回復が可能。			●	B
IT	115		モチノキ	4.5	45	1.5	-	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.55	C		○		○					無	無	カイガラムシが多数寄生し、葉が小さく、すす病が多発している。 消毒や施肥で移植後の樹勢回復が可能。			●	B
IT	116		キンモクセイ	3.3	55(芝付)	2.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○					無	無	刈込樹形である。			●	B
IT	117		シラカシ	5.0	62	3.5	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	無	無	樹形不良傾向であり、移植後の回復が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	118		ヒイラギモクセイ	4.0	4本立	2.5	30,28,23,12	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.70	A		○		○					無	小	刈込樹形である。 枝葉量が多く、良好な状態である。			●	B
IT	119		シラカシ	5.0	65	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○	無	無	枝葉量が少なく、樹勢不良傾向にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	120		ヒイラギモクセイ	4.0	3本立	2.5	30,23,13	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○		○					無	中	刈込樹形である。 概ね良好な状態である。			●	B
IT	121		タイサンボク	5.0	52	2.5	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B		○		○					無	小	露出根あり。露出根に腐朽あり。 樹勢がやや衰退している。			●	B
IT	122		ヒイラギモクセイ	3.5	4本立	2.0	32,19,19,17	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.55	A		○		○					無	中	露出根あり。 刈込樹形であり、樹形良好である。			●	B
IT	123		ヤマモモ	2.9	59	2.0	-	3.5	3.0	4.0	3.5	4.0	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	3.05	C			○					○	無	大	樹高が3m以下である。 主幹がH1.4mで断幹され、内部が1.4mから根元まで空洞化している。 根元に開口空洞65×10×25/25(75)(貫通)。 大枝1本のみの樹形で生育している。倒伏の恐れあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	124		クスノキ	8.0	4本立	6.0	73,62,52,38	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.50	B			○				○		有	無	枝葉量が少なく、樹形の乱れ、樹勢が衰退している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(117)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名				伊藤忠ビル周り																調査日		2023年 5月 25日 ～ 2023年 5月 25日														
				規格				活力度														保存の必要性			移植					参考項目					
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	125		マテバシイ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	C
IT	126		ヤブツバキ	2.8	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	—	—	枯損している。	–	–	※	C
IT	127		ヤブツバキ	3.5	2本立	1.2	21,19	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.30	B			○					○	有	小	隣木のクスノキ(樹冠上部)からの被圧あり。 ビル風の影響あり。 樹勢が衰退傾向にあり、移植後の回復は難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	B
IT	128		ヤブツバキ	3.3	26	1.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.30	B			○					○	有	小	ビル風の影響あり。 樹勢が衰退傾向にあり、移植後の回復は難しい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため、移植不適。			●	B
IT	129		ヤマモモ	4.0	2本立	3.5	100,66	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C			○					○	有	無	2本立の片方に開口空洞あり。 葉が小さく樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	130		ヤマモモ	4.0	2本立	2.5	85,59	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.80	C			○					○	有	無	2本立の片方の幹分岐部に、開口空洞あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	131		ヤマモモ	5.5	102	2.5	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C			○					○	有	無	葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	132		ヤマモモ	5.0	95	3.5	–	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.65	C			○					○	有	無	葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	133		ヤマモモ	5.0	88	3.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C			○					○	有	無	根元・幹に腐朽(大)あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	134		ヤマモモ	6.0	83	3.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○				○		有	無	葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	135		ヤマモモ	3.5	90	2.5	–	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○					○	有	無	葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	136		ヤマモモ	6.0	2本立	3.0	94,51	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.65	C			○				○		有	無	高さH1.8mに開口空洞あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B

資料表 2.2-1(118)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り																調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日													
				規格				活力度														保存の必要性			移植					参考項目					
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	137		ヤマモモ	6.0	110	2.5	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○				○		有	無	高さH1.6mとH1.5mに開口空洞あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	138		ヤマモモ	4.5	97	3.0	-	2.5	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.60	C			○					○	有	小	高さH1.6mに腐朽あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B
IT	139		ヤマモモ	6.0	102	3.5	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○				○		有	無	大枝(北側)に開口空洞あり。 葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	140		ヤマモモ	6.0	4本立	3.0	95,37,35,16	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○				○		有	無	葉が小さく、樹勢が衰退している。(常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にある。) 地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B
IT	141		ヒメシャラ	8.5	3本立	4.0	40,39,28	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○		○					有	小	樹冠上部が1階部分のネットに接触し、損傷あるが、樹勢は悪くなく、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	142		ヒメシャラ	8.5	3本立	3.5	37,34,20	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B		○		○					有	小	片枝の上部に枯損(小)あり。 樹冠上部が1階部分のネットに接触し、損傷あるが、樹勢は悪くなく、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	143		ヒメシャラ	7.5	44	3.0	-	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.95	C			○					○	有	小	片枝樹形である。 樹冠上部が1階部分のネットに接触し、損傷ある。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C
IT	144		ヒメシャラ	8.5	3本立	5.0	38,32,28	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B		○		○					有	小	幹肌が黒く、頂部の枝葉がやや疎である。 樹冠上部が、1階部分のネットに接触し損傷あるが、樹勢は悪くなく、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	145		ヒメシャラ	8.5	3本立	4.0	38,37,36	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.20	B		○		○					有	小	樹冠上部が1階部分のネットに接触し損傷あるが、樹勢は悪くなく、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	146		ヒメシャラ	9.0	4本立	6.0	43,37,37,22	1.5	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.75	A	○			○					有	小	中庭のヒメシャラの中では樹勢・樹形が最も良好である。 樹冠上部が1階部分のネットに接触し損傷あるが、樹勢は悪くなく、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	147		ヒメシャラ	4.5	3本立	2.5	17,17,15	2.0	2.5	1.5	2.5	1.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.95	B		○		○					有	小	植替えがされており、ネット下の高さで管理されている。 やや繊細な樹木だが、移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	A

資料表 2.2-1(119)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名				伊藤忠ビル周り														調査日		2023 年 5 月 25 日 ～ 2023 年 5 月 25 日														
				規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考				
エリア	樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価
								1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●			ABCD
IT	148		ヒメシャラ	4.5	19	2.5	－	2.0	2.5	1.5	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.90	B		○		○					有	小	植替えがされており、ネット下の高さで管理されている。 やや繊細な樹木だが移植可能である。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●	B
IT	149		ヒメシャラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	B
IT	150		ヒメシャラ	9.0	2本立	4.0	38,37	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.95	B		○		○					有	小	ネットの上部で枝葉を伸長しており、下枝が高く、ネット接触の影響は小さい。 地下の植栽帯に位置する。擁壁が幹芯から1.7mの距離にある。			●	B

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(120) 【変更後】毎木調査結果表

エリア名			軟式野球場西側																調査日				2023年 9月 4日 ～ 2023年 9月 11日													伐採理由		
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目									
樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-001		シダレザクラ	8.5	204	10.0	−	1.5	1.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		有	小	幹H2.2mに樹皮枯死・欠損 40×40(160)あり。 樹木番号N02-002ヤエザクラとの相互被圧(小)あり。 根元の東側0.3mと北側1mに縁石あり。 高さH1.1mに枯枝 φ15, L=1.1mあり。	●			A			
N02-002		ヤエザクラ	8.0	156	10.0	−	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	有	小	幹H0.9mに開口空洞・腐朽20×15(155)×7/50あり。 打診音異常(小)H0.5～1.3mあり。 樹冠傾斜(北側)あり。片枝樹形。 樹木番号N02-001シダレザクラとの相互被圧(小)あり。 根元の南側0.8mにフェンスあり。	●			B			
N02-003		ヤエザクラ	9.0	180	12.0	−	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A			○					○	有	大	幹H1.8mに開口空洞・腐朽10×15(190)×10/65あり。 打診音異常(小)H0.5～1.2mあり。 樹木番号N02-013ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹形の偏り(北側)、幹の傾斜あり。 根元の北側0.65mに縁石、舗装あり。	●			B			
N02-004		スダジイ	9.0	266	10.0	−	1.5	1.5	3.0	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○					○		有	小	幹H0.7mに開口空洞・腐朽25×20(300)×70/110(芯達)あり。 大枝に樹皮枯死・欠損・腐朽(大)あり。落枝の恐れ、要切除。 根元の東側1.5mにフェンスあり。	●			A			
N02-008		モミジ	7.0	107	6.0	−	3.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.80	B			○					○	無	大	樹木番号N02-010シラカシからの被圧(中)、004スダジイからの被圧(大)あり。 樹形が南側に偏っており、移植樹として適さない。	●			A			
N02-009		モミジ	8.0	3本立	6.0	42,44,76	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.60	A		○		○					無	大	樹木番号N02-013ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹形が南側に偏っている。 大枝付け根に入り皮あり。 枯枝あり。	●			A			
N02-010		シラカシ	11.5	222	12.0	−	2.0	1.5	3.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.0	1.70	A		○					○		有	中	幹H1.7mに開口空洞 110×30(210)×31/65あり。 根元に開口空洞・腐朽 60×10(248)×50/80(芯達)あり。 根元・幹に打音異常(大) H1.6～2.5mあり。 幹に背着生キノコあり。 樹木番号N02-013ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 根元の南側0.3mに縁石、舗装あり。	●			B			
N02-011		シダレザクラ	10.0	110	−	−	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	−	−	主幹および樹冠がほぼ枯損状態にある。	※	−	−	B			
N02-012		ヒマラヤスギ	21.0	225	10.0	−	2.0	1.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○						○	無	大	樹木番号N02-013ヒマラヤスギとの相互被圧(大)あり。 梢の曲がり、伸長あり。 移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			A			
N02-013		ヒマラヤスギ	24.0	282	11.0	−	2.0	1.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.35	A	○							○	有	大	樹木番号N02-012ヒマラヤスギとの相互被圧(大)あり。 フェンスが近接しており、このままでは根鉢確保困難(北側0.7m) 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な生育確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-014		クスノキ	15.0	305	10.0	−	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.35	A	○							○	有	大	樹木番号N02-012, 013ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 被圧により南側の枝が少ない。 フェンスに近接しており、このままでは根鉢確保困難(北側1.0m)	●			A			
N02-015		ヒマラヤスギ	24.0	353	18.0	−	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.40	A	○							○	有	中	樹木番号N02-012ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 狭い単独桝に位置し、根鉢確保困難 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-016		シラカシ	10.0	273	12.0	−	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	無	根元・幹に開口空洞 115×15(295)×50/70(芯達)あり。 大枝に樹皮欠損が多数あり。 植栽桝に位置する。ツリーサークルあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	

資料表 2.2-1(121)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		軟式野球場西側																	調査日			2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 移植の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-017		カンヒザクラ	4.5	85	3.5	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B			○					○	有	大	樹木番号N02-018カンヒザクラとの相互被圧(大)あり。 樹木番号N02-014クスノキ、N02-019ユーカリからの被圧(大)あり。 早期落葉、枯れ下がりあり。 フェンスに近接している。(南側0.1m)	●			B			
N02-018		カンヒザクラ	4.0	83	5.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	樹木番号N02-017カンヒザクラとの相互被圧(大)あり。樹木番号N02-019ユーカリ、032ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹形が北側に偏っている。 フェンスが近接している。(南側0.3m) 枯枝が多数あり。	●			B			
N02-019		ユーカリ	18.5	231	7.0	－	2.5	2.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○	有	大	根元に樹皮欠損 25×10あり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 樹木番号N02-032ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 南側の枝数が少ない。 フェンスに枝が接触している。 ユーカリの大木は移植困難である(樹種特性)。	●			B			
N02-020		カンヒザクラ	7.0	112	8.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B		○					○		有	中	樹木番号N02-019ユーカリ、032ヒマラヤスギ、033ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 樹形が北側に偏っている。 フェンスに近接している。(南側0.4m)	●			B			
N02-030		ツバキ	4.5	75	3.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.35	A		○		○					無	大	幹に樹皮欠損(小)が4～5箇所あり。 樹木番号N02-019ユーカリ、032ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。	●			A			
N02-031		ツバキ	4.5	2本立	3.0	42,43	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.30	A	○			○					無	大	樹木番号N02-032ヒマラヤスギ、033ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。	●			A			
N02-032		ヒマラヤスギ	20.0	279	12.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○						○		有	中	樹木番号N02-033ヒマラヤスギとの相互被圧(中)あり。 建物に近接している。 根元に縁石の飲み込みあり。 幹芯から建物までの離隔距離1.1m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-033		ヒマラヤスギ	24.0	295	9.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		有	中	樹木番号N02-032ヒマラヤスギとの相互被圧(中)あり。 建物に近接している。 幹芯から建物までの離隔距離2.6m。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-034		ヒサカキ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	D			
N02-035		ツバキ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	枯損している。	※	－	－	C			
N02-036		イスノキ	5.0	58	3.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○				○			有	大	樹木番号N02-038ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 フェンスに近接している。(東側0.6m)	●			A			
N02-037		モッコク	4.5	3本立	4.0	61,40,30	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					無	大	幹に樹皮欠損 20×7あり。 樹木番号N02-036イスノキ、038ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹形が北側に偏っている。	●			A			
N02-038		ヒマラヤスギ	22.0	3本立	18.0	430,133,74	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		有	中	ぶつ切り剪定が多数あり。 樹木番号N02-033ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 建物に近接している。(南側5m) 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。	●			A			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(122)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2023年 9月 4日 ～ 2023年 9月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-047	カンヒザクラ	4.0	39	5.0	－	3.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B			○					○	有	大	断幹されている。 樹木番号N02-038ヒマラヤスギ、050ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 フェンスに近接している。(北側0.6m) 枯枝あり。	●			B			
N02-048	シダレザクラ	9.0	117	4.0	－	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	根元に開口空洞・腐朽15×20(130)×9/30、子実体あり。 樹木番号N02-038ヒマラヤスギ、050ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹形が、北側に偏っている。 フェンスに近接している。(北側0.2m) 梢端枯れあり(進行中)。	●			B			
N02-050	ヒマラヤスギ	21.0	250	10.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		無	中	樹木番号N02-059ヤエザクラとの相互被圧あり。 樹木番号N02-038ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 樹木番号N02-070ヒマラヤスギからの被圧(小)あり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。	●			A			
N02-059	ヤエザクラ	11.0	131	5.0	－	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B			○					○	無	大	樹木番号N02-050ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 ツバキの生垣に近接している。 片枝樹形、衰退傾向にある。 枯枝(大)あり。	●			B			
N02-066	トウネズミモチ	6.0	67 (芝付)	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	無	中	樹木番号N02-070ヒマラヤスギ、059ヤエザクラからの被圧(中)あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
N02-069	サクラ	12.0	277	9.0	－	2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	有	中	根元にベッコウタケの子実体あり。幹に背着生キノコあり。 幹に開口空洞・腐朽28×5(277)×26/80あり。 根上り巻き根あり。 胴吹き多数。ぶつ切り剪定されている。大枝に腐朽(大)あり。 樹木番号N02-070ヒマラヤスギからの、被圧(中)あり。樹形が、北側にやや偏っている。 フェンスに近接している。(東側1.5m)	●			B			
N02-070	ヒマラヤスギ	23.0	269	12.0	－	2.0	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		有	小	ぶつ切り剪定、スタブカット(切り残し枝)が多数あり。 樹木番号N02-050ヒマラヤスギ、081ヒマラヤスギからの被圧(小)あり。 建物に近接している。(東側3.5m) 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。	●			A			
N02-081	ヒマラヤスギ	23.0	305	12.0	－	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○					○		無	中	樹木番号N02-098ヒマラヤスギとの相互被圧(中)あり。 樹木番号N02-099ヒマラヤスギからの被圧(小)あり。 下枝が高い。ぶつ切り剪定が多数あり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。	●			A			
N02-082	ヤエザクラ	13.0	140	6.0	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.95	B			○					○	無	大	樹木番号N02-083クスノキに近接しており、被圧(大)あり。 樹冠に偏り(北側)あり。 下枝高い傾斜木で移植後の適正な生育が見込めない。	●			B			
N02-083	クスノキ	15.0	238	12.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		無	中	樹木番号N02-080ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 樹木番号N02-082ヤエザクラに近接しており、適正根鉢確保困難。	●			A			
N02-085	ヤエザクラ	11.0	255	8.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	中	ぶつ切り剪定が多数あり。 樹木番号N02-083クスノキからの被圧(中)あり。 フェンスに近接している。(北側0.3m)	●			B			
N02-086	シダレザクラ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、樹木回避のため撤去。	※	－	－	B			

資料表 2.2-1(123)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側																調査日			2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日														
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-088		サクラ	10.0	193	5.0	－	3.0	2.0	2.5	2.5	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.15	B			○					○	無	中	ぶつ切り剪定が多数、腐朽・枯れ下がりあり。 樹木番号N02-083クスノキからの被圧(中)あり。 早期落葉あり。	●			B			
N02-089		トウネズミモチ	5.0	46 (芝付)	3.0	－	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A			○					○	無	無	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
N02-095		ヒサカキ	3.5	34	2.0	－	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	3.0	1.0	2.25	B			○					○	有	小	葉に吸汁痕があり、葉色が薄い。 樹木番号N02-096ヒサカキ、097ソメイヨシノからの被圧(小)あり。 樹形が西側に傾斜している。 フェンスに近接している。(西側0.7m)	●			B			
N02-096		ヒサカキ	3.5	46	2.0	－	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○		○					無	小	樹木番号N02-097ソメイヨシノからの被圧(小)あり。	●			B			
N02-097		ソメイヨシノ	10.0	240	10.0	－	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○					○	無	小	幹0.7mに開口空洞空洞 20×25×10/65あり。 根元にベッコウタケの子実体あり。 近接するヒマラヤスギからの被圧(小)あり。 ぶつ切り剪定されている。大枝に腐朽(大)あり。	●			B			
N02-098		ヒマラヤスギ	22.0	235	10.0	－	2.0	1.5	1.5	2.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○						○		無	小	樹木番号N02-081ヒマラヤスギ、099ヒマラヤスギとの相互被圧(小)あり。 枝数がやや少ない。下部の大枝が少ない。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。	●			A			
N02-099		ヒマラヤスギ	24.0	328	14.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○					○		無	小	樹木番号N02-098ヒマラヤスギとの相互被圧(小)あり。 樹木番号N02-107ヒマラヤスギからの被圧(小)あり。 樹勢が回復傾向にある。 枯枝 φ20, L=3.5m (H13m)あり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-100		エノキ	6.5	39	4.0	－	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○		○					無	中	幹の肥大成長が少なく、細く伸長している。 周辺木との相互被圧(中)あり。	●			A			
N02-102		ソメイヨシノ	11.0	213	10.0	－	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B			○					○	無	中	幹にコフキタケの子実体あり。 幹H1.1mに大枝剪定痕からの樹皮欠損・腐朽 80×20(213)あり。 打診音異常(小)H0.6～0.8mあり。 樹木番号N02-106ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 フェンスが近接している。 早期落葉あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●(赤)			B			
N02-103		ツバキ	4.0	50	2.0	－	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○		○					無	無	フェンスに近接している。(西側1.1m) 根鉢確保可。	●			A			
N02-106		ヒマラヤスギ	20.0	293	14.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○					○			無	小	樹木番号N02-111ケヤキからの被圧(小)あり。	●(赤)			A			
N02-107		ヒマラヤスギ	25.0	298	12.0	－	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○					○			無	小	スタブカット(切り残し枝)が下部に多数あり。 樹木番号N02-108ケヤキからの被圧(小)あり。		●		A			

資料表 2.2-1(124)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側															調査日		2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日																
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》				2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-108		ケヤキ	20.0	166	5.0	–	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	無	大	胴吹き枝が多数あり。 樹木番号N02-106ヒマラヤスギ、109ケヤキからの被圧(大)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-109		ケヤキ	18.0	293	5.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	中	断幹されている。 幹に打音異常(小) H1.0m～2.0mあり。 幹に開口空洞 21×13(223)×5/65あり。 樹木番号N02-106ヒマラヤスギからの被圧(中)あり。 大枝剪定痕からの樹皮欠損(中)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-111		ケヤキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	高さH5.0mで断幹され、枯損している。	–	–	※	A			
N02-114		トウネズミモチ	5.0	57	5.0	–	3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A			○					○	無	小	樹冠上部に剪定による徒長枝が見られる。 樹木番号N02-106ヒマラヤスギからの被圧(大)あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
N02-118		ソメイヨシノ	7.0	43	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	無	早期落葉あり。 若木で移植可能。	●			A			
N02-119		ソメイヨシノ	7.0	50	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	無	早期落葉あり。 若木で移植可能。	●			A			
N02-121		ケヤキ	20.0	286	18.0	–	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○						○		無	無	幹H0.8mに閉塞痕あり。	●			A			
N02-122		トウネズミモチ	8.0	102	5.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	無	小	樹木番号N02-124クスノキからの被圧(小)あり。 3本立ちの幹分岐部が癒合、入り皮状態にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
N02-123		ソメイヨシノ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	高さH3.3mで断幹され、枯損している。	–	–	※	C			
N02-124		クスノキ	18.0	210	6.0	–	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○			○			有	無	下枝が高く、樹冠に偏り(南側が疎)あり。 仮設事務所に近接している。(西側0.8m) 中央部の枝葉が少ない。		●(赤)		A			
N02-126		コブシ	9.0	70	2.5	–	2.5	2.0	3.0	3.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		無	無	南側の枝葉が少なく、片枝樹形である。 樹冠頂部、早期落葉あり。樹勢が衰退傾向にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●(赤)	A			●
N02-127		チョウセンマツ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	B			
N02-128		ツバキ	4.0	50(芝付)	2.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B		○		○					有	小	樹木番号N02-130サンゴジュからの被圧(小)あり。 根元の東側0.6mに縁石と舗装あるが、根鉢確保可。		●(赤)		A			

資料表 2.2-1(125)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側															調査日		2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日																
樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-130		サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	38,35,33	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	1.5	2.0	1.0	2.40	B			○					○	無	大	樹木番号N02-131クスノキからの被圧(大)あり。 幹分岐部に入り皮状態あり。 5本立の2本が枯損している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-131		クスノキ	17.0	258	10.0	–	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.55	A	○							○	無	小	樹木番号N02-132ソメイヨシノと近接し根鉢確保困難、相互被圧(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-132		ソメイヨシノ	10.0	185	5.0	–	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.95	D			○					○	無	大	根元にベッコウタケの子実体あり。 周辺木との相互被圧(大)あり。 片枝樹形(東側)、葉が数枚ある程度でほぼ枯死状態。伐採検討の必要あり。 バルブ配管に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-133		チョウセンマツ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	B			
N02-136		トウネズミモチ	5.0	2本立	2.5	33,27	3.5	2.0	3.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	大	バルブ配管に近接している。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
N02-137		サンゴジュ	4.0	17	1.0	–	4.0	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	3.0	2.0	2.0	1.0	3.00	C			○					○	無	大	枝枯れが多く、枝葉が少なく、樹形が崩壊している。 隣接するユリノキに近接している。 伐採も検討したい。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-138		ユリノキ	6.5	32	2.5	–	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	3.0	1.5	2.5	2.0	1.0	2.10	B		○		○					無	大	片枝樹形であるが移植後の回復の見込みあり。		●(赤)		B			
N02-139		タブノキ	7.0	45	4.0	–	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A		○		○					無	中	樹木番号N02-140ソメイヨシノからの被圧(中)あり。		●		A			
N02-140		ソメイヨシノ	12.0	279	6.0	–	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	2.0	2.0	3.10	C			○					○	有	中	幹H1.2mに開口空洞・腐朽20×20(270)×50/75(芯達)あり。 打音異常(中) H0.6～1.6mあり。 幹に樹皮枯死・欠損 20×20あり。 キノコの菌糸膜あり、伐採検討の必要あり。 樹木番号N02-141ソメイヨシノからの被圧(中)あり。 早期落葉あり。 根元の南側0.7に縁石と舗装あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-141		ソメイヨシノ	18.0	2本立	16.0	190,165	2.5	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.45	B			○					○	無	無	早期落葉あり。 衰退傾向にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-142		サクラ	7.5	49	5.5	–	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○		○					無	中	樹木番号N02-140ソメイヨシノからの被圧あり。 早期落葉あり。	●(赤)			A			
N02-150		ヤエザクラ	8.0	125	8.0	–	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A		○					○		有	小	車道側がぶつ切り剪定されている。 樹木番号N02-153ケヤキからの被圧あり。 フェンスに近接しており、このままでは根鉢確保困難。(西側0.7m)	●			A			
N02-152		カンキツ	5.0	48	4.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	中	樹木番号N02-153ケヤキからの被圧あり。 フェンスに近接している。(西側0.7m)	●			B			

資料表 2.2-1(126)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-153		ケヤキ	20.0	220	10.0	-	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○					○		有	無	根元・幹に打音異常(小) H0.0～1.3mあり。 大枝付け根に開口空洞 25×10×25/70あり。また空洞が根元まで続いている。 フェンスに近接している。(西側0.2m)	●			A			
N02-154		イヌツゲ	4.5	2本立	4.0	44,41	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A			○					○	無	中	樹木番号N02-153ケヤキに近接しているため、根鉢確保困難。	●			A			
N02-155		ユリノキ	10.0	84	8.0	-	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A			○					○	有	中	樹木番号N02-153ケヤキからの被圧あり。 フェンスに近接している。(西側0.7m) 移植に際しての根鉢確保困難	●			A			
N02-156		ケヤキ	21.0	254	12.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○						○		有	無	大枝剪定痕からの腐朽があるが巻込みあり。 フェンスに近接している。(西側1.0m)	●			A			
N02-157		チョウセンマツ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	安全配慮、倒木回避のため撤去。	-	-	※	B			
N02-158		カクレミノ	3.0	57 (芝付)	3.0	-	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.95	C			○					○	無	小	根元・幹に打音異常(大) H0～2.0mあり。 2本立ちの一方が枯死。 骨格となる大枝3本の内、2本が枯損している。 枯死寸前、葉量が少ない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
N02-159		フウ	13.0	120	8.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A			○					○	有	中	幹H1.6mに開口空洞 5×5(120)×16/40あり。 根元、アスファルトの押し上げ(小)あり。 根元の3方向に舗装あり。	●			B			
N02-160		コブシ	12.0	114	7.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	有	無	樹木番号N02-140ソメイヨシノからの被圧あり。 片枝樹形である。 露出根あり。 縁石の押し上げ(大)あり。 植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-161		ソメイヨシノ	9.0	2本立	8.0	234,215	3.0	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.70	C			○					○	有	無	根元にベッコウタケあり。 幹H1.8mに開口空洞・腐朽 30×30×38/62(芯達)あり。 樹形に乱れあり(幹に屈曲、梢端枯れ)。 早期落葉あり。衰退傾向にある。 アスファルトの押し上げ(大)あり。 植桝内に位置する。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-162		サンゴジュ	3.5	3本立	2.5	63,40,30	3.0	3.5	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.40	B			○					○	有	大	幹が2本枯れている。 隣接するユリノキからの被圧(大)あり。 5本立ちの内、2本が枯死。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-163		ユリノキ	20.0	285	10.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○					○			有	無	打診音異常(小) H1.5～2.0mあり。 デッキに近接している。		●		A			
N02-164		ユリノキ	20.0	354	12.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		有	無	露出根あり。巻き根(大)あり。 幹に大枝折損痕あり。 縁石とアスファルト舗装の押し上げ(大)あり。 植栽桝(2.7×2.7m)に位置する。 建物に近接している。(西側3.2m) 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(127)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	
N02-165	ユリノキ	16.0	205	8.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	無	アスファルト舗装の押し上げ(大)あり。 建物(西側1.1m)、フェンス(南側0.3m)に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
N02-166	ユリノキ	15.0	372	9.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.40	A		○					○		有	無	建物(北側0.8m)、ブロック塀(南側0.8m)に近接している。 根元にナラタケモドキ様の子実体あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
N02-168	イヌビワ	3.0	5本立	3.7	25,18,18,17,13	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○		○					無	小	樹木番号N02-169サンゴジュからの被圧あり。
N02-169	サンゴジュ	3.5	3本立	3.6	53,45,43	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.55	C			○					○	有	無	4本立ちの内、1本が枯死している。 幹の2本に樹皮枯死・欠損・腐朽(大)あり。 大枝に枯枝が 2本 φ10cm,L=1.2mあり。 葉に食害痕が多数あり。 フェンスと倉庫に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
N02-171	エノキ	12.0	296	12.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○					○			有	無	フェンスに近接している。(西側1.2m) 排水桝あるが、根鉢確保可能。
N02-172	ヤエザクラ	9.0	210	11.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○				○			有	無	幹・大枝分岐部H0.8mに開口空洞・腐朽20×20(210)×14/44あり。 フェンスに近接している。(西側0.7m) 根鉢確保可能、移植はできる。
N02-173	ケヤキ	15.0	190	12.0	-	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A			○					○	有	小	露出根あり。 トイレと舗装に近接している。 縁石の押し上げ(大)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
N02-174	サンゴジュ	5.0	4本立	3.5	40,38,30,15	2.5	2.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.40	B			○					○	無	中	幹の1本に打音異常(大) H0.5～0.7mあり。 幹の1本に樹皮枯死(中)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
N02-175	ソメイヨシノ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ー	ー	安全配慮、倒木回避のため撤去。
N02-176	ソメイヨシノ	9.0	158	5.0	-	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.85	C			○					○	無	中	根元にコフキタケの子実体あり。 打診音異常(中)H1.5～2.0mあり。 大枝に剪定痕からの樹皮枯死・欠損・腐朽(大)、チャアナタケモドキの子実体あり。 大枝ぶつ切り剪定、片枝樹形である。早期落葉あり。 大枝落枝の恐れあり。伐採検討の必要あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
N02-177	フウ	16.0	155	8.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	無	根元が舗装に接触している。
N02-178	フウ	16.0	172	8.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	無	舗装と門扉に近接している。(西側0.3m)

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-165			●	A		●	
N02-166			●	A		●	
N02-168		●		A			
N02-169			●	B			●
N02-171		●		A			
N02-172		●		A			
N02-173			●	A		●	
N02-174			●	B			●
N02-175	-	-	※	B			
N02-176			●	B			●
N02-177	●			A			
N02-178	●			A			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(128)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木（赤）			ABCD			
N02-179	フウ	15.0	169	6.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○				○				有	無	フェンスに近接している(東側0.5m)が、移植のための根鉢確保可能。	●(赤)			A			
N02-180	ケヤキ	24.0	272	20.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	大	大枝が西側に伸長し、片枝樹形である。 周辺木からの被圧(大)あり。 根元がフェンスに接触している。	●			A			
N02-181	サカキ	4.5	35	2.7	-	1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.45	A		○		○					無	無	葉に吸汁痕、食害あり。	●(赤)			A			
N02-182	フウ	18.0	130	6.0	-	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○		○					無	小	樹木番号N02-192フウからの被圧あり。	●(赤)			A			
N02-183	ユリノキ	18.0	230	9.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	中	大枝剪定痕からの腐朽あり。 樹勢が回復傾向にある。 樹木番号N02-201ユリノキからの被圧(中)あり。 建物と水道タンクが近接しているが、根鉢確保可能。		●(赤)		B			
N02-184	ツバキ	3.5	13	0.8	-	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.70	A			○					○	有	小	隣木の被圧あり。 片枝樹形である。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-185	ツバキ	3.5	18	1.2	-	2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.55	A			○					○	有	小	隣木の被圧あり。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-186	ツバキ	3.5	21	1.8	-	2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.55	A			○					○	有	小	隣木の被圧あり。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-187	ツバキ	2.6	14	1.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.90	B			○					○	有	小	隣木の被圧あり。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-188	ツバキ	3.0	15	1.3	-	2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.55	A			○					○	有	小	隣木の被圧あり。 片枝樹形である。 フェンスに近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-189	ツバキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	-	-	※	D			
N02-192	フウ	18.0	160	7.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	小	樹木番号N02-200フウからの被圧あり。	●(赤)			A			
N02-193	ツバキ	3.5	2本立	2.0	27,19	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.15	A		○		○					有	小	隣木からの被圧あり。 枝に南京錠のくい込みあり。 フェンス基礎に近接している。	●			A			

資料表 2.2-1(129)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-194		ネズミモチ	3.5	3本立	2.0	22,15,14	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	4.0	2.0	3.0	1.0	1.0	2.75	C			○					○	無	中	大枝に枝折れあり。 枝葉が少ない。 隣木からの被圧あり。	●			C			
N02-195		ツバキ	4.0	36(芝付)	3.0	-	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○			○					無	小	隣木からの被圧あり。	●			A			
N02-196		ツバキ	3.0	4本立	2.0	30,30,15,14	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○			○					有	中	隣木からの被圧あり。 フェンス基礎に近接している。	●			A			
N02-197		ツバキ	3.4	45	3.0	-	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A	○			○					有	小	隣木からの被圧あり。 樹形が西側に偏っている。 フェンスに近接している。	●			A			
N02-198		ヤマグワ	5.0	99(芝付)	3.0	-	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.20	A		○		○					無	小	周辺木との競合あり。	●			A			
N02-199		ヤマグワ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	-	※	-	A			
N02-200		フウ	18.0	148	8.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○		○					有	小	倉庫に近接している。(西側0.5m)	●			A			
N02-201		ユリノキ	18.0	191	9.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○				○			有	中	建物(東側1.6m)と水道タンク(西側0.9m)に近接している。		●		A			
N02-202		コブシ	16.0	180	8.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		無	無	幹に打診音異常(大) H0.5m～1.0mあり。 幹につる植物の登ハンあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-203		サワラ	18.0	110	3.5	-	3.0	2.5	2.5	3.0	2.0	3.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.15	B			○					○	無	無	幹に打診音異常(中) H1.5m～2.0mあり。 中央部・下部に大枝がない。 幹につる植物の登ハンあり。 下枝が高い。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-204		サクラ	8.0	225	8.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	1.5	3.0	2.5	1.0	2.60	C			○					○	有	小	大枝がぶつ切り剪定され、樹形が崩れている。 大枝に樹皮欠損あり。 早期落葉あり。 フェンスに近接している。(西側1.0m)	●			B			
N02-205		ネズミモチ	4.5	60	3.0	-	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					有	小	プレハブ倉庫(東側1.0m)とフェンス(西側1.5m)に近接している。	●			A			
N02-206		サワラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	-	-	B			

資料表 2.2-1(130)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側															調査日		2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日																
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》				2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-207		スダジイ	11.0	222	6.0	-	2.5	2.0	3.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	大	幹H1.9mに開口空洞・腐朽 20×10×31/60(芯達)あり。 打診音異常(大)H0.4～2.2mあり。 幹・大枝に樹屑空洞が多数あり。 大枝の枝折れ痕に腐朽(大)あり。 プレハブ倉庫、フェンス(西側1.3m)に近接している。	●			A			
N02-208		ソメイヨシノ	12.0	240	12.0	-	2.5	2.5	3.0	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	小	幹に開口空洞 5×5×5/60あり。 大枝に樹皮枯死・欠損・腐朽(大)あり。 大枝剪定痕からの腐朽が3箇所あり。 プレハブ倉庫に近接している(0.3m)。 早期落葉あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-209		シラカシ	17.0	270	12.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	1.40	A		○				○			有	中	樹木番号N02-237メタセコイアからの被圧あり。 プレハブ倉庫、貯蔵所ブロック塀(南側1.8m)に近接している。 カシナガホイホイの設置あり。		●		A			
N02-210		ナツミカン	5.0	80	5.0	-	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.05	A	○			○					有	小	建物に近接している。(北側1.3m)		●		A			
N02-211		サカキ	5.0	2本立	3.0	25,14	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.35	A		○		○					有	中	樹木番号N02-213ヒイラギモクセイからの被圧あり。 貯蔵所ブロック塀に近接している。(北側1.1m)		●		A			
N02-213		ヒイラギモクセイ	3.5	27	3.0	-	2.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.5	1.0	1.25	A			○					○	有	大	樹木番号N02-215シラカシからの被圧あり。 プレハブ倉庫に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-214		ヒイラギモクセイ	3.0	17	2.0	-	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.5	1.0	1.70	A			○					○	有	大	樹形が西側に傾斜している。 樹木番号N02-215シラカシからの被圧あり。 プレハブ倉庫に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-215		シラカシ	15.0	100	5.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.30	A		○						○	有	中	幹H2.1mに開口空洞15×7(100)×20/32(芯達)あり。 打音異常(大) H1.5m～2.0mあり。 樹木番号N02-226シラカシからの被圧あり。 プレハブ倉庫に近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-216		サカキ	7.0	45	3.0	-	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.35	A		○			○				有	小	樹木番号N02-226シラカシからの被圧あり。 フェンスとプレハブ倉庫に近接している。		●		A			
N02-217		ユリノキ	22.0	186	8.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A		○					○		有	大	巻き根あり(切除不可)。 打診音異常(小)H1.5～2.3mあり。 樹木番号N02-180ケヤキ、224クスノキからの被圧あり。 フェンスに近接している。(西側1.7m)	●			B			
N02-218		タブノキ	8.0	48	4.0	-	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A			○					○	無	大	樹幹が西側に傾斜しており、片枝樹形であり、移植木として適さない。 周辺木からの被圧あり。	●			A			
N02-219		クスノキ	10.0	54	5.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	無	大	下部の大枝が少なく、枯れ枝が見られる。 周辺木からの被圧あり。 移植に伴う剪定からの健全な状態への回復が困難。	●			B			
N02-220		サワラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ー	ー	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	-	-	C			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(131)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2023 年　9月 4日 ～ 2023 年　9月 11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-221		メタセコイア	30.0	211	6.0	–	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○					○		有	中	下部の大枝が少ない。 周辺木からの被圧あり。樹木番号N02-223シラカシからの被圧による片枝樹形。 フェンスに近接している。(西側0.5m)	●			A			
N02-222		トウネズミモチ	6.0	3本立	3.5	38,36,18	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.55	A			○					○	無	大	周辺木からの被圧あり。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	A	●		
N02-223		シラカシ	11.0	154	12.0	–	2.0	1.5	3.0	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.60	A			○					○	有	大	根元に背着生キノコの残さあり。 根元に開口空洞・腐朽30×16(160)×26/62あり。 幹H1.8mに開口空洞・腐朽9×8(155)×17/48あり。 打診音異常(中)H1.2～1.8mあり。 周辺木からの被圧あり。 縁石(西側0.7m)、照明に近接している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N02-224		クスノキ	20.0	186	10.0	–	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	無	大	樹幹傾斜(北東側)あり。 枝が北東側に伸長しており、片枝樹形である。 周辺木からの被圧あり。 樹形に乱れあり、下枝が高く、枝葉が北側に偏り、移植に伴う剪定により移植後の健全な状態への回復が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N02-225		タブノキ	7.0	36	4.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.30	A	○				○				無	大	樹形は良好。 周辺木からの被圧あり。	●			A			
N02-226		シラカシ	16.0	142	8.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.65	A			○					○	無	大	根元に開口空洞8×8(165)×40/53(芯達)あり。 幹に開口空洞(中)が、2箇所(H2.3m, H3.5m)あり。 打診音異常(小)H0～0.6mあり。 大枝に樹皮枯死・欠損(大)あり。 周辺木からの被圧あり。 キクイムシのフラスあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-227		メタセコイア	31.0	287	16.0	–	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○					○		有	中	下部の大枝が少ない。 周辺木からの被圧(中)あり。 舗装に近接している。(南側0.8m) 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-228		ネズミモチ	6.0	6本立	4.0	41,16,14,13,12,12	3.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A			○					○	無	大	樹幹傾斜(南側)(大)あり。 隣接の太い幹と一体化しており移植不可。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-229		ネズミモチ	3.5	24	2.3	–	2.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A		○		○					無	大	頂端部に切除あり。 被圧あるが、回復可能、小さい木で移植可能。		●		A			
N02-230		カキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	C			
N02-231		エンジュ	9.5	120	8.0	–	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	中	幹H0.9m(南側)に樹皮欠損(中) 80×13(120)、巻き込みあり。 幹H0.9m(北側)に樹皮枯死(中) 69×12(120)、巻き込みあり。 片枝樹形である。 縁石に近接している。(南側0.9m) 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-233		ヒサカキ	3.0	2本立	3.0	21,15	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	大	メタセコイアに近接している。 被圧による樹冠傾斜(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

資料表 2.2-1(132)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　　調査日：2023 年　9月 4日 ～ 2023 年　9月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1〜4評価						1〜4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●（●:変更樹木）			ABCD			
N02-234	メタセコイア	28.0	260	10.0	-	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B	○					○			無	中	下部の大枝が少ない。 シラカシからの被圧あり。		●		A			
N02-235	タラヨウ	12.0	3本立	6.0	116,35,22	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.45	A		○			○				無	中	北側の大枝が少ない。 シラカシからの被圧あり。		●		A			
N02-236	ビワ	5.5	36	4.5	-	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○		○					無	中	タラヨウの被圧により、やや南側に傾斜している。 樹勢良好、移植可能。		●（赤）		A			
N02-237	メタセコイア	27.0	235	13.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A			○					○	有	中	被圧による片枝樹形である。 根元に縁石とアスファルトの押し上げ(中)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-238	サンゴジュ	4.0	2本立	2.0	40,22	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.75	C			○					○	無	無	樹皮欠損が多数あり。 枯枝が多く、樹形崩壊傾向にある。 3本立ちの内1本が枯死。 伐採検討の必要あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-239	サンゴジュ	4.0	2本立	1.8	45,38	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○	無	無	葉に食害痕が多数あり。 3本立ちの内1本が枯死。 伐採検討の必要あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N02-243	イチョウ	16.0	340	16.0	-	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.40	A		○						○	有	無	幹H0.2mに樹皮欠損100×60(340)あり。 大枝剪定痕に腐朽 φ35cm、φ30cm、φ20cmあり。 大枝に打音異常(中) H1.2m～2.0mが2箇所あり。 縁石押し上げ(小)、アスファルト押し上げ(小)あり。(南側) 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-244	サンゴジュ	4.0	70	4.0	-	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.75	C			○					○	無	無	幹が2本枯死している。 葉に食害痕が多数あり。 枯れ枝が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-245	サンゴジュ	3.0	2本立	1.8	24,22	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○	無	無	樹皮欠損が多数あり。 枯枝が多く、樹形崩壊傾向にある。 伐採検討の必要あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-246	イチョウ	15.0	288	10.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○					○		有	無	根元に照明灯の柱あり。 フェンス(東側0.4m)、縁石(西側0.6m)に近接している。 建物が2.5m(南側)の距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-247	カイヅカイブキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	-	-	※	C			
N02-249	カイヅカイブキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	-	-	※	C			
N02-250	カイヅカイブキ	6.0	39	1.2	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.70	C			○					○	有	大	下枝なく、片枝樹形である。 樹幹傾斜(大)あり。 建物が0.7m(南側)の距離にあり、近接している。 建物からの被圧あり。 植桝内にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	

資料表 2.2-1(133)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側																調査日				2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日													
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-251		カイヅカイブキ	5.5	34	1.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	1.0	2.70	C			○					○	有	大	下枝なく、片枝樹形である。 建物が0.7m(南側)の距離にあり、近接している。 建物からの被圧あり。 植桝内にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	C		●	
N02-252		ケヤキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	安全配慮、倒木回避のため撤去。	-	-	※	A			
N02-259		カイヅカイブキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	-	-	C			
N02-260		カイヅカイブキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	-	-	C			
N02-261		カイヅカイブキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	-	-	C			
N02-262		シラカシ	12.0	192	9.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B	○						○		有	中	スダジイからの被圧あり。 フェンス(東側0.5m)、看板(西側0.5m)に近接している。	●			A			
N02-263		カキ	10.5	80	5.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	大	断幹痕あり。 西側の枝が少ない。 スダジイからの被圧あり。	●			B			
N02-264		スダジイ	9.5	272	10.0	-	2.0	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	小	幹に打音異常(中) H0.5m～1.5mあり。 幹H1.1mに開口空洞・腐朽25×20(270)×33/80あり。 フェンスが0.6m(西側)の距離にある。	●			B			
N02-265		トウカエデ	14.0	139	7.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	中	片枝樹形である。 フェンスが0.3m(西側)の距離にる。 建物が2.0m(東側)の距離にある。	●			B			
N02-266		トウカエデ	16.0	210	7.0	-	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	小	幹に開口空洞(小)が、2箇所(H1.5m, H1.8m)あり。 フェンスが0.7m(西側)の距離にある。 建物が1.6m(東側)の距離にある。	●			B			
N02-267		ソメイヨシノ	6.0	140	4.0	-	4.0	3.0	4.0	3.0	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.75	C			○					○	有	小	根元にコフキタケあり。 大枝折損痕からの腐朽、枯損あり。 打診音異常(大)H0.3～1.8mあり。 幹がフェンスに寄りかかっている。 建物が2.5m(東側)の距離にある。 倒木の恐れあり、伐採検討の必要あり。	●			B			
N02-268		トウカエデ	18.0	191	6.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	有	小	幹H1.5mに開口空洞 11×6×30/60(芯達)あり。 フェンスが0.4m(西側)の距離にある。 建物が2.2m(東側)の距離にある。	●			A			
N02-269		ソメイヨシノ	10.0	161	5.0	-	3.0	2.5	3.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○					○	有	小	根元に開口空洞・腐朽20×10(161)×12/42あり。 樹幹傾斜(西側)あり。 フェンスが接触(西側)している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(134)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名			軟式野球場西側																調査日		2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日											保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-270		トウカエデ	6.5	39	3.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	中	頂端部が切除されている。 サクラ類からの被圧あり。	●			A			
N02-271		ソメイヨシノ	16.0	262	12.0	－	2.5	3.0	3.5	3.0	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.55	C			○					○	有	小	大枝が西側に多数伸長し、樹冠に偏りあり。 幹のフェンス寄りかかりが進行し、フェンスに歪みが生じている。 根上りあり。根返りの可能性あり。 建物が、2.2m(東側)の距離にある。	●			B			
N02-272		トウカエデ	16.0	151	7.0	－	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○					○		有	小	大枝が西側に多数伸長している。 フェンスが接触(西側)している。	●			B			
N02-273		トウカエデ	16.0	217	6.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.65	A		○					○		有	無	幹H2.1mに開口空洞15×5(210)×30/70あり。 大枝が西側に多数伸長している。下枝が少ない。 フェンスが0.8m(西側)の距離にある。 建物が1.8m(東側)の距離にある。	●			A			
N02-275		サクラ	10.5	269	11.0	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	有	大	大枝が西側に多数伸長している。 胴吹き枝が多い。根上り(大)あり。 枯枝(カワラタケ発生)あり。 フェンスに接触している。建物が1.7m(東側)の距離にある。	●			B			
N02-276		ヒサカキ	3.5	3本立	2.0	26,18,10	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○					無	大	スダジイからの被圧あり。 フェンスが2.0m(西側)の距離にある。	●			B			
N02-277		スダジイ	11.0	204	15.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		有	中	片枝樹形(西側)である。 幹に樹皮欠損(小)、巻込み(良)、4か所あり。 大枝に腐朽が複数あり。 フェンスが0.7m(西側)の距離にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
N02-278		ムクノキ	7.0	2本立	6.0	51,23	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	大	根元で断幹あり。 樹幹傾斜(小)(北側)あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
N02-279		タブノキ	7.0	3本立	3.5	26,16,15	3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	有	大	根元で断幹あり。 塀に接触(東側)、建物に寄りかかりあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-280		ヒイラギモクセイ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	枯死している。	－	※	－	B			
N02-281		ヒイラギモクセイ	3.0	2本立	2.0	33,27	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B		○		○					無	大	周辺木からの被圧あり。 存在感あり、樹形回復可能、移植可。	●			A			
N02-282		ヒイラギモクセイ	3.0	22	2.0	－	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.50	B			○					○	無	大	周辺木からの被圧あり。 樹形が崩れ、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。	●			A			
N02-283		タブノキ	19.0	270	6.0	－	2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.60	A		○					○		有	中	幹H1.4mに樹皮欠損40×40(270)あり。 塀が0.5m(東側)の距離にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。	●			A			

資料表 2.2-1(135)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	軟式野球場西側						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023年 9月 4日 ～ 2023年 9月 11日	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-284		ヒイラギモクセイ	2.0	2本立	1.5	19,10	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					有	大	幹分岐に癒合と入り皮あり。 梢端部に枝枯あり。 フェンスが0.4m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-285		ヒイラギモクセイ	2.5	24	1.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					有	大	フェンスが0.4m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-286		マテバシイ	9.0	93	6.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○					○		有	中	枝(東側)が建物に接触している。 塀が0.1m(東側)の距離にある。	●			A			
N02-287		マテバシイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	-	-	B			
N02-289		ヒイラギモクセイ	2.7	2本立	1.5	16,14	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					有	大	周辺木からの被圧あり。 フェンスが0.5m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-290		ヒイラギモクセイ	2.5	18	1.5	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					有	大	周辺木からの被圧あり。 フェンスが0.5m(西側)の距離にある。	●			B			
N02-291		ヒイラギモクセイ	2.3	18	1.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	有	大	2本立の1本は枯死している。 周辺木からの被圧あり。 フェンスが0.5m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-299		トウネズミモチ	3.0	41	2.0	-	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	2.0	1.0	3.10	C			○					○	有	中	2本立の1本が枯死している。 主幹上部で断幹されている。 塀が0.4m(北側)の距離にある。 環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
N02-308		ヒマラヤスギ	9.0	162	4.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-309		ヒマラヤスギ	9.0	129	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-310		ヒマラヤスギ	9.0	146	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。 縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-311		ヒマラヤスギ	9.0	110	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

資料表 2.2-1(136)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		軟式野球場西側	調査日	2023年 9月 4日 ～ 2023年 9月 11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-312		ヒマラヤスギ	9.0	110	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-313		ヒマラヤスギ	9.0	127	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-314		ヒマラヤスギ	9.0	126	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-315		ヒマラヤスギ	9.0	110	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-316		ヒマラヤスギ	9.0	112	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-317		ヒマラヤスギ	9.0	100	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-318		ヒマラヤスギ	9.0	120	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-319		ヒマラヤスギ	9.0	112	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。 縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-320		ヒマラヤスギ	9.0	127	3.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-322		ヒマラヤスギ	9.0	130	2.0	-	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	

資料表 2.2-1(137)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		軟式野球場西側																	調査日			2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日												
樹木番号	樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
		樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・腐	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-323	ヒマラヤスギ	9.0	105	3.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-324	ヒマラヤスギ	9.0	120	3.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-325	ヒマラヤスギ	9.0	110	3.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-326	ヒマラヤスギ	9.0	123	3.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.5m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-327	ヒマラヤスギ	9.0	136	3.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.8m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-328	ヒマラヤスギ	9.0	130	4.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.7m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-329	ヒマラヤスギ	9.0	147	3.0	－	3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.80	B			○					○	有	小	頂端部が切断されている。 刈り込み剪定による片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が0.6m(西側)の距離にある。室外機に近接している(0.3m)。 植桝内にある。縁石の押し上げ(小)あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N02-330	マンシュウカエデ	11.0	250	10.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○					○			有	無	幹H0.6mに開口空洞(小) 22×4×8/53あり。 大枝付け根が入り皮L=0.4mである。 舗装の押し上げ(小)あり。		●		A			
N02-331	スダジイ	12.0	190	9.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.5	1.0	1.0	1.65	A		○					○		無	小	根元に樹皮欠損(小) 30×10あり。 高さH3.0mに大枝剪定痕からの腐朽φ10cmあり。 塀が2.0m(北側)の距離にある。	●			A			
N02-332	マテバシイ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	枯死している。	※	－	－	B			
N02-333	マテバシイ	6.5	46	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	2.10	B			○					○	無	大	スダジイからの被圧あり。 片枝樹形である。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(138)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度(1～4評価) 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	活力度(1～4評価) 葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果 ABCD	保存の必要性(該当に○) 高	中	低	移植(該当に○) 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物(有無)	片枝・被圧(大中小無)	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存(該当に● ●:変更樹木)	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価 ABCD	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 樹林の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
N02-334	マテバシイ	5.0	3本立	2.0	13,15,17	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	大	樹幹傾斜(南側)あり。 中央部に枝が少なく、片枝樹形である。 スダジイからの被圧あり。樹形が悪く回復不可。	●			B			
N02-335	コブシ	11.0	115	5.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○					○		無	中	幹に子実体種類不明あり。 片枝樹形である。 マテバシイからの被圧あり。 幹につる植物の登ハンあり。 盛土あり。	●			A			
N02-336	マテバシイ	8.0	77	7.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.75	A		○		○					無	中	樹幹傾斜(小)(東側)あり。 樹勢・樹形良好、移植可。	●			A			
N02-337	モチノキ	7.0	3本立	3.0	13,20,21	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.35	A	○			○					無	大	スダジイからの被圧あり。	●			A			
N02-338	スダジイ	12.0	220	8.0	-	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○						○		有	中	樹幹がやや西側に偏っている。 フェンスが1.8m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-339	マテバシイ	7.0	31	3.5	-	2.5	2.5	1.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.95	B			○					○	無	大	樹幹傾斜(東側)あり。 スダジイからの被圧あり。 細い木で被圧大、曲がり、下枝少、回復不可。	●			B			
N02-340	サンゴジュ	4.0	3本立	2.5	23,28,35	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.80	C			○					○	無	中	かつて4本立ちだったが、1本が折損したため、3本立ちとなっている。 葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、樹形が崩壊している。 枯れ枝が多数あり。	●			C			
N02-341	サンゴジュ	3.0	28	2.5	-	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.80	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、樹形が崩壊している。 枯れ枝が多数あり。	●			C			
N02-342	サンゴジュ	4.0	48	3.0	-	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.80	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、樹形が崩壊している。 枯れ枝が多数あり。	●			C			
N02-343	サンゴジュ	4.0	2本立	3.0	37,56	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.75	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が、多数あり。	●			C			
N02-344	サンゴジュ	4.0	47	3.0	-	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.80	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が多数あり。	●			C			
N02-345	マテバシイ	8.0	7本立	8.0	29,38,43,65,66,68,77	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.75	A	○						○		有	中	樹幹がやや西側に偏っている。 フェンスが1.3m(西側)の距離にある。	●			A			
N02-348	ソメイヨシノ	12.0	2本立	10.0	180,209	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B	○						○		有	小	幹H0.4mに剪定痕からの腐朽(大) 40×30あり。 胴吹き枝が多数あり。 フェンスが1.0m(西側)の距離にある。	●			A			

資料表 2.2-1(139)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●（●:変更樹木）			ABCD			
N02-349	ヒイラギモクセイ	2.2	38	1.2	–	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○					○	無	小	縮小剪定されている。 移植後の健全な生育が困難。	●			B			
N02-350	サンゴジュ	4.0	49	2.5	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.65	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-351	サンゴジュ	4.0	3本立	2.5	31,31,39	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.65	C			○					○	無	中	3本立ちのうち1本C=31cmが枯死している。 葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-352	サンゴジュ	4.0	3本立	2.5	40,40,46	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.65	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-353	サンゴジュ	4.0	45	2.5	–	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.65	C			○					○	無	中	葉に食害痕が多数あり。 中央部・下部に枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が多数あり。	●			C			
N02-354	イヌシデ	12.0	173	12.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A		○			○				有	無	舗装の押し上げ(小)あり。 円形(Φ2.0m)のアスファルト舗装に囲まれた植栽地にあり、根元は人工芝マットで覆われている。 幹芯からバックネットまでの離隔距離2.4m。		●		A			
N02-355	スダジイ	9.0	242	12.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					○			有	無	舗装の押し上げ(小)あり。 根上り、舗装の押し上げ(小)あり。円形(Φ2.5m)のアスファルト舗装に囲まれた植栽地にあり、根元は人工芝マットで覆われている。		●		B			
N02-356	クロマツ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	B			
N02-357	クロマツ	15.0	137	6.0	–	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.75	C			○					○	無	大	隣接木からの被圧により、樹形が崩壊している。 幹にヘデラの登ハンがあり。 樹形が崩れ、活力度も悪く、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-358	ケヤキ	20.0	220	14.0	–	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.50	A	○				○				無	小	幹にヘデラの登ハンがあり。 ケヤキらしい自然樹形であり、移植の価値の高い樹木である。		●		B			
N02-359	ヒイラギモクセイ	2.4	2本立	1.8	38,29	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	小	縮小剪定されている。	●			B			
N02-360	ヒイラギモクセイ	2.4	35	1.2	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	中	縮小剪定されている。	●			B			
N02-361	ヒイラギモクセイ	2.6	43	1.2	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	中	縮小剪定されている。	●			B			

資料表 2.2-1(140)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側																調査日		2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日															伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考							
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-362		コブシ	15.0	123	8.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○						○		無	小	移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態の維持が困難。	●			A			
N02-363		ヒイラギモクセイ	2.3	15	1.5	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	3.0	2.0	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○					○	無	大	縮小剪定されている。 移植後の健全な生育が困難。	●			B			
N02-364		ソメイヨシノ	12.0	2本立	8.0	178,220	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	有	小	幹にスタブカット(切り残し枝)・腐朽が 2箇所 φ30cm,L=0.4m (H1.0m)、φ30cm,L=2.0m (H3.5m)あり。 大枝が西側に伸長している。 樹幹傾斜あり、根元にベッコウタケあり。根の支持強度低下の恐れあり。軽減剪定とブレーシング設置を推奨する。 フェンスが0.6m(西側)の距離にある。	●			B			
N02-365		ネズミモチ	2.8	4本立	1.8	23,22,19,10	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	中	縮小剪定されている。 移植後の健全な生育が困難。	●			B			
N02-366		ヒイラギモクセイ	2.3	2本立	1.0	15,12	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	2.20	B			○					○	有	中	縮小剪定されている。 移植後の健全な生育が困難。	●			B			
N02-368		ヒイラギモクセイ	2.8	3本立	1.8	30,18,13	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	中	隣木および低木からの被圧により下枝が少ない。 移植後も回復の見込みがない。	●			B			
N02-369		サンゴジュ	3.2	20	0.8	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	2本立の1本が枯死している。 西側からの被圧により片枝樹形である。	●			C			
N02-370		サンゴジュ	5.0	2本立	3.0	32,43	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	西側からの被圧により片枝樹形である。 片枝であり、活力度も悪く、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。	●			C			
N02-371		サンゴジュ	5.0	44	2.5	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	西側からの被圧により片枝樹形である。 片枝であり、活力度も悪く、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。	●			C			
N02-372		サンゴジュ	5.0	2本立	3.0	33,46	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	西側からの被圧により片枝樹形である。 片枝であり、活力度も悪く、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-373		サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	28,42,49	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	西側からの被圧により片枝樹形である。 片枝であり、活力度も悪く、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-374		ヒイラギモクセイ	2.5	27	1.5	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	中	隣木および低木からの被圧により下枝が少なく、回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
N02-375		ヒイラギモクセイ	2.5	35	1.3	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	無	小	隣木の被圧により片枝樹形である。 片枝であり、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(141)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名		軟式野球場西側														調査日		2023 年　9月　4日　～　2023 年　9月　11日																
樹木番号	樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》				2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
		樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧		保存	移植	伐採		STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-376	クスノキ	10.0	176	8.0		2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	有	中	樹幹傾斜(中)あり。 東側からのサクラ類の被圧により片枝樹形である。 根元に芯達の開口空洞あり、樹幹傾斜もみられることからブレーシング設置を推奨する。 フェンスが0.2m(西側)の距離にある。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
N02-377	サンゴジュ	5.0	4本立	3.5	40,42,52,53	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	株立の1本が枯死している。 枯れ枝が多く、樹形が崩壊している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-378	サンゴジュ	5.0	44	2.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部・下部にほとんど枝がない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-379	サンゴジュ	5.0	2本立	2.5	58,63	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部・下部にほとんど枝がない。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-380	サンゴジュ	5.0	2本立	2.5	57,63	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部・下部にほとんど枝がない。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-381	サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	47,49,50	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部・下部にほとんど枝がない。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-382	サンゴジュ	5.0	2本立	2.5	41,57	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部・下部にほとんど枝がない。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-383	サンゴジュ	5.0	74	3.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	中	中央部・下部にほとんど枝がない。 幹にヘデラの登ハンあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N02-384	イヌツゲ	3.5	2本立	3.0	20,22	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	2.05	B			○					○	無	中	中央部・下部にほとんど枝がない。 樹形のみだれ大きく回復不可。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
N02-385	サクラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2本立ちの内1本が根元から折損し、もう1本は安全配慮、倒木回避のため伐採されている。	※	-	-	B			
N02-386	クロマツ	16.0	204	7.0	-	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	無	無	スタブカット(切り残し枝)が多数あり。 樹形に乱れあり(下枝が高く、ふところ枝が少ない)。 幹にヘデラの登ハンあり。 樹形乱れあり、移植後も健全な状態への回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N02-387	イヌツゲ	5.5	4本立	3.0	19,22,23,32	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B			○					○	無	中	根元に樹皮欠損あり。 ツバキからの被圧により片枝樹形である。 下枝が無い。 回復の見込みがない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			

資料表 2.2-1(142)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	軟式野球場西側						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023年 9月 4日 ～ 2023年 9月 11日	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-388		ヒトツバタゴ	10.0	111	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○					○	有	小	樹幹傾斜(大)(西側)であり、移植樹として適さない。 枝にこぶが多数あり。 フェンスに接触(西側)しており、このままでは根鉢確保困難。 幹にヘデラの登ハンあり。	●			B			
N02-389		ツバキ	3.5	49	2.5	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	無	中	幹H0.4mに開口空洞 22×4×8/15(芯達)あり。 周辺木からの被圧により樹冠に偏りあり。	●			A			
N02-390		イヌツゲ	3.0	2本立	2.0	20,24	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.35	B			○					○	無	中	周辺木からの被圧により片枝樹形である。 被圧、樹形極不良、下枝無く、回復不可。	●			B			
N02-391		モチノキ	7.0	104	6.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.55	A	○			○					無	小	幹にヘデラの登ハンあり。		●		A			
N02-392		トウカエデ	14.0	242	8.0	-	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○					○					幹にヘデラの登ハンあり。		●		A			
N02-393		クロマツ	15.0	169	7.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	無	樹幹傾斜(小)(東側)あり。 樹形に乱れあり、枝葉量が少ない、下枝が高く移植に伴う剪定で移植後の健全な生育が見込めない。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N02-394		コブシ	12.0	145	7.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.85	B		○			○				無	中	西側からの被圧により、樹冠傾斜(小)あり。 幹にヘデラの登ハンあり。 太い立派な樹、ゴボウ根の種類だが移植可。		●		A			
N02-395		トウカエデ	14.0	217	9.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○				○				無	小	幹にヘデラの登ハンあり。		●		A			
N02-396		ウバメガシ	9.0	4本立	6.0	61,70,80,81	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.80	B	○				○				無	無	周辺木からの被圧により樹冠に偏りあり。 カシナガ対策シートあり。		●		A			
N02-397		クロマツ	16.0	157	7.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.90	B			○					○	無	無	樹形に乱れあり(下枝が高く、枝葉量が少ない)。 枝折れ痕が複数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N02-398		サンゴジュ	5.0	3本立	3.0	22,34,42	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○					○	無	大	葉に食害痕あり。 幹にヘデラの登ハンあり。 活力度悪く、移植後の適正な生育が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N02-399		サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	18,24,38	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.80	C			○					○	無	大	葉に食害痕あり。 幹にヘデラの登ハンあり。 3本立ちのうち1本C=18cmが枯死している。	●			C			
N02-400		クスノキ	15.0	107	6.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.05	B			○					○	無	大	クスノキに近接している為、移植不可である。 被圧(大)による樹形の偏りあり。	●			A			

資料表 2.2-1(143)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場西側														調査日		2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日															伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-401		クスノキ	15.0	153	8.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.90	B			○					○	無	中	クスノキに近接している為、移植不可である。 被圧(大)による樹形の偏りあり。	●			A			
N02-402		サンゴジュ	4.5	50	2.0	-	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.95	C			○					○	無	大	下枝に枯れあり。 片枝樹形(東側)である。 被圧(大)による上部の枯損あり。	●			C			
N02-403		アラカシ	12.0	3本立	10.0	32,128,115	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A		○					○		無	中	樹液の滲出あり。 背着性の子実体は見当たらない。 樹高・葉張りが大きく、移植に伴う剪定等により移植後の健全な生育が困難。	●			A			
N02-404		ソメイヨシノ	4.0	2本立	5.0	159,161	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	2.0	2.0	1.0	3.10	C			○					○	有	中	根元にコフキサルノコシカケの子実体あり。 根元・幹に打診音異常(大)あり。 コフキタケあり、骨格大枝は剪定され、樹形は崩壊している。 回復の見込みがなく、撤去・更新の検討が必要である。	●			B			
N02-405		ネズミモチ	2.3	6本立	2.0	22,28,12,12,9,7	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○		○					有	小	樹高が3m以下。 フェンスが1.2m(西側)の距離にある。 移植可能。	●			B			
N02-406		ネズミモチ	3.5	3本立	2.0	14,16,32	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○					有	小	フェンスが0.4m(西側)の距離にある。 移植可能。	●			A			
N02-407		サンゴジュ	3.5	27	2.0	-	3.0	3.5	3.0	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.95	C			○					○	無	中	葉に食害痕あり。葉量が少ない。 下枝に枯れあり。 移植後の回復が難しい。	●			C			
N02-408		サクラ	12.0	160	8.0	-	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B			○					○	有	中	樹幹傾斜(小)(西側)あり。 ぶつ切り剪定されている。 胴吹き枝が多数あり。 枝がフェンスに接触している。 フェンスが0.7m(南西側)の距離にある。	●			B			
N02-409		タブノキ	15.0	263	10.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		無	小	幹にコフキサルノコシカケあり。	●			A			
N02-410		ソメイヨシノ	8.5	88	6.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	大	樹幹傾斜(大)(南西側)あり。 枝がフェンスに接触している。 フェンスが0.6m(南西側)の距離にある。	●			B			
N02-411		スダジイ	13.0	224	12.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B			○					○	有	中	幹に樹皮欠損(中)、大枝に剪定痕(中)あり。 スタブカット(切り残し枝)・腐朽が多数あり、移植樹として適さない。 フェンスが0.7m(南西側)の距離にある。	●			A			
N02-412		エノキ	12.0	158	10.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B			○					○	無	大	被圧による幹の曲がりあり。 下枝がなく、移植に伴う剪定により移植後の健全な生育が困難。	●			B			
N02-413		クロガネモチ	16.0	3本立	8.0	54,124,134	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.45	A	○					○			無	小	盛り土20cmあり。 幹にヘデラの登ハンあり。	●			A			

資料表 2.2-1(144)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023 年 9月 4日 ～ 2023 年 9月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-414	トウカエデ	15.0	157	7.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	中	西側からの被圧により片枝樹形である。 下枝がなく、移植に伴う剪定により移植後の健全な生育が困難。 盛土30cmあり。	●			B			
N02-415	サクラ	4.0	32	3.5	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B		○		○					無	中	樹幹傾斜(中)(東側)あり。 周辺木からの被圧により片枝樹形である。	●			B			
N02-416	エンジュ	8.0	89	7.0	-	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	中	樹幹傾斜(大)(東側)あり。 イチョウからの被圧により片枝樹形である。 根元に樹皮欠損(中) 30×20あり。 根元に不自然な凹み・奇形あり。 フェンスが0.8m(東側)の距離にあり。	●			B			
N02-417	イチョウ	20.0	310	15.0	-	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.25	A	○					○			無	小	幹H1.6mに樹皮欠損(中)、子実体あり。 幹にヘデラの登ハンあり。 盛土あり。	●			A			
N02-418	イロハモミジ	10.0	2本立	13.0	101,102	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○				○				無	小	下枝に枯枝大あり。 盛土あり。	●			A			
N02-419	ヒサカキ	3.5	2本立	3.0	20,26	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	小	フェンスが1.0m(東側)の距離にあり。	●			A			
N02-420	イヌツゲ	2.6	7本立	2.5	16,12,12,12,7,7,6	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.60	C			○					○	無	無	ひこばえが複数伸長している。 活力度が悪く、移植後の健全な生育が困難。	●			C			
N02-421	モチノキ	6.5	62	2.5	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	無	小	大枝・幹に樹皮欠損(小)が数か所あり。 樹形にやや乱れあり。 樹木番号N02-423ミズキに近接しており、適正根鉢確保困難。	●			A			
N02-422	コブシ	4.0	140	3.0	-	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.95	C			○					○	無	無	幹に断幹痕あり、幹の広い範囲に腐朽みられる。 幹に打音異常(大) H1.0m～1.5mあり。	●			B			
N02-423	ミズキ	15.0	106	8.0	-	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A		○			○				無	小	下枝が少ない。 樹木番号N02-421モチノキに近接している。	●			A			
N02-424	シラカシ	10.0	135	8.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	無	小	幹H2.5mに開口空洞(大) 120×20あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N02-425	シラカシ	11.5	202	12.0	-	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○				○				有	小	被圧による樹冠の偏りあり。	●			A			
N02-426	モチノキ	7.0	3本立	5.0	33,55,97	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○			○				無	中	大枝に樹皮欠損(小)あり。 シラカシの被圧により東側の枝数が少ない。	●			A			

資料表 2.2-1(145)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2023年 9月 4日 ～ 2023年 9月 11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	活力度 葉形	活力度 葉の大きさ	活力度 葉色	活力度 ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	参考項目 根元構造物	参考項目 片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	伐採理由 STEP2 根鉢の確保が困難	伐採理由 STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N02-427		モッコク	4.5	58	3.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					無	中	枝葉がやや少ない。 深植え15cm。	●			B			
N02-428		エンジュ	15.0	241	10.0	-	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.70	A	○				○				無	小	幹にヘデラの登ハンあり。 被圧により下枝がやや少ない。	●			A			
N02-429		ツバキ	5.5	5本立	3.5	22,24,34,33,38	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	中	幹H0.4mに樹皮欠損(中) あり。 フェンスが1.2m(東側)の距離にあり。	●			A			
N02-430		サザンカ	6.0	6本立	3.0	23,24,18,27,19,29	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○			○					無	中	フェンスが1.2m(東側)の距離にあり。	●			A			
N02-431		ヒトツバタゴ	8.0	77	6.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○		○					無	大	樹幹傾斜(中)(東側)あり。 下枝がない。	●			A			
N02-432		モチノキ	7.0	2本立	4.0	76,84	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A		○			○				無	小	幹分岐部に入り皮L=0.4mあり。 北側からの被圧によりやや片枝樹形である。		●		A			
N02-433		トウカエデ	14.0	241	9.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○					○			有	無	幹に大枝剪定痕、巻込み(良)、あり。 根上り(大)あり。露出根(大)が多数あり。露出根の縁石乗り上げ、近接する石製ベンチとの接触あり。 縁石と舗装の押し出し(大)、押し上げ(大)あり。 植桝内にある。	●			A			
N02-434		トウカエデ	14.0	254	11.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○					○			有	無	幹に大枝剪定痕、巻込み(良)、あり。 根上り(大)あり。露出根(大)が多数あり。露出根の縁石乗り上げあり。 縁石と舗装の押し出し(大)、押し上げ(大)あり。 植桝内にある。	●			A			
N02-435		ウバメガシ	12.0	378	13.5	-	1.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.40	A			○					○	有	無	幹に樹皮欠損(小)、巻込み(良)、あり。 盛土あり。 舗装に近接している。 大枝分岐部の入り皮に腐朽、背着性の子実体あり。	●			A			
N02-436		スダジイ	10.0	349	12.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.55	A			○					○	有	中	大枝付け根H1.6mに樹皮欠損(中)あり。 北側からの被圧によりやや枝の伸長が弱い。 根上り(大)、縁石乗り上げ(大)あり。 フェンスが0.2m(北側)の距離にあり。 根元にカシナガ対策シートあり。	●			A			
N02-445		スダジイ	12.0	204	10.0	-	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○						○		有	中	道路側に大枝剪定痕からの腐朽、巻込み無しが3箇所、H2.2mにφ15cm、H2.4mにφ17cm、H2.8mにφ15cmあり。 根上りあり。縁石の押し出し(小)あり。 フェンスが0.5m(北側)の距離にある。	●			A			

資料表 2.2-1(146)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場東側																調査日			2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日														
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-004		ヒマラヤスギ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	B			
N01-005		シダレザクラ	6.0	121	4.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.35	B		○		○					有	中	隣接するヒマラヤスギの被圧(中)あり。 剪定による樹皮欠損・腐朽あり。 根元にフェンスあり。 根元(西側)にコフキサルノコシカケの子実体あり。 コフキタケあるが、樹勢良好、移植可能。		●		B			
N01-006		ヒマラヤスギ	28.0	296	11.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		無	中	隣接するヒマラヤスギの被圧(中)あり。片枝状態にある。 大枝剪定痕複数あり、下枝に枯れ枝あり。 移植後に健全な状態となることが見込めない。	●			-			
N01-007		ヒマラヤスギ	24.0	155	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○					○		無	大	被圧により下枝が少ない。 隣接するヒマラヤスギの被圧(大)あり。片枝状態にある。 下枝が少なく、片枝状態であり、移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
N01-008		ヒマラヤスギ	18.0	203	8.0	-	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	隣接するヒマラヤスギの被圧(大)あり。片枝状態にある。 大枝・幹に梢端切除あり。 幹の頂部において断幹されている。 移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
N01-009		ヒマラヤスギ	24.0	271	8.0	-	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.0	1.65	A	○						○		有	中	被圧により下枝が少ない。 根元付近にフェンスあり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な生育が困難。	●			A			
N01-010		ヒマラヤスギ	18.0	249	10.0	-	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	中	樹形に乱れあり(H12mまで下枝なし)、大枝の強剪定痕あり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な生育が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
N01-011		ヒマラヤスギ	17.0	198	8.5	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○			○				無	小	幹に開口空洞の閉塞痕あり。	●			C			
N01-012		ヒマラヤスギ	25.0	207	8.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○				○			無	中	隣木の被圧があるが、概ね良好な樹形である。	●			B			
N01-014		ヒマラヤスギ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	C			
N01-015		ヤエザクラ	4.5	111	3.0	-	3.5	3.5	4.0	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.85	C			○					○	有	中	根元に巻き根あり。 隣接するヒマラヤスギによる被圧(中)あり。 根元にフェンスあり。 活力度が悪く、移植後の健全な生育が見込めない。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	C			●
N01-017		ヒマラヤスギ	22.0	314	13.0	-	2.0	1.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A			○					○	無	無	骨格となる大枝が伸長し、移植でなく単木として残す場合には良い樹形である。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な生育が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N01-018		シダレザクラ	5.5	102	4.5	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.55	C			○					○	無	大	隣接するヒマラヤスギによる被圧(大)あり。 幹につる植物(2種類)が登ハンし、被圧(大)あり。 梢端衰退による枯枝あり。	●			B			
N01-019		シダレザクラ	8.0	98	3.5	-	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.80	C			○					○	有	大	隣接するヒマラヤスギによる被圧(大)あり。 仮設鋼板フェンスあり。 隣接樹木の被圧が大きく、活力度も悪く、移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
N01-020		シダレザクラ	4.0	88	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	－	－	枯死している。	※	－	－	C			

資料表 2.2-1(147)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場東側																調査日					2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日												
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考					伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-021		ヤエザクラ	4.0	56	4.0	－	3.5	3.0	3.0	3.0	3.5	3.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.80	C			○					○	有	中	根元にフェンスあり。 樹形に偏りあり、活力度も悪く、移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			C			
N01-022		サクラ	5.0	53	5.5	－	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.0	1.75	A	○			○					無	中	隣接するヒマラヤスギと道路側サクラによるによる被圧(中)あり。	●			A			
N01-023		ヤエザクラ	3.0	70	4.0	－	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	枯死している。	※	－	－	C			
N01-024		ヒマラヤスギ	20.0	249	10.0	－	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B			○					○	有	無	幹H1.2m～8.0mに樹皮欠損・腐朽(大)あり。 仮設鋼板フェンスに近接する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N01-025		ヒトツバタゴ	9.5	106	6.0	－	2.5	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.85	B		○					○		有	小	幹に樹幹傾斜があるが、上部で持ち直し。 仮設鋼板フェンスに近接し、このままでは根鉢の確保困難。	●			A			
N01-026		ハナモモ	5.5	3本立	7.0	36,39,57	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○		○					有	中	根元に入り皮あり。 小枝にコスカシバの食害痕あり。 深植え状態にある。 根元にフェンスあり。 道路側下枝に枯枝大あり。	●			A			
N01-027		ヒトツバタゴ	7.0	51	4.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					有	中	深植え状態にある。 根元にフェンスあり。 被圧(中)あり。	●			B			
N01-028		ハナモモ	4.5	2本立	6.0	42,49	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○		○					有	中	盛土が30cm以上あり。 大枝にフェンスくい込みあり。 下枝枯れあり。	●			B			
N01-029		ヤエザクラ	8.0	2本立	8.0	106,141	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.95	B		○					○		有	中	要確認:盛土が30cm以上あり。 幹H0.6mに入り皮あり。 大枝に剪定による樹皮欠損・腐朽(中)あり。縁石、フェンス間に位置し、現状では適正根鉢の確保困難。	●			A			
N01-030		ヤエザクラ	5.0	47	4.5	－	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.90	C			○					○	有	大	幹に打音異常 H1.5m～2.0mあり。 幹にコスカシバ食害痕(小)あり。 被圧による枝枯れあり。 盛土が30cm以上あり。 揺らぎ(中)あり	●			C			
N01-031		ヤエザクラ	6.5	105	8.0	－	3.5	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.70	C			○					○	有	大	大枝に腐朽、打音異常あり。 幹H1.2mに開口空洞、フェンスくい込みあり。 盛土が30cm以上あり。 道路側に傾斜あり。 下枝枯れにより、2本立ちではなくなった。	●			B			
N01-032		ヒマラヤスギ	20.0	262	10.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○						○		有	小	盛土が30cm以上あり。 フェンスとブロックが北側と東側にある。 幹に防球マットの設置あり。※幹周は防球マットの上からの計測 移植のための適正根鉢の確保が困難。	●			A			
N01-033		ヒマラヤスギ	23.5	390	13.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.00	B			○					○	有	小	下枝が高さ12mまでほぼ無い状態である。 下枝枯れあり。 ネットフェンスに近接、北側にアスファルト舗装あり。 幹に防球マットの設置あり。※幹周・根元周は防球マットの上からの計測 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	

資料表 2.2-1(148)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			軟式野球場東側																調査日				2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日													
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-034		ヒマラヤスギ	25.0	345	15.0	-	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.65	A			○					○	有	中	隣木と競合する東側の下枝が無い状態である。 アスファルト舗装に近接する。 幹に防球マットの設置あり。※幹周は防球マットの上からの計測 針葉樹の巨木であり、移植に伴う剪定からの回復が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N01-035		ヒマラヤスギ	25.0	333	15.0	-	2.0	1.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	有	中	大枝に剪定痕あり。スタブカット(切り残し枝)が東側に多数あり。 根元にアスファルト舗装あり。 幹に防球マットの設置あり。※幹周は防球マットの上からの計測 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N01-036		サンゴジュ	6.5	119	3.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.05	B		○					○		無	中	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-037		サンゴジュ	6.5	72	1.2	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-038		サンゴジュ	6.5	2本立	1.2	62,73	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-039		サンゴジュ	6.5	82	1.2	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-040		サンゴジュ	6.5	2本立	1.2	48,73	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-041		サンゴジュ	6.5	80	1.2	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-042		サンゴジュ	6.5	2本立	1.2	37,60	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-043		サンゴジュ	6.5	4本立	1.2	32,59,63,73	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(北側に枝なし)、樹形・樹勢不良。 虫害は現在は回復傾向にある。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-044		ケヤキ	23.0	305	18.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.80	B			○					○	有	無	大枝に腐朽(中)あり。 幹H4mに開口空洞(大)あり。双幹部に入り皮あり。 テニスコート内に位置し、アスファルト舗装(西側)あり。 幹に防球マットの設置あり。※幹周は防球マットの上からの計測 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	A		●	
N01-045		クロマツ	8.5	159	5.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B			○					○	有	無	樹形に乱れ偏りあり(断幹、梢端切除)。 テニスコート内に位置し、アスファルト舗装(西側)あり。 幹に防球マットの設置あり。※幹周は防球マットの上からの計測 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N01-047		クロマツ	10.0	139	6.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○		○					無	無	移植され、ワイヤー支柱が設置されている。	●			A			

資料表 2.2-1(149)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名			敷式野球場東側														調査日			2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日												保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度										保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》										
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	樹端の結損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価範囲	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧										
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無										
N01-049		モチノキ	6.0	134	4.5	-	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.0	2.05	B		○		○					無	中	移植されている。 大枝に樹皮欠損が多数あり。 幹H0.7mに樹皮欠損、35×15(146)あり。 幹H0.4mに開口空洞 25×3×5/33(134)あり。										
N01-050		クロマツ	13.0	133	6.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	小	移植され、ワイヤー支柱が設置されている。 下枝は失われている。										
N01-052		シラカシ	15.0	189	9.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B		○			○				有	小	幹H2.5m・H5.0mに開口空洞、巻き込みあり。 北側の下枝はフェンスに近接し高い。 根鉢確保可能、移植はできる。										
N01-053		トチノキ	14.5	268	15.0	-	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	無	根元の南側半分にアスファルト舗装あり。 樹勢衰退傾向にある。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。										
N01-054		トチノキ	14.5	305	12.0	-	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○					○	有	小	大枝に剪定痕からの腐朽あり。 フェンスに近接・接触し、樹形に乱れあり。 幹にナツヅタの登ハンあり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。										
N01-055		サンゴジュ	5.5	2本立	1.5	27,38	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	有	中	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。										
N01-056		サンゴジュ	4.0	2本立	1.0	9,19	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。										
N01-057		サンゴジュ	4.0	2本立	1.0	12,22	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。										
N01-058		サンゴジュ	4.0	2本立	1.0	12,19	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。										
N01-059		サンゴジュ	4.0	16	1.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。										
N01-060		サンゴジュ	4.5	28	1.5	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。										
N01-061		サンゴジュ	4.5	25	1.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。										
N01-062		サンゴジュ	4.5	26	1.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。										

資料表 2.2-1(150)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名		軟式野球場東側																調査日									2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日									
			規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・腐	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-063		サンゴジュ	4.5	3本立	1.0	10,13,18	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。	●			C			
N01-064		サンゴジュ	4.5	2本立	1.0	35,38	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.65	C			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。	●			C			
N01-065		サンゴジュ	3.0	13	0.5	-	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.5	2.5	2.5	2.0	1.0	3.15	C			○					○	有	大	活力度が悪く、衰退傾向にある。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			C			
N01-066		サンゴジュ	5.0	52	2.0	-	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	1.0	2.40	B			○					○	有	大	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。 ブロック塀と縁石が近接している。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。	●			C			
N01-067		ヒイラギモクセイ	2.3	5本立	1.5	15,19,15,20,26	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			-			
N01-068		ヒイラギモクセイ	2.3	3本立	1.0	14,11,11	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			-			
N01-069		ヒイラギモクセイ	2.3	2本立	1.0	17,13	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			-			
N01-070		ヒイラギモクセイ	2.3	2本立	1.0	16,8	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			-			
N01-071		ヒイラギモクセイ	2.3	2本立	1.0	19,9	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			-			
N01-072		ヒイラギモクセイ	2.3	2本立	1.0	23,15	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			-			
N01-073		ヒイラギモクセイ	2.3	29	1.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			-			
N01-074		シラカシ	13.0	189	12.0	-	2.0	1.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.75	A		○			○				有	無	大枝に剪定痕、腐朽が複数あり。 フェンスが近接している。 下枝に枯枝(大)あり。	●			A			
N01-075		ヒイラギモクセイ	2.5	22	1.5	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			-			
N01-076		ヒイラギモクセイ	2.5	19	1.5	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○	有	中	生垣状で1本では樹形不良、移植不可。 食害あり。根鉢確保困難。	●			-			
N01-077		シラカシ	8.0	70	5.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○					○		有	大	被圧(大)により、枝枯れ(小)あり。 フェンスに近接する。	●			B			
N01-078		スギ	13.0	80	3.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		無	中	被圧(中)により、枝枯れ(小)あり。 フェンスに近接し、このままでは根鉢確保困難。	●			B			
N01-079		シダレザクラ	7.5	76	6.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.85	B		○		○					無	中	樹幹傾斜あり。 幹H2.0mに入り皮あり。 被圧(中)あり。	●			B			

資料表 2.2-1(151)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考【開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)】	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	軟式野球場東側						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023年 9月 25日 ～ 2023年 10月 11日	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-080		ヒマラヤスギ	16.0	167	8.0	–	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○				○				有	小	盛土が30cm以上あり。 ブロック塀に近接する(1.4m)。 幹につる植物の登ハンあり。	●(赤)			A			
N01-089		クスノキ	10.0	165	8.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.85	B		○		○					無	無	移植されている。樹勢・樹形良好。 もともとの移植樹、再移植可能。	●			B			
N01-090		ウバメガシ	7.0	190	7.0	–	2.5	2.0	3.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B			○					○	有	小	根元・幹に開口空洞(大)が複数あり。 胴吹きが多数あり。 根元に排水マス近接。あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	A			●
N01-091		ケヤキ	23.5	394	15.0	–	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○						○	有	無	根元・幹(東側)に開口空洞(大)、ベッコウタケの子実体あり。 大枝(東側)に剪定痕からの腐朽あり。 幹にキヅタの登ハンあり。 フェンスに、近接する。 樹勢やや衰退傾向にあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●(赤)			A			
N01-092		タブノキ	10.0	84	6.5	–	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○					○		有	中	幹にキヅタの登ハン、サルトリイバラのからみあり。 フェンスに近接する。	●			B			
N01-093		マテバシイ	8.0	72	6.0	–	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○					○	無	大	幹H1.2mに開口空洞(大)あり。 被圧(大)による枝枯れあり。	●			B			
N01-094		モチノキ	5.5	45	3.5	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	大	葉にタイワントガリキジラミの虫害あり。 幹にキヅタの登ハンあり。	●			B			
N01-095		シダレザクラ	3.5	29	2.0	–	4.0	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.95	C			○					○	無	大	キヅタとスダジイによる、被圧(大)あり。 樹勢の著しい衰退あり。	●			C			
N01-096		マテバシイ	7.5	3本立	10.0	42,58,66	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.65	C			○					○	有	大	樹形に乱れあり。 台切りされて、ひこばえから成長した状態である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●(赤)			B			
N01-097		スダジイ	10.5	191	8.0	–	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	小	幹H0.7mに開口空洞(大)あり。 幹に打音異常 H1.2mあり。 大枝に剪定痕からの腐朽(大)あり。	●			B			
N01-098		マテバシイ	8.5	96	7.0	–	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	有	中	被圧による樹冠の偏り、樹形に乱れあり。 フェンスに近接・接触している。(西側0.4m) 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N01-099		ケヤキ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。	–	–	※	B			
N01-100		ケヤキ	22.5	282	15.0	–	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B			○				○		無	無	下枝が少なく、移植に伴う剪定からの回復が困難。枝葉量が疎。やや衰退傾向が見られる。 幹にキヅタの登ハンがあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●(赤)			A			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(152)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名		軟式野球場東側																調査日				2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日												伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の文損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧								
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に●（●:変更樹木）			ABCD			
N01-101		マテバシイ	7.0	53	5.0	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.05	B		○		○					無	中	盛土が30cm以上あり。	●			A			
N01-102		マテバシイ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	安全配慮、倒木回避のため撤去。	－	－	※	B			
N01-103		マテバシイ	5.5	52	3.5	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○		○					無	大	被圧(大)あり。	●			B			
N01-104		スダジイ	14.0	333	15.0	－	2.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A			○					○	有	無	樹形に乱れあり、双幹状の大枝の一方がH5mで直角に屈曲、他方は道路側に傾斜しており、移植樹として適さない。 フェンスに接触している。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N01-105		マテバシイ	5.5	61	4.5	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B		○		○					無	大	被圧(大)による枝枯れ(小)あり。 ひこばえが多数あり。	●			B			
N01-106		ケヤキ	20.0	302	15.0	－	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B			○					○	有	無	フェンスに近接しており、下枝が高い。 盛り土20cmあり。 移植に伴う剪定により切詰めることとなり、移植後の健全な状態への回復が困難。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N01-107		スダジイ	10.0	200	8.0	－	2.0	1.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		無	中	幹に開口空洞が数か所あり。 剪定痕に腐朽あり。 根元に樹皮欠損あり。 ケヤキからの被圧(中)あり。	●			A			
N01-108		タブノキ	7.0	72	4.0	－	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○	無	中	被圧(中)による枝枯れあり。 葉に病徴あり。	●			B			
N01-109		スダジイ	7.5	152	5.0	－	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	有	大	幹H0.4mに開口空洞 30×23×10あり。 根元・幹に打診音異常(大) H0.0～2.5mあり。 幹に腐朽あり。 枝抜け痕、多数あり。 フェンスに、接触している。 盛土が、20cm以上あり。 幹にアイカワタケあり、大枝にシイサルノコシカケあり。	●			B			
N01-111		スダジイ	11.5	265	11.0	－	2.5	2.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	小	根元・幹がフェンスに接触している。 大枝に樹皮欠損や開口空洞・腐朽などが複数あり。 樹形に乱れあり、不適。 下枝に枯枝大あり。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。			●	B		●	
N01-112		シラカシ	15.0	156	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○					○		無	中	幹H2.0mに開口空洞 30×20あり。 被圧により東側の枝が少ない。 盛土が30cm以上あり。	●			B			
N01-113		ウバメガシ	8.5	250	8.0	－	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.80	B	○				○				無	無	幹分岐部H1.1mに入り皮あり。 胴吹きが多数あり。 根元・幹にカシナガホイホイが設置されている。	●			A			
N01-114		モチノキ	7.0	46	2.5	－	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.85	B		○		○					無	大	葉にタイワントガリキジラミの虫害あり。 枝に虫えいあり。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(153)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：軟式野球場東側　調査日：2023 年　9 月　25日　～　2023 年　10 月　11日

樹木番号		樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	
N01-115		トウカエデ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。 (切株のコフキタケが活性状態)
N01-116		シダレザクラ	12.0	119	7.0	-	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.90	B		○					○		有	大	樹幹傾斜あり。 ヘデラの登ハンあり。 樹木番号N01-185スダジイからの被圧により枝枯れあり。 枝密度やや疎。 移植後の健全な状態への回復の見込みがない。
N01-117		モチノキ	7.0	72	3.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	1.60	A	○			○					無	中	隣接するシラカシから被圧(中)あり
N01-118		アカメガシワ	5.0	82 (芝付)	6.0	-	3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	無	中	GL0.4mにて断幹痕あり、ひこばえ多数あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
N01-119		モチノキ	7.0	56	3.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	中	幹H1.6mに樹皮欠損 7×7あり。 ヘデラの登ハンあり。 盛土が20cmあり。 梢端衰退による枯枝あり。
N01-120		ムクノキ	3.5	45 (芝付)	3.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	大	幹がH3.0mにて 3分岐している。 実生木である。 フェンスが近接している。
N01-121		モチノキ	6.5	51	3.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○		○					無	中	幹に曲がりあり。 盛土が20cmあり。 下枝に枯枝あり。
N01-122		マテバシイ	6.0	63	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	無	中	多芽症状が多発している。 盛土が20cmあり。 梢端衰退による枯枝あり。 樹勢、樹形著しく悪く、回復不可。
N01-123		モチノキ	7.0	67	3.5	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	隣接するプラタナスからの被圧(大)あり。
N01-124		プラタナス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。
N01-125		クスノキ	14.0	179	8.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B			○					○	無	無	樹形に乱れあり(樹幹傾斜、樹冠に偏り)。 露出根に樹皮欠損あり。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
N01-126		イロハモミジ	7.5	120	6.5	-	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B			○					○	無	中	幹(南側)H0.6mに開口空洞 15×14×20あり。幹(南側)H0.9mに開口空洞 16×14×20あり。幹(東側)H1.5mに開口空洞 10×4×8あり。巻き込みあるが、幹内部が空洞化している(打診音異常あり)。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。
N01-127		スダジイ	10.0	194	9.0	-	2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○	有	中	樹形に乱れあり(枝の分布に偏り)、幹・大枝に樹皮欠損や開口空洞などが散在する。 ひこばえ、幹吹きあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-115	※	―	―	B			
N01-116	●			A			
N01-117	●			A			
N01-118	●(赤)			A			
N01-119	●			B			
N01-120	●			A			
N01-121	●			B			
N01-122	●(赤)			B			
N01-123	●(赤)			B			
N01-124	―	※	―	B			
N01-125	●(赤)			B			
N01-126			●	B			●
N01-127			●	B			●

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(154)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名			軟式野球場東側															調査日		2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日																
			規格				活力度											保存の必要性			移植					参考項目							伐採理由		
樹木番号		樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-128		スダジイ	9.0	219	10.0	-	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.05	B			○					○	有	無	樹形に乱れあり(枝の分布に偏り、ふところ枝が少ない)、根元に開口空洞や幹・大枝に樹皮欠損などが散在する。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-129		スダジイ	9.0	123	6.0	-	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B			○					○	無	中	隣木からの被圧により枝葉量が少ない。 根元に開口空洞、幹・大枝付け根・大枝に樹皮欠損などが散在する。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。			●	B			●
N01-130		プラタナス	16.0	240	8.0	-	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.95	B		○				○			有	小	剪定後に吹き直し、比較的良い状態にある。 周辺木との競合により、下枝が高い。	●			B			
N01-131		マテバシイ	9.5	70	4.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B			○					○	無	大	樹形に乱れあり(樹幹傾斜、樹冠に偏り、下枝が高い)。 多芽病症状が散見される。 胴吹きが多数あり。 樹液の滲出あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
N01-132		シラカシ	15.0	137	8.0	-	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B		○					○		無	大	樹形に乱れあり(樹幹傾斜、樹冠に偏り、下枝が高い)。 樹液の滲出あり。 下枝に枯枝大あり。	●			B			
N01-133		ヒトツバタゴ	7.0	86	4.5	-	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.50	B		○					○		有	大	樹幹傾斜あり。 被圧による枯枝あり。 フェンスが近接している。	●			B			
N01-134		マテバシイ	8.5	95	7.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○					○		無	大	隣接樹木から被圧(大)あり。 大きな被圧により樹形は乱れ、移植後の健全な状態への回復の見込みがない。	●			B			
N01-135		マテバシイ	6.0	93	6.0	-	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○					○		無	中	多芽病症状が数か所あり。 下枝に枯枝あり。 樹液の滲出あり。	●			A			
N01-136		シダレザクラ	5.0	56	3.5	-	3.0	2.5	2.0	2.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					無	中	根元周辺にカーペットが敷設されている。 盛土が25cmあり。 被圧による枯枝発生あり。	●			A			
N01-137		ウバメガシ	8.0	2本立	4.0	105,115	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B		○						○	有	中	幹H0.9mに開口空洞 80×13×15/30(芯達)あり。 幹H1.1mに開口空洞 220×20×15/23(芯達)あり。 根元に開口空洞 15×5×10あり。 幹がH0.6mで2分岐している。 樹幹傾斜あり。盛土が20cmあり。 カシナガ対策シートあり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
N01-138		イチョウ	19.0	5本立	22.0	115,303,220,240,360	1.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.10	B	○							○	無	小	根元に子実体種類不明あり。 幹(南側)に打音異常(小) H1.0m～2.0mあり。 幹(東側)H2.1mに開口空洞 10×5×10/25あり。 株立ちの幹分岐部が全て入り皮である。 大枝(南側)に腐朽あり。 露出根に樹皮欠損あり。 株立ちで立派な樹である。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			A			
N01-139		シラカシ	15.0	186	7.0	-	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.05	B			○					○	無	無	樹形に乱れあり、樹幹傾斜、樹冠に偏り、下枝が高く、移植樹として適さない。 大枝に開口空洞・腐朽あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(155)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名：軟式野球場東側　調査日：2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日

樹木番号	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-140	シラカシ	14.0	197	8.0	–	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○	無	大	大枝に腐朽(大)3箇所、樹皮欠損5箇所あり。 腐朽枝が枯枝大となっている。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●(赤)			B			
N01-141	ムクノキ	14.0	165	7.0	–	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.95	B		○					○		無	中	幹(南側)H6.0mに開口空洞 50×10あり。他に開口空洞が2箇所あり。幹に大枝枯損あり。 露出根の切断部に樹皮欠損あり。 過去の強剪定からの吹き直し樹形。下枝が高い。	●			B			
N01-142	トウネズミモチ	7.0	5本立	4.0	19,24,28,31,33	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B			○					○	無	小	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。			●	B	●		
N01-143	ソメイヨシノ	7.0	206	6.0	–	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.00	C			○					○	有	大	根元(北側と南側)にコフキサルノコシカケの子実体あり。 幹(北側)に樹皮枯死あり。幹(南側)H0.9mに樹皮枯死 180×12×5あり。 ひこばえが多数あり。 フェンスが近接している。 上部の骨格大枝が枯死しており、注意が必要。剪定を要する。	●			B			
N01-144	マテバシイ	4.5	2本立	4.0	36,41	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○					○		無	中	幹に樹皮欠損 20×15あり。大枝に腐朽あり。 多芽症状が数か所あり。 樹木番号N01-145ケヤキに近接している。 盛土が30cm以上あり、二段根が生じている可能性あり。	●			B			
N01-145	ケヤキ	20.0	195	15.0	–	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B		○					○		有	無	ヘデラの登ハンあり。 盛土が30cm以上あり。 フェンスが近接している。	●			A			
N01-147	シダレザクラ	3.5	30	3.0	–	3.0	3.0	3.0	3.5	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.60	C		○		○					無	大	被圧(大)により樹勢衰退傾向にあり。	●			B			
N01-148	シラカシ	9.5	78	6.0	–	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.75	A		○		○					無	中	盛土が20cmあり。	●			A			
N01-149	ヒサカキ	4.5	30	3.0	–	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	大	大枝H1.6mに樹皮欠損 20×5あり。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスが近接している。 被圧により樹形の偏りあり。	●			B			
N01-150	シラカシ	4.0	117	3.0	–	3.5	3.5	4.0	3.0	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.90	C			○					○	無	大	断幹されており、南側が根元まで腐朽(大)あり。 根元にオオミコブタケの着生あり。 胴吹きが多数あり。 盛土あり。	●			C			
N01-152	ヤエザクラ	9.0	88	6.0	–	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.25	B			○					○	無	大	被圧による樹形の乱れあり(樹幹傾斜、下枝が高い)。 移植後の健全な状態への回復は見込めない。	●			B			
N01-153	クスノキ	16.0	212	10.0	–	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○			○				無	中	樹幹傾斜あり。 ヘデラの登ハンあり。 盛土が15cmあり。	●			B			
N01-154	ヤエザクラ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	–	–	C			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(156)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名			軟式野球場東側														調査日			2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日												保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
樹木番号		樹種名	規格				活力度										保存の必要性			移植					参考項目		備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》										
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・腐	枝伸長量	樹端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧										
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無										
																															該当に● ●:変更樹木						
N01-155		クスノキ	16.0	2本立	14.0	221,223	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.70	A	○					○				無	小	高さH1.0mで幹が分岐した双幹樹形である。 盛り土が25cmあり。				●			A			
N01-156		マテバシイ	7.5	4本立	6.0	60,96,126,130	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.90	C			○					○	有	中	腐朽進行により幹が根元から折損し、4本立ちとなった。 道路側に傾斜している幹も腐朽進行により折損の恐れがあり、注意が必要。剪定を推奨する。				●			B			
N01-158		ツバキ	3.5	2本立	2.5	20,30	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○		○					無	大	被圧により下枝に枯損あり。 樹木番号 N01-160ヤエザクラに近接している。				●			B			
N01-159		トウネズミモチ	5.0	25	3.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	大	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。						●	B	●		
N01-160		ヤエザクラ	7.0	108	4.5	-	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.70	C			○					○	無	大	樹形に乱れあり(被圧)、大枝に欠損あり。 幹に樹皮枯死あり。大枝に枯枝大あり。				●			B			
N01-161		トウネズミモチ	7.0	48	4.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	無	大	環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種のため移植不適。						●	B	●		
N01-162		シダレザクラ	8.0	129	6.5	-	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○			○				有	中	根元・幹に打音異常(小)あり。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスに近接している。				●			B			
N01-163		シダレザクラ	6.0	118	5.0	-	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.80	C			○					○	有	中	幹H1.1mに開口空洞(大)、打音異常あり。 ぶつ切り剪定されている。相互被圧による樹形の乱れあり。 上部骨格大枝に枯死みられる。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスが近接している。				●			B			
N01-164		クロガネモチ	12.0	223	8.0	-	2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○					○			有	中	樹冠に偏りあり。 フェンスに近接している。				●			A			
N01-165		ツバキ	5.5	47	3.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○		○					有	大	樹幹傾斜あり。 フェンスが近接している。				●			B			
N01-166		サザンカ	5.0	45	2.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.0	1.80	B		○		○					有	大	根元に樹皮欠損 5×5あり。 樹幹傾斜あり。 フェンスが近接している。				●			B			
N01-167		ツバキ	3.5	28	2.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○		○					有	大	幹に樹皮欠損が数か所あり。 周辺の中木からの被圧あり。 フェンスが近接している。				●			B			
N01-168		ツバキ	3.5	19	2.0	-	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○		○					有	大	フェンスに接触している。				●			B			

資料表 2.2-1(157)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

エリア名：軟式野球場東側　調査日：2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考（開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)）	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-169		ミズキ	10.0	75	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○			○				無	大	樹木番号N01-170サクラに近接し、競合状態にある。 被圧により下枝が少ない。	●			A			
N01-170		サクラ	10.0	159	9.0	-	2.5	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.60	C			○					○	無	大	被圧(大)あり、梢端枯れあり、樹勢衰退傾向にある。 樹冠に偏りあり。 梢端部および下枝に枯枝大あり。	●			B			
N01-171		ヤエザクラ	5.0	2本立	4.0	50,120	3.5	3.5	4.0	3.5	4.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.20	C			○					○	無	小	大枝にぶつ切り剪定枝の枯損あり。 高さH0.5mで幹が分岐した双幹樹形である。 骨格大枝の上部が枯死している。衰退傾向にある。 胴吹きが多数あり。 盛土が25cmあり。	●			C			
N01-172		タイサンボク	9.5	145	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.90	B		○			○				有	小	ヘデラの登ハンあり。 盛土が30cm以上あり。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-173		モッコク	8.5	117	5.5	-	2.0	1.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B			○					○	有	小	樹形に乱れあり(双幹の片方切断)、大枝に腐朽あり。 盛土あり。 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難なため移植不適。	●			B			
N01-174		トウカエデ	14.0	262	10.0	-	1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○					○			有	無	根元に開口空洞あるが、問題なし。 根上りあり。 露出根による縁石と舗装の乗り上げ・押上げあり。 縁石に囲まれた植栽桝(3.1×約2.4mの楕円形)にある。	●			A			
N01-175		カシワ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	—	—	安全配慮、倒木回避のため撤去。	-	-	※	-			
N01-176		トウカエデ	14.0	282	10.0	-	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.55	A	○					○			有	無	根元に開口空洞あるが問題なし。 根上りあり。 露出根による縁石と舗装の押上げあり。 縁石に囲まれた植栽桝((直径1.2mの円形)にある。	●			A			
N01-177		シダレザクラ	5.5	111	5.0	-	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.70	C			○					○	無	小	根元にコフキタケあり。 幹に大枝剪定による樹皮欠損、こぶあり。 樹幹傾斜あり。 幹に腐朽複数あり。梢端部に枯損あり。折損の恐れがあるため、剪定の必要あり。	●			B			
N01-183		シラカシ	15.0	241	12.0	-	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		有	中	幹H1.2mに開口空洞 25×10×10あり。 大枝に剪定痕からの腐朽あり。 フェンスに近接している。	●			A			
N01-184		シラカシ	15.0	210	10.0	-	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.60	A	○						○		有	中	大枝にぶつ切り剪定、腐朽あり。 フェンスに近接している。	●			A			
N01-185		スダジイ	12.5	379	12.0	-	1.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A	○							○	有	小	立派な木である。 幹に開口空洞が数か所あり。 大枝に腐朽が数か所あり。 根元、縁石の押し上げあり。 フェンスにくい込みあり。	●			B			
N01-186		マテバシイ	10.0	138	8.0	-	2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.30	B		○					○		有	中	幹に背着性の子実体あり、断幹痕あり、入り皮あり、将来的に幹折損の恐れあり。軽減剪定かブレーシング設置を要する。 フェンスと近接し、移植のための適正根鉢の確保が困難。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(158)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名			軟式野球場東側														調査日		2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日																	
樹木番号		樹種名	規格				活力度												保存の必要性			移植					参考項目		備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由		
			樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	根元構造物	片枝・被圧						STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無		該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-187		シダレザクラ	5.0	70	3.0	-	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.10	C			○					○	有	中	幹に腐朽が多数あり。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-188		シダレザクラ	8.5	111	7.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	2.00	B		○					○		有	中	根元・幹に打音異常(小) H0.0m～1.0mあり。 大枝がぶつ切り剪定されている。 片枝樹形である。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-189		シダレザクラ	7.5	96	6.0	-	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.40	B		○					○		有	中	フェンスが近接している。 梢端衰退による枝の枯損あり。	●			B			
N01-193		シダレザクラ	7.5	116	5.0	-	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.45	B			○					○	有	小	幹にコブが多数あり。 フェンスと照明の柱に近接しており、根鉢確保困難。	●			B			
N01-196		シダレザクラ	6.5	106	4.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.40	B		○					○		有	小	大枝がぶつ切り剪定されており、コブが多数あり。 フェンスに近接している。 大枝に背着性のし子実体あり。	●			B			
N01-199		シダレザクラ	6.5	74	4.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B		○					○		有	小	梢端衰退による枯損あり。 マンホールとフェンスが近接している。	●			B			
N01-202		シダレザクラ	7.0	87	5.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	2.10	B			○					○	有	小	根元・幹に打音異常(小) H0.0～2.0mあり。 高さH0.7mにワイヤーのくい込みあり。 フェンスに近接している。 盛り土20cmあり。 移植のための適正根鉢の確保が困難。	●			B			
N01-203		コブシ	8.5	131	7.0	-	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B		○					○		有	小	大枝がぶつ切り剪定されている。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスに近接している。 盛り土25cmあり。	●			B			
N01-204		シダレザクラ	7.5	109	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.30	B		○					○		有	小	片枝樹形である。 フェンスに近接している。 梢端衰退による上部枯損あり。	●			B			
N01-207		シダレザクラ	5.5	98	5.0	-	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○					○	有	小	枝葉が少ない。 梢端剪定されている。 フェンスに近接している。 梢端衰退による上部枯損あり。 移植のための適正根鉢の確保が困難。	●			B			
N01-209		イヌツゲ	3.5	2本立	1.5	14,36	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	小	幹に腐朽が多数あり。 刈り込み剪定されている。	●			B			
N01-210		イヌツゲ	2.2	4本立	1.5	15,8,6,5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	小	大枝に腐朽が多数あり。 刈り込み剪定されている。	●			B			
N01-211		イヌツゲ	2.2	24	1.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○	有	中	樹木番号N01-077シラカシからの被圧あり。 刈り込み剪定されている。裏枝無く回復不可能、移植不可。	●			B			

資料表 2.2-1(159)　【変更後】毎木調査結果表

既存樹木調査結果一覧

樹木番号	エリア名	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	参考項目 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由 STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	軟式野球場東側						1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	調査日 2023年 9月 25日 ～ 2023年 10月 11日	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-218		シダレザクラ	8.5	152	7.0	-	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.0	2.05	B		○					○		有	小	根元・幹に打音異常(小) H0.0m～0.5mあり。 フェンスが近接している。 梢端衰退により上部に枯損あり。	●			B			
N01-225		シダレザクラ	6.5	109	4.0	-	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.75	C			○					○	有	無	幹に大きな腐朽あり、幹折損の恐れあり。 幹にこぶが多数あり。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-226		イヌツゲ	3.0	3本立	2.0	17,21,46	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.25	B			○					○	有	小	大枝に腐朽あり。 フェンスが近接している。 刈り込み剪定されている。 表枝無く回復不可能、移植不可。	●			B			
N01-229		シダレザクラ	7.0	130	6.0	-	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.35	B			○					○	有	無	梢端衰退により上部枯損あり。	●			B			
N01-232		シダレザクラ	6.5	91	7.0	-	3.0	3.5	3.0	3.0	3.5	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.60	C		○					○		有	無	骨格となる大枝の枯損による枯枝(大)あり。 幹にこぶが多数あり。 片枝樹形である。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-233		イヌツゲ	3.0	135(芝付)	2.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.20	B		○		○					有	無	小枝に枯れあり。 刈り込み剪定されている。 表枝あり、円形刈込み、移植可能。	●			B			
N01-236		トウカエデ	14.0	224	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A	○					○			有	無	フェンス側の大枝が切断され、片枝樹形である。 フェンスが近接している。	●			B			
N01-240		シダレザクラ	5.5	82	4.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	大	上部に骨格となる大枝の枯損による枯枝(大)あり。 樹形特に不良で回復しない。 フェンスと近接し、移植のための適正根鉢の確保困難。	●			B			
N01-243		トウカエデ	12.0	191	8.0	-	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.75	A		○					○		有	無	フェンス側の大枝が切断されている。 大枝がぶつ切り剪定されている。 照明柱に接触している。	●			B			
N01-245		シダレザクラ	7.5	108	6.0	-	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B		○					○		有	中	幹にコブ複数あり。 片枝樹形である。 フェンスに近接している。	●			B			
N01-247		カラスザンショウ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	―	―	安全配慮、倒木回避のため撤去。	※	-	-	B			
N01-248		トウカエデ	6.5	101	4.0	-	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.45	B			○					○	有	中	双幹の片方が伐採された状態にあり、切断痕からの腐朽(大)あり。 フェンスに近接している。道路際で根鉢が取れない。	●			B			
N01-251		シダレザクラ	5.5	99	3.0	-	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.10	C			○					○	有	大	根元にコフキタケあり。 根元・幹に樹皮枯死あり。 残された大枝も折損の恐れあり。 フェンスに近接している。	●			B			

既存樹木調査結果一覧

資料表 2.2-1(160)　【変更後】毎木調査結果表

エリア名	軟式野球場東側	調査日	2023 年 9 月 25日 ～ 2023 年 10 月 11日

樹木番号		樹種名	規格: 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	活力度: 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性: 高	中	低	移植: 可	難 A	難 B	難 C	不可	参考項目: 根元構造物	片枝・被圧	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》
							1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					有無	大中小無	
N01-252		イヌツゲ	3.0	125(芝付)	2.5	-	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.35	B			○					○	有	小	刈り込み剪定されている。 一部枝無く、回復不可。
N01-253		シダレザクラ	7.0	118	6.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.0	2.35	B			○					○	有	小	幹がH4.5mにて断幹されている。 高さH2.5mの上部が枯損している。 フェンスに近接している。
N01-255		イヌツゲ	2.3	110(芝付)	1.8	-	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.95	B		○						○	有	小	枝にイヌツゲ枝枯病あり。 ひこばえが多数あり。 フェンスに近接している。
N01-256		イヌツゲ	2.6	68(芝付)	1.5	-	2.5	2.5	2.0	2.5	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.25	B		○						○	有	小	枝にイヌツゲ枝枯病あり。 主幹となる大枝に枯れあり。 ひこばえが多数あり。 フェンスに近接している。
N01-259		トウカエデ	15.0	256	9.0	-	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.70	A		○						○	有	無	枝にぶつ切り剪定、こぶあり。 フェンスに近接している。 道路脇で根鉢確保できず。
N01-264		トウカエデ	10.0	234	8.0	-	2.0	2.0	3.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.95	B			○					○	有	無	幹H1.0mに開口空洞 30×6×14あり。 梢端切除痕に腐朽(大)あり。 フェンスに近接している。
N01-265		イヌツゲ	2.8	68(芝付)	2.3	-	2.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B		○						○	有	小	枝にイヌツゲ枝枯病あり。 フェンスに近接している。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。
N01-267		シダレザクラ	8.0	112	8.0	-	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.80	B		○						○	有	無	フェンスに近接しており、このままでは根鉢確保困難。 移植時の適正な根鉢の確保が困難のため移植不適。
N01-268		イヌツゲ	2.5	2本立	2.0	29,27	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.95	C			○					○	無	無	枯枝が目立つ 枯下がりあり。 移植後の健全な生育･樹形の維持が困難なため移植不適。
N01-269		シダレザクラ	3.5	67	4.0	-	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.55	C			○					○	有	無	骨格大枝の枯損あり、背着性の子実体あり。 幹にこぶが多数あり。 フェンスに近接している。
N01-278		ヤマザクラ	8.0	278	10.0	-	2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	3.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.25	B		○					○		有	小	株立の大枝に腐朽、剪定痕あり。 根元にベッコウタケの子実体あり。 ぶつ切り剪定痕に腐朽あり。 巻き根あり。
N01-281		カワヅザクラ	6.0	57	6.0	-	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.50	A	○			○					無	中	移植されている。 ヒマラヤスギによる被圧あり(南側の枝が枯れている)。

樹木番号	保存	移植	伐採	2019年春季調査活力度評価	伐採理由: STEP1 重点対策外来種	STEP2 根鉢の確保が困難	STEP3 移植後の健全な生育・樹形の維持が困難
	該当に● ●:変更樹木			ABCD			
N01-252	●			B			
N01-253	●			B			
N01-255	●			B			
N01-256	●			B			
N01-259	●			A			
N01-264	●			B			
N01-265	●			B			
N01-267	●			A			
N01-268	●			-			
N01-269	●			B			
N01-278	●			B			
N01-281	●			-			

資料表 2.2-2(1)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：Aエリア：秩父宮ラグビー場　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月12日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	樹種記号	規格 樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傾	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	関連項目 樹高15/15	幅員	根元巻	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・誘技者	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
												1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：隣の内、保存樹木のため詳細調査対象外					樹高	幅員	有無	○×	大中小	大中小	大中小	1回目	2回目	3回目	20以上未満		該当に●：変更樹木		
1	A	1	針葉	ヒムロスギ(サハラ変更)		13.0	101	5.0	1.41	0.45	1.8	2.5	3.0	2.5	2.0	1.0	2.0	2.17	B			○				○		大	高	有	○	小	－	－	－	－	－	－	幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、側溝までの離隔距離1.35m。 下枝が高く、移植に向けた剪定には不適である。 隣木のヒマラヤスギをやや被圧している。			●
2	A	2	針葉	ヒマラヤスギ		15.0	122	4.0	1.57	0.5	2.00	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.67	A		○			○				超	高	有	○	中	－	－	14	12	14	13.3	幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、側溝までの離隔距離1.3m。植栽帯の幅は2.25m。移植に伴う剪定において、高さH12mで断幹しても樹形を維持できる。		●	
3	A	3	針葉	サワラ(ヒマラヤスギ変更)		13.0	82	4.0	1.70	0.54	2.17	3.0	3.0	3.5	3.5	2.5	3.0	3.09	C			○				○		大	高	有	○	大	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れあり(被圧樹形)。衰退樹。 根元に芯まで腐朽あり。不適。			●
4	A	4	針葉	ヒマラヤスギ		15.0	139	5.0	1.73	0.55	2.2	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.67	A		○			○				超	高	有	○	小	－	－	16	14	12	14.0	幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、側溝までの離隔距離1.3m。剪定、樹形維持可能。根鉢確保ぎりぎり可能。		●	
5	A	5	常緑	シャリンバイ(トベラ変更)		3.0	19	3.0	0.29	0.09	0.37	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○				○		高	高	有	○	大	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れあり(被圧により裏側の枝が消失)。不適。			●
6	A	6	針葉	ヒマラヤスギ		15.0	138	6.0	1.85	0.59	2.36	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.67	A			○				○		超	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	幹芯からマンホールまでの離隔距離0.9m、側溝までの離隔距離1.1m、フェンスまでの離隔距離1.2m。 適正根鉢の確保が困難である。			●
7	A	7	針葉	サワラ		13.0	101	4.0	1.38	0.44	1.76	2.5	2.5	3	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○		大	高	有	○	小	－	－	－	－	－	－	根元・幹(H0～4m)に溝腐れ症状、打音異常あり。 移植樹としては不適である。			●
8	A	8	針葉	サワラ		13.0	92	4.0	1.31	0.42	1.67	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○		大	高	有	○	小	－	－	－	－	－	－	根元・幹に溝腐れ症状、打音異常あり。 移植樹としては不適である。			●
9	A	9	針葉	サワラ		13.0	90	4.0	1.28	0.41	1.63	2.5	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.34	B			○				○		大	高	有	○	小	－	－	－	－	－	－	幹に溝腐れ症状、打音異常あり。 移植樹としては不適である。			●
10	A	10	常緑	スダジイ		8.0	143	4.0	1.49	0.47	1.9	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○				○		高	高	有	○	中	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れあり(擁壁側の大枝が切除されている)。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.9m、マンホールまでの離隔距離1.05m。 掘り取り作業領域の確保が困難である。			●
11	A	11	常緑	サンゴジュ		3.0	50	2.5				3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.25	C			○			※					有		小					幹上部において、断幹あり。 砂の盛土あり。	●		
12	A	12	常緑	サンゴジュ		4.0	67	2.5				3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.25	C			○			※					有		小					幹上部において、断幹あり。 砂の盛土あり。	●		
13	A	13	常緑	サンゴジュ		3.5	44	2.5				3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.25	C			○			※					有		小					幹上部において、断幹あり。 砂の盛土あり。	●		
14	A	14	常緑	サンゴジュ		3.5	42	2.0	0.98	0.31	1.25	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.25	C			○				○		高	高	有	○	小	－	－	－	－	－	－	2本立の1本(C48)が枯死している。 樹形不良、不適。			●
15	A	15	針葉	コノテガシワ(サハラ変更)		4.5	24	2.5	0.30	0.1	0.38	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	有	×	大	－	－	－	－	－	－	根元がフェンスに接触しており、掘り取り作業が困難である。			●
16	A	16	常緑	ゲッケイジュ		7.5	72	3.0	0.94	0.3	1.2	2.0	2.0	2	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	有	×	小	－	－	－	－	－	－	根元がフェンスに近接しており、根鉢の確保が困難である。			●
17	A	17	落葉	ムクゲ		3.5	34	1.5	0.40	0.13	0.51	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	大	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れがあり(被圧による傾斜、枝の分布に偏りあり)、不適。			●
18	A	18	落葉	ムクゲ		3.5	30	1.5	0.37	0.12	0.47	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	大	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れがあり(被圧による傾斜、枝の分布に偏りあり)、不適。			●
19	A	19	落葉	コブシ		3.0	21	2.0	0.31	0.1	0.39	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D			○				○		高	高	有	×	大	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れがあり(被圧による傾斜、枝の分布に偏りあり)、不適。			●
20	A	20	針葉	ヒマラヤスギ		11.0	150	3.0				3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	3.75	D			○					○			有		中					枯死寸前の状態にある。 砂の盛土(30cm以上)あり。 打音異常あり。			●
21	A	21	針葉	ヒマラヤスギ		10.5	158	2.5				4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○			有		中					枯死状態である。 砂の盛土(30cm以上)あり。 (打音異常あり)			●
22	A	22	針葉	ヒマラヤスギ		11.5	158	2.5				4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○			有		中					枯死状態である。 砂の盛土(30cm以上)あり。 (打音異常あり)			●
23	A	23	針葉	ヒマラヤスギ		11.0	131	2.0				4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○			有		中					枯死寸前の状態にある。 砂の盛土(30cm以上)あり。			●
24	A	24	針葉	ヒマラヤスギ		11.5	152	2.5				4.0	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.92	D			○					○			有		中					枯死寸前の状態にある。			●
25	A	25	針葉	ヒマラヤスギ		11.0	174	3.0				4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○			有		中					枯死寸前の状態にある。 打音異常あり。			●
26	A	26	針葉	ヒマラヤスギ		11.0	154	3.5				4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○			有		中					枯死状態である。 (打音異常あり)			●
27	A	27	針葉	ヒマラヤスギ		11.0	135	2.5				4.0	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.92	D			○					○			有		中					枯死寸前の状態にある。			●
29	A	29	常緑	サザンカ		3.0	25	1.5				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							有		中							●	
30	A	30	常緑	サザンカ		3.5	28	1.5				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							有		中							●	
32	A	32	針葉	サワラ		9.0	71	1.0	0.91	0.29	1.16	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.42	D			○				○		高	高	無	○	中	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れあり(下枝が無い)。 根元・幹に溝腐れ症状あり。不適。			●
33	A	33	針葉	サワラ		9.0	73	0.5				4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○			有		中					枯死寸前の状態にある。 ナツヅタの登ハンあり。			●
34	A	34	針葉	サワラ		9.0	97	1.5				3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.42	D			○					○			有		中					樹幹傾斜あり。			●
35	A	35	針葉	サワラ		10.0	69	1.0	1.03	0.33	1.31	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.42	D			○				○		高	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	根元・幹に溝腐れ症状あり。 幹芯から縁石までの離隔距離0.65m。根鉢確保困難。			●
36	A	36	落葉	ムクノキ		5.0	34	3.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.34	B			○					○			有		大					フェンスへ接触・くい込みあり。			●
37	A	37	落葉	ムクノキ		5.0	28	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			有		大					フェンスへ接触・くい込みあり。			●
38	A	38	落葉	ムクノキ		6.5	55	5.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			有		大					フェンスへ接触・くい込みあり。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(2)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：Aエリア：秩父宮ラグビー場　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月12日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	樹種記号	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・腐	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高15/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
						1～4評価													ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					樹高大	根元大	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
39	A	39	針葉	サワラ		13.0	102	5.0				3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D			○					○			有		中										●
40	A	40	常緑	ケヤキ		16.0	177	8.0	2.16	0.69	2.75	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.42	B		○			○					超	大	有	○	小	—	—	15	15	12	14.0	幹芯から石積み擁壁までの離隔距離1.45m、コンクリート擁壁までの離隔距離2.1m。 樹形維持可能。根鉢ぎりぎり確保可能。		●	
41	A	41	常緑	マテバシイ		7.0	77	7.0	0.90	0.29	1.15	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	3.59	D			○				○			高	高	無	○	小	—	—	—	—	—	—	樹形にみだれ、不適。			●
42	A	42	常緑	マテバシイ		7.0	78	7.0	1.02	0.32	1.3	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	3.59	D			○				○			高	高	無	○	大	—	—	—	—	—	—	樹形にみだれ、不適。			●
43	A	43	落葉	トウカエデ		11.0	178	10.0	2.28	0.73	2.9	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D		○			○					高	大	有	○	小	—	—	6	8	9	7.7	幹芯から擁壁までの離隔距離1.6m。 樹勢、樹形維持可能、適。		●	
44	A	44	落葉	サクラ		7.0	133	7.0				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C		○						○				有		無										●
45	A	45	落葉	サクラ		6.5	91	7.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○						○				有		無									●		
46	A	46	落葉	サクラ		8.0	122	9.0				3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	3.0	2.92	C		○						○				有		中									●		
47	A	47	落葉	サクラ		8.0	50	6.0				3.5	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	3.17	C		○						○				有		大								根株腐朽あり。	●		
48	A	48	落葉	サクラ		9.5	158	11.0				3.0	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.75	C		○						○				有		小									●		
49	A	49	落葉	サクラ		8.5	81	9.0				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○						○			有		中							打音異常あり。 傾斜地に位置する。	●		
50	A	50	落葉	サクラ		8.5	84	8.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※						有		小							巻き根あり。	●		
52	A	52	落葉	サクラ		4.5	53	5.0				2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○		○								無		無							ひこばえが、多数あり。 建物に近接している。		●	
53	A	53	落葉	ウメ		3.5	33	4.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○								無		小							建物および樹木番号52サクラからの、被圧(小)あり。		●	
56	A	56	針葉	カイヅカイブキ		5.0	71	2.5	0.85	0.27	1.08	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A			○				○			高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保困難。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり、 移植樹としては不適である。			●
57	A	57	針葉	カイヅカイブキ		5.0	72	2.5	0.85	0.27	1.08	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A			○				○			高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保困難。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり、 移植樹としては不適である。			●
58	A	58	針葉	カイヅカイブキ		5.0	64	2.5	0.88	0.28	1.12	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A			○				○			高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保困難。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり、 移植樹としては不適である。			●
59	A	59	針葉	カイヅカイブキ		5.0	67	2.5	0.82	0.26	1.04	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A			○				○			高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保困難。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり、 移植樹としては不適である。			●
60	A	60	針葉	カイヅカイブキ		5.0	71	2.5	0.88	0.28	1.12	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A			○				○			高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保困難。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり、 移植樹としては不適である。			●
61	A	61	針葉	カイヅカイブキ		5.0	73	2.5	0.79	0.25	1.01	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A			○				○			高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保困難。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり、 移植樹としては不適である。			●
62	A	62	針葉	カイヅカイブキ		5.0	70	2.5	0.94	0.3	1.2	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A			○				○			高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	植栽帯(幅1.0m)内に列植されている。根鉢確保困難。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり、 移植樹としては不適である。			●
63	A	63	針葉	カイヅカイブキ		6.0	76	2.0	0.79	0.25	1.01	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A			○				○			高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	植栽帯(幅1.2m)内に列植されている。 幹芯から縁石までの離隔距離0.5m。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり、 移植樹としては不適である。			●
64	A	64	針葉	カイヅカイブキ		6.0	77	2.0	0.81	0.26	1.03	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A			○				○			高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	植栽帯(幅1.2m)内に列植されている。 単木で掘り取ると、相互被圧による樹形の乱れあり、 移植樹としては不適である。			●
65	A	65	針葉	カイヅカイブキ		5.0	24	1.0				1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○								無		無									●	
66	A	66	針葉	カイヅカイブキ		5.0	26	1.0				1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○								無		無									●	
67	A	67	針葉	カイヅカイブキ		5.0	26	1.0				1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○								無		無									●	
68	A	68	針葉	カイヅカイブキ		5.0	23	1.0				1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○								無		小									●	
69	A	69	針葉	カイヅカイブキ		6.0	74	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小									●	
70	A	70	針葉	カイヅカイブキ		5.0	67	1.5	0.74	0.24	0.94	3.0	2.5	2	1.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○			高	高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	階段脇に位置し、片枝が強く剪定されている。 樹形不良、不適。			●
71	A	71	常緑	キンモクセイ		3.0	50	2.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○								無		中							片枝樹形である。		●	
72	A	72	落葉	サクラ		4.5	24	2.0	0.60	0.19	0.76	2.5	2.5	3.0	1.0	1.0	1.0	1.84	B			○				○			高	高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	根元・幹に樹皮欠損(大)あり、不適。			●
73	A	73	落葉	サクラ		3.5	21	1.5	0.50	0.16	0.64	2.5	2.5	3.0	1.0	1.0	1.0	1.84	B			○				○			高	高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	根元・幹に樹皮欠損(大)あり、不適。			●
74	A	74	落葉	サクラ		6.0	66	6.0	1.04	0.33	1.32	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○			○					高	高	有	○	無		—	11	12	14	12.3	剪定樹形である。幹芯から縁石までの離隔距離0.6m。 樹形維持、根鉢確保可能。		●	
75	A	75	落葉	サクラ		6.0	47	5.5	0.71	0.23	0.9	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○			○					高	高	有	○	無	—	—	9	9	9	9.0	植栽帯(幅1.4m)内にある。 樹形維持、根鉢確保可能。		●	
76	A	76	落葉	サクラ		6.0	53	6.0	0.86	0.27	1.1	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○			○					高	高	有	○	無	—	—	8	13	10	10.3	植栽帯(幅1.4m)内にある。 樹形維持、根鉢確保可能。		●	
77	A	77	落葉	サクラ		6.5	62	6.0	0.94	0.3	1.2	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○			○					高	高	有	○	無	—	—	10	9	11	10.0	植栽帯(幅1.4m)内にある。 幹芯から縁石までの離隔距離0.45m。 樹形維持、根鉢確保可能。		●	

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(3)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：Aエリア：秩父宮ラグビー場　　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月12日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　　：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	樹種記号	規格						活力度								保存の必要性			移植					調査項目													備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
						樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高15/16	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均				
												1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：幹の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に●：変更樹木		
78	A	78	落葉	サクラ		5.5	51	4.5	0.76	0.24	0.97	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○			○				高	高	有	○	無	－	－	8	6	12	8.7	植栽帯(幅1.4m)内にある。幹芯から縁石までの離隔距離0.35m。樹形維持、根鉢確保ぎりぎり可能。		●	
79	A	79	落葉	サクラ		7.0	101	5.5	1.34	0.43	1.71	2.0	1.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.59	A			○				○		高	高	有	×	無	－	－	－	－	－	－	植栽帯(幅1.4m)のL字部分に位置する。幹芯から縁石までの離隔距離0.4m。露出根大きく、根鉢確保困難。			●
80	A	80	針葉	カイヅカイブキ		5.5	69	2.0	0.75	0.24	0.96	3.0	2.5	2.0	1.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	－	－	－	－	－	－	－	－	－	階段脇に位置し、片枝が強く剪定されている。樹形不良、不適。			●
81	A	81	針葉	カイヅカイブキ		5.5	67	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
82	A	82	針葉	カイヅカイブキ		5.5	64	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
83	A	83	針葉	カイヅカイブキ		5.5	63	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
84	A	84	針葉	カイヅカイブキ		5.5	59	2.0	0.75	0.24	0.96	2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A			○				○		高	高	－	－	－	－	－	－	－	－	－	樹幹傾斜(小)、根元の揺らぎ(小)あり。樹形不良、不適。			●
85	A	85	針葉	カイヅカイブキ		5.5	70	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
86	A	86	針葉	カイヅカイブキ		5.5	73	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
87	A	87	針葉	カイヅカイブキ		5.5	74	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
88	A	88	針葉	カイヅカイブキ		6.0	72	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
89	A	89	針葉	カイヅカイブキ		6.0	73	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
90	A	90	針葉	カイヅカイブキ		6.0	85	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
91	A	91	針葉	カイヅカイブキ		6.0	74	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
92	A	92	針葉	カイヅカイブキ		6.0	79	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
93	A	93	針葉	カイヅカイブキ		6.0	70	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
94	A	94	針葉	カイヅカイブキ		6.0	75	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
95	A	95	針葉	カイヅカイブキ		6.0	79	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								無		小										●	
96	A	96	針葉	カイヅカイブキ		6.0	85	2.0				2.0	2.0	2.0	1.0	2.0	1.0	1.67	A		○		○								有		小								根元から西側1mに街灯あり。		●	
97	A	97	常緑	シラカシ		4.5	19	1.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○								無		無								新植若木である。		●	
98	A	98	常緑	シラカシ		4.5	25	1.5				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○								無		無								新植若木である。		●	
99	A	99	常緑	シラカシ		4.5	17	1.0	0.40	0.13	0.51	3.0	2.5	2.0	2.5	1.0	3.0	2.34	B			○				○		高	高	無	○	中	－	－	－	－	－	－	被圧樹、樹形不良、不適。代替え樹有り。			●
100	A	100	常緑	シラカシ		3.5	15	1.0	0.28	0.09	0.36	3.0	2.5	2.0	3.0	2.0	3.0	2.59	C			○				○		高	高	無	○	中	－	－	－	－	－	－	被圧樹、樹形不良、不適。代替え樹有り。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(4)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名					Bエリア：銀杏並木													調査日		2018 年 12月25日～2019年1月28 日																			:追加調査項目			
連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	樹種記号	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
												1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
101	B	1	落葉	イチョウ		19.0	284	9.0				1.5	1.0	2.5	1.5	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							ロイヤルグランドカフェのデッキ内に位置する。 大枝(南側) 2本のH2.5mに、開口空洞あり。 高さH1.5m(北側)に、開口空洞 25×5×15あり。	●		
102	B	2	落葉	イチョウ		21.0	274	9.0				1.5	1.5	2.5	1.5	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							レストランの敷地内に位置する。 高さH1.8m(西側)に、打音異常あり。 大枝に、剪定痕からの腐朽が、数か所あり。剪定痕から、幹内部への腐朽が考えられる。	●		
103	B	3	落葉	イチョウ		21.0	267	9.0				1.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	1.84	B	○					※					有		小							KIHACHIのウッドデッキ内に位置する。 高さH1.8m(南側)に、開口空洞あり。 高さH1.8m(南西側)の大枝に、開口空洞・腐朽あり。 高さH1.8mの大枝(北西側)に、開口空洞・腐朽あり。 他 5本も同様。	●		
104	B	4	落葉	イチョウ		21.0	259	9.0				1.5	2.0	3.0	2.0	1.0	2.0	1.92	B	○					※					有		小							KIHACHIのウッドデッキ内に位置する。 大枝・大枝付根(南側)に、腐朽(大)あり。 打音異常H1.8m～2.0mある。 大枝(西側)に、腐朽(大)あり。 幹H2.0m(西側)に、腐朽(深さ30cm)あり。 精密診断の必要あり。	●		
105	B	5	落葉	イチョウ		21.0	268	9.0				1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	1.17	A	○					※					有		小							東側の歩道から1.2m、南側の園路から2.0mの位置にある。 樹形・樹勢は良好で、力強さあり。 目立つ腐朽はほぼなし。 縁石が、根元にあり。	●		
106	B	6	落葉	イチョウ		22.0	303	9.0				1.5	1.5	1.0	2.0	1.0	2.0	1.50	A	○					※					有		小							樹勢は良好で、力強さあり。 目立つ損傷はほぼなく、概ね良好な状態である。 縁石が、根元にあり。	●		
107	B	7	落葉	イチョウ		22.0	231	9.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							全体的に概ね良好な状態である。 縁石が、根元にあり。	●		
108	B	8	落葉	イチョウ		22.0	230	9.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(東側)H2.0mに、樹皮欠損あり。 全体的に概ね良好な状態である。 縁石が、根元にあり。	●		
109	B	9	落葉	イチョウ		23.0	231	9.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							根元(南側)に、開口空洞 15×5×5あり。 全体的に概ね良好な状態である。 縁石が、根元にあり。	●		
110	B	10	落葉	イチョウ		23.0	225	9.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝付根に、腐朽が、4箇所あり。 全体的に概ね良好な状態である。 縁石が、根元にあり。	●		
111	B	11	落葉	イチョウ		20.0	305	10.0				1.5	1.5	2.5	1.5	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。幹(北側)に、亀裂(縦方向に80cm)あり。大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。 大枝(北側)に、車両接触による樹皮欠損あり。根上りあり。 根元に、ツタ類の被覆あり。 根元の植栽帯は、幅1.5m×4.2mの縁石に囲まれている。			移植検討
112	B	12	落葉	イチョウ		20.0	232	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。大枝付根に、開口空洞が、数か所あり。 大枝に、打音異常あり。 根上りあり。 根元に、ツタ類の被覆あり。幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から1.5m(東側)の距離にある。			移植検討
113	B	13	落葉	イチョウ		20.0	241	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満。大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。 根上り(小)あり。 根元に、ツタ類の被覆あり。幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から2.5m(西側)の距離にある。			移植検討
114	B	14	落葉	イチョウ		20.0	260	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満。大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽あり。 根上りあり。 根元に、ツタ類の被覆あり。幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から2.5m(東側)の距離にある。			移植検討
115	B	15	落葉	イチョウ		20.0	263	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満。大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所、打音異常あり。 根上りあり。 根元に、ツタ類の被覆あり。幹に、ツタ類の登ハンあり。			移植検討
116	B	16	落葉	イチョウ		20.0	248	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満。大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽あり。亀裂 2箇所あり。 幹(南側)H1.7mに、打音異常あり。 精密診断の必要あり。 根上りあり。 根元に、ツタ類の被覆あり。幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から2.6m(西側)の距離にある。			移植検討
117	B	17	落葉	イチョウ		20.0	268	10.0				1.5	2.5	3.0	2.0	1.0	2.0	2.00	B	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。根元・幹(南側)H0.0m～9.0mに、保護シートあり。 樹形は概ね良好な状態である。 根上り(小)あり。 根元に、ツタ類の被覆あり。幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から2.4m(東側)の距離にある。			移植検討

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(5)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：Bエリア：銀杏並木　調査日：2018 年 12月25日～2019年1月28日　□：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	樹種記号	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 根元周径(m)	規格 根元径(D)	規格 4D	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	関連項目 樹高13/15	関連項目 根元径	関連項目 根元構造物	関連項目 根鉢確保	関連項目 片枝被圧	関連項目 剪定・対象樹	関連項目 剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
												1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
118	B	18	落葉	イチョウ		20.0	249	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。高さH2.0m(北側)に、開口空洞あり。 大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。 根元(東側)に、腐朽と、亀裂あり。 ひこばえが、多数あり。 根上りあり。 根元に、ツタ類の被覆あり。幹に、ツタ類の登ハンあり。 地元の人の話では、過去にたくさん結実したとのことである。			移植検討
119	B	19	落葉	イチョウ		20.0	249	10.0				1.0	1.5	2.0	1.5	1.0	2.0	1.50	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。北側に、打音異常 H1.2m～2.0mあり。 大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。 根上りあり。 縁石が、幹芯から2.4mの距離にある。			移植検討
120	B	20	落葉	イチョウ		20.0	298	10.0				1.0	2.5	3.0	1.5	1.0	2.0	1.84	B	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。幹(北側)H0.0m～7.0mに、保護シート張り。不定根誘導と思われる。 幹(東側)H1.2mに、打音異常あり。 大枝に、亀裂、腐朽が、数か所あり。 幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から2.4mの距離にある。			移植検討
121	B	21	落葉	イチョウ		20.0	253	10.0				1.5	2.5	3.0	2.0	1.0	2.0	2.00	B	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。幹(北側)H0.0m～7.0mに、保護シートあり。不定根誘導と思われる。 大枝に、亀裂、腐朽が、数か所あり。 ひこばえが、多数あり。 幹に、ツタ類の登ハンあり。 地元の人の話では、過去にたくさん結実したとのことである。			移植検討
122	B	22	落葉	イチョウ		20.0	231	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。幹(東側)H2.0mに、打音異常あり。 大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。 幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から2.5mである。			移植検討
123	B	23	落葉	イチョウ		20.0	263	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。幹(南側)H1.5m～2.0mに、打音異常あり。 大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。 幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から2.5mの距離にある。			移植検討
124	B	24	落葉	イチョウ		20.0	224	10.0				1.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	1.84	B	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。幹(西側)H1.5m～2.5mに、縦方向の亀裂、打音異常あり。 大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。 幹に、ツタ類の登ハンあり。 通路が、幹芯から2.0mの距離にあり、植栽内を通っている。			移植検討
125	B	25	落葉	イチョウ		20.0	220	10.0				1.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.0	1.84	B	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。幹(南側)H1.8m～2.3mに、開口空洞(大)、打音異常あり。 大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。 幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から2.6m(東側)の距離にある。			移植検討
126	B	26	落葉	イチョウ		20.0	211	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。幹(南側)H1.8m～2.3mに、開口空洞(大)、打音異常あり。 大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。 幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から2.5m(西側)の距離にある。			移植検討
127	B	27	落葉	イチョウ		20.0	205	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。幹(北側)H1.53mに、打音異常あり。 大枝に、剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。 幹に、ツタ類の登ハンあり。			移植検討
128	B	28	落葉	イチョウ		23.0	271	10.0				1.5	1.0	2.0	1.5	1.0	2.0	1.50	A	○							○			有		小							幅1.5mの狭い植栽帯に根系充満、根鉢確保困難。大枝付根(南側)に、開口空洞あり。 幹に、ツタ類の登ハンあり。 縁石が、幹芯から2.5m(東側)の距離にある。			移植検討
129	B	29	落葉	イチョウ		23.0	283	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							SHAKE SHACKテラスのインターロッキング内に、位置する。 大枝付根(北側)に、腐朽、打音異常あり。 大枝付根(南側)に、樹皮欠損、打音異常、あり。巻込み不良。 縁石が、幹芯から1.6mの距離にある。	●		
130	B	30	落葉	イチョウ		23.0	269	10.0				1.5	1.5	2.5	2.0	1.0	2.0	1.75	A	○					※					有		小							SHAKE SHACKテラスのインターロッキング内(南西側)に、位置する。 大枝付根(南側)に、開口空洞あり。 中枝から付け根(西側)に、腐朽(長さ1.6m)あり。 縁石が、幹芯から1.6mの距離にある。	●		
131	B	31	落葉	イチョウ		23.0	263	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝上部(東側)に、腐朽あり。 大枝(西側)に、剪定痕からの腐朽あり。	●		
132	B	32	落葉	イチョウ		23.0	246	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝(北西側)に、打音異常あり。 中枝に、剪定痕からの腐朽が、数か所あり。	●		
133	B	33	落葉	イチョウ		23.0	231	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝付根(南側)に、開口空洞(小)あり。	●		
134	B	34	落葉	イチョウ		23.0	228	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝(西側)に、剪定痕からの開口空洞・腐朽あり。	●		
135	B	35	落葉	イチョウ		23.0	212	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝(北東側)に、打音異常あり。	●		
136	B	36	落葉	イチョウ		23.0	270	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝(南東側)に、剪定痕からの開口空洞・腐朽あり。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(6)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名					Bエリア：銀杏並木													調査日		2018 年 12月25日～2019年1月28 日																			□：追加調査項目			
						規格						活力度								保存の必要性			移植					関連項目														
連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	樹種記号	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	根元周径（m）	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
												1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○（※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外）					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に●（●：変更樹木）		
137	B	37	落葉	イチョウ		23.0	250	10.0				1.5	1.5	2.5	2.0	1.0	2.0	1.75	A	○					※					有		小							根元・幹(南東側)に、縦の亀裂、腐朽あり。 H3.0m(西側)に、開口空洞 20×10あり。	●		
138	B	38	落葉	イチョウ		24.0	241	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							樹形・樹勢は概ね良好で、比較的傷が少ない。	●		
139	B	39	落葉	イチョウ		24.0	209	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(北側)に、剪定痕からの腐朽あり。	●		
140	B	40	落葉	イチョウ		24.0	215	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝上部(東側)に、樹皮の腐朽あり。	●		
141	B	41	落葉	イチョウ		24.0	261	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(東側)に、打音異常あり。	●		
142	B	42	落葉	イチョウ		24.0	250	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							剪定痕からの開口空洞空洞・腐朽(小)あるが、目立たない。	●		
143	B	43	落葉	イチョウ		24.0	258	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							比較的傷が少ない。	●		
144	B	44	落葉	イチョウ		24.0	290	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝上部(西側)に、剪定痕からの開口空洞・腐朽あり。 大枝付根(北側)H4.0mに、剪定痕からの開口空洞・腐朽あり。	●		
145	B	45	落葉	イチョウ		24.0	236	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							比較的傷が少ない。	●		
146	B	46	落葉	イチョウ		24.0	245	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							比較的傷が少ない。	●		
147	B	47	落葉	イチョウ		24.0	248	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							幹上部の高さH15m付近で、東側に屈曲あるが、立ち直り伸長している。 大枝(南側)に、気根が、多数あり。 大枝上部(南側)に、腐朽(約60cm)あり。 大枝上部(北側)に、腐朽(約60cm)あり。	●		
148	B	48	落葉	イチョウ		24.0	243	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							ひこばえが多数あり。 こぶ状のところに、気根が、多数あり。 比較的傷が少ない。	●		
149	B	49	落葉	イチョウ		24.0	253	10.0				1.5	1.5	2.5	2.0	1.0	2.0	1.75	A	○					※					有		小							幹(北西側)H0.6～1.0mに、縦長の開口空洞(深さ30cm)、打音異常あり。巻込みはあるが、内部腐朽の進行が考えられる。 精密診断の必要あり。 大枝上部(北側)に、腐朽あり。 縁石が、幹芯から3.9m(北側)の距離にある。 植栽帯の幅は、3.2mである。	●		
150	B	50	落葉	イチョウ		24.0	242	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(東側)に、開口空洞25×25あり。巻込みあり。 大枝(北側)に、剪定痕からの腐朽あり。 植栽帯の幅は、3.2mである。	●		
151	B	51	落葉	イチョウ		24.0	181	10.0				1.5	2.0	2.0	2.5	1.0	2.5	1.92	B	○					※					有		小							剪定痕からの開口空洞・腐朽が、数か所あり。巻込み不良。 幹(北側)H0.3m～0.7mに、縦の亀裂あり。 移植はやや難。 植栽帯の幅は、3.2mの距離にある。	●		
152	B	52	落葉	イチョウ		24.0	196	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							幹(東側)に、剪定痕あり。 縁石が、幹芯から5.8mの距離にある。 雌木である。 (既設の樹木プレート番号: W4)	●		
153	B	53	落葉	イチョウ		24.0	194	10.0				1.5	1.5	2.5	2.0	1.0	2.0	1.75	A	○					※					有		小							幹(東側)に、開口空洞100×15あり。 幹に、打音異常あり。 東側に、剪定痕あり。 縁石が、幹芯から2.6mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: W5)	●		
154	B	54	落葉	イチョウ		24.0	184	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(南側)に、開口空洞 10×10×10あり。 (既設の樹木プレート番号: W6)	●		
155	B	55	落葉	イチョウ		24.0	205	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝上部(東側)に、腐朽あり。 縁石が、幹芯から3.3mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: W7)	●		
156	B	56	落葉	イチョウ		24.0	185	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝(東側)に、樹皮欠損あり。 縁石が、幹芯から3.5mの距離にある。 雌木である。 (既設の樹木プレート番号: W8)	●		
157	B	57	落葉	イチョウ		24.0	238	10.0				1.5	1.5	3.0	2.0	1.0	2.0	1.84	B	○					※					有		小							幹(南側)に、樹皮欠損 130×20あり。 幹(北東側)に、樹皮欠損 200×30あり。 大枝付根(東側)に、開口空洞が、2箇所あり。 根元(北側)に、開口空洞 4×5あり。 (既設の樹木プレート番号: W9)	●		
158	B	58	落葉	イチョウ		24.0	204	10.0				1.5	1.5	2.5	2.0	1.0	2.0	1.75	A	○					※					有		小							幹(南東側)に、開口空洞 70×15あり。 幹に、打音異常あり。 大枝付根に、開口空洞あり。 縁石が、幹芯から3.3mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: W10)	●		
159	B	59	落葉	イチョウ		23.0	185	10.0				1.5	1.5	2.5	2.0	1.0	2.0	1.75	A	○					※					有		小							幹(東側)に、開口空洞 100×20あり。 南・北・東側それぞれに、剪定痕あり。 枝の付け根(北側)に、門あり。 縁石が、幹芯から3.9mの距離にある。 雌木である。 (既設の樹木プレート番号: W11)	●		
160	B	60	落葉	イチョウ		23.0	181	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(北東側)に、剪定痕からの腐朽あり。 巻き根あり。 (既設の樹木プレート番号: W12)	●		
161	B	61	落葉	イチョウ		23.0	182	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(東側)に、剪定痕あり。 縁石が、幹芯から3.3mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: W13)	●		
162	B	62	落葉	イチョウ		23.0	179	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.5	1.75	A	○					※					有		小							巻き根あり。 縁石が、幹芯から3.2mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: W14)	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(7)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名					Bエリア：銀杏並木													調査日		2018 年 12月25日～2019年1月28 日																			:追加調査項目			
連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	樹種記号	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
												1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
163	B	63	落葉	イチョウ		23.0	198	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(東側)に、腐朽あり。 (既設の樹木プレート番号: W15)	●		
164	B	64	落葉	イチョウ		23.0	219	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							幹(西側)に、開口空洞 40×50×20あり。 幹に、打音異常あり。 大枝付根(東側)に、腐朽あり。 縁石が、幹芯から3.4mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: W16)	●		
165	B	65	落葉	イチョウ		23.0	216	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							幹(南側)H3.0mに、開口空洞 10×8あり。 縁石が、幹芯から3.5mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: W17)	●		
166	B	66	落葉	イチョウ		23.0	220	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							巻き根あり。 樹形・樹勢は概ね良好。 (既設の樹木プレート番号: W18)	●		
167	B	67	落葉	イチョウ		23.0	187	10.0				1.5	2.0	1.5	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝上部(東側)に、腐朽あり。	●		
168	B	68	落葉	イチョウ		23.0	219	10.0				1.5	1.5	2.5	2.0	1.0	2.0	1.75	A	○					※					有		小							根元・幹(北側)H0.2～2.5mに、縦の亀裂あり。 大枝上部(南側)に、腐朽あり。 根張り良好。	●		
169	B	69	落葉	イチョウ		23.0	246	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(北側)に、開口空洞・腐朽が 3箇所あり。 大枝上部(南側)に、剪定痕からの開口空洞・腐朽あり。 大枝上部(東側)に、剪定痕からの開口空洞・腐朽あり。 縁石が、幹芯から4.2m(北側)の距離にある。	●		
170	B	70	落葉	イチョウ		23.0	210	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							比較的傷が少ない。	●		
171	B	71	落葉	イチョウ		22.0	186	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							幹H2.5mに、腐朽あり。 高さH1.2m～1.8m(南側)に、開口空洞(大)あり。 大枝上部(北側)に、腐朽あり。	●		
172	B	72	落葉	イチョウ		22.0	209	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(東側)に、剪定痕からの腐朽(大)あり。 縁石が、幹芯から3.7m(南側)の距離にある。	●		
173	B	73	落葉	イチョウ		22.0	205	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(西側)に、枝抜け痕が 2箇所ある。 縁石が、幹芯から3.5m(北側)の距離にある。	●		
174	B	74	落葉	イチョウ		21.0	232	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							比較的傷が少ない。 根張りが良い。	●		
175	B	75	落葉	イチョウ		21.0	211	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							巻き根あり。 縁石が、幹芯から3.7mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: W27)	●		
176	B	76	落葉	イチョウ		21.0	244	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							樹形・樹勢は概ね良好。 縁石が、幹芯から3.5mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: W28)	●		
177	B	77	落葉	イチョウ		21.0	224	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							幹(北側)に、大枝剪定痕あり。 幹に、打音異常(小)あり。 大枝付根(東側)に、腐朽あり。 雌木である。 (既設の樹木プレート番号: W29)	●		
178	B	78	落葉	イチョウ		21.0	258	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(東側)に、樹皮欠損 20×5あり。 大枝(北西側)に、腐朽あり。 (既設の樹木プレート番号: W30)	●		

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(8)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：Cエリア：銀杏並木東　調査日：2018 年 12月25日～2019年1月28 日　□：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 根元周径(m)	規格 根元径(D)	規格 4D	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	関連項目 樹高13/15	関連項目 根元径	関連項目 根元構造物	関連項目 根鉢確保	関連項目 片枝被圧	関連項目 剪定・対象樹	関連項目 剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
179	C	1	落葉	イチョウ	21.0	132	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							高さH2.0m(北西側)に、開口空洞 8×4×10あり。 幹に、打音異常(小)あり。 枝上部(東側)に、腐朽あり。 (既設の樹木プレート番号: E34)	●		
180	C	2	落葉	イチョウ	21.0	222	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							枝(東側)に、開口空洞あり。 (既設の樹木プレート番号: E33)	●		
181	C	3	落葉	イチョウ	21.0	252	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(西側)に、開口空洞あり。 縁石が、幹芯から3.7mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: E32)	●		
182	C	4	落葉	イチョウ	21.0	240	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							枝付け根(西側)に、開口空洞あり。 枝付け根(東側)に、開口空洞あり。 縁石が、幹芯から3.5mの距離にある。 (既設の樹木プレート番号: E31)	●		
183	C	5	落葉	イチョウ	21.0	242	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							枝付け根(西側)に、腐朽あり。 (既設の樹木プレート番号: E30)	●		
184	C	6	落葉	イチョウ	22.0	223	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							枝付け根(東側)に、腐朽あり。 枝付け根(北西側)に、腐朽あり。 縁石が、幹芯から3.2mの距離にある。 雌木である。 (既設の樹木プレート番号: E29)	●		
185	C	7	落葉	イチョウ	22.0	199	10.0				1.5	1.5	2.5	2.0	1.0	2.0	1.75	A	○					※					有		小							幹(南西側)に、開口空洞 50×10×13あり。 幹(北西側)に、開口空洞 80×20×15あり。 打音異常あり。 雌木である。 (既設の樹木プレート番号: E28)	●		
186	C	8	落葉	イチョウ	22.0	224	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(北側)に、腐朽あり。	●		
187	C	9	落葉	イチョウ	22.0	212	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							幹(北西側)に、開口空洞 15×8×12あり。 大枝付根(東側)に、腐朽、打音異常あり。	●		
188	C	10	落葉	イチョウ	23.0	193	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(南側)に、開口空洞 20×10×10あり。 大枝(西側)に、開口空洞が 2箇所 15×10×12, 10×10×10あり。 その他にも、大枝に、開口空洞が 3箇所あり。	●		
189	C	11	落葉	イチョウ	23.0	291	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(北側)に、剪定痕からの腐朽 50×30あり。 大枝付根(北側)に、開口空洞 10×10×10あり。 縁石が、幹芯から2.9mの距離にある。	●		
190	C	12	落葉	イチョウ	23.0	203	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(南側)に、開口空洞 13×10×8あり。 大枝(東側)に、開口空洞 10×10×10あり。	●		
191	C	13	落葉	イチョウ	23.0	186	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(西側)に、開口空洞 15×12×10あり。 梢端が、東側に大きく湾曲している。	●		
192	C	14	落葉	イチョウ	23.0	219	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							北側に、開口空洞 15×15×12あり。 大枝(南側)に、腐朽 45×25あり。 縁石が、幹芯から2.5mの距離にある。	●		
193	C	15	落葉	イチョウ	23.0	237	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝(東側)に、開口空洞が 2箇所あり。 幹(西側)に、大枝剪定痕 45×25あり。 大枝(南側)に、開口空洞 12×10あり。	●		
194	C	16	落葉	イチョウ	23.0	227	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝(東側)に、開口空洞 17×8×6あり。 大枝(西側)に、樹皮欠損 50×27あり。 その他大枝に、開口空洞が、数か所あり。	●		
195	C	17	落葉	イチョウ	23.0	213	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(東側)に、開口空洞が 2箇所 10×8×5, 7×7×5、腐朽 40×23あり。	●		
196	C	18	落葉	イチョウ	23.0	192	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							縁石が、幹芯から3.3mの距離にある。	●		
197	C	19	落葉	イチョウ	23.0	243	10.0				1.5	1.5	2.5	2.0	1.0	2.0	1.75	A	○					※					有		小							根元・幹H0.0m～1.6mにかけて、開口空洞 160×23×26あり。 大枝付根(西側)に、腐朽 15×15、開口空洞 60×8あり。 大枝(東側)に、腐朽 120×10あり。	●		
198	C	20	落葉	イチョウ	23.0	193	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(北側)に、開口空洞 18×14×8あり。 幹(西側)H1.8mに、開口空洞 19×15×20あり。	●		
199	C	21	落葉	イチョウ	23.0	179	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							根元・幹H0.0m～0.6mにかけて、開口空洞 60×6×12あり。 根元・幹H0.0m～1.4m、幅20にかけて、樹皮に活力がない。 大枝(西側)に、開口空洞 8×8あり。	●		
200	C	22	落葉	イチョウ	23.0	215	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(西側)に、開口空洞 8×7×7あり。 縁石が、幹芯から3.3mの距離にある。	●		
201	C	23	落葉	イチョウ	23.0	188	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(西側)に、剪定痕からの腐朽 24×20あり。	●		
202	C	24	落葉	イチョウ	24.0	178	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(西側)に、開口空洞 42×12×9あり。 幹に、開口空洞 12×10あり。 縁石が、幹芯から3.4mの距離にある。	●		
203	C	25	落葉	イチョウ	24.0	199	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝(南側)に、開口空洞 13×10×7である。 根元・幹H0.0m～0.9mにかけて、亀裂あり。 大枝付根(東側)に、亀裂 70×10、上部にワイヤー支柱施工済である。 縁石が、幹芯から3.3mの距離にある。	●		
204	C	26	落葉	イチョウ	24.0	202	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							枝(西側)に、腐朽 50×12あり。	●		
205	C	27	落葉	イチョウ	24.0	226	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							幹H0.3m～0.8mにかけて、開口空洞 50×30×10あり。 大枝(北側)に、開口空洞 2箇所 8×7×7, 7×5×5あり。 縁石が、幹芯から3.2mの距離にある。	●		

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(9)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名						Cエリア：銀杏並木東												調査日										2018 年 12月25日～2019年1月28 日												:追加調査項目			
						規格						活力度								保存の必要性			移植					関連項目														
連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名		樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
												1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
206	C	28	落葉	イチョウ		24.0	201	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(南側)に、開口空洞 10×10あり。 縁石が、幹芯から3.3mの距離にある。	●		
207	C	29	落葉	イチョウ		24.0	264	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根付近(南側)に、開口空洞 16×9×7あり。 大枝(南側)H3.0mに、開口空洞 13×13あり。 大枝(西側)に、開口空洞 22×8×9あり。	●		
208	C	30	落葉	イチョウ		24.0	196	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							幹(西側)に、開口空洞 37×7×6あり。 幹(東側)に、開口空洞 9×5×15あり。 縁石が、幹芯から2.4m(北側)の距離にある。	●		
209	C	31	落葉	イチョウ		24.0	222	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							幹(東側)に、開口空洞 53×15×10あり。 大枝付根(東側)に、腐朽 28×10あり。 縁石が、幹芯から2.5m(南側)の距離にある。	●		
210	C	32	落葉	イチョウ		24.0	279	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝(南側)に、開口空洞 12×10×12あり。 大枝付根(北側)に、開口空洞が 2箇所 11×13×5, 8×5×5あり。 幹(西側)に、大枝剪定痕 40×30あり。	●		
211	C	33	落葉	イチョウ		24.0	239	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝(西側)に、剪定痕からの腐朽 60×17あり。 幹(西側)H3.5mに、開口空洞 18×10あり。 大枝付根(東側)に、腐朽 24×14あり。	●		
212	C	34	落葉	イチョウ		24.0	324	10.0				1.5	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	1.42	A	○					※					有		小							大枝(西側)に、開口空洞 2箇所 12×10, 12×10あり。 大枝(北側)に、開口空洞 90×90あり。 縁石が、幹芯から3.6m(北側)の距離にある。	●		
213	C	35	落葉	イチョウ		24.0	298	10.0				1.5	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	1.42	A	○					※					有		小							大枝に、剪定痕からの開口空洞 10×10内外が、数か所あり。	●		
214	C	36	落葉	イチョウ		24.0	223	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(東側)に、腐朽 80×7あり。	●		
215	C	37	落葉	イチョウ		24.0	243	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(南側)に、腐朽 23×10あり。	●		
216	C	38	落葉	イチョウ		24.0	295	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(南側)に、腐朽 50×10あり。 大枝(北側)に、腐朽 23×10あり。 大枝(西側)に、開口空洞 11×8あり。 縁石が、幹芯から1.6m(南側)の距離にある。	●		
217	C	39	落葉	イチョウ		24.0	257	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							根元(東側)に、開口空洞 50×9×30あり。	●		
218	C	40	落葉	イチョウ		24.0	212	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(東側)に、腐朽 30×10あり。	●		
219	C	41	落葉	イチョウ		24.0	245	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(西側)に、腐朽 2箇所 21×12×4, 60×11あり。 大枝(北側)に、腐朽 20×10あり。 大枝(北東側)に、腐朽 20×10あり。	●		
220	C	42	落葉	イチョウ		24.0	249	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(北側)に、開口空洞 2箇所 15×8×13, 10×10×6あり。 大枝付根(南側)に、開口空洞 16×10×7あり。	●		
221	C	43	落葉	イチョウ		24.0	258	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							幹に、大枝剪定痕からの腐朽 15×10×8あり。	●		
222	C	44	落葉	イチョウ		24.0	256	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(北側)に、開口空洞 12×12あり。ほか、大枝に、開口空洞が、数か所あり。	●		
223	C	45	落葉	イチョウ		24.0	223	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(南側)に、腐朽 40×10あり。	●		
224	C	46	落葉	イチョウ		23.0	260	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(南側)に、腐朽 20×18あり。 大枝付根(西側)に、腐朽 23×8あり。	●		
225	C	47	落葉	イチョウ		23.0	254	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小								●		
226	C	48	落葉	イチョウ		23.0	274	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小								●		
227	C	49	落葉	イチョウ		23.0	251	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(西側)に、腐朽 40×12あり。	●		
228	C	50	落葉	イチョウ		23.0	263	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(西側)に、開口空洞 10×8あり。 大枝(南側)に、開口空洞 13×9あり。 大枝(東側)に、開口空洞 10×8あり。	●		
229	C	51	落葉	イチョウ		23.0	231	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝に、打音異常あり。 根元に、打音異常(小)あり。	●		
230	C	52	落葉	イチョウ		23.0	229	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝付根に、腐朽あり。 打音異常あり。 大枝(南西側)に、剪定痕からの腐朽あり。	●		
231	C	53	落葉	イチョウ		23.0	200	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							打音異常あり。 東側に、開口空洞 130×30×13あり。 大枝(南西側)に、腐朽(大)あり。	●		
232	C	54	落葉	イチョウ		23.0	231	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							大枝下部(南側)に、腐朽(大)、打音異常あり。 大枝(東側)に、剪定痕からの腐朽あり。	●		
233	C	55	落葉	イチョウ		23.0	228	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝(南側)に、枯損枝、衰退枝あり。	●		
234	C	56	落葉	イチョウ		23.0	235	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							大枝付根(西側)に、腐朽あり。	●		
235	C	57	落葉	イチョウ		23.0	251	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							南西側に、入皮、腐朽あり。 打音異常(小)あり。 入皮が、多数あり。 大枝付根(東側)に、腐朽あり。	●		
236	C	58	落葉	イチョウ		23.0	233	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A	○					※					有		小							打音異常あり。 大枝(北側)に、腐朽あり。 大枝(南側)に、剪定痕からの腐朽あり。	●		
237	C	59	落葉	イチョウ		23.0	222	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							剪定痕からの腐朽が、数か所あり。	●		
238	C	60	落葉	イチョウ		22.0	231	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							打音異常(小)あり。 大枝付根(西側)に、開口空洞あり。	●		
239	C	61	落葉	イチョウ		22.0	229	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							打音異常あり。 大枝(西側)に、剪定痕からの腐朽あり。	●		
240	C	62	落葉	イチョウ		22.0	240	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A	○					※					有		小							打音異常あり。 大枝付根(西側)に、開口空洞あり。	●		

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(10)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：Cエリア：銀杏並木東　調査日：2018 年 12月25日～2019年1月28 日　（枠囲み）：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果
											1～4評価							ABCD
241	C	63	落葉	イチョウ	22.0	249	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A
242	C	64	落葉	イチョウ	21.0	224	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A
243	C	65	落葉	イチョウ	21.0	236	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A
244	C	66	落葉	イチョウ	21.0	243	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A
245	C	67	落葉	イチョウ	21.0	205	10.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	2.0	1.67	A
246	C	68	落葉	イチョウ	21.0	242	10.0				1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	1.5	1.50	A
247	C	69	常緑	マテバシイ	7.0	340	7.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
248	C	70	常緑	マテバシイ	7.5	155	7.0				2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B
249	C	71	常緑	マテバシイ	7.5	198	6.0				2.5	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.75	C
250	C	72	常緑	ヤマモモ	7.0	86	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
251	C	73	常緑	ヤマモモ	7.5	84	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
252	C	74	常緑	ヤマモモ	7.0	88	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
253	C	75	常緑	ヤマモモ	7.0	84	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
254	C	76	常緑	マテバシイ	5.0	150	3.0				4.0	4.0	4.0	4.0	3.0	4.0	3.84	D
255	C	77	常緑	マテバシイ	8.5	156	8.0				3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	2.84	C
256	C	78	常緑	マテバシイ	4.0	62	3.5				2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B
257	C	79	常緑	ハゼノキ(セン	3.5	25	2.5				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
258	C	80	常緑	ウバメガシ	4.0	96	4.0				2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B
259	C	81	常緑	モチノキ	4.0	67	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
260	C	82	常緑	マテバシイ	6.0	59	3.5				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.67	C
261	C	83	常緑	マテバシイ	7.0	76	6.5				2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.17	B
262	C	84	常緑	マテバシイ	7.0	74	6.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B
263	C	85	常緑	ヤブツバキ	6.0	60	2.5				2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.25	B
264	C	86	常緑	モチノキ	8.0	79	3.0				2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.17	B
265	C	87	常緑	トウネズミモチ	5.0	35	2.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
266	C	88	常緑	トウネズミモチ	6.0	48	2.5				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
267	C	89	常緑	スダジイ	7.5	110	2.5				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.59	C
268	C	90	常緑	スダジイ	7.5	126	3.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B
269	C	91	常緑	スダジイ	6.5	111	3.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B
270	C	92	常緑	ケヤキ	12.0	275	10.0				2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B
271	C	93	常緑	イスノキ	6.0	55	3.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
272	C	94	常緑	スダジイ	7.0	152	3.5				2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.42	B
273	C	95	常緑	ケヤキ	14.0	217	11.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B
274	C	96	常緑	イスノキ	7.0	80	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
275	C	97	落葉	ケヤキ	14.0	222	13.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
276	C	98	常緑	ネズミモチ	5.0	93	4.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B
277	C	99	常緑	トウネズミモチ	7.0	64	3.5				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
278	C	100	落葉	ヒトツバタゴ	7.0	81	3.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
279	C	101	常緑	ウバメガシ	7.0	97	3.5				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
280	C	102	常緑	ヒサカキ	4.5	34	2.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
281	C	103	落葉	イロハモミジ	6.0	58	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
282	C	104	落葉	クヌギ	12.0	180	7.0				3.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.42	B
283	C	105	常緑	ウバメガシ	6.5	61	2.0				2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B
284	C	106	落葉	ヒトツバタゴ	6.5	50	2.5				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B
285	C	107	落葉	イロハモミジ	5.0	34	4.5				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B
286	C	108	常緑	マテバシイ	8.0	83	2.5				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C
287	C	109	常緑	スダジイ	7.5	107	6.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B
288	C	110	常緑	スダジイ	8.0	122	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
289	C	111	落葉	クヌギ	10.0	136	4.0				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C
290	C	112	落葉	イロハモミジ	7.0	81	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
291	C	113	落葉	ヒトツバタゴ	8.0	62	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
292	C	114	落葉	ヒトツバタゴ	7.0	52	3.0				2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.34	B
293	C	115	落葉	イロハモミジ	8.0	77	6.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B
294	C	116	常緑	モチノキ	6.0	41	3.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B
295	C	117	常緑	スダジイ	8.0	30	5.0				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C
296	C	118	落葉	ケヤキ	16.0	239	13.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.75	A
297	C	119	常緑	ウバメガシ	5.5	73	3.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.34	B
298	C	120	常緑	スダジイ	7.5	65	3.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.34	B
299	C	121	落葉	クヌギ	11.0	149	5.0				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.67	C
300	C	122	常緑	スダジイ	10.0	222	10.0				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C
301	C	123	常緑	スダジイ	8.0	125	9.0				3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B
302	C	124	常緑	マテバシイ	3.0	47	2.0				3.5	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	3.17	C

連番	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
241	○					※					有		小							打音異常あり。 大枝上部(南側)に、腐朽あり。 剪定痕からの腐朽が、数か所あり。	●		
242	○					※					有		小							大枝(南側)に、打音異常あり。 大枝付根に、腐朽が、数か所あり。	●		
243	○					※					有		小							打音異常(小)あり。 剪定痕からの腐朽が、数か所あり。	●		
244	○					※					有		小							根元(北側)に、開口空洞 30×8×20あり。 大枝上部(北側)に、腐朽あり。 打音異常あり。 幹(北西側)H3.0mに、開口空洞 10×3あり。	●		
245	○					※					有		小								●		
246	○					※					有		小							打音異常あり。 大枝(南側)に、剪定痕からの開口空洞あり。	●		
247		○				※					有		小							石垣の上に位置する。	●		
248			○					○			有		小							枝に、カミキリムシ脱出孔が、複数あり。	●		
249			○					○			有		大								●		
250	○			○							有		小								●		
251	○			○							有		小								●		
252	○			○							有		小								●		
253	○			○							有		小								●		
254			○					○			有		小							幹に、開口空洞(大)あり。	●		
255			○					○			有		小							幹に、開口空洞あり。	●		
256			○					○			有		大								●		
257			○					○			有		小								●		
258		○		○							有		中								●		
259		○		○							有		中								●		
260			○			※					有		大								●		
261		○				※					有		中								●		
262			○			※					有		大								●		
263		○				※					有		中								●		
264		○				※					有		中								●		
265			○			※		○			有		中							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
266			○			※		○			有		中							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
267			○			※					有		大							幹に、打音異常あり。	●		
268		○				※					有		中							幹に、打音異常あり。 フェンスに接触している。	●		
269		○				※					有		中								●		
270	○					※					有		小								●		
271		○		○							無		小								●		
272			○					○			有		中							幹に、打音異常あり。 フェンスに近接している。	●		
273	○					※					無		小								●		
274		○		○							有		小								●		
275	○					※					有		小								●		
276		○				※					無		小								●		
277			○					○			無		小							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
278		○		○							無		小								●		
279		○		○							無		中								●		
280		○		○							無		小								●		
281	○			○							無		小								●		
282		○				※					有		小								●		
283			○					○			無		小								●		
284		○		○							無		大								●		
285		○		○							無		中								●		
286		○		○							無		中								●		
287		○				※					有		中							幹に、打音異常あり。 フェンスに接触している。	●		
288		○				※					有		小							幹に、打音異常(小)あり。	●		
289		○				※					無		大								●		
290	○			○							無		中								●		
291		○		○							無		中							巻き根あり。	●		
292		○		○							無		大								●		
293	○			○							無		中								●		
294		○		○							無		小							雌木である。	●		
295		○				※					無		大							樹木番号118ケヤキからの被圧により、片枝樹形である。 道路側は大きく剪定されている。 大枝に、シイサルノコシカケと思われる子実体あり。	●		
296	○					※					無		小							樹形・樹勢は良く、存在感があり、保存価値が高い。 大径木のため、移植難である。	●		
297		○		○							無		小							剪定痕が、多数あり。	●		
298		○		○							無		小								●		
299		○				※					無		大							片枝樹形である。 剪定痕が、多数あり。	●		
300		○				※					無		中							片枝樹形である。 幹に、腐朽あり。 根元に、ツリバリサルノコシカケの子実体あり。	●		
301		○				※					無		中							片枝樹形である。	●		
302			○					○			無		大							上部が大きく剪定され、片枝樹形であり、保存価値が低い。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(11)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：Cエリア：銀杏並木東　調査日：2018 年 12月25日～2019年1月28 日　□：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
303	C	125	常緑	マテバシイ	10.0	101	5.0				3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.59	C		○				※					無		中							片枝樹形である。 剪定痕が、多数あり。 根元H0.0m～H1.2mに開口空洞あり。	●		
304	C	126	常緑	マテバシイ	3.5	72	4.0				3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B		○				※					無		中							片枝樹形である。 根元H0.0m～H1.2mに開口空洞あり。	●		
305	C	127	常緑	スダジイ	11.0	163	9.0				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○				※					無		小							片枝樹形である。	●		
306	C	128	常緑	クスノキ	12.0	188	9.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					※					無		小								●		
307	C	129	落葉	ヒトツバタゴ	8.0	81	6.0				3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.50	B		○		○							無		小								●		
308	C	130	落葉	ヒトツバタゴ	8.0	63	4.0				2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.25	B		○		○							無		小								●		
309	C	131	落葉	ミズキ	10.0	74	7.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○		○							無		小								●		
310	C	132	常緑	マテバシイ	9.0	134	5.0				2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.25	B		○				※					無		小							大枝付根に、入皮あり。 多芽病あり。	●		
311	C	133	常緑	マテバシイ	9.0	79	4.0				2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.25	B		○				※					無		小							多芽病あり。	●		
312	C	134	落葉	ヒトツバタゴ	4.0	31	3.0				2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.25	B		○		○							無		小								●		
313	C	135	落葉	イロハモミジ	6.5	75	6.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		小								●		
314	C	136	落葉	プラタナス	13.0	240	8.0				3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.42	B	○					※					無		小							剪定痕が、多数あり。 根元に、ゴマフボクトウと思われる食害痕あり。 大径木であり、保存価値がある。	●		
315	C	137	針葉	クロマツ	15.0	127	4.0				3.0	3.0	3.0	2.5	2.0	2.5	2.67	C		○				※					無		無							下枝が高い。	●		
316	C	138	常緑	シラカシ	6.0	79	2.5				3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.75	C			○					○			無		小							断幹され、幹に腐朽あり。	●		
317	C	139	常緑	スダジイ	8.0	110	8.0				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C		○				※					無		中							片枝樹形である。	●		
318	C	140	落葉	ムクノキ	15.0	173	9.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B	○					※					無		小								●		
319	C	141	常緑	マテバシイ	8.5	95	5.0				2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.42	B		○				※					無		小							剪定痕・腐朽あり。 片枝樹形である。	●		
320	C	142	常緑	マテバシイ	4.5	55	4.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.34	B		○				※					無		中							片枝樹形である。	●		
321	C	143	落葉	クヌギ	11.0	172	7.0				3.0	3.0	2.0	2.5	2.5	3.0	2.67	C		○				※					無		大							樹木番号144スダジイ等からの被圧により、下枝が高い。 幹に、樹木番号144スダジイの大枝がくい込んでいる。	●		
322	C	144	常緑	スダジイ	12.0	135	10.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B		○				※					無		小								●		
323	C	145	常緑	スダジイ	8.0	130	6.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.42	B		○				※					無		小								●		
324	C	146	常緑	マテバシイ	5.5	83	4.5				3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.84	C			○					○			無		中							株立ちである。	●		
325	C	147	落葉	イロハモミジ	7.0	72	7.0				1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.42	A	○			○							無		小								●		
326	C	148	落葉	ムクノキ	15.0	193	12.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.09	B	○					※					無		小								●		
327	C	149	常緑	シラカシ	13.0	138	7.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					無		中								●		
328	C	150	常緑	マテバシイ	4.0	35	2.0				3.5	3.0	3.0	3.0	4.0	3.5	3.34	D			○					○			無		大							樹冠上部が失われ、樹形・樹勢は不良。	●		
329	C	151	常緑	クロガネモチ	5.0	33	3.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.42	B		○		○							無		中								●		
330	C	152	落葉	ウメ	3.5	26	1.5				3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		大								●		
331	C	153	常緑	スダジイ	7.0	129	6.0				2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.34	B		○				※					無		小								●		
332	C	154	常緑	スダジイ	13.0	141	8.0				2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B	○					※					無		小								●		
333	C	155	常緑	スダジイ	10.0	212	8.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					無		小								●		
334	C	156	常緑	スダジイ	11.0	169	5.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					無		小								●		
335	C	157	常緑	マテバシイ	3.5	48	3.5				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○		○							無		大								●		
336	C	158	落葉	プラタナス	17.0	293	12.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.25	B	○					※					無		小								●		
337	C	159	落葉	イロハモミジ	8.0	77	7.0				1.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		小							幹に、開口空洞あり。	●		
338	C	160	常緑	スダジイ	9.5	110	6.0				2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B		○				※					無		小							幹に、大枝欠損部からの腐朽あり。	●		
339	C	161	常緑	サザンカ	6.0	39	2.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○		○							無		小								●		
340	C	162	常緑	クスノキ	11.0	134	6.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		小								●		
341	C	163	落葉	イロハモミジ	7.0	51	6.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		小								●		
342	C	164	常緑	スダジイ	9.0	150	9.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					無		中							樹木番号165クヌギと近接している。	●		
343	C	165	落葉	クヌギ	13.0	164	7.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.34	B		○				※					無		大							樹木番号164スダジイと近接している。	●		
344	C	166	落葉	ケヤキ	19.0	285	12.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B	○					※					無		無							幹に、打音異常(小)あり。	●		
345	C	167	落葉	ヒトツバタゴ	6.5	48	6.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○		○							無		大								●		
346	C	168	常緑	マテバシイ	6.0	50	4.5				3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	3.0	2.67	C			○					○			無		小								●		
347	C	169	常緑	マテバシイ	6.5	56	2.5				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.75	C			○					○			無		中								●		
348	C	170	常緑	マテバシイ	5.0	57	2.0				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.75	C			○					○			無		大								●		
349	C	171	常緑	マテバシイ	8.5	76	4.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		中								●		
350	C	172	常緑	スダジイ	12.0	147	6.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B		○		○							無		無								●		
351	C	173	常緑	モチノキ	5.0	45	3.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		小								●		
352	C	174	落葉	イロハモミジ	8.0	90	6.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					有		中								●		
353	C	175	落葉	ケヤキ	18.0	238	10.0				2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					※					有		小								●		
354	C	176	常緑	サカキ	6.0	56	3.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							無		小								●		
355	C	177	落葉	ケヤキ	15.0	227	12.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					※					無		中							幹に、打音異常(小)あり。	●		
356	C	178	常緑	クスノキ	8.5	73	6.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.09	B		○		○							無		中								●		
357	C	179	常緑	マテバシイ	8.5	65	6.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		中								●		
358	C	180	常緑	マテバシイ	7.5	66	3.5				2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○				※					無		大								●		
359	C	181	常緑	マテバシイ	8.0	70	4.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					無		中							樹木番号182ケヤキと近接している。	●		
360	C	182	落葉	ケヤキ	18.0	259	12.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					有		無								●		
361	C	183	落葉	イロハモミジ	7.0	54	6.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							無		小								●		
362	C	184	落葉	トウカエデ	10.0	146	6.0				3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.75	C		○						○			無		小							幹に、開口空洞あり。	●		
363	C	185	常緑	トウネズミモチ	9.0	88	5.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.34	B			○					○			無		小							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
364	C	186	常緑	スダジイ	9.0	134	7.0				2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○				※					無		小							幹にアイカワタケのヒラフスベ型の子実体および、打音異常あり。	●		
365	C	187	落葉	イロハモミジ	6.5	72	6.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							無		小							片枝樹形である。	●		
366	C	188	常緑	マテバシイ	6.5	50	3.5				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		中							片枝樹形である。	●		
367	C	189	常緑	マテバシイ	8.0	76	4.0				2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.50	B		○				※					無		中							片枝樹形である。 大枝に、枝欠損部からの腐朽あり。	●		
368	C	190	常緑	モッコク	5.0	67	3.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.25	B		○		○							無		小								●		
369	C	191	落葉	イロハモミジ	5.0	58	5.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.34	B		○		○							無		小								●		
370	C	192	常緑	イスノキ	6.5	88	4.0				2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.84	B		○		○							無		小								●		
371	C	193	常緑	ウバメガシ	5.5	53	4.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		小								●		
372	C	194	落葉	ケヤキ	18.0	276	12.0				2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.92	B	○					※					無		小							大枝欠損部からの腐朽あり。	●		
373	C	195	落葉	イロハモミジ	7.5	52	5.0				2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		小								●		
374	C	196	常緑	マテバシイ	7.0	66	4.5				2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.09	B		○				※					無		中							片枝樹形である。	●		

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(12)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：Cエリア：銀杏並木東　調査日：2018 年 12月25日～2019年1月28日　［青枠］：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名		規格 樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	根元周径 (m)	根元径 (D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
												1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
375	C	197	常緑	マテバシイ		6.0	63	3.5				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		中							片枝樹形である。 多芽病あり。	●		
376	C	198	常緑	マテバシイ		3.0	42	2.0				4.0	3.5	4.0	3.0	4.0	3.5	3.67	D			○					○			無		大							梢端部に小枝がなく、著しく樹形・樹勢が悪い。	●		
377	C	199	常緑	スダジイ		9.0	180	6.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B	○					※					無		小								●		
378	C	200	落葉	クワ		3.5	38	4.0				3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.92	C			○					○			無		無							断幹され、断幹部に、腐朽あり。	●		
379	C	201	常緑	サザンカ		5.0	75	4.5				2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.50	B			○					○			無		小							幹に、樹皮欠損・腐朽(大)あり。 大枝に、腐朽あり。	●		
380	C	202	落葉	ヒトツバタゴ		5.0	37	3.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		小								●		
381	C	203	常緑	イスノキ		8.5	86	5.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		小							根元に、子実体(種不明)あり。	●		
382	C	204	常緑	サザンカ		4.5	41	3.0				2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.42	B		○				※					無		中							根元に、開口空洞あり。	●		
383	C	205	常緑	マテバシイ		5.0	34	2.0				2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B		○		○							無		大								●		
384	C	206	常緑	マテバシイ		6.0	62	2.0				2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○				※					無		小							片枝樹形である。 大枝に、樹皮欠損あり。	●		
385	C	207	落葉	ケヤキ		12.0	41	7.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					※					有		小							胴吹きが、多数あり。 根元から 0.9mの位置にマンホールあり。	●		
386	C	208	落葉	ヒトツバタゴ		5.0	46	5.0				2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.84	B		○		○							無		小								●		
387	C	209	常緑	マテバシイ		3.0	34	1.5				4.0	3.5	3.5	3.0	3.5	3.5	3.50	D			○					○			無		小							断幹部から方がした樹形で、樹形・樹勢が共に悪い。	●		
388	C	210	常緑	ウバメガシ		3.0	23	1.5				2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○					○			無		小							幹に、開口空洞(大)が2箇所あり。	●		
389	C	211	常緑	マテバシイ		6.0	78	6.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		小								●		
390	C	212	常緑	シラカシ		12.0	140	8.0				2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○		○							無		小							下枝が高い。	●		
391	C	213	常緑	マテバシイ		5.5	71	4.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.09	B		○				※					無		中							片枝樹形である。	●		
392	C	214	常緑	マテバシイ		5.0	54	4.5				3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		中							片枝樹形である。	●		
393	C	215	常緑	スダジイ		5.0	111	4.0				3.5	3.5	4.0	2.5	4.0	3.0	3.42	D			○					○			無		小							幹に、樹皮欠損部からの枯れ下りが、根元まである。	●		
394	C	216	常緑	マテバシイ		7.0	108	4.0				4.0	3.5	4.0	3.0	4.0	4.0	3.75	D			○					○			無		小							大枝欠損部からの枯れ下りが著しく、腐朽(大)あり。	●		
395	C	217	常緑	クスノキ		4.0	69	3.5				4.0	3.5	4.0	3.0	4.0	3.5	3.67	D			○					○			無		小							断幹されている。 根元に、開口空洞あり。	●		
396	C	218	常緑	スダジイ		10.0	171	6.0				2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○				※					無		小							幹H2.3m～3.4mにかけて、開口空洞(大)あり。	●		
397	C	219	常緑	マテバシイ		7.0	78	5.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○				※					無		中							片枝樹形である。	●		
399	C	221	常緑	クスノキ		10.0	82	7.0				2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○		○							無		中								●		
400	C	222	常緑	スダジイ		9.0	119	6.0				3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	2.59	C		○				※					無		中							幹に、腐朽と、打音異常あり。	●		
401	C	223	落葉	ケヤキ		24.0	459	18.0				1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.84	B	○					※					有		小							幹H0.45m～1.5mにかけて、開口空洞(大)あり。 大枝に、樹皮欠損・腐朽あり。 存在感があり、保存が望ましい。移植の場合は、樹形を大きく損なう可能性が高いので、詳細調査を要する。	●		
402	C	224	常緑	スダジイ		14.0	202	9.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.42	B		○				※					無		小							大枝に、樹皮欠損・腐朽あり。	●		
403	C	225	常緑	スダジイ		10.0	153	6.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.42	B		○				※					有		小							大枝・幹に、開口空洞あり。 根元に、柵あり。	●		
404	C	226	常緑	マテバシイ		6.0	46	3.0				2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.25	B		○				※					無		中							多芽病あり。	●		
405	C	227	落葉	ウメ		3.0	40	2.5				3.0	2.5	3.5	2.5	3.0	2.5	2.84	C			○					○			無		中							根元に、コフキサルノコシカケの子実体あり。	●		
406	C	228	常緑	マテバシイ		3.0	45	2.5				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○		○							無		中							片枝樹形である。	●		
407	C	229	常緑	スダジイ		13.0	194	8.0				2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.34	B	○					※					無		小							大きな傷害なく、存在感があり、保存価値が高い。	●		
408	C	230	常緑	スダジイ		10.0	169	8.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.42	B		○				※					有		小							大枝H0.85m～2.05mにかけて、開口空洞あり。 根元に、柵あり。	●		
409	C	231	落葉	クヌギ		16.0	182	10.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B	○					※					無		中							剪定こぶが目立つ。	●		
410	C	232	常緑	スダジイ		10.0	165	7.0				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.75	C		○				※					無		大							被圧が大きく、樹形が崩れている。	●		
411	C	233	常緑	マテバシイ		6.5	50	3.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		中							片枝樹形である。	●		
412	C	234	常緑	マテバシイ		6.0	55	3.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.25	B		○		○							無		中							片枝樹形である。	●		
413	C	235	常緑	スダジイ		9.0	94	7.0				3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	2.84	C		○				※					無		大							被圧が大きく、樹形が崩れている。 幹に、開口空洞あり。	●		
414	C	236	常緑	スダジイ		14.0	148	10.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B	○					※					無		中								●		
415	C	237	落葉	ヒトツバタゴ		3.0	29	2.5				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		中							傾斜木である。 根元に、開口空洞あり。 根元に、電柱あり。	●		
416	C	238	落葉	ヒトツバタゴ		6.0	30	3.0				2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.25	B		○		○							無		中								●		
417	C	239	常緑	マテバシイ		6.0	49	2.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○		○							無		中								●		
418	C	240	常緑	マテバシイ		5.0	61	3.5				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		大							片枝樹形である。	●		
419	C	241	常緑	クスノキ		18.0	338	12.0				2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.84	B	○					※					無		小							樹形・樹勢は良く、存在感があり、保存が望ましい。移植の場合は、樹形を大きく損なう可能性が高いので、詳細調査を要する。	●		
420	C	242	常緑	トウネズミモチ		7.0	99	5.5				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.34	B			○					○			無		小							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
421	C	243	常緑	スダジイ		12.0	202	9.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B		○				※					無		中							打音異常(小)あり。	●		
422	C	244	常緑	マテバシイ		5.0	69	3.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		大							樹木番号243スダジイと、近接している。	●		
423	C	245	針葉	クロマツ		14.0	94	3.5				3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	3.0	2.84	C			○	○							有		中								●		
424	C	246	常緑	マテバシイ		9.0	70	4.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							無		中								●		
425	C	247	常緑	マテバシイ		8.0	62	3.5				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○		○							無		中								●		
426	C	248	常緑	スダジイ		11.0	210	10.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B		○				※					有		小							枯枝が散在する。	●		
427	C	249	落葉	トウカエデ		15.0	145	8.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		大							根元に、樹皮欠損、打音異常(南東側)あり。	●		
428	C	250	落葉	クヌギ		16.0	161	10.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B	○					※					有		中							樹木番号251スダジイと、近接している。	●		
429	C	251	常緑	スダジイ		9.0	155	9.0				2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○				※					有		大							打音異常あり。 大枝(東側)に、剪定痕からの腐朽あり。 樹木番号250クヌギと近接している。	●		
430	C	252	常緑	マテバシイ		8.0	60	3.5				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○				※					無		大							北東側に、入皮、腐朽あり。 根元に、打音異常あり。	●		
431	C	253	常緑	スダジイ		16.0	154	10.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B	○					※					無		中								●		
432	C	254	常緑	スダジイ		10.0	147	9.0				2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.25	B	○					※					無		中							打音異常あり。 大枝(南西側)に、剪定痕からの腐朽あり。	●		
433	C	255	落葉	クヌギ		14.0	97	7.0				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○			※					無		大							北西側に、開口空洞(35×15×20)あり。 電柱に近接している。	●		
434	C	256	常緑	スダジイ		11.0	108	7.0				2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.34	B		○				※					無		大							北西側に、開口空洞(5×3×5)あり。	●		
435	C	257	常緑	マテバシイ		7.0	64	5.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○				※					無		大							樹幹傾斜あり。	●		
436	C	258	常緑	マテバシイ		6.0	57	5.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○				※					無		大							樹幹傾斜あり。	●		

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(13)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名					Cエリア：銀杏並木東												調査日		2018 年 12月25日～2019年1月28 日																			:追加調査項目			
連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
437	C	259	常緑	スダジイ	15.0	170	11.0				2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.34	B	○					※					無		大							樹幹傾斜あり。 大枝(東側)に、腐朽(大)あり。	●		
438	C	260	常緑	スダジイ	9.0	129	4.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		大							樹皮欠損が、数か所あり。 胴吹きが、多数あり。	●		
439	C	261	常緑	スダジイ	5.5	104	4.5				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大							樹幹傾斜(大)あり。	●		
440	C	262	落葉	ケヤキ	22.0	319	16.0				2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B	○					※					有		小							打音異常あり。 中枝(東側)に枯損あり。	●		
441	C	263	常緑	マテバシイ	5.5	60	4.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					有		大							樹幹傾斜あり。 樹木番号264クヌギに近接している。	●		
442	C	264	落葉	クヌギ	13.0	151	8.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中							樹木番号263マテバシイに近接している。	●		
443	C	265	常緑	サカキ	5.0	71	3.5				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○		○							無		大								●		
444	C	266	落葉	ケヤキ	15.0	156	10.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中							大枝の剪定痕に、打音異常あり。	●		
445	C	267	常緑	スダジイ	12.0	156	9.0				2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○				※					無		大							樹幹傾斜(小)あり。 根元に、打音異常(小)あり。 枝に、腐朽が散在する。	●		
446	C	268	落葉	ケヤキ	10.0	62	8.0				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		大								●		
447	C	269	常緑	マテバシイ	5.5	38	4.0				2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.34	B		○		○							無		大								●		
448	C	270	常緑	スダジイ	12.0	139	7.0				2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					無		中							打音異常あり。 北西側に、剪定痕からの腐朽(3×3×23)あり。 大枝下部(西側)に、腐朽あり。	●		
449	C	271	常緑	マテバシイ	7.0	46	4.0				2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○				※					無		大								●		
450	C	272	常緑	マテバシイ	6.0	64	4.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○				※					無		中								●		
451	C	273	落葉	ケヤキ	20.0	328	20.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					有		小							打音異常あり。 電柱2本に近接している。	●		
452	C	274	常緑	マテバシイ	7.0	61	2.5				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		大							樹幹傾斜あり。 根元に、打音異常(小)あり。	●		
453	C	275	常緑	モッコク	7.0	81	3.5				2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					無		大							枝に、剪定痕からの腐朽あり。 大枝に、腐朽あり。 根元に、こぶあり。	●		
454	C	276	常緑	スダジイ	10.0	184	7.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		中							打音異常あり。 西側に、開口空洞(8×7×28)あり。 枝に、剪定痕からの腐朽あり。	●		
455	C	277	常緑	スダジイ	9.0	164	9.0				2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.34	B		○				※					無		中							東側に、樹皮欠損(20×13)あり。	●		
456	C	278	常緑	マテバシイ	5.0	46	4.0				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.51	C		○		○							無		大							片枝樹形であり、樹幹傾斜(東側)あり。 被圧(大)あり。	●		
457	C	279	常緑	マテバシイ	7.0	53	4.0				3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○		○							無		大							片枝樹形であり、樹冠傾斜(東側)あり。	●		
458	C	280	落葉	ケヤキ	9.0	46	7.0				1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.5	1.84	B		○		○							無		大							被圧(大)あり。	●		
459	C	281	常緑	モッコク	5.5	67	3.0				2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.09	B		○		○							無		中							被圧あり。 下枝(西側)に、胴枯症状(120×10)あり。	●		
460	C	282	落葉	ケヤキ	17.0	178	10.0				2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.34	B		○				※					無		中							隣木のケヤキからの、被圧(東側)あり。	●		
461	C	283	落葉	ケヤキ	20.0	274	20.0				2.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.84	B	○					※					無		小							下枝の一部に、胴枯症状あり。 存在感があり、保存価値が高い。	●		
462	C	284	常緑	マテバシイ	9.0	91	5.0				2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A		○		○							無		大							片枝樹形であり、樹冠傾斜(東側)あり。 剪定痕に、子実体(種不明)あり。	●		
463	C	285	常緑	スダジイ	9.0	155	6.0				3.0	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	2.00	B		○				※					無		大							片枝樹形であり、樹冠傾斜(東側)あり。 幹H0.6m～1.5mに、腐朽あり。 幹に、大枝剪定痕からの腐朽あり。	●		
464	C	286	常緑	タブノキ(マテバシイ変更)	7.5	38	2.5				1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.17	A	○					※					無		中							被圧を受けるが、樹形は良い。	●		
465	C	287	常緑	スダジイ	5.5	116	2.5				2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○			無		中							断幹あり。 開口空洞16×10(148)×25/45(芯達)あり。 打音異常(大)あり。	●		
466	C	288	針葉	サワラ	16.0	170	7.0				2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.0	2.17	B		○				※					無		中							隣木のケヤキによる、被圧あり。 下側の大枝が、枯枝剪定により少ない。	●		
467	C	289	常緑	マテバシイ	3.5	44	2.5				4.0	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.59	D			○					○			無		大							幹に、胴枯症状あり。 樹冠上部が枯れており、樹形が崩壊している。 撤去の必要あり。	●		
468	C	290	常緑	クスノキ	15.0	157	10.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.09	B	○					※					有		中							存在感があり、保存価値が高い。 照明灯に近接している。	●		
469	C	291	落葉	ヒトツバタゴ	6.0	45	4.0				2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B		○		○							無		小							樹幹傾斜(西側)があり、電線に接触している。	●		
470	C	292	常緑	ヤブツバキ	5.5	51	2.5				1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○							無		小							樹形が良好である。	●		
471	C	293	針葉	イヌマキ	5.5	62	2.5				3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.67	C		○				※					無		中							樹形が崩壊しはじめている。	●		
472	C	294	常緑	シラカシ	17.0	204	12.0				2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					※					有		小							幹に、胴枯症状があり、開口空洞がある。 存在感があり、保存価値が高い。	●		
473	C	295	常緑	サンゴジュ	3.5	62	2.0				3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	3.0	2.84	C			○					○			有		大							幹の上部に、枯損があり、片枝樹形となっている。 照明灯に近接している。	●		
474	C	296	常緑	サザンカ	4.0	34	2.0				1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.67	A		○		○							有		大							根元に、石組の石が埋もれている。	●		
475	C	297	常緑	シラカシ	14.0	150	10.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		小							下枝が無い。 根元に、石が埋もれている。	●		
476	C	298	常緑	ヤブツバキ	4.5	39	2.0				2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A		○		○							無		大							片枝樹形である。 根元に、樹皮欠損(22×8)あり。	●		
477	C	299	常緑	シラカシ	14.0	134	7.0				2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○				※					有		大							樹幹傾斜(北側)あり。 根元に、ベッコウタケの子実体あり。 幹に、開口空洞が、数か所あり。 建物に近接してる。	●		
478	C	300	常緑	シラカシ	14.0	136	8.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					有		中							片枝樹形である。 閉塞痕に、打音異常(小)あり。 建物に近接している。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(14)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：Cエリア：銀杏並木東　／　調査日：2018 年 12月25日～2019年1月28 日　／　：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名		規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	関連項目 樹高1.3/1.5	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・開接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
												1～4評価							ABCD	該当に○			※難の内、保存樹木のため詳細調査対象外 該当に○					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
479	C	301	常緑	スダジイ		9.0	118	7.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※						有		大							幹に、剪定痕からの腐朽あり。 大枝付根に、腐朽と、打音異常(小)あり。 根元に、石が埋もれている。	●		
480	C	302	常緑	キンモクセイ		4.5	31	1.5				2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.59	A		○		○								無		中							やや片枝樹形である。	●		
481	C	303	常緑	トウネズミモチ		5.5	110	3.0				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○				無		中							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
482	C	304	常緑	マテバシイ		8.5	71	4.0				2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○				※						有		中							構造物と、電線に、近接している。	●		
483	C	305	落葉	ケヤキ		20.0	317	20.0				2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B	○					※						無		小							大枝に、剪定痕からの腐朽あり。 巻き根あり。 存在感があり、保存価値が高い。	●		
484	C	306	落葉	ケヤキ		18.0	196	11.0				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○				※						無		中							片枝樹形であり、樹幹傾斜(西側)あり。 大枝に、樹皮枯死がり。 大枝に、剪定痕からの腐朽あり。	●		
485	C	307	常緑	スダジイ		13.0	211	10.0				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○				※						無		中							片枝樹形である。 根元に、ツリバリサルノコシカケの子実体が、多数あり。 H1.0m～1.5mに、打音異常(中)あり。 大枝に、剪定痕からの腐朽あり。	●		
486	C	308	針葉	サワラ		14.0	121	6.0				3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○				無		中							樹幹傾斜(大)(東側)あり。 開口空洞 40×6(152)×22/40(芯達)、打音異常(大)あり。 支柱設置、もしくは撤去検討の必要性あり。	●		
487	C	309	常緑	スダジイ		12.0	202	10.0				2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.09	B		○				※						無		小							大枝に、剪定痕からの腐朽あり。 打音異常(小)あり。 電線に接触している。	●		
488	C	310	常緑	シラカシ		17.0	152	10.0				2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	2.09	B		○				※						無		小							片枝樹形である。 幹に、樹皮欠損・腐朽(16×11)あり。	●		
489	C	311	常緑	マテバシイ		6.0	79	4.0				3.0	2.5	4.0	3.0	2.5	2.5	2.92	C			○					○				無		中							断幹により、樹冠上部の樹形に乱れあり。 幹の上部から中部にかけて、胴枯症状と、腐朽あり。	●		
490	C	312	常緑	トウネズミモチ		4.5	27	2.0				2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.75	A			○					○				無		小							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
491	C	313	常緑	クスノキ		15.0	221	10.0				2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.34	B		○				※						無		小							幹に、打音異常(小)あり。	●		
492	C	314	常緑	スダジイ		15.0	171	8.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※						無		中							樹幹傾斜(小)(西側)あり。 下枝に、樹皮欠損・腐朽あり。	●		
493	C	315	常緑	ネズミモチ(トウネズミモチ変更)		4.0	46	2.5				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○		○								無		小							葉量が少なく、樹勢が弱い。	●		
494	C	316	常緑	ネズミモチ(トウネズミモチ変更)		4.0	33	2.0				2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.25	B		○		○								無		小								●		
495	C	317	常緑	ネズミモチ(トウネズミモチ変更)		4.5	32	2.5				2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.84	B		○		○								無		小							巻き根あり。 露出根あり。	●		
496	C	318	落葉	イロハモミジ		3.5	29	3.0				2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.67	A	○			○									無		中							電柱に近接している。	●		
498	C	320	落葉	サクラ		3.0	11	2.0				1.0	1.0	1.0	1.5	1.0	1.5	1.17	A	○			○									無		無							新植である。	●		
499	C	321	針葉	クロマツ		14.0	111	5.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※						無		無							樹形が崩壊している。 大枝に、枝折れ痕あり。	●		
500	C	322	常緑	タイサンボク		10.0	77	5.0				2.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.92	B		○		○								無		無							根元に、子実体(種不明、背着生)あり。 巻き根あり。	●		
501	C	323	落葉	サクラ		4.0	34	3.5				1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.42	A	○			○									無		無							支柱に、子実体あり。柱が腐朽しており撤去の必要性あり。	●		
502	C	324	落葉	サクラ		3.5	13	2.0				2.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.42	A	○			○									無		無							新植である。	●		
503	C	325	針葉	クロマツ		12.0	90	5.0				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※						無		無							枝折れ痕に、腐朽あり。	●		
504	C	326	落葉	サクラ		6.0	262	6.0				3.5	3.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.92	C			○					○				無		無							幹に、カワウソタケの子実体が、多数あり。 根元にコフキサルノコシカケの子実体あり。 H1.2m～1.5mに、打音異常(大)と打音異常(中)あり。	●		
505	C	327	落葉	サクラ		4.0	13	1.5				1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.42	A	○			○									無		無							新植である。	●		
506	C	328	落葉	イロハモミジ		5.0	67	6.0				2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.67	C			○					○				無		無							幹に、スエヒロタケとヒイロタケの子実体が、多数あり。 枝に、樹皮欠損と、枯死あり。	●		
507	C	329	常緑	サカキ(モチノ		5.5	56	4.5				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○									無		小								●		
508	C	330	落葉	サクラ		5.5	265	6.0				3.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.84	C			○					○				有		小							根元に、コフキサルノコシカケの子実体あり。 断幹部に、腐朽あり。 大枝の枝折れ痕に、腐朽あり。 フェンスに近接している。	●		
509	C	331	落葉	サクラ		3.5	11	1.5				1.0	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.25	A	○			○									無		中							新植である。 樹木番号329サカキや樹木番号328イロハモミジからの、被圧あり。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(15)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：野球場三塁側　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月21日～2022年4月21日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
1	Y01-001		トウカエデ	13	234	9					2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.84	B		○						○			有		小							露出根が、多数あり。 土留め壁が、根元にあり。 露出根が、土留め壁側で、切断されている。	●		
2	Y01-002		シイノキ	12	156	8					2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	1.5	2.09	B		○				※					有		小							幹H1.4mに、腐朽(中)あり。 打音異常あり。 縁石が、根元にあり。	●		
4	Y01-004		ヤブツバキ	4.0	77	3		1.13	0.36	1.44	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.09	B			○				○		高	高	有	×	中	–	–	–	–	–	–	隣木(Y01-005ケヤキ)に近接し、根鉢径が重複する(離距離0.5m)。 幹芯から駐車場縁石までの離隔距離0.8m。根元(道路側)に樹皮枯死(45cm×40(113)cm)あり。適正根鉢確保困難。			●
5	Y01-005		ケヤキ	19.0	261	10		3.96	1.26	5.04	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B			○				○		超	超	有	×	無	–	–	–	–	–	–	隣木(Y01-004ヤブツバキ)に近接、根鉢径が重複する(離隔距離0.5m)。幹芯から駐車場縁石までの離隔距離1.2m、道路までの離距離2.1m。適正根鉢確保困難。			●
6	Y01-006		シイノキ	11.0	205	9		3.85	1.23	4.9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B			○				○		高	超	有	×	無	–	–	–	–	–	–	幹芯から桝までの離距離0.8m、駐車場縁石までの離隔距離1.2m、道路までの離距離1.8m。樹幹傾斜あり不適。根鉢確保も困難。			●
7	Y01-007		ヒトツバタゴ	10	3本立	7	89,67,38				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							無		中							樹木番号Y01-006シイノキからの、被圧あり。		●	
8	Y01-008		ヒトツバタゴ	10	77	6					2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.92	B	○			○							有		小							両脇の樹木からの、被圧あり。 看板基礎が、根元にあり。	●		
9	Y01-009		マテバシイ	8	2本立	6	101,93				2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.67	A		○				※					有		小							枝に、多芽症状あり。 道路側へ、やや片枝樹形である。 土留め壁が、根元にあり。	●		
10	Y01-010		ヒトツバタゴ	10	157	7					1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.75	A	○			○							無		小							幹H1.4mに、スタブカットあり。 樹形が良く、保存価値は高い。	●		
11	Y01-011		マテバシイ	8	131	4					2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	2.5	2.50	B			○					○			有		小							根元・幹H0.1m～4.0mに、開口空洞(大)(芯達)あり。 枝に、多芽症状が、多数あり。 土留め壁が、根元にあり。	●		
12	Y01-012		タイサンボク	10	107	5					1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○							無		小							記念樹の立看板あり。	●		
13	Y01-013		シイノキ	8	202	8					2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.84	B	○					※					有		小							道路側へ、片枝樹形である。 土留め壁が、根元にあり。	●		
15	Y01-015		マテバシイ	7	2本立	6	61,60				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		中							双幹の一方の、樹冠上部に、欠損あり。 幹に、腐朽(進行中)あり。 マンホールが、根元にある。	●		
16	Y01-016		マテバシイ	7	73	6					2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○		○							無		中							枝に、多芽症状あり。 道路側へ、片枝樹形である。	●		
17	Y01-017		マテバシイ	7	2本立	6	80,41				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		中								●		
18	Y01-018		シイノキ	7	205	10					1.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.84	B	○					※					有		小							大枝H0.9m～1.8mに、開口空洞(中)(芯達)あり。 土留め壁が、根元にあり。	●		
19	Y01-019		ケヤキ	15	269	11					2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					有		無							大枝H6.0mに、腐朽(大)あり。 コンクリート基礎が、根元にあり。	●		
20	Y01-020		ケヤキ	18.0	211	8		2.74	0.87	3.49	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		超	超	有	×	無	–	–	–	–	–	–	幹芯から駐車場縁石までの離隔距離1.3m、道路までの離距離1.9m。強剪定萌芽樹で不適。 適正根鉢確保も困難。			●
21	Y01-021		ヒトツバタゴ	8	80	6					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							無		中							樹木番号Y01-023シイノキからの、被圧あり。 片枝樹形となっている。	●		
22	Y01-022		モチノキ	8	118	4					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							有		小							露出根あり。 縁石が、根元にあり。	●		
23	Y01-023		シイノキ	7	165	6					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		中							樹木番号Y01-024シラカシからの、被圧あり。 道路側へ、片枝樹形である。 土留め壁が、根元にあり。	●		
24	Y01-024		シラカシ	16	155	8					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		小							土留め壁が、根元にあり。	●		
25	Y01-025		シイノキ	14	165	6					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.09	B		○				※					有		中							幹H2.3mに、開口空洞(中)、打音異常あり。 土留め壁が、根元にあり。	●		
26	Y01-026		シラカシ	9	55	3					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		中								●		
27	Y01-027		マテバシイ	8	64	4					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		中							枯枝φ20cm,L=0.7mあり。	●		
28	Y01-028		マテバシイ	3.5	22	2					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○		○							無		中							多芽症状あり。	●		
30	Y01-030		ケヤキ	20	216	10					1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.84	B	○					※					有		小							大枝に、樹皮欠損・腐朽(中)が、2箇所あり。 土留め壁が、根元にあり。	●		
31	Y01-031		イチョウ	20	164	6					1.5	1.5	2.0	2.0	1.0	1.5	1.59	A	○					※					有		小							コンクリート基礎が、根元にあり。	●		
32	Y01-032		シイノキ	14	239	8					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					有		小							土留め壁が、根元にあり。	●		
33	Y01-033		シイノキ	5	81	4					2.5	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.34	B		○		○							無		中							上部の大枝が、欠損して失われており、樹形が崩れている。	●		
34	Y01-034		ケヤキ	20	288	12					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					※					有		小							根元・幹H0.0m～2.5mに、樹皮欠損(中)が、2箇所あり。 コンクリート基礎が、根元にあり。	●		
35	Y01-035		イヌノキ	8	60	4					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		小								●		
36	Y01-036		マテバシイ	5	2本立	4	58,79				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○		○							無		小							大枝H2.5mに、開口空洞(中)あり。 多芽症状あり。	●		
37	Y01-037		ケヤキ	8	143	6					2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○		○							有		中							幹H0.4mに、開口空洞(小)、巻込み(良)、あり。 電柱が、根元にあり。	●		
38	Y01-038		ユズリハ	3.5	12	2					2.0	1.5	1.0	2.0	1.5	2.0	1.67	A	○			○							有		無							若木である。 記念樹の立看板あり。 土留め壁が、根元にあり。		●	

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(16)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：野球場三塁側　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月21日～2022年4月21日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格				活力度							保存の必要性			移植				調査項目												備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
				樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	樹幅の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高1.3/1.5	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均				
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※:難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大 高	超大 高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無						該当に●：変更樹木		
41	Y01-041		シイノキ	8.0	182	6		2.01	0.64	2.56	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	大	有	×	小	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.4m。適正根鉢確保困難。 樹形に乱れあり(樹冠に道路側への大きな偏り)。 幹H3mにコフキサルノコシカケあり。幹H4.5mに開口空洞あり。			●
42	Y01-042		ケヤキ	14.0	252	8		2.89	0.92	3.68	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		大	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離1.7m。 大枝に剪定痕が多数あり。 強剪定萌芽樹で不適。			●
43	Y01-043		シイノキ	10.0	204	6		2.11	0.67	2.69	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	大	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から土留めまでの離隔距離1.4m。 樹形に乱れあり不適(樹冠に道路側への大きな偏り、樹幹傾斜)。 幹H3mにコフキサルノコシカケあり。幹H4.5mに開口空洞あり。			●
44	Y01-044		シイノキ	10	250	5					2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○					○			有		小							根元・幹H0.0m～0.7mに、腐朽(大)、鋼棒貫入異常、打音異常あり。 枯枝 φ27cm,L=4.5mあり。 土留め壁が、根元にあり。	●		
45	Y01-045		イヌツゲ	4.5	2本立	3	33,18				2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○		○							無		中							幹H1.5mに、開口空洞(小)、巻込みあり。	●		
47	Y01-047		シイノキ	10	96	3					2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		大							根元に、開口空洞(中)、打音異常あり。 片枝樹形である。 土留め壁が、根元にあり。	●		
48	Y01-048		シイノキ	10	172	6					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					有		小							大枝に、樹皮欠損(中)が、多数あり。 コンクリート基礎が、根元にあり。	●		
49	Y01-049		シイノキ	10.0	169	5		2.2	0.7	2.8	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B			○				○		高	大	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から看板基礎までの離隔距離0.9m、歩車道縁石までの離隔距離0.9m。適正根鉢確保困難。			●
50	Y01-050		イチョウ	12	392	4					2.5	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.34	B		○						○			有		無							幹H0.7m～1.8mに、開口空洞(大)が、3箇所、打音異常あり。 縁石が、根元にあり。根鉢の確保が難しい。			●
51	Y01-051		ケヤキ	16	266	6					2.5.	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.20	B		○						○			有		無							露出根あり。 警備室が、近接している。根鉢の確保が難しい。	●		
52	Y01-052		シイノキ	14	130	6					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		小							根元・幹に、打音異常H0.0m～0.8mあり。	●		
53	Y01-053		イチョウ	16.0	275	6		3.19	1.02	4.06	2.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.25	B		○				○			超	超	有	○	無	－	－	12	16	15	14.3	根鉢が大きいが場内移植なら可能である。 樹冠を構成する大枝の剪定状態についても良好である。			●
54	Y01-054		カイヅカイブキ	3	27	0.8					3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		中							樹冠が小さい。 フェンスが、近接している。 土留め壁が、根元にあり。			●
55	Y01-055		カイヅカイブキ	3.0	18	0.8		0.24	0.08	0.31	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
56	Y01-056		カイヅカイブキ	3.0	23	0.8		0.27	0.09	0.34	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
57	Y01-057		カイヅカイブキ	3.0	25	0.8		0.3	0.1	0.38	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
58	Y01-058		カイヅカイブキ	3.0	24	0.8		0.24	0.08	0.31	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
59	Y01-059		カイヅカイブキ	3.0	22	0.8		0.27	0.09	0.34	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
60	Y01-060		カイヅカイブキ	3	20	0.8					3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		中							樹形が悪く、根張りが弱い。 土留め壁が、根元にあり。			●
61	Y01-061		カイヅカイブキ	3	21	0.8					3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		中							樹形が悪く、根張りが弱い。 土留め壁が、根元にあり。			●
62	Y01-062		カイヅカイブキ	3.0	22	0.8		0.21	0.07	0.27	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
63	Y01-063		カイヅカイブキ	3.0	24	0.8		0.27	0.09	0.34	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
64	Y01-064		カイヅカイブキ	3.0	20	0.8		0.27	0.09	0.34	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
65	Y01-065		カイヅカイブキ	3.0	26	0.8		0.24	0.08	0.31	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
66	Y01-066		カイヅカイブキ	3.0	24	0.8		0.3	0.1	0.38	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
67	Y01-067		カイヅカイブキ	3.0	30	0.8		0.21	0.07	0.27	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
68	Y01-068		カイヅカイブキ	3.0	26	0.8		0.3	0.1	0.38	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
69	Y01-069		カイヅカイブキ	3.0	26	0.8		0.24	0.08	0.31	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
70	Y01-070		カイヅカイブキ	3.0	28	0.8		0.33	0.11	0.42	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●
71	Y01-071		カイヅカイブキ	3.0	29	0.8		0.27	0.09	0.34	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から万年塀までの離隔距離0.6m。 樹形に乱れあり、樹形不良(万年塀側に枝葉なし、樹幹に傾き)。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(17)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名	野球場三塁側	調査日	2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月21日～2022年4月21日※青字記載：追加詳細調査対象樹木	:追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格							活力度								保存の必要性			移植				調査項目															備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
				樹高（m）	幹周（cm）	葉張（m）	株立ち幹周	根元周径（m）	根元径（D）	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難			不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度			土壌硬度3回平均									
																							A	B	C																			
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※（）の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満				該当に● ●：変更樹木		
72	Y01-072		ケヤキ	20.0	280	8		3.22	1.03	4.1	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○					○		超	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	大枝H7mに開口空洞あり。幹芯から万年塀までの離隔距離1.4m、土留めまでの離隔距離2.3m。大きな柱に近接。			●
83	Y01-083		ソロ	17.0	145	9		2.11	0.67	2.69	1.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○					○		超	大	有	×	無	－	－	－	－	－	－	根元・幹に開口空洞あり。幹芯から万年塀までの離隔距離0.8m、土留めまでの離隔距離2.2m。適正根鉢確保困難。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(18)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：野球場一塁側　　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月20日～2022年4月21日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　　：追加調査項目

通番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4.5D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高15/18	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象省	剪定・関係者	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			※当該の内、保存樹木のため詳細調査対象外					細大高	細大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無							該当に● ●：変更樹木		
1	Y02-001		シイノキ	15	232	10					2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.09	B		○				※					有		小							根元・幹に、打音異常 H0.0m～2.0mあり。 コンクリートブロックの植栽帯内に、位置する。	●		
2	Y02-002		イスノキ	6	91	4					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					有		小							枯枝が、数か所あり。 コンクリートブロックの植栽帯内に、位置する。	●		
3	Y02-003		カイヅカイブキ	3	26	1					4.0	4.0	4.0	3.5	4.0	4.0	3.92	D			○			※					有		大							樹形・樹勢が、悪い。 電源盤に、近接している。 コンクリートブロックの植栽帯内に、位置する。	●		
4	Y02-004		カイヅカイブキ	3	30	1					3.5	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	3.09	C			○			※					有		大							コンクリートブロックの植栽帯内に、位置する。	●		
6	Y02-006		カイヅカイブキ	3	29	1					3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○			※					有		中							電源盤に、近接している。 コンクリートブロックの植栽帯内に、位置する。	●		
7	Y02-007		カイヅカイブキ	3	33	1					3.5	3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.92	C			○			※					有		中								●		
8	Y02-008		カイヅカイブキ	3	30	1					3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○			※					有		中								●		
9	Y02-009		カイヅカイブキ	3	29	1					3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.92	C			○			※					有		中								●		
10	Y02-010		カイヅカイブキ	3	30	1					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中							電源盤に、近接している。 樹木番号Y02-11ケヤキに、近接している。	●		
11	Y02-011		ケヤキ	20	249	10					2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.34	B	○					※					有		小							ぶつ切り剪定、スタブカットが散見され、腐朽あり。 高さH1.5mで、3本に分岐している。	●		
13	Y02-013		カイヅカイブキ	3	28	1					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中							照明に、近接している。	●		
14	Y02-014		カイヅカイブキ	3	30	1					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中								●		
15	Y02-015		カイヅカイブキ	3	31	1					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中								●		
16	Y02-016		カイヅカイブキ	3	29	1					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中								●		
17	Y02-017		カイヅカイブキ	3	31	1					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中								●		
18	Y02-018		カイヅカイブキ	3	31	1					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		中								●		
19	Y02-019		カイヅカイブキ	3	31	1.5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中								●		
20	Y02-020		カイヅカイブキ	3	30	1					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中								●		
21	Y02-021		カイヅカイブキ	3	35	1.5					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					有		中								●		
22	Y02-022		カイヅカイブキ	3	28	1					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中							樹木番号Y02-23ケヤキに、近接している。	●		
23	Y02-023		ケヤキ	18	214	9					2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B	○					※					有		小							断幹されており、切断部に腐朽あり。 ぶつ切り剪定されている。 高さH1.0mで、2分岐しており、入り皮状態にある。 幹H0.5～3.0mに、打音異常あり。	●		
24	Y02-024		ケヤキ	9.0	217	9		2.4	0.76	3.06	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	大	有	×	無	—	—	—	—	—	—	幹芯から看板基礎までの離隔距離0.9m、歩車道縁石までの離距離0.9m。擁壁脇で適正な根鉢確保困難。 強剪定萌芽樹で不適。			●
28	Y02-028		カイヅカイブキ	3.0	44	1.5		0.45	0.14	0.57	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
29	Y02-029		カイヅカイブキ	3.0	39	1.5		0.39	0.12	0.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
30	Y02-030		カイヅカイブキ	3.0	38	1.5		0.43	0.14	0.55	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
31	Y02-031		カイヅカイブキ	3.0	35	1.5		0.54	0.17	0.69	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
32	Y02-032		カイヅカイブキ	3.0	31	1.5		0.45	0.14	0.57	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
33	Y02-033		カイヅカイブキ	3.0	32	1.5		0.45	0.14	0.57	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
34	Y02-034		カイヅカイブキ	3.0	32	1.5		0.48	0.15	0.61	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
35	Y02-035		カイヅカイブキ	3.0	34	1.5		0.39	0.12	0.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
36	Y02-036		カイヅカイブキ	3.0	31	1.5		0.42	0.13	0.54	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
37	Y02-037		カイヅカイブキ	3.0	28	1		0.39	0.12	0.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
38	Y02-038		カイヅカイブキ	3.0	30	1		0.42	0.13	0.54	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
39	Y02-039		カイヅカイブキ	3.0	29	1		0.36	0.11	0.46	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
40	Y02-040		カイヅカイブキ	3.0	29	1		0.39	0.12	0.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
41	Y02-041		カイヅカイブキ	3.0	28	1		0.39	0.12	0.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
42	Y02-042		カイヅカイブキ	3.0	27	1		0.39	0.12	0.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
43	Y02-043		カイヅカイブキ	3.0	27	1		0.42	0.13	0.54	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
44	Y02-044		カイヅカイブキ	3.0	28	1		0.39	0.12	0.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
45	Y02-045		カイヅカイブキ	3.0	30	1		0.42	0.13	0.54	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
46	Y02-046		カイヅカイブキ	3.0	27	1		0.39	0.12	0.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
47	Y02-047		カイヅカイブキ	3.0	29	1		0.39	0.12	0.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
48	Y02-048		カイヅカイブキ	3.0	30	1.5		0.45	0.14	0.57	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
49	Y02-049		カイヅカイブキ	3.0	28	1.5		0.42	0.13	0.54	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
50	Y02-050		カイヅカイブキ	3.0	35	1.5		0.45	0.14	0.57	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	列植で単木としての樹形・価値低い。			●
51	Y02-051		プラタナス	14.0	183	5		2.34	0.75	2.98	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○		○				大	大	有	○	無	無	無	9	7	2	6.0	幹芯からマンホールまでの離隔距離0.9mと1.5m、土留めまでの離距離2.6m。 強剪定だがプラタナスらしさ有り。樹形維持可能。		●	
52	Y02-052		プラタナス	12.0	123	4		1.42	0.45	1.81	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○		○				高	高	有	○	無	無	無	6	7	6	6.3	幹芯からマンホールまでの離隔距離1.3m、フェンスまでの離距離1.3m。 強剪定だがプラタナスらしさ有り。樹形維持可能。		●	
53	Y02-053		シイノキ	12.0	172	10		1.95	0.62	2.48	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.34	B			○				○		高	大			無	—	—	—	—	—	—	根元・幹に、打音異常 H0.0m～2.5mあり。幹(北側)H2.5mに、開口空洞 12×5×30/45(恣意)あり。 幹に、背着生キノコあり。不適。 変電設備のマンホールに、近接している。 樹形に乱れあり(南側の枝が徒長)。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(19)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：野球場ー最側　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月20日～2022年4月21日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	樹幅の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高15/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象箇	剪定・開放箇	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			※：指の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無							該当に●：変更樹木		
54	Y02-054		マテバシイ	7.0	74	5		0.89	0.28	1.13	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B			○				○		高	高			無	－	－	－	－	－	－	樹幹傾斜あり。黄葉が目立つ。樹形不良。			●
55	Y02-055		シイノキ	8.0	59	4		0.68	0.22	0.87	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○		高	高				－	－	－	－	－	－	下枝が、高い位置にある。樹形不良。			●
56	Y02-056		マテバシイ	8.0	114	5		1.26	0.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.5	3.34	D			○				○		高	超				－	－	－	－	－	－	幹(西側)H1.0mに、開口空洞 90×15×20/25(芯達)あり。根元・幹に、打音異常 H0.0m～2.5mあり。損傷木で不適。			●
57	Y02-057		ケヤキ	10.0	213	8		2.42	0.77	3.08	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.34	B			○				○		高	大				－	－	6	3	8	5.7	幹芯から貯水槽までの離隔距離1.2m。強剪定萌芽樹で不適。樹形維持困難。			●
58	Y02-058		マテバシイ	10.0	140	8		1.86	0.59	2.37	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高				－	－	－	－	－	－	樹形に乱れあり(樹幹に傾き)、移植樹として不適である。 幹芯からコンクリート桝までの離隔距離1.4m。			●
61	Y02-061		ムクノキ	13.0	154	8		2.14	0.68	2.73	3.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.34	B			○				○		大	大			大	－	－	－	－	－	－	隣木(ケヤキ)からの被圧(大)あり、樹幹傾斜あり。単木として樹形不良。			●
62	Y02-062		ケヤキ	14.0	224	15		2.45	0.78	3.12	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				○		大	大	無	○		無	無	8	2	8	6.0	樹形は良好である。葉張り大きく場内であれば樹形維持可能。 幹芯からコンクリート桝までの離隔距離1.8m、擁壁までの離隔距離3.0m。		●	
76	Y02-076		ヒトツバタゴ	5	64	4					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					有		中							ぶつ切り剪定が、複数あり。 斜面に、位置する。 倉庫に、近接している。	●		
86	Y02-086		マテバシイ	3.5	185	4					3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	3.25	C			○					○			有		大							大枝・幹に、腐朽(大)あり。 大枝に、開口空洞(大)あり。 テニスコートに、近接している。	●		
87	Y02-087		マテバシイ	6	128	6					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		小							枝に、多芽症状あり。 ひこばえが、多数あり。 斜面に、位置する。 テニスコートに、近接している。	●		
88	Y02-088		ユズリハ	5	2本立	3	50,91				3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.42	D			○					○			有		中							根元に、開口空洞 10×25×33/40(芯達)あり。 幹に、樹皮枯死(大)あり。 根元・幹に、打音異常 H0.0m～2.5mあり。 揺らぎ(小)あり。 テニスコートに、近接している。	●		
89	Y02-089		サンゴジュ	4	2本立	1.5	29,15				3.5	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	3.17	C			○					○			無		大							斜面に、位置する。 テニスコートに、近接している。	●		
90	Y02-090		ユズリハ	5	73	2					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○			※					有		大							根元・幹に、打音異常(小) H0.0m～2.5mあり。 ぶつ切り剪定が、多数あり。 斜面に、位置する。	●		
91	Y02-091		サンゴジュ	3	20	1.5					3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D			○			※					有		大							テニスコートに、近接している。	●		
92	Y02-092		ユズリハ	5	76	3					3.0	3.0	2.5	2.5	3.5	3.0	2.92	C			○					○			有		大							根元・幹に、打音異常(小) H0.0m～1.0mあり。 幹H1.5mに、開口空洞あり。 フェンスと、テニスコートに、近接している。	●		
93	Y02-093		ユズリハ	5	2本立	4	64,75				2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.67	C			○					○			有		大							幹H0.5m～1.2mに、樹皮枯死あり。 根元・幹に、打音異常(中) H0.0～2.5mあり。 巻き根あり。	●		
94	Y02-094		ユズリハ	5	2本立	3	72,55				2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.42	B		○				※					有		大							大枝に、腐朽あり。 根元・幹に、打音異常(小) H0.0～2.5mあり。 巻き根あり。	●		
95	Y02-095		ツバキ	3.5	2本立	2.5	13,20	0.24 0.19	－	－	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	超				－	－	－	－	－	－	Y02-095,Y02-096,Y02-097は群植されており、単木では樹形不良。			●
96	Y02-096		ツバキ	3.5	3本立	2.5	20,24,15	0.42	0.13	0.54	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高				－	－	－	－	－	－	Y02-095,Y02-096,Y02-097は群植されており、単木では樹形不良。			●
97	Y02-097		ツバキ	3.5	3本立	2.5	23,18,27	0.32 0.27	－	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.17	B			○				○		高	超				－	－	－	－	－	－	Y02-095,Y02-096,Y02-097は群植されており、単木では樹形不良。			●
98	Y02-098		ツバキ	3.5	4本立	2.5	25,12,23,16				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		中									●	
99	Y02-099		ツバキ	3.5	2本立	2.5	17,12				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		大									●	
100	Y02-100		ウバメガシ	3.5	26	1					2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.42	B			○					○			無		大							周辺木と、近接している。			●
101	Y02-101		ウバメガシ	3.5	2本立	3	19,17				3.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○			無		大							幹に、曲がりあり。 周辺木と、近接している。			●
102	Y02-102		ウバメガシ	3.5	23	1					3.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○			無		大							周辺木と、近接している。			●
103	Y02-103		ヒマラヤシーダー	20.0	297	9		3.36	1.07	4.28	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○		超	超	有	×		－	－	－	－	－	－	駐車場の狭小な植桝(0.6x0.6m)にある。適正根鉢確保困難。			●
104	Y02-104		プラタナス	20.0	208	7		2.5	0.8	3.18	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.34	B		○			○				超	大	有	○		無	無	4	7	4	5.0	移植に向けた縮小剪定(樹高を1～2m低下)によりチャレンジ移植は可能。 また根元の土留めを壊すことにより根鉢作成も可能。		●	
105	Y02-105		フウ	4	62	3					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		大							高さH2.1mの梢端切除部に、開口空洞あり。 コンクリートブロックに囲まれた植栽帯内に、位置する。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(20)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：野球場一塁側　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月20日～2022年4月21日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
106	Y02-106		マンシュウイタヤカエデ	9.0	2本立	8	143,133	2.07	0.66	2.64	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○			○				高	大	有	○	無	無	無	8	12	13	11.0	幹H3mに、樹皮欠損(20cm×12cm、巻き込み中)あり。 幹芯からマンホールまでの離隔距離1.2m。樹幹傾斜あるが、太い双幹樹であり個性的で珍しい。擁壁壊し根鉢確保可能。		●	
107	Y02-107		ケヤキ	18.0	206	10		2.35	0.75	2.99	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		超	大	有	×		–	–	–	–	–	–	ブロック、舗装近接。 適正根鉢確保困難。			●
108	Y02-108		モッコク	3.5	3本立	2	42,34,30	0.93	0.3	1.18	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高				–	–	–	–	–	–	根元が駐車場土留めと接触、アスファルト押し上げあり。 移植樹として不適である。			●
109	Y02-109		ヒトツバタゴ	5.0	32	3		0.4	0.13	0.51	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○				○		高	高				–	–	–	–	–	–	樹形に乱れあり、移植樹として不適である。			●
110	Y02-110		ヒトツバタゴ	5.0	29	2		0.36	0.11	0.46	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○				○		高	高				–	–	–	–	–	–	樹形に乱れあり、移植樹として不適である。			●
111	Y02-111		ヒトツバタゴ	6.0	60	2		0.71	0.23	0.9	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○			○				高	高	無	○	無	無	無	11	2	5	6.0	樹形良好、維持可能。		●	
112	Y02-112		クロマツ	10.0	93	3		1.19	0.38	1.52	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B			○				○		高	高				–	–	–	–	–	–	樹形に乱れあり(H10mまで下枝なし)、移植樹として不適である。			●
113	Y02-113		コーヤマキ	6.5	54	3					3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D			○					○			有		大							双幹の一方が、断幹されている。 幹H3.0mに樹皮欠損100×10あり。 幹に樹皮欠損多数あり。 幹全体におよぶ腐朽が大きく、下枝が高く、枝葉量が少ない。			●
114	Y02-114		メタセコイア	15.0	253	10		3.55	1.13	4.52	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		超	超	有	×		–	–	–	–	–	–	舗装に囲まれ、適正根鉢確保困難。			●
115	Y02-115		マテバシイ	10.0	90	5		1.06	0.34	1.35	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高				–	–	–	–	–	–	樹形に乱れあり(樹幹傾斜)、移植樹として不適である。			●
116	Y02-116		フウ	14	139	4					2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B		○				※					有		大							幹H1.2mに、断幹痕からの開口空洞 20×12×20あり。 深植え状態にある。 LPガス警報器に、近接している。	●		
117	Y02-117		カラタネオガタマ（モチノキ変更）	3.0	2本立	1	15,20	0.32	0.1	0.41	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.25	B			○				○		高	高	無	○		–	–	–	–	–	–	代替え樹あり。			●
118	Y02-118		カラタネオガタマ（モチノキ変更）	3.0	2本立	1.5	13,21	1.85	0.59	2.36	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.25	B			○				○		高	高	無			–	–	–	–	–	–	代替え樹あり。			●
119	Y02-119		ヒマラヤシーダー	20.0	134	8		1.14	0.36	1.45	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.09	B	○				○				超	高	有	○	無	無	無	17	11	17	15.0	隣木(Y02-120モチノキ)と根鉢が重複する(離隔距離(芯々)1.6m)。モチノキを移植しない場合は根鉢が確保できる。 幹芯からフェンスまでの離隔距離1.15m、LPガスボンベ置場までの離隔距離1.3m。 樹高に対して幹が細く、剪定状態も良いので、移植に向けた剪定で、高さを6m下げることでチャレンジ移植は可能である。		●	
120	Y02-120		モチノキ	15.0	2本立	4	75,47	1.14	0.36	1.45	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		超	高	有	×		–	–	–	–	–	–	樹形に乱れ(樹幹傾斜、隣木Y02-119ヒマラヤシーダーからの被圧)あり。隣木(Y02-119ヒマラヤシーダー)との離隔距離(芯々)1.6m。ヒマラヤと競合根鉢確保困難。			●
121	Y02-121		カラタネオガタマ（モチノキ変更）	3	2本立	1.5	16,19				2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B		○				※					無		中							葉に、吸汁害あり。	●		
122	Y02-122		フウ	5	120	3	18,32				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		大							断幹されている。	●		
123	Y02-123		プラタナス	20	259	6					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○				※					無		中							カミキリムシの産卵痕が、多数あり。	●		
124	Y02-124		クスノキ	15	178	6					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中							幹に、打音異常(小) H0.0m～2.5mあり。	●		
125	Y02-125		フウ	13	115	5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		大							深植え状態にある。	●		
126	Y02-126		カラタネオガタマ（モチノキ変更）	3		2					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.92	C			○					○			無		大							幹(双幹)に、樹皮枯死(大)あり。 葉に、吸汁害あり。	●		
127	Y02-127		カラタネオガタマ（モチノキ変更）	3.5	2本立	2	25,12				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		中							葉に、吸汁害あり。 梢端切除されている。	●		
128	Y02-128		カラタネオガタマ（モチノキ変更）	3.5	3本立	2	30,18,8				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							有		中							葉に、吸汁害あり。 梢端切除されている。 フェンスが、近接している。	●		
129	Y02-129		カラタネオガタマ（モチノキ変更）	3.5	22	2					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		中								●		
130	Y02-130		ソメイヨシノ	13	215	10					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					有		中							幹(南側)H1.0mに、開口空洞 25×13×5あり。 根元・幹に、打音異常(小) H0.0～1.0mあり。 深植え状態にある。 フェンスが、近接している。	●		
131	Y02-131		シイノキ	14	187	6					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					無		中							幹H0.6mに、開口空洞 65×20×10あり。 根元・幹に、打音異常あり。 ひこばえが、多数あり。	●		
132	Y02-132		イヌツゲ	4	2本立	3	25,16				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		中							枝抜け痕が、数か所あり。	●		
133	Y02-133		ソメイヨシノ	13	154	10					2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B		○				※					有		中							幹(南側)H1.0mに、コフキサルノコシカケの子実体あり。	●		
134	Y02-134		マテバシイ	4.5	23	3					2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B		○				※					無		大							梢端切除されている。	●		
135	Y02-135		ツバキ	3.5	56	3					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					有		中							ひこばえが、多数あり。	●		
136	Y02-136		サンゴジュ	3	24	1					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		大							梢端切除されている。	●		
137	Y02-137		サンゴジュ	3	17	1					3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.25	C			○					○			無		大							梢端切除されている。	●		
139	Y02-139		サンゴジュ	3.4	22	1					3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.25	C			○					○			無		大							梢端切除されている。	●		
140	Y02-140		サンゴジュ	3.5	18	2					3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.09	C			○					○			無		大							下枝がない。	●		
142	Y02-142		サンゴジュ	3.5	22	2.5					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		大							梢端切除されている。	●		
146	Y02-146		サンゴジュ	3	15	1.5					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大							フェンスが、近接している。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(21)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：野球場一塁側　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月20日～2022年4月21日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	根元周径 (m)	根元径 (D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
151	Y02-151		ソメイヨシノ	13	190	10					2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B		○				※					有		中							樹幹傾斜あり。 胴吹き枝の剪定痕が、多数あり。 スタブカット、腐朽あり。 斜面に位置する。 コンクリートパイプが、根元にあり。 テニスコートのフェンスが、近接している。	●		
152	Y02-152		ヒイラギモクセイ	4	43	4					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					有		大							ひこばえが、多数あり。 コンクリートパイプが、根元にあり。	●		
153	Y02-153		ソメイヨシノ	14	240	12					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					有		中							胴吹き枝が、多数あり。 道とのフェンスが、近接している。	●		
154	Y02-154		サンゴジュ	3	20	2					3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D			○					○			無		大								●		
155	Y02-155		ムクノキ	4	18	3					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					無		大								●		
157	Y02-157		ネズミモチ	4	6本立	3	20,15,10,22				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					無		大								●		
158	Y02-158		シイノキ	11	167	8					2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B		○				※					無		大							断幹されている。 根元・幹に、打音異常(大) H0.0m～2.5mあり。 幹H1.4mの大枝剪定痕に、背着生キノコあり。 スタブカットからの開口空洞が、4箇所あり。 深植え状態にある。	●		
159	Y02-159		シイノキ	14	190	9					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					無		小							樹幹傾斜(小)あり。	●		
160	Y02-160		トウネズミモチ	4	36	3.5					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			無		大							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
161	Y02-161		サルスベリ	6.0	54	3.5		0.6	0.19	0.76	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高				－	－	－	－	－	－	樹形に乱れあり(樹幹傾斜)、幹に開口空洞、移植樹として不適である。			●
164	Y02-164		モチノキ	6.5	35	2.5					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		中							深植え状態にある。	●		
165	Y02-165		ヒサカキ	3.2	2本立	1.5	16,15				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		大							梢端切除されている。	●		
166	Y02-166		ヒサカキ	3	20	1.2					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		大							梢端切除されている。	●		
167	Y02-167		ヒサカキ	3	21	1.5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		大							梢端切除されている。	●		
168	Y02-168		ヒサカキ	3.2	29	2.5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		大							梢端切除されている。	●		
170	Y02-170		フウ	11	88	2					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					無		大							高さH5.0mで、断幹されている。 根元・幹に、打音異常(小) H0.0m～2.5mあり。 深植え状態にある。	●		
171	Y02-171		シラカシ	8	114	6					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		大							幹(北側)H2.0mに、開口空洞 20×8×18/33(芯達)あり。 根元・幹に、打音異常(中) H0.0m～2.5mあり。 トイレとのフェンスが、近接している。	●		
172	Y02-172		トウカエデ	13.0	152	8		2.32	0.74	2.96	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		大	大				－	－	－	－	－	－	植栽帯縁石とトイレ階段に近接した場所にあり、根鉢作成が困難である。			●
173	Y02-173		ソメイヨシノ	14	258	12					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					有		中							縁石の、押し上げあり。 巻き根あり。 植桝内に位置する。	●		
174	Y02-174		プラタナス	5.5	199	4					4.0	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.92	D			○					○			有		中							断幹されており、大枝が1本残るのみである。腐朽(大)あり。 幹に、樹皮欠損(大)あり。 縁石の、押し上げあり。 トイレ脇の植桝内に位置する。	●		
175	Y02-175		ツバキ	3.7	30	2					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		中							幹H1.0mに、開口空洞(中) 深さ8cmあり。 コンクリート基礎が、根元にあり。	●		
176	Y02-176		クロガネモチ	14	130	5					2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.25	B		○				※					有		中							片枝樹形である。 トイレに、近接する。	●		
177	Y02-177		トウネズミモチ	3	17	2					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B			○					○			無		中							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
178	Y02-178		トウネズミモチ	5	2本立	4	35,34				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○					○			無		中							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
179	Y02-179		ツバキ	3.5		1.8	15,20,10				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							有		中							フェンスが、近接している。	●		
180	Y02-180		ネズミモチ	3	3本立	1					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○					○			有		中							フェンスが、近接している。	●		
181	Y02-181		トウネズミモチ	6	3本立	4	61,32,26				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			有		中							トイレに、近接している。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
182	Y02-182		ツバキ	5	64	3					2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		小							幹に、開口空洞(大)(H0.7m～1.8m, 深さ18cm)(芯達)あり。 建物に、近接している。			●
183	Y02-183		サンゴジュ	7.0	75	4		0.86	0.27	1.1	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高				－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離0.8m。 樹形に乱れあり(樹幹傾斜、下枝が高い)、移植樹として不適である。			●
184	Y02-184		ボダイジュ	18	176	6					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					有		小							巻き根あり。 建物と、樹木に、近接している。	●		
185	Y02-185		モッコク	5.5	3本立	4	51,56,41				2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					有		中							根元に、開口空洞(中) 深さ5cmあり。 フェンスが、近接している。	●		
186	Y02-186		ケヤキ	20	210	14					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					※					有		小							幹H2.5mに、開口空洞 深さ5cmあり。 幹に、打音異常(小) H2.0m～2.5mあり。 フェンスが、近接している。	●		
187	Y02-187		ツバキ	6	48	3.5					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		小							幹H1.5mに、樹皮欠損(小)あり。	●		
188	Y02-188		トウカエデ	10	127	4					3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	2.75	C			○					○			無		中							幹H1.5m～2.5mに、開口空洞(中) 深さ8cmが、2箇所あり。	●		
189	Y02-189		イスノキ	3.6	14	1		0.2	0.06	0.25	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高				－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離0.3m。 実生木と思われ、イスノキ3本Y02-189,Y02-190,Y02-191が密植し、単木では樹形に乱れあり。不適。			●
190	Y02-190		イスノキ	3.6	16	1		0.2	0.06	0.25	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高				－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離0.65m。 実生木と思われ、イスノキ3本Y02-189,Y02-190,Y02-191が密植し、単木では樹形に乱れあり。不適。			●
191	Y02-191		イスノキ	4.5	13	1		0.19	0.06	0.24	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高				－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離0.3m。 実生木と思われ、イスノキ3本Y02-189,Y02-190,Y02-191が密植し、単木では樹形に乱れあり。不適。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(22)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：野球場一塁側　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月20日～2022年4月21日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 根鉢15/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・開放樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			※:難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大	超大	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に●●:変更樹木		
192	Y02-192		モチノキ	4.5	40	1.5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.34	B		○		○							有		中								大枝H1.2mに、腐朽(中)あり。大枝H2.5mに、腐朽(中)あり。 葉に、タイワンガリキジラミの虫害あり。 コンクリート壁に、近接している。		●	
193	Y02-193		イスノキ	9	119	6					1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.84	B	○			○							有		小								大枝H2.0mに、腐朽(中)あり。 コンクリート壁に、近接している。	●		
194	Y02-194		ヒサカキ	5	25	2.4					3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.84	C			○					○			無		中								幹H1.0mに、開口空洞(小)あり。幹H1.2mに、開口空洞(小)あり。 幹H2.5mに、開口空洞(小)あり。	●		
195	Y02-195		ソメイヨシノ	11	210	11.5					2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.50	B		○				※					有		中								根元・幹に、打音異常(小) H0.0m～1.2mあり。 大枝に、ぶつ切り剪定痕からの腐朽(大)、腐朽(中)が複数あり。 フェンスが、近接している。	●		
196	Y02-196		モチノキ	7	85	5					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.00	B		○		○							有		小								葉に、タイワンガリキジラミの虫害あり。 コンクリート壁に、近接している。	●		
197	Y02-197		トウネズミモチ	9	2本立	4.5	36,77				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○	○				○			有		中								大枝H1.2mに、腐朽(中)あり。 コンクリート壁に、近接している。 環境省 指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
198	Y02-198		ツバキ	4.6	2本立	3.5	35,57				2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.17	B		○				※					有		小								幹H1.0m～1.5mに、腐朽(小)が、8箇所あり。 フェンスが、近接している。	●		
200	Y02-200		ツバキ	5	60	3					2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○		○							有		中								大枝付け根H1.2mに、樹皮欠損(中)あり。 大枝H2.0mに、樹皮欠損(中)あり。 フェンスが、近接している。	●		
202	Y02-202		ヤエザクラ	9	2本立	9	80,115				2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B		○				※					有		中								幹に、打音異常0.5m～1.0mあり。 幹H1.0mに、腐朽(中)あり。	●		
209	Y02-209		ソメイヨシノ	9	295	16					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					※					有		小								大枝H3.0m～3.5mに、亀裂あり。 大枝付け根H2.5mに、剪定痕からの腐朽(大)あり。 フェンスが、近接している。	●		
246	Y02-246		ヒマラヤシーダー	20.0	235	10.5		3.16	1.01	4.03	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.92	B			○				○			超	超	有	×		–	–	–	–	–	–	幹芯から照明柱までの離隔距離0.2m、フェンスまでの離隔距離1.05m。適正根鉢確保困難。			●
247	Y02-247		クロマツ	15	143	8.5					2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B	○					※					有		小								コンクリート基礎に、近接している。 樹木番号Y02-248モチノキと、根元が、近接している。	●		
248	Y02-248		モチノキ	7	57	2.2					2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B		○				※					有		小								葉に、タイワンガリキジラミの虫害あり。 コンクリート壁に、近接している。 樹木番号Y02-247クロマツと、根元が、近接している。	●		
249	Y02-249		クロマツ	13	117	5					3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	3.0	2.59	C			○				○				有		中								コンクリート基礎に、近接している。	●		
250	Y02-250		サカキ	7	74	3.7					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		小								幹H1.0mに、開口空洞(中) 深さ10cmあり。 フェンスが、近接している。	●		
251	Y02-251		ソメイヨシノ	11	200	11					2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○				有		中								幹H0.5m～1.0mに、ベッコウタケの子実体あり。 スタブカットからの腐朽が、多数あり。			●
257	Y02-257		ウバメガシ	6	4本立	4	46,90,30,84				2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B		○				※					有		中								スタブカットからの腐朽が、多数あり。 コンクリート土留めに、近接している。	●		
260	Y02-260		ヤマモモ	6.5	81	5					2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○				※					有		小								大枝付け根H2.5mに、開口空洞(中) 深さ8cmあり。 コンクリート土留めに、近接している。	●		
262	Y02-262		ヤマモモ	6.5	101	6					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○				※					有		小								幹H1.5mに、開口空洞(中) 深さ12cmあり。 コンクリート土留めに、近接している。	●		
263	Y02-263		モクセイ	3	7本立	2	40,27,23,1…				2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B			○				※				有		小								コンクリート土留めに、近接している。	●		
264	Y02-264		ヤマモモ	6.5	105	3.7					2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○				※					有		小								幹H1.2mに、開口空洞(中) 深さ10cmあり。 コンクリート土留めに、近接している。	●		
266	Y02-266		ヤマモモ	6.5	87	5					2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B			○				※				有		小								コンクリート土留めに、近接している。	●		
267	Y02-267		モクセイ	3	3本立	1.4	26,44,20				2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B			○				※				有		小								コンクリート土留めに、近接している。	●		
268	Y02-268		ヤマモモ	6.5	106	3.6		1.31	0.42	1.67	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B			○				○			高	高				–	–	–	–	–	–	樹形に乱れ(左右のふところ枝の消失)あり。不適。			●
270	Y02-270		ヤマモモ	6.0	86	3.7		1.26	0.4	1.61	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.25	B		○			○				高	高	有	○	無	無	無	9	8	10	9.0	幹芯から縁石までの離隔距離1.5m(道路側1.2m)。		●	
272	Y02-272		メタセコイア	11.0	241	6		3.12	0.99	3.97	2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.67	C			○				○			高	超	有	×	無	–	–	–	–	–	–	幹芯から縁石までの離隔距離1.15m。適正根鉢確保困難。			●
273	Y02-273		ネズミモチ	3.3	2本立	1.5	16,10				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○				有		中								コンクリート土留めに、近接している。	●		
274	Y02-274		チャンチン	10.0	108	4		1.25	0.4	1.59	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.25	B			○		○					高	高	有	○	無	無	無	8	6	7	7.0	幹芯から照明柱までの離隔距離1.5m。土留めに近接している。 大枝に強剪定あり。下枝が高い位置にある。 エリア内にて、希少樹種である。移植可能。		●	
275	Y02-275		ソロ	10.0	4本立	5	59,22,26,33	0.92 0.55 0.30	–	–	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.09	B			○				○			高	超				–	–	–	–	–	–	樹形に乱れあり(樹幹に傾き)、移植樹として不適である。 隣木(Y02-0274チャンチン)からの被圧あり。			●
276	Y02-276		ソロ	10.0	4本立	5	68,60,58,28	1.52	0.48	1.94	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.09	B			○		○					高	高	有			無	無	10	4	8	7.3	幹芯から土留めまでの離隔距離1.2m、フェンスまでの離隔距離1.2m。株立ち、樹形は良好である。根鉢確保可能。		●	
287	Y02-287		トウカエデ	16.0	170	4		2.31	0.74	2.94	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○		○					超	大	無	○	無	無	無	12	12	16	13.3	幹芯から建物までの離隔距離1.4m。 幹に開口空洞あり。斜面地に立地する。 移植後の萌芽や樹形回復が期待できる(樹種特性)。		●	
288	Y02-288		シイノキ	14.0	180	9		2.25	0.72	2.87	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.59	C			○				○			大	大	有	○	無	–	–	–	–	–	–	幹芯から石積までの離隔距離1.3m。建物に近接している。 樹形・樹勢不良で不適。 大枝に、枯損あり。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(23)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：第二球場　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月19日～2022年4月20日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	絹婚の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高15/10	根元径	根元検査物	傾斜確保	片枝被圧	剪定・対象箇	剪定・除接箇	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※:難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無						該当に●●:変更樹木		
1	YG-001		シイノキ	13	296	11.8					2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	1.5	1.92	B	○					※					有		小						幹H1.0mに、開口空洞(中)あり。 大枝H7.5mに、樹皮欠損(大)あり。 土留めの縁石が、根元にあり。	●		
2	YG-002		シイノキ	12	141	5.5					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		中						幹に、開口空洞(中) H1.5m～2.5m、打音異常あり。 土留めの縁石が、根元にあり。	●		
3	YG-003		シイノキ	13	208	10					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		小						幹H2.5mに、開口空洞(中)、打音異常あり。 土留めの縁石が、根元にあり。	●		
4	YG-004		モッコク	5	41	2					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							有		中						土留めの縁石が、根元にあり。	●		
5	YG-005		シイノキ	12	209	5.5					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		小						幹H1.8mに、開口空洞(中)あり。 大枝H1.8mに、開口空洞(中)が、数か所あり。 配電盤に、近接する。 土留めの縁石が、根元にあり。	●		
6	YG-006		シイノキ	12	293	13					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					※					有		小						幹H1.2mに、開口空洞(中)(芯達)あり。 大枝H1.5mに、開口空洞(中)あり。 土留めの縁石が、根元にあり。	●		
7	YG-007		ヒトツバタゴ	4.7	37	3.5					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		中						片枝樹形である。	●		
8	YG-008		ツバキ	3	3本立	1.8	31,35,21				2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.25	B		○		○							有		小						土留めの縁石が、根元にあり。	●		
9	YG-009		シイノキ	10	179	8					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B		○				※					有		無						土留めの縁石が、根元にあり。	●		
11	YG-011		クスノキ	16	325	11.5					1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.75	A	○					※					有		小						土留めの縁石が、根元にあり。	●		
13	YG-013		シイノキ	13	181	7					2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.5	2.25	B			○					○			有		小						根元H0.0mに、開口空洞(大)(芯達)が、複数あり。 枝に、多芽症状あり。 土留めの縁石が、根元にあり。	●		
14	YG-014		サンゴジュ	3.1	2本立	1	26,14				3.5	3.5	3.0	3.0	2.5	3.0	3.09	C			○					○			有		大						双幹の一方が、枯死している。 幹H0.5mに、樹皮枯死(大)あり。 土留めの縁石が、根元にあり。	●		
15	YG-015		ツバキ	3	3本立	1.8	32,25,15				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B		○		○							有		中						土留めの縁石が、根元にあり。		●	
16	YG-016		シイノキ	12.0	187	10.5		2.13	0.68	2.71	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	大	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から歩車道側石柱防護柵までの離隔距離1.3m、石積み土留めまでの離隔距離1.6m。 ふところ枝がなく、幹に開口空洞、大枝に樹皮欠損が多い。 移植後の萌芽や樹形回復が望めない(樹勢が衰退傾向)。			●
17	YG-017		シイノキ	11	180	6.2					2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		中						根元に、開口空洞(小)あり。 幹H1.8mに、開口空洞(中)、子実体(種不明)あり。 根元・幹に、打音異常 H0.0m～2.0mあり。 土留めの縁石が、根元にあり。	●		
19	YG-019		ヒトツバタゴ	12	117	6.4					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					※					有		中						幹H2.0mに、樹皮欠損(中)あり。 土留めの縁石が、根元にあり。	●		
20	YG-020		マテバシイ	8.5	2本立	6.3	81,90				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.09	B		○		○							無		中						土留めの縁石が、根元にあり。		●	
21	YG-021		マテバシイ	9.0	107	5.2		1.25	0.4	1.59	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	有	－	無	－	－	－	－	－	－	幹芯からコンクリート基礎までの離隔距離0.4m、配電盤基礎までの離隔距離0.6m、石積み土留めまでの離隔距離0.8m。 樹形に乱れあり(枝の分布に偏り)、移植樹として不適である。			●
22	YG-022		マテバシイ	8.5	97	5.6		1.3	0.41	1.66	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	有	－	無	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れがあり(下枝が高い)、移植樹として不適である。			●
24	YG-024		マテバシイ	9.0	108	7		1.35	0.43	1.72	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○			○				高	高	無	○	無	無	無	15	20	12	15.7	移植樹として樹形維持可能。		●	
25	YG-025		マテバシイ	9.5	98	8.4		1.26	0.4	1.61	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	－	－	－	－	－	－	移植後の萌芽や樹形回復が望めない(樹種特性)。 樹形に乱れあり(下枝が高い)、移植樹として不適である。			●
26	YG-026		マテバシイ	5.0	3本立	6	41,31,44	－	－	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	超	－	×	－	－	－	－	－	－	－	適正根鉢の確保が困難である(隣接樹木と近接)。 樹形に乱れあり(樹幹に傾き、枝の分布に偏り)、移植樹として不適である。			●
27	YG-027		マテバシイ	3.2	25	2.5		－	－	－	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	超	－	－	－	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れあり(高さ1mで断幹)、移植樹として不適である。			●
28	YG-028		マテバシイ	5.0	85	6.2		1.25	0.4	1.59	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○			○			高	高	無	○	中	無	無	16	18	24	19.3	YG-027マテバシイの撤去により根鉢確保が可能である。 樹形維持可能。 隣木(YG-024マテバシイ)の被圧あり、剪定は不要。		●	
29	YG-029		ネズミモチ	4.5	28	3					2.5	2.0	3.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			無		大							根元に、開口空洞(大)あり。			●
30	YG-030		サンゴジュ	3.4	33	1.6					3.5	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	3.17	C			○					○			無		大							株の1本が割けたことによる、樹皮欠損(大)あり。 根元に、掘らぎあり。			●
31	YG-031		マテバシイ	8	137	9.2					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B		○		○							無		中								●	
32	YG-032		マテバシイ	8.0	112	6		1.67	0.53	2.13	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B			○				○		高	高	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離0.6mと1.3m。			●
33	YG-033		ヒトツバタゴ	4	32	2					3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○		○							有		大							片枝樹形である。 コンクリート壁に、近接する。 枯枝 φ8cm,L=0.5mあり。		●	
34	YG-034		マテバシイ	7.0	91	7		1.13	0.36	1.44	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れがあり(枝の分布に偏り)、移植樹として不適である。			●
35	YG-035		マテバシイ	3.3	3本立	2.5	26,10,10				2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○		○							有		中							主幹が、枯死している。 株立ち状態にある。 土留めの石積みが、根元にある。		●	
36	YG-036		マテバシイ	5.0	2本立	5.5	42,30	0.63	0.2	0.8	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.25	B			○				○		高	高	無	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離0.7m。適正根鉢確保困難。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(24)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：第二球場　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月19日～2022年4月20日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	損傷の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 難 可	A	B	C	不可	調査項目 樹高1.5/1.0	根元径	根元構造物	根鉢破損	片枝被圧	剪定・対象箇	剪定・開放樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	20以上未満	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○								該当に○ ※：最の内、保存樹木のため詳細調査対象外															該当に●：変更樹木		
37	YG-037		シイノキ	11.0	238	15.3		2.9	0.92	3.69	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.34	B			○				○		高	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から石積までの離隔距離0.8mと1.8m。適正根鉢確保困難。			●
38	YG-038		サンゴジュ	4.5	2本立	3.2	49,23				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○					○			有		大								幹に、腐朽 H0.3m～0.6mあり。 片枝樹形である。 石積みに、近接する。			●
40	YG-040		イヌツゲ	3	30	1.6					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B		○		○							無		中								片枝樹形である。		●	
42	YG-042		シイノキ	6.0	100	5		1.3	0.41	1.66	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B		○			○				高	高	有	○	無	無	無	11	9	7	9.0		ブロック塀に近接する(根鉢確保は可能)。 樹形維持可能。		●	
45	YG-045		ケヤキ	9.0	159	4		1.89	0.6	2.41	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	大	有	○	無	－	－	－	－	－	－	ブロック塀に近接する。 大枝剪定痕からの腐朽、枯枝が多く樹形不良。			●
46	YG-046		サザンカ	3.5	2本立	3	22,27	－	－	－	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	超	有	○	－	－	－	－	－	－	－	購入による代替可能。			●
47	YG-047		マテバシイ	7.0	82	4		0.98	0.31	1.25	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れ。 移植樹として不適。			●
50	YG-050		ツバキ	3.2	2本立	1.7	17,19				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B		○		○							無		中										●	
51	YG-051		ケヤキ	10.0	182	5.5		2.05	0.65	2.61	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	大	有	×	無	－	－	－	－	－	－	ブロック塀に近接する。掘り取り作業領域の確保が困難である。 強剪定による萌芽樹。本来のケヤキらしさがない。			●
52	YG-052		マテバシイ	6.5	55	3		0.63	0.2	0.8	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B			○				○		高	高	有	○	－	－	－	－	－	－	－	隣木からの被圧あり。 枝の分布に偏り(敷地境界側)あり。 樹形不良。			●
53	YG-053		シイノキ	8	85	3.6					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○		○							有		中								コンクリート基礎に、近接する。		●	
54	YG-054		シイノキ	5	51	2.1					2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		中								幹に、腐朽(大) H2.5m～3.5mあり。 コンクリート壁に、近接する。			●
57	YG-057		ケヤキ	9.5	154	3.5		1.83	0.58	2.33	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.1m。 幹H3mで3分岐、内1本が枯損。剪定痕からの腐朽が多数。 掘り取り作業領域の確保が困難である。強剪定による萌芽樹。			●
58	YG-058		マテバシイ	6.0	75	3.5		1.22	0.39	1.55	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	無	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れがあり(隣木からの被圧、樹冠に偏り)、移植樹として不適である。			●
59	YG-059		シイノキ	6	76	3.1					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B		○		○							有		中								コンクリート壁に、近接する。		●	
60	YG-060		サンゴジュ	4	4本立	2	41,21,33,29				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○					○			有		大								大枝に、腐朽(中)あり。			●
61	YG-061		ケヤキ	11.0	167	6		2	0.64	2.55	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B			○				○		高	大	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.25m。堀取り作業域の確保が困難。 強剪定による萌芽樹。			●
62	YG-062		マテバシイ	9.0	87	3.8		1.23	0.39	1.57	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B			○				○		高	高	無	○	無	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れと傾斜(隣木からの被圧、樹冠に偏り)。 移植樹として不適である。			●
64	YG-064		シイノキ	10.0	101	4		1.47	0.47	1.87	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○			○				高	高	有	○	無	無	無	11	16	6	11.0		樹形良好。 根鉢ぎりぎり確保可能。		●	
66	YG-066		マテバシイ	7.0	70	4.1		0.97	0.31	1.24	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.67	A			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.0m。 移植に向けた剪定で適正樹形の維持が困難(幹に屈曲あり)。 移植樹として不適である。			●
68	YG-068		シイノキ	4.5	75	1.8					3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.59	C			○					○			有		中								幹に、樹皮欠損(大) H0.3m～3.0mあり。 コンクリート壁に、近接する。			●
70	YG-070		ケヤキ	11.0	144	10.2		1.78	0.57	2.27	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.0m。 大枝に剪定痕からの腐朽が多数あり。不適。			●
71	YG-071		サンゴジュ	5.0	4本立	3.7	41,39,39,27	0.97	0.31	1.24	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B			○				○		高	高	有	○	－	－	－	－	－	－	－	虫害(サンゴジュハムシ)あり。 規格や活力度などから樹形・生育不良。			●
72	YG-072		マテバシイ	5	61	3.6					2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B		○		○							有		中								コンクリート壁に、近接する。		●	
74	YG-074		ケヤキ	12.0	152	8		1.95	0.62	2.48	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B			○				○		高	大	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.2m。 樹形に乱れがあり(強剪定後の萌芽樹形)、ケヤキらしさに欠ける。 掘り取り作業領域の確保が困難である。			●
75	YG-075		マテバシイ	6.0	76	4.5		0.91	0.29	1.16	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B			○				○		高	高	無	○	－	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れあり(隣木被圧による扇型の扁平樹形)。不適。			●
76	YG-076		ヒマラヤシーダー	16.0	227	6.6		2.8	0.89	3.57	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.84	B			○				○		超	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	根回し、堀取り作業域困難。 上部や大枝剪定で著しく本来の樹形が損なわれる。			●
77	YG-077		オガタマ	5	6本立	3.6	23,19,24,25,30,19				2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.09	B		○		○							有		中								コンクリート壁に、近接する。		●	
78	YG-078		マテバシイ	10.0	102	5.5		1.2	0.38	1.53	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B			○				○		高	高	無	○	－	－	－	－	－	－	－	樹幹傾斜あり。不適。			●
79	YG-079		ヒマラヤシーダー	16.0	224	6.4		2.8	0.89	3.57	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.84	B			○				○		超	超	有	×	－	－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離1.5m。根回し、堀取り作業域困難。 上部や大枝剪定で著しく本来の樹形が損なわれる。			●
81	YG-081		ヒトツバタゴ	5.0	44	4.3		0.53	0.17	0.68	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○				○		高	高	有	○	－	－	－	－	－	－	－	幹芯からブロック塀までの離隔距離0.4m。 規格や活力度などから不適。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(25)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：第二球場　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月19日～2022年4月20日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	関連項目 樹高13/15	関連項目 根元径	関連項目 根元構造物	関連項目 根鉢確保	関連項目 片枝被圧	関連項目 剪定・対象樹	関連項目 剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
82	YG-082		モクセイ	3.0	3本立	2.2	21,22,14	0.53	0.17	0.68	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B			○				○		高	高	有	○	－	－	－	－	－	－	-	幹芯からフェンス基礎までの離隔距離0.4m。 規格や樹勢から不適。代替えも可能。			●
83	YG-083		マテバシイ	7.0	76	5.3		0.88	0.28	1.12	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	－	－	－	－	－	－	-	規格や活力度などから不適。			●
84	YG-084		モクセイ	3.5	3本立	1.8	15,21,18				2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○		○							有		大							コンクリート壁に、近接する。		●	
85	YG-085		ヒマラヤシーダー	16.0	226	6		2.83	0.9	3.61	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.84	B			○				○		超	超	有	×	－	－	－	－	－	－	-	幹芯からネットフェンス基礎までの離隔距離0.85m。適正根鉢確保困難。 上部や大枝剪定で著しく本来の樹形が損なわれる。			●
87	YG-087		モクセイ	3	3本立	2	17,18,15				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○		○							有		大							根元・幹に、樹皮欠損(小) H0.0m～1.5mが、多数あり。 コンクリート壁に、近接する。		●	
88	YG-088		マテバシイ	9.0	91	4.8		1.13	0.36	1.44	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	高	有	×	－	－	－	－	－	－	-	枝にコブ症状あり。 樹形に乱れあり。不適。			●
89	YG-089		モクセイ	3.6	4本立	2.1	22,23,14,15				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○		○							有		大							根元・幹に、樹皮欠損(小) H0.0m～1.2mが、多数あり。 コンクリート壁に、近接する。		●	
91	YG-091		ヒマラヤシーダー	16.0	213	6.3		2.86	0.91	3.64	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.75	A			○				○		超	超	有	×	－	－	－	－	－	－	-	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.3m。適正根鉢確保困難。 上部や大枝剪定で著しく本来の樹形が損なわれる。			●
93	YG-093		シイノキ	10.0	120	4.1		1.51	0.48	1.92	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B		○			○				高	高	無	○	小	無	無	7	9	11	9.0	幹に開口空洞(枝抜け痕)(小)あり。 少し被圧されているがあまり大きくなく樹形良く維持可能。		●	
94	YG-094		マテバシイ	6	67	6.4					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		小									●	
96	YG-096		ヒマラヤシーダー	16.0	244	7.4		3.3	1.05	4.2	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.75	A			○				○		超	超	無	×	－	－	－	－	－	－	-	堀取り作業域確保困難。上部や大枝剪定で著しく本来の樹形が損なわれる。			●
98	YG-098		トウネズミモチ	6	3本立	4.3	22,23,23				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B			○					○			有		中							コンクリート基礎に、近接する。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
100	YG-100		シイノキ	10.0	102	8.2		1.17	0.37	1.49	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	無	○	－	－	－	－	－	－	-	樹形に乱れあり(被圧による扇型の扁平樹形)。不適。			●
101	YG-101		シイノキ	9.0	206	8.2		2.53	0.81	3.22	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B		○			○				高	超	無	○	小	無	無	13	8	12	11.0	樹形良好、維持可能。 ぎりぎり根鉢確保可能。		●	
102	YG-102		サンゴジュ	4	3本立	3.2	33,27,35				2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○		○							有		中							コンクリート壁に、近接する。		●	
103	YG-103		モッコク	5.5	37	3.4					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		中									●	
105	YG-105		ウバメガシ	7.5	4本立	7.1	80,100,93,29	2.26	0.72	2.88	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○			○				高	大	無	○	無	無	無	10	6	10	8.7	幹芯から歩道手すりまでの離隔距離1.4m。 4つの株がそれぞれ独立している。胴吹き多数、樹形に乱れあり(被圧による扇型の扁平樹形)。萌芽力あり、樹形維持、再生可能。		●	
107	YG-107		シイノキ	6.5	2本立	6.7	110,85	1.48	0.47	1.89	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	無	○	－	－	－	－	－	－	-	樹形に乱れ(枝の分布に偏り)、樹冠傾斜、キノコあり。不適。			●
108	YG-108		コブシ	10.0	2本立	4.7	103,86	1.45	0.46	1.85	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.25	B			○				○		高	高	無	○	－	－	－	－	－	－	-	樹形に乱れあり(枝の分布に偏り)。 移植後の樹形維持が難。 移植難樹種である。			●
110	YG-110		モクセイ	3.0	3本立	1.8	36,38,53	0.83	0.26	1.06	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	無	○	－	－	－	－	－	－	-	代替え可能。			●
111	YG-111		ヤマモモ	6.0	101	3.8		1.37	0.44	1.75	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B		○			○				高	高	無	○	無	無	無	15	17	14	15.3	樹形維持可能。		●	
114	YG-114		モクセイ	3	5本立	1.8	40,36,28,33,40				2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.25	B		○		○							有		無							コンクリート基礎に、近接する。		●	
115	YG-115		ヤマモモ	6	95	3.4					2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.25	B		○		○							有		無							コンクリート基礎に、近接する。		●	
116	YG-116		モクセイ	3	5本立	2	40,32,49,31,20				2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.25	B		○		○							有		無							コンクリート土留め板が、根元にあり。		●	
118	YG-118		ケヤキ	13.0	218	9.8		2.25	0.72	2.87	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		大	大	無	○	－	－	－	－	－	－	-	樹形に乱れあり(強剪定後の萌芽樹形)、不適、ケヤキらしさに欠ける。			●
120	YG-120		モクセイ	3	根元 92	2					2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.25	B		○		○							有		小							コンクリート土留め板が、根元にあり。		●	
121	YG-121		ヤマモモ	7	95	4.3					2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.25	B		○		○							有		無							コンクリート土留め板が、根元にあり。		●	
122	YG-122		モクセイ	3	根元 90	2					2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.25	B		○		○							有		小							コンクリート土留め板が、根元にあり。		●	
123	YG-123		モクセイ	3	5本立	1.8	33,39,30,14,37				2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.25	B		○		○							有		小							コンクリート土留め板が、根元にあり。		●	
124	YG-124		モクセイ	3.0	5本立	2	40,36,32,15,30	1.18	0.38	1.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.25	B			○				○		高	高	無	○	－	－	－	－	－	－	-	代替え可能。			●
125	YG-125		ケヤキ	16.0	290	10.1		3.26	1.04	4.15	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		超	超	有	×	－	－	－	－	－	－	-	幹に目立つ開口空洞、コフキサルノコシカケあり。 幹芯からコンクリート土留めまでの離隔距離1.7m。適正根鉢確保困難。			●
128	YG-128		ヤマモモ	7	110	5.7					2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○		○							有		無							根元H0.2mに、開口空洞(小) 深さ12cmあり。 コンクリート土留め板が、根元にあり。		●	
129	YG-129		モクセイ	3	根元 94	2.2					2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B		○		○							有		小							コンクリート土留め板が、根元にあり。		●	
130	YG-130		モクセイ	3	根元 85	2					2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B		○		○							有		無							コンクリート土留め板が、根元にあり。		●	
131	YG-131		モクセイ	3.2	根元 117	2					2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.25	B		○		○							有		無							コンクリート土留め板が、根元にあり。		●	

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(26)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：第二球場　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月19日～2022年4月20日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格							活力度								保存の必要性			移植				関連項目											備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
				樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝特長量	梢端の枯損	葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均				
											1～4評価								該当に○			該当に○ ※難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無						該当に● ●：変更樹木		
132	YG-132		モクセイ	3.2	根元115	2.4					2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B		○		○							有		無							コンクリート土留め板が、根元にあり。		●	
133	YG-133		カラタネオガタマ	4.5	5本立	4.5	34,22,34,40,82	1.11	0.35	1.41	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○			○				高	高	無	○	無	無	無	2	4	2	2.7	幹芯からコンクリート土留めまでの離隔距離1.0m、擁壁までの離隔距離1.1m。ぎりぎり根鉢確保可能。 枝張り大きく、樹形は良好である。		●	
134	YG-134		ケヤキ	12.0	227	10.5		2.62	0.83	3.34	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				○			高	超	有	○	無	無	無	9	11	13	11.0	根元に笹とツツジ類あり。 樹形に乱れ(強剪定後の萌芽樹形)や剪定痕が目立つが樹高低く、場内移植ならば可。		●	
135	YG-135		ヤマモモ	8.0	88	4.2		1.09	0.35	1.39	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○			○				高	高	有	○	小	小	無	6	3	6	5.0	幹芯からコンクリート土留めまでの離隔距離1.4m。 樹形維持、根鉢確保可能。		●	
136	YG-136		モクセイ	3.2	元107	1.6		1.09	0.35	1.39	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.25	B		○			○				高	高	有	○	無	無	無	4	3	3	3.3	幹芯からコンクリート土留めまでの離隔距離1.3m。樹形良好。		●	
137	YG-137		ヤマモモ	9.0	122	4.5		1.36	0.43	1.73	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○			○				高	高	有	○	無	無	無	3	5	6	4.7	幹芯からコンクリート土留めまでの離隔距離1.3m。 大枝付け根に開口空洞あり。 根鉢確保、樹形維持可能。		●	
138	YG-138		モクセイ	3.2	根元99	1.6		1.12	0.36	1.43	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.25	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から看板基礎までの離隔距離0.7m。 看板裏面樹形に乱れ。不適。			●
139	YG-139		モクセイ	3.1	元120	2		1.07	0.34	1.36	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.25	B		○			○				高	高	有	○	無	無	無	4	3	5	4.0	幹芯からコンクリート土留めまでの離隔距離1.3m。 樹形良好。		●	
140	YG-140		ヤマモモ	7.0	119	5.1		1.39	0.44	1.77	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○			○				高	高	有	○	無	無	無	8	10	8	8.7	幹芯からコンクリート土留めまでの離隔距離1.2m(車道側)、1.5m(球場側)。 幹に開口空洞あり、巻き込み良好。大枝に腐朽、回復傾向。 樹形維持、回復可能。		●	
141	YG-141		モクセイ	3.1	根元98	1.5		1.12	0.36	1.43	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.25	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	樹形不良。			●
142	YG-142		ヤマモモ	6.0	97	3.2		1.15	0.37	1.46	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B		○			○				高	高	有	○	無	無	無	4	8	6	6.0	幹芯からコンクリート土留めまでの離隔距離1.2m(車道側)、1.5m(球場側)。 樹形良好。		●	
143	YG-143		モクセイ	3.0	根元93	2.1		0.92	0.29	1.17	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.25	B		○			○				高	高	有	○	無	無	無	6	3	3	4.0	幹芯からコンクリート土留めまでの離隔距離1.2m(車道側)、1.2m(球場側)、電灯基礎までの離隔距離1.3m。 樹形良好。		●	
144	YG-144		ケヤキ	12.5	235	11.2		2.72	0.87	3.46	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から植栽帯縁石までの離隔距離2.1m。電灯基礎あり。 強剪定、萌芽樹でケヤキらしさない。 堀取り作業域確保困難。			●
145	YG-145		ケヤキ	12.5	258	11.1		3.22	1.03	4.1	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	幹芯から電灯基礎(2か所)までの離隔距離1.8m、植栽帯縁石までの離隔距離2.2m。 強剪定・萌芽樹でケヤキらしさない。根鉢確保困難。			●
146	YG-146		ケヤキ	12.5	245	9.8					2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.50	B			○					○			有		小							根元・幹に、腐朽(大) H0.0m～0.7mあり。 高さH0.5mに、コフキサルノコシカケの子実体あり。 根元・幹に、打音異常あり。 コンクリート土留め板が、根元にあり。			●
147	YG-147		ケヤキ	12.5	286	11.8		3.28	1.04	4.18	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	強剪定後の剪定痕が目立つ。 強剪定・萌芽樹でケヤキらしさない。 建物に近接している。根鉢確保困難。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(27)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：テニス場北コート　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月9日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
1	T01-001		サザンカ	4.5	3本立	3	29,40,45				1.5	2.0	1.0	2.0	1.0	1.5	1.50	A		○						○			有		小							ブロック塀に、近接している(西側)。 ブロック塀の影響により、樹冠傾斜(小)あり。	●		
2	T01-002		ソメイヨシノ	9.0	256	8		2.84	0.9	3.62	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.75	C			○				○		高	超	有	×	中	－	－	－	－	－	－	大枝に剪定痕からの腐朽(大)あり、進行中である。 カワウソタケや背着生キノコが多数発生している。 樹形、樹勢不良で不適。			●
3	T01-003		ウバメガシ	6	4本立	8	47,83,71,100				1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.42	A	○			○							無		小							樹幹傾斜(小)(東側)あり。		●	
4	T01-004		トウカエデ	15.0	254	8		2.69	0.86	3.43	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.75	A	○					○			超	超	有	○	無	－	－	12	10	10	10.7	移植に向けた剪定に耐え(樹種特性)、移植に適している。		●(変更)	
5	T01-005		ソメイヨシノ	9	178	8					2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○		○							有		小							幹(東側)に、樹皮の腐朽 40×30、打音異常あり。 大枝剪定痕に、腐朽(大)あり。		●	
6	T01-006		クロマツ	10.5	101	4		1.21	0.39	1.54	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	下枝が高く、移植に向けた剪定に適していない。 移植樹としての価値が高くない。			●
8	T01-008		クロマツ	12	95	3					2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.92	B		○		○							有		無							ネットフェンスが、0.7m(西側)の距離にある。		●	
9	T01-009		クロマツ	15	141	5					1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.75	A	○			○							有		無							ネットフェンスが、1.1m(西側)の距離にある。		●	
10	T01-010		シダレザクラ	6	79	3					2.5	2.5	3.5	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		大							幹H3.0mに、腐朽(大) 60×20、巻込み(弱)あり。幹折れの危険あり。 石の柵が、1.3m(東側)にある。			●
11	T01-011		シダレザクラ	5.5	80	3					3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.92	C			○					○			有		無							大枝H3.0m(南側)に、腐朽(大) L60cmあり。また、幹への腐朽が、進行している。 石の柵が、1.2m(東側)にある。			●
12	T01-012		サクラ	7	93	4					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							有		無							幹が、くの次になっている。 大枝 H2.3mに、剪定痕からの腐朽、巻込み(弱)あり。 ネットフェンスが、0.8m(西側)の距離にある。		●	
13	T01-013		シダレザクラ	8	83	6					1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.84	B	○			○							有		大							マツの被圧を受けておるが、存在価値は高い。 石の柵が、0.9m(東側)の距離にある。	●		
15	T01-015		シダレザクラ	5.5	81	3					3.5	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	3.34	D			○					○			有		小							断幹されている。 大枝H2.5mに、剪定痕からの腐朽 15×15あり。 大枝付け根(東側)に、腐朽、キノコが、L150cmにかけてあり。 石の柵が、1.0m(東側)の距離にある。			●
16	T01-016		シダレザクラ	6	93	6					2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.50	B		○		○							有		無							双幹の一方が、H3.5mで断幹されている。 石の柵が、1.0m(東側)の距離にある。		●	
17	T01-017		クロマツ	13	186	6					1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○			○							有		無							石の柵が、0.9m(東側)の距離にある。		●	
18	T01-018		サクラ	5.5	133	4					3.5	3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	3.34	D			○					○			有		小							枝が、枯損や剪定により、とても少ない。 ネットフェンスが、0.7m(西側)の距離にある。			●
19	T01-019		クロマツ	7.5	100	6					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○		○							有		小							ネットフェンスが、0.8m(西側)の距離にある。		●	
20	T01-020		シダレザクラ	8	88	4					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							有		中							石の柵が、1.1m(東側)の距離にある。		●	
21	T01-021		クロマツ	9.0	207	8		2.4	0.76	3.06	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○				○				高	大	有	○	無	－	－	3	3	4	3.3	根鉢確保がなんとか可能。 樹形維持可能。		●(変更)	
22	T01-022		シダレザクラ	6	70	5					2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.42	B		○		○							無		大							断幹されており(枯れ下がり)、樹形に乱れがある。		●	
23	T01-023		クロマツ	9	172	8					1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○							無		無									●	
24	T01-024		クロマツ	9	125	8					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		中							H3.0m(北側)に、大枝のスタブカット φ20cm, L=40cmあり。		●	
25	T01-025		クロマツ	14.0	190	8		2.13	0.68	2.71	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.59	A	○					○			大	大	有	○	無	－	－	14	8	16	12.7	幹芯から電柱までの離隔距離1.1m。 樹高高く場内移植ならば可能。剪定不可。		●(変更)	
26	T01-026		アカマツ	8	136	8					2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○		○							有		中							H2.3m(西側)に、大枝のスタブカット φ20×L40cmあり。 樹幹傾斜(北側)あり。 ネットフェンスが、0.9m(西側)の距離にある。		●	
27	T01-027		クロマツ	12	110	6					2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○		○							有		無							東側に枝が少ない。 スタブカットによる枯損枝が、数か所あり。 ネットフェンスが、1.0m(西側)の距離にある。		●	
28	T01-028		モチノキ	3	20	2					2.5	2.5	1.0	2.5	1.0	2.0	1.92	B			○					○			無		大							樹木番号T01-029ヒトツバタゴに、近接する。			●
29	T01-029		ヒトツバタゴ	10	3本立	7	80,70,66				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							無		中							スタブカット(小)が、数か所あり。		●	
30	T01-030		オガタマ	5.5	5本立	5	6,9,23,12,22				2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.67	A		○		○							有		大							石の柵が、0.9m(東側)の距離にある。		●	
32	T01-032		オガタマ	5.5	2本立	6	32,18				2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.67	A		○						○			有		大							樹木番号T01-033シダレザクラに近接する為、移植不可である。 石の柵が、0.9m(東側)の距離にある。			●
33	T01-033		シダレザクラ	10	120	6					2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.84	B	○			○							有		中							H4.5mの位置で、クロマツ(西側)と、ケーブリングされている。 フェンスが、1m(西側)の距離にある。		●	
34	T01-034		エゴノキ	6	5本立	5	9,11,6,27,12				2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.84	B		○		○							有		大							石の柵が、0.9m(東側)の距離にある。		●	
35	T01-035		サザンカ	4	25	3					2.0	2.0	1.5	2.5	1.0	2.0	1.84	B			○	○							無		大									●	
36	T01-036		モミジ	5	4本立	6	14,36,34,12				2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.75	A		○		○							有		中							石の柵が、1.1m(東側、南側)の距離にある。		●	
37	T01-037		シイノキ	9.5 デッキ上	214	9					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.25	B	○							○			有		無							大枝に、剪定痕からの腐朽(大)が、数か所あり。 H6.0mの位置で、クロマツ(北側)と、ケーブリングされている。 樹形が、刈り込み剪定された状態にある。 SHAKE SHACKの店外フロアが、幹H1.2mの位置にある。			●
38	T01-038		イチョウ	8 デッキ上	4本立	6	209,189,166,188				3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	2.5	2.75	C	○							○			有		無							幹4本が、H7.0mで切断され、萌芽した状態にある。 SHAKE SHACKの店外フロアが、幹H1.0mの位置にある。			移植検討
39	T01-039		ハナミズキ	5.5	41	3					2.5	2.5	2.0	2.5	3.0	2.0	2.42	B			○					○			有		無							根元・幹 H0.0m～1.8m(東側)に、腐朽(大) 180×8あり。 幹 H1.5m(西側)に、腐朽 20×8×5あり。 縁石が、1.0m(建物寄り)の距離に、近接している。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(28)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：テニス場北コート　　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月9日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	損傷の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高15/10	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価								該当に○			該当に○ ※：隣の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無						該当に●：変更樹木			
40	T01-040		ハナミズキ	5	27	3					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.75	C			○					○			有		無								根元・幹 H0.0m～2.2mに、溝腐れ症状(大)あり。 縁石が、1.0m(建物寄り)の距離に、近接している。			●
41	T01-041		ハナミズキ	5.5	42	6		0.61	0.19	0.78	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B			○				○		高	高	有	×	無	—	—	—	—	—	—	幹芯から電灯までの離隔距離0.45m、側溝までの離隔距離0.5m。 購入による代替が可能である。 根鉢確保困難。			●
42	T01-042		ハナミズキ	6	36	4					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							有		無								U型側溝と、縁石が、0.7m(西側)の距離。		●	
43	T01-043		ヒトツバタゴ	14.0	271	10		2.3	0.73	2.93	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○				○				大	大	有	○	小	—	—	16	10	7	11.0	やや強剪定されている。5本立ちの内 1本が、1.7m(φ30cm)にて断幹されている。幹に開口空洞(巻き込み良好)あるが、移植に問題はない。大径木で再生可能。		●	
44	T01-044		サンゴジュ	3.5	29	1.5					3.5	3.5	2.5	3.5	2.5	3.0	3.09	C			○					○			有		大								ブロック塀に、近接する。 隣接するカイヅカイブキから被圧(大)。			●
45	T01-045		カイヅカイブキ	4.2	40	1.3					3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.50	B			○					○			有		無								裏側の枝が、全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。			●
46	T01-046		カイヅカイブキ	4.2	38	1.3					3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.50	B			○					○			有		無								裏側の枝が、全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。			●
47	T01-047		カイヅカイブキ	4.2	39	1.3					3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.50	B			○					○			有		無								裏側の枝が、全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。			●
48	T01-048		カイヅカイブキ	4.2	39	1.3					3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.50	B			○					○			有		無								裏側の枝が、全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。			●
49	T01-049		カイヅカイブキ	4.2	40	1.3					3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.50	B			○					○			有		無								裏側の枝が、全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。			●
50	T01-050		カイヅカイブキ	4.2	50	1.3					3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.50	B			○					○			有		無								裏側の枝が、全てなし。 ブロック擁壁内に列植されている。 目隠し用の目的である。			●
55	T01-055		シイノキ	8	179	5					2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.92	B	○							○			有		無								堀に接して生育している為、移植不可である。			●
56	T01-056		トウカエデ	11.0	175	5		2.07	0.66	2.64	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	○				○				高	大	有	○	無	—	—	6	8	16	10.0	砂置場とポール倉庫の間に位置する。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.5m。施設撤去で根鉢確保可能。 樹形良好、維持可能。		●	
57	T01-057		ヒマラヤシーダー	12.0	148	4		1.87	0.6	2.38	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.84	B	○				○				高	高	有	○	無	—	—	27	28	24	26.3	適度な剪定が行われており、移植に適している。 舗装剥いで根鉢確保チャレンジ。		●	
58	T01-058		トウカエデ	12.0	176	5		2.95	0.94	3.76	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.92	B			○				○		高	超	有	×	中	—	—	—	—	—	—	幹(西側、東側)にコフキサルノコシカケの子実体あり。 樹形不良とキノコで不適。			●
59	T01-059		ケヤキ	14.0	157	5		2.02	0.64	2.57	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B			○				○		大	大	有	○	小	—	—	—	—	—	—	樹形に乱れあり、下枝も高い、不適。			●
60	T01-060		ケヤキ	20.0	159	5		2.12	0.68	2.7	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.25	B			○				○		超	大	有	×	無	—	—	—	—	—	—	強剪定後の萌芽状態にあり、樹形の維持が難しい。 幹芯から階段までの離隔距離0.7m、受電盤までの離隔距離1.0m、 フェンスに接している。 根鉢確保が困難である。			●
61	T01-061		ケヤキ	20.0	235	8		3.09	0.98	3.94	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.34	B			○				○		超	超	有	×	無	—	—	—	—	—	—	強剪定後の萌芽状態にあり、樹形の維持が難しい。 根元に子実体あり。 幹芯から照明盤基礎までの離隔距離0.7m、給水タンクまでの離隔距離1.2m。根鉢確保も困難。			●
62	T01-062		ウバメガシ	5	61	3.5					3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.84	C			○					○			有		無								H0.0～2.3m(西側)に、溝腐れ(大) 幅25cm、打音異常あり。			●
63	T01-063		ケヤキ	20.0	177	10		2.25	0.72	2.87	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		超	大	有	×	無	—	—	—	—	—	—	強剪定後の萌芽状態にあり、樹形の維持が難しい。 幹芯から空調機基礎までの離隔距離0.9m、ポンプ室までの離隔距離1.7m。根鉢確保困難。			●
65	T01-065		クロマツ	10	2本立	7	84,98				2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B			○					○			無		中								根元(南側)に、腐朽、打音異常、巻込み(弱)あり。			●
66	T01-066		サンゴジュ	3.5	38	3					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		小								衰退傾向にある。			●
67	T01-067		モミジ	5	99	5					2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.17	B		○		○							有		大								ブロック塀が、0.6m(北側)の距離にある。 ヒトツバタゴを、被圧(大)している。		●	
69	T01-069		シャラノキ	4	2本立	3	26,27				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		無										●	
70	T01-070		モクセイ	3	0本立	2	17,14,16,2 3,12,15,7,1 3,21,8				3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			無		無								裏側の枝が無い、列植の刈り込み樹形である。			●
71	T01-071		モクセイ	3	3本立	1.5	22,28,27				3.5	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.84	C			○					○			無		無								裏側の枝が無い、列植の刈り込み樹形である。			●
77	T01-077		ケヤキ	20	292	7					2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B	○							○			有		無								建物が、0.6mの距離にある。			●
79	T01-079		モクセイ	3	6本立	2	15,21,6,22, 16,8				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			無		無								列植された、刈り込み樹形である。			●
80	T01-080		モクセイ	3	4本立	1.5	16,16,11,21				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			無		無								列植された、刈り込み樹形である。			●
81	T01-081		モクセイ	3	8本立	2	14,15,16,17 ,15,15,7,22				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			無		無								列植された、刈り込み樹形である。			●
82	T01-082		モクセイ	3	8本立	3	21,20,19,16 ,16,17,6,7				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			無		無								列植された、刈り込み樹形である。			●
83	T01-083		モクセイ	3	6本立	3	24,11,16,16 ,30,28				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			無		無								列植された、刈り込み樹形である。			●
84	T01-084		ヒトツバタゴ	3.5	3本立	3	15,10,12				1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○							有		無								記念樹である。 縁石に囲まれた植栽帯 1.2m×1.6m内に位置する。		●	

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(29)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：テニス場北コート　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月9日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
85	T01-085		トウカエデ	12	260	8					2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A	○							○			有		無							建物が、1.0mの距離にある。 デッキ(H1.15m)に、囲まれている。 地山から、1.15m下にある。			●
86	T01-086		トウカエデ	12.0	159	5		2.73	0.87	3.48	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					○			高	超	有	○	無	ｰ	ｰ	ｰ	ｰ	ｰ	ｰ	デッキ(H1.15m)に囲まれている。幹芯から歩道(デッキ外)までの離隔距離1.7m。樹形維持可能、根鉢確保可能だが大で場内移植。 ※根元周囲長は目通りからの推測値、土壌硬度は計測不可(根元はデッキ下にある)		●	
87	T01-087		シダレザクラ	5	89	2					3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D			○					○			有		小							建物に、近接している。 送風口の脇にある。			●
88	T01-088		ヤエザクラ	4	52	4					3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.17	C			○					○			無		大							樹幹傾斜あり。			●
89	T01-089		シイノキ	10.0	236	8		2.99	0.95	3.81	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B	○					○			高	超	有	○	無	ｰ	ｰ	13	12	12	12.3	大木であるが、傷が少なく、移植に向けた剪定での樹形維持は可能である。 幹芯からパーゴラ基礎までの離隔距離0.7m。根鉢大きく場内移植。		●	
90	T01-090		ウバメガシ	7	88	4					2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○		○							無		小							中枝に、腐朽あり。切除の必要あり。		●	
91	T01-091		クロマツ	16	137	7					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○		○							無		小							下枝がない。(下枝高 H9.0m)		●	
92	T01-092		モミジ	5.0	4本立	4.5	30,15,18,22	1.02	0.32	1.3	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○			○				高	高	無	○	小	ｰ	ｰ	7	6	7	6.7	幹芯から隣木(T01-091クロマツ)までの離隔距離1.1mだが、根鉢確保に問題なし。		●	
93	T01-093		ウバメガシ	8	2本立	4	93,104				2.5	2.5	3.0	2.0	3.0	2.0	2.50	B			○					○			無		大							シイを、被圧している。 双幹の南側、幹に、腐朽、キノコ、打音異常 H0.0m～2.3mあり。			●
94	T01-094		ノウゼンカヅラ	3	23	3					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B			○					○			無		大							日陰に位置し、生育不良である。			●
95	T01-095		ノウゼンカヅラ	3	12	3					3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.84	C			○					○			有		大							パーゴラの基礎に、接触している。 ウバメガシを、被圧(大)している。			●
96	T01-096		ノウゼンカヅラ	3	16	3					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		大							パーゴラの基礎に、接触している。 シイノキを、被圧(大)している。			●
97	T01-097		ノウゼンカヅラ	3	21	3					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		大							パーゴラの基礎に、接触している。 シイノキを、被圧(大)している。			●
99	T01-099		クロマツ	15	168	5					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					有		無							テニスコート内に位置する。 フェンスに、接触している。	●		
100	T01-100		ケヤキ	5.5	123	5					2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○						○			有		小								●		
101	T01-101		クロマツ	10	111	4					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○						○			有		無								●		
102	T01-102		メタセコイア	20	245	8					2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.84	B	○							○			有		無								●		
103	T01-103		カイヅカイブキ	4	44	1					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
104	T01-104		カイヅカイブキ	4	47	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
106	T01-106		カイヅカイブキ	4	44	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
108	T01-108		カイヅカイブキ	4	48	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
110	T01-110		カイヅカイブキ	4	50	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
111	T01-111		カイヅカイブキ	4	49	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
112	T01-112		カイヅカイブキ	4	50	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
113	T01-113		カイヅカイブキ	4	47	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
114	T01-114		カイヅカイブキ	4.5	53	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
115	T01-115		カイヅカイブキ	4	52	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
116	T01-116		カイヅカイブキ	4	50	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
117	T01-117		カイヅカイブキ	4	56	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
118	T01-118		カイヅカイブキ	4	58	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
119	T01-119		カイヅカイブキ	3.5	51	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(30)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：テニス場北コート　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月9日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　［枠］：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
120	T01-120		カイヅカイブキ	4	56	2					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
121	T01-121		カイヅカイブキ	4	47	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
122	T01-122		カイヅカイブキ	4	54	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
123	T01-123		カイヅカイブキ	4	52	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
124	T01-124		カイヅカイブキ	4	47	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
125	T01-125		カイヅカイブキ	4	44	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
126	T01-126		カイヅカイブキ	4	48	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
127	T01-127		カイヅカイブキ	4	48	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
128	T01-128		カイヅカイブキ	4	52	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
129	T01-129		カイヅカイブキ	4	48	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
130	T01-130		カイヅカイブキ	4	50	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
131	T01-131		カイヅカイブキ	4	53	2					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
132	T01-132		カイヅカイブキ	4	50	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
133	T01-133		カイヅカイブキ	4	51	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
134	T01-134		カイヅカイブキ	4	51	2					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
135	T01-135		カイヅカイブキ	4	48	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
136	T01-136		カイヅカイブキ	4	51	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
137	T01-137		カイヅカイブキ	4	52	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
138	T01-138		カイヅカイブキ	4	44	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
139	T01-139		カイヅカイブキ	4	46	2					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
140	T01-140		カイヅカイブキ	4	38	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
141	T01-141		カイヅカイブキ	4	39	1					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
142	T01-142		カイヅカイブキ	4	37	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
143	T01-143		カイヅカイブキ	4	36	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
144	T01-144		カイヅカイブキ	4	40	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		中							刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(31)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名	テニス場北コート	調査日	2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月9日※青字記載：追加詳細調査対象樹木	:追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格							活力度								保存の必要性			移植					関連項目												備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
				樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4.D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高15/16	根元径	根元構造物	植栽確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・開放樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均				
				1～4評価														ABCD	該当に○			該当に○ ※難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					細大高	細大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無						該当に● ●：変更樹木			
145	T01-145		カイヅカイブキ	4	38	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
146	T01-146		カイヅカイブキ	4	39	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
147	T01-147		カイヅカイブキ	4	38	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
148	T01-148		カイヅカイブキ	4	40	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
149	T01-149		カイヅカイブキ	4	36	2					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
150	T01-150		カイヅカイブキ	4	42	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
151	T01-151		カイヅカイブキ	4	37	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
152	T01-152		カイヅカイブキ	4	37	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
153	T01-153		カイヅカイブキ	4	38	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
154	T01-154		カイヅカイブキ	4	38	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
155	T01-155		カイヅカイブキ	4	43	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
156	T01-156		カイヅカイブキ	4	40	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
157	T01-157		カイヅカイブキ	4	40	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
158	T01-158		カイヅカイブキ	4	42	2					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
159	T01-159		カイヅカイブキ	4	36	2					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
160	T01-160		カイヅカイブキ	4	36	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
161	T01-161		カイヅカイブキ	3.5	33	1					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
162	T01-162		カイヅカイブキ	3.5	29	1					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
163	T01-163		カイヅカイブキ	3.5	25	1					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
164	T01-164		カイヅカイブキ	3	25	1					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
165	T01-165		カイヅカイブキ	3	19	1					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●
167	T01-167		カイヅカイブキ	3	26	1.5					2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○			有		中								刈り込み剪定されている。 ブロック塀の脇、縁石と70cmの間に、列植されている。 西側に塀があり、伸長できない状態にある。			●

注）　調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(32)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：テニス場室内コート・御台場西（T02-126以降）

調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月9日※青字記載：追加詳細調査対象樹木

□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
1	T02-001		ヒメシャラ	3.5	17	2					2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○					○			有		中							マンホールと建物が、0.3mの距離にあり、近接している。 建物の陰に位置している。			●
2	T02-002		ヒメシャラ	5.0	2本立	2.3	20,19	0.43	0.14	0.55	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	有	×	小	―	―	―	―	―	―	適正根鉢の確保が困難である。幹芯からマンホールまでの離隔距離0.3m、擁壁までの離隔距離0.35m。			●
3	T02-003		ヒメシャラ	5	3本立	2	8,8,23				2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							有		中							建物が、0.4mの距離にあり、近接している。 建物の陰に位置している。		●	
4	T02-004		ヒメシャラ	5	5本立	2	14,21,15,8,22				2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							有		中							擁壁が、0.4mの距離にあり、近接している。 建物の陰に位置している。		●	
5	T02-005		ヒメシャラ	5	3本立	2	12,20,11				2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							有		中							擁壁が、0.4mの距離にあり、近接している。 建物の陰に位置している。		●	
66	T02-066		カイヅカイブキ	4	42	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
67	T02-067		カイヅカイブキ	4	39	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
68	T02-068		カイヅカイブキ	4	37	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
69	T02-069		カイヅカイブキ	4	38	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
70	T02-070		カイヅカイブキ	4	35	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
71	T02-071		カイヅカイブキ	4	41	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
72	T02-072		カイヅカイブキ	4	43	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
73	T02-073		カイヅカイブキ	4	44	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
74	T02-074		カイヅカイブキ	4	35	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
75	T02-075		カイヅカイブキ	4	40	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
76	T02-076		カイヅカイブキ	4	42	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
77	T02-077		カイヅカイブキ	4	45	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
78	T02-078		カイヅカイブキ	4	43	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
79	T02-079		カイヅカイブキ	4	42	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
80	T02-080		カイヅカイブキ	4	41	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
81	T02-081		カイヅカイブキ	3	47	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							縁石が、0.8mの距離にある。 駐車場から、0.9mの距離にある。 刈り込み樹形であり、裏側(西側)の枝が無い状態にある。 建物の脇に位置する。			●
83	T02-083		カイヅカイブキ	3	52	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							駐車場脇のU字溝が、1.3mの距離にある。			●
84	T02-084		カイヅカイブキ	3	51	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							駐車場脇のU字溝が、1.3mの距離にある。			●
85	T02-085		カイヅカイブキ	3	55	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							駐車場脇のU字溝が、1.3mの距離にある。			●
86	T02-086		カイヅカイブキ	3	50	1.3					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							駐車場脇のU字溝が、1.3mの距離にある。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(33)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：テニス場室内コート・御台場西(T02-126以降)　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月9日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
89	T02-089		サクラ	8	89	6					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○						○			有		中							マンホールと設備機器に、近接している。			●
90	T02-090		モクセイ	4	12	1.5					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B			○					○			有		中							コンクリート舗装が、0.5mの距離にある。			●
91	T02-091		モクセイ	3.5	4本立	3	12,15,12,12				2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○					○			無		小										●
92	T02-092		モクセイ	3	4本立	2	14,9,12,11				2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.34	B			○					○			無		小										●
93	T02-093		モクセイ	3	4本立	2	12,9,13,10				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		小							高さH1.5mで、切断されている。			●
94	T02-094		モクセイ	3	5本立	2	20,13,13,7,7				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		小							高さH1.5mで、切断されている。			●
95	T02-095		モクセイ	3.5	4本立	2	9,20,13,8				2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.34	B			○					○			無		小										●
96	T02-096		モクセイ	3.5	5本立	2	14,13,8,				3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.75	C			○					○			有		中							擁壁が、0.5mの距離にある。			●
100	T02-100		モクセイ	3	5本立	1.5	10,9,6,7,				3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.75	C			○					○			有		小							擁壁が、0.5mの距離にある。			●
101	T02-101		モクセイ	3	5本立	2	6,5,9,12,10				3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.75	C			○					○			有		小							擁壁が、0.5mの距離にある。			●
102	T02-102		モクセイ	3	3本立	2	11,9,11				3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.75	C			○					○			有		小							擁壁が、0.5mの距離にある。			●
103	T02-103		モクセイ	3	4本立	2	11,9,8,10				3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.75	C			○					○			有		小							擁壁が、0.5mの距離にある。			●
104	T02-104		モクセイ	3	3本立	1.5	10,9,12				3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.75	C			○					○			有		小							擁壁が、0.5mの距離にある。			●
106	T02-106		ヒトツバタゴ	4.5	64	3					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大							擁壁に、近接している。			●
107	T02-107		トウネズミモチ	5	3本立	5	42,54,53				2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.42	B			○					○			有		大							シイノキからの、被圧(大)である。 フェンスが、0.6mの距離にある。			●
109	T02-109		シイノキ	15	2本立	10	233,61				1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B	○							○			有		無							根元(東側)に、開口空洞(大) 25×5×12 巻込み(良)あり。 大枝(南側)に、スタブカット・腐朽 φ18×L40 巻込み(弱)あり。 縁石が、1.0mの距離にある。柵が、1.4mの距離にある。			●
110	T02-110		シイノキ	15.0	219	10		2.68	0.85	3.41	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				○			超	超	有	○	無	ー	ー	10	14	11	11.7	根元に開口空洞があるが、移植に問題はない。 枝張りが大きいが、場内移植ならば可能である。		●（変更樹木）	
111	T02-111		シイノキ	15.0	190	10		2.16	0.69	2.75	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.42	B			○				○		超	大	有	○	小	ー	ー	ー	ー	ー	ー	傷などの被害が多く、移植後の樹勢維持が困難、不適。			●
112	T02-112		モチノキ	4.5	2本立	3	45,34				3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.84	C			○					○			有		大							縁石に、近接している。			●
113	T02-113		シイノキ	5	156	3.5					2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		大							高さH0.0m～1.5mに、幹の枯損φ30cm、打音異常あり。			●
114	T02-114		モミジ	4.5	2本立	5	62,25	0.77	0.25	0.98	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○			○				高	高	無	○	小	ー	ー	10	8	8	8.7	樹形維持可能		●（変更樹木）	
115	T02-115		ヒトツバタゴ	5	95	5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B		○		○							有		小							梢端部が、剪定されて、萌芽状態にある。 スタブカットが、数か所あり。 フェンスが、1.5mの距離にある。		●	
116	T02-116		カイヅカイブキ	3.5	47	1.5					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		小							道が、1.3mの距離にある。			●
117	T02-117		カイヅカイブキ	3.5	42	1.5					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		小										●
118	T02-118		ヒトツバタゴ	4.5	45	3					2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.59	C			○					○			有		大							傾斜木であり、幹が曲がっている。 フェンスが、1.3mの距離にある。			●
119	T02-119		シイノキ	8.0	200	12		2.07	0.66	2.64	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				○			高	大	有	○	無	ー	ー	6	4	10	6.7	幹に開口空洞があるが、移植に問題はない。 枝張りが大きいが、場内移植ならば可能である。		●（変更樹木）	
122	T02-122		ネズミモチ	5	2本立	3	40,12				2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B			○					○			有		大							マンホールが、0.3mの距離にある。			●
123	T02-123		ネズミモチ	5	2本立	3	25,11				2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B			○					○			有		大							コンクリート基礎が、1.1mの距離にある。			●
124	T02-124		ネズミモチ	5	2本立	3	20,42				2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B			○					○			有		大							コンクリート基礎が、1.1mの距離にある。			●
125	T02-125		ヒメシャラ	4	29	2					2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.25	B		○		○							有		大							コンクリート園路から、1.0mの距離にある。 イチョウ(東側)と建物による、被圧あり。		●	
126	T02-126		イチョウ	20	2本立	8	277,204				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○							○			有		無							双幹の南側の幹H2.2mに、開口空洞 10×5×7あり。また、その下部に、打音異常あり。 大枝(北側)H3.0mに、スタブカット(枯損)φ12cm,L=35cmあり。 擁壁に、北・東・西側を囲まれている(距離1.3m～1.5m)。	●		
127	T02-127		ネズミモチ	3	2本立	2	32,27				3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	2.84	C			○					○			有		大							擁壁に、近接している。			●
128	T02-128		ネズミモチ	3	32	1.5					3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	2.84	C			○					○			有		大							根元(北側)H0.0m～0.3mに、腐朽 30×10あり。			●
129	T02-129		ネズミモチ	3	3本立	3	19,10,15				3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.75	C			○					○			無		大										●
130	T02-130		ネズミモチ	3	33	2					4.0	4.0	3.5	3.5	3.5	3.5	3.67	D			○					○			有		大							高さH1.5mで、断幹されている。 擁壁が、1.5mの距離にある。			●
131	T02-131		ネズミモチ	4	2本立	3	35,42				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		中							高さH3.0mで、断幹されており、萌芽状態にある。			●
133	T02-133		マテバシイ	8	131	5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.42	B			○					○			有		小							大枝に、ぶつ切り剪定、腐朽が、多数あり。 擁壁が、2.2mの距離にある。 石垣の上に位置する。 旧樹木番号：E286	●		
134	T02-134		マテバシイ	8	141	6					2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.34	B			○					○			有		小							幹(南側)H3.0mに、開口空洞 13×13 巻込みあり。 ひこばえが、多数あり。 擁壁が、2.5mの距離にある。 石垣の上に位置する。 旧樹木番号：E287, E288	●		
135	T02-135		マテバシイ	6	160	6					2.5	2.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.75	C			○					○			有		中							大枝に、剪定痕・腐朽、剪定こぶが、多数あり。 露出根が、多数あり。巻き根(中)あり。ひこばえが、多数あり。 石積みから、1.8mの距離にある。 石垣の上に位置する。	●		
136	T02-136		ヤマモモ	7	89	4					2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B	○			○							有		小							コンクリート基礎(φ120cm)が、0.6mの距離にある。 石垣の上に位置する。 旧樹木番号：E289	●		
137	T02-137		ヤマモモ	7	94	3					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							無		小							目立った傷は、見当たらない。 旧樹木番号：E290	●		
138	T02-138		ヤマモモ	7	83	3					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○			○							無		小							幹H2.5mに、開口空洞・腐朽 40×40×10 巻込み(弱)あり。 旧樹木番号：E291	●		
139	T02-139		ヤマモモ	7	93	4					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○							無		小								●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(34)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名	テニス場室内コート・御台場西（T02-126以降）	調査日	2018年12月25日～2019年1月28日　2022年5月9日※青字記載：追加詳細調査対象樹木	:追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格							活力度								保存の必要性			移植					調査項目																備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
				樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・衰	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難			不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象者	剪定・開接者	土壌硬度				土壌硬度3回平均								
											1～4評価								該当に○			該当に○ ※雌の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満								
																	ABCD					A	B	C																							
140	T02-140		マテバシイ	8	3本立	10	94,105,89				3.0	3.0	3.5	3.5	2.5	2.5	3.00	C			○					○				有		小											根元・幹(東側)H0.0m～1.6mに、開口空洞・腐朽 160×30×15、打音異常あり。 大枝に、剪定痕が、多数あり。 露出根が、多数あり。ひこばえが、多数あり。 石積みから、2.7mの距離にある。 旧樹木番号：E293	●		
141	T02-141		マテバシイ	8	190	10					3.0	3.0	3.5	3.5	2.5	2.5	3.00	C			○					○				無		小											幹H1.7mに、開口空洞・腐朽 60×12×18、打音異常あり。 ひこばえが、多数あり。	●		
142	T02-142		マテバシイ	8	3本立	5	80,103				3.0	3.0	3.5	3.5	2.5	2.5	3.00	C			○					○				有		小											3本立の内、西側の1本が、枯損し、H1.7mで断幹φ40cmされている。 ひこばえが、多数あり。 石積みから、1.7mの距離にある。 旧樹木番号：E295	●		
143	T02-143		アラカシ	4.5	4本立	2	7,5,8,12				3.5	3.5	3.0	3.5	2.5	3.0	3.17	C			○					○				有		大											隣接するマテバシイに、近接している。 高さH1.8mで、梢端切除されている。 石積みから、1.8mの距離にある。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(35)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：建国記念文庫　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月18日～2022年4月19日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
1	KE-001		ヤエザクラ	7.0	82	6.0					2.5	3.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.75	C			○					○			有		中							幹に、打音異常 H0.0m～1.2mあり。 開口空洞 10×10×10あり。 根元の穴に、ベッコウタケの子実体あり。 樹幹傾斜あり。			●
2	KE-002		ヤエザクラ	8.0	129	6.0		2.08	0.66	2.65	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	大	有	○	無	―	―	―	―	―	―	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1m。 剪定により移植後の樹形樹勢維持困難。			●
3	KE-003		ヤエザクラ	8.0	2本立	8.5	158,92	2.45	0.78	3.12	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	大	有	○	無	―	―	―	―	―	―	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.1m。適正根鉢確保困難。 移植後の樹形樹勢維持困難。			●
4	KE-004		ヤエザクラ	8.0	2本立	6.0	101,74	1.70	0.54	2.17	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	有	○	無	―	―	―	―	―	―	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.1m。幹H1mに開口空洞。 大枝H2.5m に腐朽。移植後の樹形維持困難。			●
5	KE-005		ヤエザクラ	6.0	90	6.0		1.95	0.62	2.48	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	樹冠上部枯死、樹形・樹勢は不良、移植対象外。			●
6	KE-006		トウネズミモチ	3.0	2本立	1.5	39,28				2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○					○			有		大							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
7	KE-007		シイノキ	7.5	184	10.0		2.10	0.67	2.68	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B			○				○		高	大	有	○	無	―	―	―	―	―	―	枝の分布に偏り(道路側)あり。腐朽、損傷も多い。 移植後の樹形樹勢維持困難。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m(フェンスは撤去可能)。			●
8	KE-008		シイノキ	7.0	148	10.0		2.15	0.68	2.74	3.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.5	2.50	B			○				○		高	大	無	○	無	―	―	―	―	―	―	大枝(東側上部)にキノコあり。 大枝(東側下部)に剪定痕からの腐朽あり。 枝の分布に偏り(道路側)あり。			●
9	KE-009		シイノキ	5.0	52	4.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							有		大							被圧による、枝枯れ(中)あり。 盛土あり。		●	
10	KE-010		ケヤキ	20.0	2本立	20.0	259,167	3.68	1.17	4.69	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.84	B	○					○			超	超	無	○	無	大	無	20	19	22	20.3	移植時細い株は切断。 上部剪定では樹形不良。		●	
11	KE-011		シイノキ	6.0	118	4.0					2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.84	B		○		○							無		大							大枝に、腐朽(小)あり。		●	
12	KE-012		シイノキ	6.0	65	4.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		大							高さH2.0mに、被圧による枝枯れ、腐朽あり。		●	
13	KE-013		シイノキ	7.0	115	6.0					2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.5	2.34	B			○					○			有		大							樹冠傾斜あり。 根元(南側)H0.2mに、開口空洞 30×6×10あり。 幹(南側)H0.6mに、開口空洞 15×5×4あり。 幹(南側)H1.4mに、開口空洞 23×7×25(芯達)あり。 幹(南側)2.5mに、開口空洞 幅20cm,深さ10cm、打音異常あり。			●
14	KE-014		トウカエデ	15.0	127	8.0		2.00	0.64	2.55	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○			○				超	大	無	○	大	無	無	24	18	20	20.7	被圧樹形(現状剪定の必要なし)。 上部剪定でも樹勢、枝葉回復力高い種。		●	
15	KE-015		シイノキ	7.0	136	9.0					2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		大							根元・幹に、打音異常 H0.0m～2.0mあり。 幹H0.9mに、開口空洞 25×6×15あり。 大枝に、剪定痕からの腐朽(中)が、3箇所あり。			●
16	KE-016		シラカシ	18.0	162	8.0		2.04	0.65	2.60	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				○			超	大	無	○	無	無	無	19	15	22	18.7	根元に樹液の漏出あり、スズメバチの餌場になっている。(近づけないので根元周径は根元径から算出)。 上部剪定で樹形維持困難。		●	
17	KE-017		ケヤキ	20.0	130	10.0		2.00	0.64	2.55	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.84	B		○				○			超	大	無	○	無	無	無	20	19	21	20.0	上部剪定で樹形維持困難。		●	
18	KE-018		フウ	20.0	196	10.0		2.64	0.84	3.36	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B		○				○			超	超	無	○	無	無	無	22	24	22	22.7	上部剪定で樹形維持やや難。		●	
19	KE-019		フウ	20.0	194	15.0		2.55	0.81	3.25	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.00	B			○			○			超	超	有	×	無	無	無	22	19	24	21.7	移植に向けた剪定で適正樹形の維持がやや困難(12mまで下枝なし)。太い露出根(北側)あり。 幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.55m(北側)、1.9m(東側)。		●	
20	KE-020		シイノキ	12.0	116	8.0		1.52	0.48	1.94	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.17	B		○			○				高	高	無	○	無	無	無	19	18	24	20.3	樹形維持可能。		●	
21	KE-021		トウカエデ	15.0	136	7.0		1.90	0.61	2.42	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○			○				超	大	無	○	無	無	無	21	22	18	20.3	移植後の樹形回復早い種。		●	
22	KE-022		クヌギ	20.0	221	25.0		2.58	0.82	3.29	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.34	B		○				○			超	超	無	○	無	無	無	19	21	20	20.0	上部剪定で樹形維持困難(12mまで下枝なし)。		●	
23	KE-023		クロマツ	15.0	64	7.0					3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.92	C			○					○			無		大							被圧による、下枝の枯れが、著しい。			●
24	KE-024		シイノキ	8.0	165	7.0					2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			無		中							高さH5.0mにて、断幹されている。 幹H1.0mに、開口空洞 7×5×32/35(芯達)あり。 幹に、打音異常 H0.0m～2.0mあり。			●
25	KE-025		ケヤキ	20.0	213	20.0		2.49	0.79	3.17	2.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					○			超	大	有	○	無	無	無	20	15	21	18.7	上部剪定で適正樹形維持困難(H3.0mで断幹され、そこから伸長した双幹状の樹形)。 幹芯から柵までの離隔距離0.5m。		●	
26	KE-026		クスノキ	18.0	99	8.5		1.26	0.40	1.61	2.5	2.5	1.0	2.5	2.5	3.0	2.34	B		○			○				超	高	無	○	無	無	無	14	16	17	15.7	クスノキは萌芽力高く樹形回復力ある。		●	
27	KE-027		シイノキ	10.0	106	12.0		2.96	0.94	3.77	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.43	B			○				○		高	超	無	×	有	―	―	―	―	―	―	移植に向けた剪定で適正樹形の維持が困難(樹幹傾斜および枝の分布に極端な偏り(道路側)あり)。			●
28	KE-028		サンゴジュ	3.0	2本立	2.5	18,23				3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.67	C		○		○							無		大									●	

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(36)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：造園記念文庫　　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月18日～2022年4月19日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　　：追加調査項目

通番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	横幅の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・調査樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※:難の内、保存樹木のための詳細調査対象外						超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満		該当に●●:変更樹木		
31	KE-031		クスノキ	20.0	245	20.0		3.01	0.96	3.83	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.25	B		○				○			超	超	有	○	無	無	無	15	12	17	14.7	根元がフェンスに喰い込んでいるが、フェンス撤去により根鉢確保可能(場内の場合)。クスノキは萌芽力あり。		●	
32	KE-032		クロマツ	10.0	95	7.0		1.07	0.34	1.36	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.67	C			○				○		高	高	無	○	無	－	－	－	－	－	－	下枝が高く、道路側へ大きく傾斜。移植対象樹に適さない。(土壌汚染エリア)			●
33	KE-033		ケヤキ	20.0	222	20.0		3.00	0.96	3.82	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				○			超	超	無	○	無	無	無	17	20	16	17.7	上部剪定で樹形維持困難。ケヤキらしさがなくなる。		●	
34	KE-034		ケヤキ	20.0	189	18.0					3.0	3.0	3.5	3.0	3.0	2.5	3.00	C			○				○				無		大							大枝に、開口空洞 400×25あり。深植え状態にある。周辺木からの、被圧(大)あり。			●
35	KE-035		シラカシ	20.0	175	16.0		2.40	0.76	3.06	2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					○			超	大	無	○	無	無	無	20	20	22	20.7	上部剪定でも樹形維持可能。(土壌汚染エリア)		●	
36	KE-036		シイノキ	15.0	201	18.0		2.91	0.93	3.71	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○			○			超	超	無	○	無	無	無	17	21	21	19.7	上部剪定では樹形維持困難。		●	
37	KE-037		ヤエザクラ	10.0	79	10.0					3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.17	C			○				○				無		大							樹幹傾斜あり。幹に、打音異常(大) H0.5m～2.5mあり。樹木番号KE-036シイノキからの、被圧(大)あり。			●
38	KE-038		トウカエデ	20.0	146	10.0		2.30	0.73	2.93	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.34	B		○			○				超	大	無	○	無	無	無	16	18	18	17.3	上部剪定しても樹形維持可能。萌芽力高い。		●	
39	KE-039		ヤエザクラ	10.0	134	10.0		1.53	0.49	1.95	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○				○		高	高	無	○	無	－	－	－	－	－	－	樹幹傾斜、樹形不良。			●
40	KE-040		イヌグス	6.0	55	5.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		中									●	
41	KE-041		ヒトツバタゴ	8.0	195	10.0		1.81	0.58	2.31	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○			○				高	高	無	○	無	無	無	21	21	16	19.3	樹形維持可能。		●	
42	KE-042		ヒトツバタゴ	5.0	46	5.0					3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.84	C		○		○							無		大							大枝に、剪定痕からの腐朽が、数か所あり。深植え状態にある。		●	
43	KE-043		ヤマザクラ	10.0	94	6.0					3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.75	C			○				○				無		大							ひこばえ、胴吹き枝が、多数あり。下枝が高い。			●
44	KE-044		トウカエデ	18.0	165	7.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		中							フェンスが、近接している。過去に、大枝のぶつ切り剪定されている。ヘデラの登ハンあり。	●		
45	KE-045		シラカシ	16.0	128	7.0					2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.34	B		○				※					有		大							幹H2.0mに、開口空洞 8×8×15あり。根元が、フェンスにくい込んでいる。フェンスが、近接している。ヘデラの登ハンあり。	●		
46	KE-046		シイノキ	12.0	164	10.0		1.87	0.60	2.38	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	無	－	－	－	－	－	－	根元H0.1mに開口空洞 (80cm×15(68)cm×25/45cm、芯達)あり。根元の障害が大きく、移植樹に適さない。			●
47	KE-047		シイノキ	12.0	188	10.0					2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○				無		大							根元・幹(北側)に、開口空洞(大) 170×15×40/50(芯達)あり。幹内部の空洞が、幹上方へ1.0m続いている。	●		
48	KE-048		シイノキ	15.0	186	8.0		2.29	0.73	2.92	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○			○				超	大	無	○	無	無	無	14	13	18	15.0	上部剪定後も樹形維持可能。		●	
49	KE-049		ケヤキ	20.0	248	20.0					2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○				○				無		小							幹H0.6mに、開口空洞(大) 230×50×20/70あり。			●
50	KE-050		クヌギ	20.0	170	10.0					3.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.92	B			○				○				無		小							中央部・下部に、大枝がない。剪定痕の巻込み良好。			●
51	KE-051		シラカシ	20.0	126	8.0		1.44	0.46	1.83	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	2.00	B	○				○				超	高	無	○	無	無	無	25	25	24	24.7	移植後の樹形維持可能。比較的細い幹。		●	
52	KE-052		シラカシ	15.0	101	8.0					2.5	2.0	3.0	2.0	1.5	2.0	2.17	B			○				○				無		中							樹幹傾斜(中)(西側)あり。片枝樹形である。幹H0.3mに、開口空洞(大) 400×10×20/30(芯達)あり。	●		
53	KE-053		サクラ	4.0	25	3.5					2.0	2.0	1.0	2.5	2.0	2.5	2.00	B	○			○							無		大							周辺木からの、被圧あり。	●		
54	KE-054		シイノキ	18.0	238	10.0					2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	1.5	2.09	B			○				○				有		大							北側に、樹皮欠損(大) 230×15あり。高さH0.4mに、アイカワタケ(ヒラフスベ型)の子実体あり。フェンスが、1.0m(北側)の距離にある。	●		
55	KE-055		ツバキ	6.0	45	4.0					1.5	1.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.75	A			○				○				無		中							根元・幹(北側)に、開口空洞(大) 147×7×9/15(芯達)あり。	●		
56	KE-056		ケヤキ	20.0	280	18.0					1.5	2.0	4.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○				○				無		小							幹H0.8mに、開口空洞(大) 120×11×70/70(南北に貫通開口)あり。幹内部の空洞が、幹上方へ、2.0m続いている。	●		
57	KE-057		ムクノキ	18.0	192	12.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					無		中							根上り(中)あり。巻き根(中)あり。	●		
58	KE-058		ケヤキ	20.0	190	10.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		中							樹幹傾斜(小)(北側)あり。片枝樹形である。フェンスが、1.0m(北側)の距離にある。	●		
59	KE-059		シイノキ	12.0	124	6.0		1.46	0.46	1.86	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○			○				高	高	無	○	無	無	無	18	21	22	20.3	樹形維持可能。		●	
60	KE-060		ケヤキ	20.0	265	20.0					1.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○				無		小							幹(東側)に、開口空洞・腐朽(大) 200×15×40/70(芯達)あり。空洞内部に、コフキサルノコシカケの子実体あり。	●		
61	KE-061		コブシ	8.0	62	6.0					3.5	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	2.50	B			○				○				無		中							高さH4.0mにて、断幹されている。	●		
62	KE-062		ケヤキ	20.0	200	20.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					無		中							被圧により、樹冠傾斜(中)(北側)あり。巻き根(中)あり。	●		
63	KE-063		ネズミモチ	4.0	2本立	3.0	26,27				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		小							巻き根(小)あり。	●		
65	KE-065		クスノキ	20.0	192	8.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					無		中							樹幹傾斜(中)(東側)あり。根上り(中)あり。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、通番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(37)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：建国記念文庫　　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月18日～2022年4月19日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傾	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	離 A	B	C	不可	樹冠15/16	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象箇	剪定・開放箇	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※:着の内、保存樹木のため詳細調査対象外						極大高	極大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無						該当に● ●:変更樹木			
66	KE-066		ヤエザクラ	12.0	2本立	6.0	80,111				3.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○				※						有		大								樹幹傾斜(大)(北側)あり。 フェンスが、1.0m(北側)の距離にある。	●		
67	KE-067		コブシ	12.0	201	9.0					4.0	2.5	3.0	2.5	3.0	3.0	3.00	C			○					○				有		中								高さH2.2mにて、断幹されている。 樹形が、崩壊している。 フェンスが、1.0m(北側)の距離にある。	●		
68	KE-068		シダレザクラ	10.0	113	5.0					3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	3.0	2.59	C			○					○				有		大								骨格を成す大枝が、少ない。 根上り(中)あり。 舗装が、1.0m(東側)の距離にある。	●		
69	KE-069		シダレザクラ	5.0	46	3.0					4.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.84	C			○					○				無		中								高さH2.2mにて、断幹されている。	●		
70	KE-070		シダレザクラ	5.0	81	3.0					4.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.17	C			○					○				無		大								高さH2.2mにて、断幹されている。 樹形が、崩壊している。	●		
71	KE-071		ヒトツバタゴ	4.0	23	4.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○		○									無		大								下枝がない。	●		
72	KE-072		ケヤキ	20.0	340	20.0					2.0	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.75	A	○							○				有		中								樹木番号KE-073ケヤキに、近接しており、移植不可である。 根上り(大)あり。	●		
73	KE-073		ケヤキ	10.0	152	10.0					2.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.84	B	○							○				有		中								樹木番号KE-072ケヤキに、近接しており、移植不可である。			●
74	KE-074		ヤエザクラ	10.0	129	8.0					3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○				有		小								樹木番号KE-075ヤエザクラに、近接しており、移植不可である。 フェンスが、0.3m(南側)の距離にある。			●
75	KE-075		ヤエザクラ	8.0	108	8.0					3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○				有		小								樹木番号KE-074ヤエザクラに、近接しており、移植不可である。 大枝に、剪定痕からの腐朽 30×30あり。			●
76	KE-076		ヤエザクラ	10.0	138	8.0					3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.42	B			○					○				有		小								大枝に、剪定痕からの腐朽 20×20あり。 チャアナタケモドキの子実体あり。 フェンスが、1.3m(南側)の距離にある。	●		
77	KE-077		ヤエザクラ	12.0	2本立	10.0	102,116				3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○				有		中								樹幹傾斜(大)(北側)あり。 双幹の一方が、高さH3.0mにて、断幹されている。	●		
78	KE-078		ヤエザクラ	5.0	51	4.5					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※						有		大								樹幹傾斜(大)(北側)あり。	●		
79	KE-079		ヤエザクラ	8.0	130	8.0					3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○				有		大								樹幹傾斜(大)(北側)あり。 根元が、フェンスにくい込んでいる。	●		
80	KE-080		ヤエザクラ	8.0	83	8.0					3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○				有		大								樹幹傾斜(大)(北側)あり。 フェンスが、1.0m(北側)の距離にある。	●		
81	KE-081		ヤエザクラ	8.0	126	8.0					3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○				有		大								樹幹傾斜(大)(北側)あり。 根上り(大)あり。 縁石に、乗り上げあり。	●		
82	KE-082		シダレザクラ	10.0	81	10.0					3.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.5	2.50	B			○					○				有		大								片枝樹形である。 下枝がない。 フェンスが、0.3m(南側)の距離にある。	●		
83	KE-083		ヤエザクラ	10.0	77	6.0					3.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.42	B			○					○				有		大								高さH3.2mにて、断幹されている。 片枝樹形である。 フェンスが、0.7m(東側)の距離にある。			●
84	KE-084		シラカシ	10.0	132	8.0		1.84	0.59	2.34	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○				○					高	高	有	○	無	無	無	14	12	12	12.7	幹芯から歩道縁石までの離隔距離1.15m。 根鉢確保、樹形維持可能。 (土壌汚染エリア)		●	
85	KE-085		ヒトツバタゴ	5.0	2本立	5.0	35,20	0.49	0.16	0.62	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○				○					高	高	有	○	無	無	無	19	13	15	15.7	幹芯からフェンス(北側)までの離隔距離0.85m、自動販売機基礎(東側)までの離隔距離0.9m。根鉢径が一部変形するが、根鉢確保可能。大きくはない。(土壌汚染エリア)		●	
87	KE-087		フウ	14.0	158	8.0		1.90	0.61	2.42	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○				○					大	大	有	○	無	無	無	10	10	15	11.7	幹芯から枕木階段(北側)までの離隔距離0.6m。 樹形維持、根鉢確保可能。 (土壌汚染エリア)		●	
88	KE-088		ウバメガシ	6.0	6本立	6.0	93,85,70,84,69,115	2.72	0.87	3.46	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				○				高	超	無	○	無	無	無	19	16	20	18.3	萌芽力旺盛。 (土壌汚染エリア)		●	
89	KE-089		シラカシ	12.0	137	8.0		1.57	0.50	2.00	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.75	A			○				○		高	高	有	○	無	–	–	–	–	–	–	根元、園路の枕木と接触あり。 幹に屈曲あり、移植対象樹として適さない。			●
90	KE-090		ヒトツバタゴ	6.0	2本立	6.0	35,53				2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○			○								無		小								枝の伸長が、東側で、多い。		●	
93	KE-093		フウ	10.0	149	8.0		1.88	0.60	2.39	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.34	B		○			○					高	高	有	○	無	無	無	13	10	14	12.3	幹芯からフェンスまでの離隔距離0.8m。 根鉢確保、適正樹形可能。 (土壌汚染エリア)		●	
94	KE-094		ヒトツバタゴ	5.0	77	6.0					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.75	C			○					○				有		大								樹幹傾斜あり。 根元(北側)に、開口空洞 15×30×15あり。 根元・幹に、打音異常 H0.0m～1.0mあり。 フェンスが、近接している。			●
95	KE-095		ヒトツバタゴ	4.0	2本立	5.0	50,47				3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.84	C			○					○				無		大								大枝が、ぶつ切り剪定されている。 枝抜け痕が、数か所あり。 ヘデラの登ハンあり。			●
96	KE-096		ヒトツバタゴ	8.0	78	6.0		1.13	0.36	1.44	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○			○					高	高	有	○	無	無	無	17	18	17	17.3	幹芯からフェンスまでの離隔距離0.8m。根鉢確保可。 傾いているが移植樹として適。 (土壌汚染エリア)		●	
97	KE-097		ヒトツバタゴ	8.0	68	4.5					3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.92	C			○					○				有		大								下枝が高い。 深植え状態にある。 フェンスが、近接している。			●
98	KE-098		シイノキ	10.0	213	10.0		2.75	0.88	3.50	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B	○						○			高	超	無	○	無	–	–	–	–	–	–	幹芯からフェンスまでの離隔距離1.6m。 葉張りがあり、大枝切断で樹形、樹勢維持困難。 腐朽、空洞も多い。不適。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(38)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：建国記念文庫　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月18日～2022年4月19日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格：樹高(m)	規格：幹周(cm)	規格：葉張(m)	規格：株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度：樹形	活力度：樹勢	活力度：大枝幹の欠損・傷	活力度：枝伸長量	活力度：梢端の枯損	活力度：枝葉の密度	平均評点	評価結果
											1～4評価							ABCD
99	KE-099		ヒトツバタゴ	10.0	2本立	5.0	33,77				2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B
100	KE-100		ヒトツバタゴ	10.0	136	8.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B
102	KE-102		ヒトツバタゴ	5.0	47	5.0					3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.84	C
103	KE-103		ヒトツバタゴ	8.0	82	5.0					2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C
104	KE-104		ヒトツバタゴ	3.0	22	3.5					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C
105	KE-105		マテバシイ	6.0	139	8.0					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C
107	KE-107		ヤエザクラ	16.0	210	8.0					2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.50	B
108	KE-108		ヤエザクラ	10.0	157	8.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B
109	KE-109		ヤエザクラ	10.0	125	8.0					3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C
110	KE-110		ヤエザクラ	10.0	2本立	10.0	69,154				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.75	C
111	KE-111		ヒトツバタゴ	4.0	22	4.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B
112	KE-112		ケヤキ	20.0	224	10.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B
113	KE-113		ヤエザクラ	6.0	58	3.0					3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.25	C
114	KE-114		ヒトツバタゴ	3.0	19	4.0					2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C
115	KE-115		ケヤキ	20.0	246	20.0					2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.25	B
116	KE-116		ヤエザクラ	6.0	56	6.0					3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D
117	KE-117		ヤエザクラ	18.0	120	6.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B
119	KE-119		ヒトツバタゴ	5.0	23	4.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B
120	KE-120		ヒトツバタゴ	9.0	2本立	6.0	54,24				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B
121	KE-121		ヒトツバタゴ	8.0	62	4.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C
122	KE-122		ヤエザクラ	15.0	2本立	8.0	105,59				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C
123	KE-123		ヒトツバタゴ	5.0	27	4.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B
124	KE-124		コブシ	9.0	114	8.0					2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	2.75	C
125	KE-125		ヒトツバタゴ	4.0	25	5.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B

連番	保存の必要性：高	保存の必要性：中	保存の必要性：低	移植：可	移植：難 A	移植：難 B	移植：難 C	移植：不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
99		○				※					有		大							高さH1.1mで、幹が、2分岐している。 大枝(北側)に、打音異常(大)あり。 フェンスが、近接している。	●		
100		○				※					有		中							巻き根あり。 深植え状態にある。 フェンスが、近接している。	●		
102			○					○			有		大							根元・幹に、打音異常 H0.0m～1.0mあり。 深植え状態にある。 フェンスが、近接している。	●		
103		○				※					有		大							大枝(東側)に、打音異常あり。 深植え状態にある。 フェンスが、近接している。	●		
104			○					○			有		大							深植え状態にある。 樹木番号KE-115ケヤキからの、被圧(大)あり。 フェンスが、近接している。	●		
105			○					○			有		大							大枝が、ぶつ切り剪定されている。 幹(西側)に、大枝剪定痕からの腐朽あり。 根元・幹に、打音異常(大) H0.0m～2.5mあり。 幹に、樹皮枯死が、多数あり。 フェンスが、近接している。	●		
107			○					○			有		大							樹幹傾斜あり。 幹H1.2mに、開口空洞 25×20×35/55(芯達)あり。 根元・幹に、打音異常 H0.0m～2.0mあり。 巻き根あり。 樹木番号KE-108ヤエザクラと、競合している。 フェンスが、近接している。	●		
108		○				※					有		大							大枝が、ぶつ切り剪定されている。 巻き根あり。 根上りあり。 樹木番号KE-107ヤエザクラと、競合している。 フェンスが、近接している。	●		
109			○					○			有		大							根元が、フェンスにくい込んでいる。 樹幹傾斜あり。 根元・幹(東側)に、打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 大枝(東側)に、打音異常(大)あり。	●		
110			○					○			有		大							高さH1.1mで、幹が、2分岐している。 根元(西側)に、ベッコウタケの子実体が、多数あり。 根元・幹に、打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 巻き根あり。 大枝が、ぶつ切り剪定されている。 フェンスが、近接している。	●		
111		○		○							有		中							樹幹傾斜あり。 深植え状態にある。 フェンスが、近接している。	●		
112		○				※					無		中							大枝に、縦の亀裂あり。 大枝に、照明が巻き付き設置されている。 樹皮の脱落が多い。	●		
113			○					○			無		大							主幹頂部の枯れ下り、幹の折損痕・腐朽あり。	●		
114			○					○			無		大							幹H0.3mに、開口空洞 5×5×5/10(芯達)あり。	●		
115	○					※					有		中							樹幹傾斜(小)あり。 巻き根あり。 大枝が、ぶつ切り剪定されている。 フェンスが、近接している。	●		
116			○					○			無		大							断幹されている。 小枝が残るのみである。 幹に、開口空洞 15×10×12/18(芯達)あり。	●		
117			○					○			無		大							細い胴吹き枝があるものの、下枝高く、枝葉が少ない。 根元に、根頭がんしゅ病様のこぶあり。	●		
119		○		○							無		大							枝に、増生病が、多数あり。 幹に、打音異常 H0.0m～2.0mあり。 深植え状態にある。	●		
120		○		○							無		大							枝に、増生病が、多数あり。 幹に、打音異常 H0.0m～2.0mあり。 深植え状態にある。	●		
121			○					○			無		大							大枝に、スタブカットが、多数あり。 枝葉量が、少ない。	●		
122			○					○			無		大							双幹の一方が、切除されている。 下枝が高い。	●		
123		○		○							無		大							深植え状態にある。	●		
124		○				※					有		大							大枝が、ぶつ切り剪定されている。 幹H1.4mに、開口空洞 8×8×15あり。 園路脇に、位置する。	●		
125		○		○							無		大							樹幹傾斜あり。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(39)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：建国記念文庫　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月18日～2022年4月19日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	関連項目 樹高13/15	関連項目 根元径	関連項目 根元構造物	関連項目 根鉢確保	関連項目 片枝被圧	関連項目 剪定・対象樹	関連項目 剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
126	KE-126		ヤエザクラ	8.0	2本立	10.0	121,122				3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	2.92	C			○					○			有		大							断幹されている。 大枝(東側)に、打音異常(中)あり。 盛土あり。 大枝に、照明が巻き付き設置されている。 フェンスが、近接している。 園路脇に、位置する。	●		
128	KE-128		ヒトツバタゴ	5.0	49	5.0					3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.75	C		○		○							有		大							幹に、打音異常 H0.0m～2.0mあり。 深植え状態にある。 園路脇に、位置する。	●		
129	KE-129		ヤエザクラ	8.0	130	8.0					3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	3.0	2.84	C			○					○			有		大							樹幹傾斜あり。 大枝が、ぶつ切り剪定されている。 胴吹き枝が、多数あり。 園路脇に、位置する。	●		
130	KE-130		ヒトツバタゴ	8.0	119	6.0					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	3.0	2.75	C			○					○			無		大							根元に、開口空洞 10×8×25/40(芯達)あり。 胴吹き枝が、多数あり。	●		
131	KE-131		クロマツ	20.0	185	6.0		2.45	0.78	3.12	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B		○				○			超	大	無	○	無	無	無	15	17	15	15.7	上部剪定では適正樹形困難(12mまで下枝なし)。		●	
133	KE-133		シイノキ	15.0	224	10.0		2.98	0.95	3.80	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B			○				○		超	超	有	○	無	—	—	—	—	—	—	幹内部に空洞。 大枝剪定で樹形、樹勢維持困難。不適。			●
134	KE-134		ヒトツバタゴ	7.0	42	3.0					3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	2.92	C			○					○			有		大							揺らぎ(大)あり。 根元・幹に、打音異常 H0.0m～2.0mあり。 深植え状態にある。 園路脇に、位置する。			●
135	KE-135		トウカエデ	15.0	155	4.0		2.05	0.65	2.61	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.84	C		○			○				超	大	無	○	無	無	無	19	20	22	20.3	隣木(シラカシ、クロマツ)からの被圧あり、剪定は不要。 移植後の樹形回復可能。		●	
136	KE-136		シラカシ	20.0	164	8.0		2.00	0.64	2.55	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B	○				○				超	大	無	○	無	無	無	16	19	20	18.3	移植後の樹形維持可能。		●	
137	KE-137		ヒトツバタゴ	6.0	28	3.0					3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	3.0	2.59	C		○		○							無		大							幹に、打音異常 H0.0m～2.0mあり。 幹に、樹皮欠損が、数か所あり。		●	
138	KE-138		ヒトツバタゴ	3.0	17	2.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		大							揺らぎ(大)あり。 枝葉が、少ない。 増生病が、多数あり。			●
139	KE-139		ヒトツバタゴ	9.0	39	4.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○		○							無		大							被圧による、枝枯れ、腐朽あり。 盛土(小)あり。		●	
140	KE-140		エノキ	20.0	169	14.0		2.02	0.64	2.57	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				○			超	大	無	○	無	無	無	17	18	17	17.3	下枝が高く上部剪定後の樹形維持困難。		●	
141	KE-141		ケヤキ	20.0	182	12.0		2.04	0.65	2.60	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B		○				○			超	大	無	○	無	無	無	18	20	17	18.3	上部剪定後の樹形維持は困難。		●	
142	KE-142		シイノキ	7.5	111	4.0					3.0	3.0	3.5	3.5	3.5	3.0	3.25	C			○					○			無		大							幹(西側)H1.3mに、開口空洞 90×20×20あり。ほか、開口空洞が、多数あり。			●
143	KE-143		ヒトツバタゴ	8.0	29	4.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○		○							無		大							被圧による、枝枯れ(中)あり。		●	
144	KE-144		シイノキ	9.0	93	8.0		1.20	0.38	1.53	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○			○				高	高	無	○	無	小	無	16	17	15	16.0	大枝の伸長(東側)があり、剪定の必要あり。 全景写真の樹高は9m。あまり大きくなく樹形維持可能。		●	
145	KE-145		ユーカリノキ	20.0	141	4.0					2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.00	B		○						○			無		中							被圧による、枝枯れが、多数あり。 ユーカリノキの大木は、移植困難である。			●
146	KE-146		ヒトツバタゴ	9.0	113	6.0		1.38	0.44	1.76	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○			○				高	高	無	○	小	無	小	15	15	15	15.0	隣木(KE-144シイノキ)からの被圧あり。 全景写真の樹高は8m。樹形維持可能。		●	
147	KE-147		ヒトツバタゴ	7.0	39	5.0					2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B		○		○							無		大							被圧による、枝枯れ(中)あり。		●	
148	KE-148		ヒトツバタゴ	5.0	28	4.0					2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.25	B		○		○							無		大							被圧による、枝枯れ(小)あり。		●	
149	KE-149		ヤエザクラ	10.0	2本立	12.0	141,114	2.05	0.65	2.61	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B			○				○		高	大	無	○	無	—	—	—	—	—	—	大枝の枯れ下がり(大)あり。樹形不良。			●
150	KE-150		フウ	20.0	171	10.0		1.80	0.57	2.29	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○			○				超	高	有	○	無	無	無	15	10	17	14.0	幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m(フェンスは撤去可)。 根鉢確保、樹形維持可能。		●	
151	KE-151		フウ	20.0	208	15.0		2.41	0.77	3.07	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○				○				超	大	無	○	無	無	無	13	15	14	14.0	上部剪定後の樹形維持可能。		●	
152	KE-152		ヒトツバタゴ	8.0	57	6.0					2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B		○		○							無		大							根元・幹に、打音異常(小) H0.0m～2.0mあり。 被圧による、枝枯れ(中)あり。		●	
153	KE-153		ヒトツバタゴ	3.0	22	4.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○		○							無		大							被圧による、枝枯れ(中)あり。		●	
155	KE-155		ヤエザクラ	9.0	73	5.0					3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D			○					○			無		大							幹の切断痕(H2.5m)に、カワラタケの子実体あり。 根元・幹に、打音異常(H0.0m以上)あり。			●
156	KE-156		モミジ	7.0	57	6.0					2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○					○			有		中							幹H0.7mに、開口空洞 13×15×15(芯達)あり。			●
157	KE-157		シラカシ	13.0	150	8.0		1.86	0.59	2.37	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		大	高	有	○	—	—	—	—	—	—	—	枝の分布に極端な偏りあり不適。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.6m。			●
158	KE-158		エノキ	15.0	164	10.0		2.10	0.67	2.68	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				○			超	大	無	○	中	無	中	12	16	18	15.3	隣木(KE-157シラカシ、KE-159シイノキ)からの被圧あり。 上部剪定後の樹形維持困難。片側枝少。		●	
159	KE-159		シイノキ	15.0	185	14.0		2.27	0.72	2.89	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		超	大	無	○	中	—	—	—	—	—	—	隣木(KE-158エノキ)を被圧、剪定の必要あり。 葉張り大きく、大枝剪定で樹形、樹勢維持困難。腐朽空洞も多い。不適。			●
161	KE-161		ヒトツバタゴ	3.0	23	4.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							無		大							盛土(小)あり。	●		
162	KE-162		トウネズミモチ	3.5	4本立	3.0	26,22,20,40				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			無		中							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(40)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：伊藤忠ビル周り　　調査日：2019年1月25～28日　2022年5月2日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　　：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常緑	樹種名	規格				損元周径(m)	損元径(D)	4D	活力度												保存の必要性			移植					調査項目														備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
					樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	株立数				樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	根幅の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高15/10	根元径	損元構造物	根株確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・時技術	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均				
												1～4評価						1～4評価				ABCD	該当に○			該当に○					最大高	最大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に●：変更樹木		
1	ビル周り	1	常緑	クスノキ	13.0	1.37	4.5		1.73	0.55	2.2	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.5	2.5	2.0	1.5	1.95	B			○			○		大	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
2	ビル周り	2	常緑	クスノキ	13.0	1.39	4.5		1.74	0.55	2.22	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.80	B			○			○		大	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
3	ビル周り	3	常緑	クスノキ	13.0	1.31	4.5		1.47	0.47	1.87	2.5	2.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.05	B			○			○		高	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
4	ビル周り	4	常緑	クスノキ	13.0	1.69	4.5		1.87	0.6	2.38	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.70	A			○			○		高	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
5	ビル周り	5	常緑	クスノキ	13.0	1.76	4.5		2.11	0.67	2.69	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.65	A			○			○		大	大	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
6	ビル周り	6	常緑	クスノキ	13.0	1.59	4.5		1.88	0.6	2.39	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.35	B			○			○		高	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
7	ビル周り	7	常緑	クスノキ	13.0	1.48	4.5		1.65	0.53	2.1	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.84	B			○			○		高	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
8	ビル周り	8	常緑	クスノキ	13.0	1.55	4.5		1.80	0.57	2.29	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.90	B			○			○		大	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
9	ビル周り	9	常緑	クスノキ	13.0	1.42	4.5		1.69	0.54	2.15	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.80	B			○			○		大	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
10	ビル周り	10	常緑	クスノキ	13.0	1.65	4.5		2.18	0.69	2.78	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.80	B			○			○		大	高	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
11	ビル周り	11	常緑	クスノキ	13.0	1.62	5.0		2.20	0.7	2.8	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.80	B			○			○		高	高	有	×	小	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。樹形に乱れあり(建物側の枝がない)、やや衰退傾向にある。幹芯から建物までの離隔距離2.3m、建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリアの確保が困難。			●
12	ビル周り	12	常緑	クスノキ	14.0	1.46	5.0		2.19	0.7	2.79	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.85	B			○			○		高	高	有	×	小	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリア確保が困難。			●
13	ビル周り	13	常緑	クスノキ	14.0	1.42	5.0		1.84	0.59	2.34	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.85	B			○			○		大	高	有	×	小	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリア確保が困難。			●
14	ビル周り	14	常緑	クスノキ	14.0	1.45	5.0		1.90	0.61	2.42	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.85	B			○			○		大	高	有	×	小	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリア確保が困難。			●
15	ビル周り	15	常緑	クスノキ	14.0	1.46	5.0		2.00	0.64	2.55	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.85	B			○			○		大	高	有	×	小	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリア確保が困難。			●
16	ビル周り	16	常緑	クスノキ	14.0	1.67	5.0		2.17	0.69	2.76	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.85	B			○			○		大	大	有	×	小	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリア確保が困難。			●
17	ビル周り	17	常緑	クスノキ	14.0	1.75	5.0		1.67	0.53	2.13	3.0	3.0	2.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○			○		大	高	有	×	小	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。根鉢確保と作業エリア確保が困難。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(41)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：伊藤忠ビル周り　／　調査日：2019年1月25～28日　2022年5月2日　※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

通番	エリア	樹木番号	常緑	樹種名	規格				根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度												保存の必要性			移植					調査項目													備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
					樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数				樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	損傷の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高15/16	根元径	根元横造物	損傷確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均				
												1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無									
18	ビル周り	18	常緑	クスノキ	14.0	1.69	5.0		1.99	0.63	2.54	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.85	B			○			○		大	大	有	×	小	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 根鉢確保と作業エリア確保が困難。			●
19	ビル周り	19	常緑	クスノキ	14.0	1.65	5.0		2.10	0.67	2.68	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.85	B			○			○		大	大	有	×	中	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 根鉢確保と作業エリア確保が困難。			●
20	ビル周り	20	常緑	クスノキ	14.0	1.76	5.0		2.23	0.71	2.84	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.90	B			○			○		大	大	有	×	小	－	－	－	－	－	－	ツリーサークル(直径2.5m)内に位置する。 建物からツリーサークル縁までの離隔距離1.2m。 根鉢確保と作業エリア確保が困難。			●
21	ビル周り	21	常緑	マテバシイ	6.0	0.61	2.0					4.0	4.0	4.0	3.5	3.5	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	3.00	C			○				○			有		小							幹(東側)に、開口空洞 H0.5m～2.5mあり。 径1.5mの植栽内に位置する。			●
22	ビル周り	22	常緑	マテバシイ	6.0	0.53	2.0					3.5	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.75	C			○				○			有		小							幹(東側)H2.0mに、亀裂(横方向に長さ20cm)、腐朽あり。 枝葉が、東側にない。 径1.5mの植栽内に位置する。			●
23	ビル周り	23	常緑	マテバシイ	6.0	0.58	3.0					3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.70	C			○				○			有		小							径1.5mの植栽内に位置する。			●
24	ビル周り	24	常緑	マテバシイ	6.0	0.70	2.0	2本立				3.5	3.5	2.5	3.0	3.0	3.5	3.0	3.0	2.5	2.0	2.95	C			○				○			有		小							径1.5mの植栽内に位置する。			●
25	ビル周り	25	常緑	マテバシイ	6.0	0.59	2.5	3本立				3.5	3.5	2.5	3.0	3.0	3.5	3.0	2.5	3.0	2.0	2.95	C			○				○			有		無							径1.5mの植栽内に位置する。			●
26	ビル周り	26	常緑	マテバシイ	6.0	0.76	2.0					3.5	3.5	3.5	3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.75	C			○				○			有		無							幹(南側)H1.2mに、開口空洞 90×10×5、打音異常あり。 径1.5mの植栽内に位置する。			●
27	ビル周り	27	落葉	ヒメシャラ	3.5	0.76	3.5	3本立				2.0	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	－	－	－	－	2.25	B		○		○							有		無							幹H1.2mに、開口空洞 20×11×6（巻込み中）あり。 幹H1.9mに、開口空洞 20×10×5（巻込み不良）あり。 腐朽枝あり。 1.8m×1.8mの植栽内に位置する。			●
28	ビル周り	28	落葉	ヒメシャラ	3.0	0.58	2.0	3本立				3.5	3.5	4.0	3.5	3.0	2.5	－	－	－	－	3.34	D			○				○			有		小							3本立の主幹が、高さH2.2mで断幹されている。 根元・幹H0.0m～1.0mに、腐朽 100×15あり。 1.8m×1.8mの植栽内に位置する。			●
29	ビル周り	29	落葉	ヒメシャラ	5.5	0.36	1.5					3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	－	－	－	－	2.75	C			○				○			有		無							径1.5mの植栽内に位置する。			●
30	ビル周り	30	常緑	マテバシイ	6.0	0.67	3.5					3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○				○			有		中							枝葉が、西側にない。 径1.5mの植栽内に位置する。 適正根鉢サイズの確保が困難である。			●
31	ビル周り	31	常緑	マテバシイ	6.0	0.62	4.0	2本立				3.5	3.5	2.5	3.0	2.5	3.5	2.5	2.5	2.0	1.5	2.70	C			○				○			有		中							枝葉が、西側にない。 径1.5mの植栽内に位置する。 適正根鉢サイズの確保が困難である。			●
32	ビル周り	32	常緑	マテバシイ	6.0	0.67	4.0					3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○				○			有		中							高さH3.5mに、亀裂(縦方向に長さ30cm)あり。 枝葉が、西側にない。 径1.5mの植栽内に位置する。 適正根鉢サイズの確保が困難である。			●
33	ビル周り	33	常緑	マテバシイ	6.0	0.90	4.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○					○			有		中							径1.5mの植栽内に位置する。 適正根鉢サイズの確保が困難である。			●
34	ビル周り	34	常緑	ホソバタイサンボク	6.0	0.46	2.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	1.5	2.25	B			○				○			有		中							露出根あり。 擁壁が、北側0.5m、南側0.9mの距離にある。			●
35	ビル周り	35	常緑	トウネズミモチ	8.0	1.06	4.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B			○				○			有		小							露出根あり。 幅1．4m(南北間)の狭植込地に位置する。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
36	ビル周り	36	常緑	シラカシ	8.0	0.90	4.0		1.28	0.41	1.63	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.15	B		○			○			高	高	有	○	無	－	－	20	18	16	18.0	露出根が見られるが、移植には問題なし。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.0m。樹形良好。			●
37	ビル周り	37	常緑	スダジイ	6.0	1.75	4.0	5本立				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C			○				○			有		無							露出根が、多数あり。移植後の活着が困難である。			●
38	ビル周り	38	常緑	モチノキ	5.0	0.38	3.0					2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○					○			有		無							露出根が、多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が、北側0.9mの距離にある。			●
39	ビル周り	39	常緑	シラカシ	8.0	0.86	4.0					2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.30	B			○				○			有		無							根元に、開口空洞30×15×25、打音異常あり。 露出根が、多数あり。移植後の活着が困難である。 マンホールが、西側0.7mの距離にある。 擁壁が、北側1.3mの距離にある。			●
40	ビル周り	40	常緑	キンモクセイ	4.0	0.74	2.0	4本立				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.65	C			○				○			有		小							枝葉が、北側にない。 露出根あり。 擁壁が、北側0.6mの距離にある。			●
41	ビル周り	41	常緑	キンモクセイ	3.5	0.31	1.5	2本立				3.5	3.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.75	C			○				○			有		小							露出根あり。 擁壁が、北側0.6mの距離にある。			●
42	ビル周り	42	常緑	マテバシイ	7.0	0.72	3.0					3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	3.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.85	C			○				○			有		無							露出根が、多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が、北側1.4mの距離にある。			●
43	ビル周り	43	落葉	ノムラモミジ	4.5	0.46	2.5					2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	－	－	－	－	2.75	C			○				○			無		小							露出根あり。 巻き根あり。			●
44	ビル周り	44	常緑	マテバシイ	7.0	0.72	3.0					3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.55	C			○				○			有		無							露出根あり。 ひこばえあり。 擁壁が、北側0.8mの距離にある。			●
45	ビル周り	45	落葉	ノムラモミジ	4.5	0.45	2.5					2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	－	－	－	－	2.75	C			○				○			無		小							露出根あり。 巻き根あり。			●

該当に●：変更樹木

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(42)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：伊藤忠ビル周り　調査日：2019年1月25～28日　2022年5月2日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
												1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
46	ビル周り	46	常緑	マテバシイ	6.0	0.70	2.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.80	C			○					○			有		小							露出根あり。 擁壁が、北側0.7mの距離にある。			●
47	ビル周り	47	常緑	ヒイラギモクセイ	3.5	0.45	2.0	2本立				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○			無		中							露出根が、多数あり。移植後の活着が困難である。			●
48	ビル周り	48	落葉	ノムラモミジ	4.0	0.63	3.0					2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	—	—	—	—	2.59	C			○					○			有		小							根元に、傷(横方向に幅25cm)あり。 擁壁が、南側0.8m、西側0.6mの距離にある。			●
49	ビル周り	49	常緑	モチノキ	4.0	0.41	1.5					2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.45	B			○					○			有		中							露出根あり。 マンホールが、0.3mの距離にある。 擁壁が、0.5mの距離にある。			●
50	ビル周り	50	常緑	ヒイラギモクセイ	3.5	0.63	2.0	4本立				3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5	2.45	B			○					○			有		中							マンホールが、0.4mの距離にある。 擁壁が、0.5mの距離にある。			●
51	ビル周り	51	常緑	マテバシイ	6.0	0.65	3.0					3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.55	C			○					○			有		小							露出根が、多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が、0.4mの距離にある。			●
52	ビル周り	52	常緑	キンモクセイ	3.0	0.20	2.0	2本立				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.0	2.85	C			○					○			有		中							擁壁が、0.4mの距離にある。			●
53	ビル周り	53	常緑	キンモクセイ	3.0	0.36	3.0	3本立				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.0	2.85	C			○					○			有		無							擁壁が、0.4mの距離にある。			●
54	ビル周り	54	落葉	ノムラモミジ	4.0	0.34	1.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	—	—	—	—	3.00	C			○					○			無		無							根元に、開口空洞・腐朽 20×40×30あり。 露出根あり。			●
55	ビル周り	55	常緑	キンモクセイ	3.0	0.49	2.0	3本立				3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.55	C			○					○			有		小							露出根あり。 擁壁が、0.6mの距離にある。			●
56	ビル周り	56	落葉	エゴノキ	3.0	0.29	1.5	2本立				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	—	—	—	—	3.00	C			○					○			無		中										●
57	ビル周り	57	常緑	マテバシイ	6.0	0.66	3.0					3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.5	2.60	C			○					○			有		無							マンホールが、0.7mの距離にある。 擁壁が、1.1mの距離にある。			●
58	ビル周り	58	常緑	トウネズミモチ	7.0	1.15	3.0	4本立				2.5	2.5	4.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○					○			有		小							1株(西側)に、腐朽、枯損あり。 設備用のH鋼に、接触している。 露出根あり。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
59	ビル周り	59	常緑	トウネズミモチ	5.5	0.29	2.5	2本立				3.0	3.5	3.0	3.5	3.0	3.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.70	C			○					○			有		大							露出根あり。 マンホールが、0.2mの距離にある。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
60	ビル周り	60	落葉	ケヤキ	8.0	1.22	5.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	—	—	—	—	3.09	C			○					○			有		無							露出根が、多数あり。移植後の活着が困難である。 擁壁が、東側0.8m、南側1.0mの距離にある。			●
61	ビル周り	61	常緑	モッコク	5.0	0.48	2.5					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	1.5.	2.34	B			○					○			有		無							排気塔？が、北側0.6mの距離にある。			●
62	ビル周り	62	常緑	モチノキ	5.0	0.52	2.0					2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.45	B			○					○			有		小							露出根あり。 排気塔？が、北側0.7mの距離にある。			●
63	ビル周り	63	常緑	シラカシ	7.0	0.69	3.0		0.87	0.28	1.11	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B		○			○				高	高	有	○	無	—	—	9	8	10	9.0	幅1.8mの植栽帯内に位置する。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.8m、1.0m。 樹形良好、根鉢ぎりぎり確保可能。			●
64	ビル周り	64	常緑	シラカシ	7.5	0.78	4.0					2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.10	B		○		○							無		中							樹冠上部に、隣接するユーカリからの被圧あり。 打音異常(小)あり。 大枝剪定痕に、腐朽あり。 露出根あり。			●
65	ビル周り	65	常緑	シラカシ	5.0	0.62	3.0					2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.35	B			○					○			無		小							高さH4.0mで、断幹されており、枯れ下っている。			●
66	ビル周り	66	常緑	スダジイ	2.5	0.92	2.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.75	C			○					○			無		中							幹(東側)に、樹皮欠損(周囲長比1/2以上)、打音異常あり。			●
68	ビル周り	68	常緑	ユーカリ	9.0	0.60	2.0		0.82	0.26	1.04	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○				○		高	高	有	×	中	—	—	—	—	—	—	下枝が高く、移植に向けた剪定に適さず、移植には不向きである。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.7m、根鉢確保も難			●
69	ビル周り	69	常緑	ユーカリ	12.0	0.90	3.0		1.13	0.36	1.44	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○				○		高	高	有	×	無	—	—	—	—	—	—	下枝が高く、移植に向けた剪定に適さず、移植には不向きである。 幹芯から擁壁までの離隔距離0.9m、根鉢確保も難			●
70	ビル周り	70	常緑	マテバシイ	6.5	0.59	2.5					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.20	B		○		○							無		中							樹幹傾斜(南側)あり。 打音異常(小)あり。 大枝付け根H2.0m(北側上部)に、腐朽あり。 露出根あり。			●
71	ビル周り	71	常緑	マテバシイ	6.5	0.64	3.0					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.20	B		○		○							無		中							樹幹傾斜(南側)あり。 露出根あり。			●
72	ビル周り	72	常緑	マテバシイ	6.0	0.50	3.0					2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.30	B		○		○							無		中							高さH4m(北側と南東側)に、大枝剪定痕からの腐朽あり。			●
73	ビル周り	73	常緑	シラカシ	7.5	0.71	2.5					2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.15	B		○		○							無		小							大枝H1.0m(南側)に、樹皮欠損あり。 高さH5.0mに、大枝剪定痕からの腐朽あり。			●
74	ビル周り	74	常緑	マテバシイ	5.0	0.44	2.0					2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.30	B			○					○			無		大							高さH1.5mに、剪定痕からの腐朽、打音異常(大)あり。 隣接するシラカシ(東側)、マテバシイ(西側)からの、被圧(大)あり。			●
75	ビル周り	75	常緑	マテバシイ	7.0	0.74	3.0					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○		○							無		小							幹下部に、打音異常(小)あり。 巻き根(小)あり。			●
76	ビル周り	76	落葉	サルスベリ	3.0	0.25	1.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	3.0	—	—	—	—	2.50	B			○					○			無		中										●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(43)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名：伊藤忠ビル周り　　調査日：2019年1月25～28日　2022年5月2日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　　：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常緑	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	構婚の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高13/16	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・誘接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	20以上未調	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
												1～4評価						1～4評価					ABOD	該当に○			該当に○					樹高	根元	有無	○×	大中小	大中小	大中小							該当に●●:変更樹木			
77	ビル周り	77	常緑	マテバシイ	5.5	0.53	2.5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○			無		中							幹(北側)に、開口空洞 H2.0m～3.0mあり。			●
78	ビル周り	78	常緑	マテバシイ	6.0	0.66	2.5					2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.10	B		○		○							無		小							梢端部に、こぶが、数か所あり。 露出根あり。			●
79	ビル周り	79	常緑	マテバシイ	6.5	0.69	2.0	3本立				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B		○		○							無		中							株の2本が、枯損している。 打音異常あり。 下枝がない(下枝高H3.0m)。			●
80	ビル周り	80	常緑	ヤマモモ	5.0	0.47	4.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.25	B		○		○							無		大							根元(北側)に、開口空洞 10×10×10、打音異常あり。			●
81	ビル周り	81	常緑	クスノキ	13.0	1.46	7.0		1.86	0.59	2.37	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B	○				○				高	高	有	○	中	－	－	14	20	18	17.3	幹芯から擁壁までの離隔距離1.2m。樹形維持可能、根鉢確保可能。			●
82	ビル周り	82	常緑	ヤマモモ	4.5	0.51	3.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.30	B			○					○			無		大							上部(北側)に、腐朽(大)、開口空洞が数か所、打音異常あり。			●
83	ビル周り	83	常緑	クスノキ	12.0	1.15	5.0		1.39	0.44	1.77	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.00	B			○				○		高	高	有	○	中	－	－	－	－	－	－	隣木(No81クスノキ)からの被圧あり。 下枝が高く、移植に向けた剪定に適さず、移植には不向きである。 幹芯から擁壁までの離隔距離1.2m。			●
84	ビル周り	84	常緑	マテバシイ	7.0	0.86	3.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.25	B			○					○			無		大							高さH2.0mに、入り皮あり。 高さH2.0mから根元に、亀裂あり。 西側に、開口空洞あり。			●
85	ビル周り	85	常緑	マテバシイ	6.0	0.81	4.0	3本立				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○			無		中							株の1本が、枯損している。 打音異常あり。 根元に、ひこばえが、多数あり。			●
86	ビル周り	86	常緑	マテバシイ	7.0	0.68	3.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.35	B			○					○			無		中							樹幹傾斜(南側)あり。 打音異常あり。			●
87	ビル周り	87	落葉	ノムラモミジ	4.0	0.37	3.0	2本立				2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	－	－	－	－	2.34	B			○					○			無		大										●
88	ビル周り	88	常緑	アラカシ	7.0	1.15	2.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.15	B		○		○							無		小							高さH2.5m(北西側)に、開口空洞あり。 打音異常(小)あり。			●
89	ビル周り	89	落葉	ノムラモミジ	4.0	0.55	3.0	2本立				2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	－	－	－	－	2.34	B			○					○			無		中							大枝(西側)に、打音異常あり。			●
90	ビル周り	90	常緑	シラカシ	6.0	0.55	2.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.40	B			○					○			無		中							幹(北側)の上部と下部に、溝腐れ症状あり。			●
91	ビル周り	91	常緑	クスノキ	10.0	0.99	4.0	2本立	1.43	0.46	1.82	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.95	B			○		○				高	高	有	○	無	－	－	20	17	18	18.3	幹芯から擁壁までの離隔距離0.7m、1.0m。樹形維持可能。			●
92	ビル周り	92	常緑	シラカシ	7.0	0.54	2.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.20	B			○					○			無		中							東側に、開口空洞あり。 打音異常(小)あり。			●
93	ビル周り	93	常緑	マテバシイ	6.5	0.42	2.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○			無		小							打音異常あり。 剪定痕からの腐朽が、数か所あり。 露出根あり。			●
94	ビル周り	94	常緑	マテバシイ	6.0	0.48	2.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○			無		小							打音異常あり。 枝上部(東側)に、剪定痕からの腐朽あり。			●
95	ビル周り	95	常緑	マテバシイ	7.0	1.32	3.0	6本立				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.20	B			○					○			有		中							株(西側)に、開口空洞あり。 構造物に、北側と南側が、近接している。			●
96	ビル周り	96	常緑	マテバシイ	7.0	0.70	4.0	2本立				2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.15	B			○								無		小							2株双方に、開口空洞あり。 打音異常(大)あり。 大枝H4.0m(東側)に、こぶあり。			●
97	ビル周り	97	常緑	サザンカ	3.5	0.31	1.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○			無		大							隣接するマテバシイ(東側)からの、被圧(大)あり。			●
98	ビル周り	98	常緑	サザンカ	3.0	0.26	1.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.15	B			○					○			無		大							隣接するマテバシイ(西側)からの、被圧(大)あり。			●
99	ビル周り	99	常緑	マテバシイ	6.0	0.58	3.0					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.05	B			○								無		中							数か所にこぶ、多芽症状あり。			●
100	ビル周り	100	常緑	マテバシイ	5.5	0.66	3.5					2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	2.00	B			○								無		小							高さH4.0m(北東側)、高さH2.0m(北東側)に、開口空洞あり。 打音異常あり。			●
101	ビル周り	101	常緑	サザンカ	3.0	0.24	1.0					2.5	2.5	2.0	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.5	1.0	2.30	B			○					○			無		大							隣接するマテバシイ(東側)からの、被圧(大)あり。			●
102	ビル周り	102	常緑	サザンカ	3.0	0.19	0.5					2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	2.0	2.5	2.5	1.0	2.40	B			○					○			無		中							樹幹傾斜(南側)あり。			●
103	ビル周り	103	常緑	サザンカ	3.0	0.26	1.0					2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.0	1.0	2.30	B			○					○			無		大							隣接するシラカシ(西側)からの、被圧(大)あり。			●
104	ビル周り	104	常緑	シラカシ	7.0	0.88	3.5					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.10	B			○								無		小							枝葉に、食害痕が、多数あり。			●
105	ビル周り	105	常緑	シラカシ	6.0	0.85	2.0					2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.20	B			○								無		無							下枝(北西側)に、こぶが、数か所あり。 高さH1.5mに、入り皮あり。			●
106	ビル周り	106	常緑	モッコク	3.0	0.52	2.0	3本立				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.35	B			○					○			無		中										●
107	ビル周り	107	常緑	シラカシ	7.0	0.77	2.5					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.15	B			○								無		無							大枝H3.0m(南側)に、剪定痕からの腐朽あり。			●
108	ビル周り	108	常緑	サザンカ	3.5	0.27	1.5					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	1.0	1.95	B			○								無		大							近接するシラカシ(東側)からの、被圧(大)あり。 下枝(東側)に、腐朽あり。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(44)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名　伊藤忠ビル周り　調査日　2019年1月25～28日　2022年5月2日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立数	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
												1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
109	ビル周り	109	常緑	スダジイ	4.0	0.34	1.5					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.20	B			○					○			無		小							樹幹傾斜(北側)あり。 枯損株が、東側にあり。			●
110	ビル周り	110	常緑	サザンカ	3.5	0.32	2.0					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.10	B		○		○							無		中							小枝に、枯損が、数か所あり。			●
111	ビル周り	111	常緑	スダジイ	4.0	0.85	1.5					3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.55	C			○					○			無		中							根元に、開口空洞あり。 打音異常(大)あり。 幹H3.0mに、シイサルノコシカケの子実体が、数か所あり。			●
112	ビル周り	112	常緑	シラカシ	5.0	0.72	1.5	2本立				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.65	C			○					○			無		小							大枝に、腐朽、開口空洞が、多数あり。			●
113	ビル周り	113	常緑	キンモクセイ	3.5	0.33	2.5					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	1.0	2.20	B		○		○							無		小							小枝に、刈り込み剪定による、枯損が、数か所あり。			●
114	ビル周り	114	常緑	モチノキ	5.5	0.59	2.5					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B		○		○							無		小							枝先に、カイガラムシが多数寄生し、すす病が多発している。			●
115	ビル周り	115	常緑	モチノキ	5.0	0.44	1.5					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.0	2.30	B		○		○							無		小										●
116	ビル周り	116	常緑	キンモクセイ	3.0	0.52	2.0	4本立				2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.30	B		○		○							無		大							小枝に、刈り込み剪定による、枯損が、多数あり。			●
117	ビル周り	117	常緑	シラカシ	6.5	0.62	3.5					2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B		○		○							無		小							枝に、剪定による、腐朽が、数か所あり。			●
118	ビル周り	118	常緑	ヒイラギモクセイ	5.0	0.64	3.0	4本立				2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.30	B		○		○							無		大							小枝に、刈り込み剪定による、枯損が、多数あり。			●
119	ビル周り	119	常緑	シラカシ	6.0	0.65	3.0					2.0	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B		○		○							無		中							枝に、剪定による、腐朽が、数か所あり。			●
120	ビル周り	120	常緑	ヒイラギモクセイ	4.5	0.44	2.5	3本立				2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.30	B		○		○							無		大							小枝に、刈り込み剪定による、枯損が、多数あり。			●
121	ビル周り	121	常緑	タイサンボク	6.5	0.50	2.5					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.40	B		○		○							無		中							打音異常(小)あり。 露出根あり。 露出根(西側)に、腐朽あり。			●
122	ビル周り	122	常緑	ヒイラギモクセイ	4.5	0.60	3.0	4本立				2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.30	B		○		○							無		大							小枝に、刈り込み剪定による、枯損が、多数あり。 露出根あり。			●
123	ビル周り	123	常緑	ヤマモモ	3.0	0.16	0.5					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○					○			無		大							打音異常(大)あり。			●
124	ビル周り	124	常緑	クスノキ	9.0	1.55	5.0	4本立	1.55	0.49	1.97	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.35	B			○				○		高	高	有	○	無	－	－	－	－	－	－	ふところ枝が少なく、移植に向けた剪定により樹勢衰退の恐れがある、 不適			●
125	ビル周り	125	常緑	マテバシイ	3.0	0.38	0.5					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.70	C			○					○			無		大							大枝(西側)に、枯損あり。 樹皮枯死あり。 カミキリムシの脱出孔が、多数あり。			●
126	ビル周り	126	常緑	ヤブツバキ	3.3	0.16	0.5					3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.65	C			○					○			無		大							隣木のクスノキ(樹冠上部)、ヤブツバキ(西側)からの、被圧(大)あり。			●
127	ビル周り	127	常緑	ヤブツバキ	3.5	0.27	1.0	2本立				2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	1.5	2.30	B			○					○			無		大							大枝(東側)に、樹皮欠損あり。 隣木のクスノキ(樹冠上部)からの、被圧(大)あり。			●
128	ビル周り	128	常緑	ヤブツバキ	3.5	0.25	1.0					2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	2.25	B			○					○			無		中							中枝の枯損が、全体的に多くあり。			●
129	ビル周り	129	常緑	ヤマモモ	5.0	1.23	5.0	2本立				3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	3.0	2.0	1.5	2.55	C			○					○			有		小							2本立の片方に、開口空洞 50×50あり。 高さが0.6m～1.2m、幅3.9mの連続構造帯の中にある、1.5m×1.5mの植桝内に位置する。			●
130	ビル周り	130	常緑	ヤマモモ	4.5	1.02	5.0	2本立				3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	3.0	2.0	1.5	2.45	B			○					○			有		小							主幹上部が、枯損している。 2本立の片方の、幹から幹分岐部にかけて、腐朽 50×15、開口空洞 50×20×10あり。 高さが0.6m～1.2m、幅3.9mの連続構造帯の中にある、1.5m×1.5mの植桝内に位置する。			●
131	ビル周り	131	常緑	ヤマモモ	6.0	1.01	5.0		1.24	0.39	1.58	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.0	1.5	2.10	B			○				○		高	高	有	×	無	－	－	－	－	－	－	地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。良好な根鉢確保が困難である。 常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にあるため、衰退傾向にある。 大枝に樹皮欠損あり。 ※幹周は、H0.65mにて計測			●
132	ビル周り	132	常緑	ヤマモモ	5.5	0.92	5.0					2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	3.0	2.0	1.5	2.45	B			○					○			有		小							大枝(西側)に、枯損枝 L=0.8mあり。 高さが0.6m～1.2m、幅3.9mの連続構造帯の中にある、1.5m×1.5mの植桝内に位置する。			●
133	ビル周り	133	常緑	ヤマモモ	5.5	0.93	5.0					2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.0	3.0	2.0	1.5	2.45	B			○					○			有		小							大枝から根元 H0.0m～0.7mに、腐朽(大) 70×12 (巻込み不良)あり。 高さが0.6m～1.2m、幅3.9mの連続構造帯の中にある、1.5m×1.5mの植桝内に位置する。			●
134	ビル周り	134	常緑	ヤマモモ	6.0	0.86	5.0		1.20	0.38	1.53	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	3.0	2.0	1.5	2.30	B			○				○		高	高	有	×	無	－	－	－	－	－	－	地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。良好な根鉢確保が困難である。 常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にあるため、衰退傾向にある。			●
135	ビル周り	135	常緑	ヤマモモ	4.0	0.84	3.0					3.5	3.5	3.0	3.5	3.0	3.0	2.0	3.0	2.0	1.5	2.80	C			○					○			有		小							主幹上部が、枯損している。 高さH1.5mに、打音異常あり。 幹に、樹皮枯死・欠損が多数あり。 高さが0.6m～1.2m、幅3.9mの連続構造帯の中にある、1.5m×1.5mの植桝内に位置する。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

資料表 2.2-2(45)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映）

エリア名					伊藤忠ビル周り																	調査日					2019年1月25～28日　2022年5月2日※青字記載：追加詳細調査対象樹木																：追加調査項目			
					規格							活力度												保存の必要性			移植	難				関連項目							土壌硬度							
連番	エリア	樹木番号	常落	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立数	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	葉形	葉の大きさ	葉色	ネクロシス	平均評点	評価結果	高	中	低	可	A	B	C	不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
												1～4評価						1～4評価					ABCD	該当に○			該当に○					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
136	ビル周り	136	常緑	ヤマモモ	6.0	0.98	5.0	2本立	1.12	0.36	1.43	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.0	1.5	2.05	B			○				○		高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。良好な根鉢確保が困難である。樹形に乱れあり(北側の枝が無い)。 常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にあるため、衰退傾向にある。			●
137	ビル周り	137	常緑	ヤマモモ	6.0	1.01	5.0		1.23	0.39	1.57	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.0	1.5	2.15	B			○				○		高	高	有	×	小	—	—	—	—	—	—	地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。良好な根鉢確保が困難である。 常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にあるため、衰退傾向にある。			●
138	ビル周り	138	常緑	ヤマモモ	5.0	1.02	5.0					2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	3.0	2.0	1.5	2.40	B			○					○			有		小							高さH0.7mに、腐朽 15×15、内部に腐朽枝の残存あり。 高さが0.6m～1.2m、幅3.9mの連続構造帯の中にある、1.5m×1.5mの植桝内に位置する。			●
139	ビル周り	139	常緑	ヤマモモ	5.5	1.02	5.0		1.32	0.42	1.68	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.0	1.5	2.05	B			○				○		高	高	有	×	無	—	—	—	—	—	—	地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。良好な根鉢確保が困難である。 ふところ枝が少ない。 常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にあるため、衰退傾向にある。			●
140	ビル周り	140	常緑	ヤマモモ	6.0	1.35	5.0	4本立	1.53	0.49	1.95	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.0	1.5	2.05	B			○				○		高	高	有	×	無	—	—	—	—	—	—	地下出入口脇の擁壁(高さH0.6～1.2m)上に設置された植栽桝(1.5×1.5m)内に位置する。良好な根鉢確保が困難である。 ふところ枝が少ない。 常時ビル風を受け、狭い人工地盤上にあるため、衰退傾向にある。 根元に剪定痕・開口空洞あり。			●
141	中庭	141	落葉	ヒメシャラ	8.0	0.74	4.0	3本立				2.0	2.5	3.5	2.0	2.0	2.0	—	—	—	—	2.34	B			○					○			有		小							樹冠上部が、1階部分のネットに接触し、損傷あり。 幹に、ネット接触痕による、腐朽(縦1.0m～3.0m、幅10cm内外)あり。 地下の植栽帯に位置する。 擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●
142	中庭	142	落葉	ヒメシャラ	8.0	0.63	3.0	3本立				2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	—	—	—	—	2.09	B		○		○							有		小							樹冠上部が、1階部分のネットに接触し、損傷あり。 地下の植栽帯に位置する。 擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●
143	中庭	143	落葉	ヒメシャラ	7.5	0.44	3.0					4.0	3.5	4.0	3.0	3.5	3.0	—	—	—	—	3.50	D			○					○			有		小							大枝(西側)が、切断されている。 樹冠上部が、1階部分のネットに接触し、損傷あり。 地下の植栽帯に位置する。 擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●
144	中庭	144	落葉	ヒメシャラ	8.0	0.67	4.0	3本立				2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	—	—	—	—	2.09	B		○		○							有		小							樹冠上部が、1階部分のネットに接触し、損傷あり。 地下の植栽帯に位置する。 擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●
145	中庭	145	落葉	ヒメシャラ	8.0	0.77	4.0	3本立				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	—	—	—	—	2.42	B		○		○							有		小							樹冠上部が、1階部分のネットに接触し、損傷あり。 地下の植栽帯に位置する。 擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●
146	中庭	146	落葉	ヒメシャラ	8.0	0.98	5.0	4本立				2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	—	—	—	—	2.09	B		○		○							無		小							樹冠上部が、1階部分のネットに接触し、損傷あり。 地下の植栽帯に位置する。			●
147	中庭	147	落葉	ヒメシャラ	4.5	0.32	2.0	3本立				2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	—	—	—	—	1.92	B		○		○							有		小							植替えがされている。 樹冠上部が、1階部分のネットに接触し、損傷あり。 地下の植栽帯に位置する。 擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●
148	中庭	148	落葉	ヒメシャラ	4.5	0.16	2.0					2.0	2.5	1.5	2.5	2.0	2.0	—	—	—	—	2.09	B			○					○			有		小							植替えがされている。 単木で細い。 地下の植栽帯に位置する。 擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●
149	中庭	149	落葉	ヒメシャラ	8.0	0.74	4.0	3本立				3.5	3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	—	—	—	—	2.92	C			○					○			有		小							3本立の内、1本が、高さH2.5mで、断幹されている。 樹冠上部が、1階部分のネットに接触し、損傷あり。 地下の植栽帯に位置する。 擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●
150	中庭	150	落葉	ヒメシャラ	9.0	0.53	4.0	2本立				2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	—	—	—	—	2.09	B		○		○							有		小							樹冠上部が、1階部分のネットに接触し、損傷あり。 地下の植栽帯に位置する。 擁壁が、幹芯から1.7mの距離にある。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(1)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日　※青字記載：追加詳細調査対象樹木　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高15/15	根元径	根元状態物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※幹の内、保存樹木のため詳細調査対象外						超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無						該当に●：変更樹木		
1	N02-001		シダレザクラ	9.5	167	8.5					1.5	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.50	A	○					※					有		小							幹に、樹皮枯死・欠損 30×30あり。 樹木番号N02-002ヤエザクラとの、相互被圧(小)あり。 根元に緑石あり。	●		
2	N02-002		ヤエザクラ	9.0	138	7.5					3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.09	B			○					○			有		小							幹に、樹皮枯死・欠損 20×10あり。 高さH1.2mに、打音異常(中)あり。 樹冠傾斜(北側)あり。 樹木番号N02-001シダレザクラとの、相互被圧(小)あり。	●		
3	N02-003		ヤエザクラ	9.0	162	8.0					3.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.09	B			○					○			有		大							幹に、樹皮欠損 10×11あり。 高さH1.1mに、打音異常(中)あり。 樹木番号N02-013ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 樹形が、北側に偏っている。 根元に、舗装あり。	●		
4	N02-004		スダジイ	9.0	254	8.0					2.0	1.5	3.0	1.0	1.5	1.0	1.67	A		○				※					有		無							大枝に、樹皮枯死・欠損・腐朽(大)あり。	●		
8	N02-008		モミジ	7.0	103	5.0					3.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.84	B			○					○			無		中							樹木番号N02-010シラカシからの、被圧(中)あり。 樹形が、南側に偏っている。	●		
9	N02-009		モミジ	9.0	3本立	6.0	40,74,43				2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A		○		○							無		大							樹木番号N02-013ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 樹形が、南側に偏っている。	●		
10	N02-010		シラカシ	12.0	205	7.0					2.0	1.5	3.5	2.0	2.0	1.5	2.09	B		○				※					有		小							幹に、開口空洞 100×10×30/60(芯達)あり。 根元に、開口空洞 80×13×30/70あり。 根元・幹に、打音異常(大) H0.0m～2.5mあり。 幹に、背着生キノコあり。 樹木番号N02-013ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 根元に、舗装あり。	●		
11	N02-011		シダレザクラ	13.0	100	5.0					3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○			無		大							樹木番号N02-013ヒマラヤシーダー、樹木番号N02-010シラカシからの、被圧あり。 ぶつ切り剪定されている。 樹形崩壊(中)あり。	●		
12	N02-012		ヒマラヤシーダー	20.0	205	8.0					2.0	1.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A	○							○			無		大							幹(北側)に、打音異常(中) H1.3mあり。 樹木番号N02-013ヒマラヤシーダーとの、相互被圧(大)あり。	●		
13	N02-013		ヒマラヤシーダー	20.0	268	8.0					2.0	1.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A	○							○			有		大							樹木番号N02-012ヒマラヤシーダーとの、相互被圧(大)あり。 フェンスが、近接している。			●
14	N02-014		クスノキ	17.0	277	10.0					2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A	○							○			有		大							樹木番号N02-012、013ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 フェンスが、近接している。 枝の伸長が、西北側にあり。	●		
15	N02-015		ヒマラヤシーダー	19.0	323	7.0					2.0	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○							○			有		小							頂端部が切断されている。 樹木番号N02-012ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。			●
16	N02-016		シラカシ	10.0	259	9		3.05	0.97	3.89	2.0	1.5	3.0	1.5	1.5	1.0	1.75	A			○				○		高	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	根元・幹に開口空洞(120cm×15cm×60/70cm、芯達)あり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離1.2m。 根鉢確保困難。			●
17	N02-017		カンヒザクラ	5.0	83	5.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大							剪定痕が、多数あり。 枝数が、少ない。 樹木番号N02-018カンヒザクラとの、相互被圧(大)あり。 樹木番号N02-014クスノキ、N02-019ユーカリからの、被圧(大)あり。 フェンスが、近接している。	●		
18	N02-018		カンヒザクラ	5.0	82	5.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大							樹木番号N02-018カンヒザクラとの、相互被圧(大)あり。 樹木番号N02-019ユーカリ、032ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 樹形が、北側に偏っている。 フェンスが、近接している。	●		
19	N02-019		ユーカリ	18.0	207	7.0					2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.42	B			○				※				有		大							根元に、樹皮欠損 25×10あり。 大枝が、ぶつ切り剪定されている。 樹木番号N02-032ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 南側の枝数が、少ない。 フェンスに、枝が、接触している。	●		
20	N02-020		カンヒザクラ	7.0	101	5.0					3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.67	C			○				※				有		大							樹木番号N02-019ユーカリ、032ヒマラヤシーダー、033ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 樹形が、北側に偏っている。 フェンスが、近接している。	●		
30	N02-030		ツバキ	4.5	69	3.0					1.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.42	A	○			○							無		大							幹に、樹皮欠損(小)が、4～5箇所あり。 樹木番号N02-019ユーカリ、032ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。		●	
31	N02-031		ツバキ	4.0	2本立	3.0	43,43				1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.34	A	○			○							無		大							樹木番号N02-032ヒマラヤシーダー、033ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。		●	
32	N02-032		ヒマラヤシーダー	18.0	263	8		2.98	0.95	3.8	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.42	A			○				○		超	超	有	×	中	－	－	－	－	－	－	根元に緑石の飲み込みあり。 幹芯から建物までの離隔距離1.1m。 根鉢確保困難。			●
33	N02-033		ヒマラヤシーダー	18.0	269	8		3.19	1.02	4.06	1.5	1.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.42	A			○				○		超	超	有	×	中	－	－	－	－	－	－	傾斜地に立地する(根元は建物G.L.+0.9mの高さにある)。 幹芯から建物までの離隔距離2.6m。 傾斜地で適正根鉢確保困難。			●
34	N02-034		ヒサカキ	4.0	2本立	2.0	20,16				4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○			無		大							樹木番号N02-032ヒマラヤシーダー、033ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 双幹の一方は、枝の大半が枯損して、枯れかけている。			●

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2. 2-3(2)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側

調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日　※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	関連項目 樹高13/15	関連項目 根元径	関連項目 根元構造物	関連項目 根鉢確保	関連項目 片枝被圧	関連項目 剪定・対象樹	関連項目 剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
35	N02-035		ツバキ	4.5	35	2.5					3.5	3.0	4.0	3.5	3.0	3.0	3.34	D			○					○			有		大							樹木番号N02-033ヒマラヤシーダー、038ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 幹分岐部から、大枝が1本枯損している。 幹に、開口空洞(大)(芯達)あり。	●		
36	N02-036		イスノキ	5.0	55	2.5					2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.92	B		○				※					有		大							葉に、虫えいが、多数あり。 樹木番号N02-038ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 フェンスが、近接している。	●		
37	N02-037		モッコク	4.5	3本立	3.5	59,20,27				2.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.84	B		○		○							無		大							幹に、樹皮欠損 20×7あり。 樹木番号N02-036イスノキ、038ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 樹形が、北側に偏っている。	●		
38	N02-038		ヒマラヤシーダー	20.0	4本立	16.0	125,336,167,72				1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○					※					有		中							ぶつ切り剪定が、多数あり。 樹木番号N02-033ヒマラヤシーダーからの、被圧(中)あり。 建物に、近接している。	●		
47	N02-047		カンヒザクラ	5.0	31	5.0					3.5	2.5	3.5	2.5	2.0	2.0	2.67	C			○					○			有		大							断幹されている。 樹木番号N02-038ヒマラヤシーダー、050ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 フェンスが、近接している。	●		
48	N02-048		シダレザクラ	10.0	115	6.0					3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		大							樹木番号N02-038ヒマラヤシーダー、050ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 樹形が、北側に偏っている。 フェンスが、近接している。	●		
50	N02-050		ヒマラヤシーダー	20.0	233	8.0					1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○					※					無		中							樹木番号N02-038ヒマラヤシーダーからの、被圧(大)あり。 樹木番号N02-070ヒマラヤシーダーからの、被圧(小)あり。	●		
59	N02-059		ヤエザクラ	10.0	123	6.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					無		中							樹木番号N02-050ヒマラヤシーダーからの被圧(中)あり。 ツバキの生垣に、近接している。	●		
66	N02-066		トウネズミモチ	4.4	3本立	1.5	14,27,29				3.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○			無		中							ぶつ切り剪定されている。 樹木番号N02-070ヒマラヤシーダー、059ヤエザクラからの、被圧(中)あり。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
69	N02-069		サクラ	12.0	245	10.0					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					有		中							根元に、ベッコウタケの子実体あり。 ぶつ切り剪定されている。 根上り、巻き根あり。 樹木番号N02-070ヒマラヤシーダーからの、被圧(中)あり。 樹形が、北側にやや偏っている。 フェンスが、近接している。	●		
70	N02-070		ヒマラヤシーダー	20.0	258	8.0					2.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.84	B	○					※					有		小							ぶつ切り剪定、スタブカットが、多数あり。 樹木番号N02-050ヒマラヤシーダー、081ヒマラヤシーダーからの、被圧(小)あり。 建物に、近接している。	●		
81	N02-081		ヒマラヤシーダー	20.0	303	10.0					2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.75	A	○					※					無		小							樹木番号N02-098ヒマラヤシーダーとの、相互被圧(小)あり。 樹木番号N02-099ヒマラヤシーダーからの、被圧(小)あり。	●		
82	N02-082		ヤエザクラ	12.0	133	8.0					3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B		○				※					無		大							樹木番号N02-083クスノキに近接しており、被圧(大)あり。	●		
83	N02-083		クスノキ	15.0	217	6.0					2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	2.0	1.84	B	○					※					無		中							樹木番号N02-080ヒマラヤシーダーからの、被圧(中)あり。 樹木番号N02-082ヤエザクラに、近接している。 中枝が、少ない。 樹形が、北側に偏っている。	●		
85	N02-085		ヤエザクラ	11.0	241	10.0					3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.75	C		○				※					有		中							ぶつ切り剪定が、多数あり。 樹木番号N02-083クスノキからの、被圧(中)あり。 小枝が、やや少ない。 フェンスが、近接している。	●		
86	N02-086		シダレザクラ	7.0	116	2.5					3.5	3.0	3.5	2.5	2.0	2.5	2.84	C			○					○			有		無							断幹されており、樹形に乱れあり。 フェンスが、近接している。	●		
88	N02-088		サクラ	10.0	185	8.0					3.0	2.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○				※					無		中							高さに、打音異常(小) H1.4mあり。 大枝に、樹皮欠損10×10あり。 ぶつ切り剪定が、多数あり。 樹木番号N02-083クスノキからの、被圧(中)あり。	●		
89	N02-089		トウネズミモチ	3.5	3本立	1.6	20,17,21				2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A			○					○			無		無							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
95	N02-095		ヒサカキ	3.5	29	1.5					3.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.34	B			○					○			有		小							葉に、吸汁痕があり、葉色が薄い。 樹木番号N02-096ヒサカキ、097ソメイヨシノからの、被圧(小)あり。 樹形が、西側に傾斜している。 フェンスが、近接している。	●		
96	N02-096		ヒサカキ	3.5	43	1.5					1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.75	A		○		○							無		小							葉に、吸汁痕あり。 樹木番号N02-097ソメイヨシノからの、被圧(小)あり。	●		
97	N02-097		ソメイヨシノ	12.0	204	10.0					2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.42	B		○				※					無		無							幹に、開口空洞空洞 20×25×10/65あり。 根元に、ベッコウタケの子実体あり。 ぶつ切り剪定されている。	●		
98	N02-098		ヒマラヤシーダー	20.0	218	10.0					2.0	1.5	1.5	2.5	1.5	2.5	1.92	B	○					※					無		小							樹木番号N02-081ヒマラヤシーダー、099ヒマラヤシーダーとの、相互被圧(小)あり。 枝数が、やや少ない。下部の大枝が、少ない。	●		
99	N02-099		ヒマラヤシーダー	20.0	313	14		3.63	1.16	4.62	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A			○				○		超	超	無	○	小	－	－	－	－	－	－	大枝が太く、ふところ枝が少なく、頂部が双幹状の樹形であり、移植に向けた剪定にあまり向いていない。不適。			●
100	N02-100		エノキ	6.0	22	3.0					2.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.59	A			○					○			無		無							幹の肥大成長が少なく、細く伸長している。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3（3）　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
102	N02-102		ソメイヨシノ	10.0	203	8.0					3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			無		中							幹に、コフキタケの子実体あり。 幹に、打音異常(大) H0.8mあり。 大枝剪定痕からの腐朽(大) 120×25、腐朽(中) 20×20あり。 樹木番号N02-106ヒマラヤシーダーからの、被圧(中)あり。 フェンスが、近接している。			●
103	N02-103		ツバキ	4.0	46	2.0					2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A		○				※					有		無							フェンスが、近接している。	●		
106	N02-106		ヒマラヤシーダー	20.0	270	12		3.46	1.1	4.41	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○					○			超	超	無	○	小	無	無	2	16	8	8.7	大木であるが、H12mでの剪定も可能であり、 場内移動でのチャレンジ移植は可能である。		●	
107	N02-107		ヒマラヤシーダー	20.0	266	10		2.94	0.94	3.75	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○					○			超	超	有	○	小	無	無	16	13	13	14.0	大木であり、H8mまで下枝は無いが、H18m程度での剪定かつ場内移動であればチャレンジ移植は可能である(H12mでの切断は樹形崩壊を招く)。		●	
108	N02-108		ケヤキ	20.0	157	5		1.94	0.62	2.47	2.5	1.5	2.0	1.5	1.0	1.5	1.67	A			○				○		超	大	無	○	大	－	－	－	－	－	－	被圧からの枯損部分剪定により大枝が剪定されている。 樹形不良。不適。 幹芯からネットまでの離隔距離0.9m。			●
109	N02-109		ケヤキ	20.0	217	7		2.5	0.8	3.18	3.0	2.0	3.0	2.5	2.0	1.5	2.34	B			○				○		超	大	無	○	中	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れあり(強剪定後の枝吹き状態)、樹形不良。不適。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.7m。			●
111	N02-111		ケヤキ	20.0	237	12		2.8	0.89	3.57	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.67	A			○				○		超	超	無	○	無	－	－	－	－	－	－	下枝が高く枝数が少ない。 移植に向けた剪定に適していない。不適。			●
114	N02-114		トウネズミモチ	3.0	42	2.0					3.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.75	A		○		○							無		小							樹冠上部に、剪定による徒長枝が見られる。 樹木番号N02-106ヒマラヤシーダーからの、被圧(小)あり。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
118	N02-118		ソメイヨシノ	7.0	32	5.0					1.5	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.25	A	○					－					無		無							新植である。	●		
119	N02-119		ソメイヨシノ	7.0	34	6.0					1.5	1.0	1.0	1.0	1.5	1.5	1.25	A	○					－					無		無							新植である。	●		
121	N02-121		ケヤキ	20.0	263	15.0					1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○					－					無		無							幹に、開口空洞 10×5×30/70あり。 根元・幹に、打音異常(中) H0.1m～1.2mあり。	●		
122	N02-122		トウネズミモチ	7.0	3本立	5.0	36,26,19				2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.92	B			○					○			無		小							大枝剪定痕からの腐朽あり。 樹木番号N02-124クスノキからの、被圧(小)あり。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
123	N02-123		ソメイヨシノ	7.0	152	7.0					3.5	3.0	4.0	3.0	3.0	3.0	3.25	C			○					○			有		中							幹に、打音異常(中) H1.3m～2.0mあり。 樹形が、大枝剪定により、崩れている。 剪定痕からの腐朽あり。 樹木番号N02-122トウネズミモチからの、被圧(中)あり。 建物に、近接している。			●
124	N02-124		クスノキ	20.0	190	10		2.59	0.82	3.3	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.00	B			○				○		超	超	無	○	無	－	－	－	－	－	－	下枝が高く樹形不良。 不適。			●
126	N02-126		コブシ	8.0	67	4		0.8	0.25	1.02	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.59	A		○			○				高	高	無	○	無	無	無	12	7	1	6.7	圃場では無剪定で枝の伸長を目指す。 移植難の種。 根鉢は5D程度大きめで確保することで、移植は可能である。		●	
127	N02-127		チョウセンマツ	18.0	188	7.0					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		中							中央部・下部で、大枝が切除され、枝数が少ない。 樹形が、崩れ始めている。 樹木番号N02-131クスノキからの、被圧(小)あり。 給水タンクに、近接している。			●
128	N02-128		ツバキ	4.0	3本立	2.5	23,22,35	0.54	0.17	0.69	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A			○				○		高	高	有	○	小	－	－	－	－	－	－	大枝に樹皮欠損あり。 樹形に乱れあり、移植樹としては不適である。			●
130	N02-130		サンゴジュ	5.0	5本立	3.0	31,33,36,15,27				3.0	2.5	3.0	2.5	3.0	3.0	2.84	C			○					○			無		大							樹木番号N02-131クスノキからの、被圧(大)あり。 樹冠部に、枯れがあり、樹形が崩れている。 幹分岐部に、入り皮状態あり。			●
131	N02-131		クスノキ	20.0	235	8.0					2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.75	A	○							○			無		小							樹木番号N02-132ソメイヨシノと、近接し、相互被圧(小)あり。 樹木番号N02-133チョウセンマツからの、被圧(小)あり。			●
132	N02-132		ソメイヨシノ	15.0	172	8.0					3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○			有		中							根元に、ベッコウタケの子実体あり。 大枝剪定痕からの腐朽(中)あり。 樹木番号N02-131クスノキとの、相互被圧(小)あり。 片枝樹形(東側)である。			●
133	N02-133		チョウセンマツ	18.0	158	5.0					3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.67	C			○					○			無		大							幹に、打音異常(大) 1.0m～1.5mあり。 大枝剪定痕からの腐朽(大)あり。 樹木番号N02-140ソメイヨシノ、141ソメイヨシノからの、被圧(大)あり。			●
136	N02-136		トウネズミモチ	3.0	30	1.5					3.5	2.0	3.0	2.0	1.5	1.5	2.25	B			○					○			有		中							バルブ配管に、近接している。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
137	N02-137		サンゴジュ	3.0	15	1.0					4.0	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.42	D			○					○			無		中							枝枯れが多く、枝葉が少なく、樹形が崩壊している。 伐採も検討したい。			●
138	N02-138		ユリノキ	4.0	16	1		0.23	0.07	0.29	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.42	B			○				○		高	高	無	○	大	－	－	－	－	－	－	実生木である。移植樹としての価値は低い。			●
139	N02-139		タブノキ	18.0	29	2.5					2.5	2.0	2.5	1.5	1.0	2.0	1.92	B		○		○							無		小							頂端部の切除あり。 樹木番号N02-140ソメイヨシノからの、被圧(大)あり。		●	
140	N02-140		ソメイヨシノ	18.0	253	12		2.59	0.82	3.3	2.5	2.0	2.5	1.5	2.0	1.5	2.00	B			○				○		超	超	有	×	中	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れあり。頂端衰弱、樹形不良。不適。 幹芯から舗装までの離隔距離1.0m。 ソメイヨシノは若木による更新が望ましい。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(4)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日　※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高15/15	幅低	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象箇	剪定・周辺箇	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			※○の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無						該当に●：変更樹木		
141	N02-141		ソメイヨシノ	8.0	2本立	15	157,174	2.97	0.95	3.78	2.5	1.5	2.5	1.5	2.5	2.0	2.09	B			○				○		高	超	無	○	無	－	－	－	－	－	－	梢端部の枝に枯死と衰退がみられる。樹形、樹勢維持困難。			●
142	N02-142		サクラ	8.0	38	6.0					1.5	1.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.34	A	○			○							無		小						樹木番号N02-140ソメイヨシノからの、被圧あり。 枝折れ痕φ6cmあり。		●	
150	N02-150		サクラ	10.0	111	9.0					2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.50	A	○					－					有		小						車道側が、ぶつ切り剪定されている。 樹木番号N02-153ケヤキからの、被圧あり。 フェンスが、近接している。	●		
152	N02-152		カンキツ	3.5	36	2.5					2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.59	A		○				－					有		小						葉に、食害痕が、多数あり。 樹木番号N02-153ケヤキからの、被圧あり。 フェンスが、近接している。	●		
153	N02-153		ケヤキ	20.0	210	10.0					1.5	1.5	3.0	1.5	2.0	1.5	1.84	B		○				－					有		無						根元・幹に、打音異常(大) H0.0m～2.0mあり。 大枝付け根に、開口空洞 25×10×25/70あり。また空洞が、根元まで続いている。 フェンスが、近接している。	●		
154	N02-154		イヌツゲ	3.5	2本立	3.0	36,38				2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.25	A			○					○			無		無						樹木番号N02-153ケヤキに、近接している。	●		
155	N02-155		ユリノキ	10.0	79	6.0					2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.0	1.92	B			○					○			有		中						樹木番号N02-153ケヤキからの、被圧あり。 フェンスが、近接している。	●		
156	N02-156		ケヤキ	20.0	251	12.0					1.5	1.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.75	A	○					－					有		無						大枝剪定痕からの腐朽があるが、巻込みつつある。 フェンスが、近接している。	●		
157	N02-157		チョウセンマツ	18.0	151	8.0					3.0	2.0	3.0	2.5	2.0	3.0	2.59	C			○					○			無		無						中央部・下部で、大枝が切除され、枝数が少ない。			●
158	N02-158		カクレミノ	4.0	2本立	5.0	35,44				2.5	2.5	3.0	2.0	2.5	3.0	2.59	C			○					○			無		小						根元・幹に、打音異常(中) H0.2m～0.7mあり。 根元に、樹皮欠損・腐朽 5×4あり。 枯れ枝 φ4cm,L=0.7mあり。			●
159	N02-159		フウ	12.0	111	3.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B			○					○			有		無						幹に、開口空洞 5×5×5/40あり。 根元、アスファルトの、押し上げ(小)あり。 舗装に、近接している。	●		
160	N02-160		コブシ	10.0	108	5.0					2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○			有		中						樹木番号N02-140ソメイヨシノからの、被圧あり。 片枝樹形である。 露出根あり。 縁石の、押し上げ(大)あり。 植桝内に位置する。			●
161	N02-161		ソメイヨシノ	10.0	2本立	8	220,195	3.39	1.08	4.32	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○				○		高	超	有	×	小	－	－	－	－	－	－	根元周囲が舗装されている。適正根鉢確保困難。 樹形に乱れあり(幹に屈曲、梢端枯れ)。			●
162	N02-162		サンゴジュ	4.0	5本立	2.0	33,58,35,57,35				3.0	3.0	2.0	2.5	3.0	2.5	2.67	C			○					○			有		無						幹が、2本枯れている。 舗装に、近接している。			●
163	N02-163		ユリノキ	18.0	243	10		3.27	1.04	4.17	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○						○		超	超	有	○	小	無	無	13	17	12	14.0	樹勢が良く、適度に剪定管理されている。 根鉢ぎりぎりだが、場内移植であればチャレンジ移植は可能である。		●	
164	N02-164		ユリノキ	20.0	343	10		4.56	1.45	5.81	1.5	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.34	A			○				○		超	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	植栽桝(2.7×2.7m)に位置する。 周辺舗装の押し上げ、根上りあり、根鉢確保が困難である。			●
165	N02-165		ユリノキ	12.0	187	8		2.39	0.76	3.04	2.0	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.75	A			○				○		高	大	有	×	無	－	－	－	－	－	－	根元周辺にアスファルト舗装、構造物が多く、根鉢確保が困難である。 幹芯から建物までの離隔距離1.5m。根元にフェンス近接。			●
166	N02-166		ユリノキ	20.0	349	12		4.4	1.4	5.61	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.92	B			○				○		超	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	根元周辺に構造物が多く、根鉢確保が困難である。 幹芯から建物までの離隔距離1.5m、ブロック塀控え柱までの離隔距離1.1m、ブロック塀までの離隔距離2.5m。			●
168	N02-168		イヌビワ	3.0	4本立	3.0	16,17,16,16				2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.75	A		○		○							無		小						剪定により、樹形の乱れ(小)あり。 樹木番号N02-169サンゴジュからの、被圧あり。		●	
169	N02-169		サンゴジュ	3.5	4本立	3.0	41,78,50,72				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.59	C			○					○			有		無						幹の1本が、枯損している。 幹の2本に、樹皮枯死・欠損・腐朽(大)あり。 大枝に、枯枝が 2本 φ10cm,L=1.2mあり。 葉に、食害痕が、多数あり。 フェンスと、倉庫に、近接している。			●
171	N02-171		エノキ	10.0	282	10		3.8	1.21	4.84	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○						○		高	超	有	○	無	無	無	22	16	17	18.3	板根に樹皮欠損(小)あるが、樹形が良く、移植する価値のある樹木である。根鉢がやや異形になるが場内移植であれば、チャレンジ移植は可能である。幹芯から排水桝までの離隔距離1.85m。		●	
172	N02-172		ヤエザクラ	8.0	2本立	8	103,109	1.95	0.62	2.48	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.84	B	○						○		高	大	有	○	無	無	無	21	21	18	20.0	幹芯からフェンスまでの離隔距離0.9m。 樹勢良く場内移植ならば可能。		●	
173	N02-173		ケヤキ	15.0	183	9		2.42	0.77	3.08	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A			○				○		超	大	有	×	小	－	－	－	－	－	－	根上り(大)、植栽桝に位置する。根鉢確保困難。 下枝が高く、移植に向けた剪定にあまり適さない。 幹芯から縁石までの離隔距離0.7m、0.9m。			●
174	N02-174		サンゴジュ	4.5	4本立	3.5	36,38,30,14				3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.50	B			○					○			無		無						幹の1本に、打音異常(大) H0.5～0.7mあり。 枝折れ痕からの、腐朽あり。 葉に、食害痕あり。			●

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2. 2-3(5)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○（※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外）					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に●（●：変更樹木）		
175	N02-175		ソメイヨシノ	8.0	112	4.0					3.5	3.0	4.0	2.5	2.5	3.0	3.09	C			○					○			無		無							根元に、打音異常(大)あり。 幹に、樹皮枯死・欠損・腐朽(大)、シイサルノコシカケの子実体あり。 断幹されている。 樹冠傾斜(東側)(中)あり。			●
176	N02-176		ソメイヨシノ	13.0	143	8.0					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			無		中							根元に、コフキタケの子実体、ベッコウタケの子実体あり。 幹に、樹皮欠損(小)20×10あり。 大枝に、剪定痕からの樹皮枯死・欠損・腐朽(大)あり。 片枝樹形である。			●
177	N02-177		フウ	15.0	127	7.0					2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A		○				※					有		無							中央部・下部で、大枝の枝数が少ない。 舗装に、近接している。	●		
178	N02-178		フウ	15.0	167	8.0					2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.50	A	○					※					有		無							舗装と、門扉に、近接している。	●		
179	N02-179		フウ	15.0	162	7		1.96	0.62	2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.5	1.50	A	○				○				超	大	有	○	無	無	無	13	14	13	13.3	幹芯からフェンスまでの離隔距離0.8m。 12m剪定でも樹形維持可能。		●	
180	N02-180		ケヤキ	18.0	264	12.0					2.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.50	A		○				※					有		大							大枝が、西側に伸長し、片枝樹形である。 周辺木からの、被圧あり。 根元が、フェンスと接触している。	●		
181	N02-181		サカキ	6.0	34	5.0					1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.25	A		○		○							無		無							葉に、吸汁痕、食害あり。		●	
182	N02-182		フウ	16.0	118	8.0					2.0	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.50	A	○			○							無		小							樹木番号N02-192フウからの、被圧あり。		●	
183	N02-183		ユリノキ	16.0	217	8		2.42	0.77	3.08	2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	2.09	B			○				○		超	大	有	○	中	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れがあり(大枝の強剪定、剪定痕からの腐朽あり)、不適。			●
184	N02-184		ツバキ	3.5	12	1.5					2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.67	A			○					○			有		小							隣木の被圧あり。 片枝樹形である。 フェンスが、近接している。			●
185	N02-185		ツバキ	3.5	16	1.5					2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.92	B			○					○			有		小							隣木の被圧あり。 フェンスが、近接している。			●
186	N02-186		ツバキ	3.5	18	1.5					2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.92	B			○					○			有		小							隣木の被圧あり。 フェンスが、近接している。			●
187	N02-187		ツバキ	3.5	14	1.5					3.0	3.0	2.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○					○			有		小							隣木の被圧あり。 フェンスが、近接している。			●
188	N02-188		ツバキ	3.5	7	1.5					2.5	1.5	2.0	1.5	2.0	2.0	1.92	B			○					○			有		小							隣木の被圧あり。 片枝樹形である。 フェンスが、近接している。			●
189	N02-189		ツバキ	3.5	11	1.5					4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○			有		大							隣木の被圧あり。 ほぼ枯死状態にある。			●
192	N02-192		フウ	16.0	151	7.0					2.5	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.50	A		○		○							無		小							樹木番号N02-200フウからの、被圧あり。		●	
193	N02-193		ツバキ	4.0	2本立	2.5	23,16				1.5	1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.25	A		○		○							有		小							隣木からの、被圧あり。 枝に、南京錠のくい込みあり。 フェンスが、近接している。	●		
194	N02-194		ツバキ	4.0	3本立	3.0	21,14,15				3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	4.0	3.42	D			○					○			無		中							大枝に、枝折れあり。 枝葉が少ない。 隣木からの、被圧あり。 枝に、南京錠のくい込みあり。 フェンスが、近接している。	●		
195	N02-195		ツバキ	4.0	2本立	3.0	31,18				2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.75	A	○			○							無		小							隣木からの、被圧あり。 枝に、南京錠のくい込みあり。 フェンスが、近接している。	●		
196	N02-196		ツバキ	4.0	5本立	3.0	22,12,23,15,11				2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.75	A	○			○							有		中							隣木からの、被圧あり。 枝に、南京錠のくい込みあり。 フェンスが、近接している。	●		
197	N02-197		ツバキ	4.0	45	3.0					2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.75	A	○			○							有		小							隣木からの、被圧あり。 樹形が、西側に偏っている。 枝に、南京錠のくい込みあり。 フェンスが、近接している。	●		
198	N02-198		ヤマグワ	5.0	5本立	5.0	5,16,9,17,10				1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.09	A		○		○							無		小							実生のトウネズミモチに、近接しており、被圧あり。		●	
199	N02-199		ヤマグワ	5.0	5本立	5.0	21,18,13,16,10				1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	A		○		○							無		無							フェンスが、近接している。		●	
200	N02-200		フウ	15.0	138	7.0					1.5	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.17	A	○			○							有		無							倉庫に、近接している。		●	
201	N02-201		ユリノキ	16.0	184	8		2.26	0.72	2.88	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	1.92	B		○				○			超	大	有	○	無	無	無	－	－	－	－	下枝が高いが場内移植ならば可能。		●	
202	N02-202		コブシ	16.0	200	8		1.57	0.5	2	1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.17	A	○				○				超	高	無	○	無	無	無	8	19	14	13.7	根元に大量の廃棄物が積み上げられている。 ゴミ撤去で移植可能。		●	
203	N02-203		サワラ	16.0	99	6.0					2.5	1.5	2.5	1.5	1.0	2.0	1.84	B		○				※					無		無							幹に、打音異常(中)H1.5m～2.0mあり。 幹に、樹皮欠損(小)8×2が2箇所あり。 中央部・下部に、大枝がない。 幹に、つる植物の登ハンあり。	●		
204	N02-204		サクラ	10.0	219	8.0					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		無							大枝が、ぶつ切り剪定され、樹形が崩れている。 幹に、樹皮欠損・腐朽(大)あり。 フェンスが、近接している。	●		
205	N02-205		ネズミモチ	5.0	2本立	3.0	34,23				1.5	1.0	1.0	1.0	1.5	2.0	1.34	A		○		○							有		無							プレハブ倉庫と、フェンスが、近接している。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(6)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格							活力度							保存の必要性			移植					調整項目													備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
				樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傾	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高18/16	根元径	根元構造物	根鉢破損	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均 20以上来調				
				1～4評価														ABOD	該当に○			該当に○ ※難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無							該当に● ●：変更樹木			
206	N02-206		サワラ	8.0	66	3.0					3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.5	2.84	C			○					○			有		大									断幹されており、腐朽(大)あり。 幹に、開口空洞 120×5×13/20(芯達)あり。 根元・幹に、打音異常(大) H0.0m～0.5mあり。 樹木番号N02-180ケヤキからの、被圧あり。 プレハブ倉庫と、フェンスが、近接している。	●		
207	N02-207		スダジイ	12.0	215	10.0					2.0	2.0	3.0	1.5	2.0	1.5	2.00	B			○					○			有		大									幹に、開口空洞・腐朽(大) 20×10×31/60(芯達)あり。 幹に、開口空洞 20×15×30/90あり。 大枝の枝折れ痕に、腐朽あり。 プレハブ倉庫に、近接している。	●		
208	N02-208		ソメイヨシノ	15.0	215	10		2.39	0.76	3.04	2.5	2.0	3.0	1.5	1.5	1.5	2.00	B			○				○		超	大	有	×	小	－	－	－	－	－	－	梢端枯れが多く、樹勢衰退がみられる。不適。 幹芯からプレハブ小屋までの離隔距離0.7m。			●
209	N02-209		シラカシ	16.0	231	15		2.89	0.92	3.68	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.42	A			○				○		超	超	有	○	中	－	－	－	－	－	－	下枝が高く、移植に向けた剪定に適していない。 移植後の樹勢回復が難しい。			●
210	N02-210		ナツミカン	5.0	70	5.0					1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.09	A	○			○							無		無							枯れ枝φ3cm,L=0.6mあり。		●	
211	N02-211		サカキ	3.5	2本立	2.0	21,12				1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.09	A	○			○							有		小							葉に、吸汁痕と、食害痕あり。 樹木番号N02-213ヒイラギモクセイからの、被圧あり。		●	
213	N02-213		ヒイラギモクセイ	3.0	39	2.0					2.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.0	1.34	A		○		○							有		中							樹木番号N02-215シラカシからの、被圧あり。 プレハブ倉庫に、近接している。		●	
214	N02-214		ヒイラギモクセイ	3.0	13	2.0					2.5	1.5	1.0	1.0	1.5	1.5	1.50	A		○		○							有		中							樹形が、西側に傾斜している。 樹木番号N02-215シラカシからの、被圧あり。 プレハブ倉庫に、近接している。		●	
215	N02-215		シラカシ	15.0	97	7.0					2.0	1.5	2.5	1.5	2.0	1.5	1.84	B			○					○			有		中							幹に、開口空洞(中) 20×10×18/30(芯達)あり。 打音異常(大) H1.5m～2.0mあり。 枯れ枝φ20cm,L=0.8mあり。 樹木番号N02-226シラカシからの、被圧あり。 プレハブ倉庫に、近接している。			●
216	N02-216		サカキ	6.0	43	3		0.51	0.16	0.65	1.5	1.5	1.5	2.0	1.0	2.0	1.59	A			○		○				高	高	有	○	小	無	無	15	13	13	13.7	整った樹形である、適。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.2m、プレハブ小屋までの離隔距離0.3m。		●	
217	N02-217		ユリノキ	20.0	180	6.0					3.0	2.5	2.5	2.0	1.0	2.5	2.25	B			○			※					無		大							中央部・下部で、大枝が少ない。 樹木番号N02-180ケヤキ、224クスノキからの、被圧あり。	●		
218	N02-218		タブノキ	8.0	39	4.0					2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.84	B			○					○			無		大							樹幹が、西側に傾斜しており、片枝樹形である。 周辺木からの、被圧あり。	●		
219	N02-219		クスノキ	10.0	51	6.0					2.5	2.5	2.0	1.5	2.5	3.0	2.34	B			○					○			無		大							下部の、大枝が少なく、枯れ枝が見られる。 周辺木からの、被圧あり。	●		
220	N02-220		サワラ	7.0	49	3.0					4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.00	D			○					○			無		大							幹に、開口空洞 200×5×10/13(芯達)あり。 周辺木からの、被圧あり。	●		
221	N02-221		メタセコイア	26.0	188	7.0					2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.84	B	○					※					有		中							下部の、大枝が少ない。 周辺木からの、被圧あり。 フェンスが、近接している。	●		
222	N02-222		トウネズミモチ	5.0	3本立	3.5	33,16,30				2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	2.5	2.00	B			○					○			無		大							枝が、南側に伸長しており、片枝樹形である。 周辺木からの、被圧あり。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
223	N02-223		シラカシ	13.0	151	5.0					2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	2.09	B			○					○			有		大							根元に、開口空洞・腐朽(大) 35×20×18/60あり。 枝が、南側に伸長しており、片枝樹形である。 周辺木からの、被圧あり。 照明に、近接している。			●
224	N02-224		クスノキ	25.0	167	10		2.24	2.44	2.85	2.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.5	1.67	A			○				○		超	大	無	○	大	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れがあり(下枝が高く、枝葉が北側に偏りあり)、不適。			●
225	N02-225		タブノキ	7.0	34	4.0					3.0	2.0	3.0	2.0	1.5	1.5	2.17	B			○					○			無		大							頂端部に、折れあり。 周辺木からの、被圧あり。			●
226	N02-226		シラカシ	15.0	134	6.0					2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	2.00	B			○					○			無		大							根元に、開口空洞(大) 20×15×30/45(芯達)あり。 幹に、開口空洞(中)が、2箇所あり。 根元・幹に、打音異常(大) H0.1m～1.5mあり。 大枝に、樹皮枯死・欠損(大)あり。			●
227	N02-227		メタセコイア	25.0	278	8		3.95	1.26	5.03	2.0	1.5	2.5	1.0	1.5	1.5	1.67	A			○				○		超	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－	下枝が少ない。 幹芯から縁石までの離隔距離2.1m。適正根鉢確保困難。			●
228	N02-228		ネズミモチ	6.0	6本立	3.0	18,8,9,13,13,39				3.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.92	B			○					○			無		大							樹幹傾斜(南側)あり。			●
229	N02-229		ネズミモチ	3.5	24	2.0					2.5	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.84	B			○					○			無		大							頂端部に、切除あり。			●
230	N02-230		カキ	3.0	22	2.0					4.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.17	C			○					○			無		大							骨格となる大枝に、腐朽があり、樹冠に崩れあり。 幹に、開口空洞(小)あり。			●
231	N02-231		エンジュ	15.0	112	6.0					3.0	2.5	3.0	2.0	2.0	2.0	2.42	B			○					○			無		中							幹H1.2m(南側)に、樹皮欠損(中) 80×15あり。 幹H1.2m(北側)に、樹皮枯死(中) 60×30あり。 幹に、打音異常(中) H1.0m～2.0mあり。 片枝樹形である。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(7)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日※青字記載：追加詳細調査対象樹木	:追加調査項目

通番	樹木番号	表示	樹種名	規格							活力度								保存の必要性			移植					調査項目																備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
				樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4.5D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傾	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高1.5/10	根元径	根元構造物	傾斜確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・開接着	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均										
				1～4評価														ABCD	該当に○			該当に○ ※胸の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無										該当に●：変更樹木			
233	N02-233		ヒサカキ	3.5	18	3.0					2.5	2.5	2.5	2.0	3.0	3.0	2.59	C			○					○			有		大												メタセコイアに、近接している。 被圧による、樹冠傾斜(小)あり。			●
234	N02-234		メタセコイア	25.0	228	8		3.12	0.99	3.97	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○					○			超	超	無	○	中	無	無	14	10	13	12.3										隣木(シラカシ)からの被圧(小)あり。 場内ならば移植可能。		●	
235	N02-235		タラヨウ	12.0	2本立	7	34,113	1.3	0.41	1.66	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.59	A		○			○				高	高	無	○	中	無	無	13	11	12	12.0										場内での希少種であるため、移植価値のある樹木である。		●	
236	N02-236		ビワ	3.0	30	2.5					2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A			○					○			無		中												タラヨウの被圧により、やや南側に傾斜している。			●
237	N02-237		メタセコイア	22.0	214	8		3.1	0.99	3.95	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A			○				○		超	超	有	×	小	－	－	－	－	－	－										幹芯から縁石までの離隔距離0.7m。根鉢確保困難。			●
238	N02-238		サンゴジュ	4.0	3本立	2.0	28,24,38				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.59	C			○					○			無		無												葉に、食害痕が、多数あり。			●
239	N02-239		サンゴジュ	3.5	3本立	3.0	40,38,45				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	2.59	C			○					○			無		無												葉に、食害痕が、多数あり。			●
243	N02-243		イチョウ	15.0	312	10.0					1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A			○					○			有		無												幹に、樹皮欠損(大) 100×65あり。 大枝剪定痕に腐朽 φ35cm、φ30cm、φ20cmあり。 大枝に、打音異常(中) H1.2m～2.0mが、2箇所あり。 縁石押し上げ(小)、アスファルト押し上げ(小)あり。			●
244	N02-244		サンゴジュ	4.5	61	4.0					3.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.84	C			○					○			無		無												幹が、2本枯死している。 葉に、食害痕が、多数あり。 枯れ枝が、多数あり。			●
245	N02-245		サンゴジュ	3.2	10本立ち	1.8	13,18,19,14,12,2				3.5	2.5	3.0	2.5	3.0	2.5	2.84	C			○					○			無		小												頂端部が、切断されており、樹形に崩れあり。 葉に、食害痕が、多数あり。 枯れ枝が、多数あり。			●
246	N02-246		イチョウ	12.0	284	10		3.59	1.14	4.57	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A			○				○		高	超	有	×	無	－	－	－	－	－	－										幹芯から電柱までの離隔距離0.7m、舗装縁石までの離隔距離0.9m、万年塀までの離隔距離1.0m、建物沓脱石までの離隔距離2.6m。 適正根鉢確保困難。			●
247	N02-247		カイヅカイブキ	4.5	36	1.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大												片枝樹形である。 建物が、0.7m(南側)の距離にあり、近接している。 建物からの、被圧あり。 植桝内にある。			●
249	N02-249		カイヅカイブキ	4.5	35	1.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大												片枝樹形である。 建物が、0.7m(南側)の距離にあり、近接している。 建物からの、被圧あり。 植桝内にある。			●
250	N02-250		カイヅカイブキ	4.5	37	1.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大												片枝樹形である。 建物が、0.7m(南側)の距離にあり、近接している。 建物からの、被圧あり。 植桝内にある。			●
251	N02-251		カイヅカイブキ	4.5	34	1.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大												片枝樹形である。 建物が、0.7m(南側)の距離にあり、近接している。 建物からの、被圧あり。 植桝内にある。			●
252	N02-252		ケヤキ	12.0	296	10		－	－	－	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－										2018年調査時点では存在していたが、2022年詳細調査の結果、維持管理等のため伐採済みであった。			●
259	N02-259		カイヅカイブキ	4.5	36	1.0					2.5	2.5.	3.0	3.0	3.0	3.0	2.90	C			○					○			有		大												片枝樹形である。 建物が、0.7m(南側)の距離にある。 建物からの、被圧あり。 植桝内にある。	●		
260	N02-260		カイヅカイブキ	4.5	33	1.0					2.5	2.5.	3.0	3.0	3.0	3.0	2.90	C			○					○			有		大												片枝樹形である。 建物が、0.7m(南側)の距離にある。 建物からの、被圧あり。 植桝内にある。	●		
261	N02-261		カイヅカイブキ	4.5	34	1.0					2.5	2.5.	3.0	3.0	3.0	3.0	2.90	C			○					○			有		大												片枝樹形である。 建物が、0.7m(南側)の距離にある。 建物からの、被圧あり。 植桝内にある。	●		
262	N02-262		シラカシ	12.0	178	8.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					有		中												スダジイからの、被圧あり。 フェンスが、0.5m(東側)の距離にある。 看板に、近接している。	●		
263	N02-263		カキ	12.0	74	6.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		大												西側の枝が、少ない。 スダジイからの、被圧あり。	●		
264	N02-264		スダジイ	12.0	238	10.0					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		無												幹に、打音異常(中) H0.5m～1.5mあり。 大枝剪定痕からの腐朽(中)φ25cm、φ20cmあり。 フェンスが、0.6m(西側)の距離にある。	●		
265	N02-265		トウカエデ	12.0	130	8.0					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					有		無												フェンスが、0.3m(西側)の距離にある。 建物が、2.0m(東側)の距離にある。	●		
266	N02-266		トウカエデ	15.0	194	10.0					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					有		無												幹に、開口空洞(小)が、2箇所(H1.5m、H1.8m)あり。 フェンスが、0.7m(西側)の距離にある。 建物が、1.6m(東側)の距離にある。	●		
267	N02-267		ソメイヨシノ	8.0	137	6.0					3.5	3.0	3.5	2.5	2.5	3.0	3.00	C			○					○			有		無												大枝剪定痕からの腐朽(大)あり。 大枝・幹に、カワラタケの子実体が、多数あり。 フェンスが、接触している。 建物が、2.5m(東側)の距離にある。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(8)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側　　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　　：追加調査項目

通番	樹木番号	表示	樹種名	規格							活力度								保存の必要性			移植				関連項目													備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
				樹高(m)	幹周(cm)	枝張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4.5D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・腐	枝伸長量	損傷の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高1.5/1.0	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象省	剪定・跡接筒	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均				
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：幹の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無							該当に● ●：変更樹木			
268	N02-268		トウカエデ	15.0	184	10.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※						有		無								幹に、開口空洞(小) 11×6×11/60あり。 フェンスが、0.4m(西側)の距離にある。 建物が、2.2m(東側)の距離にある。	●		
269	N02-269		ソメイヨシノ	12.0	149	8.0					3.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○				有		無								根元に、樹皮欠損(中) 30×5あり。 樹幹傾斜(西側)あり。 フェンスが、接触(西側)している。	●		
270	N02-270		トウカエデ	7.0	35	3.0					2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.59	A		○				※						無		中								頂端部が、切除されている。 サクラ類からの、被圧あり。	●		
271	N02-271		ソメイヨシノ	15.0	245	10.0					2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B		○				※						有		無								大枝が、西側に、多数伸長している。 フェンスが、接触(西側)している。 建物が、2.2m(東側)の距離にある。	●		
272	N02-272		トウカエデ	15.0	146	8.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※						有		無								大枝が、西側に、多数伸長している。 フェンスが、接触(西側)している。	●		
273	N02-273		トウカエデ	15.0	213	10.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※						有		無								大枝が、西側に、多数伸長している。 フェンスが、0.8m(西側)の距離にある。 建物が、1.8m(東側)の距離にある。	●		
275	N02-275		サクラ	12.0	253	10.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○				有		大								大枝が、西側に、多数伸長している。 胴吹き枝が、多い。 根上り(大)あり。 大枝・幹に、カワラタケの子実体が、多数あり。 フェンスが、接触している。 建物が、1.7m(東側)の距離にある。	●		
276	N02-276		ヒサカキ	3.7	3本立	2.0	15,9,23				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○								無		大								葉に、食害痕が、多数あり。 スダジイからの、被圧あり。 フェンスが、2.0m(西側)の距離にある。		●	
277	N02-277		スダジイ	12.0	194	8		2.35	0.75	2.99	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	大	有	○	中	－	－	－	－	－	－	樹形に乱れがあり(樹幹傾斜(道路側)、大枝の分布に偏り(道路側))。 大枝に開口空洞が多数あり、不適。 幹芯からフェンスまでの離隔距離1.2m。			●
278	N02-278		ムクノキ	5.0	2本立	3.0	8,21				2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○				無		大								根元で、断幹あり。 樹幹傾斜(小)(北側)あり。			●
279	N02-279		タブノキ	4.0	4本立	1.5	10,9,15,7				2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○					○				有		大								根元で、断幹あり。 塀に、接触(東側)している。			●
280	N02-280		ヒイラギモクセイ	4.0	51	2.5					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○								無		大								周辺木からの、被圧あり。		●	
281	N02-281		ヒイラギモクセイ	6.0	2本立	2.5	35,26				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○								無		大								周辺木からの、被圧あり。		●	
282	N02-282		ヒイラギモクセイ	3.5	25	2.5					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○								無		大								周辺木からの、被圧あり。		●	
283	N02-283		タブノキ	15.0	261	10		2.83	0.9	3.61	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.67	A			○				○		超	超	有	×	中	－	－	－	－	－	－	幹に大きな開口空洞。 幹芯から万年塀までの離隔距離0.8m。 適正根鉢確保困難。			●
284	N02-284		ヒイラギモクセイ	3.0	16	1.5					2.5	2.0	2.0	1.5	1.5	2.5	2.00	B		○		○								有		大								樹幹傾斜(西側)あり。 フェンスが、0.4m(西側)の距離にある。	●		
285	N02-285		ヒイラギモクセイ	3.0	23	1.5					2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.75	A	○			○								有		大								フェンスが、0.4m(西側)の距離にある。	●		
286	N02-286		マテバシイ	8.0	84	6.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※						有		中								枝(東側)が、建物に、接触している。 塀が、0.2m(東側)の距離にある。	●		
287	N02-287		マテバシイ	8.0	148	8.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○					○				有		中								幹に、シイサルノコシカケの子実体あり。 根元に、樹皮欠損(小) 40×10あり。 樹幹傾斜(西側)あり。 枝(東側)が、建物に、接触している。 塀が、0.2m(東側)の距離にある。	●		
289	N02-289		ヒイラギモクセイ	3.0	2本立	2.0	13,17				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○								有		大								周辺木からの、被圧あり。 フェンスが、0.5m(西側)の距離にある。	●		
290	N02-290		ヒイラギモクセイ	3.0	14	2.0					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○		○								有		大								枯れ枝 φ 3cm,L=1.2mあり。 周辺木からの、被圧あり。 フェンスが、0.5m(西側)の距離にある。	●		
291	N02-291		ヒイラギモクセイ	3.0	2本立	2.5	18,15				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○			○								有		大								周辺木からの、被圧あり。 フェンスが、0.5m(西側)の距離にある。	●		
299	N02-299		トウネズミモチ	3.5	2本立	2.0	33,24				3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○				有		中								主幹上部で、断幹されている。 塀が、0.4m(北側)の距離にある。 環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
308	N02-308		ヒマラヤシーダー	9.0	143	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○				有		小								頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
309	N02-309		ヒマラヤシーダー	9.0	123	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○				有		小								頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(9)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名	軟式野球場西側	調査日	2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日※青字記載：追加詳細調査対象樹木	：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格							活力度								保存の必要性			移植					関連項目															備考 《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
				樹高 (m)	幹周 (cm)	葉張 (m)	株立ち幹周	根元周径 (m)	根元径 (D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・腐	枝伸長量	樹幹の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高1.8/1.0	根元径	根元構造物	根鉢破損	片枝被圧	剪定・対象箇	剪定・開接箇	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均				
				1～4評価														ABOD	該当に○			該当に○ ※()内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無								該当に● ●：変更樹木			
310	N02-310		ヒマラヤシーダー	9.0	132	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
311	N02-311		ヒマラヤシーダー	9.0	103	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
312	N02-312		ヒマラヤシーダー	9.0	103	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
313	N02-313		ヒマラヤシーダー	9.0	113	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
314	N02-314		ヒマラヤシーダー	9.0	116	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
315	N02-315		ヒマラヤシーダー	9.0	101	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
316	N02-316		ヒマラヤシーダー	9.0	105	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
317	N02-317		ヒマラヤシーダー	9.0	95	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
318	N02-318		ヒマラヤシーダー	9.0	109	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
319	N02-319		ヒマラヤシーダー	9.0	106	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
320	N02-320		ヒマラヤシーダー	9.0	121	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
322	N02-322		ヒマラヤシーダー	9.0	118	2.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
323	N02-323		ヒマラヤシーダー	9.0	97	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小										頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がないであり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(10)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●:変更樹木		
324	N02-324		ヒマラヤシーダー	9.0	108	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小							頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
325	N02-325		ヒマラヤシーダー	9.0	103	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小							頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
326	N02-326		ヒマラヤシーダー	9.0	113	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小							頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
327	N02-327		ヒマラヤシーダー	9.0	126	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小							頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
328	N02-328		ヒマラヤシーダー	9.0	120	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小							頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
329	N02-329		ヒマラヤシーダー	9.0	134	3.0					3.5	2.0	2.5	2.0	2.5	1.5	2.34	B			○					○			有		小							頂端部が、切断されている。 刈り込み剪定による、片枝樹形(西側の中央部・下部の枝がない)であり、内部の小枝に枯れ枝が目立つ。 建物が、0.5m(西側)の距離にある。 植桝内にある。　縁石の、押し上げ(小)あり。			●
330	N02-330		マンシュウカエデ	9.0	242	7		2.64	0.84	3.36	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					○			高	超	有	○	無	無	無	8	6	4	6.0	貴重種。根元は人工芝マットで覆われている。 幹芯から真砂土舗装までの離隔距離1.3m。場内移植可能。		●(赤)	
331	N02-331		スダジイ	15.0	182	10.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					無		小							根元に、樹皮欠損(小) 30×10あり。 高さH3.0mに、大枝剪定痕からの腐朽φ10cmあり。 塀が、2.0m(北側)の距離にある。	●		
332	N02-332		マテバシイ	5.0	32	2.5					2.5	2.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.34	B			○					○			無		大							スダジイからの、被圧あり。 ひこばえが、多数あり。	●		
333	N02-333		マテバシイ	6.0	42	3.5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B			○					○			無		大							スダジイからの、被圧あり。 片枝樹形である。	●		
334	N02-334		マテバシイ	5.0	3本立	2.0	11,16,13				2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B			○					○			無		大							樹幹傾斜(南側)あり。 中央部に、枝が少なく、片枝樹形である。 スダジイからの、被圧あり。	●		
335	N02-335		コブシ	10.0	115	7.0					2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	1.5	2.00	B		○				※					無		中							片枝樹形である。 マテバシイからの、被圧あり。 幹に、つる植物の登ハンあり。 盛土あり。	●		
336	N02-336		マテバシイ	8.0	70	7.0					2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.92	B		○				※					無		中							樹幹傾斜(小)(東側)あり。	●		
337	N02-337		モチノキ	7.0	3本立	3.0	19,20,9				1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.34	A	○			○							無		大							スダジイからの、被圧あり。	●		
338	N02-338		スダジイ	12.0	196	10.0					2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.0	1.59	A	○					※					有		中							樹幹が、やや西側に偏っている。 フェンスが、1.8m(西側)の距離にある。	●		
339	N02-339		マテバシイ	7.0	30	3.5					2.5	2.5	1.5	2.5	2.0	2.5	2.25	B			○					○			無		大							樹幹傾斜(東側)あり。 スダジイからの被圧あり。	●		
340	N02-340		サンゴジュ	4.0	4本立	2.5	25,24,16,33				3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.17	C			○					○			無		大							葉に、食害痕が、多数あり。 中央部・下部に、枝がほとんどなく、樹形が崩壊している。 枯れ枝が、多数あり。	●		
341	N02-341		サンゴジュ	3.0	25	2.5					3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.17	C			○					○			無		大							葉に、食害痕が、多数あり。 中央部・下部に、枝がほとんどなく、樹形が崩壊している。 枯れ枝が、多数あり。	●		
342	N02-342		サンゴジュ	4.0	43	3.0					3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.17	C			○					○			無		大							葉に、食害痕が、多数あり。 中央部・下部に、枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が、多数あり。	●		
343	N02-343		サンゴジュ	4.0	2本立	3.0	53,37				3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.17	C			○					○			無		中							葉に、食害痕が、多数あり。 中央部・下部に、枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が、多数あり。	●		
344	N02-344		サンゴジュ	4.0	43	3.0					3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.17	C			○					○			無		中							葉に、食害痕が、多数あり。 中央部・下部に、枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が、多数あり。	●		
345	N02-345		マテバシイ	8.0	7本立	8.0	63,54,27,72,63,3				2.5	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					※					有		中							樹幹が、やや西側に偏っている。 フェンスが、1.3m(西側)の距離にある。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(11)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	規格 幹周(cm)	規格 葉張(m)	規格 株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	関連項目 樹高13/15	関連項目 根元径	関連項目 根元構造物	関連項目 根鉢確保	関連項目 片枝被圧	関連項目 剪定・対象樹	関連項目 剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
348	N02-348		ソメイヨシノ	12.0	2本立	10.0	203,160				1.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.75	A	○					※					有		小							幹H0.4mに、剪定痕からの腐朽(大) 40×30あり。 チャアナタケモドキの子実体あり。 胴吹き枝が、多数あり。 フェンスが、1.0m(西側)の距離にある。	●		
349	N02-349		ヒイラギモクセイ	3.0	34	1.5					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	2.59	C			○					○			無		小							断幹されている。 葉に、食害痕あり。	●		
350	N02-350		サンゴジュ	4.0	46	2.5					3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.09	C			○					○			無		小							葉に、食害痕が、多数あり。 中央部・下部に、枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が、多数あり。			●
351	N02-351		サンゴジュ	4.0	3本立	2.5	33,35,34				3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.09	C			○					○			無		小							葉に、食害痕が、多数あり。 中央部・下部に、枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が、多数あり。			●
352	N02-352		サンゴジュ	4.0	3本立	2.5	38,42,41				3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.09	C			○					○			無		小							葉に、食害痕が、多数あり。 中央部・下部に、枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が、多数あり。			●
353	N02-353		サンゴジュ	4.0	45	2.5					3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.09	C			○					○			無		小							葉に、食害痕が、多数あり。 中央部・下部に、枝がほとんどなく、片枝樹形である。 枯れ枝が、多数あり。	●		
354	N02-354		イヌシデ	12.0	157	8		1.93	0.61	2.46	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A		○			○				高	大	有	○	無	無	無	21	18	15	18.0	円形(Φ2.0m)のアスファルト舗装に囲まれた植栽地にあり、根元は人工芝マットで覆われている。幹芯からバックネットまでの離隔距離2.4m。一部舗装剥がしチャレンジ移植。		●	
355	N02-355		スダジイ	10.0	216	10		2.59	0.82	3.3	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○					○			高	超	有	○	無	無	無	1	10	8	6.3	傘型樹形である。根上り、舗装の押し上げ(小)あり。 円形(Φ2.5m)のアスファルト舗装に囲まれた植栽地にあり、根元は人工芝マットで覆われている。舗装一部剥がしチャレンジ移植。		●	
356	N02-356		クロマツ	15.0	164	6		2.17	ー	ー	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	2018年調査時点では生育していたが、2022年詳細調査の結果、枯死していた。			●
357	N02-357		クロマツ	15.0	137	6.0					3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.75	C			○					○			無		大							隣接木からの被圧により、樹形が崩壊している。 幹に、ヘデラの登ハンがあり、覆われている。			●
358	N02-358		ケヤキ	15.0	205	10		2.33	0.74	2.97	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○				○				超	大	無	○	小	無	無	10	4	6	6.7	ケヤキらしい自然樹形であり、移植の価値の高い樹木である。 樹高H12mで剪定しても問題ないと思われる。 幹芯から隣木クロマツまでの離隔距離1.9m。		●	
359	N02-359		ヒイラギモクセイ	4.5	2本立	2.0	37,29				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		小							葉に、食害痕あり。 下枝が、少ない。	●		
360	N02-360		ヒイラギモクセイ	4.0	34	2.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		小							葉に、食害痕あり。 下枝が、少ない。	●		
361	N02-361		ヒイラギモクセイ	4.5	2本立	2.0	27,29				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		小							葉に、食害痕あり。 下枝が、少ない。	●		
362	N02-362		コブシ	15.0	115	6.0					1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○					※					無		小							幹に、ヘデラの登ハンあり。	●		
363	N02-363		ヒイラギモクセイ	4.0	15	2.0					3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	3.0	2.59	C			○					○			無		大							隣木の被圧により、樹冠傾斜(西側)あり。 葉に、食害痕あり。	●		
364	N02-364		ソメイヨシノ	15.0	2本立	10.0	170,209				2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.25	B		○				※					有		小							幹に、スタブカット・腐朽が 2箇所 φ30cm,L=0.4m (H1.0m)、φ30cm,L=2.0m (H3.5m)あり。 大枝が、西側に伸長している。 フェンスが、0.6m(西側)の距離にある。	●		
365	N02-365		ヒイラギモクセイ	4.0	3本立	2.5	22,22,22				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		中							片枝樹形である。 葉に、食害痕あり。 フェンスが、0.3m(西側)の距離にある。	●		
366	N02-366		ヒイラギモクセイ	3.5	2本立	2.0	10,15				3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			無		中							片枝樹形である。 葉に、食害痕あり。 フェンスが、0.7m(西側)の距離にある。	●		
368	N02-368		ヒイラギモクセイ	4.0	3本立	2.5	10,29,21				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○			無		中							東側の、枝数が少ない。 葉に、食害痕あり。	●		
369	N02-369		サンゴジュ	5.0	2本立	2.5	18,29				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							2本立の1本が、枯死している。 西側からの被圧により、片枝樹形である。	●		
370	N02-370		サンゴジュ	5.0	2本立	3.0	41,32				3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.92	C			○					○			無		中							西側からの被圧により、片枝樹形である。	●		
371	N02-371		サンゴジュ	5.0	42	2.5					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							西側からの被圧により、片枝樹形である。	●		
372	N02-372		サンゴジュ	5.0	2本立	3.0	46,33				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							西側からの被圧により、片枝樹形である。 幹に、ヘデラの登ハンあり。			●
373	N02-373		サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	41,24,47				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							西側からの被圧により、片枝樹形である。 幹に、ヘデラの登ハンあり。			●
374	N02-374		ヒイラギモクセイ	3.5	26	3.0					2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.25	B			○					○			無		中							低木の被圧により、下枝が少ない。 幹に、ヘデラの登ハンあり。			●
375	N02-375		ヒイラギモクセイ	3.5	35	3.0					2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○					○			無		中							東側からの被圧により、片枝樹形である。	●		
376	N02-376		クスノキ	10.0	157	6.0					3.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.34	B			○					○			有		中							樹幹傾斜(中)あり。 東側からのサクラ類の被圧により、片枝樹形である。 フェンスが、0.2m(西側)の距離にある。 幹に、ヘデラの登ハンあり。			●
377	N02-377		サンゴジュ	5.0	4本立	3.5	41,39,51,52				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							株立の1本が、枯死している。 枯れ枝が多く、樹形が崩壊している。			●
378	N02-378		サンゴジュ	5.0	42	2.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							中央部・下部に、ほとんど枝がない。			●
379	N02-379		サンゴジュ	5.0	2本立	2.5	50,36				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							中央部・下部に、ほとんど枝がない。 幹に、ヘデラの登ハンあり。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2. 2-3(12)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
380	N02-380		サンゴジュ	5.0	2本立	2.5	53,58				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							中央部・下部に、ほとんど枝がない。 幹に、ヘデラの登ハンあり。			●
381	N02-381		サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	45,46,47				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							中央部・下部に、ほとんど枝がない。 幹に、ヘデラの登ハンあり。			●
382	N02-382		サンゴジュ	5.0	2本立	2.5	56,38				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							中央部・下部に、ほとんど枝がない。 幹に、ヘデラの登ハンあり。			●
383	N02-383		サンゴジュ	5.0	74	3.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							中央部・下部に、ほとんど枝がない。 幹に、ヘデラの登ハンあり。			●
384	N02-384		イヌツゲ	3.5	2本立	3.0	18,17				3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.34	B			○					○			無		中							西側からの被圧により、片枝樹形である。			●
385	N02-385		サクラ	12.0	2本立	10.0	148,208				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○			有		中							根元(東側、西側)に、ベッコウタケの子実体あり。 大枝が、北側と西側に伸長し、樹形のバランスが悪い。 フェンスが、0.3m(西側)の距離にある。	●		
386	N02-386		クロマツ	18.0	192	8		2.23	0.71	2.84	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		超	大	無	○	無	—	—	—	—	—	—	幹に打音異常あり。 樹形に乱れあり(下枝が高く、ふところ枝が少ない)、不適。			●
387	N02-387		イヌツゲ	5.0	4本立	3.0	17,22,22,30				2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○					○			無		中							ツバキからの被圧により、片枝樹形である。 下枝が無い。			●
388	N02-388		サクラ	10.0	101	8.0					2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.42	B			○					○			有		小							樹幹傾斜(大)(西側)あり。 枝に、こぶが、多数あり。 フェンスに、接触(西側)している。 幹に、ヘデラの登ハンあり。	●		
389	N02-389		ツバキ	3.5	48	2.5	23,17				2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.59	A			○					○			無		中							幹H0.4mに、開口空洞 22×4×8/15(芯達)あり。	●		
390	N02-390		イヌツゲ	3.0	2本立	2.0					3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○					○			無		中							周辺木からの被圧により、片枝樹形である。	●		
391	N02-391		モチノキ	7.0	99	5.0					1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.42	A	○			○							無		小							幹に、ヘデラの登ハンあり。		●	
392	N02-392		トウカエデ	12.0	240	7		3.08	0.98	3.92	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.75	A	○					○			高	超	無	○	無	無	無	10	10	10	10.0	樹形・樹勢は良好である。 幹H1.3mに開口空洞があるが、移植に問題ない。		●	
393	N02-393		クロマツ	15.0	151	7		2.73	0.87	3.48	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.59	A			○				○		超	超	有	×	無	—	—	—	—	—	—	樹形に乱れがあり(下枝が高く、枝葉量が少ない)、不適。 幹芯から舗装までの離隔距離0.6m。			●
394	N02-394		コブシ	12.0	145	8		1.69	0.54	2.15	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.75	A			○				○		高	高	無	○	中	—	—	—	—	—	—	樹形に乱れがあり、不適。			●
395	N02-395		トウカエデ	15.0	214	12		2.21	0.7	2.82	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○				○				超	大	無	○	小	無	無	1	9	15	8.3	樹形良好、維持可能。		●	
396	N02-396		ウバメガシ	12.0	4本立	10	84,91,58,58	2.13	0.68	2.71	2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.67	A	○				○				高	大	無	○	無	無	無	6	3	9	6.0	萌芽が旺盛である。樹形維持、回復可能。 ナラ枯れ対策の粘着シート(カシナガホイホイ)設置。 フラスや虫の死骸もみられず、元気な状態にある。		●	
397	N02-397		クロマツ	15.0	154	6		1.78	0.57	2.27	2.5	2.0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.92	B			○				○		超	高	無	○	無	—	—	—	—	—	—	樹形に乱れがあり(下枝が高く、枝葉量が少ない)、不適。			●
398	N02-398		サンゴジュ	5.0	3本立	3.0	26,22,33				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		大							葉に、食害痕あり。 幹に、ヘデラの登ハンあり。			●
399	N02-399		サンゴジュ	5.0	3本立	2.5	22,38,18				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		大							葉に、食害痕あり。 幹に、ヘデラの登ハンあり。	●		
400	N02-400		クスノキ	15.0	103	6.0					2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.67	A			○					○			無		大							クスノキに近接しておる為、移植不可である。	●		
401	N02-401		クスノキ	15.0	131	8.0					2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.67	A			○					○			無		中							クスノキに近接しておる為、移植不可である。	●		
402	N02-402		サンゴジュ	5.0	50	3.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		大							下枝に、枯れあり。 片枝樹形(東側)である。	●		
403	N02-403		アラカシ	12.0	3本立	10.0	32,126,113				2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.5	1.75	A		○				※					無		中							根元に、スタブカットφ12cm,L=0.3m、腐朽、背着生キノコあり。 ひこばえが、多数あり。	●		
404	N02-404		ソメイヨシノ	10.0	2本立	15.0	156,157				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○			有		中							根元に、コフキサルノコシカケの子実体あり。 高さH1.3mにて、断幹あり。打音異常(大) H0.0m～1.2mあり。 大枝に、開口空洞 20×10×15/50あり。 打音異常(中) H1.5m～2.0mあり。 フェンスが、0.5m(西側)の距離にある。	●		
405	N02-405		ネズミモチ	3.5	6本立	2.0	10,9,9,20,9,16				2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.25	B			○					○			有		小							フェンスが、1.2m(西側)の距離にある。	●		
406	N02-406		ネズミモチ	3.5	3本立	2.0	13,15,32				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			有		小							フェンスが、0.4m(西側)の距離にある。	●		
407	N02-407		サンゴジュ	3.5	25	2.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		中							葉に、食害痕あり。葉量が、少ない。 下枝に、枯れあり。	●		
408	N02-408		サクラ	12.0	160	8.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○			有		中							樹幹傾斜(小)(西側)あり。 ぶつ切り剪定されている。 胴吹き枝が、多数あり。 枝が、フェンスに、接触している。 フェンスが、0.7m(南西側)の距離にある。	●		
409	N02-409		タブノキ	15.0	256	10.0					1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○					※					無		小							幹に、ヘデラの登ハンあり。	●		
410	N02-410		ソメイヨシノ	10.0	87	6.0					3.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B			○					○			有		中							樹幹傾斜(大)(南西側)あり。 枝が、フェンスに、接触している。 フェンスが、0.6m(南西側)の距離にある。	●		
411	N02-411		スダジイ	12.0	207	10		2.35	0.75	2.99	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○				○		高	大	有	○	中	—	—	—	—	—	—	大枝に剪定痕、スタブカットからの腐朽が多数あり。C 損傷多く、樹形も不良、不適。 幹芯からフェンスまでの離隔距離1.5m。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(13)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場西側　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	樹幹の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高1.5/1.8	根元張	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	誘定・対象樹	誘定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※数の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無							該当に● ●：変更樹木			
412	N02-412		エノキ	12.0	151	10.0					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○					○			無		大							被圧により、幹の曲がりあり。 下枝がない。	●		
413	N02-413		クロガネモチ	15.0	3本立	10	5211913 2	2.78	0.89	3.54	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○					○			超	超	無	○	小	無	無	14	13	9	12.0	立派な樹木であり、シンボルツリーにもなり得る。 根鉢大きく場内移植可能。	●		
414	N02-414		トウカエデ	15.0	151	8.0					2.5	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	2.09	B			○					○			無		中							西側からの被圧により、片枝樹形である。 下枝がない。 盛土あり。	●		
415	N02-415		サクラ	6.0	29	3.5					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○		○							無		中							樹幹傾斜(中)(東側)あり。 周辺木からの被圧により、片枝樹形である。	●		
416	N02-416		エンジュ	8.0	83	6.0					3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○					○			有		中							樹幹傾斜(大)(東側)あり。 イチョウからの被圧により、片枝樹形である。 根元に、樹皮欠損(中) 30×20あり。 根元に、不自然な凹み・奇形あり。 フェンスが、0.8m(東側)の距離にあり。	●		
417	N02-417		イチョウ	20.0	284	10.0		3.47	1.11	4.42	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○					○			超	超	無	○	小	無	無	8	14	8	10.0	幹H1.6mに樹皮欠損(中)(120cm×20cm)あるが、現状問題なし。 樹形樹勢極めて良好な巨木。	●		
418	N02-418		イロハモミジ	10.0	2本立	8	97,92	1.59	0.51	2.03	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○				○				高	高	無	○	中	無	無	6	8	10	8.0	まれに見る極めて樹形・樹勢の良い樹である。	●		
419	N02-419		ヒサカキ	3.5	2本立	2.5	18,21				1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○							無		小							フェンスが、1.0m(東側)の距離にあり。	●		
420	N02-420		イヌツゲ	3.0	35	2.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			無		無							主幹が、枯死している。	●		
421	N02-421		モチノキ	5.0	59	2.5		0.8	0.25	1.02	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A			○				○		高	高	無	○	大	–	–	–	–	–	–	樹形にやや乱れあり。 代替え樹もある規格。	●		
422	N02-422		コブシ	12.0	135	6.0					2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○					○			無		無							幹H1.9mに、開口空洞(大) 120×15×10/30あり。 幹に、開口空洞(小) 30×5×5/40あり。 幹に、打音異常(中) H1.0m～1.5mあり。 大枝に、枝折れ痕あり。	●		
423	N02-423		ミズキ	12.0	94	6		1.31	0.42	1.67	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.75	A		○			○				高	高	無	○	小	無	無	10	15	10	11.7	下枝が少ないが樹高が高く上部に枝葉があり樹形、樹勢良好。 幹芯から隣木8N02-423ミズキ)までの離隔距離1.6m。	●		
424	N02-424		シラカシ	10.0	128	8		1.36	0.43	1.73	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	1.92	B			○				○		高	高	無	○	小	–	–	–	–	–	–	幹H2.5mに開口空洞があり、移植には不適である。			●
425	N02-425		シラカシ	12.0	196	8		2.26	0.72	2.88	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○				○				高	大	有	○	小	無	無	14	9	9	10.7	枝葉量が多く、樹勢は良好である。		●	
426	N02-426		モチノキ	8.0	3本立	6	54,93,31	2.02	0.64	2.57	2.0	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	1.75	A		○			○				高	大	無	○	中	無	無	10	9	5	8.0	場内で株立ちのモチノキは珍しい。 移植剪定において、3本立ちの細い1本を切除する必要がある。		●	
427	N02-427		モッコク	4.5	49	2.5					2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.5	2.00	B		○		○							無		中							枝葉が、やや少ない。 大枝に、枝折れ痕(小)φ 8cm 巻込み無し、あり。		●	
428	N02-428		エンジュ	15.0	227	8		2.43	0.77	3.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○				○				超	大	無	○	小	無	無	8	7	1	5.3	高さH2.5mで双幹状となり立派な樹形である。 樹形維持可能。	●		
429	N02-429		ツバキ	5.0	5本立	3.5	23,35,34 ,36,20				1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○			○							無		中							幹H0.4mに、樹皮欠損(中) 17×4あり。 フェンスが、1.2m(東側)の距離にあり。		●	
430	N02-430		ツバキ	4.0	6本立	3.0	22,30,30 ,18,17,2				1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○							無		中							フェンスが、1.2m(東側)の距離にあり。		●	
431	N02-431		カキ	8.0	62	6.0					2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.75	A		○		○							無		大							樹幹傾斜(中)(東側)あり。 下枝がない。		●	
432	N02-432		モチノキ	8.0	2本立	4	73,81	1.46	0.46	1.86	2.5	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.84	B		○			○				高	高	無	○	小	無	無	10	5	5	6.7	整った樹形である。維持可能。		●	
433	N02-433		トウカエデ	12.0	225	8		3.61	1.15	4.6	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.75	A	○					○			高	超	有	○	無	無	無	20	19	20	19.7	歪楕円形(長径2.7m)の植栽桝に位置する。 幹芯から御影石ベンチまでの離隔距離2.7m。 変形の根鉢となるが、樹勢は極めて旺盛であり、チャレンジ移植は可能である。	●		
434	N02-434		トウカエデ	12.0	235	8		3.08	0.98	3.92	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.5	1.75	A	○					○			高	超	有	○	無	無	無	24	16	21	20.3	歪楕円形(長径3.1m)の植栽桝に位置する。 変形の根鉢となるが、樹勢は極めて旺盛であり、チャレンジ移植は可能である。	●		
435	N02-435		ウバメガシ	15.0	4本立	12	159,173, 192,90	3.36	1.07	4.28	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A			○				○		超	超	有	×	無	–	–	–	–	–	–	高さH1.5mで4分岐しているが、H1.0m辺りまで癒合がみられる。 幹芯から歩道側コンクリート土間までの離隔距離0.6m。 とても立派な樹木である。	●		
436	N02-436		スダジイ	15.0	336	12		4.93	1.57	6.28	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A			○				○		超	超	有	×	中	–	–	–	–	–	–	扁平な横拡がりの樹形である。枝が外灯と接触している。 幹芯から縁石までの離隔距離1.2m。 とても立派な樹木である。	●		
445	N02-445		スダジイ	12.0	202	8.0					1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○					※					有		中							道路側に、大枝剪定痕からの腐朽、巻込み無し、が3箇所、 H2.2mにφ15cm、H2.4mにφ17cm、H2.8mにφ15cmあり。 根上りあり。縁石の押し出し(小)あり。 フェンスが、0.5m(北側)の距離にある。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(14)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場東側　　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高15/16	根元径	根元構造物	損傷確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・誘接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※:幹の内、保存樹木のため詳細調査対象外						超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●:変更樹木		
4	N01-004		ヒマラヤシーダー	18.0	169	4		ー	ー	ー	2.0	2.0	2.0	2.5	1.5	2.5	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	2018年調査時点では存在していたが、2022年詳細調査の結果、維持管理等のため伐採済みであった。			●
5	N01-005		シダレザクラ	5.0	107	3.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							有		大						隣接するヒマラヤシーダーの、被圧(大)あり。 剪定による、樹皮欠損・腐朽あり。 根元に、フェンスあり。 工事柵があり、根元の様子が確認できない状態にある。		●	
6	N01-006		ヒマラヤシーダー	18.0	292	6.0					ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー		ー		ー			ー		ー						対象木の存在を確認できなかった。 工事柵があり、根元の様子が確認できない状態にある。	●		
7	N01-007		ヒマラヤシーダー	18.0	143	6.0					3.0	3.0	3.0	2.5	1.5	3.0	2.67	C		○				※					無		大						被圧により、下枝が少ない。 工事柵があり、根元の様子が確認できない状態にある。	●		
8	N01-008		ヒマラヤシーダー	18.0	195	8.0					3.0	2.0	2.5	1.5	2.5	2.5	2.34	B		○				※					無		大						隣接するヒマラヤシーダーの、被圧(大)あり。片枝状態にある。 大枝・幹に、梢端切除あり。 幹の頂部において、断幹されている。	●		
9	N01-009		ヒマラヤシーダー	20.0	253	8.0					2.0	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.75	A	○					※					有		中						被圧により、下枝が少ない。 根元付近に、フェンスあり。 工事柵があり、根元の様子が確認できない状態にある。	●		
10	N01-010		ヒマラヤシーダー	20.0	246	10		2.95	0.94	3.76	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.34	B			○				○			超	超	無	○	中	無	無	ー	ー	ー	ー	樹形に乱れあり(H12mまで下枝なし)。大枝の強剪定痕あり。 樹形維持困難。 移植樹として不適である。			●
11	N01-011		ヒマラヤシーダー	20.0	194	8		2.29	0.73	2.92	3.0	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.42	D		○			○					超	大	無	○	小	無	無	26	29	29	28.0	幹に開口空洞あるが、移植には問題なし。 大枝の強剪定痕がなく、良い管理状態にある。 剪定でも樹形維持可能。		●	
12	N01-012		ヒマラヤシーダー	20.0	189	6		2.33	0.74	2.97	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B		○					○			超	大	無	○	中	無	無	15	14	15	14.7	樹形が良い状態にある。 樹高大きく出来れば場内移植が良い。		●	
14	N01-014		ヒマラヤシーダー	18.0	129	4		ー	ー	ー	2.5	3.0	2.5	3.0	3.0	3.0	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	2018年調査時点では存在していたが、2022年詳細調査の結果、維持管理等のため伐採済みであった。			●
15	N01-015		ヤエザクラ	4.0	111	2.5					3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.84	D			○					○			有		大						根元に、巻き根あり。 隣接するヒマラヤシーダーによる被圧(大)あり。 根元に、フェンスあり。			●
17	N01-017		ヒマラヤシーダー	20.0	295	12		3.26	1.04	4.15	2.0	1.0	2.0	1.5	2.0	1.5	1.67	A			○				○			超	超	無	○	無	無	無	11	8	17	12.0	移植に向けた剪定により、 大枝を剪定すると、ふところ枝が無くなってしまう為、 移植樹としては不適である。			●
18	N01-018		シダレザクラ	10.0	96	4.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C		○				※					無		大						隣接するヒマラヤシーダーによる被圧(大)あり。 幹に、つる植物(2種類)が登ハンし、被圧(大)あり。	●		
19	N01-019		シダレザクラ	8.0	96	5.0					3.0	3.0	2.5	3.0	3.0	2.5	2.84	C		○				※					無		大						隣接するヒマラヤシーダーによる被圧(大)あり。	●		
20	N01-020		シダレザクラ	8.0	84	5.0					3.5	3.5	3.5	3.0	3.5	4.0	3.50	D			○					○			無		大						幹に、打音異常 H1.2m～2.0mあり。 幹の入り皮部に、腐朽あり。 根元に、コフキサルノコシカケの子実体あり。 カミキリムシの食害痕あり。	●		
21	N01-021		ヤエザクラ	4.0	53	4.0					3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D		○		○							有		中						根元に、フェンスあり。	●		
22	N01-022		サクラ	5.0	32	5.0					1.5	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	1.34	A	○			○							無		中							●		
23	N01-023		ヤエザクラ	3.0	62	4.0					3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.84	D			○					○			有		中						深植え状態にある。 根元に、フェンスあり。	●		
24	N01-024		ヒマラヤシーダー	20.0	233	10		2.86	0.91	3.64	1.5	1.5	3.0	1.5	1.5	1.5	1.75	A			○				○			超	超	無	○	無	無	無	ー	ー	ー	ー	枝が細く移植は可能であるが、幹にとても大きな樹皮欠損があるため、移植樹としては相応しくない。			●
25	N01-025		ヒトツバタゴ	18.0	98	8.0					2.0	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.84	B		○				※					無		小						幹に、樹幹傾斜があるが、上部で持ち直し。	●		
26	N01-026		ハナモモ	5.0	3本立	7.0	23,28,55				1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A		○		○							有		中						根元に、入り皮あり。 小枝に、コスカシバの食害痕あり。 深植え状態にある。 根元に、フェンスあり。	●		
27	N01-027		ヒトツバタゴ	8.0	47	5.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B		○		○							有		中						深植え状態にある。 根元に、フェンスあり。	●		
28	N01-028		ハナモモ	4.0	2本立	5.0	35,41				2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○		○							有		大						枝に、コスカシバの食害痕(中)あり。 盛土が、30cm以上あり。 大枝に、フェンスくい込みあり。	●		
29	N01-029		ヤエザクラ	10.0	2本立	8.0	103,140				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					有		中						盛土が、30cm以上あり。 幹H0.6mに、入り皮あり。 大枝に、剪定による樹皮欠損・腐朽(中)あり。	●		
30	N01-030		ヤエザクラ	6.0	40	6.0					3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D			○					○			有		大						幹に、打音異常 H1.5m～2.0mあり。 幹に、コスカシバ食害痕(小)あり。 被圧による、枝枯れあり。 盛土が、30cm以上あり。	●		
31	N01-031		ヤエザクラ	8.0	2本立	8.0	47,94				3.5	3.0	3.0	3.0	3.5	3.0	3.17	C		○				※					有		大						大枝に、腐朽、打音異常あり。 幹H1.2mに、開口空洞、フェンスくい込みあり。 盛土が、30cm以上あり。	●		
32	N01-032		ヒマラヤシーダー	20.0	259	8.0					1.5	1.5	1.5	1.5	1.0	1.5	1.42	A	○					※					有		小						盛土が、30cm以上あり。 フェンスとブロックが、北側と東側にある。	●		

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(15)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場東側　　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日※青字記載：追加詳細調査対象樹木　　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格							活力度							保存の必要性			移植				調査項目																備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
				樹高(m)	幹周(cm)	業張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	補償の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高15/19	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・除去樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均				
				1～4評価														ABOD	該当に○			※:裏の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●:変更樹木		
33	N01-033		ヒマラヤシーダー	25.0	355	10		4.25	1.35	5.41	2.5	1.5	2.0	1.5	1.5	2.0	1.84	B			○				○		超	超	有	×	小	無	無	—	—	—	—	下枝が高さ12mまでほぼ無い状態である。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、園路縁石までの離隔距離1.2mと1.5m。適正根鉢確保困難。 ※幹周・根元周は防球マットの上からの計測。			●
34	N01-034		ヒマラヤシーダー	25.0	279	15		3.74	1.19	4.76	1.5	1.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.75	A			○				○		超	超	有	×	中	無	無	15	18	16	16.3	下枝(東側)が高さ12mまで無い状態である。 幹芯から植栽桝枠木までの離隔距離0.7mと0.9mと0.9mと0.9m(矩形)。 ※幹周・根元周は防球マットの上からの計測。適正根鉢確保困難。			●
35	N01-035		ヒマラヤシーダー	25.0	293	12		3.66	1.17	4.66	2.0	1.5	3.0	2.5	1.5	2.0	2.09	B			○				○		超	超	有	×	中	無	無	—	—	—	—	幹芯からフェンスまでの離隔距離0.95m、園路縁石までの離隔距離1.2mと1.5m。適正根鉢確保困難。 ※幹周・根元周は防球マットの上からの計測。			●
36	N01-036		サンゴジュ	6.0	117	3		1.26	0.4	1.61	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	中	無	無	—	—	—	—	盛土0.75m。 樹形に乱れあり(北側に枝なし)、病害が激しい。 樹形・樹勢不良、不適。			●
37	N01-037		サンゴジュ	6.0	71	2.5		0.95	0.3	1.21	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	大	無	無	—	—	—	—	盛土0.75m。 樹形に乱れあり(北側に枝なし)、病害が激しい。 樹形・樹勢不良、不適。			●
38	N01-038		サンゴジュ	6.0	2本立	2.5	59,73	95,75	—	—	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○		高	超	無	○	大	無	無	—	—	—	—	盛土0.75m。 樹形に乱れあり(北側に枝なし)、病害が激しい。 樹形・樹勢不良、不適。			●
39	N01-039		サンゴジュ	6.0	71	2.5		1.04	0.33	1.32	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	大	無	無	—	—	—	—	盛土0.75m。 樹形に乱れあり(北側に枝なし)、病害が激しい。 樹形・樹勢不良、不適。			●
40	N01-040		サンゴジュ	6.0	2本立	2.5	47,66	1.05	0.33	1.34	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	大	無	無	—	—	—	—	盛土0.75m。 樹形に乱れあり(北側に枝なし)、病害が激しい。 樹形・樹勢不良、不適。			●
41	N01-041		サンゴジュ	6.0	76	2.5		1.37	0.44	1.75	3.0	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	大	無	無	—	—	—	—	盛土0.75m。 樹形に乱れあり(北側に枝なし)、病害が激しい。 樹形・樹勢不良、不適。			●
42	N01-042		サンゴジュ	6.0	2本立	2.5	36,55	68,51	—	—	3.0	3.0	2.5	2.5	2.0	2.5	2.59	C			○				○		高	超	無	○	大	無	無	—	—	—	—	盛土0.75m。 樹形に乱れあり(北側に枝なし)、病害が激しい。 樹形・樹勢不良、不適。			●
43	N01-043		サンゴジュ	6.0	4本立	3.5	61,59,70,29	1.47	0.47	1.87	2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.00	B			○				○		高	高	無	○	大	無	無	—	—	—	—	盛土0.75m。 樹形に乱れあり(北側に枝なし)、病害が激しい。 樹形・樹勢不良、不適。			●
44	N01-044		ケヤキ	20.0	286	10		3.18	1.01	4.05	2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	2.00	B			○				○		超	超	有	×	無	無	無	16	14	18	16.0	幹H4mに開口空洞(φ40cm)あり。 植栽桝(矩形)の一辺がアスファルト舗装であり、根張りに偏りがある可能性あり。 ※幹周・根元周は防球マットの上からの計測。適正根鉢確保困難。			●
45	N01-045		クロマツ	8.0	146	4		1.93	0.61	2.46	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.42	B			○				○		高	大	有	×	無	無	無	—	—	—	—	樹形に乱れがあり(断幹、梢端切除)、幹(南側)H0.6mに樹皮欠損あり、不適。幹芯から植栽桝木枠までの離隔距離0.8m。 ※幹周・根元周は防球マットの上からの計測。			●
47	N01-047		クロマツ	8.0	131	4.0					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○		○							無		中					幹に、打音異常 H1.0mあり。　一度移植済み。 幹に、樹皮欠損(小)が、多数あり。	●		
49	N01-049		モチノキ	6.0	134	4.0					2.0	2.0	3.0	2.5	2.0	2.0	2.25	B		○		○							無		中					大枝に、樹皮欠損が、多数あり。　一度移植済み。 幹に、樹皮欠損(H0.6m～0.9mの範囲)あり。 幹H0.4mに、開口空洞 25×3あり。 根元に、開口空洞 3×3×5あり。 葉に、タイワンドガリキジラミの虫害あり。	●		
50	N01-050		クロマツ	12.0	128	6.0					2.0	2.0	2.5	2.0	1.5	2.0	2.00	B		○		○							無		中					幹H0.5mに、開口空洞 15×20あり。　一度移植済み。 幹に、打音異常 H0.5m～1.5mあり。 盛土が、30cm以上あり。		●	
52	N01-052		シラカシ	18.0	181	10		2.15	0.68	2.74	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.25	B		○				○		超	大	有	○	小	無	無	10	11	9	10.0	幹に、開口空洞(巻き込み)あるが、移植には問題なし。 北側の下枝が高いが南側の樹冠は問題なし。 幹芯からフェンスまでの離隔距離2.2mと2.8m。 H12m剪定では樹形維持出来ない。場内移植が適。		●	
53	N01-053		トチノキ	18.0	254	12		2.81	0.89	3.58	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B			○				○		超	超	有	×	無	無	無	—	—	—	—	根元の南側半分は際までアスファルト舗装がされており、根系発達の状態は不明である。 幹芯からフェンスまでの離隔距離1.5m。適正根鉢確保困難。			●
54	N01-054		トチノキ	18.0	292	12		3.36	1.07	4.28	2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.17	B			○				○		超	超	有	×	小	無	無	—	—	—	—	樹冠を構成する中枝が横に広がっており太い。 大枝(南側)がフェンスに接触、幹にナツヅタの登ハンあり。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.8mと1.1m。適正根鉢確保困難。			●
55	N01-055		サンゴジュ	4.5	2本立	1.5	25,33	0.63	0.2	0.8	2.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	有	×	中	無	無	—	—	—	—	サンゴジュハムシによる食害あり。樹形、樹勢不良。			●
56	N01-056		サンゴジュ	4.0	2本立	1.0	9,17				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.09	C			○					○			有		大					ブロック塀が、近接している。			●
57	N01-057		サンゴジュ	4.0	2本立	1.0	11,22				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.09	C			○					○			有		大					ブロック塀が、近接している。			●
58	N01-058		サンゴジュ	4.0	2本立	1.0	13,18				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.09	C			○					○			有		大					ブロック塀が、近接している。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(16)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場東側　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	補端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高1.8/1.6	根元径	根元構造物	損傷箇所	片枝被圧	剪定・対象箇所	剪定・誘引箇所	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内，保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無						該当に●：変更樹木		
59	N01-059		サンゴジュ	4.0	16	1.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.09	C			○					○			有		大								ブロック塀が、近接している。			●
60	N01-060		サンゴジュ	4.5	27	1.5					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大								ブロック塀が、近接している。			●
61	N01-061		サンゴジュ	4.5	23	1.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大								ブロック塀が、近接している。			●
62	N01-062		サンゴジュ	4.0	23	1.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		大								ブロック塀が、近接している。			●
63	N01-063		サンゴジュ	4.5	3本立	1.0	10,13,17				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.09	C			○					○			有		大								ブロック塀が、近接している。			●
64	N01-064		サンゴジュ	4.5	2本立	1.0	27,31				3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.92	C			○					○			有		大								ブロック塀が、近接している。			●
65	N01-065		サンゴジュ	3.0	12	0.5					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.09	C			○					○			有		大								ブロック塀が、近接している。			●
66	N01-066		サンゴジュ	5.0	45	2.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.92	C		○						○			有		中								ブロック塀が、近接している。			●
67	N01-067		ヒイラギモクセイ	3.0	5本立	1.5	14,14,18,18,22				－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			有		－								樹高が3m未満に剪定されているが、樹木規格が3mのため、総数に計上。	●		
68	N01-068		ヒイラギモクセイ	3.0	3本立	1.0	11,14,10				－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			有		－								樹高が3m未満に剪定されているが、樹木規格が3mのため、総数に計上。	●		
69	N01-069		ヒイラギモクセイ	3.0	2本立	1.0	16,11				－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			有		－								樹高が3m未満に剪定されているが、樹木規格が3mのため、総数に計上。	●		
70	N01-070		ヒイラギモクセイ	3.0	28	1.0					－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			有		－								樹高が3m未満に剪定されているが、樹木規格が3mのため、総数に計上。	●		
71	N01-071		ヒイラギモクセイ	3.0	19	1.0					－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			有		－								樹高が3m未満に剪定されているが、樹木規格が3mのため、総数に計上。	●		
72	N01-072		ヒイラギモクセイ	3.0	2本立	1.0	20,12				－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			有		－								樹高が3m未満に剪定されているが、樹木規格が3mのため、総数に計上。	●		
73	N01-073		ヒイラギモクセイ	3.0	2本立	1.0	17,21				－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			有		－								樹高が3m未満に剪定されているが、樹木規格が3mのため、総数に計上。	●		
74	N01-074		シラカシ	16.0	177	12		2.06	0.66	2.62	2.0	1.5	2.5	2.0	1.5	2.0	1.92	B		○		○					超	大	有	○	無	無	無	12	12	16	13.3	しっかりとした骨格樹形である。 大枝に樹皮欠損、剪定痕に腐朽があるが概ね問題なし。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.7m。 H12m付近剪定でも樹形維持可能。		●	
75	N01-075		ヒイラギモクセイ	3.0	22	1.5					－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			有		－								樹高が3m未満に剪定されているが、樹木規格が3mのため、総数に計上。	●		
76	N01-076		ヒイラギモクセイ	3.0	18	1.5					－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－			有		－								樹高が3m未満に剪定されているが、樹木規格が3mのため、総数に計上。	●		
77	N01-077		シラカシ	8.0	64	4.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○				※					有		大								被圧により、枝枯れ(小)あり。 フェンスに、近接する。	●		
78	N01-078		スギ	12.0	68	3.0					2.0	2.0	1.5	2.0	2.0	2.5	2.00	B		○				※					無		小								被圧により、枝枯れ(小)あり。 フェンスに、近接する。	●		
79	N01-079		シダレザクラ	7.0	63	5.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		中								樹幹傾斜あり。 幹H2.0mに、入り皮あり。	●		
80	N01-080		ヒマラヤシーダー	20.0	160	10		1.82	0.58	2.32	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.67	A	○			○					超	高	有	○	小	無	無	7	6	6	6.3	枝が細く、移植には適する。 幹芯からブロック塀までの離隔距離1.4m。 H12m付近で剪定しても樹形維持可能。		●	
89	N01-089		クスノキ	12.0	153	8.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.09	B		○						○			有		無								大枝(東側)、梢端切除あり。 一度移植済み。 テニスコートの基礎、縁石、アスファルト舗装の、押し出しあり。	●		
90	N01-090		ウバメガシ	7.0	172	7		1.82	0.58	2.32	1.5	1.5	3.5	2.0	1.5	1.5	1.92	B			○				○		高	高	有	○	小	無	無	－	－	－	－	根元・幹に開口空洞あり、移植木としては相応しくない。			●
91	N01-091		ケヤキ	20.0	394	15.0					2.0	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	2.00	B	○							○			有		無								根元・幹(東側)に、開口空洞 40×20×5、ベッコウタケの子実体あり。 大枝(東側)に、剪定痕からの腐朽あり。 幹に、キヅタの登ハンあり。 フェンスに、近接する。			●
92	N01-092		タブノキ	12.0	81	6.0					2.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.00	B		○				※					有		中								幹に、キヅタの登ハン、サルトリイバラのからみあり。 フェンスに、近接する。	●		
93	N01-093		マテバシイ	10.0	75	6.0					3.0	2.5	2.5	2.5	3.0	2.5	2.67	C			○					○			無		大								幹H1.2mに、開口空洞 15×5×7あり。 被圧による、枝枯れあり。	●		
94	N01-094		モチノキ	5.0	47	3.0					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		大								巣に、タイワントガリキジラミの虫害あり。 幹に、キヅタの登ハンあり。	●		
95	N01-095		シダレザクラ	4.0	32	205.0					4.0	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	3.75	D			○					○			無		大								キヅタと、スダジイによる、被圧(大)あり。	●		
96	N01-096		マテバシイ	5.0	3本立	5	47,53,63	70,61,46			2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○					○	高	高	有	○	大	無	無	－	－	－	－	樹形に乱れがあり、不適。			●
97	N01-097		スダジイ	10.0	182	8.0					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	2.00	B		○				※					無		小								幹H0.7mに、開口空洞 20×13×13あり。 幹に、打音異常 H1.2mあり。 大枝に、剪定痕からの腐朽(大)あり。	●		
98	N01-098		マテバシイ	8.0	90	7		1.06	0.34	1.35	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○					○	高	高	有	×	中	無	無	－	－	－	－	樹形に乱れあり(樹冠が扁平)。不適。 幹芯からフェンスまでの離隔距離0.4m。			●
99	N01-099		ケヤキ	20.0	313	15		－	－	－	2.0	2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2018年調査時点では存在していたが、2022年詳細調査の結果、維持管理等のため伐採済みであった。			●
100	N01-100		ケヤキ	20.0	279	15		3.06	0.97	3.9	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B			○					○	超	超	無	○	無	無	無	－	－	－	－	下枝が少なく、枝葉量も少ない。 ケヤキさらしが失われている状態にある。 剪定では樹形維持困難、不適。			●
101	N01-101		マテバシイ	7.0	49	4.0					2.0	1.5	1.5	2.0	1.5	2.0	1.75	A		○		○							無		中								盛土が、30cm以上あり。		●	

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(17)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場東側　／　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　／　：追加調査項目

通番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	B	C	不可	調査項目 樹高15/15	根元径	複幹確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・誘検樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※葉の内、保存樹木のため詳細調査対象外						最大高	最大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
102	N01-102		マテバシイ	10.0	128	6		ー	ー	ー	2.5	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	2018年調査時点では存在していたが、2022年詳細調査の結果、維持管理等のため伐採済みであった。			●
103	N01-103		マテバシイ	5.0	50	3.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.17	B		○		○							無		大								●		被圧による、枝枯れ.あり。
104	N01-104		スダジイ	15.0	320	10		2.94	0.94	3.75	2.0	1.5	2.0	1.5	2.0	1.5	1.75	A			○				○		超	超	有	○	無	無	無	ー	ー	ー	ー	樹形に乱れがあり(双幹状の大枝の一方がH5mで直角に屈曲、他方は道路側に傾斜)、不適。			●
105	N01-105		マテバシイ	7.0	61	5.0					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		大								被圧による、枝枯れ.(小)あり。ひこばえが、多 数あり。		●	
106	N01-106		ケヤキ	20.0	301	15		2.96	0.94	3.77	1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.67	A			○				○		超	超	有	×	無	無	無	ー	ー	ー	ー	樹形に乱れがあり(下枝が高い、枝の暴れ)。H12m剪定では樹形維持困難、不適。			●
107	N01-107		スダジイ	10.0	191	6.0					2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B		○				※					無		中								幹に、開口空洞が、数か所あり。剪定痕に、腐朽あり。根元に、樹皮欠損あり。	●		
108	N01-108		タブノキ	7.0	75	5.0					2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.17	B		○		○							無		中								被圧による、枝枯れ.あり。葉に、病徴あり。	●		
109	N01-109		スダジイ	5.0	152	4.0					2.5	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.34	B		○		○							有		大								根元・幹に、打音異常(大) H0.0～2.5mあり。幹H0.4mに、開口空洞 30×23×10あり。幹に、腐朽あり。枝抜け痕、多数あり。フェンスに、接触している。盛土が、20cm以上あり。	●		
111	N01-111		スダジイ	10.0	251	7		2.93	0.93	3.73	2.0	2.0	3.0	2.0	2.5	2.0	2.25	B			○				○		高	超	有	×	小	無	無	ー	ー	ー	ー	根元・幹がフェンスに接触している。大枝に樹皮欠損や開口空洞・腐朽などが複数あり。樹形に乱れあり、不適。			●
112	N01-112		シラカシ	15.0	144	8.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					無		中								幹H2.0mに、開口空洞 30×20あり。被圧により、東側の枝が少ない。盛土が、30cm以上あり。	●		
113	N01-113		ウバメガシ	12.0	246	8		2.43	0.77	3.1	2.0	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.59	A	○				○				高	大	無	○	無	無	無	10	12	6	9.3	ナラ枯れ対策の粘着シート(カシナガホイホイ)、2020年9月設置から2年経過しているが、フラスや虫の死骸もみられず、元気な状態にある。萌芽力旺盛で剪定しても樹形回復力有り。		●	
114	N01-114		モチノキ	7.0	42	3.0					1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.84	B		○		○							無		大								葉に、タイワンガリキジラミの虫害あり。枝に、虫えいあり。	●		
115	N01-115		トウカエデ	12.0	78	4.0					2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.34	B		○				※					有		大								根元・幹H0.3mに、開口空洞 60×20×25/35(芯達)あり。樹幹傾斜あり。ヘデラの登ハンあり。樹木番号N01-116シダレザクラに、近接している。盛土が、20cmあり。	●		
116	N01-116		シダレザクラ	15.0	110	7.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					有		大								樹幹傾斜あり。ヘデラの登ハンあり。樹木番号N01-185スダジイからの被圧により、枝枯れあり。	●		
117	N01-117		モチノキ	7.0	65	3.0					1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○			○							無		中								葉に、タイワンガリキジラミの虫害、虫えいあり。ヘデラの登ハンあり。	●		
118	N01-118		アカメガシワ	6.0	3本立	7.0	24,26,27				1.5	1.5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.67	A			○					○			無		小								根元に、樹皮欠損 30×7あり。園内にアカメガシワの実生が多い為、保存価値は低い。			●
119	N01-119		モチノキ	6.0	50	3.0					2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B		○		○							無		中								幹H1.6mに、樹皮欠損 7×7あり。ヘデラの登ハンあり。盛土が、20cmあり。	●		
120	N01-120		ムクノキ	3.0	3本立	2.0	9,11,11				1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	1.5	1.25	A		○		○							有		中								幹がH3.0mにて 3分岐している。実生木である。フェンスが、近接している。	●		
121	N01-121		モチノキ	6.0	48	3.0					2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B		○		○							無		中								幹に、曲がりあり。盛土が、20cmあり。	●		
122	N01-122		マテバシイ	6.0	58	3.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○		○							無		中								多芽症状が、多 発している。盛土が、20cmあり。		●	
123	N01-123		モチノキ	6.0	62	3.0					2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B		○		○							無		中								葉に、タイワンガリキジラミの虫害あり。		●	
124	N01-124		プラタナス	18.0	231	8		2.91	0.93	3.71	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		超	超	無	○	中	無	無	10	6	9	8.3	適度に剪定管理されており、移植に適する。幹芯から隣木(N01-125クスノキ)までの離隔距離1.3m、クスノキの切除により根鉢確保が可能である。高さ12m付近で剪定しても樹形維持可能。根鉢大でBが適当。		●	
125	N01-125		クスノキ	15.0	160	8		2.13	0.68	2.71	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.17	B			○				○		超	大	無	○	無	無	無	ー	ー	ー	ー	樹形に乱れがあり(樹幹傾斜、樹冠に偏り)、移植樹として不適である。幹芯から隣木(N01-124プラタナス)までの離隔距離1.3m、プラタナスを移植対象とするため伐採とする。			●

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(18)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場東側　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高 (m)	規格 幹周 (cm)	規格 葉張 (m)	規格 株立ち幹周	根元周径 (m)	根元径 (D)	4D	活力度 樹形	活力度 樹勢	活力度 大枝幹の欠損・傷	活力度 枝伸長量	活力度 梢端の枯損	活力度 枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	保存の必要性 中	保存の必要性 低	移植 可	移植 難 A	移植 難 B	移植 難 C	移植 不可	樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
126	N01-126		イロハモミジ	6.0	114	6		1.3	0.41	1.66	2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○				○		高	高	無	○	無	無	無	―	―	―	―	幹(南側)H0.6mに開口空洞(15cm×14cm×20cm)あり、幹(南側)H0.9mに開口空洞(16cm×14cm×20cm)あり、幹(東側)H1.5mに開口空洞(10cm×4cm×8cm)あり。 被害部に巻き込みが見られるが、移植樹として不適である。			●
127	N01-127		スダジイ	10.0	183	8		2.08	0.66	2.65	2.0	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	2.25	B			○				○		高	大	有	○	中	無	無	―	―	―	―	樹形に乱れあり(枝の分布に偏り)、幹・大枝に樹皮欠損や開口空洞などが散在し、移植樹として不適である。			●
128	N01-128		スダジイ	10.0	206	10		2.35	0.75	2.99	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	大	有	○	無	無	無	―	―	―	―	樹形に乱れがあり(枝の分布に偏り、ふところ枝が少ない)、 根元に開口空洞や幹・大枝に樹皮欠損などが散在し、 移植樹として不適である。			●
129	N01-129		スダジイ	10.0	123	6		1.26	0.4	1.61	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	無	○	無	無	無	―	―	―	―	枝葉量が少なく、 根元に開口空洞、幹・大枝付け根・大枝に樹皮欠損などが散在し、移植樹として不適である。			●
130	N01-130		プラタナス	18.0	217	10		2.85	0.91	3.63	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				○			超	超	有	○	小	無	無	9	8	9	8.7	適度に剪定管理されており移植に適する。 幹芯からフェンスまでの離隔距離2.1m。根鉢大。		●（変更樹木）	
131	N01-131		マテバシイ	8.0	63	3		0.74	0.24	0.94	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	無	○	大	無	無	―	―	―	―	樹形に乱れがあり(樹幹傾斜、樹冠に偏り、下枝が高い)、 移植樹として不適である。			●
132	N01-132		シラカシ	15.0	128	8.0					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					無		大							根元・幹に、打音異常(小) H0.0m～2.5mあり。 盛土が、30cmあり。	●		
133	N01-133		ヒトツバタゴ	8.0	85	6.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		大							樹幹傾斜あり。 被圧による、枯枝あり。 フェンスが、近接している。	●		
134	N01-134		マテバシイ	8.0	92	6.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					無		大							被圧による、枯枝あり。	●		
135	N01-135		マテバシイ	6.0	83	5.0					1.5	1.5	2.0	2.0	1.5	1.5	1.67	A		○				※					無		中							多芽病症状が、数か所あり。	●		
136	N01-136		シダレザクラ	6.0	50	5.0					2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B		○		○							無		中							根元周辺に、カーペットが敷設されている。 盛土が、25cmあり。		●	
137	N01-137		ウバメガシ	8.0	2本立	4.0	114,103				2.5	2.0	3.5	2.0	2.0	2.0	2.34	B		○						○			有		中							幹H0.9mに、開口空洞 80×13×15/30(芯達)あり。 幹H1.1mに、開口空洞 220×20×15/23(芯達)あり。 根元に、開口空洞 15×5×10あり。 幹が、H0.6mで、2分岐している。 樹幹傾斜あり。 盛土が、20cmあり。			●
138	N01-138		イチョウ	20.0	5本立	25.0	366.295.277.100?				1.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	1.92	B	○							○			無		小							根元に、コフキサルノコシカケの子実体あり。 幹(南側)に、打音異常(小) H1.0m～2.0mあり。 幹(東側)H2.1mに、開口空洞 10×5×10/25あり。 株立ちの幹分岐部が、全て入り皮である。 大枝(南側)に、腐朽あり。 露出根に、樹皮欠損あり。 株立ちで、立派な樹である。			●
139	N01-139		シラカシ	14.0	170	6		2.1	0.67	2.68	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.09	B			○				○		大	大	無	○	無	無	無	―	―	―	―	樹形に乱れがあり(樹幹傾斜、樹冠に偏り、下枝が高い)、 大枝に開口空洞・腐朽あり、移植樹として不適である。			●
140	N01-140		シラカシ	14.0	187	7		2.18	0.69	2.78	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		大	大	無	○	大	無	無	―	―	―	―	大枝に腐朽(大)3箇所、樹皮欠損5箇所あり、移植樹として不適である。			●
141	N01-141		ムクノキ	18.0	158	7.0					2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.17	B		○				※					無		中							幹(南側)H6.0mに、開口空洞 50×10あり。他に、開口空洞が、2箇所あり。 幹に、大枝枯損あり。 露出根の切断部に、樹皮欠損あり。 過去に、ぶつ切り剪定されている。 下枝が高い。	●		
142	N01-142		トウネズミモチ	5.0	6本立	4.0	7,13,16,17,19,19				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			無		小							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
143	N01-143		ソメイヨシノ	15.0	204	7.0					2.5	2.5	3.0	2.0	2.0	2.5	2.42	B			○					○			有		大							根元(北側と南側)に、コフキサルノコシカケの子実体あり。 幹(北側)に、樹皮枯死あり。 幹(南側)H0.9mに、樹皮枯死 180×12×5あり。 ひこばえが、多数あり。 フェンスが、近接している。	●		
144	N01-144		マテバシイ	5.0	2本立	4.0	23,33				2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○				※					無		中							大枝に、腐朽あり。 幹に、樹皮欠損 20×15あり。 多芽症状が、数か所あり。 幹が、H0.2mで、分岐している。 樹木番号N01-145ケヤキに、近接している。 盛土が、30cm以上あり。	●		
145	N01-145		ケヤキ	20.0	189	15.0					1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A	○					※					有		無							ヘデラの登ハンあり。 盛土が、30cm以上あり。 フェンスが、近接している。	●		
147	N01-147		シダレザクラ	4.5	27	3.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C		○		○							無		大							枯れ枝あり。	●		
148	N01-148		シラカシ	8.0	66	6.0					1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.50	A		○		○							無		中							盛土が、20cmあり。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(19)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

エリア名				軟式野球場東側							活力度						調査日		保存の必要性			移植					関連項目											備考			
				規格																		可	難			不可								土壌硬度							
連番	樹木番号	表示	樹種名	樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低		A	B	C		樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
149	N01-149		ヒサカキ	6.0	27	2.5					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○		○							有		大							大枝H1.6mに、樹皮欠損 20×5あり。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスが、近接している。	●		
150	N01-150		シラカシ	7.0	14	3.0					3.5	3.0	4.0	3.0	3.5	3.5	3.42	D			○					○			無		大							断幹されており、南側が、根元まで腐朽(大)あり。 根元に、オオミコブタケの着生あり。 胴吹きが、多数あり。 盛土あり。	●		
152	N01-152		ヤエザクラ	8.0	82	5		0.93	0.3	1.18	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○				○		高	高	無	○	大	無	無	—	—	—	—	樹形に乱れがあり(被圧、樹幹傾斜、下枝が高い)、 樹形不良で不適である。	●		
153	N01-153		クスノキ	15.0	199	10		2.48	0.79	3.16	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	1.92	B		○			○				超	大	無	○	中	無	無	14	13	19	15.3	移植に向けた縮小剪定をすると(樹高11m程度で剪定)、 胴吹き枝にて良い樹形になると思われる。 またH6mで3分岐しているが、拡がり過ぎておらず移植に適している。	●		
154	N01-154		ヤエザクラ	8.0	74	5.0					3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D			○					○			無		大							枝抜け痕からの腐朽が、2箇所、打音異常あり。 樹幹傾斜あり。 巻き根あり。	●		
155	N01-155		クスノキ	15.0	2本立	10	200,204	3.28	1.04	4.18	1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○					○			超	超	無	○	小	無	無	6	9	7	7.3	移植に向けた縮小剪定をすると(樹高12m前後で剪定)、 胴吹き枝にて良い樹形になると思われる。 樹勢も良好である。根鉢は大でBが適当。	●		
156	N01-156		マテバシイ	8.0	5本立	6.0	141,99,7 6,113,73				2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.42	B		○						○			有		中							幹(東側)H1.4mに、開口空洞 70×15×15あり。 大枝(南側)に、枯れあり。 南側の幹の葉に、黄変あり。 胴吹きが、多数。 フェンスが、近接している。	●		
158	N01-158		ツバキ	3.5	3本立	2.5	9,18,22				1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B		○		○							無		大							被圧により、下枝に枯損あり。 樹木番号 N01-160ヤエザクラに、近接している。	●		
159	N01-159		トウネズミモチ	4.0	17	2.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			無		大							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
160	N01-160		ヤエザクラ	12.0	104	6		1.22	0.39	1.55	3.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.5	3.17	C			○				○		高	高	無	○	大	無	無	—	—	—	—	樹形に乱れあり(被圧)、大枝に欠損あり、移植樹として不適である。	●		
161	N01-161		トウネズミモチ	6.0	39	4.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B			○					○			無		大							環境省指定の重点対策外来種である為、保存価値が低い。			●
162	N01-162		シダレザクラ	8.0	129	7		1.56	0.5	1.99	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○			○				高	高	有	○	中	無	無	13	9	12	11.3	幹芯からフェンスまでの離隔距離0.4m、フェンス撤去可能。 根鉢確保、樹形維持可能。	●		
163	N01-163		シダレザクラ	7.0	118	5.0					2.0	2.0	3.0	2.0	3.0	2.5	2.42	B			○					○			有		中							幹H1.1mに、開口空洞 40×20×8、打音異常あり。 ぶつ切り剪定されている。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスが、近接している。	●		
164	N01-164		クロガネモチ	12.0	212	8		2.62	0.83	3.34	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2.0	1.59	A	○					○			高	超	有	○	中	無	無	10	8	7	8.3	樹形に乱れあり(北側の枝が少ない)。その他は概ね問題なし。 幹芯からフェンスまでの離隔距離1.7mと2.3m。 樹形良好な巨木、根鉢大きく場内移植が適。	●		
165	N01-165		ツバキ	5.0	44	3.0					2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	1.5	1.84	B		○		○							有		大							樹幹傾斜あり。 フェンスが、近接している。	●		
166	N01-166		サザンカ	4.0	42	2.0					2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B		○		○							有		大							根元に、樹皮欠損 5×5あり。 樹幹傾斜あり。 フェンスが、近接している。	●		
167	N01-167		ツバキ	4.0	26	2.0					3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○		○							有		大							幹に、樹皮欠損が、数か所あり。 周辺の中木からの、被圧あり。 フェンスが、近接している。	●		
168	N01-168		ツバキ	4.0	15	2.0					2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.5	2.09	B		○		○							有		大							フェンスに、接触している。	●		
169	N01-169		ミズキ	12.0	62	6		0.92	0.29	1.17	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.00	B		○			○				高	高	無	○	大	無	無	7	6	8	7.0	健全な状態にある。 樹形良好、移植可能。	●		
170	N01-170		サクラ	12.0	153	8		1.72	0.55	2.19	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.0	2.09	B			○				○		高	高	無	○	大	無	無	—	—	—	—	被圧(大)あり、梢端枯れあり、樹勢衰退傾向にある。不適。	●		
171	N01-171		ヤエザクラ	8.0	2本立	5.0	117,51				3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.50	D			○					○			無		小							大枝に、ぶつ切り剪定枝の枯損あり。 根に、切断痕あり。 幹が、H0.5mで、2分岐している。 胴吹きが、多数あり。 盛土が、25cmあり。	●		
172	N01-172		タイサンボク	8.0	145	8		1.59	0.51	2.03	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B		○			○				高	高	有	○	小	無	無	12	16	15	14.3	幹芯からフェンスまでの離隔距離1.7m。 樹形維持可能。		●	
173	N01-173		モッコク	7.0	110	5		1.4	0.45	1.78	2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B			○				○		高	高	有	○	小	無	無	—	—	—	—	樹形に乱れあり(双幹の片方切断)、大枝に腐朽あり、移植樹として不適である。			●
174	N01-174		トウカエデ	12.0	242	10		3.51	1.12	4.47	1.5	2.0	2.5	2.0	2.0	1.5	1.92	B	○					○			高	超	有	○	無	無	無	23	19	20	20.7	根元に開口空洞あるが問題なし。 縁石に囲まれた植栽桝(3.1×約2.4mの楕円形)にあり、幹芯から植栽桝に入り込んだベンチまでの離隔距離1.5m。 舗装を剥いだ根鉢となるが、樹勢は極めて旺盛であり、チャレンジ移植は可能である。	●		
175	N01-175		カシワ	6.0	152	3.0					-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			—		—							切株状態のため、伐採として総数に計上。			●

注） 調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(20)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：軟式野球場東側　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　□：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格 樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	活力度 樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	保存の必要性 高	中	低	移植 可	難 A	難 B	難 C	不可	関連項目 樹高13/15	根元径	根元構造物	根鉢確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	2回目	3回目	土壌硬度3回平均	備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所(大枝・幹・根元)》	保存	移植	伐採
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※：難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無	1回目	2回目	3回目	20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
176	N01-176		トウカエデ	12.0	262	8		3.45	1.1	4.39	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.5	1.84	B	○					○			高	超	有	○	無	無	無	21	25	26	24.0	縁石に囲まれた植栽桝(直径1.2mの円形)にある。円形の根鉢となるが、樹勢は極めて旺盛であり、チャレンジ移植は可能である。	●		
177	N01-177		シダレザクラ	8.0	105	5		1.27	0.4	1.62	2.0	2.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.17	B			○				○		高	高	無	○	小	無	無	—	—	—	—	樹形に乱れあり(北側の枝なし)、大枝に剪定痕からの腐朽が複数あり、移植樹として不適である。	●		
183	N01-183		シラカシ	15.0	218	10.0					1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○					※					有		中							幹H1.2mに、開口空洞 25×10×10あり。 大枝に、剪定痕からの腐朽あり。 フェンスが、近接している。	●		
184	N01-184		シラカシ	15.0	196	10.0					1.5	1.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.59	A	○					※					有		中							大枝に、ぶつ切り剪定、腐朽あり。	●		
185	N01-185		スダジイ	15.0	369	10.0					1.5	1.5	2.5	2.0	2.0	2.0	1.92	B	○							○			有		小							立派な木である。 幹に、開口空洞が、数か所あり。 大枝に、腐朽が、数か所あり。 根元、縁石の押し上げあり。 フェンスに、くい込みあり。	●		
186	N01-186		マテバシイ	12.0	155	8.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※					有		中							幹H1.2mに、開口空洞 8×3×10あり。 背着生キノコあり。 大枝が、ぶつ切り剪定されている。 ひこばえが、多数あり。	●		
187	N01-187		シダレザクラ	6.0	70	3.0					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.00	C			○					○			有		中							幹に、腐朽が、多数あり。 フェンスが、近接している。	●		
188	N01-188		シダレザクラ	10.0	106	7.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.42	B		○				※					有		中							根元・幹に、打音異常(小) H0.0m～1.0mあり。 大枝が、ぶつ切り剪定されている。 片枝樹形である。 フェンスが、近接している。	●		
189	N01-189		シダレザクラ	8.0	96	6.0					2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		中							フェンスが、近接している。	●		
193	N01-193		シダレザクラ	8.0	111	5.0					2.5	2.5	3.0	3.0	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		小							幹に、コブが多数あり。 フェンスと、照明の柱に、近接している。	●		
196	N01-196		シダレザクラ	7.0	104	4.0					3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○				※					有		小							大枝が、ぶつ切り剪定されており、コブが多数あり。 フェンスが、近接している。	●		
199	N01-199		シダレザクラ	7.0	64	5.0					2.0	2.5	2.0	2.5	2.5	2.5	2.34	B		○				※					有		小							マンホールと、フェンスが、近接している。	●		
202	N01-202		シダレザクラ	7.0	82	5.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○			有		小							根元・幹に、打音異常(小) H0.0～2.0mあり。 高さH0.7mに、ワイヤーのくい込みあり。 フェンスが、近接している。	●		
203	N01-203		コブシ	10.0	121	7.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※					有		小							大枝が、ぶつ切り剪定されている。 ヘデラの登ハンあり。 フェンスが、近接している。	●		
204	N01-204		シダレザクラ	8.0	109	6.0					2.5	2.5	2.0	2.5	2.0	2.5	2.34	B		○				※					有		小							片枝樹形である。 フェンスが、近接している。	●		
207	N01-207		シダレザクラ	8.0	95	6.0					3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○					○			有		小							枝葉が、少ない。 梢端剪定されている。 フェンスが、近接している。	●		
209	N01-209		イヌツゲ	3.5	2本立	1.5	36,14				2.5	2.5	3.0	2.5	2.0	2.5	2.50	B			○					○			有		小							幹に、腐朽が、多数あり。 刈り込み剪定されている。	●		
210	N01-210		イヌツゲ	3.0	34	1.5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○			有		小							大枝に、腐朽が、多数あり。 刈り込み剪定されている。	●		
211	N01-211		イヌツゲ	3.0	32	1.5					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○					○			有		中							樹木番号N01-077シラカシからの、被圧あり。 刈り込み剪定されている。	●		
218	N01-218		シダレザクラ	12.0	141	7.0					2.0	2.5	2.0	2.5	2.0	2.0	2.17	B		○				※					有		小							根元・幹に、打音異常(小) H0.0m～0.5mあり。 フェンスが、近接している。	●		
225	N01-225		シダレザクラ	8.0	109	6.0					3.0	3.0	3.0	2.5	2.5	2.5	2.75	C			○					○			有		無							大枝に、腐朽が、多数あり。 幹に、こぶが、多数あり。 フェンスが、近接している。 つる植物の登ハンあり。	●		
226	N01-226		イヌツゲ	3.0	3本立	2.0	18,34,40				2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B		○				※					有		小							大枝に、腐朽あり。 フェンスが、近接している。 刈り込み剪定されている。	●		
229	N01-229		シダレザクラ	6.0	130	6.0					2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C			○					○			有		無							幹に、こぶが、多数あり。 フェンスが、近接している。	●		
232	N01-232		シダレザクラ	8.0	88	7.0					2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○				※					有		無							幹に、こぶが、多数あり。 大枝が、ぶつ切り剪定されている。 フェンスが、近接している。 つる植物の登ハンあり。	●		
233	N01-233		イヌツゲ	3.0	7本立	2.0	28,22,14,23,26,36,26				2.5	2.5	2.5	2.5	2.0	2.5	2.42	B		○				※					有		無							小枝に、枯れあり。 刈り込み剪定されている。	●		
236	N01-236		トウカエデ	15.0	211	7		2.78	0.89	3.54	2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B	○					○			超	超	有	○	無	無	無	—	—	—	—	幹芯から球場側フェンスまでの離隔距離0.8m、球場土留め擁までの離隔距離1.4m、歩道アスファルトまでの離隔距離1.55m。根鉢やや厳しいが、樹勢ある種でチャレンジ移植可能。		●	
240	N01-240		シダレザクラ	6.0	79	5.0					3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	3.0	2.92	C			○					○			有		大							枝が、梢端切除されている。 片枝樹形である。 幹に、こぶが、多数あり。 フェンスが、近接している。	●		

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

【参考】資料表 2.2-3(21)　【変更前】毎木調査結果表（詳細調査結果を反映、計画地外）

エリア名：散式野球場東側　　調査日：2018年12月25日～2019年1月28日　2022年4月25日～2022年4月28日 ※青字記載：追加詳細調査対象樹木　　：追加調査項目

連番	樹木番号	表示	樹種名	規格							活力度								保存の必要性			移植				調査項目															備考《開口空洞・キノコ・腐朽箇所（大枝・幹・根元）》	保存	移植	伐採
				樹高(m)	幹周(cm)	葉張(m)	株立ち幹周	根元周径(m)	根元径(D)	4D	樹形	樹勢	大枝幹の欠損・傷	枝伸長量	梢端の枯損	枝葉の密度	平均評点	評価結果	高	中	低	可	難 A	難 B	難 C	不可	樹高1.3/1.6	根元径	根元構造物	腐朽確保	片枝被圧	剪定・対象樹	剪定・隣接樹	土壌硬度 1回目	土壌硬度 2回目	土壌硬度 3回目	土壌硬度3回平均				
											1～4評価							ABCD	該当に○			該当に○ ※難の内、保存樹木のため詳細調査対象外					超大高	超大高	有無	○×	大中小無	大中小無	大中小無				20以上未満		該当に● ●：変更樹木		
243	N01-243		トウカエデ	12.0	174	7.0					2.5	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.09	B		○				※						有		無								フェンス側の大枝が切断されている。 大枝が、ぶつ切り剪定されている。 照明柱に、近接している。	●		
245	N01-245		シダレザクラ	8.0	105	7.0					2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B		○				※						有		中								片枝樹形である。 フェンスが、近接している。	●		
247	N01-247		カラスザンショウ	10.0	168	8.0					2.5	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.59	C		○							○			有		小								大枝に、ぶつ切り剪定、腐朽あり。 フェンス側の大枝に、腐朽(大)あり。 幹に、縦の割れ傷あり。 樹幹傾斜あり。 フェンスが、近接している。	●		
248	N01-248		トウカエデ	7.0	95	4.0					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○						○			有		中								双幹の片方が、伐採された状態にあり、切断痕からの腐朽(大)あり。 フェンスが、近接している。	●		
251	N01-251		シダレザクラ	7.0	91	6.0					3.5	3.0	3.5	3.0	2.5	3.0	3.09	C			○						○			有		大								幹が、H2.0mで、断幹されている。 中枝が、1本のみの状態にある。 衰退傾向にある。 フェンスが、近接している。	●		
252	N01-252		イヌツゲ	3.0	3本立	2.5	16,17,28				2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.50	B			○						○			有		小								刈り込み剪定されている。	●		
253	N01-253		シダレザクラ	7.0	114	6.0					3.0	2.5	3.0	2.5	2.5	2.5	2.67	C			○						○			有		小								幹が、H4.5mにて、断幹されている。 高さH2.5mの上部が、枯損している。 フェンスが、近接している。	●		
255	N01-255		イヌツゲ	3.0	3本立	1.5	16,17,31				2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.09	B		○							○			有		小								枝に、イヌツゲ枝枯病(小)あり。 ひこばえが、多数あり。 アスファルト舗装と、フェンスが、近接している。	●		
256	N01-256		イヌツゲ	3.0	4本立	1.5	16,18,19,22				2.0	2.0	2.0	2.5	2.0	2.0	2.09	B		○							○			有		小								枝に、イヌツゲ枝枯病(小)あり。 ひこばえが、多数あり。 アスファルト舗装と、フェンスが、近接している。	●		
259	N01-259		トウカエデ	15.0	245	7.0					2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B		○							○			有		無								枝に、ぶつ切り剪定、こぶあり。 アスファルト舗装と、フェンスが、近接している。	●		
264	N01-264		トウカエデ	12.0	229	7.0					3.0	2.5	3.5	2.5	3.5	3.0	3.00	C			○						○			有		無								幹H1.0mに、開口空洞 30×6×14あり。 梢端切除痕に、腐朽(大)あり。 アスファルト舗装と、フェンスが、近接している。	●		
265	N01-265		イヌツゲ	3.0	6本立	2.0	27,28,21,25,18,2				2.0	2.0	2.5	2.5	2.0	2.0	2.17	B		○							○			有		小								枝に、イヌツゲ枝枯病(中)あり。 アスファルト舗装と、フェンスが、近接している。			●
267	N01-267		シダレザクラ	8.0	96	6.0					2.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	1.92	B		○							○			有		無								アスファルト舗装と、フェンスが、近接している。			●
268	N01-268		イヌツゲ	3.0	3本立	2.5	25,27,23	ー	ー	ー	－	－	－	－	－	－	ー	ー	ー	ー	○	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	活力度調査未了であったため、2022年に詳細調査を行なった。			●
269	N01-269		シダレザクラ	5.0	64	5.0					2.5	2.5	2.5	2.5	3.0	3.0	2.67	C		○							○			有		無								枝に、ぶつ切り剪定、腐朽あり。 幹に、こぶが、多数あり。 アスファルト舗装と、フェンスが、近接している。	●		
278	N01-278		ヤマザクラ	10.0	265	12.0					2.5	2.5	3.0	2.5	3.0	3.0	2.75	C		○				※						有		小								株立の大枝に、腐朽、剪定痕あり。 幹H0.5mに、コフキサルノコシカケの子実体あり。 根元に、ベッコウタケの子実体あり。 ぶつ切り剪定痕に、腐朽あり。 巻き根あり。	●		
281	N01-281		カワヅザクラ	5.0	31	4		0.57	0.18	0.73	－	－	－	－	－	－	－	－	○			○					高	高	無	○	無	無	無	20	10	18	16.0	若木で樹形、樹勢良好。		●	

注）調査対象外の3m未満の樹木は除いている。そのため、連番号は飛び番号となっている。

3. 風環境予測結果

実験に使用した模型は、資料写真 3-1 に示すとおりである。

旧東京管区気象台の観測高さ相当の風速を 1.0 としたときの、各測定点の風速比及び風環境評価を、資料表 3-1～4 に示す。また、風向別風速比の図は、資料図 3-1～3 に示すとおりである。

資料写真 3-1　実験模型全景

資料表 3-1(1)　各測定点における風速比及び風環境評価（1/4）【変更後】

No.		NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	累積頻度55%風速	累積頻度95%風速	領域
1	建設前	0.44	0.33	0.40	0.48	0.44	0.43	0.35	0.30	0.21	0.18	0.70	0.45	0.29	0.27	0.26	0.32	(1.1)	(2.0)	A
	建設後（対策前）	0.42	0.27	0.38	0.55	0.53	0.47	0.36	0.18	0.18	0.25	0.43	0.56	0.43	0.30	0.22	0.21	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.42	0.27	0.38	0.55	0.53	0.47	0.36	0.18	0.18	0.25	0.43	0.56	0.43	0.30	0.22	0.21	(1.0)	(2.0)	A
2	建設前	0.20	0.17	0.29	0.25	0.28	0.31	0.38	0.32	0.34	0.32	0.33	0.37	0.29	0.54	0.47	0.16	(1.0)	(2.5)	A
	建設後（対策前）	0.32	0.40	0.45	0.52	0.48	0.39	0.33	0.22	0.23	0.30	0.35	0.46	0.65	0.55	0.51	0.38	(1.3)	(2.8)	B
	建設後（対策後）	0.32	0.40	0.45	0.52	0.48	0.39	0.33	0.22	0.23	0.30	0.35	0.46	0.65	0.55	0.51	0.38	(1.3)	(2.8)	B
3	建設前	0.22	0.27	0.29	0.27	0.30	0.23	0.25	0.25	0.26	0.27	0.26	0.30	0.57	0.36	0.37	0.22	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策前）	0.43	0.51	0.51	0.45	0.32	0.37	0.29	0.30	0.38	0.46	0.35	0.26	0.48	0.47	0.45	0.31	(1.4)	(2.8)	B
	建設後（対策後）	0.43	0.51	0.51	0.45	0.32	0.37	0.29	0.30	0.38	0.46	0.35	0.26	0.48	0.47	0.45	0.31	(1.4)	(2.8)	B
4	建設前	0.45	0.46	0.25	0.20	0.40	0.31	0.35	0.31	0.35	0.30	0.24	0.21	0.33	0.34	0.28	0.34	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策前）	0.46	0.42	0.28	0.22	0.38	0.27	0.35	0.31	0.24	0.35	0.37	0.31	0.36	0.32	0.24	0.38	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.46	0.42	0.28	0.22	0.38	0.27	0.35	0.31	0.24	0.35	0.37	0.31	0.36	0.32	0.24	0.38	(1.1)	(2.1)	A
5	建設前	0.36	0.30	0.40	0.46	0.31	0.26	0.34	0.41	0.45	0.36	0.41	0.31	0.45	0.43	0.52	0.50	(1.4)	(2.8)	B
	建設後（対策前）	0.32	0.27	0.37	0.43	0.32	0.27	0.43	0.45	0.30	0.25	0.29	0.37	0.75	0.38	0.46	0.42	(1.2)	(2.5)	A
	建設後（対策後）	0.32	0.27	0.37	0.43	0.32	0.27	0.43	0.45	0.30	0.25	0.29	0.37	0.75	0.38	0.46	0.42	(1.2)	(2.5)	A
6	建設前	0.49	0.45	0.32	0.30	0.33	0.32	0.37	0.36	0.27	0.30	0.33	0.30	0.59	0.44	0.45	0.43	(1.3)	(2.5)	B
	建設後（対策前）	0.47	0.43	0.31	0.33	0.34	0.32	0.45	0.42	0.27	0.33	0.25	0.23	0.75	0.35	0.45	0.40	(1.3)	(2.5)	B
	建設後（対策後）	0.47	0.43	0.31	0.33	0.34	0.32	0.45	0.42	0.27	0.33	0.25	0.23	0.75	0.35	0.45	0.40	(1.3)	(2.5)	B
7	建設前	0.41	0.34	0.34	0.23	0.34	0.35	0.33	0.41	0.37	0.37	0.40	0.37	0.44	0.46	0.38	0.41	(1.3)	(2.4)	B
	建設後（対策前）	0.39	0.34	0.32	0.23	0.35	0.34	0.35	0.37	0.24	0.37	0.30	0.52	0.52	0.40	0.39	0.36	(1.2)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.39	0.34	0.32	0.23	0.35	0.34	0.35	0.37	0.24	0.37	0.30	0.52	0.52	0.40	0.39	0.36	(1.2)	(2.3)	A
8	建設前	0.44	0.50	0.37	0.35	0.42	0.41	0.40	0.46	0.36	0.37	0.36	0.42	0.43	0.44	0.40	0.29	(1.3)	(2.5)	B
	建設後（対策前）	0.41	0.43	0.30	0.30	0.42	0.41	0.45	0.36	0.24	0.25	0.21	0.36	0.49	0.28	0.44	0.32	(1.2)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.41	0.43	0.30	0.30	0.42	0.41	0.45	0.36	0.24	0.25	0.21	0.36	0.49	0.28	0.44	0.32	(1.2)	(2.3)	A
9	建設前	0.48	0.41	0.45	0.32	0.38	0.45	0.41	0.50	0.42	0.42	0.40	0.45	0.38	0.46	0.26	0.23	(1.2)	(2.5)	A
	建設後（対策前）	0.42	0.36	0.41	0.30	0.39	0.42	0.39	0.38	0.27	0.31	0.52	0.43	0.40	0.48	0.26	0.20	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.42	0.36	0.41	0.30	0.39	0.42	0.39	0.38	0.27	0.31	0.52	0.43	0.40	0.48	0.26	0.20	(1.1)	(2.1)	A
10	建設前	0.21	0.36	0.47	0.44	0.43	0.46	0.42	0.49	0.38	0.36	0.24	0.27	0.24	0.29	0.42	0.38	(1.3)	(2.5)	B
	建設後（対策前）	0.19	0.23	0.40	0.37	0.45	0.46	0.44	0.31	0.24	0.25	0.24	0.24	0.19	0.32	0.47	0.40	(1.1)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.19	0.23	0.40	0.37	0.45	0.46	0.44	0.31	0.24	0.25	0.24	0.24	0.19	0.32	0.47	0.40	(1.1)	(2.4)	A
11	建設前	0.47	0.51	0.60	0.40	0.47	0.54	0.48	0.58	0.42	0.39	0.36	0.31	0.51	0.47	0.41	0.48	(1.6)	(2.9)	B
	建設後（対策前）	0.47	0.52	0.61	0.44	0.56	0.56	0.52	0.48	0.32	0.48	0.41	0.40	0.56	0.50	0.46	0.48	(1.6)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.47	0.52	0.61	0.44	0.56	0.56	0.52	0.48	0.32	0.48	0.41	0.40	0.56	0.50	0.46	0.48	(1.6)	(3.0)	B
12	建設前	0.62	0.56	0.39	0.38	0.33	0.36	0.33	0.40	0.36	0.38	0.33	0.24	0.29	0.26	0.64	0.68	(1.6)	(3.5)	B
	建設後（対策前）	0.64	0.59	0.44	0.42	0.39	0.41	0.36	0.34	0.26	0.48	0.43	0.29	0.31	0.32	0.63	0.67	(1.7)	(3.5)	B
	建設後（対策後）	0.64	0.59	0.44	0.42	0.39	0.41	0.36	0.34	0.26	0.48	0.43	0.29	0.31	0.32	0.63	0.67	(1.7)	(3.5)	B
13	建設前	0.55	0.51	0.43	0.43	0.20	0.32	0.33	0.51	0.45	0.46	0.27	0.25	0.48	0.25	0.51	0.55	(1.6)	(3.0)	B
	建設後（対策前）	0.54	0.48	0.43	0.42	0.23	0.34	0.33	0.41	0.33	0.41	0.38	0.37	0.57	0.29	0.53	0.55	(1.5)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.54	0.48	0.43	0.42	0.23	0.34	0.33	0.41	0.33	0.41	0.38	0.37	0.57	0.29	0.53	0.55	(1.5)	(3.0)	B
14	建設前	0.28	0.46	0.62	0.68	0.37	0.21	0.21	0.27	0.30	0.42	0.38	0.47	0.34	0.38	0.28	0.24	(1.1)	(2.7)	A
	建設後（対策前）	0.26	0.44	0.59	0.63	0.36	0.20	0.21	0.28	0.23	0.30	0.40	0.40	0.36	0.39	0.29	0.24	(1.1)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.26	0.44	0.59	0.63	0.36	0.20	0.21	0.28	0.23	0.30	0.40	0.40	0.36	0.39	0.29	0.24	(1.1)	(2.4)	A
15	建設前	0.54	0.58	0.43	0.35	0.28	0.36	0.34	0.45	0.40	0.44	0.38	0.47	0.19	0.21	0.39	0.55	(1.5)	(2.8)	B
	建設後（対策前）	0.50	0.47	0.34	0.26	0.26	0.33	0.30	0.34	0.28	0.29	0.40	0.28	0.18	0.21	0.37	0.45	(1.2)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.50	0.47	0.34	0.26	0.26	0.33	0.30	0.34	0.28	0.29	0.40	0.28	0.18	0.21	0.37	0.45	(1.2)	(2.3)	A
16	建設前	0.22	0.32	0.25	0.25	0.27	0.34	0.34	0.34	0.32	0.30	0.31	0.53	0.33	0.28	0.34	0.32	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策前）	0.19	0.27	0.20	0.16	0.27	0.28	0.26	0.26	0.20	0.23	0.29	0.33	0.27	0.26	0.31	0.27	(0.9)	(1.7)	A
	建設後（対策後）	0.19	0.27	0.20	0.16	0.27	0.28	0.26	0.26	0.20	0.23	0.29	0.33	0.27	0.26	0.31	0.27	(0.9)	(1.7)	A
17	建設前	0.31	0.27	0.33	0.28	0.31	0.36	0.27	0.31	0.32	0.39	0.42	0.52	0.45	0.37	0.33	0.46	(1.2)	(2.3)	A
	建設後（対策前）	0.27	0.28	0.33	0.27	0.33	0.34	0.25	0.27	0.23	0.34	0.42	0.54	0.45	0.37	0.31	0.45	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.27	0.28	0.33	0.27	0.33	0.34	0.25	0.27	0.23	0.34	0.42	0.54	0.45	0.37	0.31	0.45	(1.1)	(2.2)	A
18	建設前	0.32	0.33	0.39	0.40	0.32	0.24	0.21	0.30	0.32	0.30	0.37	0.30	0.45	0.36	0.27	0.35	(1.1)	(2.0)	A
	建設後（対策前）	0.31	0.32	0.43	0.42	0.33	0.27	0.22	0.34	0.27	0.25	0.28	0.28	0.48	0.33	0.29	0.36	(1.1)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.32	0.43	0.42	0.33	0.27	0.22	0.34	0.27	0.25	0.28	0.28	0.48	0.33	0.29	0.36	(1.1)	(2.0)	A
19	建設前	0.43	0.43	0.42	0.46	0.23	0.22	0.21	0.29	0.37	0.34	0.45	0.38	0.35	0.23	0.23	0.31	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策前）	0.32	0.33	0.35	0.40	0.20	0.19	0.17	0.26	0.22	0.19	0.29	0.28	0.30	0.21	0.20	0.25	(0.9)	(1.6)	A
	建設後（対策後）	0.32	0.33	0.35	0.40	0.20	0.19	0.17	0.26	0.22	0.19	0.29	0.28	0.30	0.21	0.20	0.25	(0.9)	(1.6)	A
20	建設前	0.35	0.28	0.26	0.36	0.37	0.26	0.23	0.34	0.37	0.30	0.38	0.28	0.29	0.29	0.26	0.23	(1.0)	(1.9)	A
	建設後（対策前）	0.29	0.24	0.25	0.35	0.35	0.25	0.22	0.35	0.28	0.23	0.26	0.25	0.30	0.28	0.25	0.22	(0.9)	(1.7)	A
	建設後（対策後）	0.29	0.24	0.25	0.35	0.35	0.25	0.22	0.35	0.28	0.23	0.26	0.25	0.30	0.28	0.25	0.22	(0.9)	(1.7)	A
21	建設前	0.43	0.54	0.58	0.59	0.40	0.34	0.34	0.31	0.34	0.26	0.31	0.33	0.31	0.24	0.35	0.48	(1.3)	(2.6)	B
	建設後（対策前）	0.40	0.47	0.52	0.55	0.37	0.35	0.33	0.35	0.27	0.24	0.21	0.28	0.29	0.24	0.33	0.44	(1.2)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.40	0.47	0.52	0.55	0.37	0.35	0.33	0.35	0.27	0.24	0.21	0.28	0.29	0.24	0.33	0.44	(1.2)	(2.4)	A
22	建設前	0.38	0.50	0.52	0.58	0.54	0.34	0.36	0.18	0.20	0.19	0.22	0.20	0.26	0.29	0.32	0.23	(1.0)	(2.3)	A
	建設後（対策前）	0.34	0.42	0.46	0.53	0.50	0.34	0.36	0.18	0.20	0.16	0.19	0.18	0.27	0.28	0.31	0.22	(1.0)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.34	0.42	0.46	0.53	0.50	0.34	0.36	0.18	0.20	0.16	0.19	0.18	0.27	0.28	0.31	0.22	(1.0)	(2.1)	A
23	建設前	0.51	0.31	0.48	0.56	0.31	0.24	0.20	0.34	0.40	0.35	0.34	0.36	0.29	0.29	0.39	0.46	(1.3)	(2.5)	B
	建設後（対策前）	0.43	0.27	0.43	0.48	0.28	0.19	0.17	0.40	0.32	0.18	0.27	0.34	0.36	0.28	0.34	0.41	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.43	0.27	0.43	0.48	0.28	0.19	0.17	0.40	0.32	0.18	0.27	0.34	0.36	0.28	0.34	0.41	(1.1)	(2.2)	A
24	建設前	0.47	0.43	0.42	0.40	0.42	0.36	0.32	0.23	0.33	0.39	0.40	0.51	0.65	0.54	0.47	0.44	(1.4)	(2.7)	B
	建設後（対策前）	0.43	0.39	0.39	0.39	0.40	0.37	0.33	0.28	0.40	0.25	0.35	0.47	0.60	0.53	0.48	0.42	(1.3)	(2.6)	B
	建設後（対策後）	0.43	0.39	0.39	0.39	0.40	0.37	0.33	0.28	0.40	0.25	0.35	0.47	0.60	0.53	0.48	0.42	(1.3)	(2.6)	B
25	建設前	0.41	0.52	0.54	0.68	0.47	0.38	0.25	0.35	0.47	0.52	0.49	0.55	0.43	0.34	0.15	0.25	(1.2)	(2.9)	A
	建設後（対策前）	0.33	0.44	0.46	0.62	0.41	0.34	0.23	0.54	0.55	0.27	0.26	0.60	0.38	0.33	0.19	0.19	(1.0)	(2.5)	A
	建設後（対策後）	0.33	0.44	0.46	0.62	0.41	0.34	0.23	0.54	0.55	0.27	0.26	0.60	0.38	0.33	0.19	0.19	(1.0)	(2.5)	A
26	建設前	0.28	0.32	0.42	0.45	0.25	0.26	0.34	0.23	0.23	0.19	0.18	0.27	0.25	0.22	0.26	0.24	(0.9)	(1.8)	A
	建設後（対策前）	0.27	0.31	0.40	0.44	0.25	0.25	0.38	0.23	0.25	0.22	0.15	0.24	0.22	0.23	0.26	0.23	(0.9)	(1.8)	A
	建設後（対策後）	0.27	0.31	0.40	0.44	0.25	0.25	0.38	0.23	0.25	0.22	0.15	0.24	0.22	0.23	0.26	0.23	(0.9)	(1.8)	A
27	建設前	0.74	0.73	0.64	0.29	0.22	0.18	0.16	0.25	0.41	0.39	0.34	0.26	0.23	0.17	0.39	0.61	(1.5)	(3.3)	B
	建設後（対策前）	0.69	0.67	0.58	0.27	0.29	0.21	0.17	0.20	0.60	0.41	0.15	0.19	0.29	0.20	0.39	0.55	(1.5)	(3.1)	B
	建設後（対策後）	0.69	0.67	0.58	0.27	0.29	0.21	0.17	0.20	0.60	0.41	0.15	0.19	0.29	0.20	0.39	0.55	(1.5)	(3.1)	B
28	建設前	0.50	0.36	0.34	0.17	0.34	0.25	0.59	0.55	0.42	0.31	0.18	0.20	0.30	0.39	0.35	0.39	(1.3)	(2.4)	B
	建設後（対策前）	0.44	0.31	0.27	0.17	0.33	0.32	0.50	0.42	0.37	0.37	0.19	0.16	0.45	0.38	0.35	0.36	(1.2)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.44	0.31	0.27	0.17	0.33	0.32	0.50	0.42	0.37	0.37	0.19	0.16	0.45	0.38	0.35	0.36	(1.2)	(2.2)	A
29	建設前	0.65	0.55	0.38	0.15	0.15	0.20	0.31	0.36	0.29	0.21	0.13	0.36	0.54	0.48	0.28	0.65	(1.2)	(2.9)	A
	建設後（対策前）	0.66	0.55	0.40	0.18	0.16	0.22	0.28	0.30	0.31	0.24	0.15	0.19	0.49	0.36	0.29	0.64	(1.2)	(2.9)	A
	建設後（対策後）	0.66	0.55	0.40	0.18	0.16	0.22	0.28	0.30	0.31	0.24	0.15	0.19	0.49	0.36	0.29	0.64	(1.2)	(2.9)	A
30	建設前	0.69	0.50	0.26	0.26	0.54	0.33	0.62	0.56	0.55	0.37	0.21	0.30	0.38	0.44	0.41	0.59	(1.5)	(3.0)	B
	建設後（対策前）	0.67	0.50	0.30	0.24	0.50	0.35	0.60	0.58	0.57	0.39	0.21	0.18	0.40	0.44	0.40	0.56	(1.5)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.67	0.50	0.30	0.24	0.50	0.35	0.60	0.58	0.57	0.39	0.21	0.18	0.40	0.44	0.40	0.56	(1.5)	(3.0)	B

資料表 3-1(2)　各測定点における風速比及び風環境評価（1/4）【変更前】

No.		NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	累積頻度55%風速	累積頻度95%風速	領域
	建設前	0.44	0.33	0.40	0.48	0.44	0.43	0.35	0.30	0.21	0.18	0.70	0.45	0.29	0.27	0.26	0.32	(1.1)	(2.0)	A
1	建設後（対策前）	0.42	0.27	0.38	0.55	0.53	0.47	0.36	0.18	0.18	0.25	0.43	0.56	0.43	0.30	0.22	0.21	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.45	0.34	0.44	0.59	0.58	0.53	0.41	0.22	0.20	0.30	0.36	0.59	0.60	0.40	0.27	0.26	(1.1)	(2.3)	A
	建設前	0.20	0.17	0.29	0.25	0.28	0.31	0.38	0.32	0.34	0.32	0.33	0.37	0.29	0.54	0.47	0.16	(1.0)	(2.5)	A
2	建設後（対策前）	0.44	0.50	0.65	0.74	0.62	0.48	0.36	0.19	0.18	0.25	0.44	0.63	0.85	0.81	0.61	0.44	(1.5)	(3.5)	B
	建設後（対策後）	0.44	0.46	0.62	0.76	0.62	0.48	0.36	0.22	0.19	0.27	0.43	0.66	0.85	0.80	0.63	0.45	(1.6)	(3.6)	B
	建設前	0.22	0.27	0.29	0.27	0.30	0.23	0.25	0.25	0.26	0.27	0.26	0.30	0.57	0.36	0.37	0.22	(1.0)	(2.0)	A
3	建設後（対策前）	0.65	0.63	0.65	0.57	0.39	0.37	0.34	0.28	0.41	0.42	0.39	0.29	0.55	0.46	0.33	0.38	(1.4)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.66	0.63	0.65	0.58	0.42	0.36	0.34	0.29	0.45	0.46	0.39	0.29	0.56	0.45	0.35	0.40	(1.5)	(3.1)	B
	建設前	0.45	0.46	0.25	0.20	0.40	0.31	0.35	0.31	0.35	0.30	0.24	0.21	0.33	0.34	0.28	0.34	(1.1)	(2.1)	A
4	建設後（対策前）	0.47	0.41	0.33	0.24	0.35	0.24	0.38	0.27	0.26	0.33	0.47	0.33	0.36	0.33	0.23	0.37	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.49	0.42	0.34	0.24	0.37	0.24	0.40	0.27	0.25	0.36	0.48	0.33	0.38	0.33	0.25	0.38	(1.1)	(2.2)	A
	建設前	0.36	0.30	0.40	0.46	0.31	0.26	0.34	0.41	0.45	0.36	0.41	0.31	0.45	0.43	0.52	0.50	(1.4)	(2.8)	B
5	建設後（対策前）	0.32	0.27	0.37	0.43	0.32	0.27	0.43	0.45	0.30	0.25	0.29	0.37	0.75	0.38	0.46	0.42	(1.2)	(2.5)	A
	建設後（対策後）	0.30	0.27	0.38	0.42	0.32	0.27	0.42	0.46	0.30	0.24	0.29	0.36	0.76	0.38	0.47	0.39	(1.2)	(2.5)	A
	建設前	0.49	0.45	0.32	0.30	0.33	0.32	0.37	0.36	0.27	0.30	0.33	0.30	0.59	0.44	0.45	0.43	(1.3)	(2.5)	B
6	建設後（対策前）	0.46	0.41	0.31	0.32	0.35	0.32	0.47	0.40	0.27	0.31	0.25	0.22	0.75	0.33	0.46	0.40	(1.3)	(2.5)	B
	建設後（対策後）	0.46	0.40	0.30	0.32	0.33	0.32	0.44	0.42	0.27	0.30	0.26	0.22	0.74	0.31	0.46	0.38	(1.3)	(2.5)	B
	建設前	0.41	0.34	0.34	0.23	0.34	0.35	0.33	0.41	0.37	0.37	0.40	0.37	0.44	0.46	0.38	0.41	(1.3)	(2.4)	B
7	建設後（対策前）	0.38	0.32	0.30	0.23	0.33	0.32	0.38	0.40	0.23	0.30	0.35	0.40	0.41	0.36	0.38	0.36	(1.2)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.40	0.33	0.30	0.23	0.33	0.34	0.36	0.39	0.25	0.32	0.36	0.40	0.40	0.38	0.37	0.38	(1.2)	(2.2)	A
	建設前	0.44	0.50	0.37	0.35	0.42	0.41	0.40	0.46	0.36	0.37	0.36	0.42	0.43	0.44	0.40	0.29	(1.3)	(2.5)	B
8	建設後（対策前）	0.38	0.40	0.30	0.31	0.41	0.39	0.45	0.35	0.23	0.24	0.22	0.34	0.47	0.27	0.43	0.31	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.39	0.40	0.30	0.31	0.40	0.39	0.43	0.36	0.22	0.26	0.21	0.37	0.46	0.28	0.43	0.30	(1.2)	(2.2)	A
	建設前	0.48	0.41	0.45	0.32	0.38	0.45	0.41	0.50	0.42	0.42	0.40	0.45	0.38	0.46	0.26	0.23	(1.2)	(2.5)	A
9	建設後（対策前）	0.39	0.35	0.40	0.29	0.36	0.39	0.41	0.38	0.28	0.28	0.40	0.37	0.32	0.42	0.27	0.22	(1.1)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.38	0.36	0.40	0.28	0.38	0.40	0.39	0.38	0.27	0.27	0.39	0.36	0.31	0.39	0.27	0.23	(1.1)	(2.0)	A
	建設前	0.21	0.36	0.47	0.44	0.43	0.46	0.42	0.49	0.38	0.36	0.24	0.27	0.24	0.29	0.42	0.38	(1.3)	(2.5)	B
10	建設後（対策前）	0.18	0.26	0.39	0.39	0.44	0.44	0.45	0.30	0.24	0.25	0.25	0.23	0.19	0.31	0.48	0.39	(1.1)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.18	0.25	0.38	0.38	0.42	0.44	0.43	0.30	0.23	0.25	0.23	0.22	0.19	0.32	0.47	0.40	(1.1)	(2.4)	A
	建設前	0.47	0.51	0.60	0.40	0.47	0.54	0.48	0.58	0.42	0.39	0.36	0.31	0.51	0.47	0.41	0.48	(1.6)	(2.9)	B
11	建設後（対策前）	0.45	0.51	0.60	0.37	0.47	0.50	0.52	0.41	0.29	0.33	0.34	0.32	0.59	0.52	0.45	0.47	(1.5)	(2.8)	B
	建設後（対策後）	0.45	0.55	0.63	0.42	0.53	0.56	0.52	0.44	0.30	0.36	0.33	0.34	0.61	0.53	0.48	0.51	(1.6)	(3.0)	B
	建設前	0.62	0.56	0.39	0.38	0.33	0.36	0.33	0.40	0.36	0.38	0.33	0.24	0.29	0.26	0.64	0.68	(1.6)	(3.5)	B
12	建設後（対策前）	0.58	0.52	0.38	0.40	0.34	0.35	0.32	0.30	0.25	0.36	0.35	0.25	0.31	0.29	0.60	0.62	(1.5)	(3.2)	B
	建設後（対策後）	0.60	0.56	0.39	0.41	0.37	0.38	0.34	0.31	0.25	0.39	0.34	0.27	0.32	0.32	0.64	0.66	(1.6)	(3.4)	B
	建設前	0.55	0.51	0.43	0.43	0.20	0.32	0.33	0.51	0.45	0.46	0.27	0.25	0.48	0.25	0.51	0.55	(1.6)	(3.0)	B
13	建設後（対策前）	0.50	0.45	0.44	0.39	0.22	0.32	0.31	0.41	0.31	0.37	0.31	0.26	0.53	0.29	0.50	0.53	(1.5)	(2.8)	B
	建設後（対策後）	0.53	0.48	0.48	0.43	0.25	0.36	0.34	0.43	0.32	0.38	0.33	0.27	0.54	0.29	0.53	0.56	(1.5)	(3.0)	B
	建設前	0.28	0.46	0.62	0.68	0.37	0.21	0.21	0.27	0.30	0.42	0.38	0.47	0.34	0.38	0.28	0.24	(1.1)	(2.7)	A
14	建設後（対策前）	0.26	0.44	0.59	0.63	0.36	0.20	0.21	0.28	0.23	0.30	0.40	0.40	0.36	0.39	0.29	0.24	(1.1)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.28	0.46	0.62	0.65	0.35	0.22	0.21	0.28	0.22	0.29	0.41	0.39	0.35	0.41	0.28	0.26	(1.1)	(2.5)	A
	建設前	0.54	0.58	0.43	0.35	0.28	0.36	0.34	0.45	0.40	0.44	0.38	0.47	0.19	0.21	0.39	0.55	(1.5)	(2.8)	B
15	建設後（対策前）	0.48	0.42	0.25	0.21	0.30	0.35	0.31	0.40	0.27	0.31	0.38	0.41	0.17	0.21	0.36	0.45	(1.2)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.52	0.44	0.27	0.23	0.32	0.36	0.31	0.40	0.28	0.30	0.38	0.39	0.16	0.21	0.37	0.49	(1.2)	(2.4)	A
	建設前	0.22	0.32	0.25	0.25	0.27	0.34	0.34	0.34	0.32	0.30	0.31	0.53	0.33	0.28	0.34	0.32	(1.0)	(2.0)	A
16	建設後（対策前）	0.19	0.24	0.21	0.18	0.21	0.26	0.23	0.29	0.18	0.22	0.27	0.40	0.24	0.26	0.28	0.27	(0.8)	(1.6)	A
	建設後（対策後）	0.20	0.27	0.23	0.18	0.25	0.28	0.25	0.30	0.20	0.23	0.29	0.40	0.25	0.26	0.30	0.30	(0.9)	(1.7)	A
	建設前	0.31	0.27	0.33	0.28	0.31	0.36	0.27	0.31	0.32	0.39	0.42	0.52	0.45	0.37	0.33	0.46	(1.2)	(2.3)	A
17	建設後（対策前）	0.34	0.26	0.32	0.29	0.33	0.34	0.25	0.33	0.23	0.29	0.44	0.52	0.42	0.35	0.32	0.44	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.35	0.26	0.30	0.27	0.33	0.33	0.25	0.33	0.24	0.30	0.42	0.49	0.39	0.33	0.32	0.45	(1.1)	(2.1)	A
	建設前	0.32	0.33	0.39	0.40	0.32	0.24	0.21	0.30	0.32	0.30	0.37	0.30	0.45	0.36	0.27	0.35	(1.1)	(2.0)	A
18	建設後（対策前）	0.31	0.32	0.43	0.42	0.33	0.27	0.22	0.34	0.27	0.25	0.28	0.28	0.48	0.33	0.29	0.36	(1.1)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.33	0.33	0.44	0.42	0.33	0.27	0.22	0.34	0.27	0.24	0.28	0.28	0.47	0.36	0.30	0.38	(1.1)	(2.1)	A
	建設前	0.43	0.43	0.42	0.46	0.23	0.22	0.21	0.29	0.37	0.34	0.45	0.38	0.35	0.23	0.23	0.31	(1.1)	(2.2)	A
19	建設後（対策前）	0.32	0.33	0.35	0.40	0.20	0.19	0.17	0.26	0.22	0.19	0.29	0.28	0.30	0.21	0.20	0.25	(0.9)	(1.6)	A
	建設後（対策後）	0.33	0.34	0.36	0.42	0.20	0.20	0.18	0.26	0.22	0.20	0.29	0.28	0.31	0.22	0.20	0.26	(0.9)	(1.7)	A
	建設前	0.35	0.28	0.26	0.36	0.37	0.26	0.23	0.34	0.37	0.30	0.38	0.28	0.29	0.29	0.26	0.23	(1.0)	(1.9)	A
20	建設後（対策前）	0.29	0.24	0.25	0.35	0.35	0.25	0.22	0.35	0.28	0.23	0.26	0.25	0.30	0.28	0.25	0.22	(0.9)	(1.7)	A
	建設後（対策後）	0.29	0.25	0.25	0.36	0.36	0.26	0.22	0.35	0.28	0.23	0.27	0.25	0.30	0.27	0.25	0.22	(0.9)	(1.7)	A
	建設前	0.43	0.54	0.58	0.59	0.40	0.34	0.34	0.31	0.34	0.26	0.31	0.33	0.31	0.24	0.35	0.48	(1.3)	(2.6)	B
21	建設後（対策前）	0.40	0.47	0.52	0.55	0.37	0.35	0.33	0.35	0.27	0.24	0.21	0.28	0.29	0.24	0.33	0.44	(1.2)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.40	0.47	0.52	0.55	0.37	0.35	0.33	0.35	0.27	0.24	0.21	0.28	0.29	0.24	0.33	0.44	(1.2)	(2.4)	A
	建設前	0.38	0.50	0.52	0.58	0.54	0.34	0.36	0.18	0.20	0.19	0.22	0.20	0.26	0.29	0.32	0.23	(1.0)	(2.3)	A
22	建設後（対策前）	0.34	0.42	0.46	0.53	0.50	0.34	0.36	0.18	0.20	0.16	0.19	0.18	0.27	0.28	0.31	0.22	(1.0)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.34	0.42	0.46	0.53	0.50	0.34	0.36	0.18	0.20	0.16	0.19	0.18	0.27	0.28	0.31	0.22	(1.0)	(2.1)	A
	建設前	0.51	0.31	0.48	0.56	0.31	0.24	0.20	0.34	0.40	0.35	0.34	0.36	0.29	0.29	0.39	0.46	(1.3)	(2.5)	B
23	建設後（対策前）	0.43	0.27	0.43	0.48	0.28	0.19	0.17	0.40	0.32	0.18	0.27	0.34	0.36	0.28	0.34	0.41	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.43	0.27	0.43	0.48	0.28	0.19	0.17	0.40	0.32	0.18	0.27	0.34	0.36	0.28	0.34	0.41	(1.1)	(2.2)	A
	建設前	0.47	0.43	0.42	0.40	0.42	0.36	0.32	0.23	0.33	0.39	0.40	0.51	0.65	0.54	0.47	0.44	(1.4)	(2.7)	B
24	建設後（対策前）	0.43	0.39	0.39	0.39	0.40	0.37	0.33	0.28	0.40	0.25	0.35	0.47	0.60	0.53	0.48	0.42	(1.3)	(2.6)	B
	建設後（対策後）	0.43	0.39	0.39	0.39	0.40	0.37	0.33	0.28	0.40	0.25	0.35	0.47	0.60	0.53	0.48	0.42	(1.3)	(2.6)	B
	建設前	0.41	0.52	0.54	0.68	0.47	0.38	0.25	0.35	0.47	0.52	0.49	0.55	0.43	0.34	0.15	0.25	(1.2)	(2.9)	A
25	建設後（対策前）	0.33	0.44	0.46	0.62	0.41	0.34	0.23	0.54	0.55	0.27	0.26	0.60	0.38	0.33	0.19	0.19	(1.0)	(2.5)	A
	建設後（対策後）	0.33	0.44	0.46	0.62	0.41	0.34	0.23	0.54	0.55	0.27	0.26	0.60	0.38	0.33	0.19	0.19	(1.0)	(2.5)	A
	建設前	0.28	0.32	0.42	0.45	0.25	0.26	0.34	0.23	0.23	0.19	0.18	0.27	0.25	0.22	0.26	0.24	(0.9)	(1.8)	A
26	建設後（対策前）	0.27	0.31	0.40	0.44	0.25	0.25	0.38	0.23	0.25	0.22	0.15	0.24	0.22	0.23	0.26	0.23	(0.9)	(1.8)	A
	建設後（対策後）	0.27	0.31	0.40	0.44	0.25	0.25	0.38	0.23	0.25	0.22	0.15	0.24	0.22	0.23	0.26	0.23	(0.9)	(1.8)	A
	建設前	0.74	0.73	0.64	0.29	0.22	0.18	0.16	0.25	0.41	0.39	0.34	0.26	0.23	0.17	0.39	0.61	(1.5)	(3.3)	B
27	建設後（対策前）	0.69	0.67	0.58	0.27	0.29	0.21	0.17	0.20	0.60	0.41	0.15	0.19	0.29	0.20	0.39	0.55	(1.5)	(3.1)	B
	建設後（対策後）	0.69	0.67	0.58	0.27	0.29	0.21	0.17	0.20	0.60	0.41	0.15	0.19	0.29	0.20	0.39	0.55	(1.5)	(3.1)	B
	建設前	0.50	0.36	0.34	0.17	0.34	0.25	0.59	0.55	0.42	0.31	0.18	0.20	0.30	0.39	0.35	0.39	(1.3)	(2.4)	B
28	建設後（対策前）	0.44	0.31	0.27	0.17	0.33	0.32	0.50	0.42	0.37	0.37	0.19	0.16	0.45	0.38	0.35	0.36	(1.2)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.44	0.31	0.27	0.17	0.33	0.32	0.50	0.42	0.37	0.37	0.19	0.16	0.45	0.38	0.35	0.36	(1.2)	(2.2)	A
	建設前	0.65	0.55	0.38	0.15	0.15	0.20	0.31	0.36	0.29	0.21	0.13	0.36	0.54	0.48	0.28	0.65	(1.2)	(2.9)	A
29	建設後（対策前）	0.66	0.55	0.40	0.18	0.16	0.22	0.28	0.30	0.31	0.24	0.15	0.19	0.49	0.36	0.29	0.64	(1.2)	(2.9)	A
	建設後（対策後）	0.66	0.55	0.40	0.18	0.16	0.22	0.28	0.30	0.31	0.24	0.15	0.19	0.49	0.36	0.29	0.64	(1.2)	(2.9)	A
	建設前	0.69	0.50	0.26	0.26	0.54	0.33	0.62	0.56	0.55	0.37	0.21	0.30	0.38	0.44	0.41	0.59	(1.5)	(3.0)	B
30	建設後（対策前）	0.67	0.50	0.30	0.24	0.50	0.35	0.60	0.58	0.57	0.39	0.21	0.18	0.40	0.44	0.40	0.56	(1.5)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.67	0.50	0.30	0.24	0.50	0.35	0.60	0.58	0.57	0.39	0.21	0.18	0.40	0.44	0.40	0.56	(1.5)	(3.0)	B

資料表 3-2(1)　各測定点における風速比及び風環境評価（2/4）【変更後】

No.		NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	累積頻度 55%風速	累積頻度 95%風速	領域
	建設前	0.39	0.30	0.17	0.23	0.24	0.27	0.25	0.26	0.31	0.22	0.16	0.24	0.58	0.73	0.60	0.59	(1.2)	(3.3)	B
31	建設後（対策前）	0.48	0.44	0.22	0.23	0.23	0.27	0.24	0.27	0.32	0.24	0.19	0.19	0.52	0.53	0.55	0.60	(1.3)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.48	0.44	0.22	0.23	0.23	0.27	0.24	0.27	0.32	0.24	0.19	0.19	0.52	0.53	0.55	0.60	(1.3)	(3.0)	B
	建設前	0.45	0.58	0.24	0.10	0.16	0.13	0.14	0.14	0.13	0.12	0.11	0.22	0.29	0.34	0.32	0.40	(0.8)	(2.2)	A
32	建設後（対策前）	0.35	0.60	0.37	0.17	0.34	0.21	0.23	0.27	0.16	0.13	0.14	0.20	0.33	0.32	0.33	0.37	(1.0)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.33	0.62	0.36	0.16	0.38	0.27	0.29	0.39	0.19	0.13	0.12	0.20	0.34	0.32	0.33	0.39	(1.0)	(2.2)	A
	建設前	0.27	0.36	0.30	0.20	0.27	0.20	0.24	0.29	0.29	0.26	0.19	0.41	0.43	0.43	0.37	0.39	(1.1)	(2.1)	A
33	建設後（対策前）	0.33	0.23	0.22	0.23	0.28	0.30	0.39	0.52	0.61	0.29	0.23	0.38	0.42	0.36	0.39	0.42	(1.2)	(2.5)	A
	建設後（対策後）	0.34	0.23	0.22	0.21	0.27	0.22	0.29	0.48	0.56	0.27	0.22	0.40	0.41	0.37	0.40	0.43	(1.1)	(2.4)	A
	建設前	0.25	0.18	0.13	0.15	0.16	0.17	0.14	0.17	0.17	0.14	0.14	0.17	0.20	0.38	0.36	0.35	(0.7)	(2.0)	A
34	建設後（対策前）	0.29	0.24	0.12	0.16	0.15	0.16	0.15	0.16	0.15	0.15	0.17	0.22	0.15	0.30	0.32	0.39	(0.8)	(1.9)	A
	建設後（対策後）	0.29	0.24	0.12	0.16	0.15	0.16	0.15	0.16	0.15	0.15	0.17	0.22	0.15	0.30	0.32	0.39	(0.8)	(1.9)	A
	建設前	0.25	0.19	0.20	0.17	0.23	0.20	0.14	0.16	0.19	0.15	0.15	0.22	0.19	0.28	0.27	0.26	(0.7)	(1.5)	A
35	建設後（対策前）	0.31	0.21	0.23	0.19	0.20	0.19	0.14	0.17	0.19	0.17	0.20	0.23	0.21	0.24	0.26	0.25	(0.8)	(1.5)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.21	0.23	0.19	0.20	0.19	0.14	0.17	0.19	0.17	0.20	0.23	0.21	0.24	0.26	0.25	(0.8)	(1.5)	A
	建設前	0.25	0.45	0.23	0.17	0.45	0.58	0.60	0.56	0.49	0.25	0.15	0.19	0.59	0.54	0.42	0.36	(1.2)	(2.6)	A
36	建設後（対策前）	0.26	0.43	0.37	0.16	0.57	0.74	0.76	0.73	0.60	0.44	0.27	0.20	0.50	0.40	0.40	0.36	(1.4)	(2.9)	B
	建設後（対策後）	0.40	0.57	0.42	0.16	0.57	0.72	0.71	0.70	0.57	0.42	0.25	0.21	0.51	0.64	0.63	0.51	(1.8)	(3.5)	B
	建設前	0.53	0.44	0.37	0.23	0.35	0.39	0.48	0.42	0.19	0.16	0.29	0.55	0.54	0.66	0.74	0.71	(1.5)	(3.9)	B
37	建設後（対策前）	0.74	0.64	0.45	0.26	0.53	0.48	0.65	0.68	0.24	0.40	0.51	0.55	0.48	0.67	0.77	0.79	(2.0)	(4.2)	C
	建設後（対策後）	0.92	0.67	0.45	0.25	0.55	0.45	0.62	0.69	0.23	0.38	0.51	0.54	0.52	0.44	0.51	0.88	(1.8)	(3.9)	B
	建設前	0.21	0.33	0.27	0.37	0.32	0.16	0.18	0.18	0.25	0.24	0.16	0.16	0.18	0.22	0.28	0.38	(0.9)	(1.8)	A
38	建設後（対策前）	0.39	0.40	0.34	0.30	0.31	0.21	0.22	0.23	0.28	0.26	0.21	0.19	0.17	0.23	0.30	0.36	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.39	0.40	0.34	0.30	0.31	0.21	0.22	0.23	0.28	0.26	0.21	0.19	0.17	0.23	0.30	0.36	(1.0)	(2.0)	A
	建設前	0.33	0.37	0.35	0.55	0.40	0.29	0.26	0.41	0.40	0.24	0.19	0.16	0.17	0.14	0.29	0.17	(1.0)	(2.0)	A
39	建設後（対策前）	0.36	0.46	0.35	0.52	0.41	0.26	0.25	0.40	0.38	0.21	0.17	0.18	0.17	0.15	0.24	0.23	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.36	0.46	0.35	0.52	0.41	0.26	0.25	0.40	0.38	0.21	0.17	0.18	0.17	0.15	0.24	0.23	(1.0)	(2.0)	A
	建設前	0.56	0.47	0.50	0.34	0.39	0.48	0.43	0.32	0.29	0.36	0.46	0.51	0.53	0.31	0.35	0.51	(1.4)	(2.6)	B
40	建設後（対策前）	0.61	0.62	0.54	0.50	0.60	0.66	0.58	0.39	0.32	0.36	0.59	0.59	0.59	0.27	0.43	0.47	(1.6)	(2.9)	B
	建設後（対策後）	0.33	0.54	0.45	0.48	0.60	0.64	0.56	0.41	0.32	0.35	0.56	0.57	0.63	0.32	0.53	0.36	(1.5)	(2.8)	B
	建設前	0.27	0.26	0.21	0.31	0.44	0.50	0.35	0.30	0.25	0.18	0.14	0.21	0.22	0.20	0.30	0.29	(0.9)	(1.7)	A
41	建設後（対策前）	0.25	0.22	0.40	0.49	0.68	0.62	0.49	0.29	0.21	0.12	0.20	0.19	0.20	0.21	0.22	0.27	(0.9)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.25	0.22	0.40	0.49	0.68	0.62	0.49	0.29	0.21	0.12	0.20	0.19	0.20	0.21	0.22	0.27	(0.9)	(2.0)	A
	建設前	0.30	0.31	0.31	0.22	0.30	0.41	0.56	0.51	0.42	0.25	0.18	0.23	0.27	0.22	0.13	0.13	(0.8)	(1.9)	A
42	建設後（対策前）	0.21	0.18	0.30	0.29	0.30	0.36	0.53	0.47	0.39	0.23	0.20	0.26	0.23	0.19	0.11	0.15	(0.7)	(1.7)	A
	建設後（対策後）	0.21	0.18	0.30	0.29	0.30	0.36	0.53	0.47	0.39	0.23	0.20	0.26	0.23	0.19	0.11	0.15	(0.7)	(1.7)	A
	建設前	0.17	0.20	0.20	0.18	0.20	0.28	0.31	0.31	0.24	0.30	0.18	0.16	0.15	0.22	0.15	0.19	(0.7)	(1.5)	A
43	建設後（対策前）	0.22	0.22	0.19	0.20	0.18	0.25	0.29	0.29	0.23	0.28	0.21	0.16	0.18	0.21	0.16	0.20	(0.7)	(1.4)	A
	建設後（対策後）	0.22	0.22	0.19	0.20	0.18	0.25	0.29	0.29	0.23	0.28	0.21	0.16	0.18	0.21	0.16	0.20	(0.7)	(1.4)	A
	建設前	0.21	0.17	0.16	0.18	0.21	0.21	0.19	0.27	0.30	0.15	0.13	0.26	0.27	0.13	0.21	0.10	(0.6)	(1.3)	A
44	建設後（対策前）	0.14	0.14	0.17	0.18	0.20	0.21	0.19	0.27	0.31	0.18	0.19	0.26	0.22	0.13	0.20	0.11	(0.6)	(1.3)	A
	建設後（対策後）	0.14	0.14	0.17	0.18	0.20	0.21	0.19	0.27	0.31	0.18	0.19	0.26	0.22	0.13	0.20	0.11	(0.6)	(1.3)	A
	建設前	0.31	0.38	0.23	0.30	0.45	0.47	0.30	0.24	0.17	0.15	0.21	0.46	0.52	0.32	0.35	0.36	(1.0)	(2.0)	A
45	建設後（対策前）	0.51	0.62	0.29	0.33	0.53	0.50	0.41	0.28	0.17	0.19	0.38	0.42	0.49	0.32	0.32	0.25	(1.1)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.51	0.62	0.29	0.33	0.53	0.50	0.41	0.28	0.17	0.19	0.38	0.42	0.49	0.32	0.32	0.25	(1.1)	(2.3)	A
	建設前	0.18	0.18	0.44	0.38	0.57	0.39	0.25	0.22	0.23	0.21	0.23	0.28	0.26	0.23	0.38	0.26	(1.0)	(2.1)	A
46	建設後（対策前）	0.23	0.26	0.60	0.60	0.62	0.54	0.24	0.22	0.22	0.17	0.21	0.27	0.25	0.23	0.28	0.18	(0.9)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.23	0.26	0.60	0.60	0.62	0.54	0.24	0.22	0.22	0.17	0.21	0.27	0.25	0.23	0.28	0.18	(0.9)	(2.3)	A
	建設前	0.24	0.20	0.24	0.41	0.56	0.50	0.41	0.32	0.21	0.30	0.39	0.48	0.32	0.30	0.44	0.32	(1.1)	(2.3)	A
47	建設後（対策前）	0.31	0.23	0.29	0.44	0.56	0.53	0.41	0.31	0.19	0.32	0.43	0.29	0.30	0.31	0.38	0.27	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.23	0.29	0.44	0.56	0.53	0.41	0.31	0.19	0.32	0.43	0.29	0.30	0.31	0.38	0.27	(1.1)	(2.2)	A
	建設前	0.34	0.26	0.24	0.26	0.26	0.26	0.42	0.34	0.24	0.22	0.23	0.41	0.52	0.40	0.44	0.39	(1.1)	(2.3)	A
48	建設後（対策前）	0.23	0.28	0.32	0.28	0.27	0.27	0.42	0.37	0.24	0.18	0.44	0.58	0.52	0.40	0.42	0.37	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.23	0.28	0.32	0.28	0.27	0.27	0.42	0.37	0.24	0.18	0.44	0.58	0.52	0.40	0.42	0.37	(1.1)	(2.2)	A
	建設前	0.34	0.35	0.36	0.30	0.26	0.14	0.25	0.29	0.27	0.18	0.31	0.29	0.35	0.24	0.28	0.26	(1.0)	(1.8)	A
49	建設後（対策前）	0.21	0.36	0.42	0.39	0.35	0.29	0.27	0.29	0.28	0.21	0.28	0.25	0.31	0.24	0.27	0.25	(1.0)	(1.8)	A
	建設後（対策後）	0.21	0.36	0.42	0.39	0.35	0.29	0.27	0.29	0.28	0.21	0.28	0.25	0.31	0.24	0.27	0.25	(1.0)	(1.8)	A
	建設前	0.31	0.48	0.27	0.36	0.19	0.17	0.23	0.31	0.29	0.23	0.38	0.28	0.33	0.27	0.31	0.21	(1.0)	(1.9)	A
50	建設後（対策前）	0.37	0.27	0.34	0.23	0.21	0.19	0.21	0.23	0.21	0.31	0.37	0.30	0.32	0.31	0.39	0.51	(1.1)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.37	0.27	0.34	0.23	0.21	0.19	0.21	0.23	0.21	0.31	0.37	0.30	0.32	0.31	0.39	0.51	(1.1)	(2.4)	A
	建設前	0.27	0.19	0.13	0.12	0.15	0.15	0.18	0.18	0.15	0.18	0.23	0.17	0.18	0.19	0.22	0.28	(0.7)	(1.4)	A
51	建設後（対策前）	0.37	0.26	0.17	0.18	0.14	0.13	0.17	0.15	0.20	0.18	0.21	0.12	0.18	0.22	0.27	0.35	(0.8)	(1.7)	A
	建設後（対策後）	0.37	0.26	0.17	0.18	0.14	0.13	0.17	0.15	0.20	0.18	0.21	0.12	0.18	0.22	0.27	0.35	(0.8)	(1.7)	A
	建設前	0.28	0.34	0.29	0.30	0.20	0.19	0.10	0.13	0.19	0.18	0.21	0.22	0.18	0.20	0.35	0.26	(0.9)	(1.8)	A
52	建設後（対策前）	0.67	0.63	0.27	0.17	0.10	0.12	0.15	0.32	0.29	0.39	0.33	0.31	0.25	0.27	0.53	0.53	(1.4)	(3.1)	B
	建設後（対策後）	0.67	0.56	0.35	0.17	0.11	0.12	0.16	0.32	0.31	0.40	0.36	0.36	0.28	0.29	0.50	0.51	(1.4)	(3.0)	B
	建設前	0.24	0.33	0.26	0.26	0.21	0.16	0.27	0.28	0.29	0.29	0.22	0.21	0.24	0.24	0.25	0.21	(0.9)	(1.7)	A
53	建設後（対策前）	0.29	0.20	0.19	0.16	0.13	0.13	0.26	0.21	0.24	0.33	0.27	0.28	0.26	0.18	0.19	0.20	(0.7)	(1.6)	A
	建設後（対策後）	0.29	0.20	0.19	0.16	0.13	0.13	0.26	0.21	0.24	0.33	0.27	0.28	0.26	0.18	0.19	0.20	(0.7)	(1.6)	A
	建設前	0.30	0.41	0.20	0.24	0.15	0.17	0.18	0.23	0.18	0.27	0.19	0.19	0.43	0.19	0.22	0.35	(0.9)	(1.8)	A
54	建設後（対策前）	0.31	0.32	0.17	0.18	0.17	0.19	0.20	0.22	0.18	0.19	0.15	0.14	0.33	0.22	0.22	0.37	(0.8)	(1.6)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.32	0.17	0.18	0.17	0.19	0.20	0.22	0.18	0.19	0.15	0.14	0.33	0.22	0.22	0.37	(0.8)	(1.6)	A
	建設前	0.21	0.29	0.33	0.28	0.16	0.17	0.16	0.21	0.28	0.26	0.14	0.25	0.26	0.16	0.19	0.22	(0.8)	(1.6)	A
55	建設後（対策前）	0.27	0.25	0.19	0.14	0.17	0.17	0.16	0.22	0.21	0.24	0.14	0.20	0.23	0.18	0.20	0.25	(0.7)	(1.4)	A
	建設後（対策後）	0.27	0.25	0.19	0.14	0.17	0.17	0.16	0.22	0.21	0.24	0.14	0.20	0.23	0.18	0.20	0.25	(0.7)	(1.4)	A
	建設前	0.26	0.21	0.27	0.29	0.18	0.19	0.20	0.25	0.19	0.19	0.21	0.23	0.17	0.25	0.21	0.23	(0.8)	(1.4)	A
56	建設後（対策前）	0.31	0.26	0.20	0.20	0.18	0.23	0.25	0.27	0.20	0.19	0.18	0.20	0.16	0.26	0.23	0.25	(0.8)	(1.5)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.26	0.20	0.20	0.18	0.23	0.25	0.27	0.20	0.19	0.18	0.20	0.16	0.26	0.23	0.25	(0.8)	(1.5)	A
	建設前	0.17	0.19	0.18	0.17	0.16	0.14	0.13	0.11	0.14	0.14	0.14	0.17	0.14	0.14	0.17	0.18	(0.6)	(1.0)	A
57	建設後（対策前）	0.23	0.26	0.36	0.29	0.19	0.14	0.13	0.19	0.33	0.72	0.40	0.20	0.19	0.21	0.17	0.25	(0.8)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.22	0.26	0.34	0.33	0.22	0.15	0.14	0.16	0.31	0.61	0.33	0.20	0.20	0.19	0.17	0.24	(0.8)	(2.6)	A
	建設前	0.59	0.54	0.35	0.32	0.23	0.26	0.30	0.31	0.34	0.39	0.50	0.44	0.33	0.26	0.30	0.47	(1.3)	(2.5)	B
58	建設後（対策前）	0.64	0.52	0.37	0.31	0.26	0.27	0.32	0.26	0.28	0.26	0.34	0.30	0.27	0.21	0.36	0.48	(1.2)	(2.5)	A
	建設後（対策後）	0.64	0.52	0.37	0.31	0.26	0.27	0.32	0.26	0.28	0.26	0.34	0.30	0.27	0.21	0.36	0.48	(1.2)	(2.5)	A
	建設前	0.31	0.32	0.37	0.34	0.31	0.18	0.33	0.37	0.42	0.36	0.37	0.28	0.32	0.39	0.26	0.20	(1.0)	(2.1)	A
59	建設後（対策前）	0.31	0.35	0.31	0.19	0.19	0.20	0.35	0.36	0.38	0.27	0.31	0.23	0.30	0.35	0.31	0.24	(1.0)	(1.9)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.35	0.31	0.19	0.19	0.20	0.35	0.36	0.38	0.27	0.31	0.23	0.30	0.35	0.31	0.24	(1.0)	(1.9)	A
	建設前	0.76	0.80	0.75	0.43	0.36	0.28	0.37	0.39	0.38	0.53	0.69	0.27	0.26	0.22	0.44	0.79	(1.8)	(3.8)	B
60	建設後（対策前）	0.72	0.86	0.87	0.57	0.48	0.37	0.37	0.31	0.35	0.45	0.46	0.75	0.56	0.26	0.49	0.76	(1.8)	(3.9)	B
	建設後（対策後）	0.72	0.86	0.87	0.57	0.48	0.37	0.37	0.31	0.35	0.45	0.46	0.75	0.56	0.26	0.49	0.76	(1.8)	(3.9)	B

資料表 3-2(2)　各測定点における風速比及び風環境評価（2/4）【変更前】

No.		NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	累積頻度55%風速	累積頻度95%風速	領域
31	建設前	0.39	0.30	0.17	0.23	0.24	0.27	0.25	0.26	0.31	0.22	0.16	0.24	0.58	0.73	0.60	0.59	(1.2)	(3.3)	B
	建設後（対策前）	0.48	0.44	0.22	0.23	0.23	0.27	0.24	0.27	0.32	0.24	0.19	0.19	0.52	0.53	0.55	0.60	(1.3)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.48	0.44	0.22	0.23	0.23	0.27	0.24	0.27	0.32	0.24	0.19	0.19	0.52	0.53	0.55	0.60	(1.3)	(3.0)	B
32	建設前	0.45	0.58	0.24	0.10	0.16	0.13	0.14	0.14	0.13	0.12	0.11	0.22	0.29	0.34	0.32	0.40	(0.8)	(2.2)	A
	建設後（対策前）	0.32	0.56	0.34	0.18	0.30	0.25	0.24	0.30	0.18	0.14	0.15	0.21	0.33	0.34	0.34	0.38	(1.0)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.33	0.58	0.33	0.16	0.32	0.29	0.29	0.37	0.22	0.14	0.16	0.19	0.34	0.33	0.33	0.38	(1.0)	(2.2)	A
33	建設前	0.27	0.36	0.30	0.20	0.27	0.20	0.24	0.29	0.29	0.26	0.19	0.41	0.43	0.43	0.37	0.39	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策前）	0.33	0.24	0.23	0.25	0.28	0.29	0.40	0.53	0.60	0.28	0.23	0.39	0.41	0.38	0.39	0.43	(1.2)	(2.5)	A
	建設後（対策後）	0.36	0.25	0.23	0.24	0.29	0.24	0.29	0.46	0.55	0.28	0.25	0.35	0.40	0.40	0.40	0.44	(1.2)	(2.4)	A
34	建設前	0.25	0.18	0.13	0.15	0.16	0.17	0.14	0.17	0.17	0.14	0.14	0.17	0.20	0.38	0.36	0.35	(0.7)	(2.0)	A
	建設後（対策前）	0.29	0.24	0.12	0.16	0.15	0.16	0.15	0.16	0.15	0.15	0.17	0.22	0.15	0.30	0.32	0.39	(0.8)	(1.9)	A
	建設後（対策後）	0.29	0.24	0.12	0.16	0.15	0.16	0.15	0.16	0.15	0.15	0.17	0.22	0.15	0.30	0.32	0.39	(0.8)	(1.9)	A
35	建設前	0.25	0.19	0.20	0.17	0.23	0.20	0.14	0.16	0.19	0.15	0.15	0.22	0.19	0.28	0.27	0.26	(0.7)	(1.5)	A
	建設後（対策前）	0.31	0.21	0.23	0.19	0.20	0.19	0.14	0.17	0.19	0.17	0.20	0.23	0.21	0.24	0.26	0.25	(0.8)	(1.5)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.21	0.23	0.19	0.20	0.19	0.14	0.17	0.19	0.17	0.20	0.23	0.21	0.24	0.26	0.25	(0.8)	(1.5)	A
36	建設前	0.25	0.45	0.23	0.17	0.45	0.58	0.60	0.56	0.49	0.25	0.15	0.19	0.59	0.54	0.42	0.36	(1.2)	(2.6)	A
	建設後（対策前）	0.29	0.44	0.39	0.19	0.60	0.76	0.76	0.75	0.59	0.42	0.24	0.22	0.52	0.47	0.42	0.40	(1.5)	(2.9)	B
	建設後（対策後）	0.42	0.60	0.44	0.19	0.59	0.73	0.71	0.72	0.60	0.42	0.25	0.26	0.54	0.69	0.65	0.53	(1.8)	(3.6)	B
37	建設前	0.53	0.44	0.37	0.23	0.35	0.39	0.48	0.42	0.19	0.16	0.29	0.55	0.54	0.66	0.74	0.71	(1.5)	(3.9)	B
	建設後（対策前）	0.78	0.62	0.45	0.28	0.61	0.56	0.68	0.72	0.24	0.41	0.53	0.57	0.53	0.65	0.73	0.79	(2.0)	(4.1)	C
	建設後（対策後）	0.92	0.65	0.44	0.25	0.58	0.55	0.61	0.68	0.25	0.38	0.50	0.51	0.50	0.40	0.52	0.86	(1.8)	(3.9)	B
38	建設前	0.21	0.33	0.27	0.37	0.32	0.16	0.18	0.18	0.25	0.24	0.16	0.16	0.18	0.22	0.28	0.38	(0.9)	(1.8)	A
	建設後（対策前）	0.39	0.40	0.34	0.30	0.31	0.21	0.22	0.23	0.28	0.26	0.21	0.19	0.17	0.23	0.30	0.36	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.39	0.40	0.34	0.30	0.31	0.21	0.22	0.23	0.28	0.26	0.21	0.19	0.17	0.23	0.30	0.36	(1.0)	(2.0)	A
39	建設前	0.33	0.37	0.35	0.55	0.40	0.29	0.26	0.41	0.40	0.24	0.19	0.16	0.17	0.14	0.29	0.17	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策前）	0.36	0.46	0.35	0.52	0.41	0.26	0.25	0.40	0.38	0.21	0.17	0.18	0.17	0.15	0.24	0.23	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.36	0.46	0.35	0.52	0.41	0.26	0.25	0.40	0.38	0.21	0.17	0.18	0.17	0.15	0.24	0.23	(1.0)	(2.0)	A
40	建設前	0.56	0.47	0.50	0.34	0.39	0.48	0.43	0.32	0.29	0.36	0.46	0.51	0.53	0.31	0.35	0.51	(1.4)	(2.6)	B
	建設後（対策前）	0.73	0.63	0.55	0.47	0.55	0.60	0.48	0.35	0.29	0.32	0.49	0.53	0.56	0.26	0.42	0.53	(1.5)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.38	0.54	0.45	0.43	0.54	0.58	0.46	0.35	0.29	0.32	0.49	0.53	0.59	0.30	0.48	0.36	(1.4)	(2.6)	B
41	建設前	0.27	0.26	0.21	0.31	0.44	0.50	0.35	0.30	0.25	0.18	0.14	0.21	0.22	0.20	0.30	0.29	(0.9)	(1.7)	A
	建設後（対策前）	0.25	0.22	0.40	0.49	0.68	0.62	0.49	0.29	0.21	0.12	0.20	0.19	0.20	0.21	0.22	0.27	(0.9)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.27	0.20	0.32	0.46	0.69	0.60	0.47	0.29	0.21	0.12	0.20	0.19	0.20	0.25	0.21	0.30	(0.9)	(1.9)	A
42	建設前	0.30	0.31	0.31	0.22	0.30	0.41	0.56	0.51	0.42	0.25	0.18	0.23	0.27	0.22	0.13	0.13	(0.8)	(1.9)	A
	建設後（対策前）	0.21	0.18	0.30	0.29	0.30	0.36	0.53	0.47	0.39	0.23	0.20	0.26	0.23	0.19	0.11	0.15	(0.7)	(1.7)	A
	建設後（対策後）	0.21	0.18	0.30	0.29	0.30	0.36	0.53	0.47	0.39	0.23	0.20	0.26	0.23	0.19	0.11	0.15	(0.7)	(1.7)	A
43	建設前	0.17	0.20	0.20	0.18	0.20	0.28	0.31	0.31	0.24	0.30	0.18	0.16	0.15	0.22	0.15	0.19	(0.7)	(1.5)	A
	建設後（対策前）	0.22	0.22	0.19	0.20	0.18	0.25	0.29	0.29	0.23	0.28	0.21	0.16	0.18	0.21	0.16	0.20	(0.7)	(1.4)	A
	建設後（対策後）	0.22	0.22	0.19	0.20	0.18	0.25	0.29	0.29	0.23	0.28	0.21	0.16	0.18	0.21	0.16	0.20	(0.7)	(1.4)	A
44	建設前	0.21	0.17	0.16	0.18	0.21	0.21	0.19	0.27	0.30	0.15	0.13	0.26	0.27	0.13	0.21	0.10	(0.6)	(1.3)	A
	建設後（対策前）	0.14	0.14	0.17	0.18	0.20	0.21	0.19	0.27	0.31	0.18	0.19	0.26	0.22	0.13	0.20	0.11	(0.6)	(1.3)	A
	建設後（対策後）	0.14	0.14	0.17	0.18	0.20	0.21	0.19	0.27	0.31	0.18	0.19	0.26	0.22	0.13	0.20	0.11	(0.6)	(1.3)	A
45	建設前	0.31	0.38	0.23	0.30	0.45	0.47	0.30	0.24	0.17	0.15	0.21	0.46	0.52	0.32	0.35	0.36	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策前）	0.51	0.62	0.29	0.33	0.53	0.50	0.41	0.28	0.17	0.19	0.38	0.42	0.49	0.32	0.32	0.25	(1.1)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.51	0.62	0.29	0.33	0.53	0.50	0.41	0.28	0.17	0.19	0.38	0.42	0.49	0.32	0.32	0.25	(1.1)	(2.3)	A
46	建設前	0.18	0.18	0.44	0.38	0.57	0.39	0.25	0.22	0.23	0.21	0.23	0.28	0.26	0.23	0.38	0.26	(1.0)	(2.1)	A
	建設後（対策前）	0.23	0.26	0.60	0.60	0.62	0.54	0.24	0.22	0.22	0.17	0.21	0.27	0.25	0.23	0.28	0.18	(0.9)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.23	0.26	0.60	0.60	0.62	0.54	0.24	0.22	0.22	0.17	0.21	0.27	0.25	0.23	0.28	0.18	(0.9)	(2.3)	A
47	建設前	0.24	0.20	0.24	0.41	0.56	0.50	0.41	0.32	0.21	0.30	0.39	0.48	0.32	0.30	0.44	0.32	(1.1)	(2.3)	A
	建設後（対策前）	0.31	0.23	0.29	0.44	0.56	0.53	0.41	0.31	0.19	0.32	0.43	0.29	0.30	0.31	0.38	0.27	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.23	0.29	0.44	0.56	0.53	0.41	0.31	0.19	0.32	0.43	0.29	0.30	0.31	0.38	0.27	(1.1)	(2.2)	A
48	建設前	0.34	0.26	0.24	0.26	0.26	0.26	0.42	0.34	0.24	0.22	0.23	0.41	0.52	0.40	0.44	0.39	(1.1)	(2.3)	A
	建設後（対策前）	0.23	0.28	0.32	0.28	0.27	0.27	0.42	0.37	0.24	0.18	0.44	0.58	0.52	0.40	0.42	0.37	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.23	0.28	0.32	0.28	0.27	0.27	0.42	0.37	0.24	0.18	0.44	0.58	0.52	0.40	0.42	0.37	(1.1)	(2.2)	A
49	建設前	0.34	0.35	0.36	0.30	0.26	0.14	0.25	0.29	0.27	0.18	0.31	0.29	0.35	0.24	0.28	0.26	(1.0)	(1.8)	A
	建設後（対策前）	0.21	0.36	0.42	0.39	0.35	0.29	0.27	0.29	0.28	0.21	0.28	0.25	0.31	0.24	0.27	0.25	(1.0)	(1.8)	A
	建設後（対策後）	0.21	0.36	0.42	0.39	0.35	0.29	0.27	0.29	0.28	0.21	0.28	0.25	0.31	0.24	0.27	0.25	(1.0)	(1.8)	A
50	建設前	0.31	0.48	0.27	0.36	0.19	0.17	0.23	0.31	0.29	0.23	0.38	0.28	0.33	0.27	0.31	0.21	(1.0)	(1.9)	A
	建設後（対策前）	0.37	0.27	0.34	0.23	0.21	0.19	0.21	0.23	0.21	0.31	0.37	0.30	0.32	0.31	0.39	0.51	(1.1)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.37	0.27	0.34	0.23	0.21	0.19	0.21	0.23	0.21	0.31	0.37	0.30	0.32	0.31	0.39	0.51	(1.1)	(2.4)	A
51	建設前	0.27	0.19	0.13	0.12	0.15	0.15	0.18	0.18	0.15	0.18	0.23	0.17	0.18	0.19	0.22	0.28	(0.7)	(1.4)	A
	建設後（対策前）	0.37	0.26	0.17	0.18	0.14	0.13	0.17	0.15	0.20	0.18	0.21	0.12	0.18	0.22	0.27	0.35	(0.8)	(1.7)	A
	建設後（対策後）	0.37	0.26	0.17	0.18	0.14	0.13	0.17	0.15	0.20	0.18	0.21	0.12	0.18	0.22	0.27	0.35	(0.8)	(1.7)	A
52	建設前	0.28	0.34	0.29	0.30	0.20	0.19	0.10	0.13	0.19	0.18	0.21	0.22	0.18	0.20	0.35	0.26	(0.9)	(1.8)	A
	建設後（対策前）	0.67	0.63	0.27	0.17	0.10	0.12	0.15	0.32	0.29	0.39	0.33	0.31	0.25	0.27	0.53	0.53	(1.4)	(3.1)	B
	建設後（対策後）	0.67	0.56	0.35	0.17	0.11	0.12	0.16	0.32	0.31	0.40	0.36	0.36	0.28	0.29	0.50	0.51	(1.4)	(3.0)	B
53	建設前	0.24	0.33	0.26	0.26	0.21	0.16	0.27	0.28	0.29	0.29	0.22	0.21	0.24	0.24	0.25	0.21	(0.9)	(1.7)	A
	建設後（対策前）	0.29	0.20	0.19	0.16	0.13	0.13	0.26	0.21	0.24	0.33	0.27	0.28	0.26	0.18	0.19	0.20	(0.7)	(1.6)	A
	建設後（対策後）	0.29	0.20	0.19	0.16	0.13	0.13	0.26	0.21	0.24	0.33	0.27	0.28	0.26	0.18	0.19	0.20	(0.7)	(1.6)	A
54	建設前	0.30	0.41	0.20	0.24	0.15	0.17	0.18	0.23	0.18	0.27	0.19	0.19	0.43	0.19	0.22	0.35	(0.9)	(1.8)	A
	建設後（対策前）	0.31	0.32	0.17	0.18	0.17	0.19	0.20	0.22	0.18	0.19	0.15	0.14	0.33	0.22	0.22	0.37	(0.8)	(1.6)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.32	0.17	0.18	0.17	0.19	0.20	0.22	0.18	0.19	0.15	0.14	0.33	0.22	0.22	0.37	(0.8)	(1.6)	A
55	建設前	0.21	0.29	0.33	0.28	0.16	0.17	0.16	0.21	0.28	0.26	0.14	0.25	0.26	0.16	0.19	0.22	(0.8)	(1.6)	A
	建設後（対策前）	0.27	0.25	0.19	0.14	0.17	0.17	0.16	0.22	0.21	0.24	0.14	0.20	0.23	0.18	0.20	0.25	(0.7)	(1.4)	A
	建設後（対策後）	0.27	0.25	0.19	0.14	0.17	0.17	0.16	0.22	0.21	0.24	0.14	0.20	0.23	0.18	0.20	0.25	(0.7)	(1.4)	A
56	建設前	0.26	0.21	0.27	0.29	0.18	0.19	0.20	0.25	0.19	0.19	0.21	0.23	0.17	0.25	0.21	0.23	(0.8)	(1.4)	A
	建設後（対策前）	0.31	0.26	0.20	0.20	0.18	0.23	0.25	0.27	0.20	0.19	0.18	0.20	0.16	0.26	0.23	0.25	(0.8)	(1.5)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.26	0.20	0.20	0.18	0.23	0.25	0.27	0.20	0.19	0.18	0.20	0.16	0.26	0.23	0.25	(0.8)	(1.5)	A
57	建設前	0.17	0.19	0.18	0.17	0.16	0.14	0.13	0.11	0.14	0.14	0.14	0.17	0.14	0.14	0.17	0.18	(0.6)	(1.0)	A
	建設後（対策前）	0.23	0.26	0.36	0.29	0.19	0.14	0.13	0.19	0.33	0.72	0.40	0.20	0.19	0.21	0.17	0.25	(0.8)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.22	0.26	0.34	0.33	0.22	0.15	0.14	0.16	0.31	0.61	0.33	0.20	0.20	0.19	0.17	0.24	(0.8)	(2.6)	A
58	建設前	0.59	0.54	0.35	0.32	0.23	0.26	0.30	0.31	0.34	0.39	0.50	0.44	0.33	0.26	0.30	0.47	(1.3)	(2.5)	B
	建設後（対策前）	0.64	0.52	0.37	0.31	0.26	0.27	0.32	0.26	0.28	0.26	0.34	0.30	0.27	0.21	0.36	0.48	(1.2)	(2.5)	A
	建設後（対策後）	0.64	0.52	0.36	0.31	0.28	0.27	0.32	0.25	0.27	0.25	0.35	0.31	0.26	0.20	0.37	0.50	(1.2)	(2.5)	A
59	建設前	0.31	0.32	0.37	0.34	0.31	0.18	0.33	0.37	0.42	0.36	0.37	0.28	0.32	0.39	0.26	0.20	(1.0)	(2.1)	A
	建設後（対策前）	0.31	0.35	0.31	0.19	0.19	0.20	0.35	0.36	0.38	0.27	0.31	0.23	0.30	0.35	0.31	0.24	(1.0)	(1.9)	A
	建設後（対策後）	0.32	0.35	0.33	0.20	0.20	0.21	0.35	0.36	0.41	0.28	0.32	0.26	0.30	0.37	0.31	0.24	(1.0)	(2.0)	A
60	建設前	0.76	0.80	0.75	0.43	0.36	0.28	0.37	0.39	0.38	0.53	0.69	0.27	0.26	0.22	0.44	0.79	(1.8)	(3.8)	B
	建設後（対策前）	0.76	0.76	0.79	0.52	0.42	0.33	0.34	0.28	0.32	0.39	0.44	0.66	0.51	0.22	0.45	0.67	(1.7)	(3.6)	B
	建設後（対策後）	0.77	0.78	0.80	0.52	0.45	0.35	0.35	0.29	0.33	0.41	0.44	0.66	0.50	0.22	0.47	0.68	(1.7)	(3.7)	B

資料表 3-3(1)　各測定点における風速比及び風環境評価（3/4）【変更後】

No.		NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	累積頻度55%風速	累積頻度95%風速	領域
	建設前	0.58	0.72	0.90	0.71	0.59	0.29	0.50	0.49	0.55	0.64	0.60	0.58	0.57	0.58	0.40	0.74	(1.9)	(4.0)	C
61	建設後（対策前）	0.64	0.81	0.88	0.55	0.44	0.30	0.54	0.52	0.50	0.51	0.61	0.71	0.67	0.57	0.32	0.66	(1.8)	(3.8)	B
	建設後（対策後）	0.64	0.81	0.88	0.55	0.44	0.30	0.54	0.52	0.50	0.51	0.61	0.71	0.67	0.57	0.32	0.66	(1.8)	(3.8)	B
	建設前	0.41	0.46	0.53	0.48	0.45	0.35	0.40	0.42	0.53	0.59	0.45	0.26	0.25	0.35	0.31	0.47	(1.4)	(3.0)	B
62	建設後（対策前）	0.56	0.50	0.57	0.45	0.35	0.28	0.41	0.43	0.52	0.62	0.52	0.33	0.31	0.35	0.28	0.40	(1.4)	(3.1)	B
	建設後（対策後）	0.56	0.50	0.57	0.45	0.35	0.28	0.41	0.43	0.52	0.62	0.52	0.33	0.31	0.35	0.28	0.40	(1.4)	(3.1)	B
	建設前	0.46	0.77	0.85	0.83	0.73	0.38	0.27	0.29	0.52	0.62	0.54	0.60	0.60	0.47	0.30	0.41	(1.6)	(3.8)	B
63	建設後（対策前）	0.67	0.70	0.80	0.66	0.58	0.44	0.31	0.35	0.51	0.63	0.52	0.58	0.58	0.45	0.30	0.38	(1.6)	(3.6)	B
	建設後（対策後）	0.67	0.70	0.80	0.66	0.58	0.44	0.31	0.35	0.51	0.63	0.52	0.58	0.58	0.45	0.30	0.38	(1.6)	(3.6)	B
	建設前	0.28	0.68	0.47	0.40	0.29	0.29	0.35	0.31	0.38	0.58	0.74	0.72	0.72	0.64	0.31	0.31	(1.3)	(3.2)	B
64	建設後（対策前）	0.35	0.66	0.57	0.22	0.22	0.21	0.37	0.34	0.34	0.53	0.70	0.62	0.65	0.55	0.33	0.30	(1.3)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.35	0.66	0.57	0.22	0.22	0.21	0.37	0.34	0.34	0.53	0.70	0.62	0.65	0.55	0.33	0.30	(1.3)	(3.0)	B
	建設前	0.31	0.49	0.56	0.64	0.55	0.36	0.32	0.42	0.50	0.70	0.77	0.64	0.44	0.32	0.32	0.29	(1.4)	(3.3)	B
65	建設後（対策前）	0.35	0.77	0.75	0.59	0.44	0.37	0.36	0.43	0.46	0.63	0.70	0.51	0.34	0.34	0.25	0.18	(1.3)	(3.5)	B
	建設後（対策後）	0.35	0.77	0.75	0.59	0.44	0.37	0.36	0.43	0.46	0.63	0.70	0.51	0.34	0.34	0.25	0.18	(1.3)	(3.5)	B
	建設前	0.32	0.41	0.50	0.49	0.46	0.34	0.22	0.24	0.41	0.44	0.55	0.54	0.53	0.52	0.46	0.29	(1.4)	(2.8)	B
66	建設後（対策前）	0.23	0.57	0.72	0.42	0.28	0.27	0.20	0.25	0.40	0.36	0.39	0.35	0.38	0.40	0.22	0.32	(1.1)	(2.7)	A
	建設後（対策後）	0.23	0.57	0.72	0.42	0.28	0.27	0.20	0.25	0.40	0.36	0.39	0.35	0.38	0.40	0.22	0.32	(1.1)	(2.7)	A
	建設前	0.25	0.27	0.32	0.27	0.31	0.29	0.26	0.28	0.22	0.21	0.45	0.20	0.22	0.25	0.23	0.28	(0.9)	(1.6)	A
67	建設後（対策前）	0.25	0.24	0.28	0.21	0.33	0.30	0.20	0.24	0.16	0.17	0.25	0.20	0.21	0.17	0.20	0.29	(0.8)	(1.4)	A
	建設後（対策後）	0.25	0.24	0.28	0.21	0.33	0.30	0.20	0.24	0.16	0.17	0.25	0.20	0.21	0.17	0.20	0.29	(0.8)	(1.4)	A
	建設前	0.37	0.31	0.25	0.17	0.26	0.27	0.32	0.29	0.28	0.26	0.50	0.26	0.30	0.41	0.58	0.59	(1.2)	(3.1)	B
68	建設後（対策前）	0.26	0.26	0.21	0.17	0.18	0.19	0.24	0.25	0.28	0.23	0.30	0.37	0.37	0.30	0.48	0.53	(1.0)	(2.6)	A
	建設後（対策後）	0.26	0.26	0.21	0.17	0.18	0.19	0.24	0.25	0.28	0.23	0.30	0.37	0.37	0.30	0.48	0.53	(1.0)	(2.6)	A
	建設前	0.19	0.37	0.35	0.33	0.35	0.32	0.32	0.30	0.30	0.28	0.20	0.34	0.27	0.33	0.39	0.20	(1.0)	(2.1)	A
69	建設後（対策前）	0.40	0.50	0.60	0.65	0.60	0.53	0.32	0.24	0.21	0.27	0.19	0.59	0.72	0.55	0.45	0.33	(1.3)	(2.9)	B
	建設後（対策後）	0.40	0.50	0.60	0.65	0.60	0.53	0.32	0.24	0.21	0.27	0.19	0.59	0.72	0.55	0.45	0.33	(1.3)	(2.9)	B
	建設前	0.45	0.38	0.35	0.40	0.33	0.26	0.36	0.38	0.42	0.33	0.38	0.32	0.28	0.30	0.45	0.51	(1.4)	(2.6)	B
70	建設後（対策前）	0.33	0.27	0.30	0.32	0.36	0.28	0.37	0.34	0.30	0.24	0.31	0.35	0.34	0.40	0.35	0.37	(1.1)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.33	0.27	0.30	0.32	0.36	0.28	0.37	0.34	0.30	0.24	0.31	0.35	0.34	0.40	0.35	0.37	(1.1)	(2.0)	A
	建設前	0.20	0.44	0.42	0.40	0.22	0.21	0.19	0.27	0.31	0.26	0.27	0.29	0.25	0.26	0.19	0.13	(0.8)	(1.9)	A
71	建設後（対策前）	0.16	0.33	0.36	0.35	0.19	0.18	0.28	0.46	0.46	0.35	0.20	0.44	0.25	0.28	0.21	0.14	(0.9)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.16	0.33	0.36	0.35	0.19	0.18	0.28	0.46	0.46	0.35	0.20	0.44	0.25	0.28	0.21	0.14	(0.9)	(2.1)	A
	建設前	0.24	0.27	0.25	0.24	0.27	0.20	0.18	0.29	0.47	0.34	0.34	0.34	0.38	0.24	0.22	0.25	(0.9)	(1.9)	A
72	建設後（対策前）	0.24	0.25	0.23	0.19	0.24	0.18	0.26	0.51	0.48	0.27	0.17	0.36	0.30	0.27	0.27	0.22	(0.9)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.24	0.25	0.23	0.19	0.24	0.18	0.26	0.51	0.48	0.27	0.17	0.36	0.30	0.27	0.27	0.22	(0.9)	(2.0)	A
	建設前	0.22	0.21	0.15	0.32	0.22	0.21	0.17	0.42	0.38	0.20	0.23	0.37	0.42	0.40	0.46	0.31	(1.0)	(2.3)	A
73	建設後（対策前）	0.41	0.33	0.16	0.30	0.28	0.29	0.47	0.68	0.46	0.37	0.18	0.43	0.42	0.45	0.44	0.43	(1.3)	(2.7)	B
	建設後（対策後）	0.41	0.33	0.16	0.30	0.28	0.29	0.47	0.68	0.46	0.37	0.18	0.43	0.42	0.45	0.44	0.43	(1.3)	(2.7)	B
	建設前	0.23	0.21	0.19	0.28	0.29	0.21	0.21	0.39	0.30	0.32	0.24	0.31	0.33	0.45	0.44	0.25	(1.0)	(2.3)	A
74	建設後（対策前）	0.28	0.34	0.21	0.36	0.30	0.26	0.45	0.61	0.28	0.28	0.23	0.38	0.43	0.46	0.46	0.35	(1.2)	(2.5)	A
	建設後（対策後）	0.28	0.34	0.21	0.36	0.30	0.26	0.45	0.61	0.28	0.28	0.23	0.38	0.43	0.46	0.46	0.35	(1.2)	(2.5)	A
	建設前	0.31	0.32	0.35	0.33	0.28	0.21	0.26	0.35	0.42	0.35	0.42	0.37	0.35	0.37	0.45	0.31	(1.2)	(2.4)	A
75	建設後（対策前）	0.22	0.23	0.29	0.24	0.31	0.22	0.39	0.48	0.31	0.22	0.28	0.33	0.55	0.44	0.40	0.27	(1.0)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.22	0.23	0.29	0.24	0.31	0.22	0.39	0.48	0.31	0.22	0.28	0.33	0.55	0.44	0.40	0.27	(1.0)	(2.2)	A
	建設前	0.30	0.33	0.41	0.22	0.39	0.27	0.31	0.32	0.42	0.35	0.44	0.41	0.29	0.37	0.48	0.41	(1.3)	(2.6)	B
76	建設後（対策前）	0.21	0.22	0.28	0.27	0.39	0.30	0.39	0.42	0.33	0.26	0.27	0.31	0.27	0.49	0.37	0.31	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.21	0.22	0.28	0.27	0.39	0.30	0.39	0.42	0.33	0.26	0.27	0.31	0.27	0.49	0.37	0.31	(1.1)	(2.1)	A
	建設前	0.26	0.27	0.19	0.34	0.26	0.27	0.24	0.37	0.29	0.27	0.25	0.44	0.40	0.50	0.47	0.37	(1.1)	(2.5)	A
77	建設後（対策前）	0.39	0.40	0.23	0.34	0.29	0.32	0.36	0.47	0.22	0.29	0.19	0.43	0.24	0.31	0.33	0.39	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.39	0.40	0.23	0.34	0.29	0.32	0.36	0.47	0.22	0.29	0.19	0.43	0.24	0.31	0.33	0.39	(1.1)	(2.1)	A
	建設前	0.29	0.20	0.33	0.33	0.21	0.20	0.16	0.31	0.32	0.17	0.18	0.36	0.38	0.34	0.36	0.34	(1.0)	(2.0)	A
78	建設後（対策前）	0.45	0.37	0.26	0.30	0.39	0.40	0.51	0.73	0.48	0.45	0.21	0.31	0.47	0.44	0.45	0.46	(1.4)	(2.9)	B
	建設後（対策後）	0.47	0.36	0.29	0.32	0.35	0.31	0.34	0.57	0.38	0.41	0.21	0.32	0.48	0.48	0.49	0.52	(1.4)	(2.9)	B
	建設前	0.23	0.24	0.19	0.18	0.26	0.37	0.45	0.58	0.55	0.44	0.22	0.30	0.40	0.37	0.29	0.24	(1.0)	(2.5)	A
79	建設後（対策前）	0.61	0.57	0.49	0.33	0.70	1.08	1.20	1.15	1.02	0.61	0.48	0.39	0.36	0.61	0.57	0.45	(2.0)	(4.3)	C
	建設後（対策後）	0.55	0.51	0.39	0.23	0.48	0.73	0.78	0.81	0.72	0.50	0.44	0.34	0.29	0.59	0.59	0.56	(1.8)	(3.6)	B
	建設前	0.91	0.70	0.61	0.27	0.39	0.63	0.71	0.67	0.63	0.47	0.33	0.48	0.37	0.31	0.59	0.78	(2.0)	(3.9)	C
80	建設後（対策前）	1.17	1.22	0.84	0.36	0.56	0.77	0.87	0.92	0.82	0.59	0.75	0.48	0.41	0.69	0.81	1.03	(2.8)	(5.4)	D
	建設後（対策後）	0.94	0.92	0.67	0.33	0.56	0.73	0.82	0.89	0.78	0.55	0.70	0.52	0.40	0.53	0.59	0.85	(2.3)	(4.4)	C
	建設前	0.46	0.38	0.42	0.38	0.53	0.63	0.60	0.50	0.46	0.41	0.42	0.47	0.44	0.55	0.52	0.50	(1.6)	(2.9)	B
81	建設後（対策前）	0.56	0.77	0.52	0.46	0.72	0.75	0.78	0.66	0.43	0.44	0.50	0.64	0.64	0.47	0.64	0.55	(1.9)	(3.6)	C
	建設後（対策後）	0.58	0.81	0.61	0.38	0.66	0.71	0.76	0.72	0.40	0.43	0.62	0.37	0.32	0.30	0.47	0.56	(1.8)	(3.4)	B
	建設前	0.27	0.29	0.25	0.22	0.18	0.17	0.18	0.17	0.26	0.28	0.36	0.33	0.24	0.27	0.31	0.35	(0.9)	(1.8)	A
82	建設後（対策前）	0.42	0.44	0.37	0.38	0.23	0.21	0.17	0.27	0.39	0.31	0.35	0.31	0.25	0.28	0.21	0.39	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.40	0.46	0.39	0.38	0.23	0.21	0.18	0.27	0.39	0.31	0.34	0.32	0.26	0.29	0.22	0.41	(1.1)	(2.2)	A
	建設前	0.53	0.42	0.33	0.28	0.22	0.20	0.28	0.31	0.29	0.25	0.33	0.26	0.24	0.24	0.45	0.52	(1.2)	(2.6)	A
83	建設後（対策前）	0.73	0.58	0.48	0.35	0.31	0.33	0.28	0.25	0.32	0.40	0.55	0.59	0.48	0.24	0.38	0.67	(1.4)	(3.1)	B
	建設後（対策後）	0.73	0.58	0.48	0.35	0.31	0.33	0.28	0.25	0.32	0.40	0.55	0.59	0.48	0.24	0.38	0.67	(1.4)	(3.1)	B
	建設前	0.39	0.51	0.69	0.58	0.59	0.38	0.28	0.35	0.51	0.59	0.47	0.20	0.16	0.31	0.49	0.63	(1.7)	(3.4)	B
84	建設後（対策前）	0.53	0.61	0.68	0.44	0.36	0.31	0.30	0.35	0.39	0.43	0.42	0.45	0.32	0.43	0.42	0.51	(1.5)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.53	0.61	0.68	0.44	0.36	0.31	0.30	0.35	0.39	0.43	0.42	0.45	0.32	0.43	0.42	0.51	(1.5)	(3.0)	B
	建設前	0.34	0.61	0.70	0.66	0.53	0.38	0.18	0.18	0.29	0.29	0.26	0.26	0.24	0.50	0.38	0.32	(1.3)	(2.9)	B
85	建設後（対策前）	0.60	0.58	0.57	0.51	0.47	0.34	0.23	0.24	0.31	0.40	0.39	0.32	0.36	0.47	0.35	0.36	(1.4)	(2.8)	B
	建設後（対策後）	0.60	0.58	0.57	0.51	0.47	0.34	0.23	0.24	0.31	0.40	0.39	0.32	0.36	0.47	0.35	0.36	(1.4)	(2.8)	B
	建設前	0.36	0.38	0.35	0.44	0.25	0.18	0.18	0.32	0.44	0.52	0.45	0.33	0.27	0.28	0.35	0.35	(1.2)	(2.5)	A
86	建設後（対策前）	0.80	0.73	0.50	0.30	0.15	0.16	0.22	0.27	0.33	0.94	0.87	0.92	0.67	0.39	0.60	0.64	(1.9)	(4.4)	C
	建設後（対策後）	0.75	0.66	0.51	0.28	0.15	0.14	0.22	0.25	0.31	0.89	0.84	0.82	0.58	0.32	0.53	0.58	(1.7)	(4.1)	B

資料表 3-3(2)　各測定点における風速比及び風環境評価（3/4）【変更前】

No.		NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	累積頻度55%風速	累積頻度95%風速	領域
	建設前	0.58	0.72	0.90	0.71	0.59	0.29	0.50	0.49	0.55	0.64	0.60	0.58	0.57	0.58	0.40	0.74	(1.9)	(4.0)	C
61	建設後（対策前）	0.67	0.69	0.80	0.55	0.44	0.31	0.52	0.51	0.54	0.50	0.57	0.66	0.63	0.54	0.34	0.53	(1.7)	(3.5)	B
	建設後（対策後）	0.69	0.70	0.84	0.54	0.46	0.32	0.52	0.50	0.55	0.50	0.57	0.68	0.61	0.54	0.33	0.55	(1.7)	(3.5)	B
	建設前	0.41	0.46	0.53	0.48	0.45	0.35	0.40	0.42	0.53	0.59	0.45	0.26	0.25	0.35	0.31	0.47	(1.4)	(3.0)	B
62	建設後（対策前）	0.48	0.48	0.53	0.43	0.32	0.28	0.36	0.40	0.54	0.56	0.45	0.32	0.32	0.32	0.27	0.34	(1.3)	(2.9)	B
	建設後（対策後）	0.48	0.47	0.54	0.41	0.33	0.27	0.35	0.39	0.53	0.55	0.44	0.31	0.31	0.31	0.26	0.33	(1.3)	(2.8)	B
	建設前	0.46	0.77	0.85	0.83	0.73	0.38	0.27	0.29	0.52	0.62	0.54	0.60	0.60	0.47	0.30	0.41	(1.6)	(3.8)	B
63	建設後（対策前）	0.60	0.70	0.79	0.62	0.53	0.37	0.33	0.33	0.50	0.62	0.51	0.55	0.56	0.45	0.33	0.34	(1.5)	(3.6)	B
	建設後（対策後）	0.60	0.71	0.81	0.62	0.55	0.37	0.32	0.34	0.50	0.62	0.52	0.56	0.56	0.48	0.32	0.34	(1.5)	(3.6)	B
	建設前	0.28	0.68	0.47	0.40	0.29	0.29	0.35	0.31	0.38	0.58	0.74	0.72	0.72	0.64	0.31	0.31	(1.3)	(3.2)	B
64	建設後（対策前）	0.35	0.66	0.57	0.22	0.22	0.21	0.37	0.34	0.34	0.53	0.70	0.62	0.65	0.55	0.33	0.30	(1.3)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.38	0.67	0.57	0.22	0.22	0.21	0.37	0.34	0.35	0.52	0.71	0.63	0.64	0.59	0.33	0.31	(1.3)	(3.0)	B
	建設前	0.31	0.49	0.56	0.64	0.55	0.36	0.32	0.42	0.50	0.70	0.77	0.64	0.44	0.32	0.32	0.29	(1.4)	(3.3)	B
65	建設後（対策前）	0.35	0.74	0.86	0.61	0.49	0.38	0.42	0.49	0.53	0.64	0.72	0.49	0.35	0.31	0.23	0.29	(1.4)	(3.7)	B
	建設後（対策後）	0.35	0.72	0.83	0.60	0.51	0.37	0.40	0.47	0.54	0.64	0.74	0.48	0.32	0.30	0.21	0.24	(1.3)	(3.6)	B
	建設前	0.32	0.41	0.50	0.49	0.46	0.34	0.22	0.24	0.41	0.44	0.55	0.54	0.53	0.52	0.46	0.29	(1.4)	(2.8)	B
66	建設後（対策前）	0.33	0.51	0.70	0.62	0.32	0.34	0.20	0.27	0.47	0.34	0.36	0.32	0.36	0.24	0.26	0.62	(1.3)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.35	0.60	0.87	0.82	0.43	0.36	0.23	0.29	0.53	0.37	0.39	0.38	0.38	0.28	0.33	0.67	(1.5)	(3.5)	B
	建設前	0.25	0.27	0.32	0.27	0.31	0.29	0.26	0.28	0.22	0.21	0.45	0.20	0.22	0.25	0.23	0.28	(0.9)	(1.6)	A
67	建設後（対策前）	0.23	0.22	0.25	0.21	0.29	0.22	0.19	0.18	0.17	0.17	0.16	0.13	0.17	0.17	0.22	0.27	(0.8)	(1.4)	A
	建設後（対策後）	0.25	0.25	0.29	0.24	0.33	0.26	0.22	0.20	0.18	0.18	0.19	0.16	0.20	0.19	0.26	0.30	(0.8)	(1.6)	A
	建設前	0.37	0.31	0.25	0.17	0.26	0.27	0.32	0.29	0.28	0.26	0.50	0.26	0.30	0.41	0.58	0.59	(1.2)	(3.1)	B
68	建設後（対策前）	0.25	0.23	0.20	0.20	0.13	0.23	0.21	0.16	0.14	0.20	0.23	0.18	0.19	0.20	0.32	0.47	(0.8)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.29	0.27	0.25	0.22	0.16	0.26	0.25	0.20	0.17	0.20	0.24	0.25	0.20	0.23	0.39	0.52	(0.9)	(2.3)	A
	建設前	0.19	0.37	0.35	0.33	0.35	0.32	0.32	0.30	0.30	0.28	0.20	0.34	0.27	0.33	0.39	0.20	(1.0)	(2.1)	A
69	建設後（対策前）	0.40	0.41	0.59	0.76	0.68	0.48	0.34	0.17	0.15	0.17	0.34	0.29	0.64	0.71	0.57	0.45	(1.4)	(3.3)	B
	建設後（対策後）	0.40	0.39	0.57	0.78	0.69	0.49	0.35	0.20	0.17	0.18	0.36	0.30	0.60	0.70	0.61	0.47	(1.4)	(3.4)	B
	建設前	0.45	0.38	0.35	0.40	0.33	0.26	0.36	0.38	0.42	0.33	0.38	0.32	0.28	0.30	0.45	0.51	(1.4)	(2.6)	B
70	建設後（対策前）	0.33	0.27	0.30	0.32	0.36	0.28	0.37	0.34	0.30	0.24	0.31	0.35	0.34	0.40	0.35	0.37	(1.1)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.28	0.31	0.32	0.37	0.28	0.36	0.35	0.31	0.23	0.31	0.35	0.35	0.40	0.36	0.36	(1.1)	(2.0)	A
	建設前	0.20	0.44	0.42	0.40	0.22	0.21	0.19	0.27	0.31	0.26	0.27	0.29	0.25	0.26	0.19	0.13	(0.8)	(1.9)	A
71	建設後（対策前）	0.16	0.33	0.36	0.35	0.19	0.18	0.28	0.46	0.46	0.35	0.20	0.44	0.25	0.28	0.21	0.14	(0.9)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.16	0.34	0.35	0.35	0.19	0.19	0.21	0.39	0.40	0.35	0.21	0.45	0.25	0.28	0.21	0.15	(0.9)	(2.0)	A
	建設前	0.24	0.27	0.25	0.24	0.27	0.20	0.18	0.29	0.47	0.34	0.34	0.34	0.38	0.24	0.22	0.25	(0.9)	(1.9)	A
72	建設後（対策前）	0.24	0.25	0.23	0.19	0.24	0.18	0.26	0.51	0.48	0.27	0.17	0.36	0.30	0.27	0.27	0.22	(0.9)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.25	0.25	0.23	0.21	0.24	0.20	0.19	0.44	0.48	0.25	0.17	0.36	0.29	0.27	0.27	0.22	(0.9)	(1.9)	A
	建設前	0.22	0.21	0.15	0.32	0.22	0.21	0.17	0.42	0.38	0.20	0.23	0.37	0.42	0.40	0.46	0.31	(1.0)	(2.3)	A
73	建設後（対策前）	0.41	0.33	0.16	0.30	0.28	0.29	0.47	0.68	0.46	0.37	0.18	0.43	0.42	0.45	0.44	0.43	(1.3)	(2.7)	B
	建設後（対策後）	0.43	0.33	0.16	0.30	0.27	0.26	0.35	0.55	0.35	0.34	0.19	0.44	0.42	0.47	0.45	0.46	(1.3)	(2.6)	B
	建設前	0.23	0.21	0.19	0.28	0.29	0.21	0.21	0.39	0.30	0.32	0.24	0.31	0.33	0.45	0.44	0.25	(1.0)	(2.3)	A
74	建設後（対策前）	0.28	0.34	0.21	0.36	0.30	0.26	0.45	0.61	0.28	0.28	0.23	0.38	0.43	0.46	0.46	0.35	(1.2)	(2.5)	A
	建設後（対策後）	0.31	0.33	0.22	0.36	0.31	0.28	0.36	0.42	0.26	0.27	0.25	0.37	0.44	0.48	0.45	0.38	(1.2)	(2.4)	A
	建設前	0.31	0.32	0.35	0.33	0.28	0.21	0.26	0.35	0.42	0.35	0.42	0.37	0.35	0.37	0.45	0.31	(1.2)	(2.4)	A
75	建設後（対策前）	0.22	0.23	0.29	0.24	0.31	0.22	0.39	0.48	0.31	0.22	0.28	0.33	0.55	0.44	0.40	0.27	(1.0)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.21	0.23	0.30	0.22	0.32	0.22	0.38	0.50	0.32	0.22	0.29	0.33	0.57	0.44	0.41	0.25	(1.0)	(2.2)	A
	建設前	0.30	0.33	0.41	0.22	0.39	0.27	0.31	0.32	0.42	0.35	0.44	0.41	0.29	0.37	0.48	0.41	(1.3)	(2.6)	B
76	建設後（対策前）	0.21	0.22	0.28	0.27	0.39	0.30	0.39	0.42	0.33	0.26	0.27	0.31	0.27	0.49	0.37	0.31	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.21	0.22	0.30	0.28	0.42	0.29	0.37	0.45	0.34	0.28	0.28	0.31	0.30	0.51	0.39	0.31	(1.1)	(2.2)	A
	建設前	0.26	0.27	0.19	0.34	0.26	0.27	0.24	0.37	0.29	0.27	0.25	0.44	0.40	0.50	0.47	0.37	(1.1)	(2.5)	A
77	建設後（対策前）	0.39	0.40	0.23	0.34	0.29	0.32	0.36	0.47	0.22	0.29	0.19	0.43	0.24	0.31	0.33	0.39	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.41	0.40	0.24	0.36	0.28	0.34	0.30	0.32	0.22	0.28	0.21	0.43	0.24	0.31	0.32	0.41	(1.1)	(2.1)	A
	建設前	0.29	0.20	0.33	0.33	0.21	0.20	0.16	0.31	0.32	0.17	0.18	0.36	0.38	0.34	0.36	0.34	(1.0)	(2.0)	A
78	建設後（対策前）	0.47	0.39	0.26	0.30	0.38	0.40	0.50	0.75	0.45	0.42	0.18	0.31	0.42	0.43	0.40	0.46	(1.4)	(2.8)	B
	建設後（対策後）	0.48	0.38	0.28	0.29	0.35	0.31	0.36	0.59	0.36	0.36	0.20	0.34	0.45	0.47	0.42	0.48	(1.4)	(2.6)	B
	建設前	0.23	0.24	0.19	0.18	0.26	0.37	0.45	0.58	0.55	0.44	0.22	0.30	0.40	0.37	0.29	0.24	(1.0)	(2.5)	A
79	建設後（対策前）	0.71	0.63	0.53	0.30	0.69	1.11	1.19	1.19	1.01	0.59	0.43	0.40	0.35	0.60	0.60	0.47	(2.1)	(4.4)	C
	建設後（対策後）	0.56	0.53	0.44	0.25	0.50	0.74	0.80	0.84	0.72	0.47	0.43	0.34	0.31	0.60	0.56	0.56	(1.8)	(3.5)	B
	建設前	0.91	0.70	0.61	0.27	0.39	0.63	0.71	0.67	0.63	0.47	0.33	0.48	0.37	0.31	0.59	0.78	(2.0)	(3.9)	C
80	建設後（対策前）	1.23	1.26	0.87	0.34	0.55	0.74	0.83	0.90	0.81	0.57	0.68	0.46	0.39	0.68	0.81	1.07	(2.8)	(5.5)	D
	建設後（対策後）	0.99	0.97	0.70	0.33	0.53	0.71	0.79	0.88	0.80	0.55	0.68	0.50	0.39	0.53	0.53	0.88	(2.3)	(4.5)	C
	建設前	0.46	0.38	0.42	0.38	0.53	0.63	0.60	0.50	0.46	0.41	0.42	0.47	0.44	0.55	0.52	0.50	(1.6)	(2.9)	B
81	建設後（対策前）	0.54	0.86	0.74	0.54	0.70	0.70	0.62	0.50	0.44	0.55	0.56	0.73	0.68	0.42	0.63	0.42	(1.9)	(3.8)	C
	建設後（対策後）	0.56	0.78	0.62	0.42	0.70	0.73	0.76	0.71	0.40	0.44	0.57	0.38	0.34	0.31	0.42	0.57	(1.8)	(3.3)	B
	建設前	0.27	0.29	0.25	0.22	0.18	0.17	0.18	0.17	0.26	0.28	0.36	0.33	0.24	0.27	0.31	0.35	(0.9)	(1.8)	A
82	建設後（対策前）	0.42	0.44	0.37	0.38	0.23	0.21	0.17	0.27	0.39	0.31	0.35	0.31	0.25	0.28	0.21	0.39	(1.1)	(2.1)	A
	建設後（対策後）	0.41	0.44	0.40	0.39	0.24	0.21	0.17	0.29	0.39	0.33	0.35	0.31	0.25	0.27	0.23	0.40	(1.1)	(2.2)	A
	建設前	0.53	0.42	0.33	0.28	0.22	0.20	0.28	0.31	0.29	0.25	0.33	0.26	0.24	0.24	0.45	0.52	(1.2)	(2.6)	A
83	建設後（対策前）	0.73	0.58	0.48	0.35	0.31	0.33	0.28	0.25	0.32	0.40	0.55	0.59	0.48	0.24	0.38	0.67	(1.4)	(3.1)	B
	建設後（対策後）	0.73	0.60	0.49	0.36	0.33	0.33	0.29	0.26	0.33	0.44	0.55	0.61	0.48	0.25	0.40	0.69	(1.5)	(3.2)	B
	建設前	0.39	0.51	0.69	0.58	0.59	0.38	0.28	0.35	0.51	0.59	0.47	0.20	0.16	0.31	0.49	0.63	(1.7)	(3.4)	B
84	建設後（対策前）	0.52	0.54	0.67	0.47	0.30	0.24	0.28	0.30	0.37	0.40	0.42	0.40	0.30	0.40	0.40	0.43	(1.4)	(2.8)	B
	建設後（対策後）	0.54	0.56	0.73	0.47	0.31	0.25	0.29	0.31	0.39	0.41	0.46	0.42	0.31	0.38	0.41	0.44	(1.5)	(2.9)	B
	建設前	0.34	0.61	0.70	0.66	0.53	0.38	0.18	0.18	0.29	0.29	0.26	0.26	0.24	0.50	0.38	0.32	(1.3)	(2.9)	B
85	建設後（対策前）	0.73	0.82	0.80	0.68	0.58	0.61	0.29	0.30	0.34	0.43	0.46	0.36	0.41	0.45	0.40	0.50	(1.7)	(3.5)	B
	建設後（対策後）	0.73	0.81	0.79	0.67	0.59	0.60	0.28	0.31	0.33	0.43	0.50	0.37	0.43	0.43	0.39	0.48	(1.7)	(3.5)	B
	建設前	0.36	0.38	0.35	0.44	0.25	0.18	0.18	0.32	0.44	0.52	0.45	0.33	0.27	0.28	0.35	0.35	(1.2)	(2.5)	A
86	建設後（対策前）	0.80	0.73	0.50	0.30	0.15	0.16	0.22	0.27	0.33	0.94	0.87	0.92	0.67	0.39	0.60	0.64	(1.9)	(4.4)	C
	建設後（対策後）	0.75	0.66	0.51	0.28	0.15	0.14	0.22	0.25	0.31	0.89	0.84	0.82	0.58	0.32	0.53	0.58	(1.7)	(4.1)	B

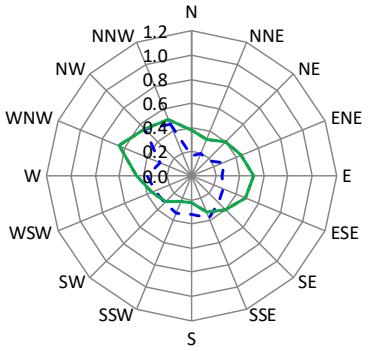
資料表 3-4(1)　各測定点における風速比及び風環境評価（4/4）【変更後】

No.		NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	累積頻度55%風速	累積頻度95%風速	領域
100	建設前	0.33	0.49	0.59	0.56	0.49	0.36	0.19	0.22	0.31	0.43	0.65	0.66	0.57	0.52	0.46	0.35	(1.4)	(2.9)	B
101	建設前	0.25	0.33	0.42	0.37	0.28	0.30	0.26	0.26	0.44	0.53	0.65	0.67	0.68	0.58	0.35	0.48	(1.3)	(2.8)	B
102	建設前	0.39	0.32	0.23	0.14	0.19	0.21	0.22	0.33	0.29	0.32	0.48	0.62	0.36	0.20	0.29	0.28	(1.0)	(1.9)	A
103	建設前	0.23	0.30	0.40	0.34	0.29	0.26	0.24	0.29	0.25	0.38	0.23	0.37	0.44	0.21	0.20	0.16	(0.9)	(1.9)	A
104	建設前	0.23	0.24	0.30	0.28	0.28	0.24	0.20	0.22	0.37	0.48	0.48	0.45	0.48	0.50	0.42	0.33	(1.1)	(2.6)	A
	建設後（対策前）	0.25	0.41	0.34	0.16	0.20	0.23	0.15	0.20	0.27	0.46	0.52	0.39	0.40	0.27	0.28	0.24	(1.0)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.25	0.41	0.34	0.16	0.20	0.23	0.15	0.20	0.27	0.46	0.52	0.39	0.40	0.27	0.28	0.24	(1.0)	(2.2)	A
105	建設前	0.38	0.43	0.50	0.37	0.39	0.38	0.33	0.33	0.47	0.54	0.61	0.67	0.70	0.50	0.21	0.47	(1.3)	(2.9)	B
	建設後（対策前）	0.61	0.53	0.60	0.47	0.36	0.22	0.23	0.40	0.51	0.56	0.70	0.80	0.71	0.27	0.28	0.70	(1.6)	(3.4)	B
	建設後（対策後）	0.61	0.53	0.60	0.47	0.36	0.22	0.23	0.40	0.51	0.56	0.70	0.80	0.71	0.27	0.28	0.70	(1.6)	(3.4)	B
106	建設前	0.29	0.29	0.33	0.23	0.24	0.24	0.26	0.37	0.35	0.35	0.56	0.64	0.59	0.37	0.23	0.44	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策前）	0.55	0.49	0.56	0.43	0.31	0.24	0.21	0.20	0.16	0.20	0.24	0.33	0.38	0.33	0.31	0.53	(1.2)	(2.6)	A
	建設後（対策後）	0.55	0.49	0.56	0.43	0.31	0.24	0.21	0.20	0.16	0.20	0.24	0.33	0.38	0.33	0.31	0.53	(1.2)	(2.6)	A
107	建設前	0.37	0.22	0.35	0.35	0.30	0.31	0.32	0.31	0.28	0.24	0.58	0.37	0.24	0.25	0.30	0.30	(1.0)	(1.9)	A
	建設後（対策前）	0.37	0.19	0.37	0.37	0.24	0.25	0.24	0.22	0.20	0.19	0.25	0.21	0.35	0.20	0.22	0.25	(0.8)	(1.6)	A
	建設後（対策後）	0.37	0.19	0.37	0.37	0.24	0.25	0.24	0.22	0.20	0.19	0.25	0.21	0.35	0.20	0.22	0.25	(0.8)	(1.6)	A
108	建設後（対策前）	0.48	0.42	0.47	0.45	0.41	0.29	0.22	0.22	0.17	0.17	0.23	0.33	0.61	0.45	0.31	0.29	(1.0)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.48	0.42	0.47	0.45	0.41	0.29	0.22	0.22	0.17	0.17	0.23	0.33	0.61	0.45	0.31	0.29	(1.0)	(2.3)	A
109	建設後（対策前）	0.39	0.61	0.55	0.29	0.18	0.19	0.16	0.18	0.24	0.36	0.43	0.35	0.43	0.23	0.24	0.24	(1.0)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.39	0.61	0.55	0.29	0.18	0.19	0.16	0.18	0.24	0.36	0.43	0.35	0.43	0.23	0.24	0.24	(1.0)	(2.4)	A
110	建設後（対策前）	0.33	0.36	0.39	0.44	0.44	0.45	0.20	0.24	0.28	0.35	0.45	0.45	0.31	0.22	0.18	0.18	(0.9)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.33	0.36	0.39	0.44	0.44	0.45	0.20	0.24	0.28	0.35	0.45	0.45	0.31	0.22	0.18	0.18	(0.9)	(2.0)	A
111	建設後（対策前）	0.37	0.48	0.51	0.52	0.55	0.51	0.22	0.25	0.38	0.48	0.36	0.35	0.37	0.30	0.29	0.33	(1.3)	(2.6)	B
	建設後（対策後）	0.37	0.48	0.51	0.52	0.55	0.51	0.22	0.25	0.38	0.48	0.36	0.35	0.37	0.30	0.29	0.33	(1.3)	(2.6)	B
112	建設後（対策前）	0.49	0.56	0.52	0.43	0.28	0.30	0.27	0.25	0.40	0.49	0.45	0.29	0.39	0.56	0.46	0.28	(1.4)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.49	0.56	0.52	0.43	0.28	0.30	0.27	0.25	0.40	0.49	0.45	0.29	0.39	0.56	0.46	0.28	(1.4)	(3.0)	B
113	建設後（対策前）	0.40	0.47	0.37	0.32	0.23	0.24	0.22	0.20	0.29	0.39	0.62	0.57	0.30	0.52	0.38	0.32	(1.2)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.40	0.47	0.37	0.32	0.23	0.24	0.22	0.20	0.29	0.39	0.62	0.57	0.30	0.52	0.38	0.32	(1.2)	(2.4)	A
114	建設後（対策前）	0.33	0.44	0.50	0.47	0.51	0.47	0.24	0.28	0.33	0.45	0.47	0.46	0.33	0.32	0.31	0.35	(1.3)	(2.5)	B
	建設後（対策後）	0.33	0.44	0.50	0.47	0.51	0.47	0.24	0.28	0.33	0.45	0.47	0.46	0.33	0.32	0.31	0.35	(1.3)	(2.5)	B
115	建設後（対策前）	0.53	0.71	0.78	0.81	0.62	0.33	0.23	0.53	0.76	0.88	0.90	0.86	0.57	0.30	0.28	0.33	(1.6)	(4.3)	B
	建設後（対策後）	0.53	0.71	0.78	0.81	0.62	0.33	0.23	0.53	0.76	0.88	0.90	0.86	0.57	0.30	0.28	0.33	(1.6)	(4.3)	B
116	建設後（対策前）	0.29	0.36	0.43	0.33	0.44	0.44	0.26	0.34	0.32	0.51	0.38	0.50	0.32	0.30	0.28	0.23	(1.1)	(2.4)	A
	建設後（対策後）	0.29	0.36	0.43	0.33	0.44	0.44	0.26	0.34	0.32	0.51	0.38	0.50	0.32	0.30	0.28	0.23	(1.1)	(2.4)	A
117	建設後（対策前）	0.23	0.29	0.39	0.38	0.37	0.30	0.28	0.27	0.29	0.34	0.29	0.41	0.31	0.45	0.24	0.21	(1.0)	(2.0)	A
	建設後（対策後）	0.23	0.29	0.39	0.38	0.37	0.30	0.28	0.27	0.29	0.34	0.29	0.41	0.31	0.45	0.24	0.21	(1.0)	(2.0)	A
118	建設後（対策前）	0.28	0.26	0.19	0.33	0.30	0.34	0.42	0.22	0.27	0.25	0.23	0.36	0.29	0.47	0.34	0.31	(1.0)	(1.9)	A
	建設後（対策後）	0.28	0.26	0.19	0.33	0.30	0.34	0.42	0.22	0.27	0.25	0.23	0.36	0.29	0.47	0.34	0.31	(1.0)	(1.9)	A
119	建設後（対策前）	0.35	0.41	0.48	0.26	0.38	0.37	0.27	0.26	0.29	0.31	0.30	0.41	0.39	0.33	0.33	0.28	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.35	0.41	0.48	0.26	0.38	0.37	0.27	0.26	0.29	0.31	0.30	0.41	0.39	0.33	0.33	0.28	(1.1)	(2.2)	A
120	建設後（対策前）	0.65	0.64	0.58	0.47	0.28	0.24	0.25	0.36	0.54	0.72	0.66	0.65	0.44	0.24	0.30	0.44	(1.5)	(3.5)	B
	建設後（対策後）	0.65	0.64	0.58	0.47	0.28	0.24	0.25	0.36	0.54	0.72	0.66	0.65	0.44	0.24	0.30	0.44	(1.5)	(3.5)	B
121	建設後（対策前）	0.44	0.68	0.68	0.47	0.28	0.22	0.27	0.28	0.33	0.44	0.62	0.62	0.47	0.20	0.20	0.32	(1.1)	(2.9)	A
	建設後（対策後）	0.44	0.68	0.68	0.47	0.28	0.22	0.27	0.28	0.33	0.44	0.62	0.62	0.47	0.20	0.20	0.32	(1.1)	(2.9)	A
122	建設後（対策前）	0.40	0.50	0.60	0.51	0.34	0.39	0.35	0.26	0.50	0.95	0.97	0.93	0.91	0.64	0.57	0.38	(1.7)	(4.3)	B
	建設後（対策後）	0.39	0.51	0.58	0.51	0.26	0.45	0.29	0.26	0.49	0.96	0.98	0.92	0.89	0.60	0.57	0.37	(1.7)	(4.3)	B
123	建設後（対策前）	0.37	0.47	0.43	0.22	0.11	0.11	0.20	0.61	0.63	0.72	0.52	0.25	0.19	0.17	0.42	0.41	(1.4)	(3.4)	B
	建設後（対策後）	0.35	0.42	0.40	0.19	0.11	0.12	0.22	0.61	0.64	0.66	0.45	0.27	0.21	0.17	0.30	0.36	(1.2)	(3.2)	B
124	建設後（対策前）	0.56	0.69	0.59	0.45	0.33	0.24	0.23	0.41	0.26	0.50	0.59	0.78	0.76	0.62	0.64	0.65	(1.8)	(3.7)	B
	建設後（対策後）	0.57	0.72	0.60	0.50	0.32	0.19	0.24	0.41	0.29	0.50	0.60	0.77	0.75	0.56	0.58	0.60	(1.8)	(3.5)	B
125	建設後（対策前）	0.35	0.29	0.30	0.39	0.44	0.43	0.56	0.45	0.47	0.40	0.24	0.31	0.54	0.46	0.50	0.38	(1.4)	(2.7)	B
	建設後（対策後）	0.37	0.30	0.33	0.39	0.42	0.48	0.29	0.47	0.46	0.35	0.23	0.32	0.55	0.51	0.54	0.42	(1.4)	(2.8)	B
126	建設後（対策前）	0.36	0.31	0.35	0.31	0.33	0.34	0.42	0.47	0.34	0.39	0.26	0.47	0.39	0.62	0.66	0.40	(1.4)	(3.3)	B
	建設後（対策後）	0.38	0.30	0.38	0.31	0.31	0.37	0.30	0.43	0.36	0.41	0.28	0.48	0.38	0.61	0.68	0.39	(1.4)	(3.4)	B
127	建設後（対策前）	0.42	0.35	0.26	0.24	0.22	0.21	0.26	0.31	0.25	0.20	0.18	0.23	0.27	0.24	0.26	0.26	(0.9)	(1.7)	A
	建設後（対策後）	0.45	0.39	0.23	0.20	0.17	0.18	0.18	0.25	0.23	0.15	0.15	0.20	0.21	0.25	0.24	0.30	(0.8)	(1.7)	A
128	建設後（対策前）	0.73	0.71	0.59	0.24	0.29	0.41	0.52	0.60	0.58	0.42	0.37	0.27	0.42	0.34	0.46	0.61	(1.7)	(3.3)	B
	建設後（対策後）	0.69	0.60	0.52	0.25	0.31	0.42	0.51	0.61	0.59	0.40	0.34	0.31	0.41	0.32	0.38	0.59	(1.6)	(3.1)	B
129	建設後（対策前）	0.56	0.53	0.30	0.19	0.70	1.06	1.15	1.04	0.95	0.59	0.49	0.34	0.37	0.58	0.51	0.51	(1.9)	(4.0)	C
	建設後（対策後）	0.38	0.28	0.20	0.16	0.70	1.04	1.09	1.06	0.93	0.57	0.46	0.34	0.42	0.34	0.36	0.34	(1.4)	(3.9)	B

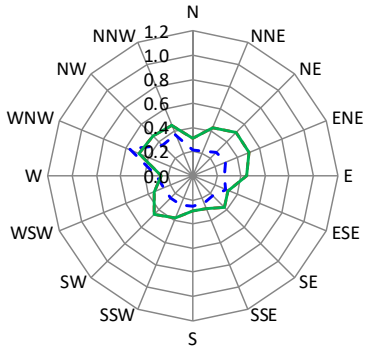
資料表 3-4(2)　各測定点における風速比及び風環境評価（4/4）【変更前】

No.		NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	累積頻度55%風速	累積頻度95%風速	領域
100	建設前	0.33	0.49	0.59	0.56	0.49	0.36	0.19	0.22	0.31	0.43	0.65	0.66	0.57	0.52	0.46	0.35	(1.4)	(2.9)	B
101	建設前	0.25	0.33	0.42	0.37	0.28	0.30	0.26	0.26	0.44	0.53	0.65	0.67	0.68	0.58	0.35	0.48	(1.3)	(2.8)	B
102	建設前	0.39	0.32	0.23	0.14	0.19	0.21	0.22	0.33	0.29	0.32	0.48	0.62	0.36	0.20	0.29	0.28	(1.0)	(1.9)	A
103	建設前	0.23	0.30	0.40	0.34	0.29	0.26	0.24	0.29	0.25	0.38	0.23	0.37	0.44	0.21	0.20	0.16	(0.9)	(1.9)	A
104	建設前	0.23	0.24	0.30	0.28	0.28	0.24	0.20	0.22	0.37	0.48	0.48	0.45	0.48	0.50	0.42	0.33	(1.1)	(2.6)	A
	建設後（対策前）	0.24	0.33	0.34	0.31	0.24	0.35	0.19	0.24	0.29	0.53	0.62	0.41	0.39	0.31	0.51	0.55	(1.3)	(3.0)	B
	建設後（対策後）	0.23	0.31	0.31	0.28	0.22	0.29	0.19	0.22	0.29	0.53	0.63	0.40	0.40	0.29	0.50	0.54	(1.2)	(3.0)	B
105	建設前	0.38	0.43	0.50	0.37	0.39	0.38	0.33	0.33	0.47	0.54	0.61	0.67	0.70	0.50	0.21	0.47	(1.3)	(2.9)	B
	建設後（対策前）	0.76	0.66	0.64	0.54	0.43	0.40	0.29	0.47	0.64	0.88	1.00	0.77	0.63	0.53	0.60	0.78	(2.2)	(4.4)	C
	建設後（対策後）	0.56	0.50	0.52	0.45	0.38	0.32	0.15	0.24	0.38	0.74	0.92	0.78	0.63	0.54	0.56	0.60	(1.8)	(3.7)	B
106	建設前	0.29	0.29	0.33	0.23	0.24	0.24	0.26	0.37	0.35	0.35	0.56	0.64	0.59	0.37	0.23	0.44	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策前）	0.58	0.52	0.55	0.49	0.42	0.22	0.24	0.24	0.26	0.32	0.52	0.58	0.53	0.50	0.47	0.50	(1.5)	(2.9)	B
	建設後（対策後）	0.55	0.52	0.55	0.48	0.40	0.21	0.22	0.18	0.19	0.25	0.45	0.58	0.51	0.49	0.47	0.49	(1.4)	(2.8)	B
107	建設前	0.37	0.22	0.35	0.35	0.30	0.31	0.32	0.31	0.28	0.24	0.58	0.37	0.24	0.25	0.30	0.30	(1.0)	(1.9)	A
	建設後（対策前）	0.43	0.32	0.44	0.46	0.31	0.39	0.30	0.21	0.21	0.23	0.35	0.56	0.73	0.64	0.34	0.26	(1.1)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.47	0.35	0.48	0.50	0.34	0.42	0.34	0.25	0.24	0.23	0.29	0.60	0.82	0.70	0.36	0.29	(1.2)	(2.5)	A
108	建設後（対策前）	0.47	0.49	0.55	0.55	0.51	0.23	0.18	0.19	0.19	0.23	0.43	0.63	0.84	0.77	0.59	0.45	(1.5)	(3.3)	B
	建設後（対策後）	0.52	0.54	0.61	0.62	0.56	0.28	0.22	0.21	0.21	0.23	0.40	0.70	0.94	0.84	0.65	0.50	(1.6)	(3.6)	B
109	建設後（対策前）	0.39	0.65	0.65	0.42	0.24	0.33	0.20	0.22	0.28	0.38	0.44	0.40	0.46	0.32	0.39	0.30	(1.3)	(2.8)	B
	建設後（対策後）	0.40	0.64	0.63	0.45	0.24	0.30	0.21	0.21	0.29	0.39	0.46	0.42	0.46	0.32	0.39	0.32	(1.3)	(2.7)	B
110	建設後（対策前）	0.46	0.52	0.65	0.73	0.63	0.54	0.27	0.28	0.32	0.50	0.76	0.73	0.69	0.50	0.37	0.43	(1.6)	(3.1)	B
	建設後（対策後）	0.45	0.51	0.64	0.72	0.64	0.50	0.26	0.29	0.32	0.51	0.76	0.73	0.68	0.49	0.38	0.42	(1.5)	(3.1)	B
111	建設後（対策前）	0.42	0.44	0.54	0.58	0.56	0.53	0.23	0.30	0.40	0.51	0.62	0.50	0.52	0.33	0.30	0.35	(1.4)	(2.8)	B
	建設後（対策後）	0.42	0.44	0.55	0.57	0.57	0.51	0.21	0.29	0.39	0.52	0.62	0.50	0.52	0.34	0.31	0.34	(1.4)	(2.8)	B
112	建設後（対策前）	0.73	0.71	0.68	0.58	0.31	0.36	0.25	0.31	0.53	0.50	0.45	0.36	0.28	0.43	0.27	0.36	(1.4)	(3.3)	B
	建設後（対策後）	0.72	0.70	0.67	0.59	0.30	0.34	0.24	0.33	0.54	0.52	0.44	0.36	0.29	0.42	0.28	0.36	(1.4)	(3.3)	B
113	建設後（対策前）	0.42	0.45	0.42	0.36	0.21	0.20	0.18	0.20	0.32	0.41	0.62	0.54	0.29	0.41	0.30	0.29	(1.2)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.44	0.46	0.42	0.37	0.22	0.20	0.18	0.20	0.33	0.44	0.63	0.56	0.30	0.41	0.32	0.32	(1.2)	(2.4)	A
114	建設後（対策前）	0.35	0.41	0.47	0.47	0.48	0.41	0.23	0.28	0.35	0.49	0.53	0.42	0.42	0.31	0.31	0.35	(1.3)	(2.5)	B
	建設後（対策後）	0.36	0.41	0.49	0.46	0.50	0.41	0.23	0.28	0.35	0.50	0.54	0.43	0.42	0.31	0.33	0.35	(1.3)	(2.6)	B
115	建設後（対策前）	0.50	0.69	0.75	0.76	0.58	0.38	0.22	0.50	0.72	0.82	0.88	0.82	0.53	0.28	0.26	0.34	(1.6)	(4.1)	B
	建設後（対策後）	0.52	0.72	0.78	0.78	0.59	0.39	0.23	0.53	0.76	0.87	0.90	0.85	0.53	0.28	0.27	0.35	(1.6)	(4.3)	B
116	建設後（対策前）	0.31	0.39	0.45	0.39	0.42	0.35	0.26	0.29	0.31	0.46	0.43	0.46	0.29	0.24	0.24	0.24	(1.1)	(2.3)	A
	建設後（対策後）	0.32	0.39	0.46	0.37	0.45	0.35	0.26	0.31	0.33	0.45	0.44	0.47	0.29	0.24	0.26	0.26	(1.1)	(2.3)	A
117	建設後（対策前）	0.23	0.29	0.36	0.37	0.37	0.27	0.30	0.23	0.26	0.30	0.32	0.36	0.32	0.41	0.21	0.21	(0.9)	(1.8)	A
	建設後（対策後）	0.23	0.31	0.39	0.37	0.39	0.27	0.32	0.24	0.25	0.30	0.33	0.37	0.34	0.40	0.22	0.20	(0.9)	(1.9)	A
118	建設後（対策前）	0.28	0.26	0.19	0.33	0.30	0.34	0.42	0.22	0.27	0.25	0.23	0.36	0.29	0.47	0.34	0.31	(1.0)	(1.9)	A
	建設後（対策後）	0.26	0.26	0.20	0.33	0.31	0.33	0.44	0.23	0.27	0.25	0.24	0.35	0.29	0.46	0.33	0.29	(1.0)	(1.9)	A
119	建設後（対策前）	0.39	0.44	0.50	0.31	0.38	0.33	0.28	0.28	0.31	0.33	0.36	0.43	0.41	0.36	0.25	0.32	(1.1)	(2.2)	A
	建設後（対策後）	0.37	0.47	0.54	0.31	0.44	0.33	0.30	0.30	0.32	0.34	0.38	0.44	0.42	0.34	0.26	0.34	(1.2)	(2.3)	A
120	建設後（対策前）	0.65	0.64	0.58	0.47	0.28	0.24	0.25	0.36	0.54	0.72	0.66	0.65	0.44	0.24	0.30	0.44	(1.5)	(3.5)	B
	建設後（対策後）	0.65	0.67	0.60	0.49	0.30	0.22	0.26	0.36	0.54	0.70	0.67	0.65	0.43	0.24	0.31	0.44	(1.5)	(3.5)	B
121	建設後（対策前）	0.44	0.68	0.68	0.47	0.28	0.22	0.27	0.28	0.33	0.44	0.62	0.62	0.47	0.20	0.20	0.32	(1.1)	(2.9)	A
	建設後（対策後）	0.43	0.69	0.67	0.47	0.27	0.23	0.27	0.30	0.33	0.48	0.62	0.62	0.45	0.20	0.21	0.33	(1.2)	(2.9)	A
122	建設後（対策前）	0.40	0.50	0.60	0.51	0.34	0.39	0.35	0.26	0.50	0.95	0.97	0.93	0.91	0.64	0.57	0.38	(1.7)	(4.3)	B
	建設後（対策後）	0.39	0.51	0.58	0.51	0.26	0.45	0.29	0.26	0.49	0.96	0.98	0.92	0.89	0.60	0.57	0.37	(1.7)	(4.3)	B
123	建設後（対策前）	0.37	0.47	0.43	0.22	0.11	0.11	0.20	0.61	0.63	0.72	0.52	0.25	0.19	0.17	0.42	0.41	(1.4)	(3.4)	B
	建設後（対策後）	0.35	0.42	0.40	0.19	0.11	0.12	0.22	0.61	0.64	0.66	0.45	0.27	0.21	0.17	0.30	0.36	(1.2)	(3.2)	B
124	建設後（対策前）	0.56	0.69	0.59	0.45	0.33	0.24	0.23	0.41	0.26	0.50	0.59	0.78	0.76	0.62	0.64	0.65	(1.8)	(3.7)	B
	建設後（対策後）	0.57	0.72	0.60	0.50	0.32	0.19	0.24	0.41	0.29	0.50	0.60	0.77	0.75	0.56	0.58	0.60	(1.8)	(3.5)	B
125	建設後（対策前）	0.35	0.31	0.26	0.35	0.43	0.43	0.59	0.48	0.47	0.37	0.25	0.33	0.51	0.50	0.50	0.39	(1.4)	(2.7)	B
	建設後（対策後）	0.37	0.30	0.30	0.37	0.42	0.50	0.31	0.48	0.44	0.32	0.22	0.30	0.52	0.53	0.54	0.41	(1.4)	(2.8)	B
126	建設後（対策前）	0.35	0.29	0.31	0.24	0.28	0.31	0.36	0.51	0.26	0.33	0.19	0.44	0.34	0.60	0.70	0.33	(1.3)	(3.4)	B
	建設後（対策後）	0.35	0.27	0.33	0.24	0.27	0.30	0.27	0.42	0.28	0.29	0.21	0.40	0.32	0.55	0.70	0.33	(1.2)	(3.4)	B
127	建設後（対策前）	0.41	0.35	0.28	0.22	0.22	0.23	0.26	0.37	0.25	0.21	0.18	0.25	0.27	0.26	0.24	0.26	(0.9)	(1.7)	A
	建設後（対策後）	0.43	0.38	0.24	0.20	0.19	0.20	0.20	0.26	0.23	0.16	0.16	0.21	0.23	0.25	0.25	0.30	(0.9)	(1.7)	A
128	建設後（対策前）	0.75	0.70	0.59	0.22	0.29	0.40	0.50	0.58	0.57	0.41	0.33	0.26	0.41	0.37	0.50	0.65	(1.8)	(3.4)	B
	建設後（対策後）	0.71	0.62	0.52	0.24	0.30	0.40	0.48	0.58	0.57	0.39	0.33	0.28	0.37	0.32	0.38	0.60	(1.6)	(3.1)	B
129	建設後（対策前）	0.54	0.49	0.33	0.21	0.76	1.19	1.25	1.17	1.02	0.58	0.46	0.36	0.39	0.57	0.49	0.49	(1.9)	(4.3)	C
	建設後（対策後）	0.45	0.36	0.28	0.18	0.68	1.03	1.09	1.07	0.95	0.53	0.45	0.40	0.38	0.38	0.33	0.41	(1.5)	(3.8)	B

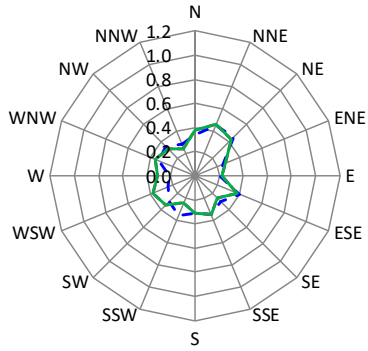
No.2



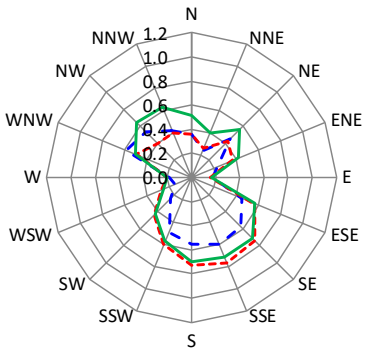
No.3



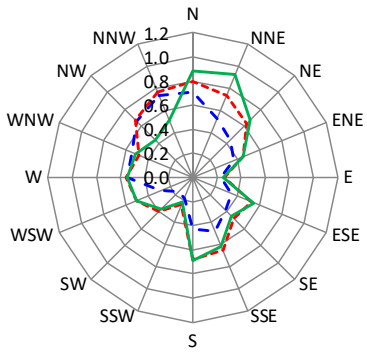
No.4



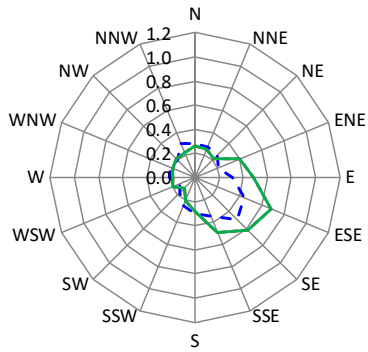
No.36



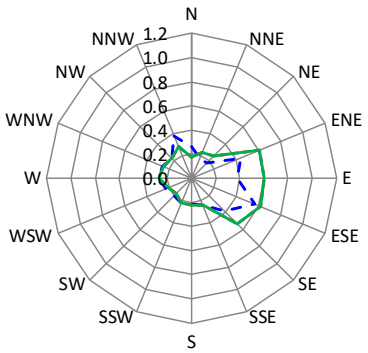
No.37



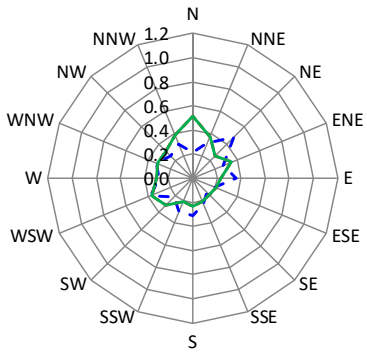
No.41



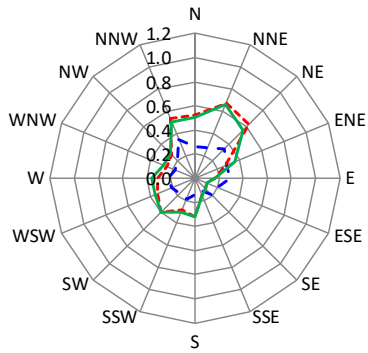
No.46



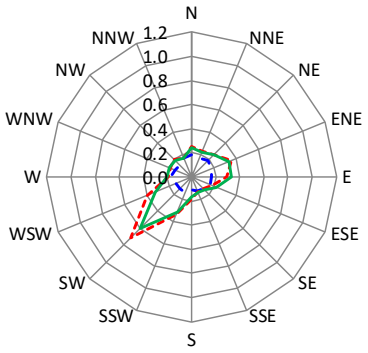
No.50



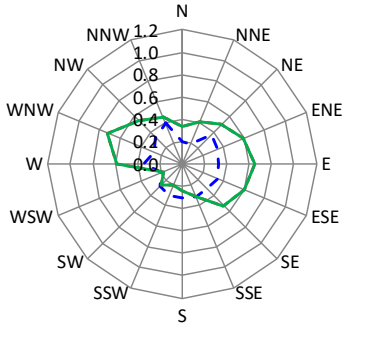
No.52

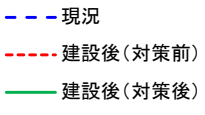


No.57

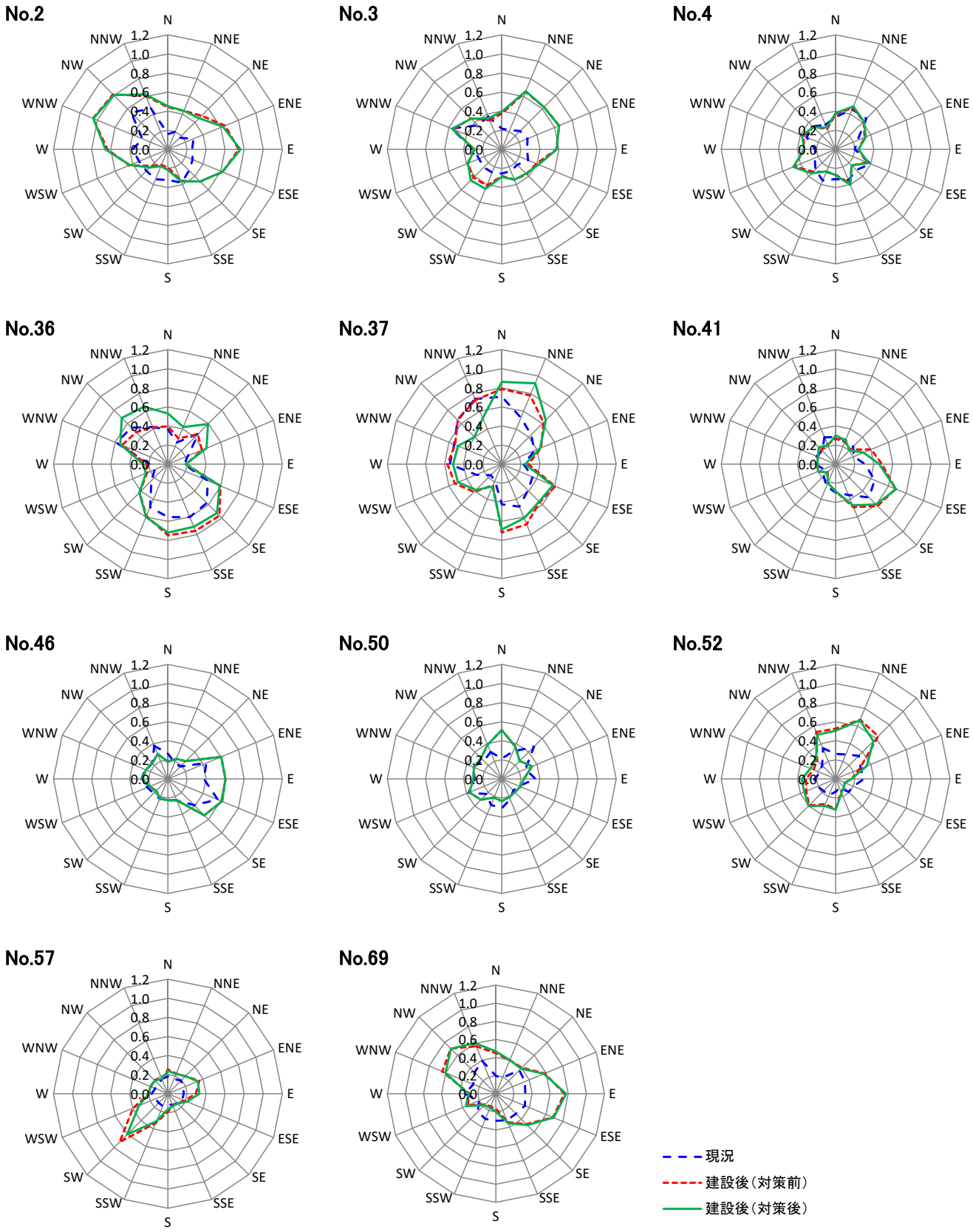


No.69



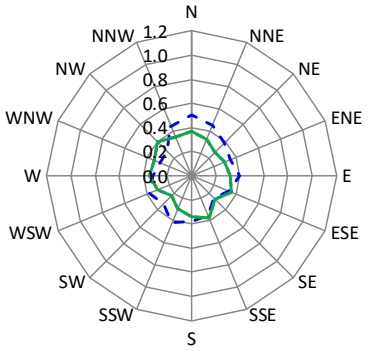


資料図 3-1(1)　【変更後】各測定点における風速比（1/3）

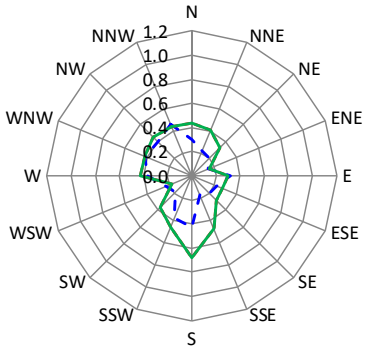


資料図 3-1(2)　【変更前】各測定点における風速比（1/3）

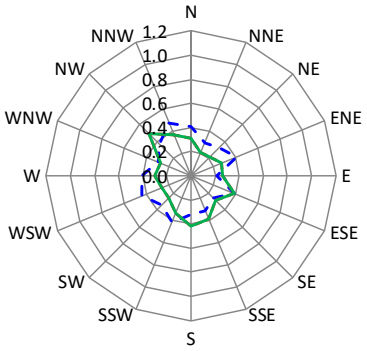
No.70



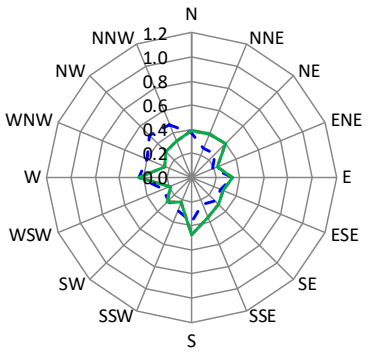
No.73



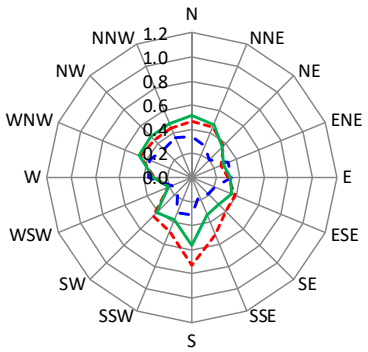
No.76



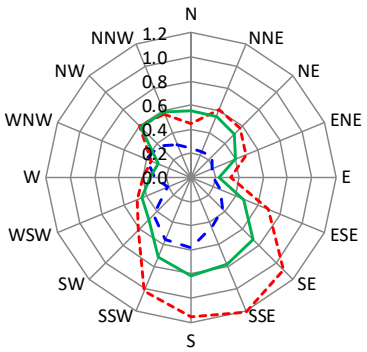
No.77



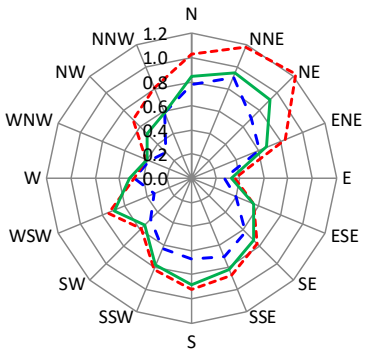
No.78



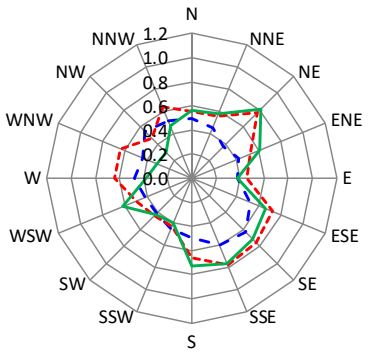
No.79



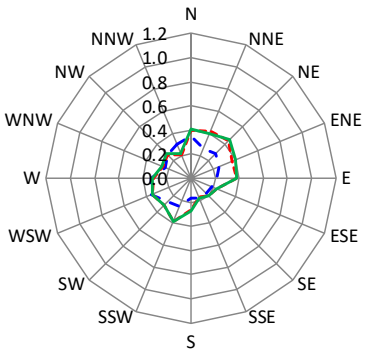
No.80



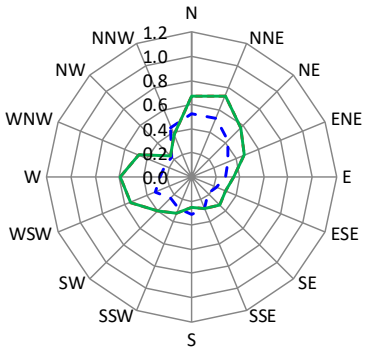
No.81



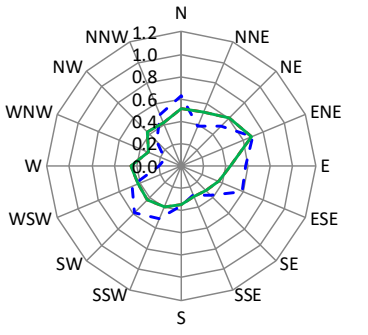
No.82

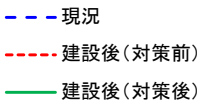


No.83

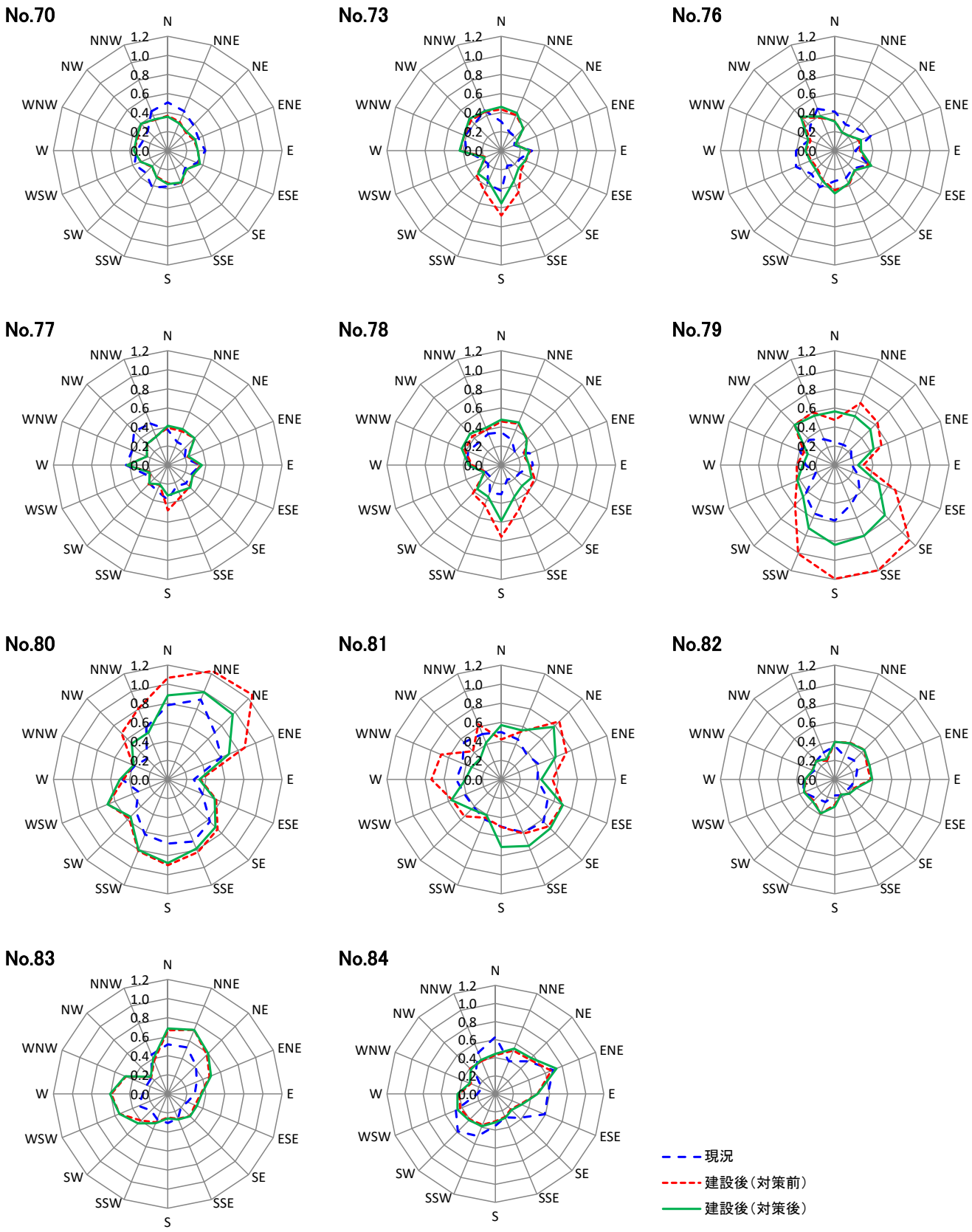


No.84



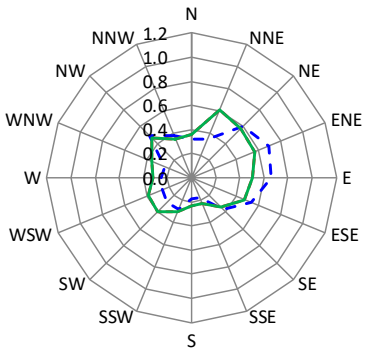


資料図 3-2(1)　【変更後】各測定点における風速比（2/3）

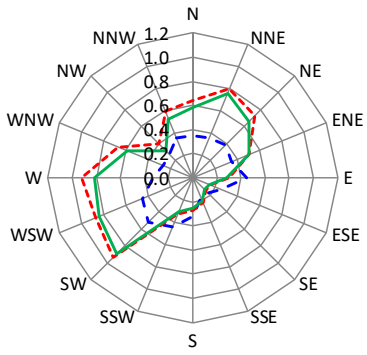


資料図 3-2(2)　【変更前】各測定点における風速比（2/3）

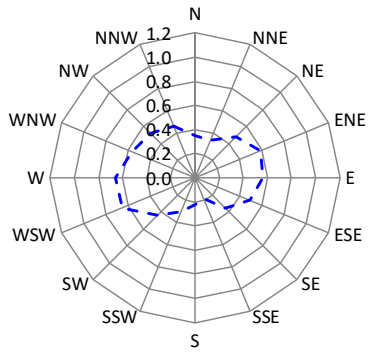
No.85



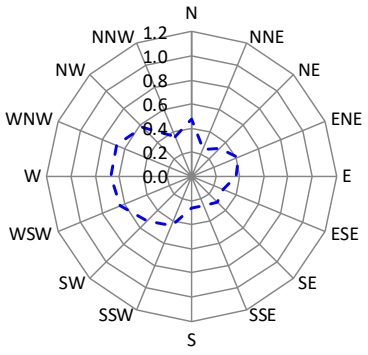
No.86



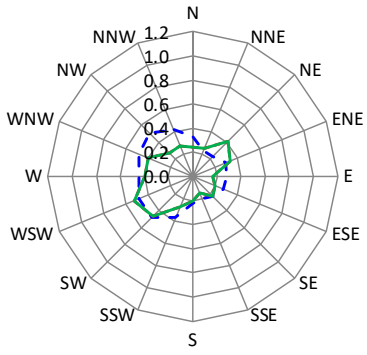
No.100



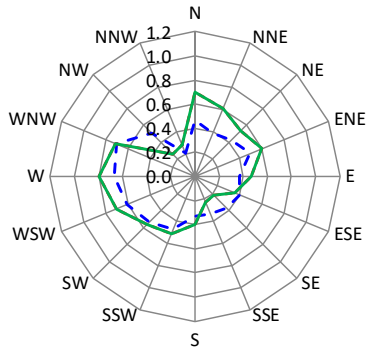
No.101



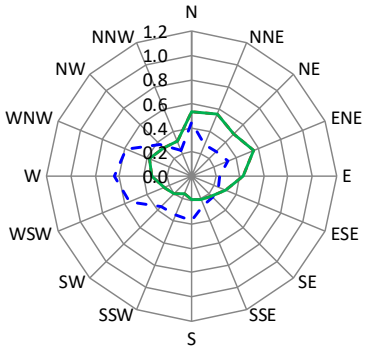
No.104



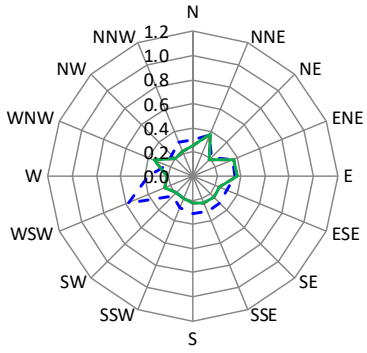
No.105



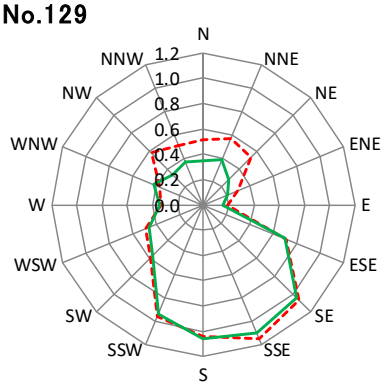
No.106

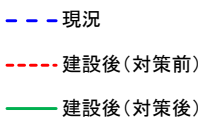


No.107

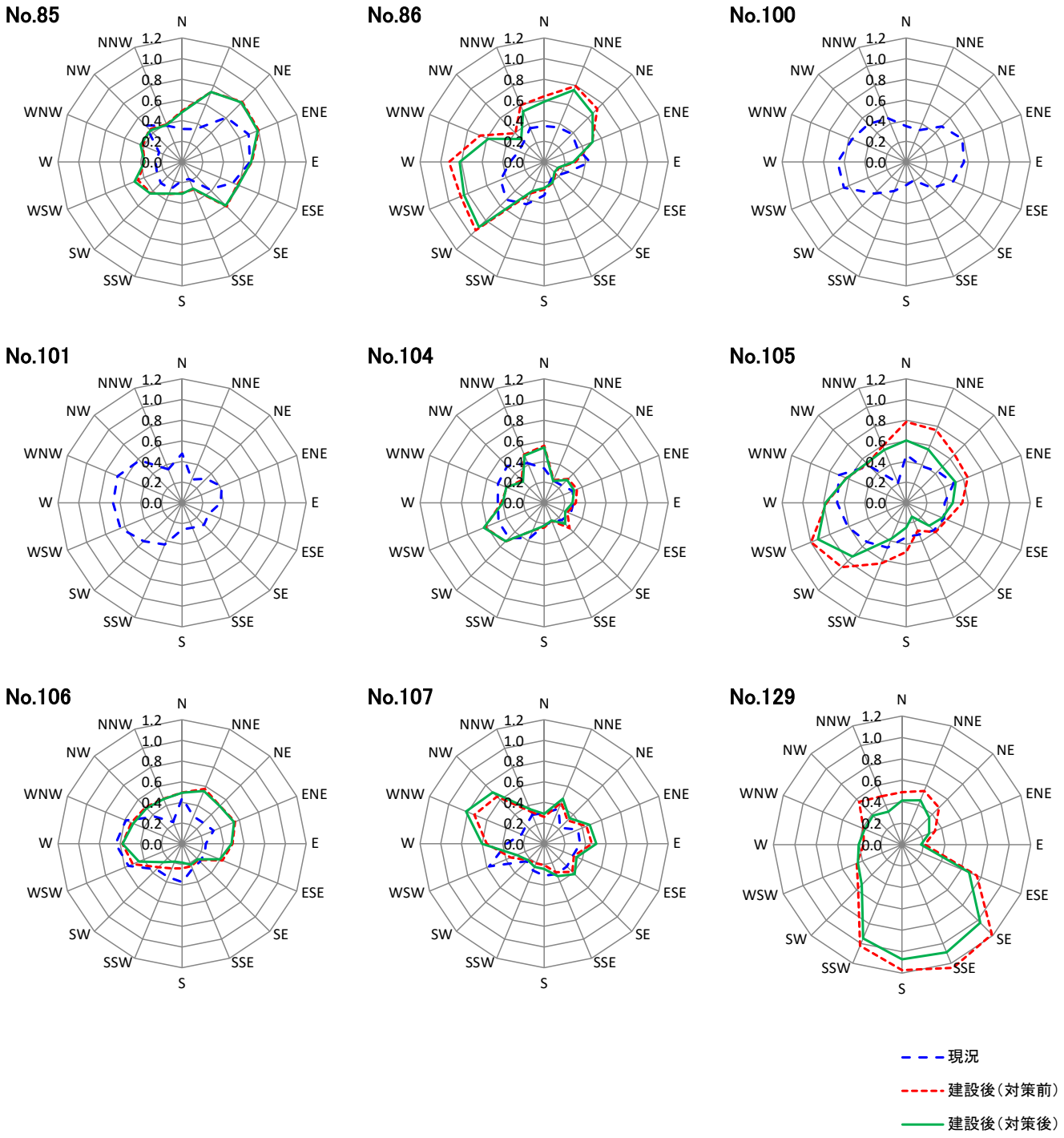


No.129





資料図 3-3(1)　【変更後】各測定点における風速比（3/3）



資料図 3-3(2)　【変更前】各測定点における風速比（3/3）